
前橋市少子化対策等に関する市民アンケート調査

－ 報告書 －

令和 7 年 3 月

前橋市

目 次

第1章 調査の概要	11
1 調査目的	13
2 調査期間	13
3 調査実施状況	13
4 調査方法	13
5 調査主体	16
6 報告書の見方	17
第2章 調査結果からみえた課題	19
1 こども・若者意識調査（小学生、中学生、高校生）	21
2 こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）	21
3 こどもの生活状況調査（中学2年生、中学2年生保護者）	24
4 事業者実態・意識調査	25
第3章 こども・若者意識調査（小学生、中学生、高校生）結果詳細	27
1 属性について	29
（1）性別	29
（2）学年	29
（3）現在の通学状況【高校生調査】	30
（4）同居人	30
2 自己認識について	31
（1）人生観・充実度	31
（2）今の幸福感	35
3 居場所について	38
（1）居場所	38
（2）居住環境	40
（3）居住意向【中学生・高校生調査】	43
4 生活・活動について	45
（1）家での過ごし方	45
（2）普段の外出頻度	46
（3）現在の外出状況になってからの期間	48
（4）現在の外出状況になった年齢	49

(5)	現在の外出状況になった最も大きな理由	50
(6)	家族以外との会話の状況	51
(7)	今までに体験したこと	52
(8)	悩みや心配ごと	53
5	経験について	55
(1)	落ち込んだ経験	55
(2)	落ち込んだ状態から元に戻った経験	57
(3)	落ち込んだ状態から元に戻ったきっかけ	59
(4)	落ち込んだときの相談相手	60
(5)	相談しようと思わない理由	63
(6)	相談場所の認知度	64
6	人とのつながりについて	65
(1)	孤独感（間接質問）	66
(2)	孤独感（直接質問）	73
(3)	家族・親族との関わり方	76
(4)	学校で出会った友人との関わり方	77
(5)	地域の人との関わり方	79
(6)	インターネット上での他者との関わり方	80
(7)	他者との付き合い方	82
7	社会参加について	83
(1)	社会貢献への意欲	83
8	将来像について	84
(1)	将来への希望	84
(2)	高校卒業後の進路【高校生調査】	85
(3)	高校卒業後に進路や就職などを考えている地域【高校生調査】	86
9	家庭生活・学校教育について	87
(1)	父親との関係	87
(2)	母親との関係	89
10	学校生活について	92
(1)	クラスや学校の様子	92
(2)	規範意識	93
11	インターネットについて	99
(1)	スマートフォン等の所持状況	99
(2)	スマートフォン等の利用状況	100
(3)	インターネット上に自分に関する情報を発信する【中学生・高校生調査】	100
12	こどもの権利について	101
(1)	子どもの権利条約の認知度	101
(2)	前橋市に必要なこと	104

第4章 こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者） 結果詳細……111

1	属性について	113
	（1）年齢	113
	（2）性別	113
	（3）婚姻状況【子育て中の保護者調査】	114
	（4）パートナー（配偶者）の年齢【既婚者調査】	114
	（5）回答者とパートナー（配偶者）の最終学歴【既婚者調査】	115
	（6）結婚からの経過期間【既婚者調査】	116
	（7）子どもの数【子育て中の保護者調査】	117
	（8）子どもの年齢【子育て中の保護者調査】	117
	（9）回答者（とパートナー（配偶者））の職業	118
	（10）世帯年収	122
2	結婚について	123
	（1）交際期間・同棲期間【既婚者調査】	123
	（2）将来の結婚意向【独身者調査】	125
	（3）結婚により得られるもの【独身者調査】	127
	（4）結婚したいタイミング【独身者調査】	129
	（5）結婚していない理由【独身者調査】	130
	（6）結婚したくない理由【独身者調査】	132
	（7）結婚相手と知り合うきっかけとして期待するもの／知り合ったきっかけ【独身者調査・既婚者調査】	133
	（8）今の社会は結婚しやすい社会だと思うか【独身者調査】	135
	（9）結婚しにくい社会だと思う理由【独身者調査】	136
	（10）行政が結婚を支援する施策を行うことについて【独身者調査】	138
	（11）結婚に関する支援で行政に期待すること【独身者調査】	139
3	妊娠・出産について	141
	（1）不妊についての不安や悩み【既婚者調査】	141
	（2）不妊治療の経験【既婚者調査】	142
	（3）不育についての不安や悩み【既婚者調査】	143
	（4）不育治療の経験【既婚者調査】	144
	（5）妊娠と年齢の関係の認知度【独身者調査】	145
	（6）妊娠と年齢の関係の認知手段【独身者調査】	146
	（7）妊娠・出産に関する支援として行政に期待すること【独身者調査】	147
4	子どもについて	149
	（1）将来子どもを授かりたいか【独身者調査】	149
	（2）将来授かりたい子どもの人数／理想の子どもの人数	151
	（3）予定の子どもの人数【子育て中の保護者調査】	153
	（4）「理想の子どもの人数」より「予定の子どもの人数」が少ない理由【子育て中の保護者	

調査】	154
(5) 子どもを授かりたい理由【独身者調査】	156
(6) 女性は何歳になるまでに出産を迎えた方がいいと考えるか【独身者調査】	158
(7) 結婚しないまま子どもを授かりたいか【独身者調査】	159
(8) 結婚しないまま子どもを授かりたい理由【独身者調査】	160
(9) 子どもを望まない理由【独身者調査・既婚者調査】	161
(10) 子どもがいない理由【既婚者調査】	162
5 子育てについて	163
(1) 子どもが就学までの間に利用した制度・施設【子育て中の保護者調査】	163
(2) 育児休業の取得期間【子育て中の保護者調査】	166
(3) パートナー（配偶者）の育児休業の取得期間【子育て中の保護者調査】	168
(4) 子どもが就学以降に利用した制度・施設【子育て中の保護者調査】	170
(5) 子どもを産み育てやすい環境と感じているか【子育て中の保護者調査】	171
(6) 将来子育てをする上で不安なこと／子育てに関して不安感や負担感を感じること【独身者調査・子育て中の保護者調査】	173
(7) 子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること【子育て中の保護者調査】	177
(8) 祖父母等からの手助けの程度【子育て中の保護者調査】	179
(9) 出産や子育て環境整備のために力を入れる必要があるもの【子育て中の保護者調査】	180
(10) 充実させてほしい子育て支援【子育て中の保護者調査】	182
(11) 児童虐待への考え【子育て中の保護者調査】	184
(12) 児童虐待発見時の相談機関【子育て中の保護者調査】	186
(13) 行政の子育て支援サービスなどの情報入手源【子育て中の保護者調査】	187
6 地域とのかかわりについて	189
(1) 子育てにおける地域とのかかわりの程度【子育て中の保護者調査】	189
(2) 近所や地域の人に期待すること【子育て中の保護者調査】	190
7 結婚、仕事と子育て、家庭等について	191
(1) 自分自身の仕事と子育てについての希望	191
(2) 自分自身の仕事と子育てについての実際【既婚者調査】	195
(3) パートナー（配偶者）の仕事と子育てについての希望	196
(4) パートナー（配偶者）の仕事と子育てについての実際【既婚者調査】	198
(5) 仕事と子育ての両立に関して必要な支援【子育て中の保護者調査】	199
(6) （結婚前までの）身近な状況【独身者調査・既婚者調査】	201
(7) 家庭内での家事、育児、看護、介護の分担についての考え【独身者調査】	203
(8) 家庭内での家事、育児、看護、介護の分担についての理想と現実【子育て中の保護者調査】	205
(9) 「共育て」を促進するために必要だと思うこと【子育て中の保護者調査】	209
(10) 里親制度の認知度【既婚者調査】	210
(11) 里親制度で手当や養育費が支給されることの認知度【既婚者調査】	211
(12) 特別養子縁組制度の認知度【既婚者調査】	212
8 少子化対策について	213

(1) 少子化の要因	213
(2) 少子化対策としての重要度	215
(3) 少子化対策の各施策の取組状況	218
(4) 少子化対策として必要な経済的支援	227
(5) 行政施策に意見が反映されている実感	228
(6) 日頃の考えや行政に対する要望等	229
9 子どもの未来について	235
(1) 子どもたちの10年後、20年後の未来	235
(2) 子どもたちの10年後、20年後の不安	237
10 定住性について	241
(1) 居住年数	241
(2) 定住意向	242
(3) 希望する転出先	243
(4) 転出を考えた理由	244
(5) 他の市町村に魅力を感じた理由	245
(6) 前橋市での生活に不満を感じた理由	246
11 子どもの権利について	247
(1) 子どもの権利条約の認知度	247

第5章 こどもの生活状況調査（中学2年生、中学2年生保護者） 結果詳細……………249

1 属性について	251
(1) 性別【中学2年生調査】	251
(2) 子どもとの続柄【中学2年生保護者調査】	251
(3) 同居家族【中学2年生保護者調査】	252
(4) 保護者の年齢【中学2年生保護者調査】	253
(5) 単身赴任中の家族の有無【中学2年生保護者調査】	253
(6) 親の婚姻状況【中学2年生保護者調査】	254
(7) 離婚相手との養育費の取り決め【中学2年生保護者調査】	254
(8) 世帯全体の年間収入【中学2年生保護者調査】	255
(9) 日本語以外の言語の使用【中学2年生保護者調査】	256
(10) 保護者の最終学歴【中学2年生保護者調査】	257
2 就労状況について	258
(1) 保護者の就労状況【中学2年生保護者調査】	258
(2) 働いていない理由【中学2年生保護者調査】	260
3 子育てについて	262
(1) 子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等【中学2年生保護者調査】	262
(2) 子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等【中学2年生保護者調査】	263
(3) 子どもとの関わり方【中学2年生保護者調査】	264

(4) 学校等との関わり・参加【中学2年生保護者調査】	269
4 暮らしの状況について	271
(1) 暮らしの状況【中学2年生保護者調査】	271
(2) 食料が買えなかった経験・理由【中学2年生保護者調査】	273
(3) 衣服が買えなかった経験・理由【中学2年生保護者調査】	275
(4) 公共料金における未払いの経験・理由【中学2年生保護者調査】	277
5 学習状況について	279
(1) 学校の授業以外の勉強の仕方【中学2年生調査】	279
(2) 授業以外の1日あたりの勉強時間【中学2年生調査】	280
(3) クラスの中での成績【中学2年生調査】	283
(4) 授業の理解状況【中学2年生調査】	285
(5) 授業がわからなくなった時期【中学2年生調査】	287
6 進学希望・展望について	288
(1) 進学したいと思う教育段階【中学2年生調査】	288
(2) 進学志望についてそう考える理由【中学2年生調査】	289
(3) 子どもの進学段階に関する希望・展望【中学2年生保護者調査】	290
(4) 進学段階に関する希望・展望についてそう考える理由【中学2年生保護者調査】	291
7 部活動等への参加について	292
(1) 部活動への参加状況【中学2年生調査】	292
(2) 部活動等に参加していない理由【中学2年生調査】	293
8 日常的な生活の状況について	294
(1) 食事の状況・食事を毎日食べない理由・1回の食事の量【中学2年生調査】	294
(2) 就寝時間【中学2年生調査】	304
(3) 相談相手の有無【中学2年生調査】	305
(4) 相談相手【中学2年生調査】	306
(5) 頼れる人の有無・頼れる相手【中学2年生保護者調査】	307
(6) 生活満足度	313
(7) 子どもの心理的な状態【中学2年生調査】	316
(8) 保護者の心理的な状態（K6）【中学2年生保護者調査】	320
(9) 逆境体験【中学2年生調査】	321
9 支援などについて	323
(1) 支援等の利用状況【中学2年生調査】	323
(2) 支援等の利用による変化【中学2年生調査】	329
(3) 支援等の利用状況【中学2年生保護者調査】	330
(4) 聞いてほしいこと、助けてほしいこと（自由記載）	346

第6章 事業者実態・意識調査結果詳細 351

1 事業所について	353

(1) 業種	353
(2) 常用従業員数	354
(3) 従業員数	355
(4) 年齢別従業員数	356
2 両立支援制度の認知度について	357
(1) 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定状況	357
(2) 「くるみんマーク」の認知度	358
3 育児休業制度について	359
(1) 法改正に対応した就業規則等規定整備状況	359
(2) 令和5年度における育児休業等の取得状況	361
(3) 育児休業の取得期間	364
(4) 育児休業中の賃金支給状況	365
(5) 育児休業取得後の円滑な復帰措置	366
(6) 育児休業から復職する際の配置	367
(7) 子育て中の従業員への制度の有無	368
4 働きやすい環境整備について	382
(1) 仕事と家庭の両立支援制度	382
(2) 「共育て」を促進するために有効な取組	383
(3) 仕事と家庭が両立しやすい労働環境の整備のために行政に期待する支援	385
5 女性活躍推進について	386
(1) 男性の賃金を100とした場合の女性の賃金	386
(2) 女性活躍推進についての今後の取組（自由記載）	388
6 ワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進・少子化対策について	389
(1) 日頃の考えや行政に対する要望等（自由記載）	389
第7章 資料編（調査票）	391
1 使用した調査票	393

第 1 章 調査の概要

調査の概要

1 調査目的

本市の少子化について、こども・若者の意識や生活実態等の現状と課題を把握・分析し、これまで取り組んできた少子化対策等の効果の検証及び今後の施策等の検討を行うことを目的にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の結果はこども計画の基礎資料としても活用します。

2 調査期間

令和6年10月31日（木）～令和6年12月6日（金）

3 調査実施状況

No.	調査対象	対象数	有効回収数	有効回収率
1	こども・若者意識調査（小学生）	4,831	1,276	26.4%
2	こども・若者意識調査（中学生）	4,878	917	18.8%
3	こども・若者意識調査（高校生）	1,500	563	37.5%
4	こども・若者意識調査（独身者）	1,500	320	21.3%
5	こども・若者意識調査（既婚者）	1,500	569	37.9%
6	こども・若者意識調査（子育て中の保護者）	1,500	697	46.5%
7	こどもの生活状況調査（中学2年生）	2,496	1,088	43.6%
8	こどもの生活状況調査（中学2年生保護者）	2,496	1,314	52.6%
9	事業者実態・意識調査（事業者）	1,500	562	37.5%

4 調査方法

（1）こども・若者意識調査（小学生）

①対象者		
市立小学校5年生 2,424人、小学6年生 2,407人 計 4,831人		
②調査項目		
・属性	・経験	・家庭生活、学校教育
・自己認識	・人とのつながり	・学校生活
・居場所	・社会参加	・インターネット
・生活、活動	・将来像	・こどもの権利
③実施方法		
前橋市保護者等連絡システム（すぐる）で配信し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年10月31日（木）～令和6年11月15日（金）		

(2) こども・若者意識調査（中学生）

①対象者		
市立中学校1年生 2,351人、中学3年生 2,527人 計 4,878人		
②調査項目		
・属性	・経験	・家庭生活、学校教育
・自己認識	・人とのつながり	・学校生活
・居場所	・社会参加	・インターネット
・生活、活動	・将来像	・こどもの権利
③実施方法		
前橋市保護者等連絡システム（すぐる）で配信し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年10月31日（木）～令和6年11月15日（金）		

(3) こども・若者意識調査（高校生）

①対象者		
住民基本台帳から15～18歳の市民1,500人を無作為に抽出		
②調査項目		
・属性	・経験	・家庭生活、学校教育
・自己認識	・人とのつながり	・学校生活
・居場所	・社会参加	・インターネット
・生活、活動	・将来像	・こどもの権利
③実施方法		
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年11月6日（水）～令和6年11月29日（金）		

(4) こども・若者意識調査（独身者）

①対象者		
住民基本台帳から20代、30代の未婚（未婚と推測される方を含む）の市民1,500人を無作為に抽出		
②調査項目		
・属性	・子育て	・こどもの未来
・結婚	・結婚、仕事と子育て、家庭等	・定住性
・妊娠、出産	・少子化対策	・こどもの権利
・子ども		
③実施方法		
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年11月13日（水）～令和6年12月6日（金）		

(5) こども・若者意識調査（既婚者）

①対象者		
住民基本台帳から20代、30代の既婚（既婚と推測される方を含む）の市民1,500人を無作為に抽出		
②調査項目		
・属性	・結婚、仕事と子育て、家庭等	・定住性
・結婚	・少子化対策	・こどもの権利
・子ども	・こどもの未来	
③実施方法		
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年11月13日（水）～令和6年12月6日（金）		

(6) こども・若者意識調査（子育て中の保護者）

①対象者		
住民基本台帳から20～40代の子育て中（子育て中と推測される方を含む）の市民1,500人を無作為に抽出		
②調査項目		
・属性	・地域とのかかわり	・こどもの未来
・子ども	・結婚、仕事と子育て、家庭等	・定住性
・子育て	・少子化対策	・こどもの権利
③実施方法		
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年11月13日（水）～令和6年12月6日（金）		

(7) こどもの生活状況調査（中学2年生）

①対象者	
市立中学校2年生 2,496人	
②調査項目	
・属性	・部活動等への参加
・学習状況	・日常的な生活の状況
・進学希望、展望	・支援など
③実施方法	
依頼状を学校を通じて配布し、Webで回答を回収	
④調査期間	
令和6年10月31日（木）～令和6年11月15日（金）	

(8) こどもの生活状況調査（中学2年生保護者）※（7）の保護者

①対象者
市立中学校2年生の保護者 2,496人
②調査項目
・属性 ・進学希望、展望 ・就労状況 ・日常的な生活の状況 ・子育て ・支援など ・暮らしの状況
③実施方法
依頼状を学校を通じて配布し、Webで回答を回収
④調査期間
令和6年10月31日（木）～令和6年11月15日（金）

(9) 事業者実態・意識調査（事業者）

①対象者
市内の従業員数が5名以上の事業所から1,500事業所を無作為に抽出
②調査項目
・事業所 ・両立支援制度の認知度 ・育児休業制度 ・働きやすい環境整備 ・女性活躍推進 ・ワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進、少子化対策
③実施方法
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収
④調査期間
令和6年11月6日（水）～令和6年12月6日（金）

5 調査主体

前橋市こども未来部こども支援課

6 報告書の見方

①本報告書内では、調査名称や調査対象区分を、以下の呼び方としています。

No.	調査名称	呼び方
1	こども・若者意識調査（小学生）	小学生調査
2	こども・若者意識調査（中学生）	中学生調査
3	こども・若者意識調査（高校生）	高校生調査
4	こども・若者意識調査（独身者）	独身者調査
5	こども・若者意識調査（既婚者）	既婚者調査
6	こども・若者意識調査（子育て中の保護者）	子育て中の保護者調査
7	こどもの生活状況調査（中学2年生）	中学2年生本人調査
8	こどもの生活状況調査（中学2年生保護者）	中学2年生保護者調査
9	事業者実態・意識調査（事業者）	事業者調査

②本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。

③百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合があります。

④複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合があります。

⑤本文、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。

⑥回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中ではふれていない場合があります。

⑦本文中では、調査結果の数値は「％」、比較によるパーセントの差は「ポイント」という単位で表記をしています。

⑧統計数値を考察するにあたっては、傾向をまとめて表現する場合には、おおむね以下のとおりとしています。

例	表現
17.0～19.9％	約2割
20.0～20.9％	2割
21.0～22.9％	2割を超える
23.0～26.9％	2割台半ば
27.0～29.9％	約3割

⑨第3章及び第4章の分析対象は、次のとおり定義します。

章	対象	定義
第3章	高校生	回答者全体から【現在の通学状況】のうち「その他」を除いた者。
第4章	独身者	回答者全体から【婚姻状況】のうち「結婚している（婚姻届を出し、入籍している 又は 事実婚の状態である）」、「結婚したが、死別または離婚している」を除いた者。
	既婚者	回答者全体から【婚姻状況】のうち「結婚したが、死別または離婚している」、「結婚したことがない」を除いた者、又は【子どもの有無】のうち「いる」を除いた者。

第2章 調査結果からみえた課題

調査結果からみえた課題

調査の結果からみえた前橋市の傾向及び課題は以下のとおりです。

1 こども・若者意識調査（小学生、中学生、高校生）

■自己肯定感と幸福感

小学生、中学生、高校生のいずれも「今の自分が好きだ」という自己肯定感が全国調査と比較して低く、特に中学生で自己肯定感が低い傾向があることがわかりました。また、「今、自分が幸せだと思う」という今の幸福感も、小学生、高校生と比べると中学生の幸福感が低く、全国調査と比較しても低い結果となっています。

■孤独感と相談相手

小学生、中学生ともに孤独感が全国調査と比較して高い傾向がうかがえます。孤独感を感じる子どもたちに対する支援として、思春期の子どもたちの生活や成長に寄り添って支える環境を整えることが必要です。

また、相談について、「誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」という回答は、学校の段階が上がるにつれて増加しています。相談しやすい場所や信頼できる大人との接点を増やすための取組みも重要です。

■居住環境と居住意向

小学生の約9割が「前橋市を好き」と回答していますが、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれてその割合はやや減少しています。

大人になってからも前橋市に住みたいという居住意向は高く、中学生、高校生のどちらも県調査を上回っています。特に、中学生では男性、高校生では女性の居住意向が高いことがわかりました。

■進学と将来への希望

「将来に希望がある」という回答は、小学生で8割台半ばですが、中学生と高校生は7割台となっています。

また、小学生から高校生までの約9割が「社会のために役立つことをしたい」と思っていることがわかりました。

高校卒業後の進路については、特に女性で進学の意向が高くみられます。進路や就職先としては東京圏を希望する人が多い結果となっています。市内の高校や大学、地元企業との連携により、進路選択に関する情報提供を充実し、若者の市外への流出を防ぐことや、市内に回帰してもらうような取組みが必要です。

■子どもの権利条約

子どもの権利条約の認知度は、小学生、中学生、高校生のいずれも全国調査と比較して高く、学校の段階が上がるにつれて割合が増加しています。特に中学生では全国調査の結果を大きく上回り、6割台半ばが子どもの権利条約を認知しています。

2 こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）

■結婚意向と結婚しない理由

独身者の結婚意向は高く、約8割の方が「結婚したい」と考えており、県調査を大きく上回っています。

結婚していない理由として最も多いのは「出会いがないから」となっており、続いて「結婚したい相手がいないから」や「収入面に不安があるなどの経済的な理由から」が挙げられています。男女別では、男性は「出会いがないから」と「収入面に不安がある」という理由が多く、女性は「結婚したい相手がいないから」と「自分の時間を優先したいから」といった理由が多くなっています。

■結婚しやすい社会の実現

独身者の約6割が「結婚しにくい社会だと思う」と感じており、その主な理由として20歳代、30歳代ともに「若者が経済的に不安定」が挙げられています。結婚するためには安定した経済的基盤が不可欠であると考えられています。

独身者が行政に期待する支援として最も多いのは「新婚者向けの住宅補助など金銭的支援」であり、次いで「社会全体で結婚を応援する機運づくり」や「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が挙げられています。年齢別では、20歳代では経済的支援を望む方の割合がより高く、30歳代では出会いの場や機会を創設する取組みを求める方の割合が高くなっています。

■不妊への不安と妊娠・出産に関する支援

既婚者の約6割が不妊に関する不安や悩みを抱えたり、抱えた経験があり、特に30歳代では約7割とその割合が高くなっています。

独身者が行政に期待する妊娠・出産支援としては、「妊婦健康診査の公費負担の充実」が最も高く、妊娠中の健康管理や妊婦のケアに関する支援を求める声が強いことがわかります。

特に女性では、「不妊治療費助成の充実」を期待する方の割合が男性よりも高く、不妊治療に対する経済的なサポートが求められています。

■子どもの人数

理想の子どもの人数について、独身者、既婚者、子育て中の保護者のいずれも「2人」を望む傾向が強く、独身者は6割、既婚者は5割台半ば、子育て中の保護者は約5割が希望しています。

子育て中の保護者では「3人」を理想の子どもの人数としている方の割合が4割を超えて高くなっていますが、最終的に予定している子どもの人数では「3人」が2割まで減少しており、理想の人数より予定の人数が少なくなっています。理想の人数より予定の人数が少ない理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が高く、次いで「高年齢で産むのは不安だから」や「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」が挙げられています。

■子育てに対する不安や負担

独身者の将来子どもを授かりたいかどうかの意向は、約5割が「授かりたい」、2割台半ばが「いなくてもよい」、約2割が「わからない」という結果になっています。「いなくてもよい」と考えている方の理由は「経済的に負担が大きいから」、「子育てに対して不安があるから」の割合が高くなっています。

また、子育て中の保護者の約8割が子育てに対して不安や負担感を抱えており、悩みごととしては「子育てで出費がかさむこと」が特に高くなっています。独身者が将来子育てをする上で不安なこととしては、「経済的にやっていけるか」と「子育てしながら仕事をするのが難しそう」が高く、経済面や仕事と子育ての両立に関する支援が求められています。

■子育て支援に対するニーズ

子育て中の保護者が求めている支援は、「子育てに対する経済的支援」が約7割と最も多く、次いで「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場の整備」や「一時的に子どもを預かってくれる場所の設置」が挙げられています。

また、働きながら子育てを行っている方が増加している社会的状況から、仕事と子育てを両立するための支援も求められており、「労働時間の短縮やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができる制度」、「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」など、子育てしながら働きやすい環境づくりを社会全体で推進していく必要があります。

■少子化対策に関する課題

少子化の要因について、独身者、既婚者、子育て中の保護者の約6割から7割が「若者や子育て世代の経済的不安定さ」を挙げており、次いで、「子育てや教育にかかる費用の増大」が挙げられています。これらの課題意識は県調査よりも高い傾向がみられます。

少子化対策の施策の重要度については、独身者、既婚者、子育て中の保護者のいずれも「家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が最も重要として考えられており、次いで、独身者では「若い世代の所得向上に向けた取組」、「保育サービスの充実」、既婚者では「保育サービスの充実」、「不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など」、子育て中の保護者では「保育サービスの充実」、「出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」が重要と考えられています。

また、施策の重要度は高いが、現在の充実度が低いと考えられているのは、「家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」、「若い世代の所得向上に向けた取組」、「若者の経済的自立を支援する取組」、「出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」などが挙げられています。

■定住意向と転出意向

独身者の約6割は前橋市に「ずっと住み続けるつもり」または「当分の間は住みたい」と定住意向を持ち、約2割が「できれば転出したい」、「転出するつもり」と転出意向を持っています。

また、既婚者、子育て中の保護者については、いずれも約8割が定住意向を持ち、約1割が転出意向を持っています。

転出意向を持つ方の転出先については、独身者は「県外」の割合が高く、子育て中の保護者は「県内」の割合が高くなっています。転出を考える理由としては「他の市町村に魅力を感じたから」が多く挙げられています。また、「前橋市での生活に不満を感じるから」という回答が次いでおり、こちらは結婚や出産、子育てといったライフステージの変化に伴って増加する傾向にあります。その他の理由としては、独身者では「就職のため」、「結婚のため」、既婚者では「家を建てるため」、「家族の都合のため」、子育て中の保護者では「実家があるため」、「海外志向のため」といったものが挙げられています。

3 こどもの生活状況調査（中学2年生、中学2年生保護者）

■暮らしの状況と経済的理由による生活困難

暮らしが苦しいと感じている世帯は全体で2割台半ばとなっています。また、収入の水準や世帯の状況でみると、等価世帯収入水準が中央値の2分の1未満（本アンケート調査では162.5万円未満）の世帯では5割台半ば、ひとり親世帯では約6割が生活の厳しさを認識しています。

経済的理由によりできなかった経験をたずねると、全体では食料が買えなかった家庭は12.6%、衣服が買えなかった家庭は15.0%、公共料金の未払い経験は4.9%となっており、収入水準が低い世帯や、ひとり親世帯では経験があったという回答の割合が増加しています。

また、いずれの経験も、「物価が上昇したため」が理由として最も多く挙げられています。

■学習状況と進学希望・展望

学校の授業以外の勉強方法について、全体では「自分で勉強する」と回答した子どもが多い結果となっていますが、収入の水準が低い世帯や、ひとり親世帯では「塾で勉強する」、「家の人に教えてもらう」子どもの割合が低くなり、自己学習に頼る傾向が強くなっています。

また、勉強時間についても、世帯の収入や状況が影響しており、収入の水準が低い世帯や、ひとり親世帯では学校の授業以外の勉強時間が短くなる傾向にあります。

さらに、進学希望について、子ども本人、保護者ともに「大学進学」を希望する割合が高いものの、ひとり親世帯では「家庭の経済的状況」を理由に進学が難しいと考える割合が高くなっています。家庭の経済状況が障壁となり、子どもの進学希望に影響を及ぼしていることがわかります。

■相談環境と頼れる人の存在

保護者の8割以上が「相談できる人がいる」と回答しており、相談相手としては「家族・親族」が最も多く挙げられています。しかし、ひとり親世帯では「相談できる人がいない」状況の方の割合が他の世帯よりも高く、ひとり親の保護者に対する相談体制の周知やサポートが必要とされています。

■生活満足度と心理的状态

生活満足度について、子ども本人では7割台半ば、保護者では6割超えて満足度が高い結果となっていますが、収入水準が低い世帯や、ひとり親世帯では満足度の高い世帯の割合が減少しており、世帯の収入や状況が生活全般の満足度に影響を与えていることがうかがえます。

また、子どもの心理的状态についても、情緒的問題や仲間関係の問題では、等価世帯収入が低くなるにつれて問題性が高くなっており、収入水準が低い世帯やひとり親世帯の子どもが抱える心理的な負担が大きいことがわかりました。

保護者の心理的状态についても、収入水準が低い世帯やひとり親世帯では「うつ・不安障害相当」の割合が高く、世帯の収入や状況が精神的健康に影響を及ぼしている可能性があります。

4 事業者実態・意識調査

■育児休業取得率と復職率

令和5年度の育児休業取得率は男性で約5割、女性で9割台半ばと男女ともに県調査より高い結果となりました。育児休業取得後の復職率をみると、男性ではほぼ全数、女性では9割台半ばとなっています。

育児休業の取得期間については、男性では「2週間未満」が最も多く、県調査で最も多かった「1か月～3か月未満」に比べて期間が短くなっています。男性の育児休業取得に対する意識の向上や事業所における環境の整備が必要です。

■子育て中の従業員への支援

子育て中の従業員への支援制度について、最も多いのが「短時間勤務制度」で6割台半ばの事業所に制度があります。その他の制度では「所定外労働の免除」、「子ども看護休暇制度」などが多く挙げられています。一方、「事業所内託児施設」や「育児休業中の経済的支援」、「育児サービス利用等に関する援助」は実施している事業所が1割未満と少なく、制度の必要性も見極めた上で、安心して仕事と家庭を両立できる環境の整備が必要です。

■仕事と家庭の両立支援

仕事と家庭の両立を支援するための制度として最も多く挙げられたのは、「半日または時間単位の休暇制度」で約5割の事業所で実施されています。そのほか「パートから正社員へ、正社員からパートへの身分の切り替え制度」や「結婚・出産、育児、介護等を理由に退職した従業員の再雇用制度」が多く挙げられています。一方で、「特に制度を設けていない」と回答している事業所が約3割と多く、ただし、このような制度が導入されていない事業所も多いため、事業所への周知・啓発を行い、制度導入の支援に取り組むことが重要です。

■「共育て」の促進

「共育て」を促進するために有効な取組として、多くの事業所が「年次有給休暇の取得促進」「職場の人員体制整備」「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」などを挙げています。制度の充実を図り、企業の負担を軽減しながら、仕事と家庭を両立できる環境を整えることが必要です。

第3章 こども・若者意識調査

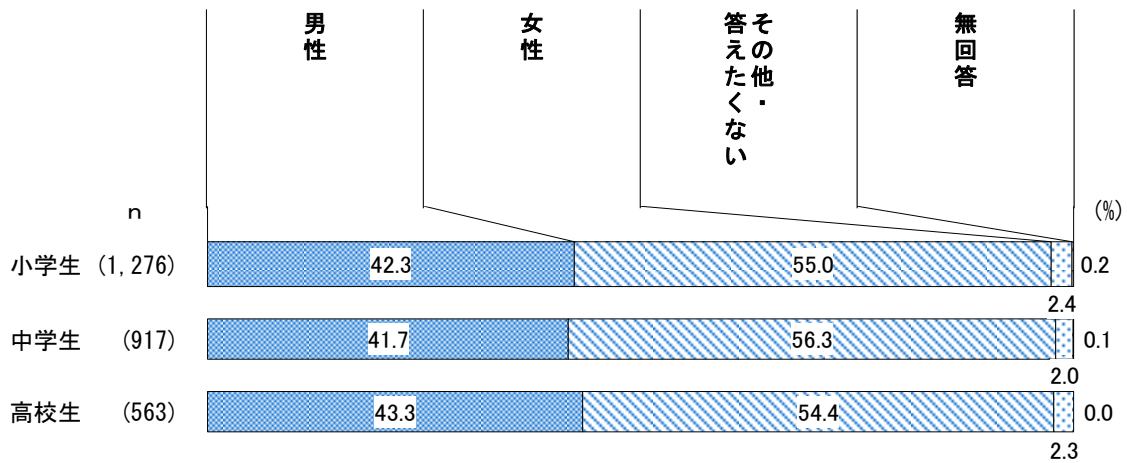
(小学生、中学生、高校生) 結果詳細

こども・若者意識調査（小学生、中学生、高校生）結果詳細

1 属性について

（1）性別

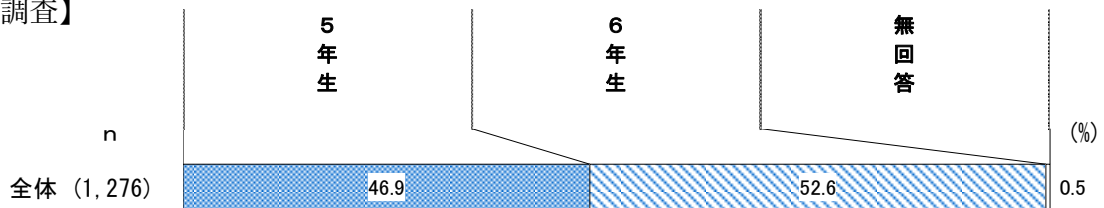
Q：あなたの性別を教えてください。（○は1つ）



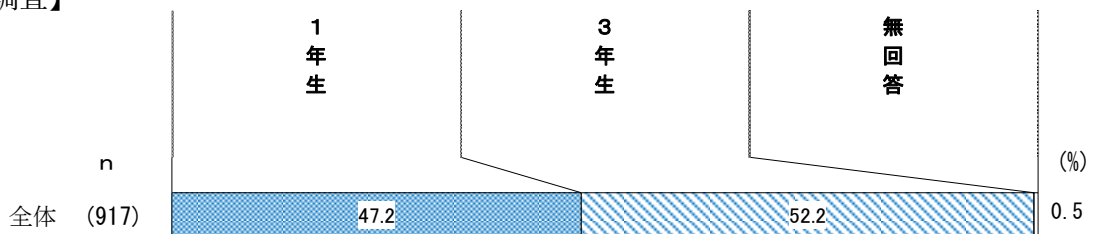
（2）学年

Q：あなたの学年を教えてください。（○は1つ）※高校生は年齢

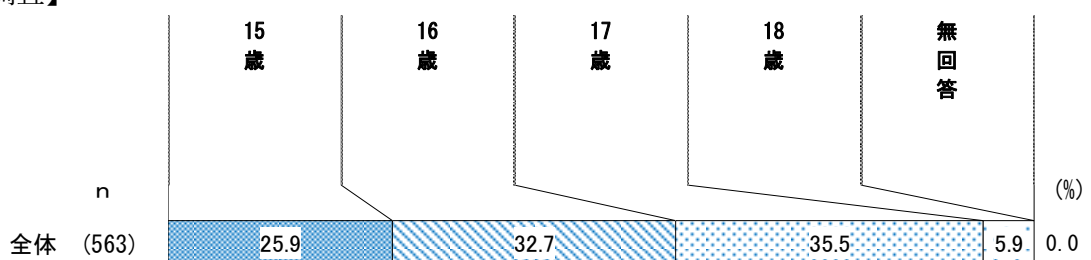
【小学生調査】



【中学生調査】



【高校生調査】



（3）現在の通学状況【高校生調査】

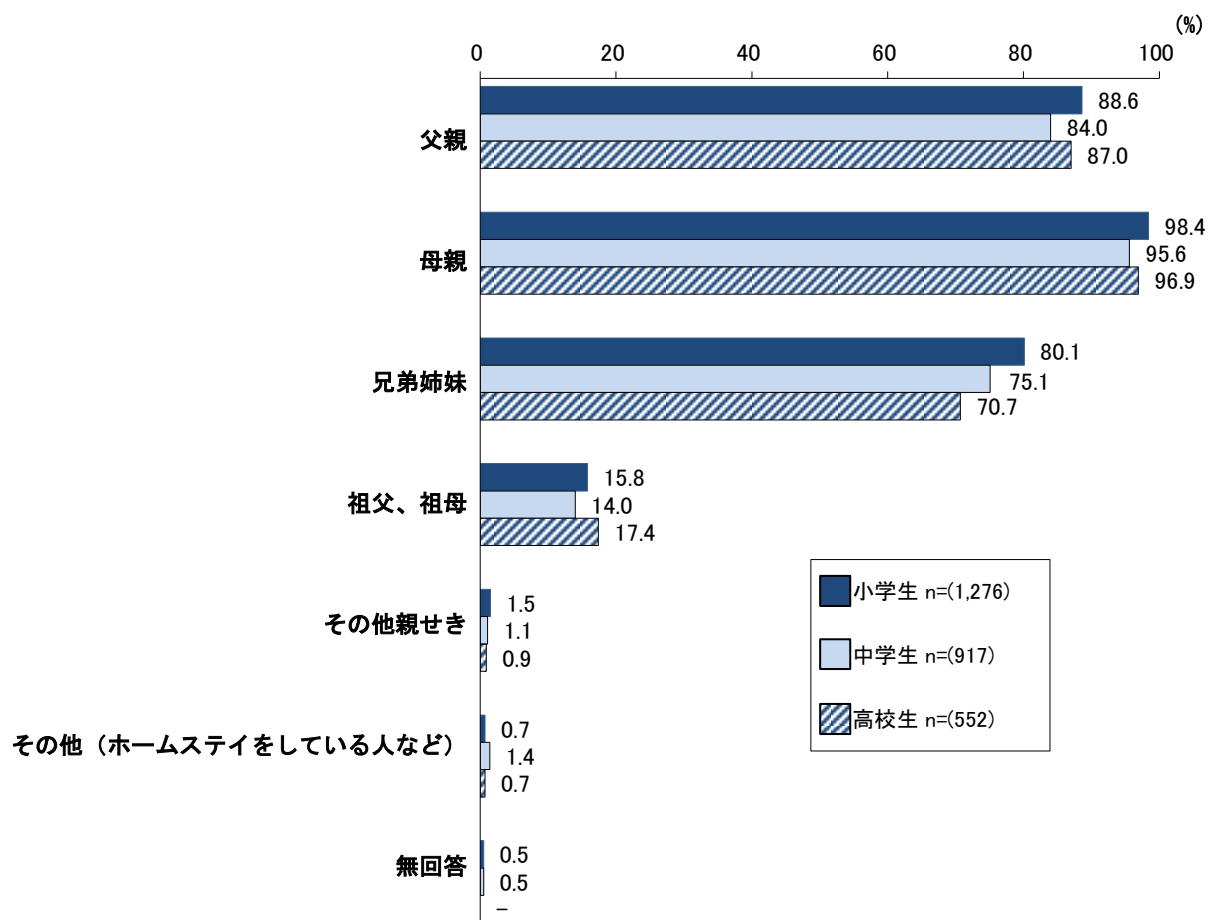
Q：あなたが通っている高校は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

（上段：人、下段：％）

全体	調査数 (n)	公立高校			私立高校			中等教育学校		特別支援 学校	その他 (具体的に)	無回答
		全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	公立	私立			
	563	373	13	11	110	1	22	15	1	6	11	0
	100.0	66.3	2.3	2.0	19.5	0.2	3.9	2.7	0.2	1.1	2.0	0.0

（4）同居人

Q：現在、あなたが一緒に住んでいる人をすべて選んでください。（○は1つ）



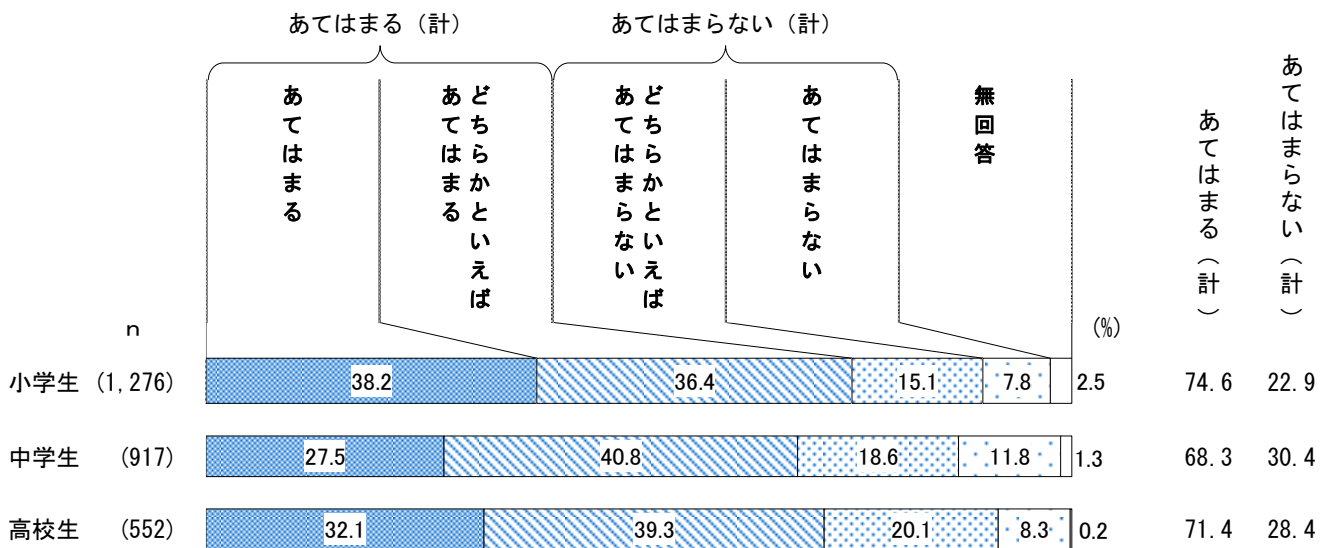
2 自己認識について

（1）人生観・充実度

Q：あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。

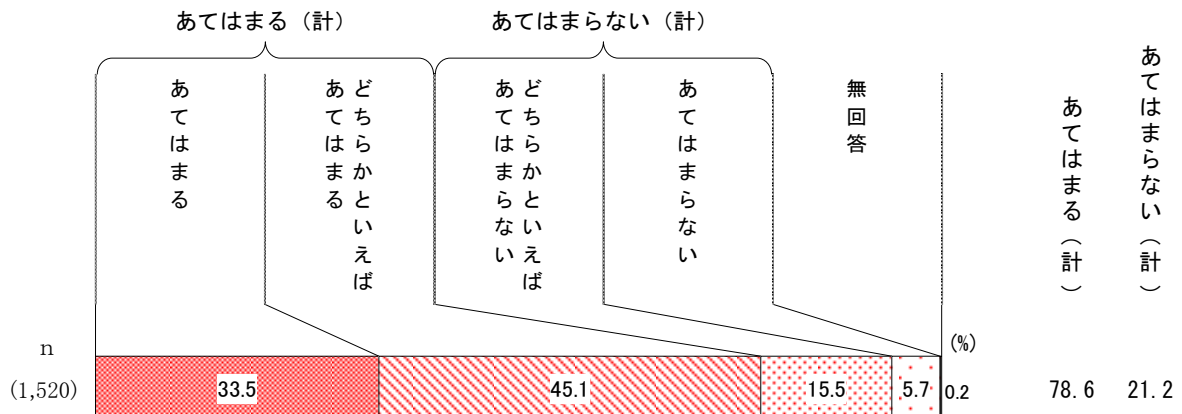
■今の自分が好きだ

「今の自分が好きだ」という自己肯定感について、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた《あてはまる 計》は小学生が74.6%と高く、中学生が68.3%と最も低くなっています。



全国調査※との比較

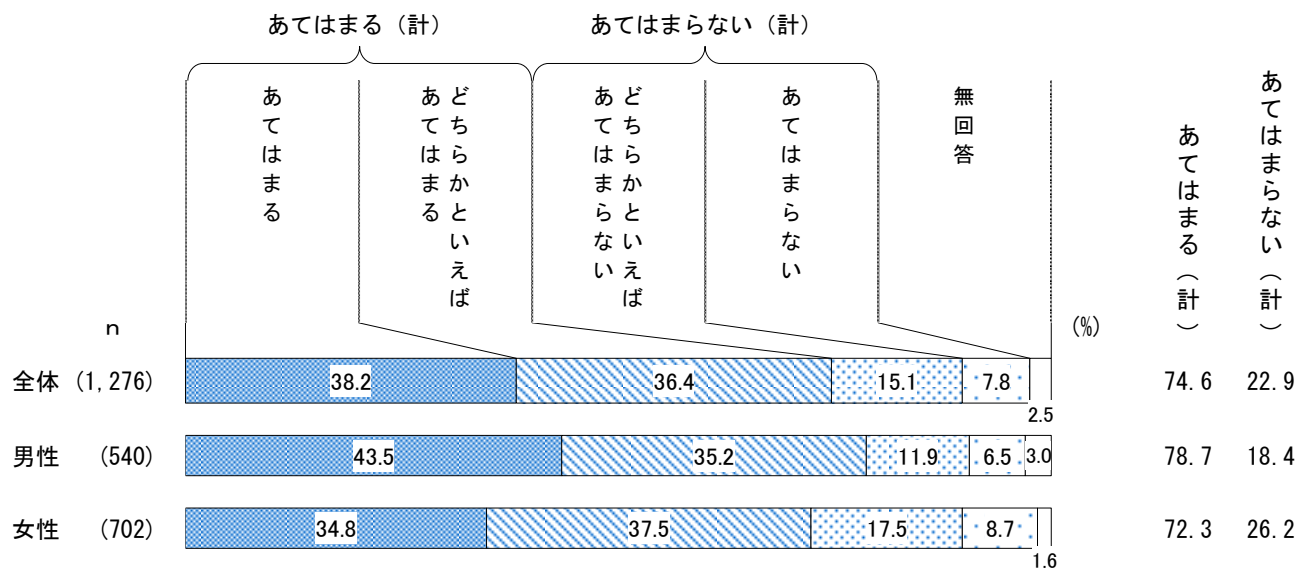
全国調査の結果は《あてはまる 計》が78.6%となっており、市調査の小学生（74.6%）、中学生（68.3%）、高校生（71.4%）はいずれも全国調査を下回っています。



※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

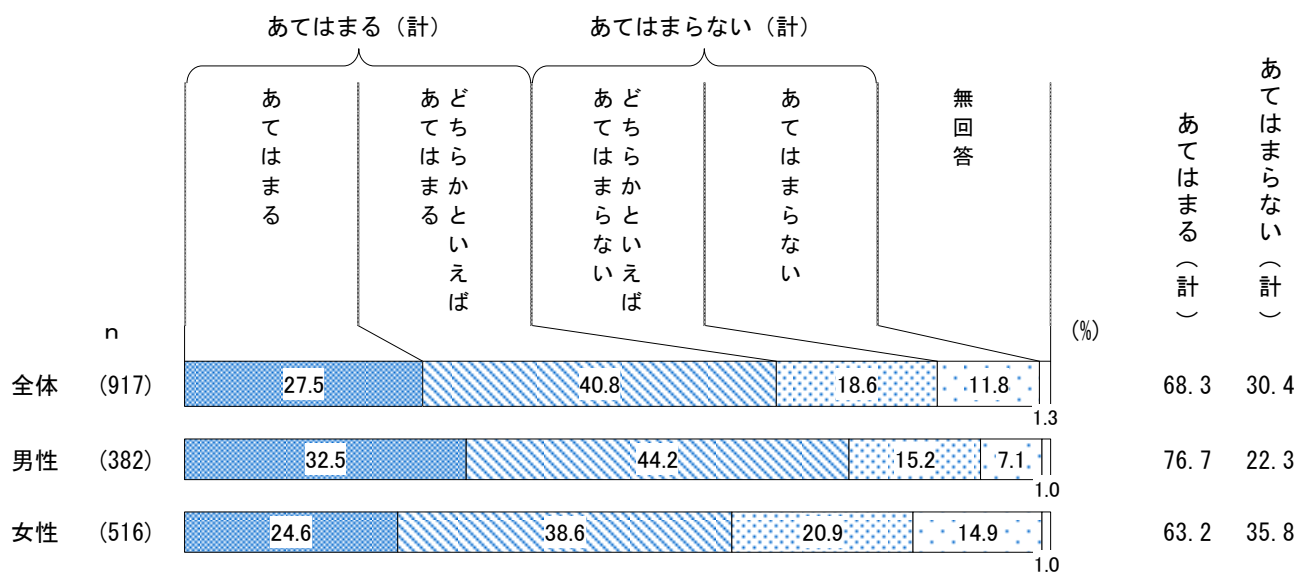
【小学生調査】

「今の自分が好きだ」という自己肯定感を小学生の性別でみると、《あてはまる 計》は男女ともに7割台となっています。最も自己肯定感が高い回答の「あてはまる」は男性（43.5%）が女性（34.8%）を8.7ポイント上回っています。



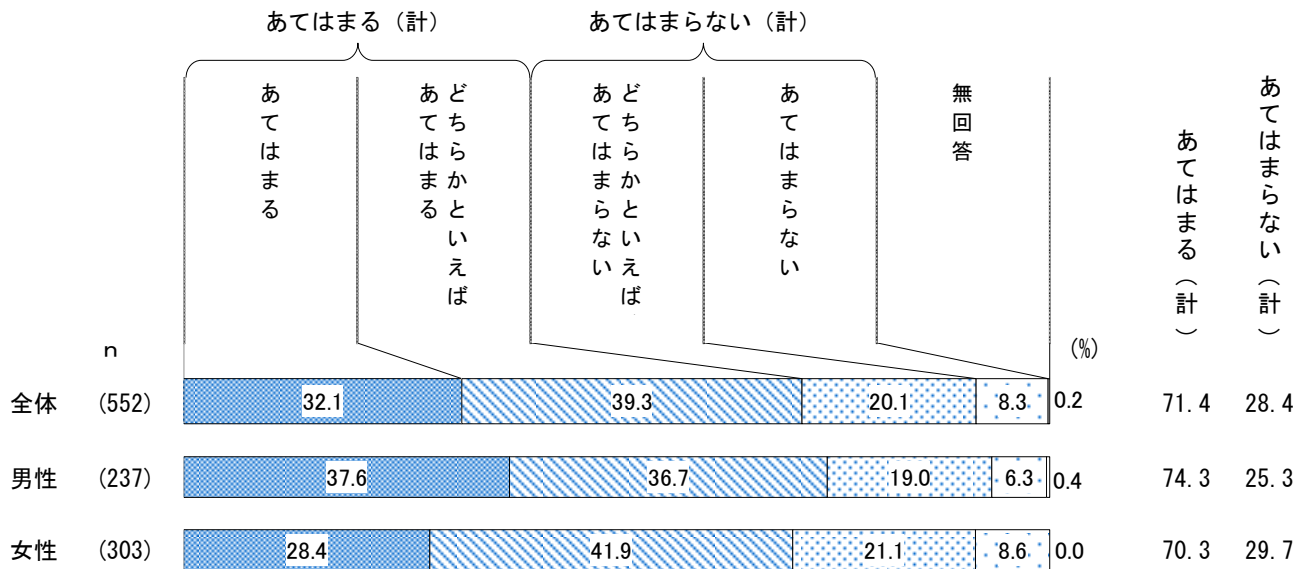
【中学生調査】

「今の自分が好きだ」という自己肯定感を中学生の性別でみると、《あてはまる 計》は男性（76.7%）が女性（63.2%）を13.5ポイント上回っています。一方、最も自己肯定感が低い回答の「あてはまらない」は女性が14.9%とやや高くなっています。



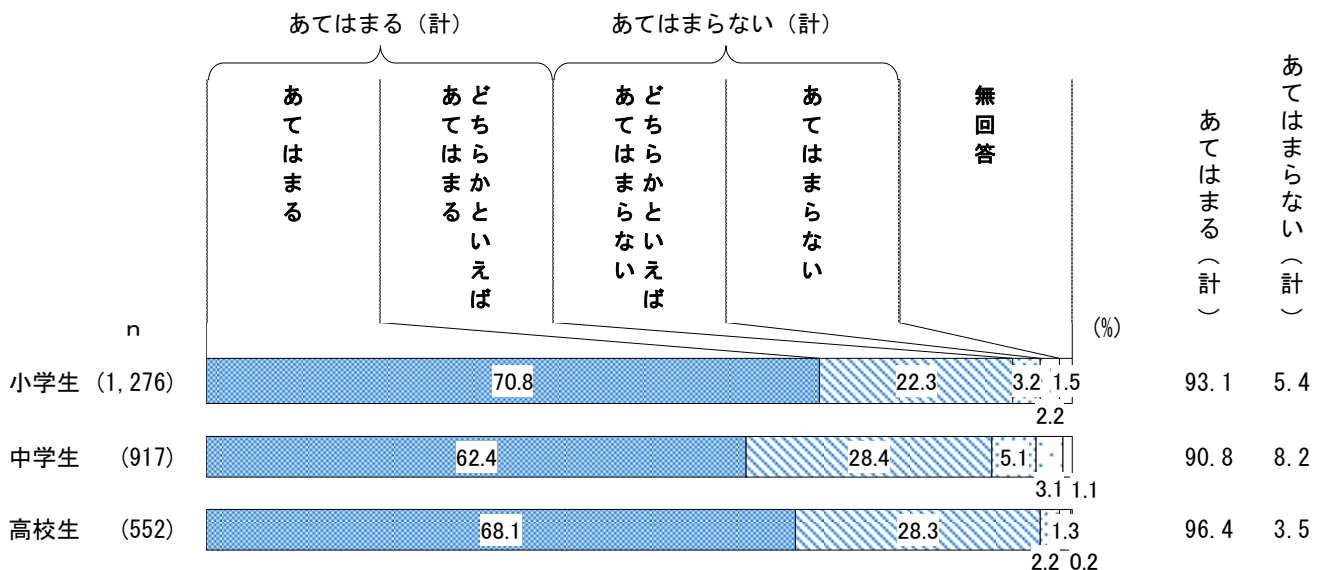
【高校生調査】

「今の自分が好きだ」という自己肯定感を高校生の性別でみると、《あてはまる 計》は男女ともに7割台となっています。最も自己肯定感が高い回答の「あてはまる」は男性（37.6%）が女性（28.4%）を9.2ポイント上回っています。



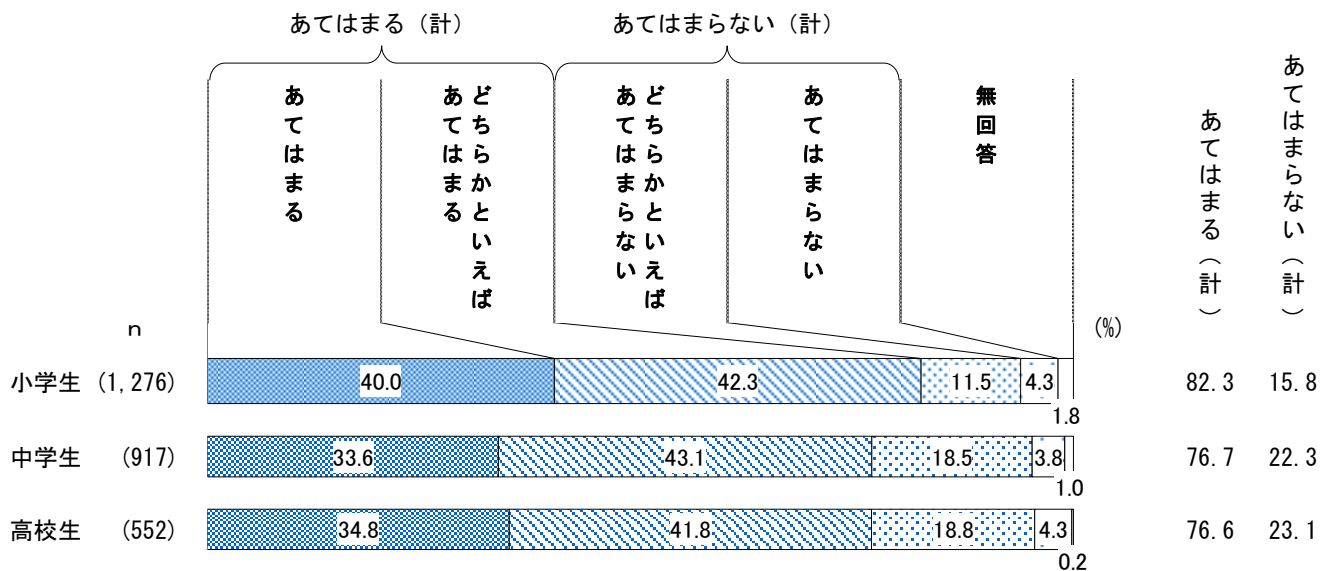
■自分の親（保護者）から愛されていると思う

「自分の親（保護者）から愛されていると思う」という親子関係について、《あてはまる 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも9割台となっており、特に高校生は96.4%を占めています。



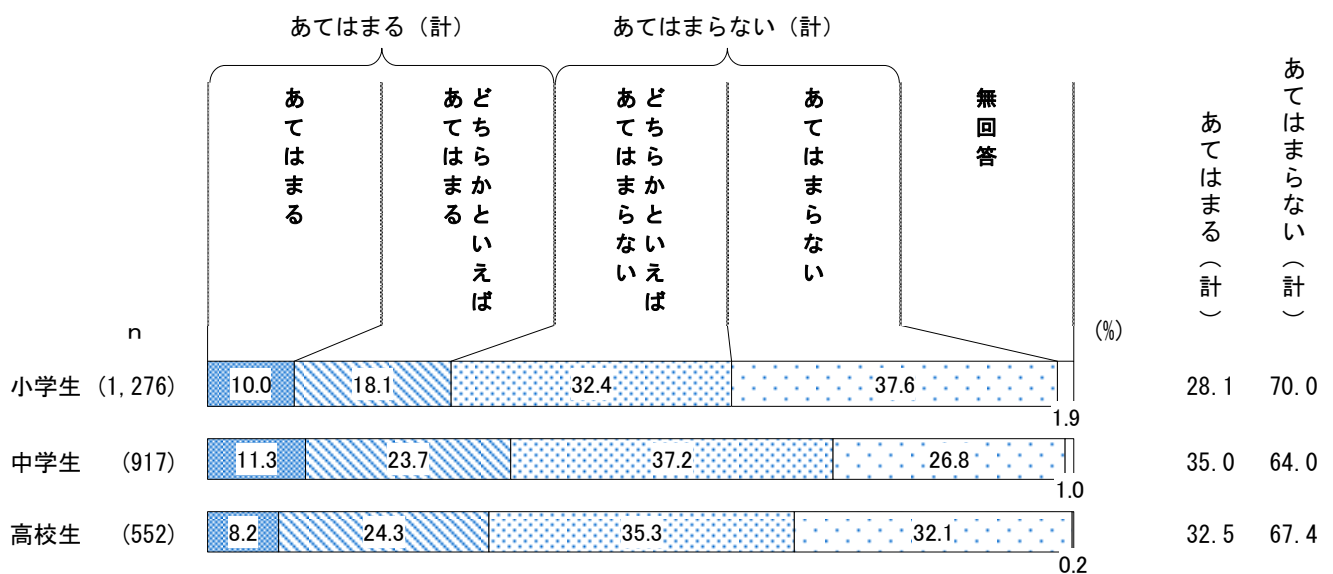
■うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む

「うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む」ことについて、《あてはまる 計》は小学生（82.3%）が8割を超えて特に高くなっています。



■自分は役に立たないと強く感じる

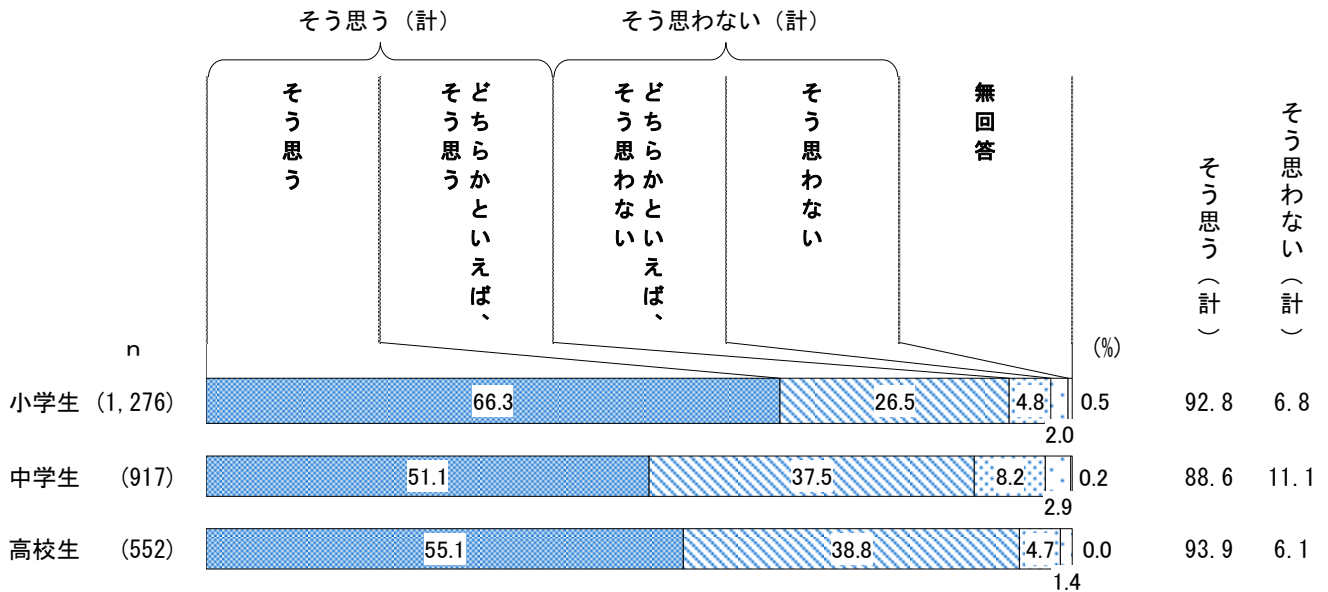
「自分は役に立たないと強く感じる」という自己有用感について、《あてはまる 計》は中学生（35.0%）が3割台半ばと特に高くなっています。



（2）今の幸福感

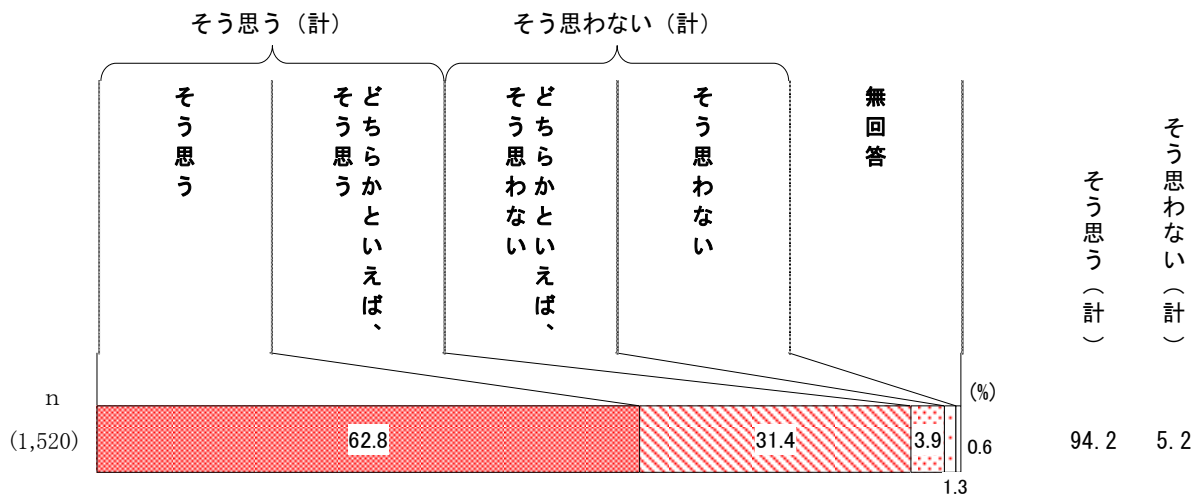
Q：あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。（○は1つ）

「今、自分が幸せだと思う」という今の幸福感について、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも9割前後となっており、高校生（93.9%）が特に高くなっています。《そう思わない 計》は中学生（11.1%）で1割を超えています。



全国調査※との比較

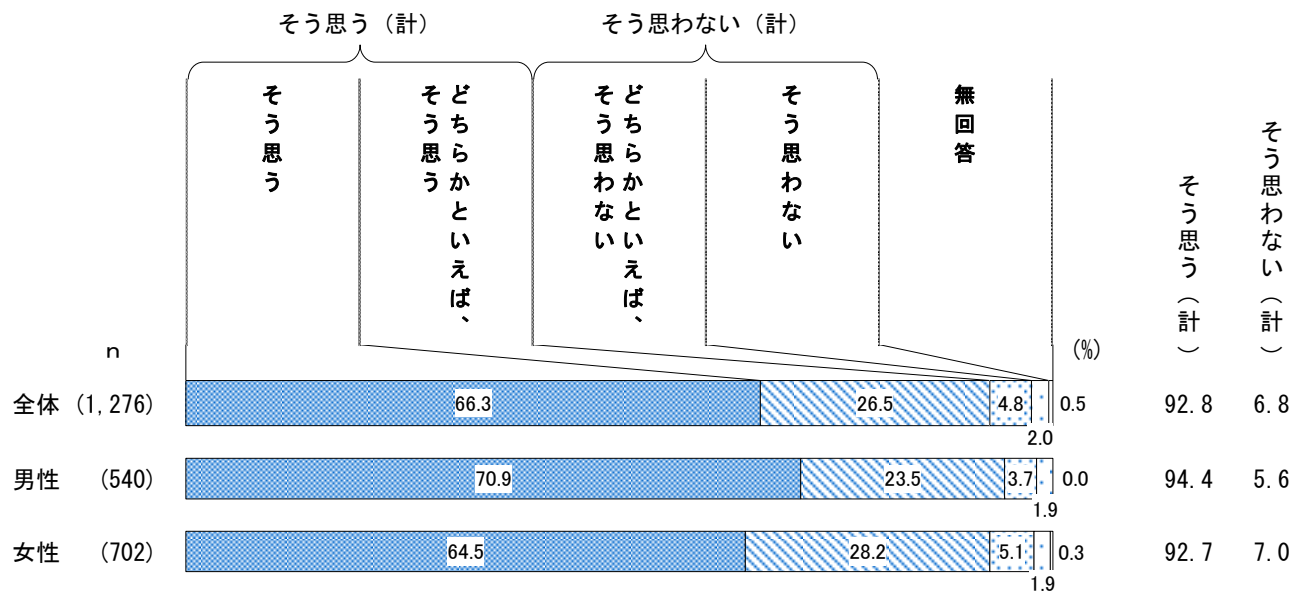
全国調査の結果は《そう思う 計》が94.2%となっており、市調査の小学生（92.8%）、高校生（93.9%）はほぼ同率、中学生（88.6%）は全国調査より5.6ポイント低くなっています。



※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

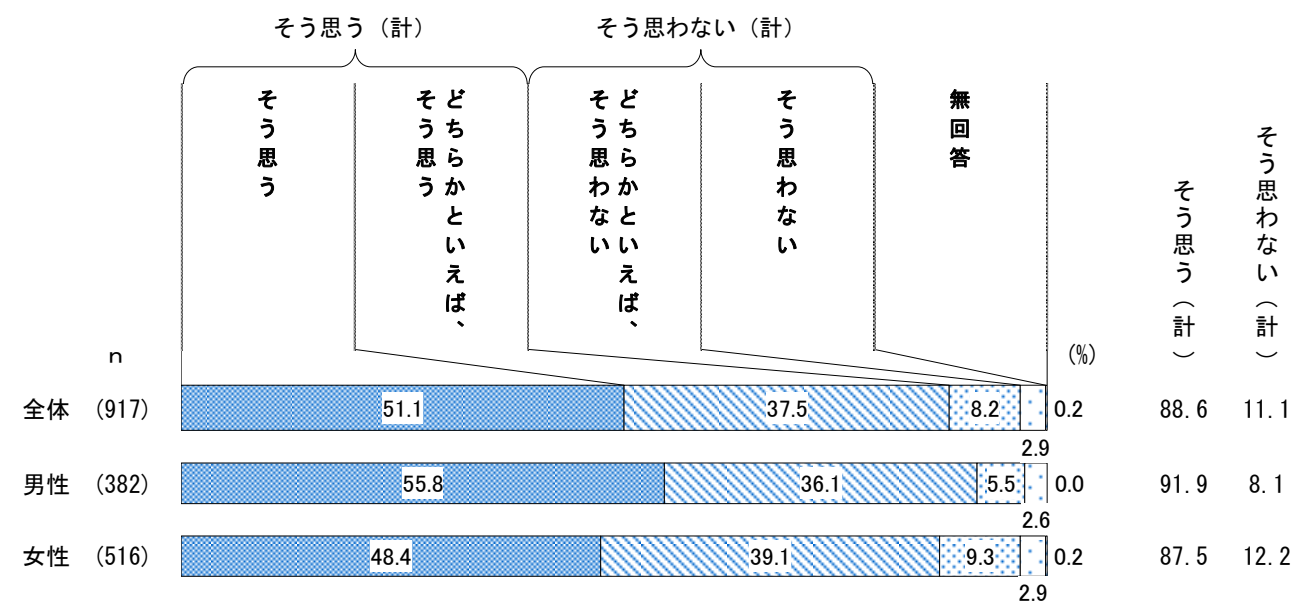
【小学生調査】

今の幸福感を小学生の性別でみると、「そう思う」は男性（70.9%）が女性（64.5%）を6.4ポイント上回っています。



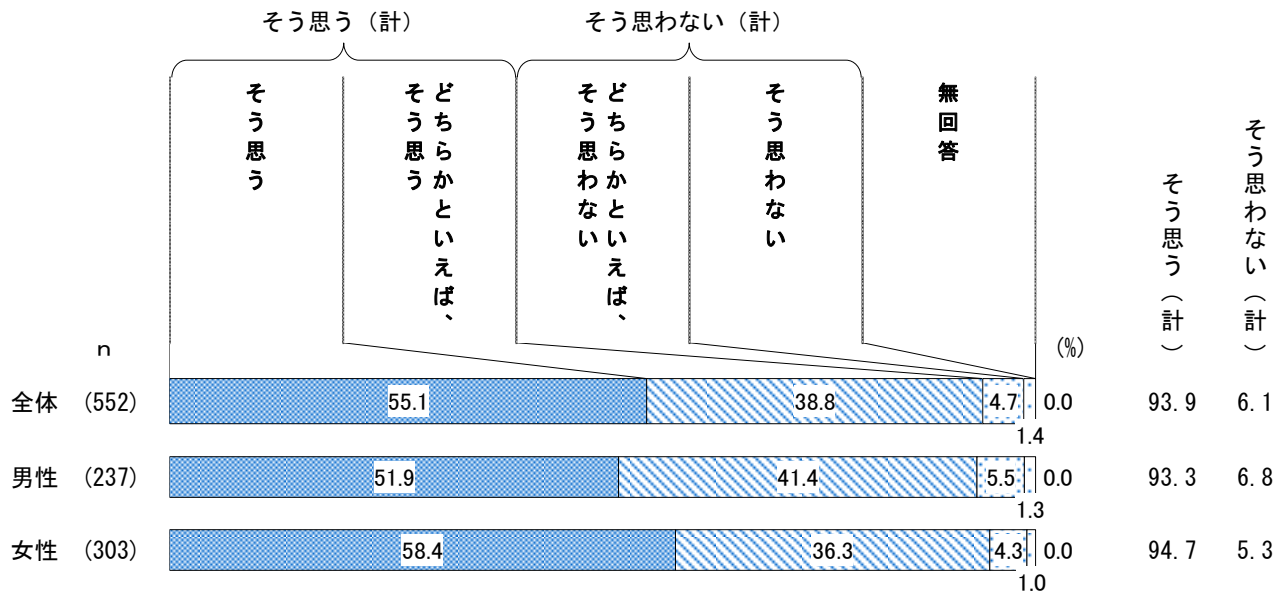
【中学生調査】

今の幸福感を中学生の性別でみると、「そう思う」は男性（55.8%）が女性（48.4%）を7.4ポイント上回っています。



【高校生調査】

今の幸福感を高校生の性別でみると、「そう思う」は女性（58.4%）が男性（51.9%）を6.5ポイント上回っています。



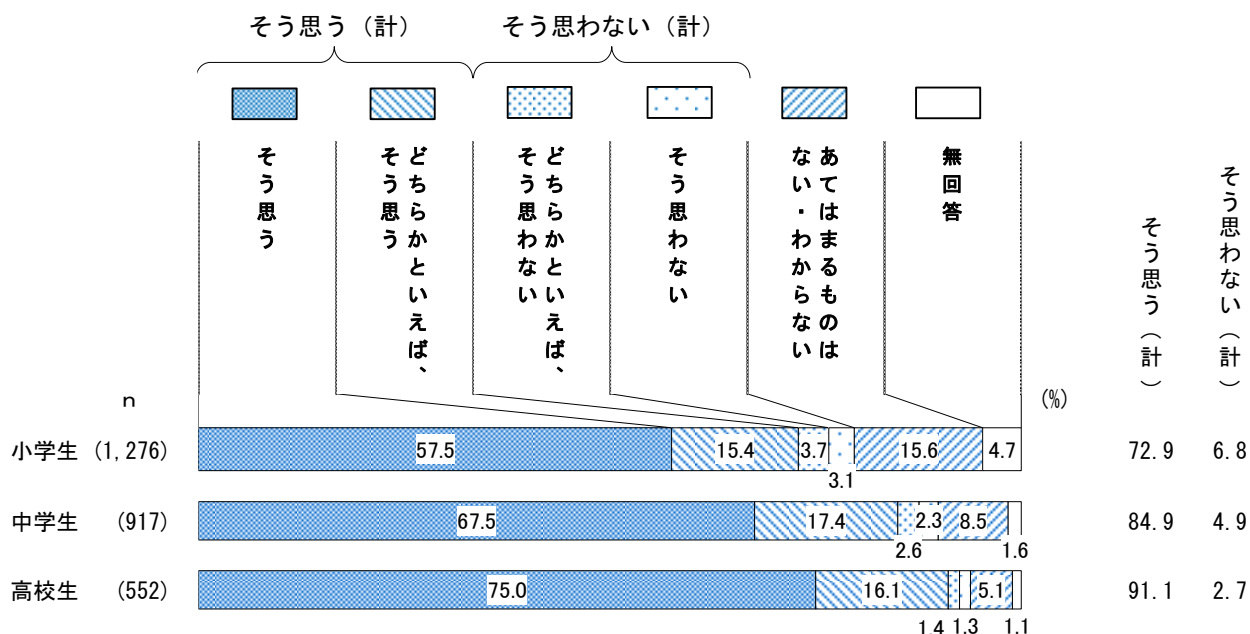
3 居場所について

(1) 居場所

Q：次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）になっていますか。（○は1つ）

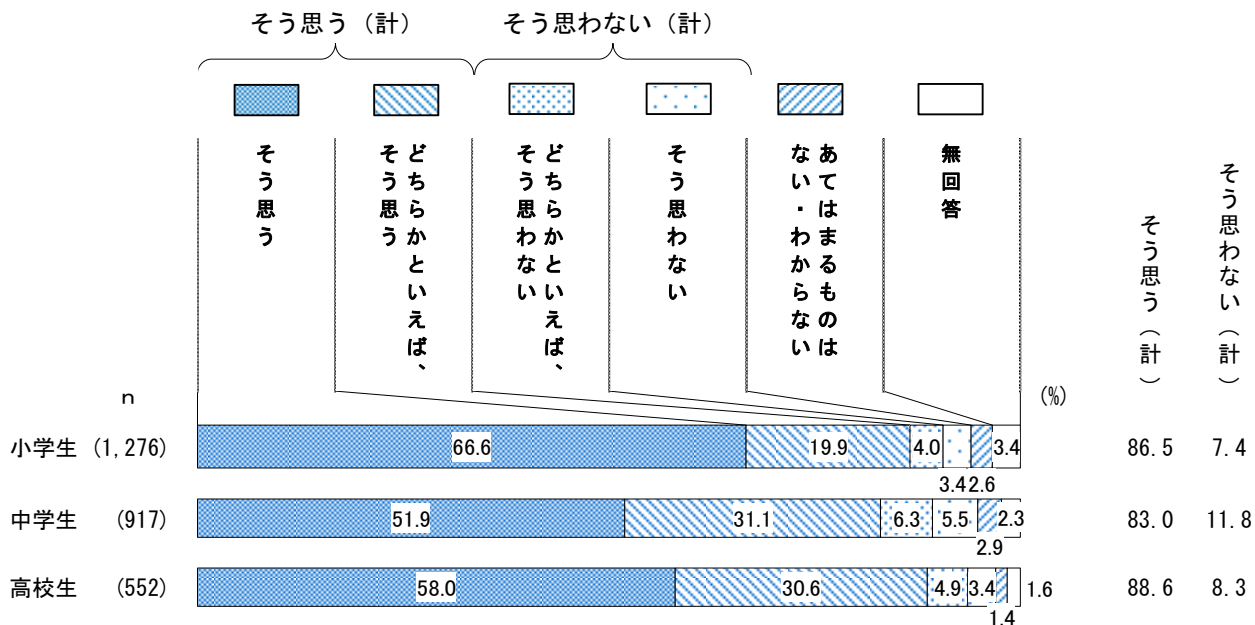
■自分の部屋

「自分の部屋」が自身にとっての居場所になっているかについて、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて割合は増加しており、高校生では9割を超えています。



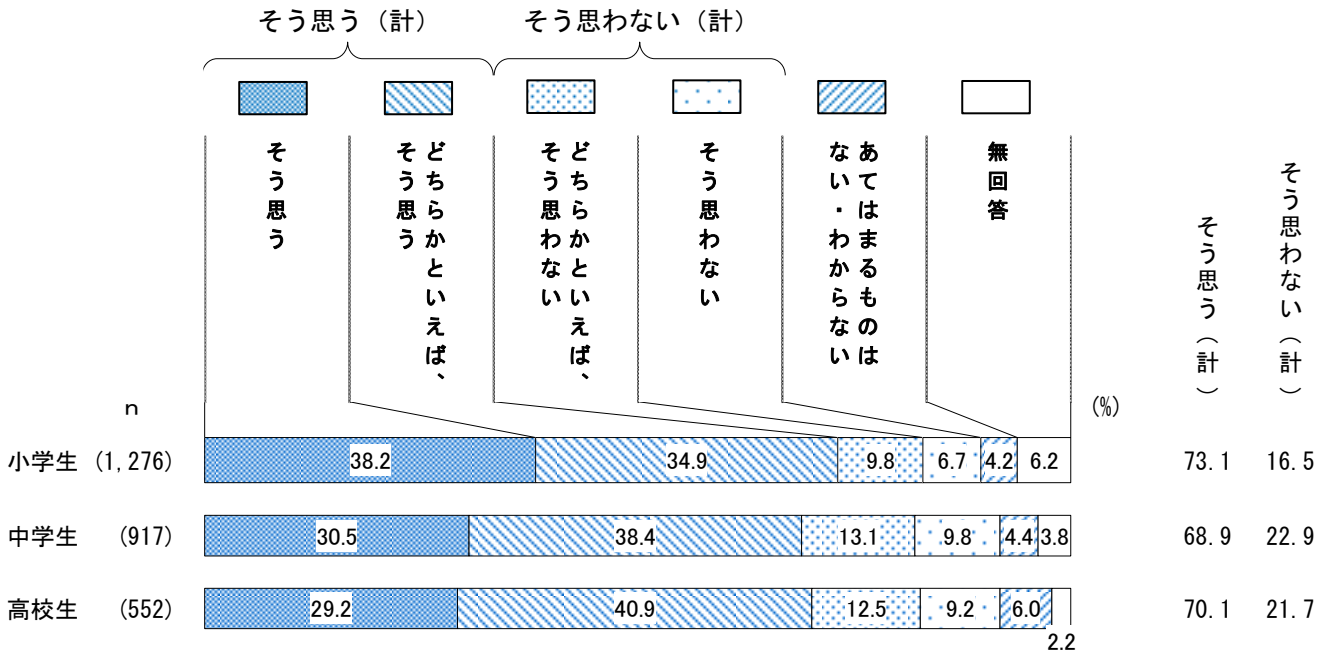
■家庭（親戚の家を含む）

「家庭（親戚の家を含む）」が自身にとっての居場所になっているかについて、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも8割台となっています。「そう思う」は小学生で6割を超えて高くなっています。



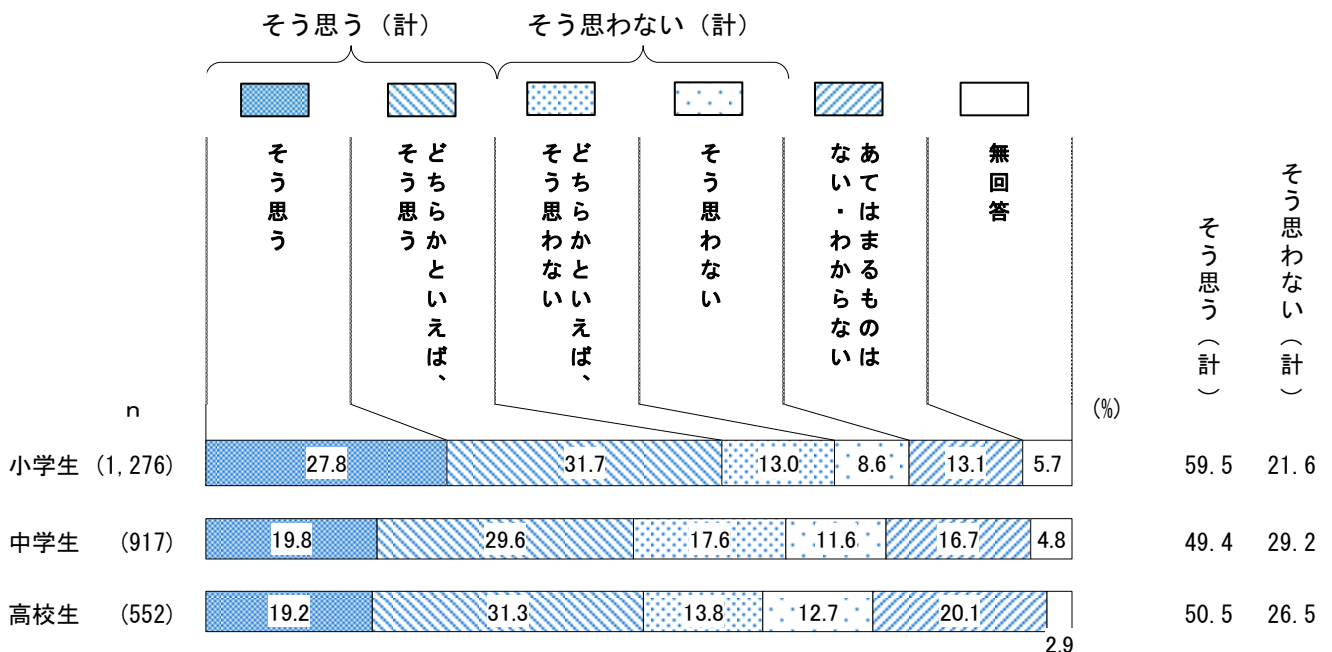
■学校

「学校」が自身にとっての居場所になっているかについて、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも7割前後となっています。《そう思わない 計》は中学生（22.9%）、高校生（21.7%）で2割を超えています。



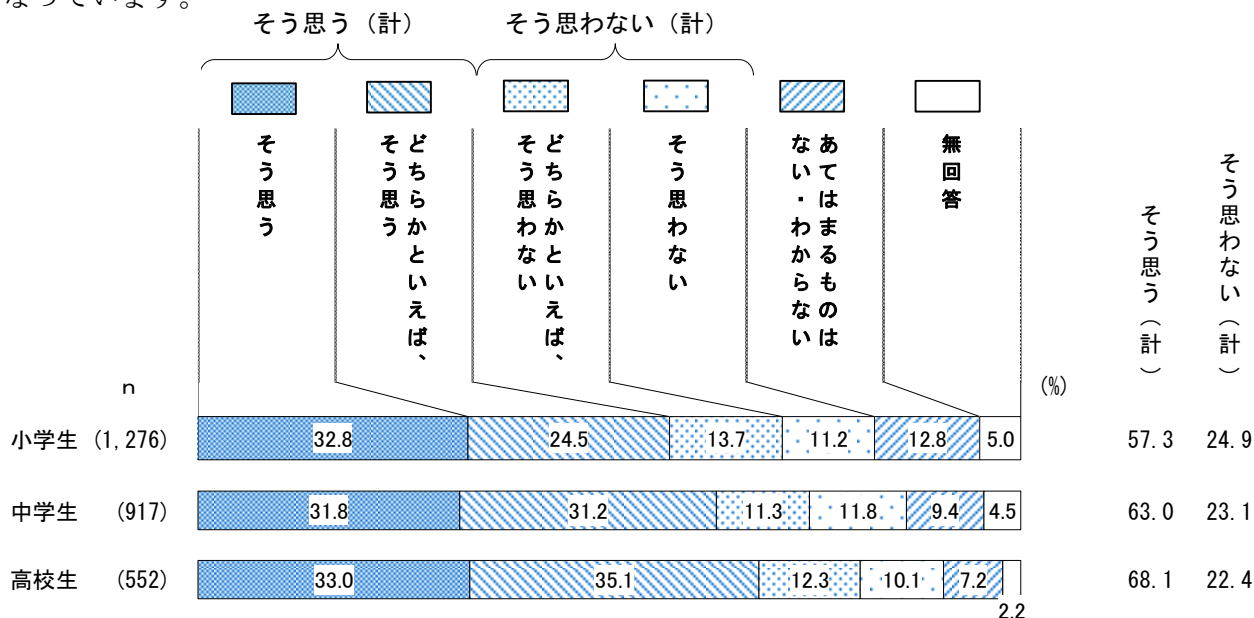
■地域（図書館や公民館や公園など、現在あなたが住んでいる地域にある施設など）

「地域（図書館や公民館や公園など現在あなたが住んでいる地域にある施設など）」が自身にとっての居場所になっているかについて、《そう思う 計》は小学生が約6割、中学生、高校生が5割前後と、特に小学生で高くなっています。



■インターネット空間

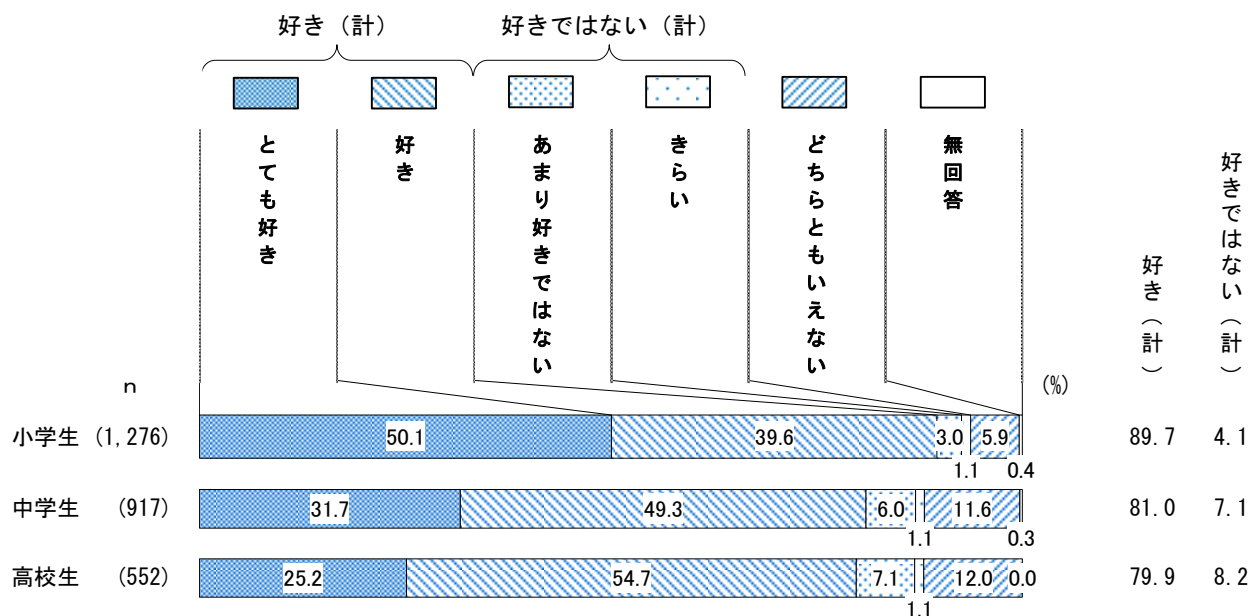
「インターネット空間」が自身にとっての居場所になっているかについて、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて割合は増加しており、高校生では約7割となっています。



(2) 居住環境

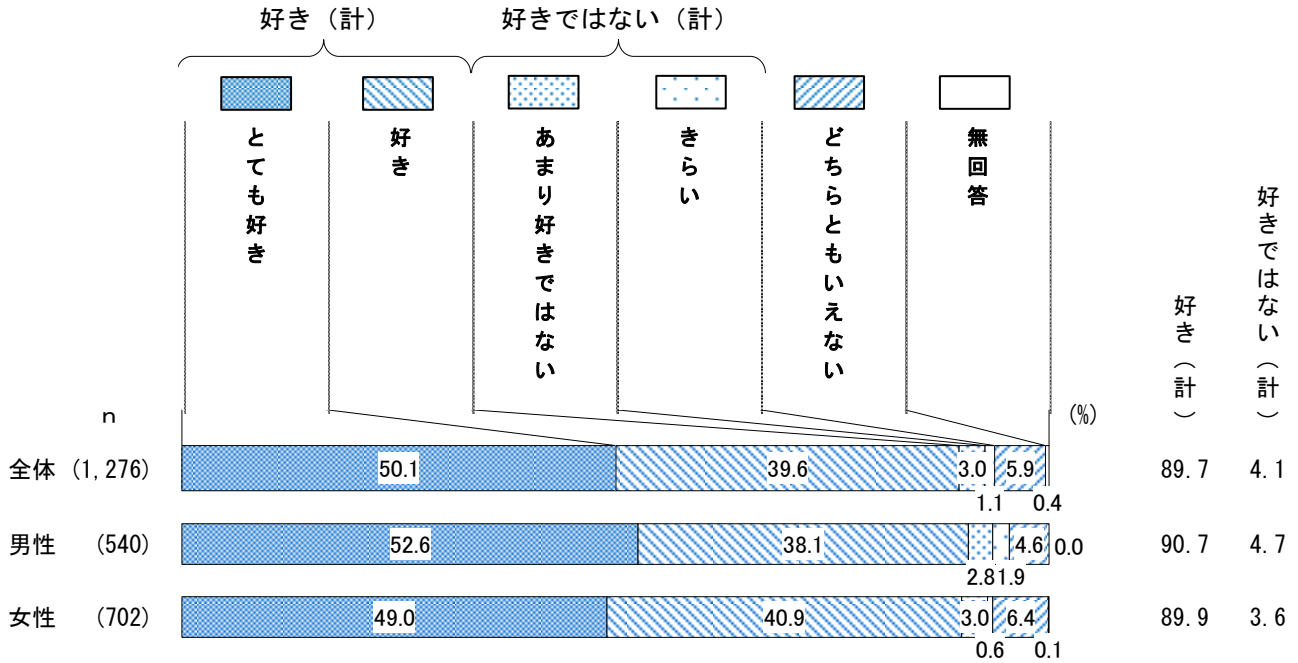
Q：あなたは、今住んでいるところ（前橋市）は好きですか。（○は1つ）

「今住んでいるところ（前橋市）は好きですか」について、「とても好き」は小学生（50.1%）、中学生（31.7%）、高校生（25.2%）と学校の段階が上がるにつれて減少し、「好き」の割合は増加しています。ただし、「とても好き」と「好き」を合わせた《好き 計》は、学校の段階が上がるにつれて減少しています。



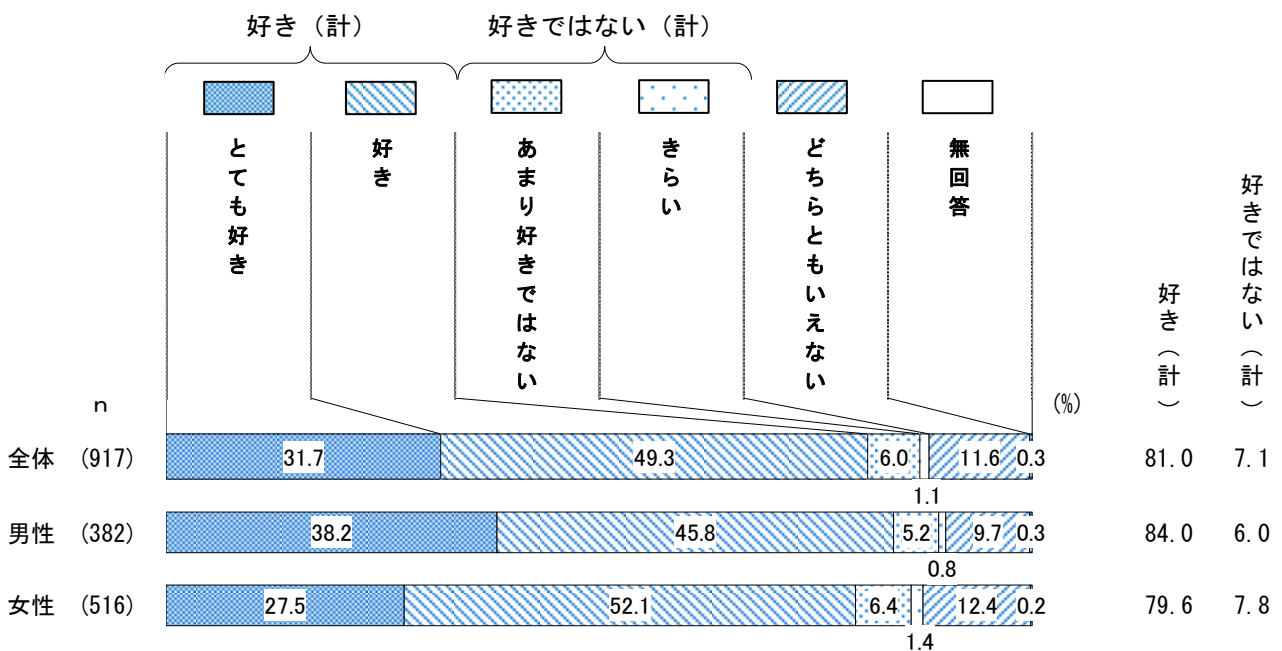
【小学生調査】

「今住んでいるところ（前橋市）は好きですか」を小学生の性別でみると、性別による大きな違いはみられません。



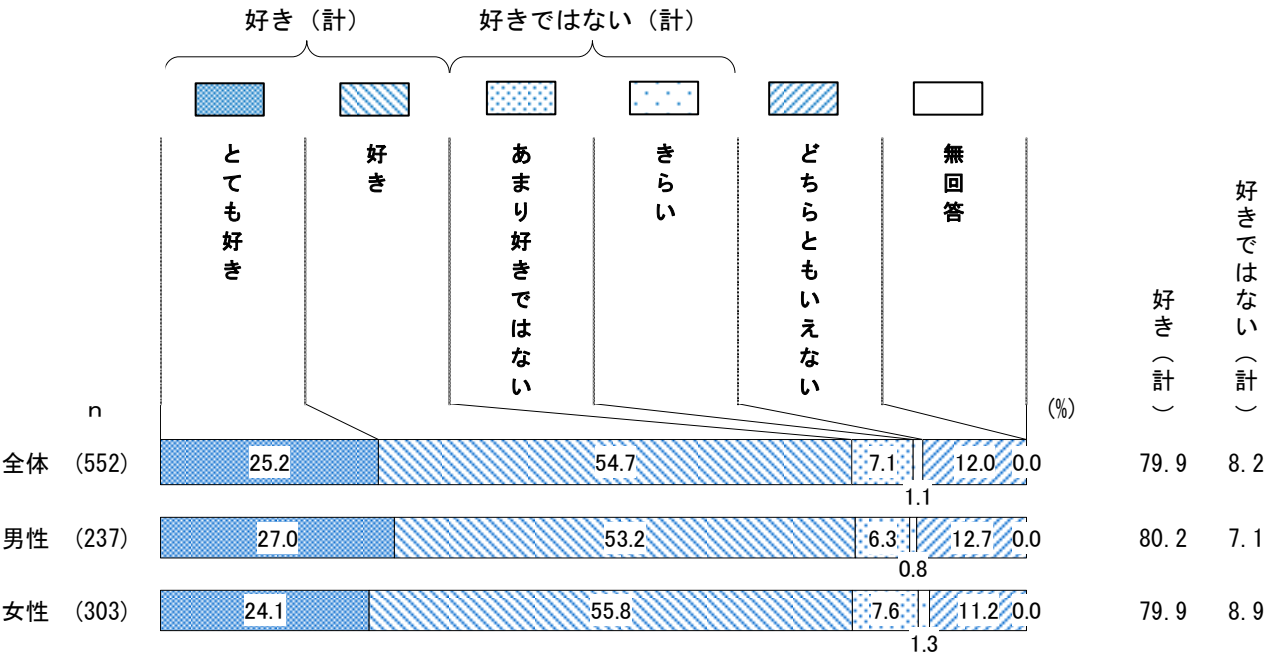
【中学生調査】

「今住んでいるところ（前橋市）は好きですか」を中学生の性別でみると、「とても好き」は男性（38.2%）が女性（27.5%）を10.7ポイント上回っています。



【高校生調査】

「今住んでいるところ（前橋市）は好きですか」を高校生の性別でみると、性別による大きな違いはみられません。

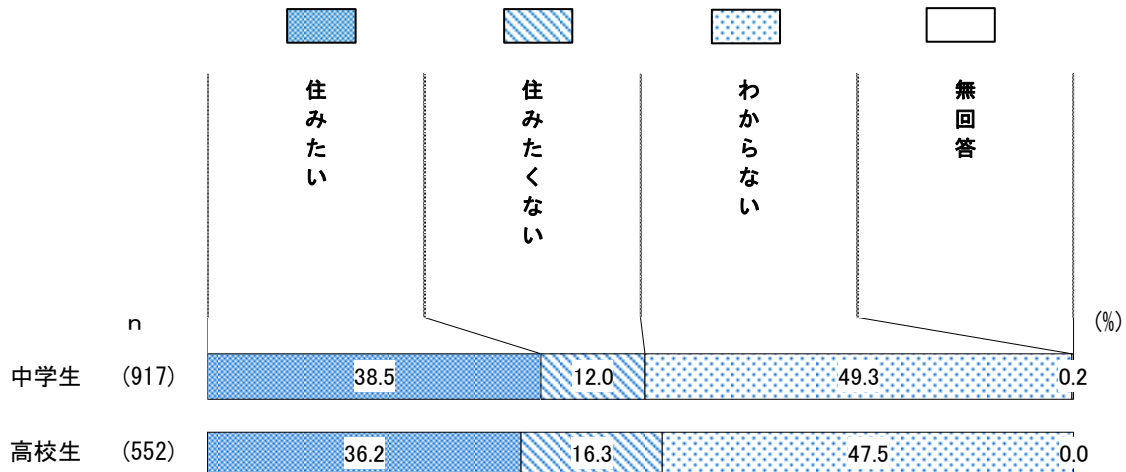


（3）居住意向【中学生・高校生調査】

Q：あなたは、今住んでいるところ（前橋市）に大人になってからも住みたいと思いますか。

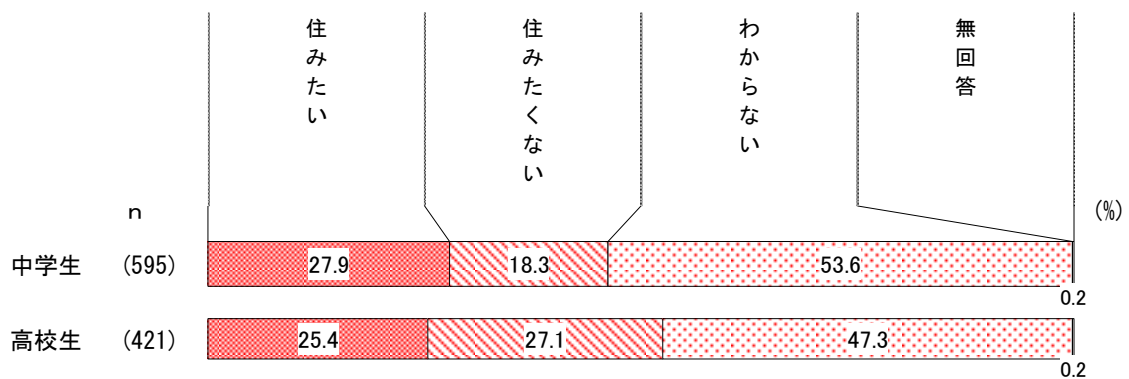
（○は1つ）

今住んでいるところ（前橋市）に大人になってからも住みたいかについて、「住みたい」はいずれも3割台となっています。



県調査※との比較

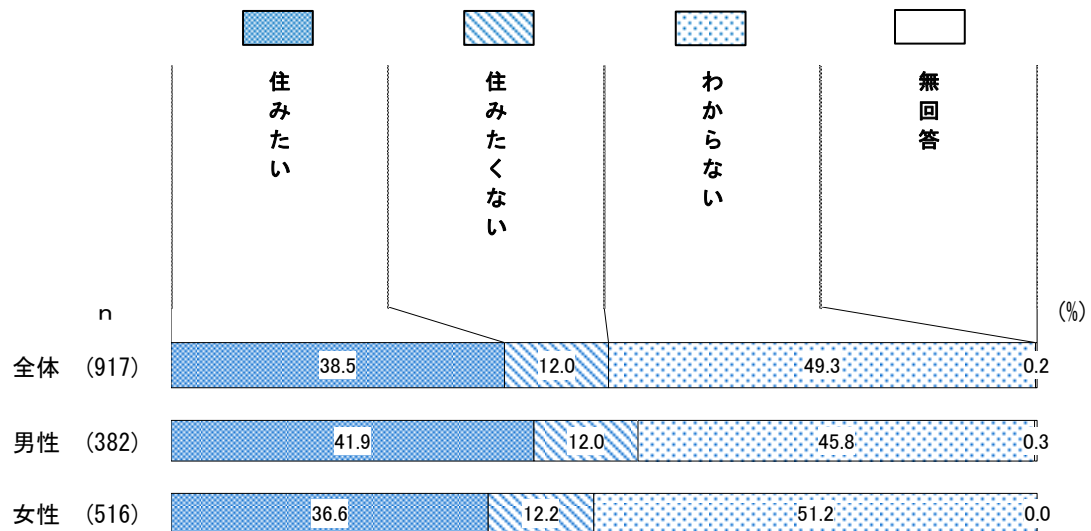
県調査の結果について、現在の居住地に「住みたい」は中学生が27.9%、高校生が25.4%となっており、市調査の中学生（38.5%）、高校生（36.2%）の結果はいずれも県調査を上回っています。



※群馬県 第8回ぐんま青少年基本調査（令和5年度）

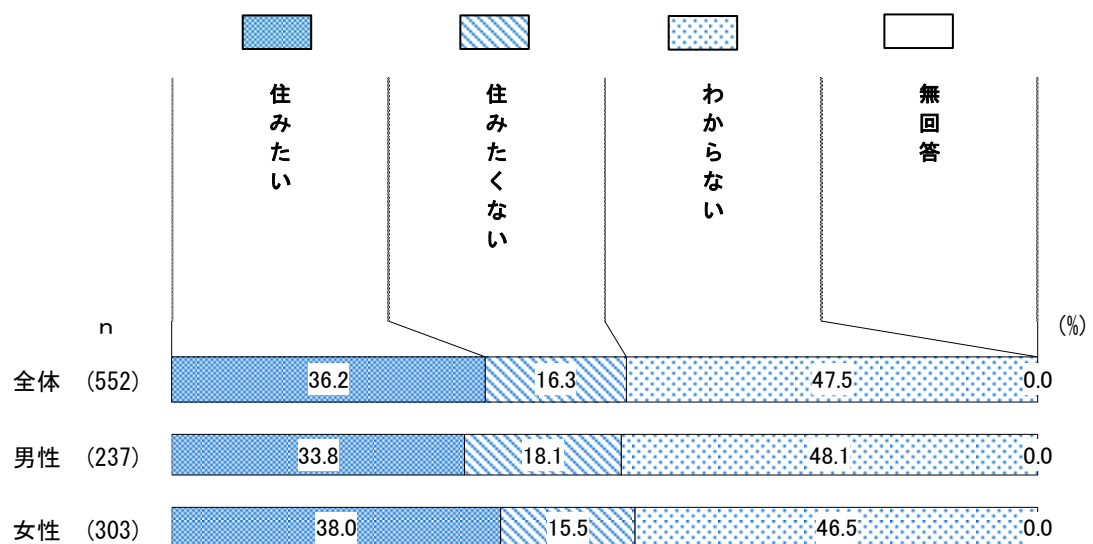
【中学生調査】

前橋市への居留意向を中学生の性別でみると、「住みたい」は男性（41.9%）が女性（36.6%）を5.3ポイント上回っています。



【高校生調査】

前橋市への居留意向を高校生の性別でみると、性別による大きな違いはみられません。

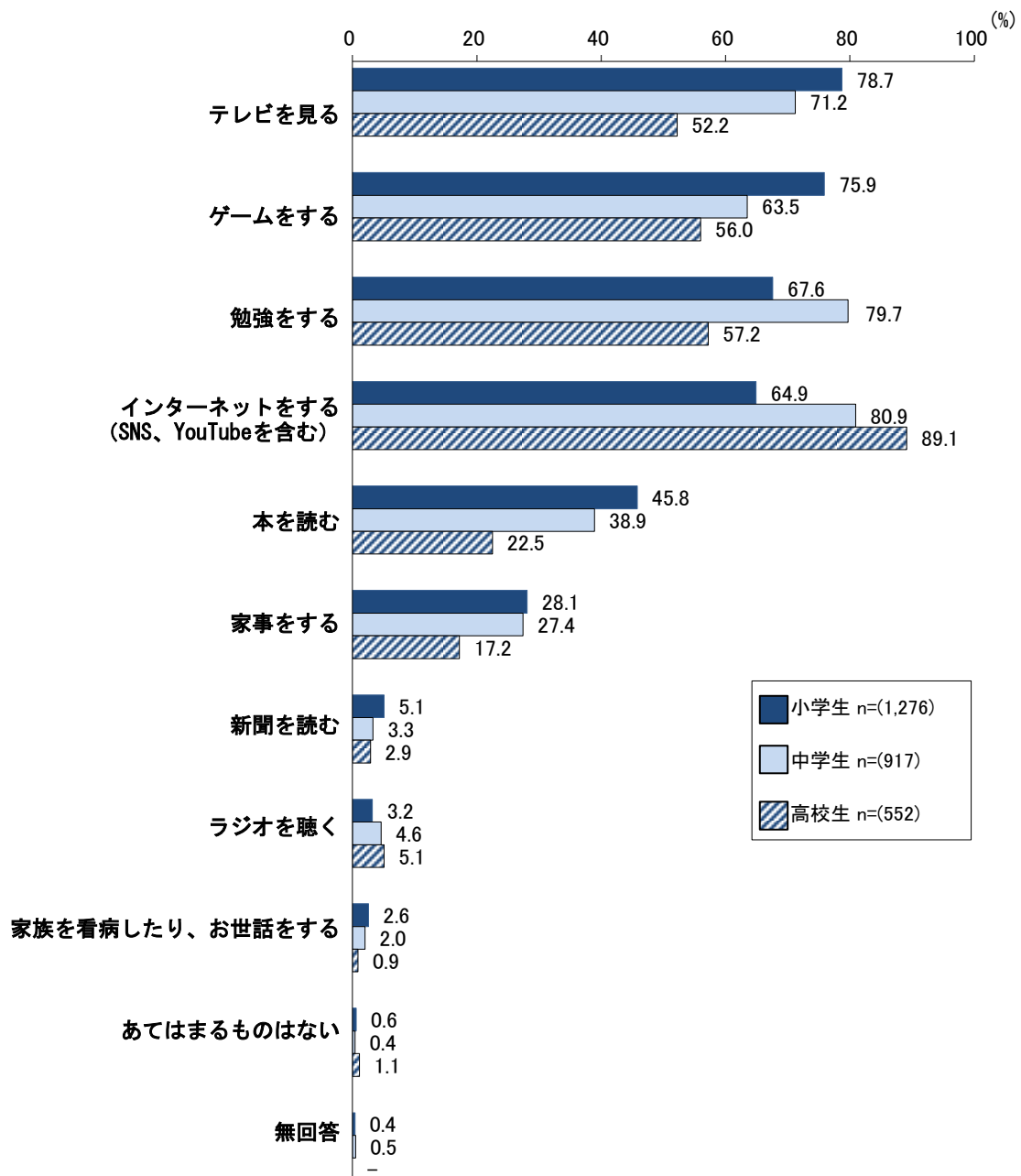


4 生活・活動について

（1）家での過ごし方

Q：ふだん家（暮らしている場所）にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。よくしていることをすべて選んでください。（○はいくつでも）

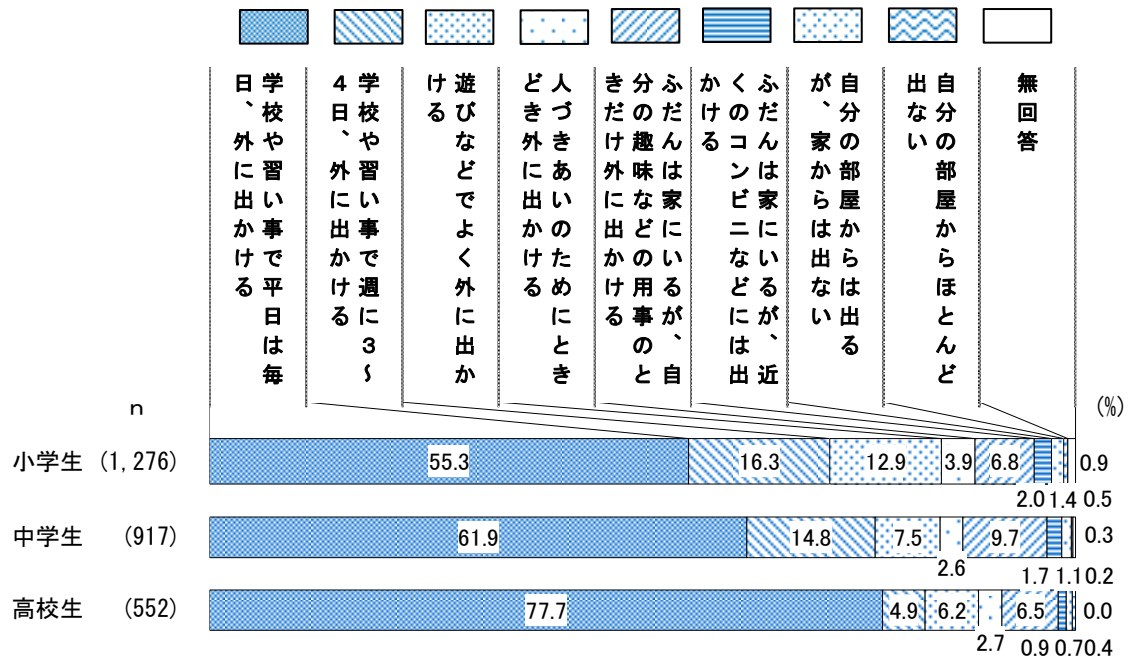
普段、家（暮らしている場所）にいるときによくしていることについて、小学生では「テレビを見る」（78.7%）、中学生と高校生では「インターネットをする（SNS、YouTubeを含む）」（中学生80.9%、高校生89.1%）がそれぞれ最も高くなっています。



（2）普段の外出頻度

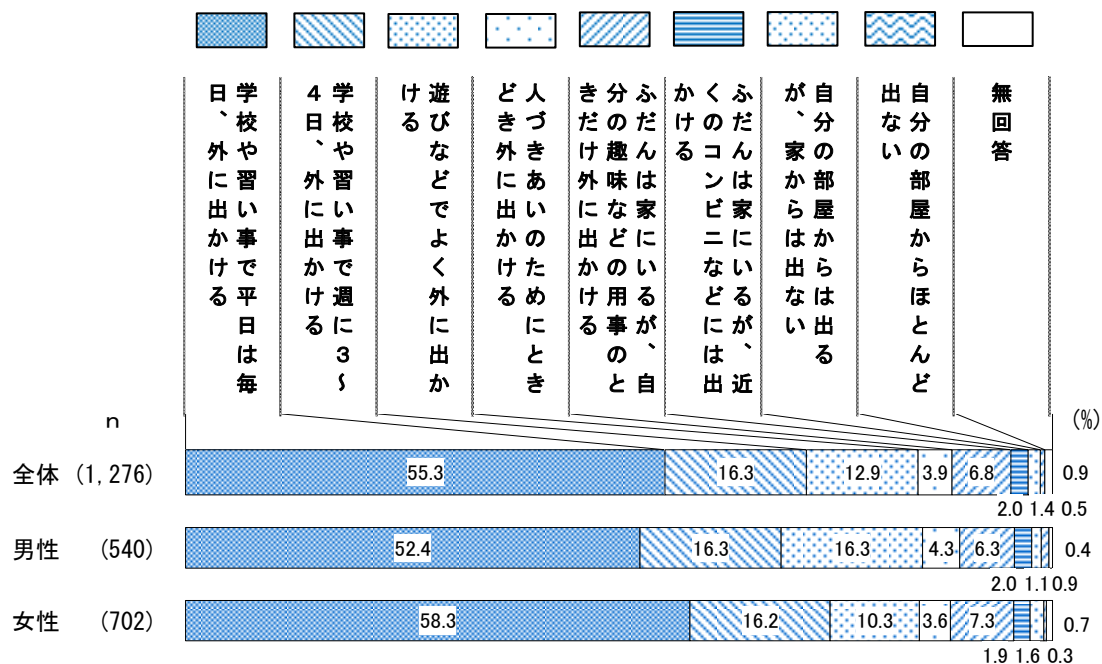
Q：あなたはふだんどのくらい外に出かけていますか。（○は1つ）

普段の外出頻度について、小学生、中学生、高校生のいずれも「学校や習い事で平日は毎日、外に出かける」が最も高くなっており、特に高校生（77.7%）では約8割を占めています。



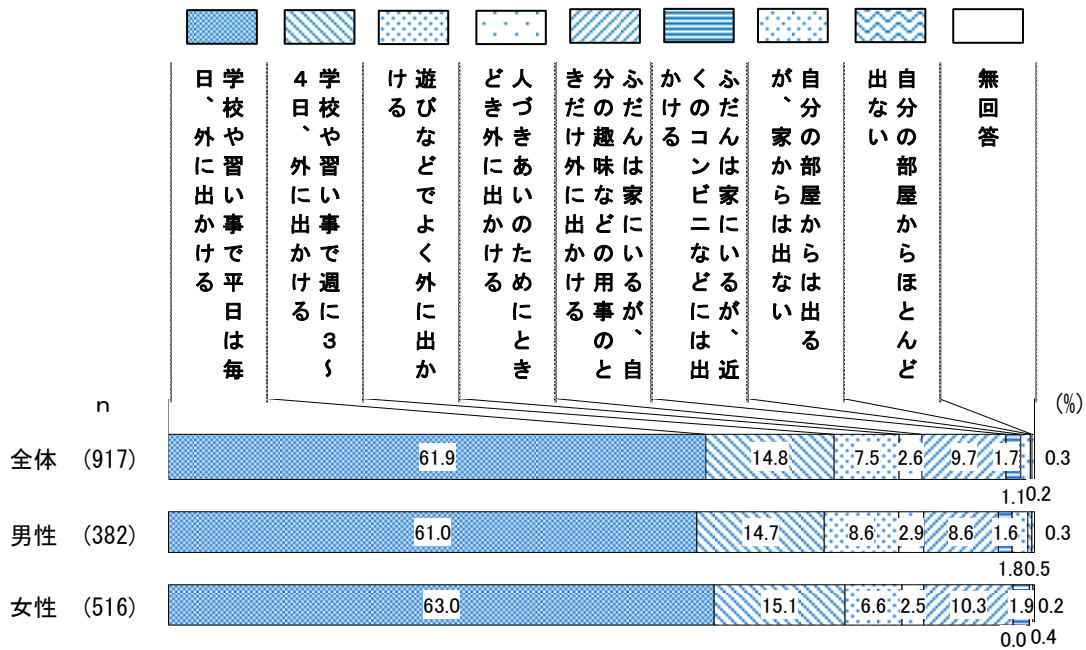
【小学生調査】

普段の外出頻度を小学生の性別でみると、「学校や習い事で平日は毎日、外に出かける」は女性（58.3%）が男性（52.4%）を5.9ポイント上回っています。「遊びなどでよく外に出かける」は男性（16.3%）が女性（10.3%）を6.0ポイント上回っています。



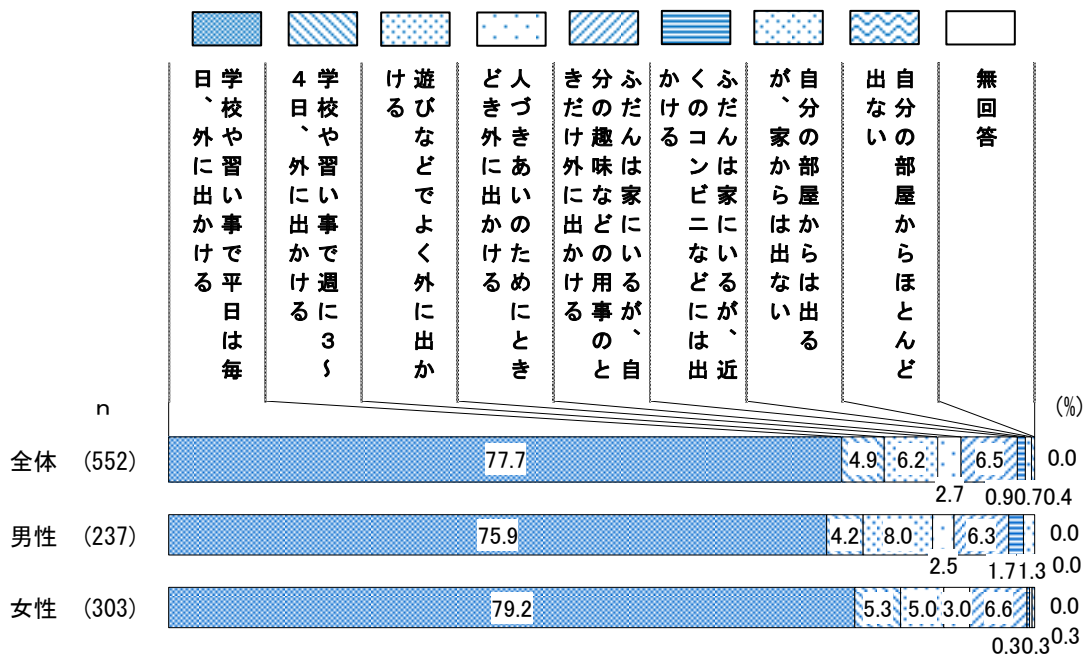
【中学生調査】

普段の外出頻度を中学生の性別でみると、「学校や習い事で平日は毎日、外に出かける」は男女ともに6割台となっており、性別による大きな違いはみられません。



【高校生調査】

普段の外出頻度を高校生の性別でみると、「学校や習い事で平日は毎日、外に出かける」は男女ともに7割台となっており、性別による大きな違いはみられません。



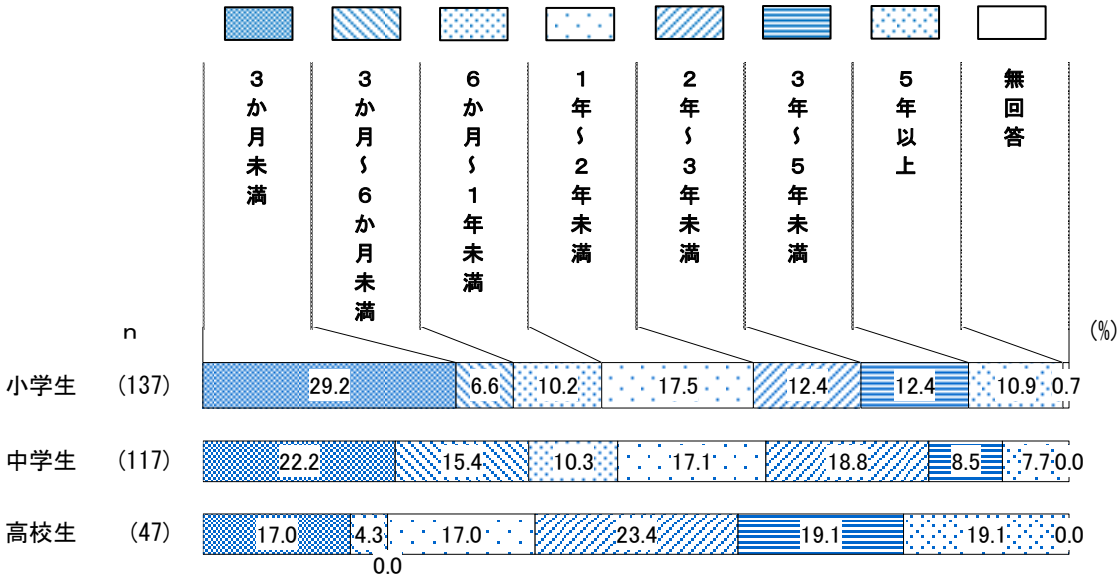
(3) 現在の外出状況になってからの期間

※普段の外出頻度で「5」～「8」※を選んだ方のみ回答

Q：あなたの外出状況が今ようになってから、どのくらいたちますか。（○は1つ）

※選択肢	5.ふだんは家にいるが、自分の趣味などの用事するときだけ外に出かける 6.ふだんは家にいるが、近くのコンビニなどには出かける 7.自分の部屋からは出るが、家からは出ない 8.自分の部屋からほとんど出ない

外出頻度の低い人について、現在の外出状況になってからの期間をみると、小学生と中学生は「3か月未満」（小学生29.2%、中学生22.2%）、高校生は「2年～3年未満」（23.4%）が最も多くなっています。高校生は、対象の約8割が現在の外出状況になってから6か月以上経過していると回答している状況です。



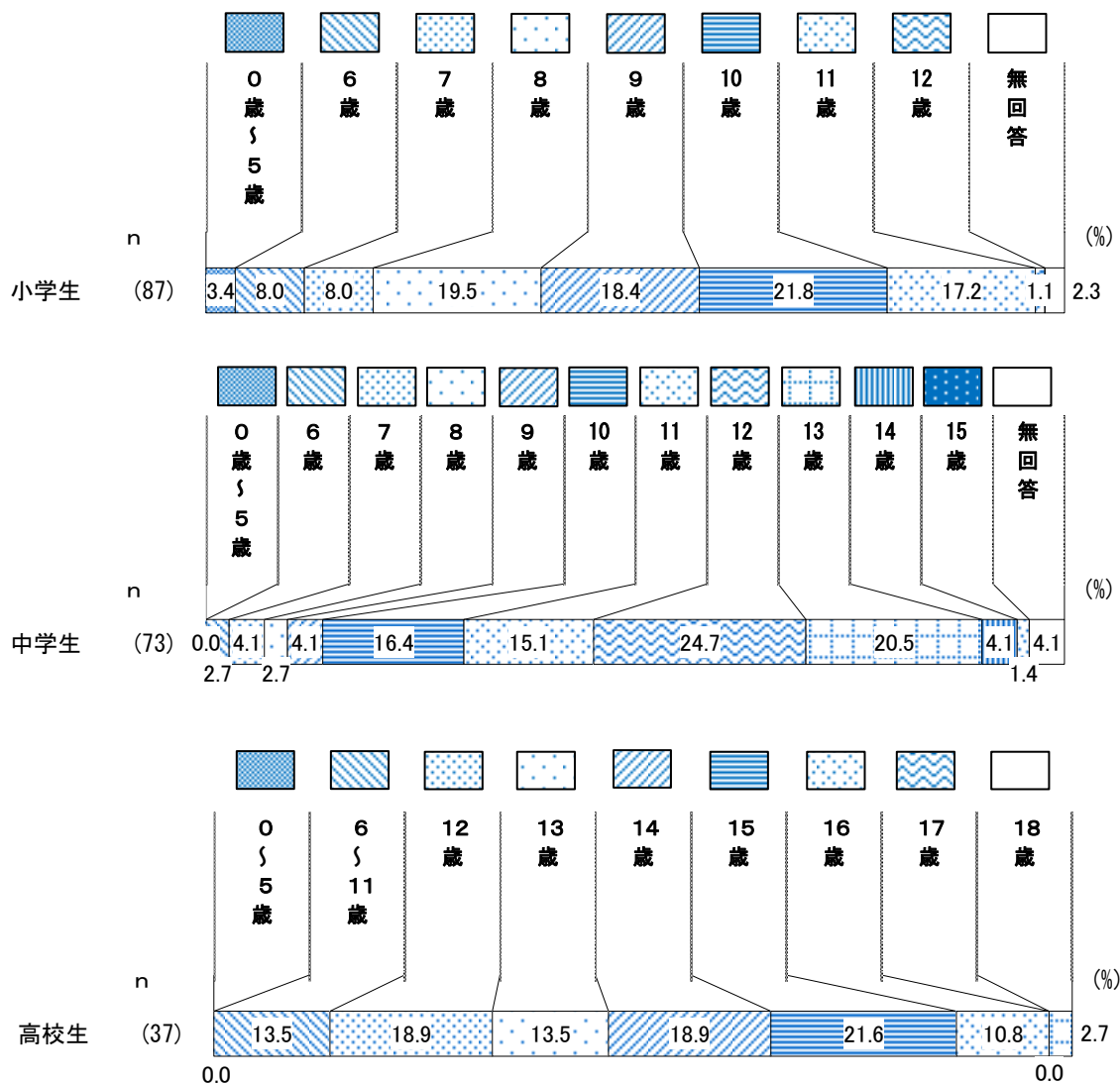
（4）現在の外出状況になった年齢

※現在の外出状況になってからの期間で「3」～「7」※を選んだ方のみ回答

Q：あなたの外出状況が今ようになったのは、いくつの頃ですか。（○は1つ）

※選択肢	3. 6か月～1年未満	6. 3年～5年未満
	4. 1年～2年未満	7. 5年以上
	5. 2年～3年未満	

外出頻度の低い人のうち、現在の外出状況となつてからの期間が6か月以上と回答をした人に、今の状況になった年齢を聞いたところ、小学生は「10歳」（21.8%）、中学生は「12歳」（24.7%）、高校生は「15歳」（21.6%）がそれぞれ最も高くなっています。



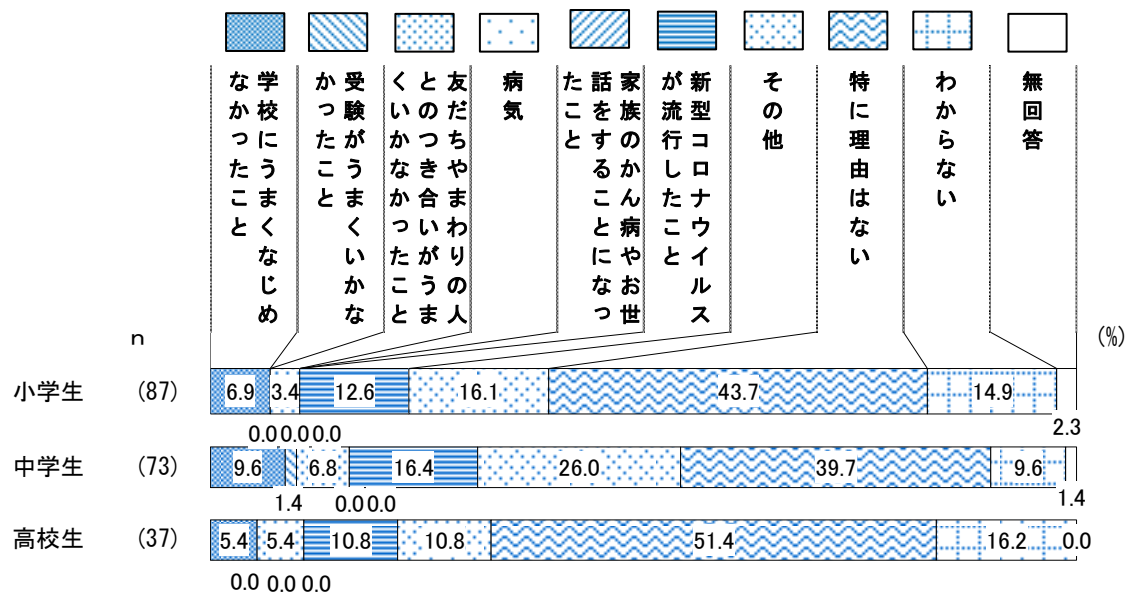
（5）現在の外出状況になった最も大きな理由

※現在の外出状況になってからの期間で「3」～「7」※を選んだ方のみ回答

Q：あなたの外出状況が今ようになった最も大きな理由は何ですか。（○は1つ）

※選択肢	3. 6か月～1年未満	6. 3年～5年未満
	4. 1年～2年未満	7. 5年以上
	5. 2年～3年未満	

外出頻度の低い人のうち、現在の外出状況とになってからの期間が6か月以上であると回答をした人に、今の状況になった理由を聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも「特に理由はない」が最も高く、「わからない」という回答も高くなっています。また、中学生では「新型コロナウイルスが流行したこと」（16.4%）も高くなっています。



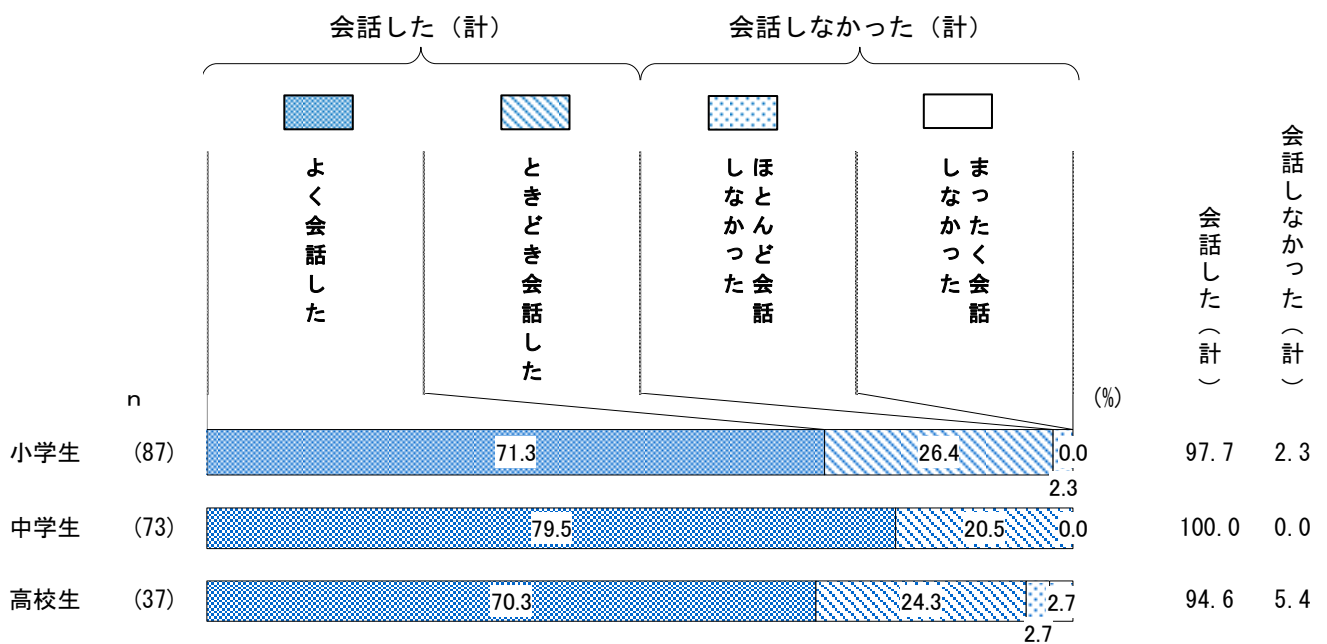
（6）家族以外との会話の状況

※現在の外出状況になってからの期間で「3」～「7」※を選んだ方のみ回答

Q：最近6か月間に、家族以外の人と会話をしましたか。（○は1つ）

※選 択 肢	3. 6か月～1年未満	6. 3年～5年未満
	4. 1年～2年未満	7. 5年以上
	5. 2年～3年未満	

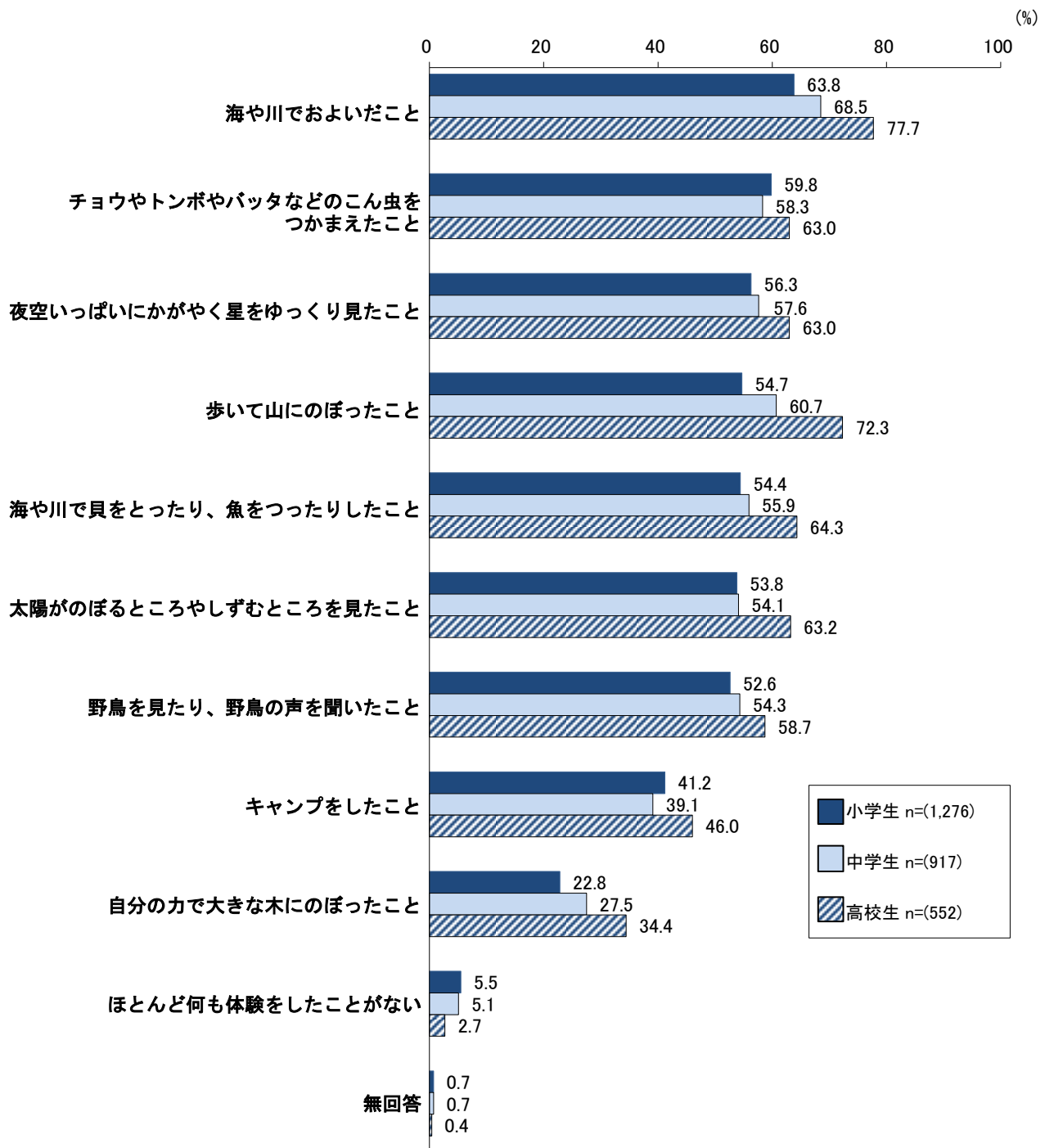
外出頻度の低い人のうち、現在の外出状況となつてからの期間が6か月以上と回答した人に、最近6か月間の家族以外との会話の状況を聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも「よく会話をした」と「ときどき会話をした」を合わせた《会話した 計》は9割以上となっており、中学生（100.0%）では全数を占めています。一方、高校生では「まったく会話をしなかった」（2.7%）も僅かに回答があります。



（7）今までに体験したこと

Q：あなたは、今までに、次のような体験をしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

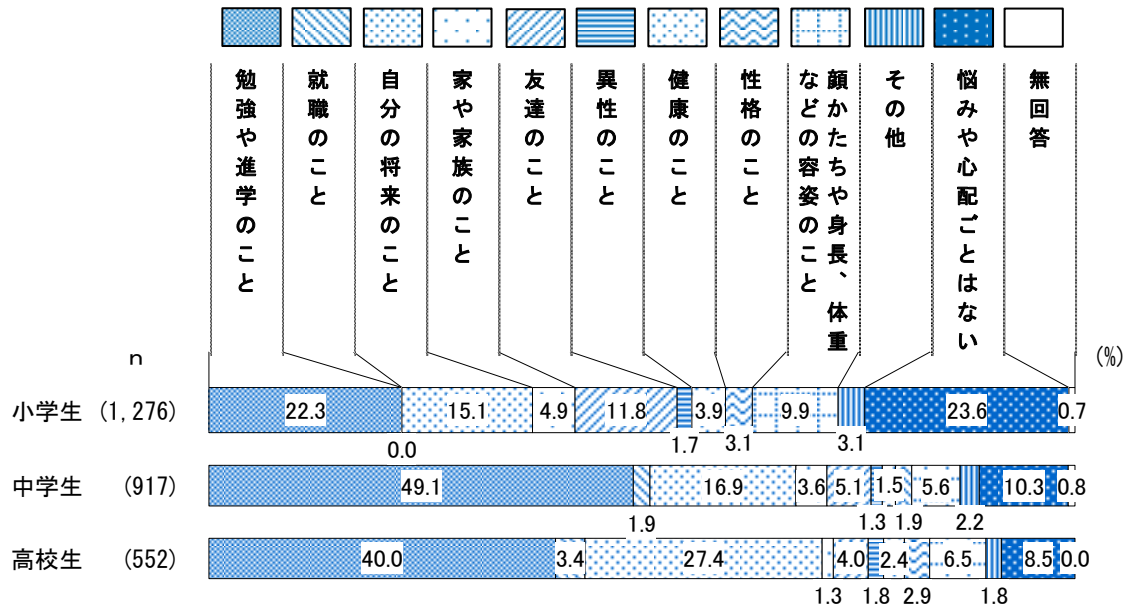
今までに体験したことについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「海や川でおよいだこと」が最も高くなっています。高校生では「歩いて山にのぼったこと」（72.3%）も7割を超えて高くなっています。



（8）悩みや心配ごと

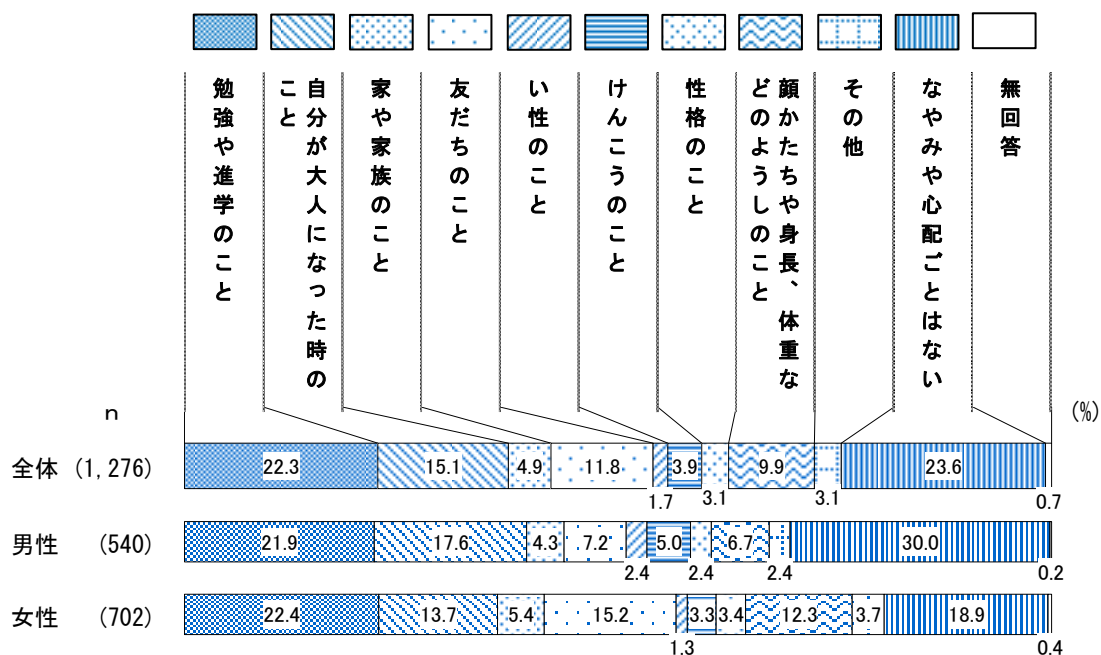
Q：あなたの悩みや心配ごとの中で、最も大きいものを選んでください。（○は1つ）

悩みや心配ごとについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「勉強や進学のこと」が特に高くなっています。なお、小学生では「悩みや心配ごとはない」（23.6%）が最も高くなっています。



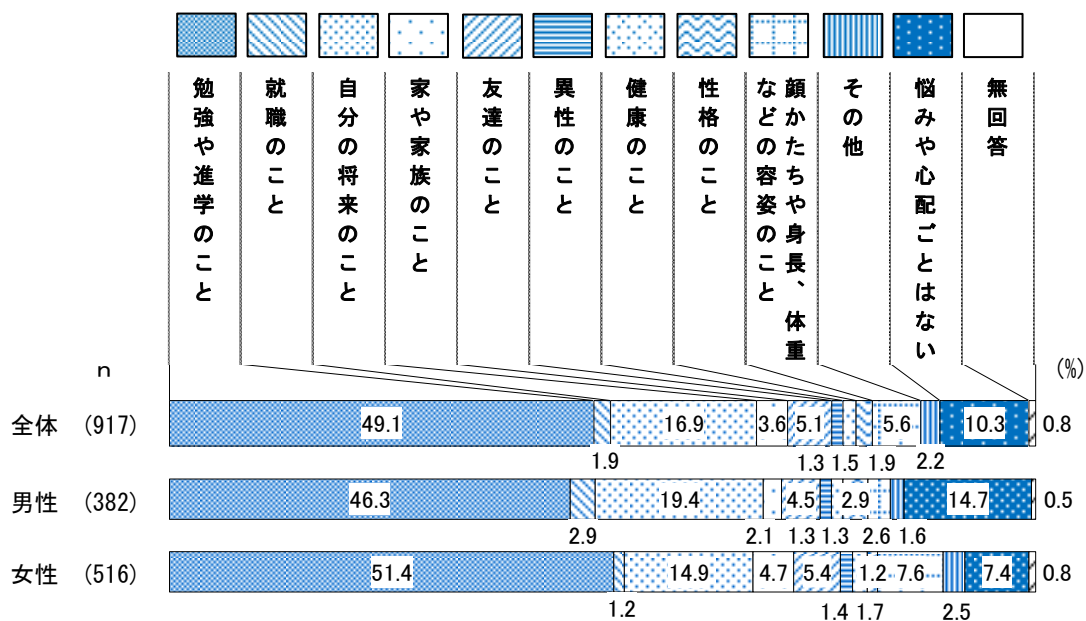
【小学生調査】

悩みや心配ごとを小学生の性別でみると、「友だちのこと」は女性（15.2%）が男性（7.2%）を8.0ポイント、「顔かたちや身長、体重などのようしのこと」は女性（12.3%）が男性（6.7%）を5.6ポイント上回っています。



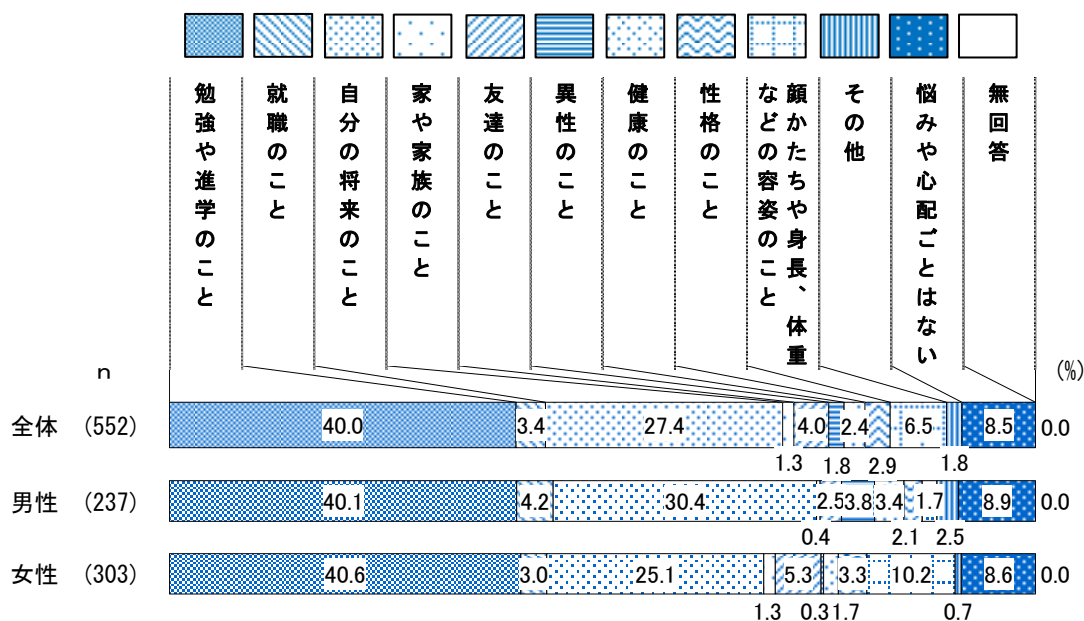
【中学生調査】

悩みや心配ごとを中学生の性別でみると、「勉強や進学のこと」は女性（51.4%）が男性（46.3%）を5.1ポイント、「顔かたちや身長、体重などの容姿のこと」は女性（7.6%）が男性（2.6%）を5.0ポイント上回っています。「自分の将来のこと」は男性（19.4%）が女性（14.9%）を5.0ポイント上回っています。また、「悩みや心配ごとはない」は男性（14.7%）が女性（7.4%）を7.3ポイント上回っています。



【高校生調査】

悩みや心配ごとを高校生の性別でみると、「勉強や進学のこと」は男女ともに4割台となっています。「就職のこと」は男性（30.4%）が女性（25.1%）を5.3ポイント、「顔かたちや身長、体重などの容姿のこと」は女性（10.2%）が男性（1.7%）を8.5ポイント上回っています。

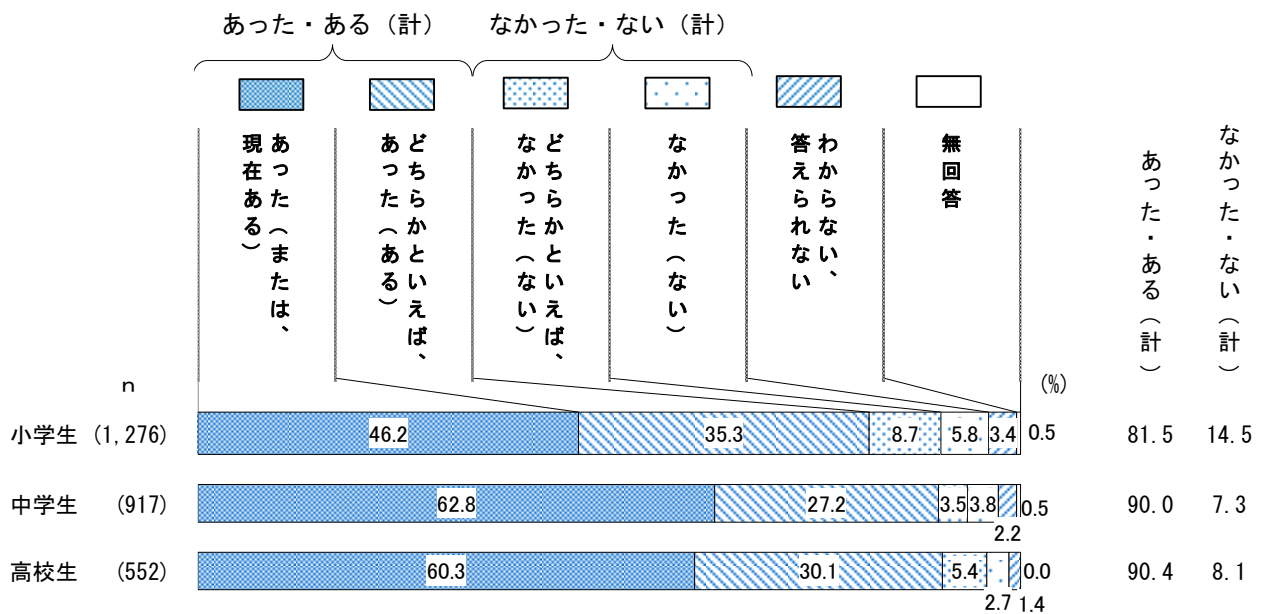


5 経験について

（1）落ち込んだ経験

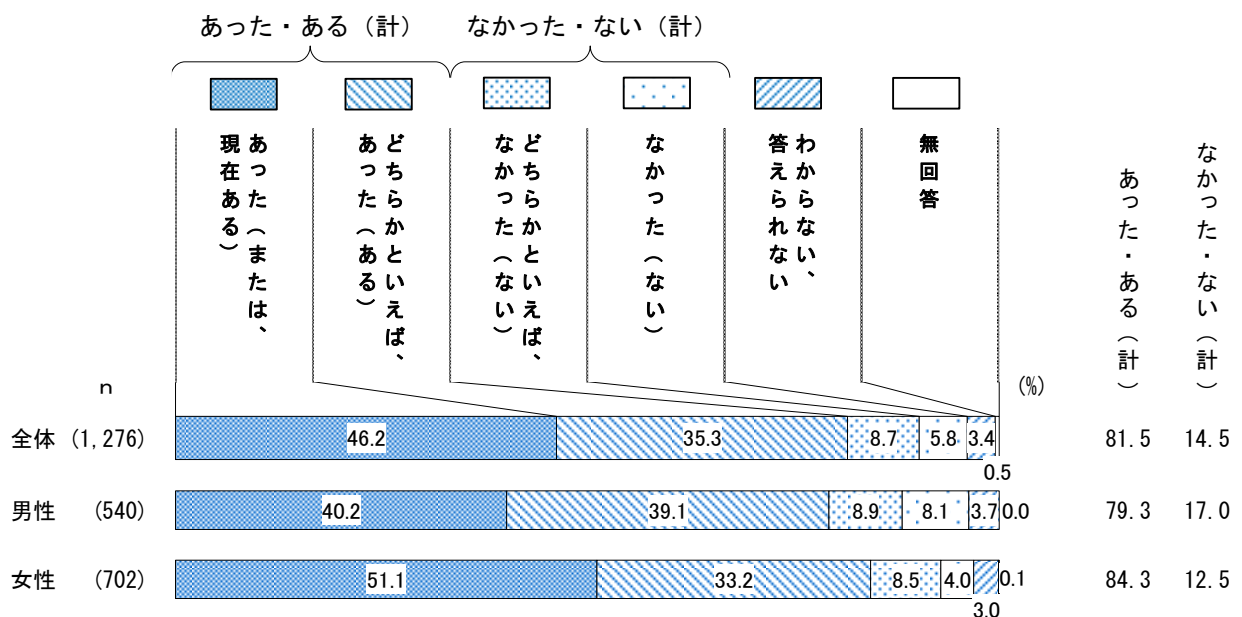
Q：あなたは今までに、ものごとがうまくいかず落ち込んだ経験があったと思いますか。または、現在、ありますか。最もあてはまるものを選んでください。（○は1つ）

今までにものごとがうまくいかず落ち込んだ経験があったかについて、「あった（または、現在ある）」と「どちらかといえば、あった（ある）」を合わせた《あった・ある 計》は中学生（90.0%）と高校生（90.4%）で9割、小学生（81.5%）で8割を超えて高くなっています。



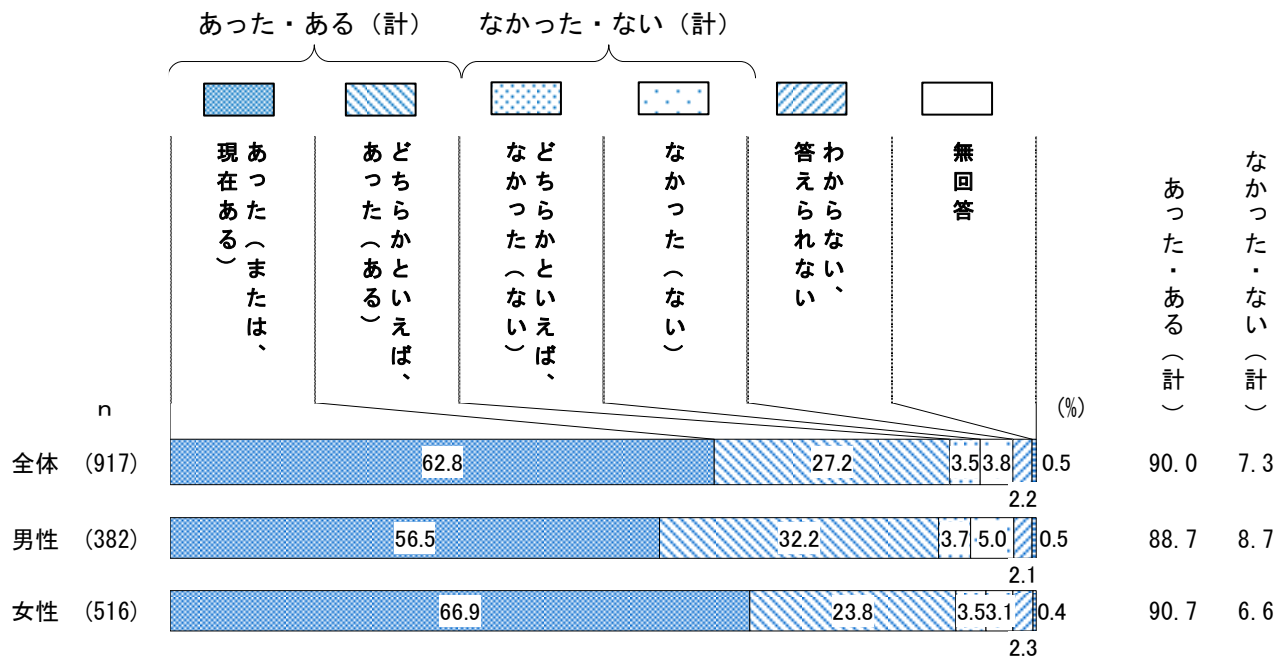
【小学生調査】

落ち込んだ経験を小学生の性別でみると、「あった（または、現在ある）」は女性（51.1%）が男性（40.2%）を10.9ポイント上回っています。《あった・ある 計》でみると、女性（84.3%）が男性（79.3%）を5.0ポイント上回っています。



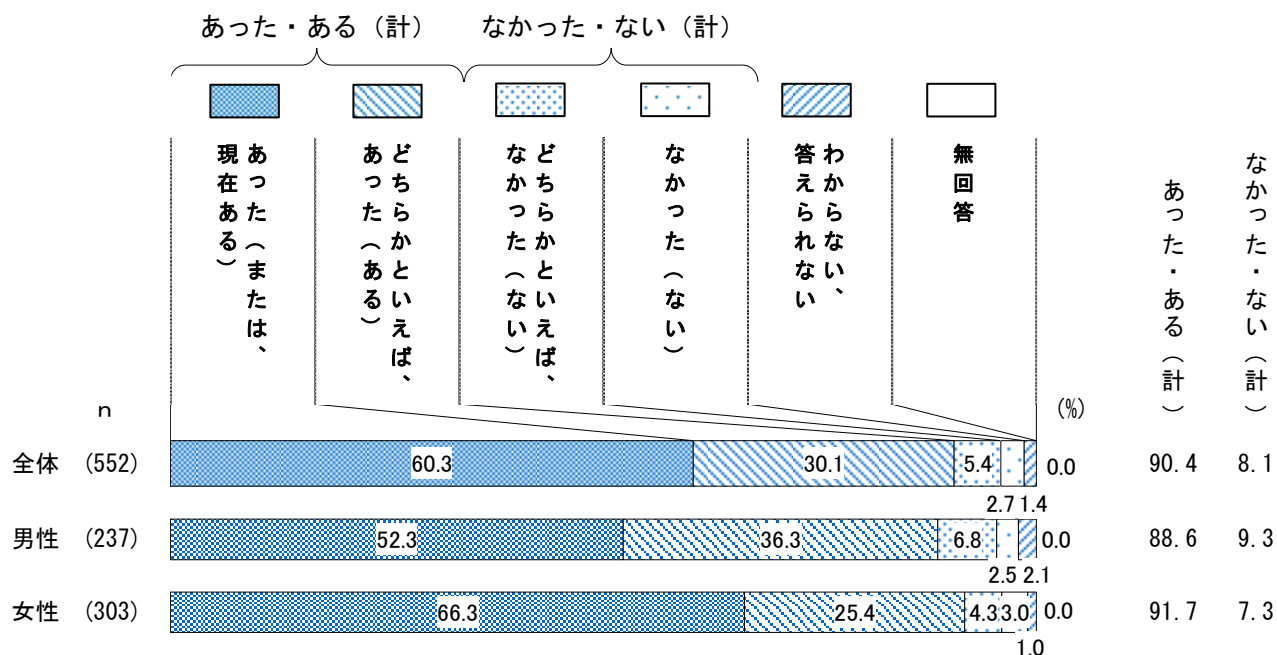
【中学生調査】

落ち込んだ経験を中学生の性別でみると、「あった（または、現在ある）」は女性（66.9%）が男性（56.5%）を10.4ポイント上回っています。《あった・ある 計》でみると、男女ともに9割前後で女性の方が落ち込んだ経験はやや高いものの、大きな違いはみられません。



【高校生調査】

落ち込んだ経験を高校生の性別でみると、「あった（または、現在ある）」は女性（66.3%）が男性（52.3%）を14.0ポイント上回っています。《あった・ある 計》でみると、男女ともに9割前後で女性の方が落ち込んだ経験はやや高いものの、大きな違いはみられません。

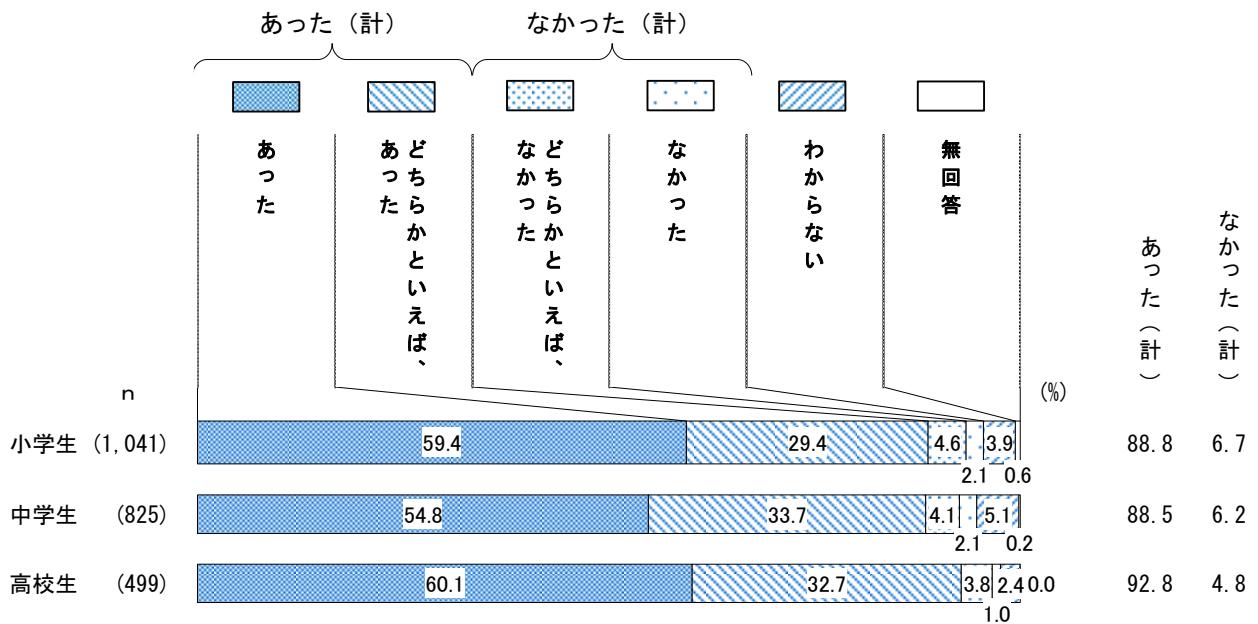


(2) 落ち込んだ状態から元に戻った経験

※落ち込んだ経験で「あった（または、現在ある）」、「どちらかといえば、あった（ある）」を選んだ方のみ回答

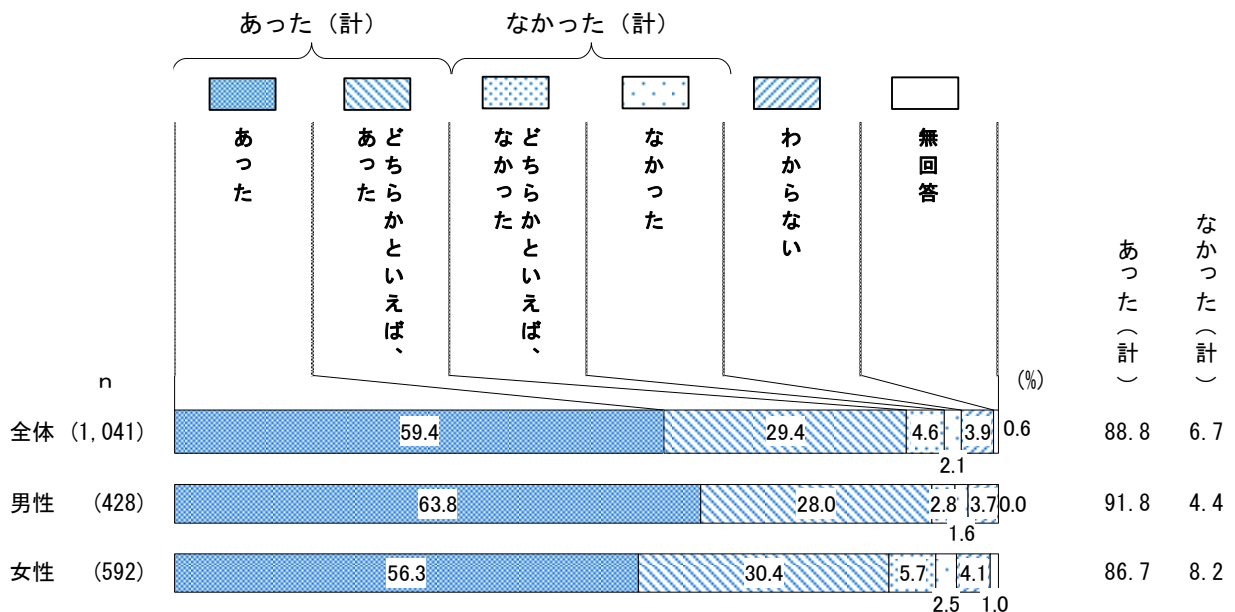
Q：あなたは今までに、ものごとがうまくいかず落ち込んだ状態から元に戻った経験があったと思いますか。最もあてはまるものを選んでください。（○は1つ）

今までにものごとがうまくいかず落ち込んだ状態から元に戻った経験について、「あった」と「どちらかといえば、あった」を合わせた《あった 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも9割前後と高くなっています。



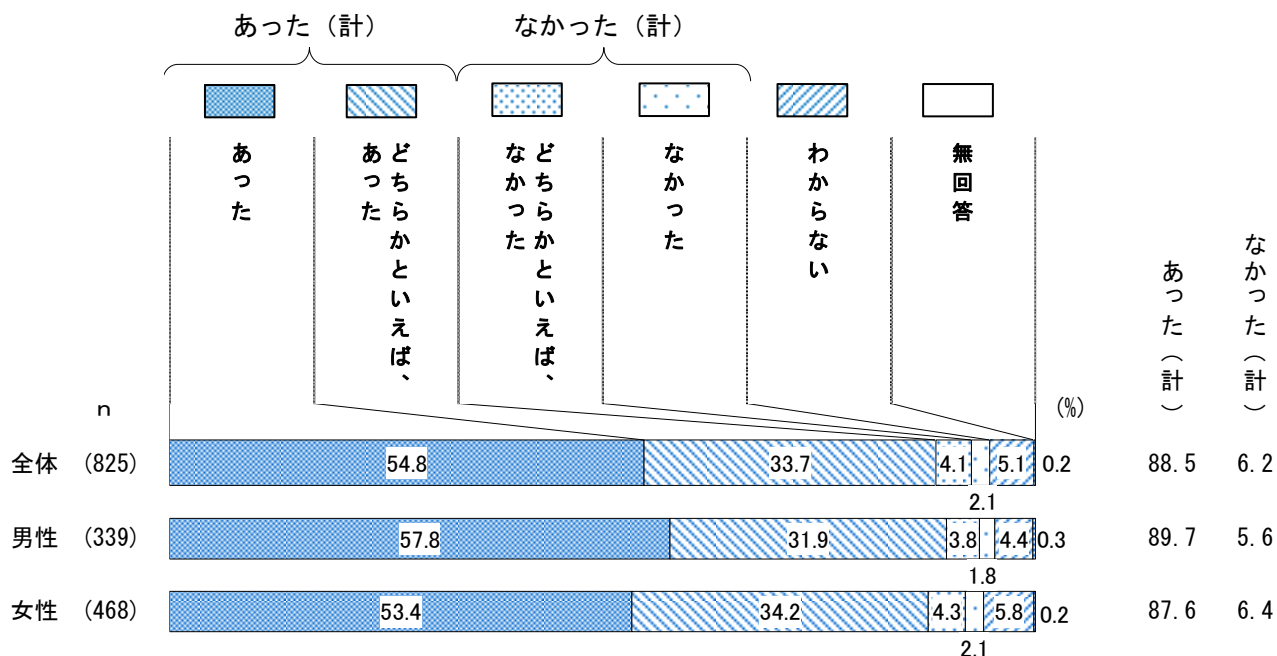
【小学生調査】

落ち込んだ状態から元に戻った経験を小学生の性別でみると、「あった」は男性（63.8%）が女性（56.3%）を7.5ポイント上回っています。《あった 計》でも男性（91.8%）が女性（86.7%）を5.1ポイント上回っています。



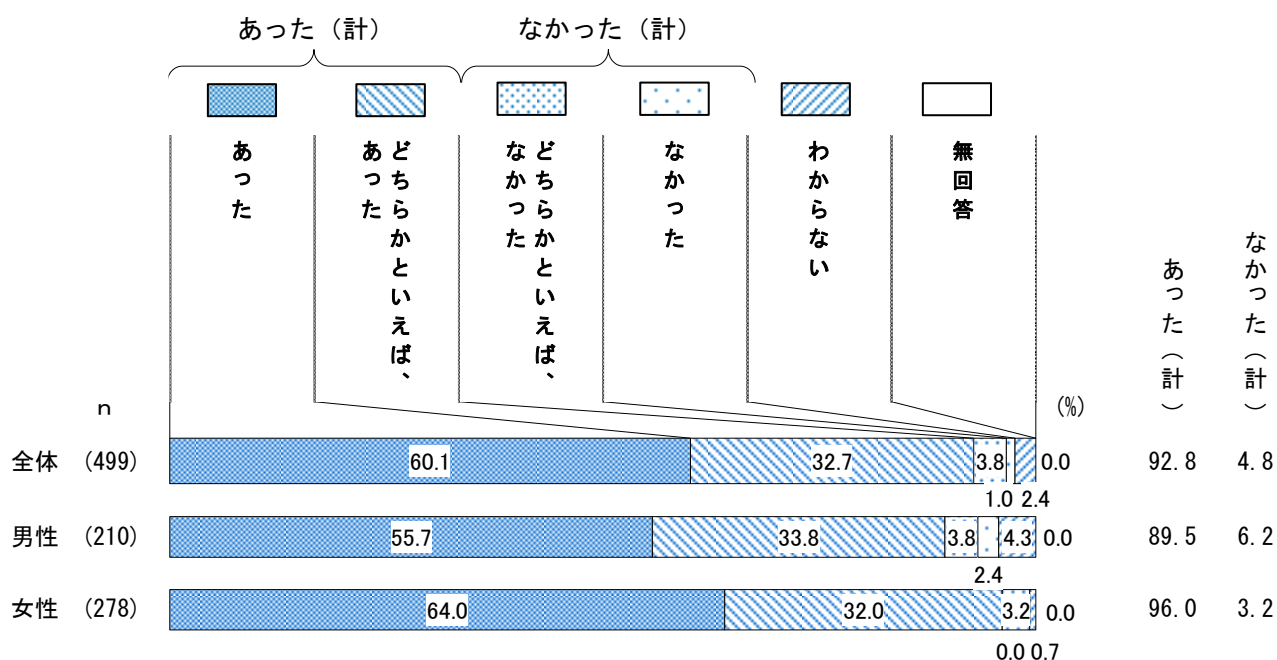
【中学生調査】

落ち込んだ状態から元に戻った経験を中学生の性別でみると、《あった 計》は男女とも8割台で、男性の方が落ち込んだ状態から元に戻った経験はやや高いものの、大きな違いはみられません。



【高校生調査】

落ち込んだ状態から元に戻った経験を高校生の性別でみると、「あった」は女性（64.0%）が男性（55.7%）を8.3ポイント上回っています。《あった 計》でも女性（96.0%）が男性（89.5%）を6.5ポイント上回っています。

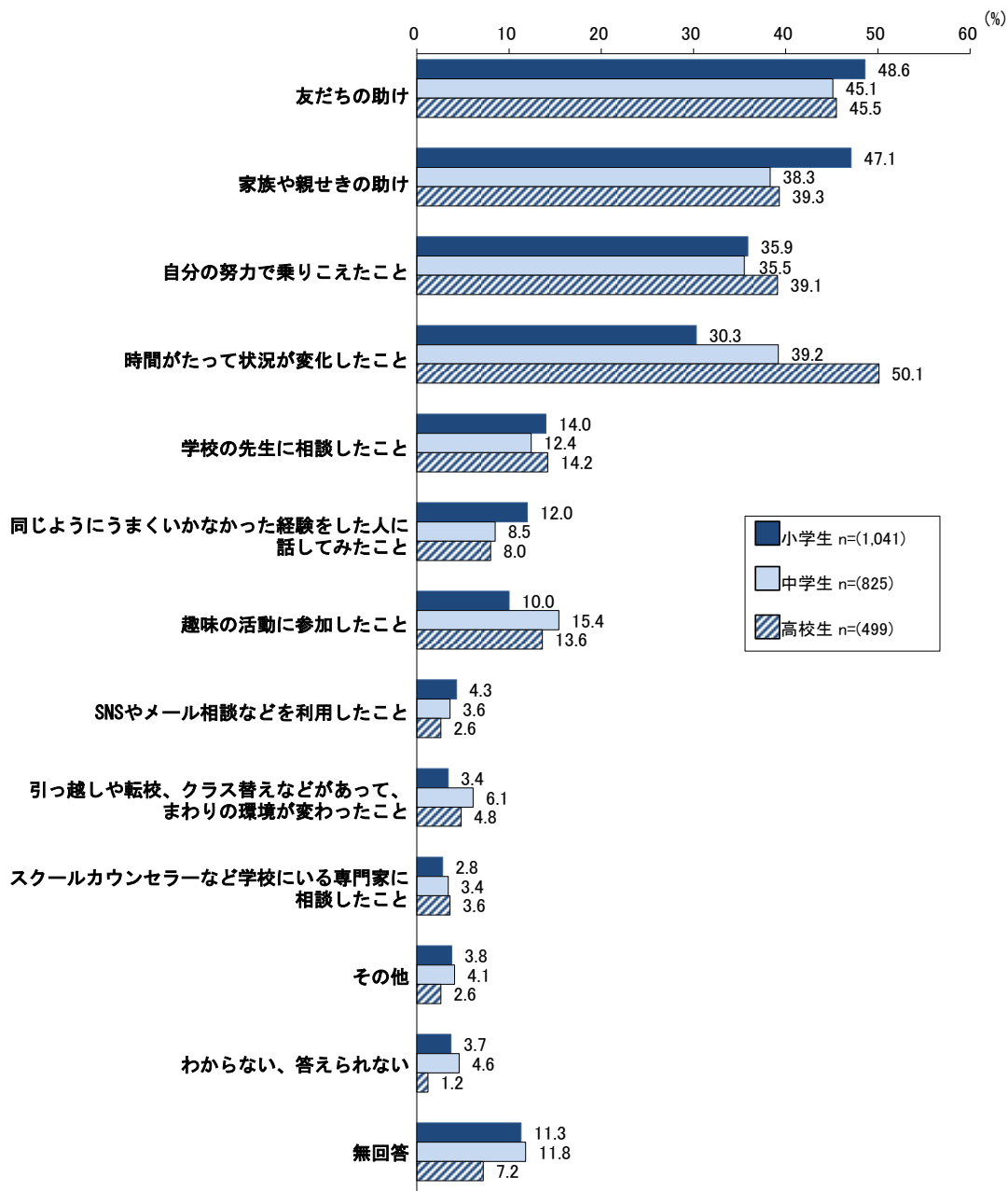


（3）落ち込んだ状態から元に戻ったきっかけ

※落ち込んだ状態から元に戻った経験で「あった」、「どちらかといえば、あった」を選んだ方のみ回答

Q：落ち込んだ状態から元に戻ったのは、どのようなことがきっかけだったと思いますか。（〇はいくつでも）

落ち込んだ状態から元に戻ったきっかけについて、小学生、中学生では「友だちの助け」（小学生48.6%、中学生45.1%）、高校生では「時間がたって状況が変化したこと」（50.1%）が最も高くなっています。



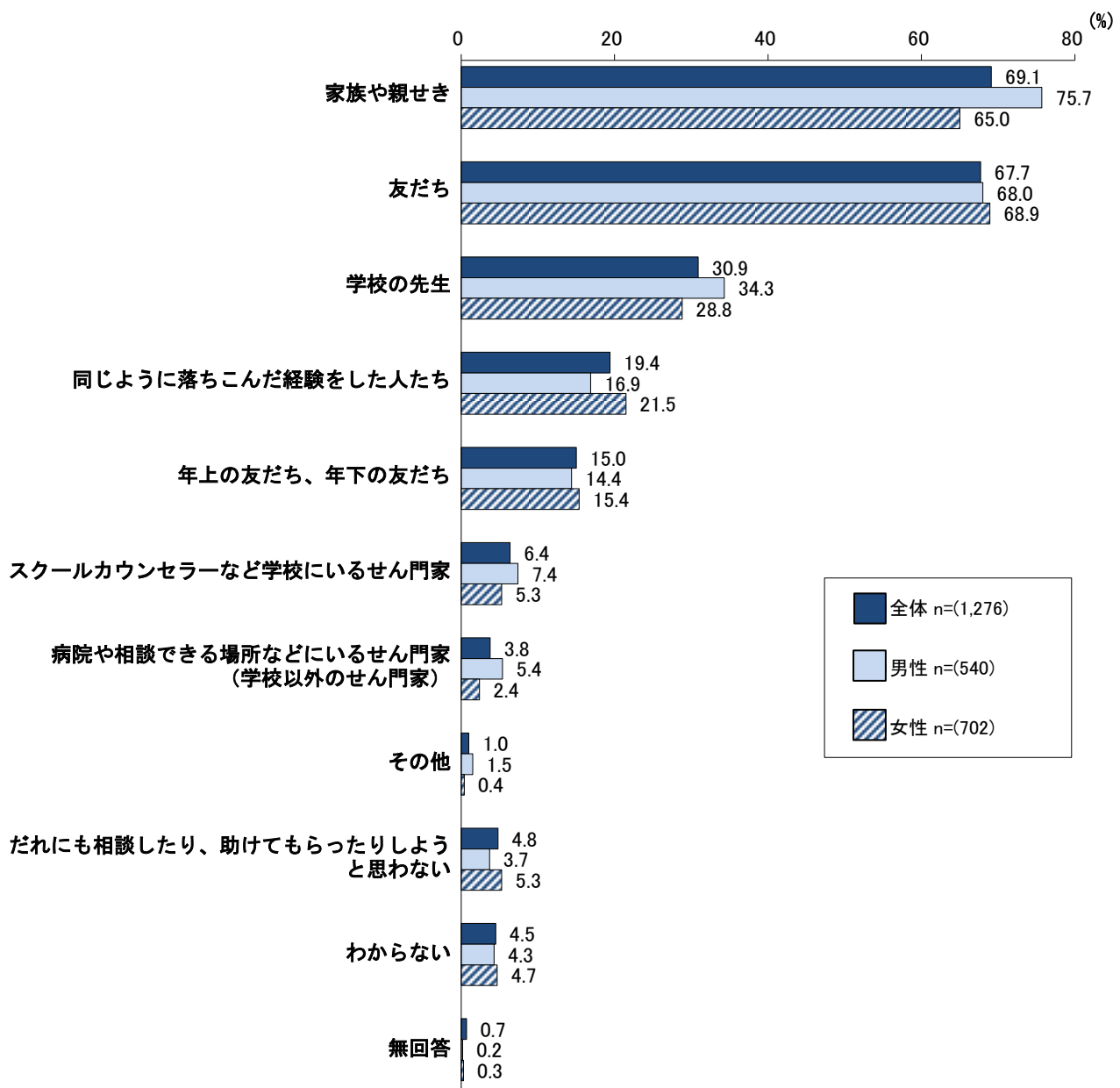
（４）落ち込んだときの相談相手

Q：あなたが、ものごとがうまくいかず落ち込んだときに、どういった人なら、相談したり、助けてもらったりしやすいと感じますか。あてはまるものすべてを選んでください。（○はいくつでも）

【小学生調査】

落ち込んだときの相談相手について、小学生の全体は、「家族や親せき」（69.1%）、「友だち」（67.7%）が約7割で高くなっており、次いで「学校の先生」（30.9%）、「同じように落ちこんだ経験をした人たち」（19.4%）と続きます。

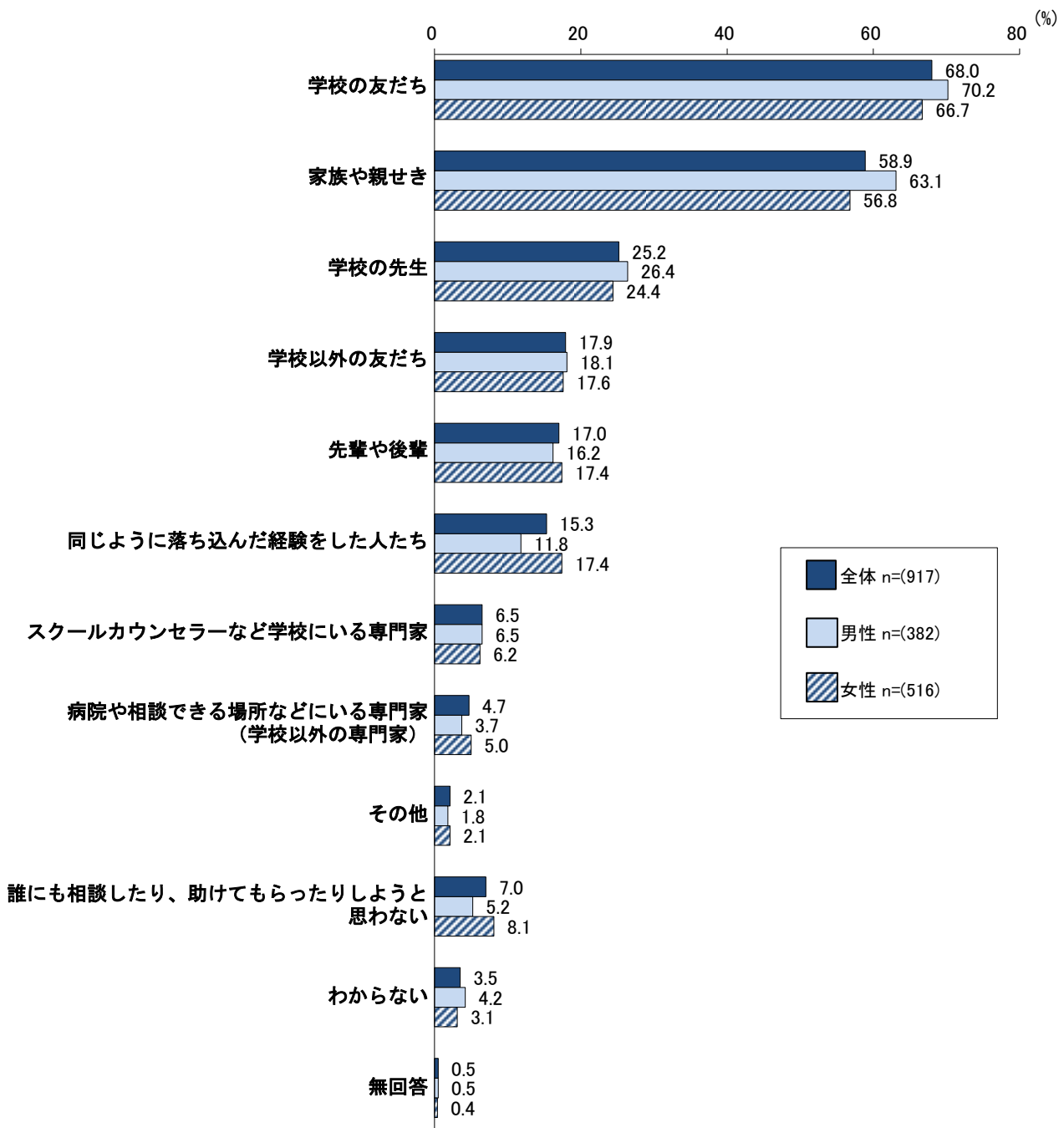
性別でみると、男性では「家族や親せき」（75.7%）、女性では「友だち」（68.9%）が最も高くなっています。



【中学生調査】

落ち込んだときの相談相手について、中学生の全体は、「学校の友だち」（68.0％）が最も高く、次いで「家族や親せき」（58.9％）、「学校の先生」（25.2％）、「学校以外の友だち」（17.9％）と続きます。

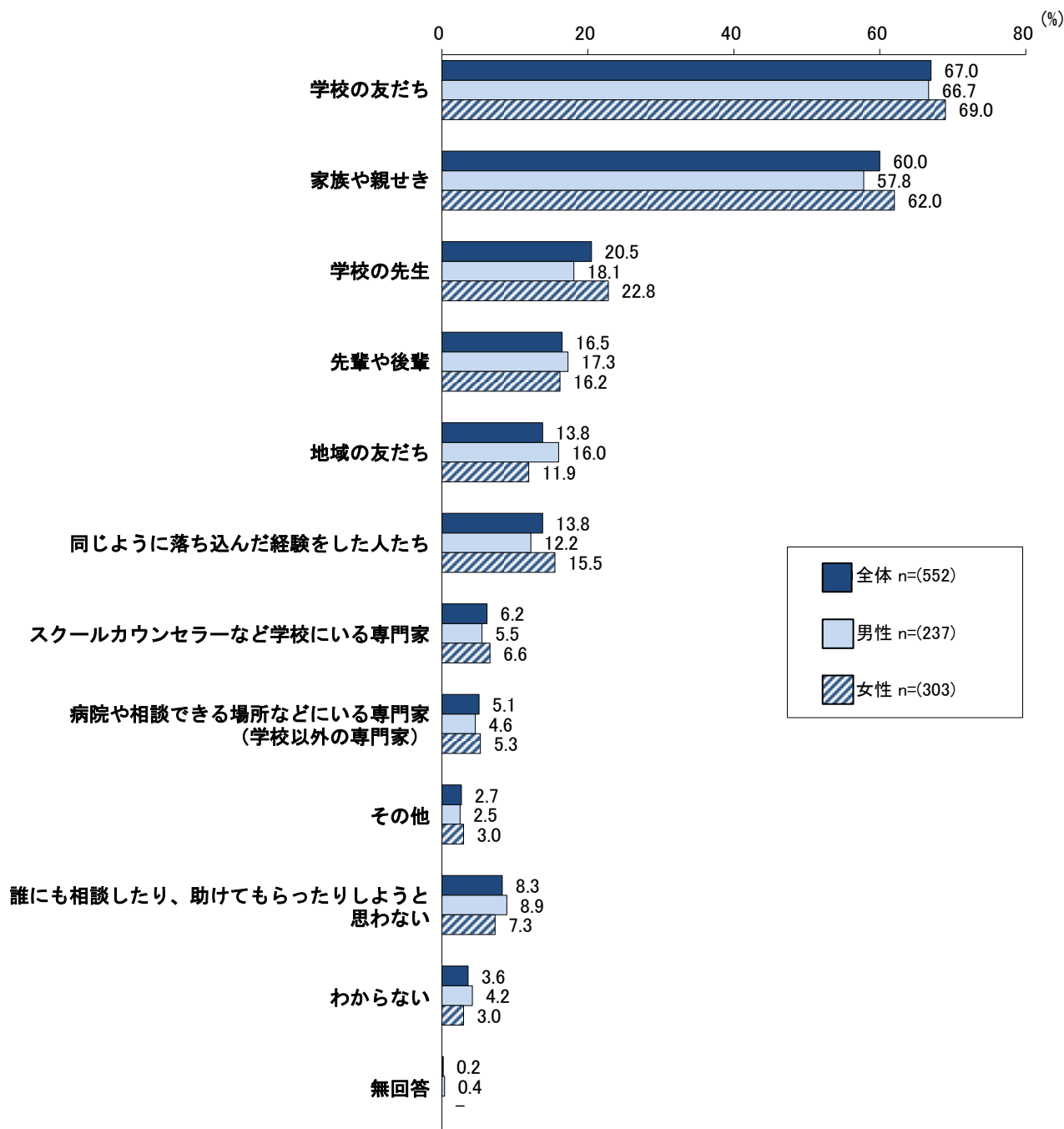
性別でみると、男女ともに「学校の友だち」が最も高く、「家族や親せき」は男性（63.1％）が女性（56.8％）を6.3ポイント上回っています。



【高校生調査】

落ち込んだときの相談相手について、高校生の全体は、「学校の友だち」（67.0％）が最も高く、次いで「家族や親せき」（60.0％）、「学校の先生」（20.5％）、「先輩や後輩」（16.5％）と続きます。

性別で見ると、男女ともに「学校の友だち」が最も高く、「学校の先生」は女性（22.8％）が男性（18.1％）を4.7ポイント上回っています。

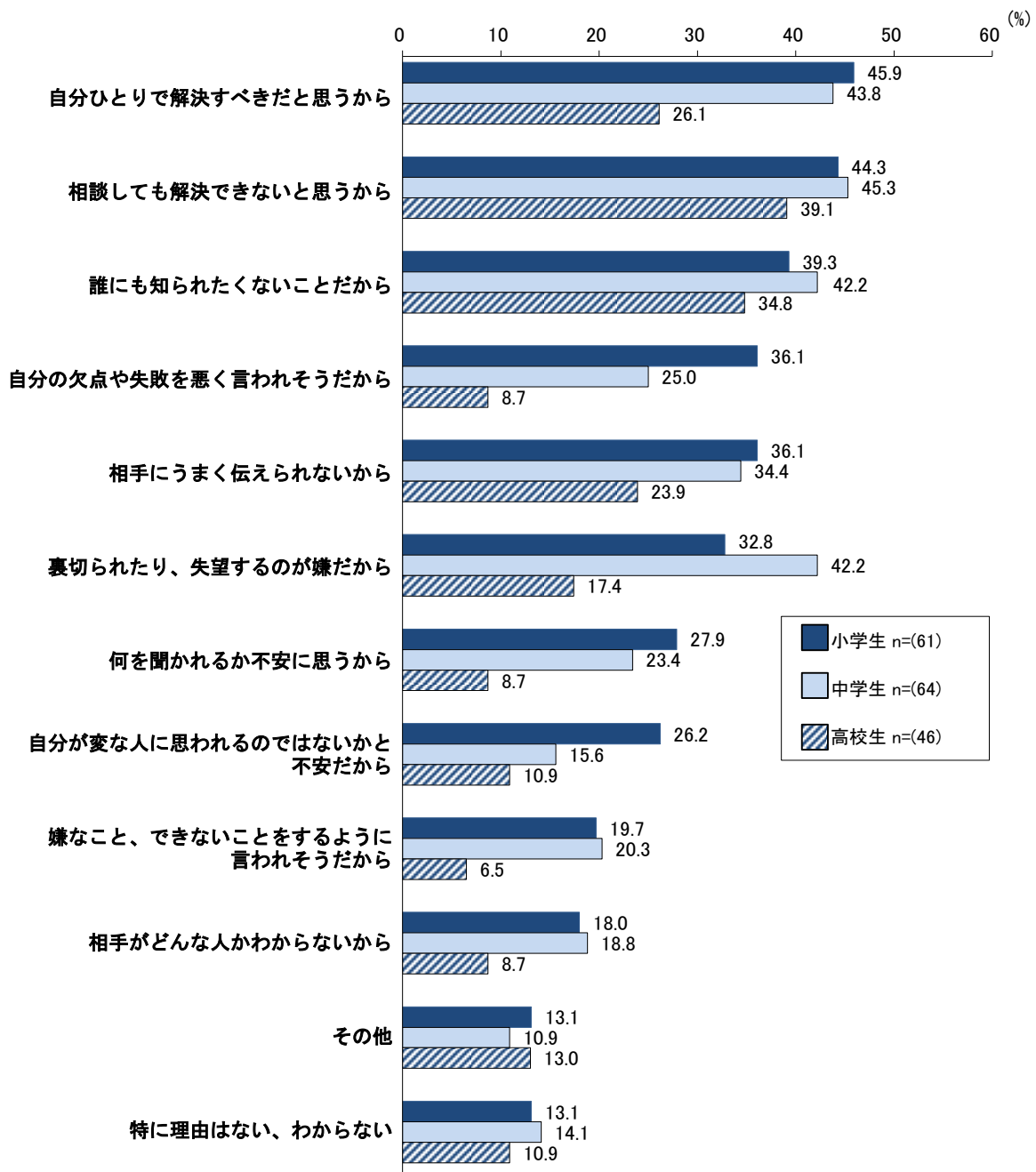


（5）相談しようと思わない理由

※落ち込んだときの相談相手で「誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」を選んだ方のみ回答

Q：「誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」の理由をお答えください。（○はいくつでも）

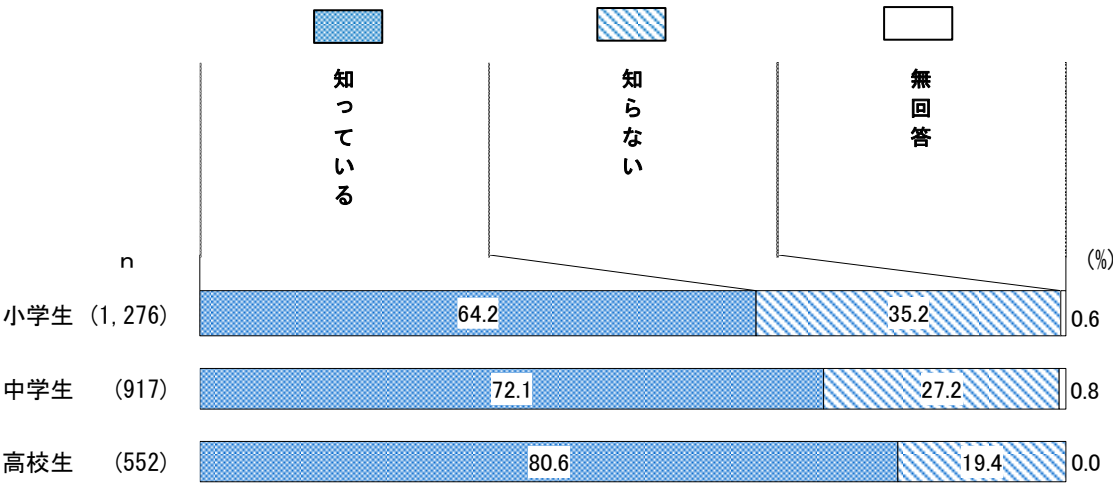
「誰にも相談したくない」と答えた人の理由は、小学生は「自分ひとりで解決すべきだと思うから」（45.9%）、中学生と高校生は「相談しても解決できないと思うから」（中学生45.3%、高校生39.1%）が特に高くなっています。



（6）相談場所の認知度

Q：あなたは、家庭や学校以外で、悩みや困りごとなどを相談できる場所があることを知っていますか。（○は1つ）

悩みや困りごとの認知度について、「知っている」は小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて割合は増加しており、高校生では8割となっています。



6 人とのつながりについて

<孤独の把握方法>

本調査では、孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、2種類の設問を採用しています。

①間接質問

「UCLA孤独感尺度」の日本語版3項目短縮版に基づく質問であり、3つの設問への回答を点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価している。「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査では「間接質問」と呼称する。

ア) 自分には話せる人がいないとすることがある

1 まったくない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 いつもある

イ) 自分はまわりから、取りのこされているとすることがある

1 まったくない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 いつもある

ウ) 自分はひとりぼっちだとすることがある

1 まったくない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 いつもある

②直接質問

孤独感を直接的に質問。この調査では「直接質問」と呼称する。

（参考）UCLA孤独感尺度

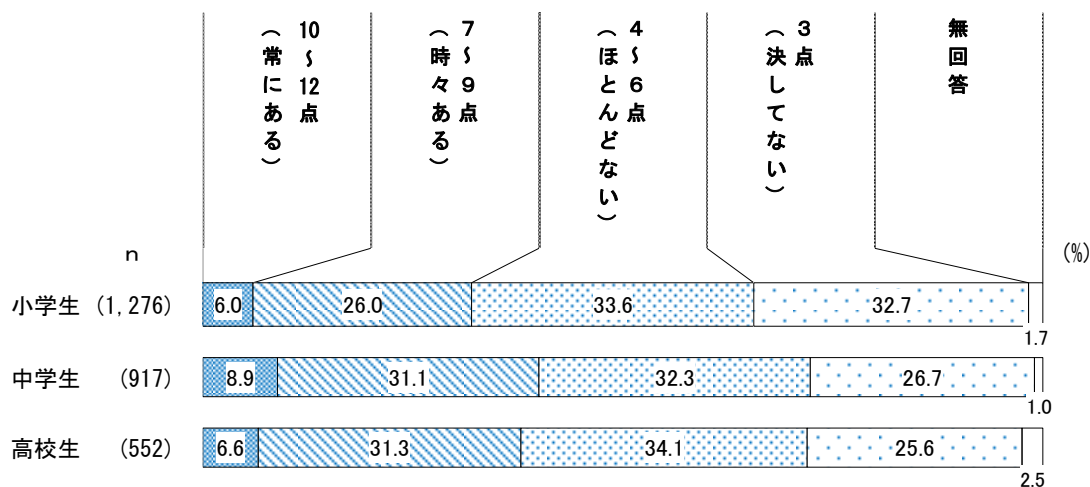
カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の研究者が孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定しようと考案したもの。本調査では上記の3項目の設問について、それぞれ**4つの回答選択肢（4件法）を設定**。「まったくない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「いつもある」を4点とし、その合計スコアにより孤独感の高さを測定。なお、調査によって尺度がアレンジされることがあり、英国では「しばしばある」（3点）、「時々ある」（2点）、「ほとんど・決してない」（1点）の3つの回答選択肢（3件法）を設定。

（1）孤独感（間接質問）

以下のア) からウ) の項目について、あなたはどのくらいよく感じていますか。（○は1つ）

※項目	
ア) 自分には話せる人がいないと感ずることがある	
イ) 自分はまわりから、取りのこされていると感ずることがある	
ウ) 自分はひとりぼっちだと感ずることがある	

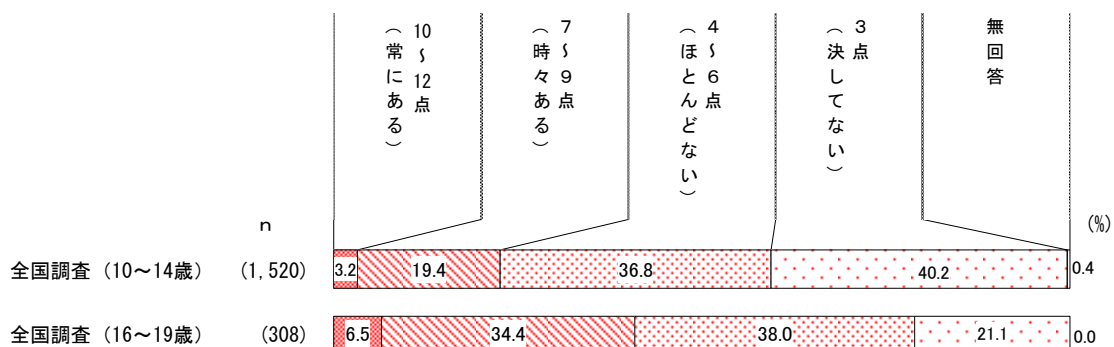
「UCLA孤独感尺度」に基づく孤独感スコアでは、「10～12点（常にある）」は中学生がやや高く8.9%、「7～9点（時々ある）」は中学生、高校生が3割を超えています。一方、「3点（決してない）」は小学生で32.7%と高くなっています。



全国調査※との比較

全国調査の合計スコアが「10～12点」の人は、10～14歳では3.2%、16～19歳では6.5%となっており、市調査において調査年齢に近い小学生（6.0%）、中学生（8.9%）は全国調査より割合が高く、高校生（6.6%）はほぼ同率です。

また、全国調査で「3点」の人は、10～14歳では40.2%、16～19歳では21.1%となっており、市調査の小学生（32.7%）、中学生（26.7%）は全国調査より低くなっています。市調査の高校生（25.6%）は全国調査より高くなっています。

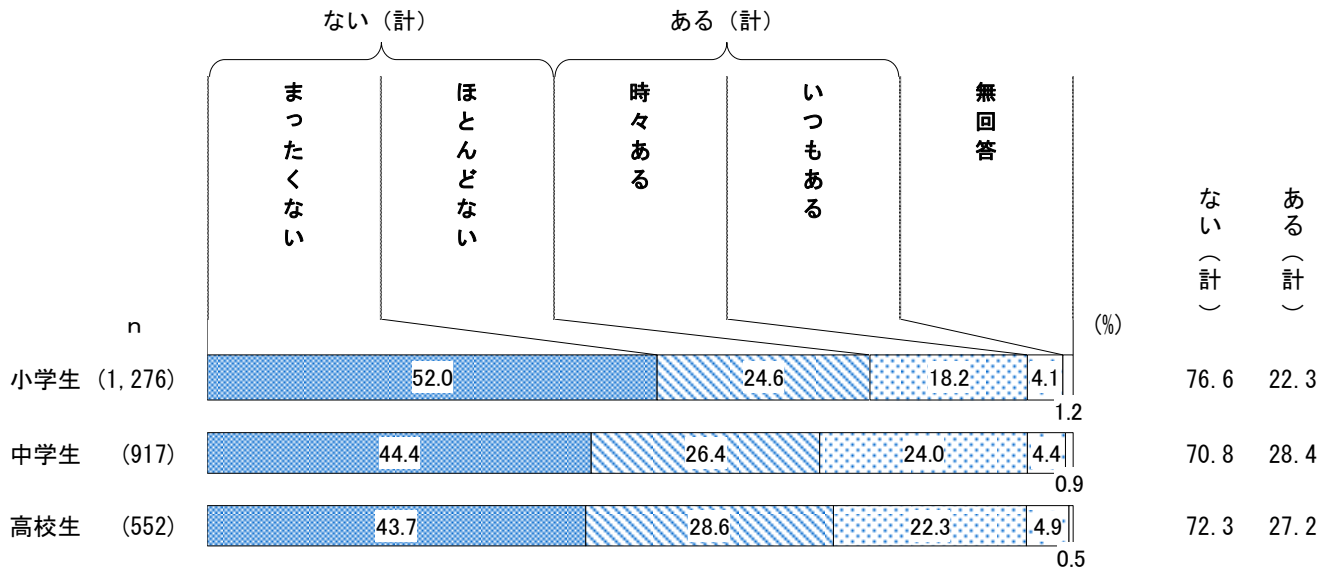


※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

※内閣官房孤独・孤立対策担当室 人々のつながりに関する基礎調査（令和5年度） / 16歳～19歳集計結果

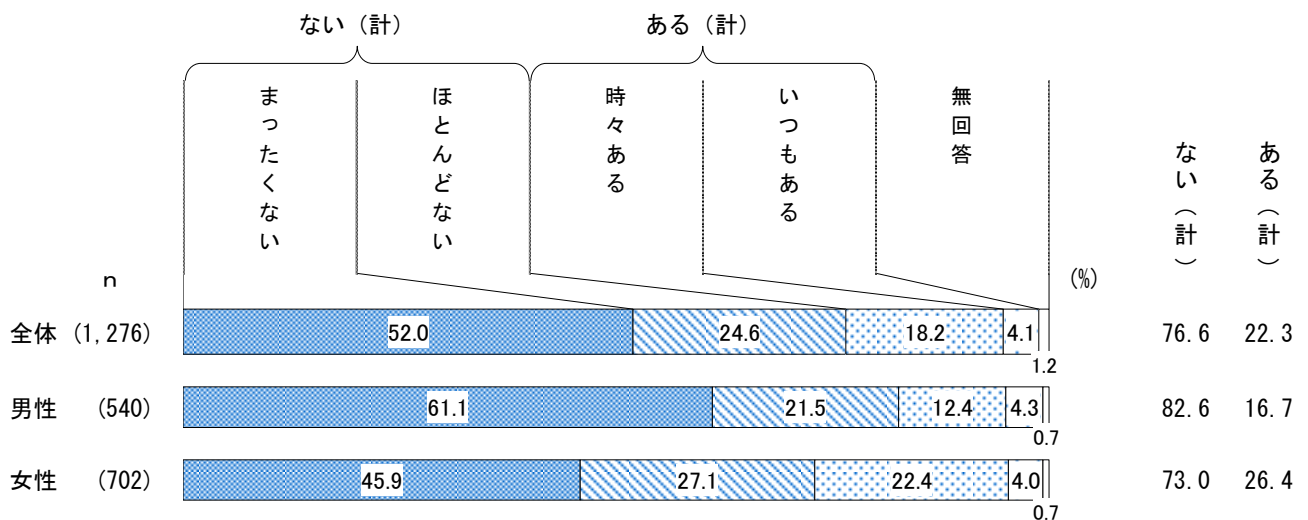
ア) 自分には話せる人がいないと感じることがある

自分には話せる人がいないと感じることがあるかについて、「いつもある」と「時々ある」を合わせた《ある 計》は中学生（28.4%）と高校生（27.2%）で約3割となっています。



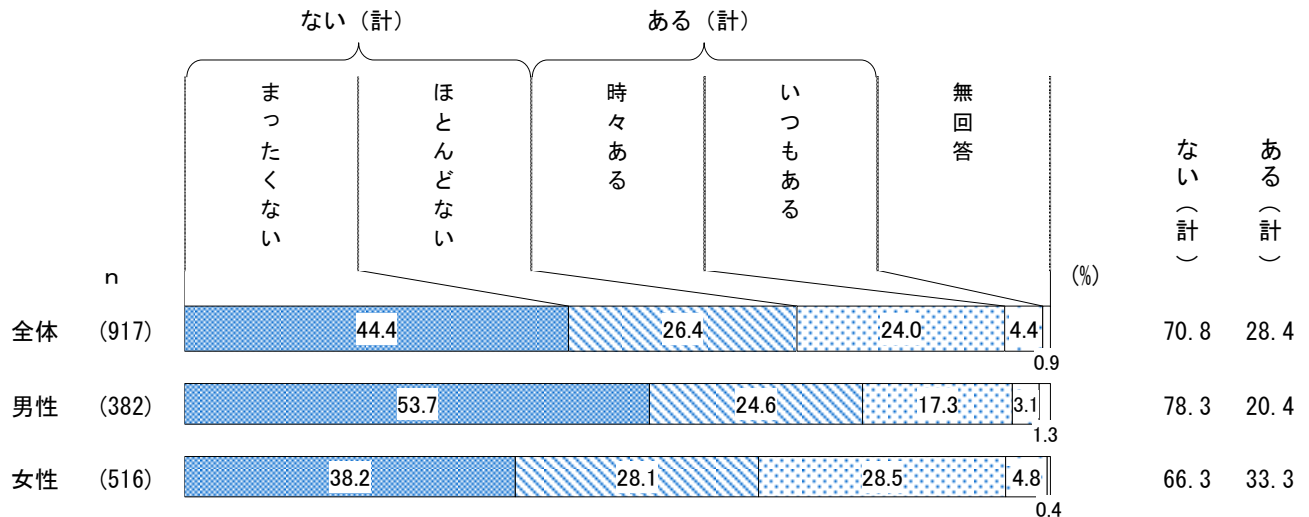
【小学生調査】

自分には話せる人がいないと感じるかを小学生の性別でみると、《ある 計》は女性（26.4%）が男性（16.7%）を9.7ポイント上回っています。一方、「まったくない」は男性（61.1%）が女性（45.9%）を15.2ポイント上回っています。



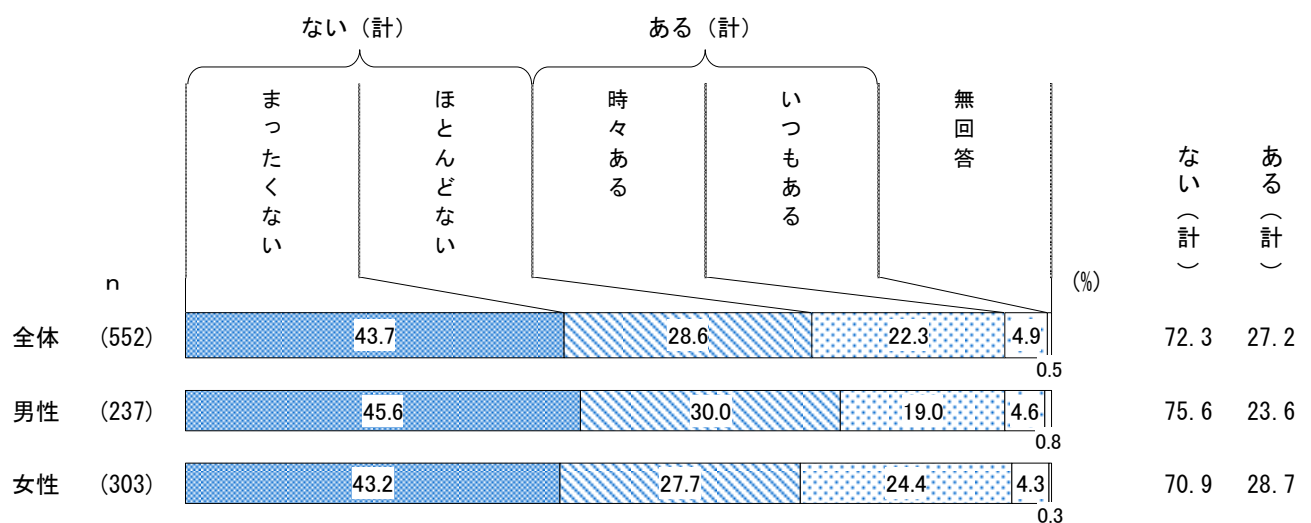
【中学生調査】

自分には話せる人がいないと感じるかを中学生の性別でみると、《ある 計》は女性（33.3%）が男性（20.4%）を12.9ポイント上回っています。一方、「まったくない」は男性（53.7%）が女性（38.2%）を15.5ポイント上回っています。



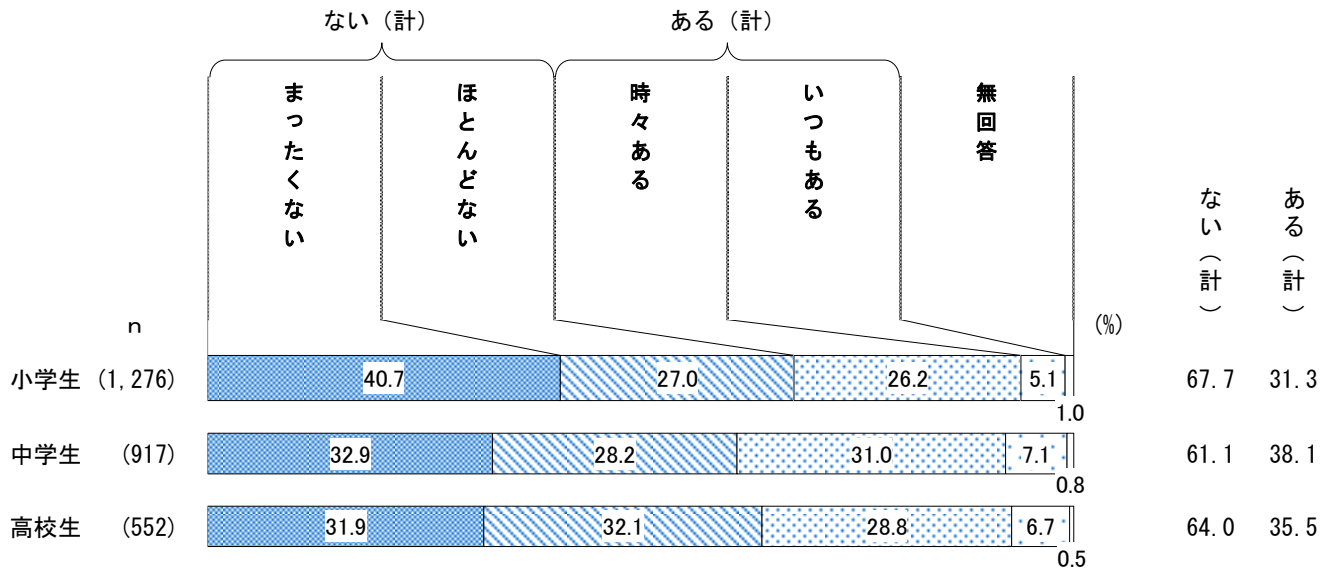
【高校生調査】

自分には話せる人がいないと感じるかを高校生の性別でみると、《ある 計》は男女ともに2割台となっており、女性の方がやや高いものの大きな違いはみられません。



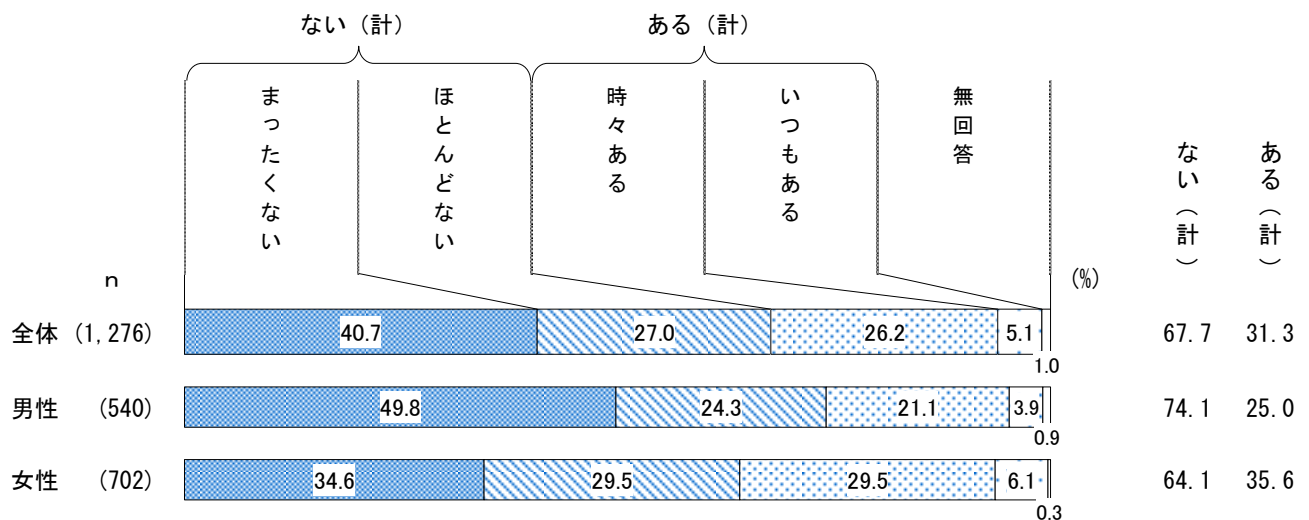
イ) 自分はまわりから、取りのこされていると感じることがある

自分はまわりから、取りのこされていると感じることがあるかについて、「いつもある」と「時々ある」を合わせた《ある 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも3割台となっており、特に中学生が38.1%と高くなっています。



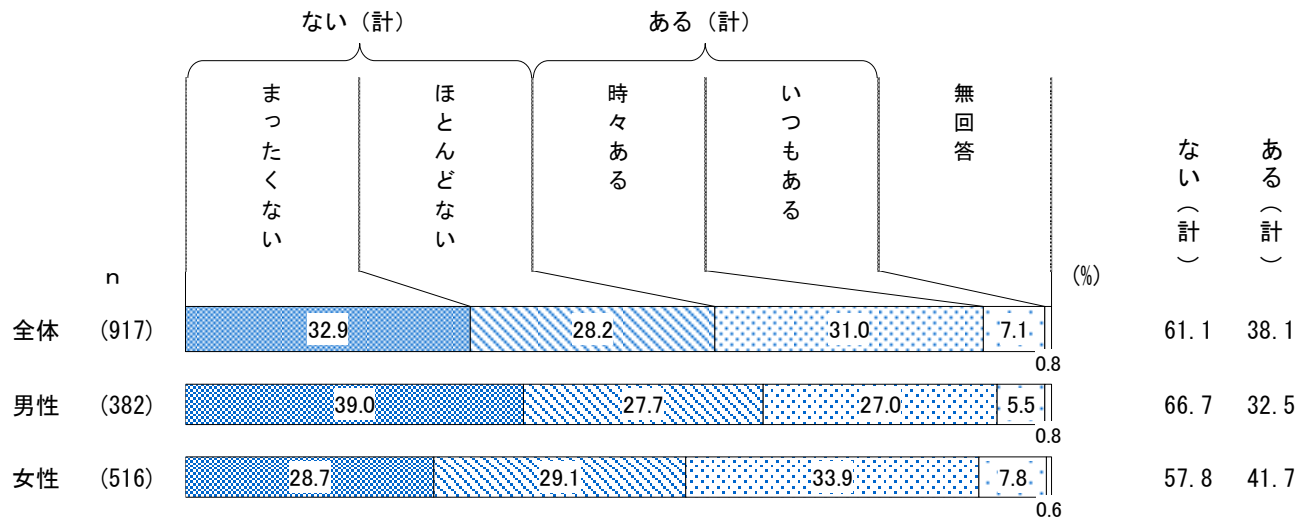
【小学生調査】

自分はまわりから、取りのこされていると感じるかを小学生の性別でみると、《ある 計》は女性（35.6%）が男性（25.0%）を10.6ポイント上回っています。一方、「まったくない」は男性（49.8%）が女性（34.6%）を15.2ポイント上回っています。



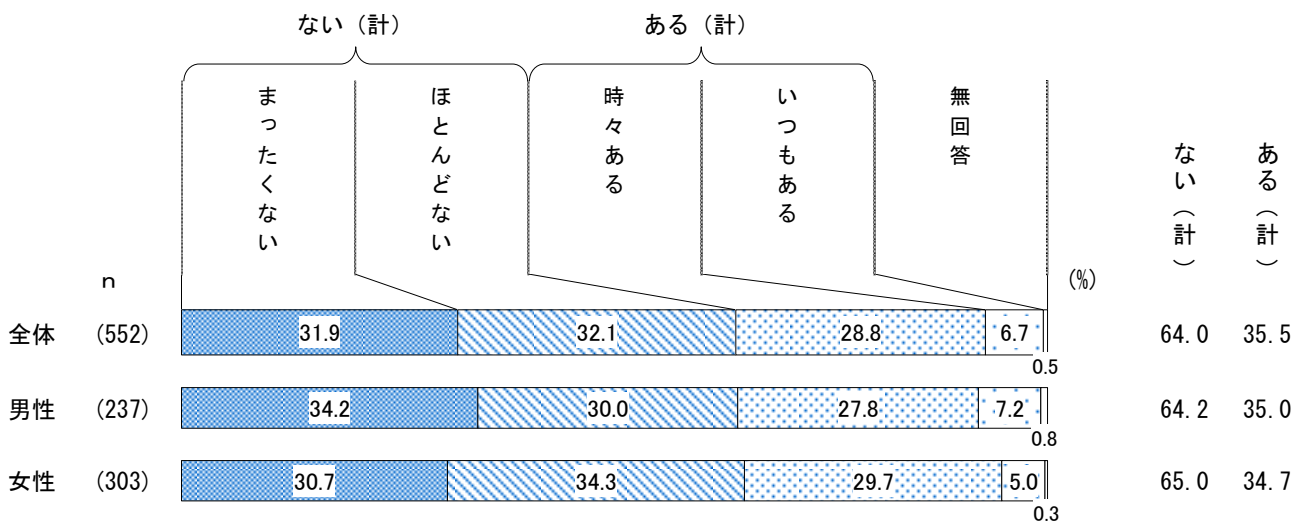
【中学生調査】

自分はまわりから、取りのこされていると感じるかを中学生の性別でみると、《ある 計》は女性（41.7％）が男性（32.5％）を9.2ポイント上回っています。一方、「まったくない」は男性（39.0％）が女性（28.7％）を10.3ポイント上回っています。



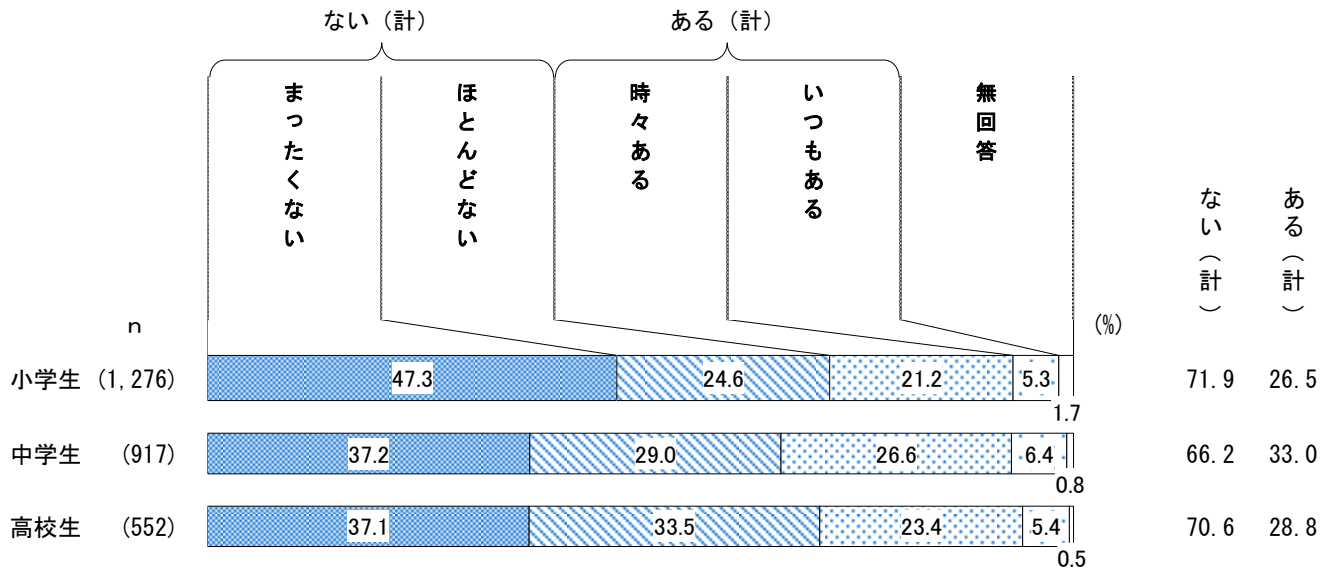
【高校生調査】

自分はまわりから、取りのこされていると感じるかを高校生の性別でみると、《ある 計》は男女ともに3割台半ばとなっており、大きな違いはみられません。



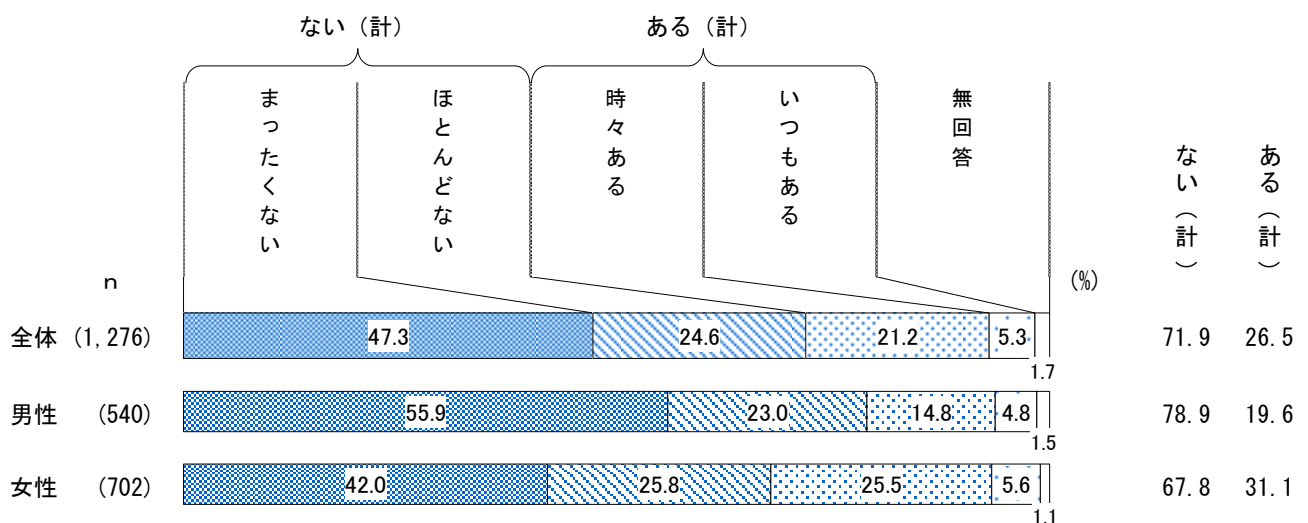
ウ) 自分はひとりぼっちだと感じることもある

自分はひとりぼっちだと感じるかどうかについて、「いつもある」と「時々ある」を合わせた《ある 計》は中学生（33.0%）が3割台半ばと特に高くなっています。



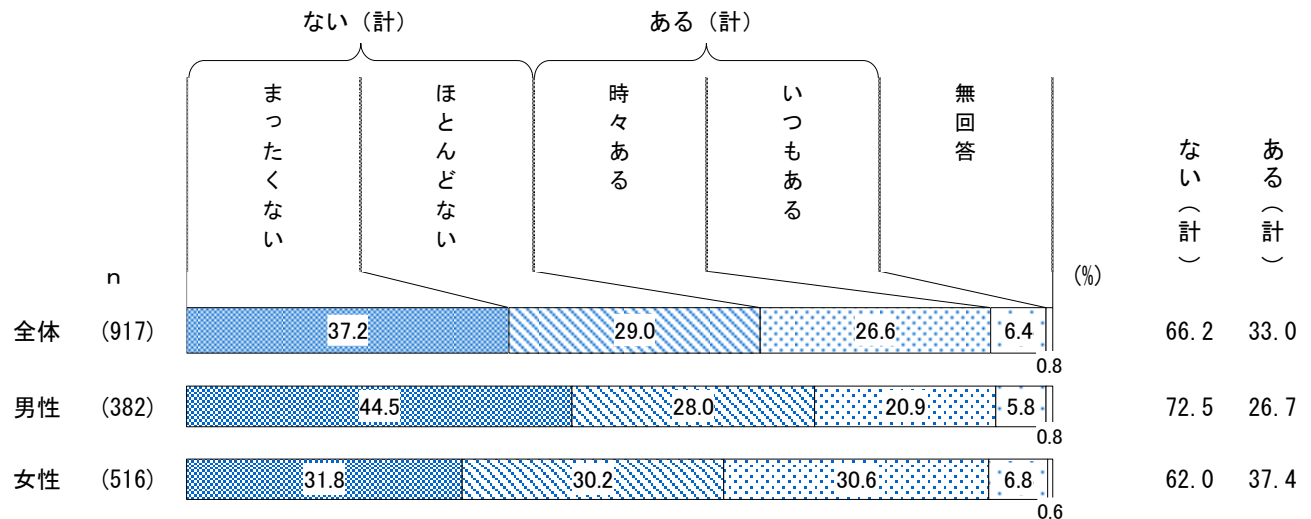
【小学生調査】

自分はひとりぼっちだと感じるかを小学生の性別でみると、《ある 計》は女性（31.1%）が男性（19.6%）を11.5ポイント上回っています。「まったくない」は男性（55.9%）が女性（42.0%）を13.9ポイント上回っています。



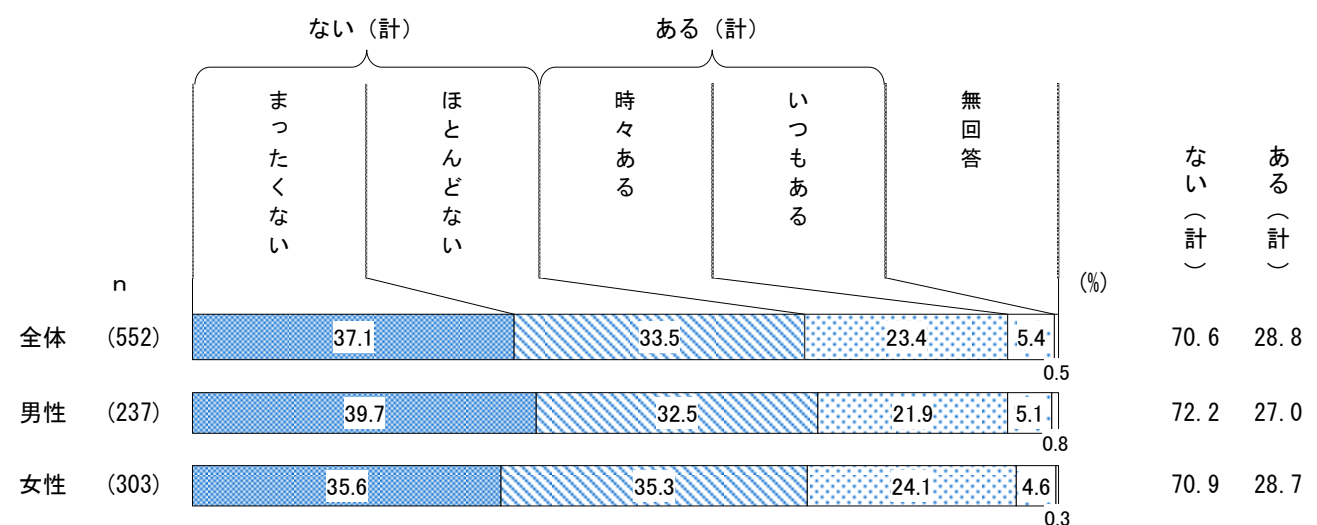
【中学生調査】

自分はひとりぼっちだと感じるかを中学生の性別でみると、《ある 計》は女性（37.4%）が男性（26.7%）を10.7ポイント上回っています。「まったくない」は男性（44.5%）が女性（31.8%）を12.7ポイント上回っています。



【高校生調査】

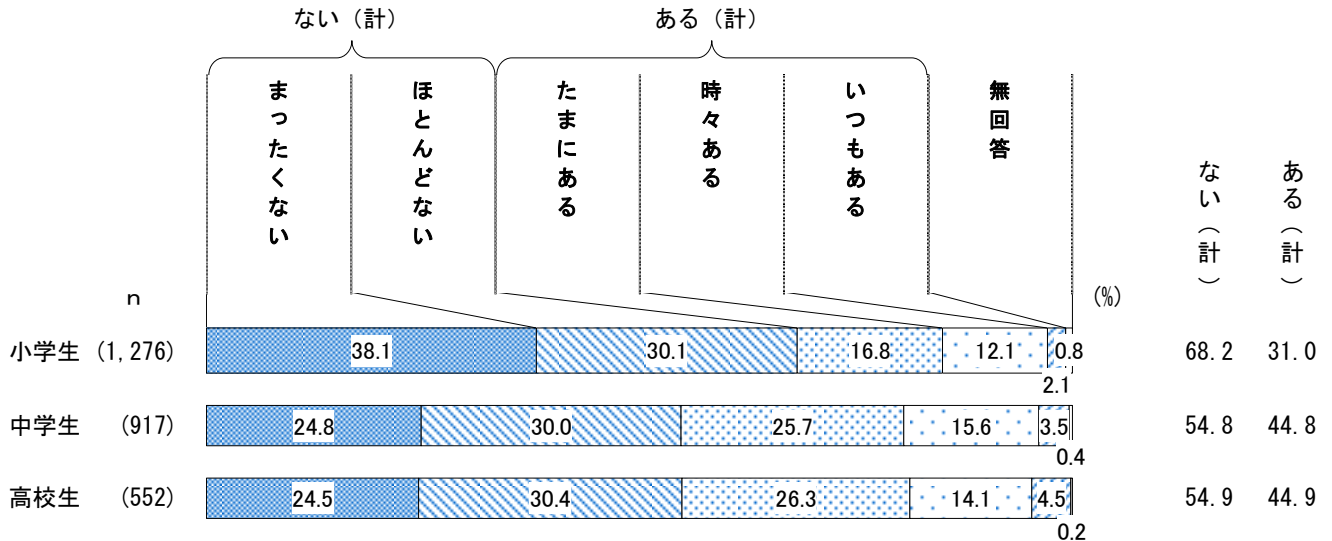
自分はひとりぼっちだと感じるかを高校生の性別でみると、《ある 計》は男女ともに約3割となっており、大きな違いはみられません。



（2）孤独感（直接質問）

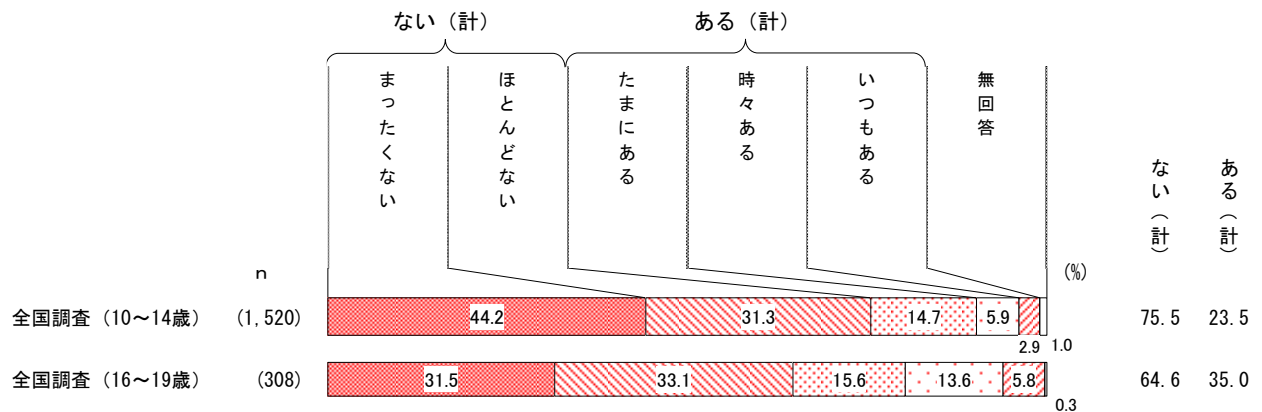
Q：あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。（○は1つ）

孤独であると感じるかについて、「いつもある」、「時々ある」、「たまにある」を合わせた《ある計》は中学生（44.8%）と高校生（44.9%）で4割台半ばと特に高くなっています。



全国調査※との比較

直接質問を全国調査と比較した結果、孤独感が《ある計》は10～14歳では23.5%、16～19歳では35.0%となっており、市調査において調査年齢の近い小学生（31.0%）、中学生（44.8%）、高校生（44.9%）いずれも全国調査を上回り、孤独感が高いことがみてとれます。

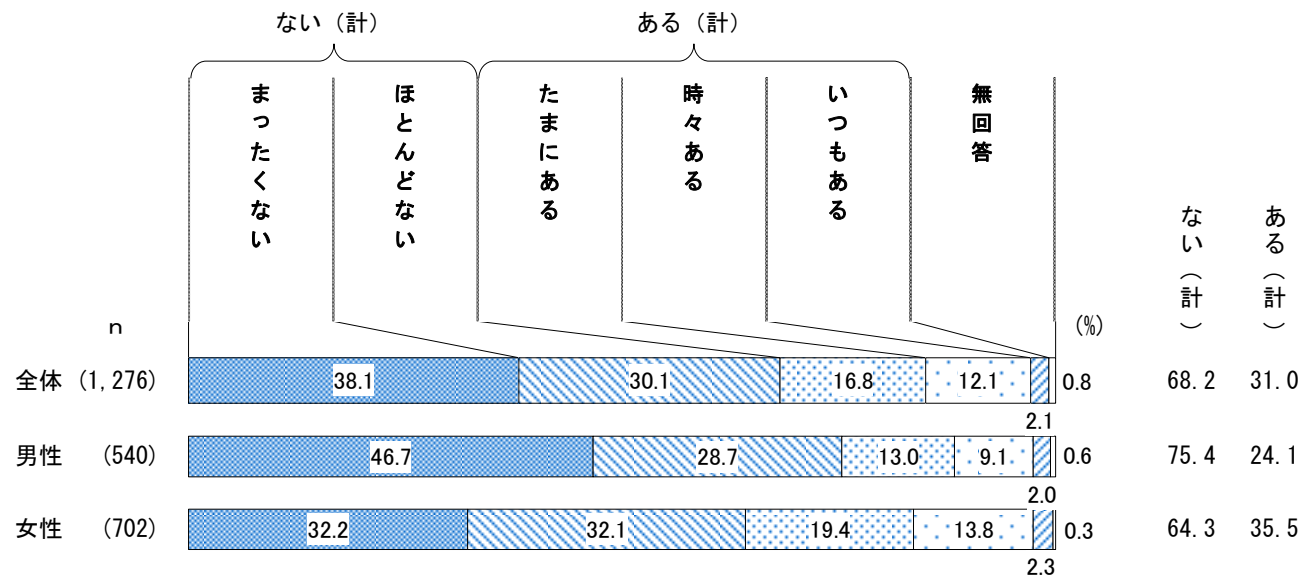


※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

※内閣官房孤独・孤立対策担当室 人々のつながりに関する基礎調査（令和5年度） / 16歳～19歳集計結果

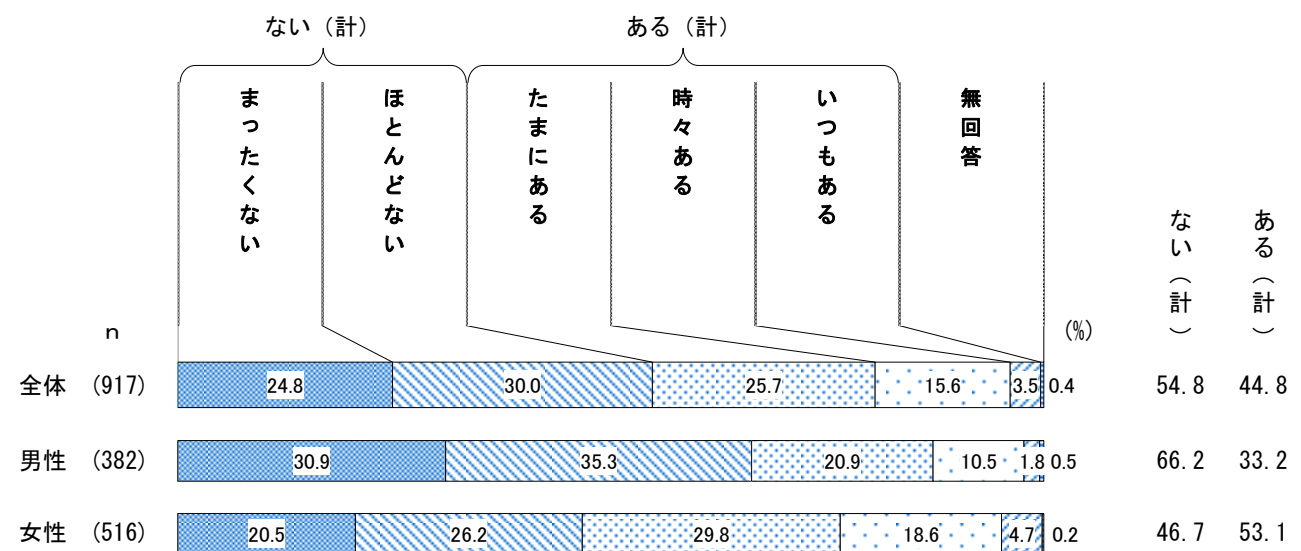
【小学生調査】

孤独であると感じるかを小学生の性別でみると、《ある 計》は女性（35.5%）が男性（24.1%）を11.4ポイント上回っています。



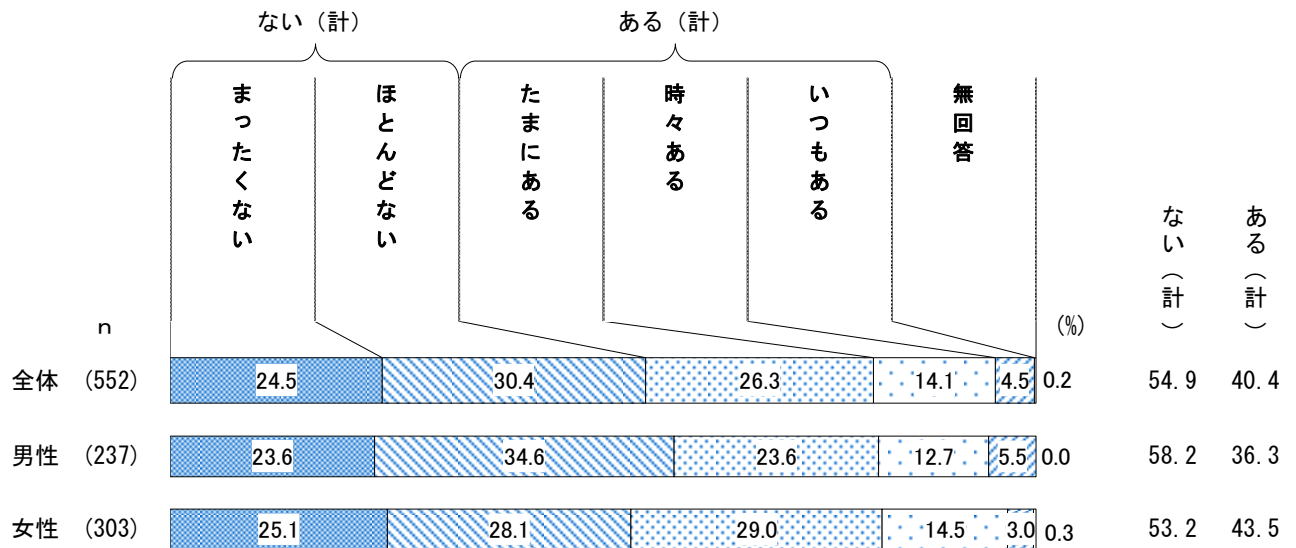
【中学生調査】

孤独であると感じるかを中学生の性別でみると、《ある 計》は女性（53.1%）が男性（33.2%）を19.9ポイント上回っています。



【高校生調査】

孤独であると感じるかを高校生の性別でみると、《ある 計》は女性（43.5%）が男性（36.3%）を7.2ポイント上回っています。

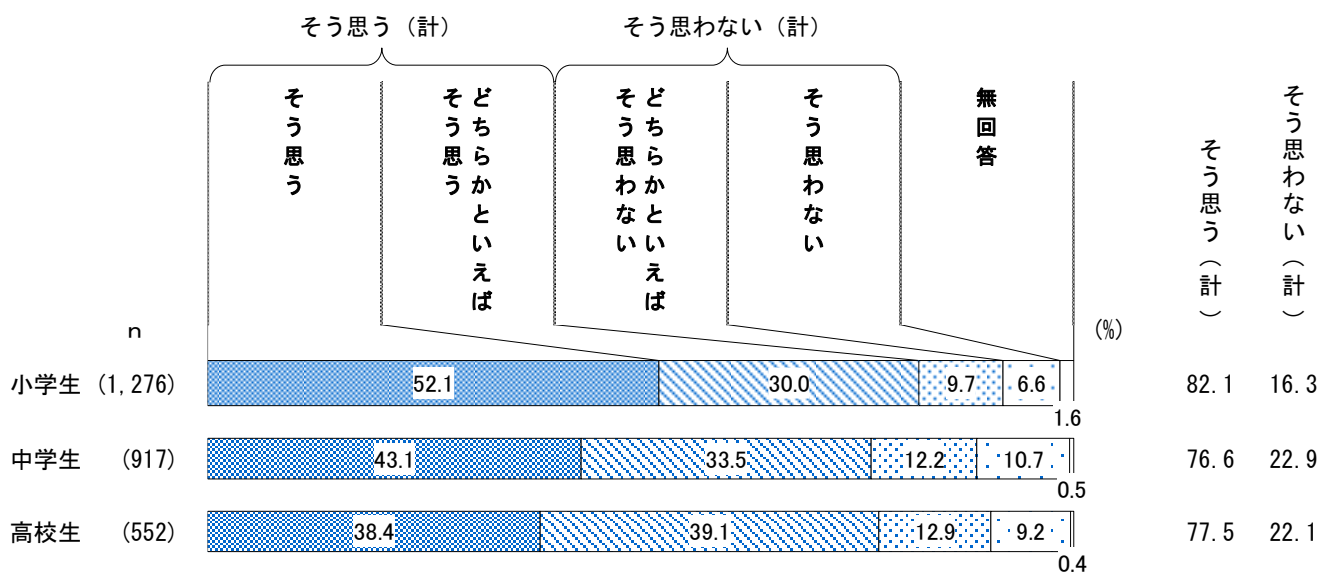


（3）家族・親族との関わり方

Q：家族・親せきとあなたのかかわりは、どのようなものですか。（○は1つ）

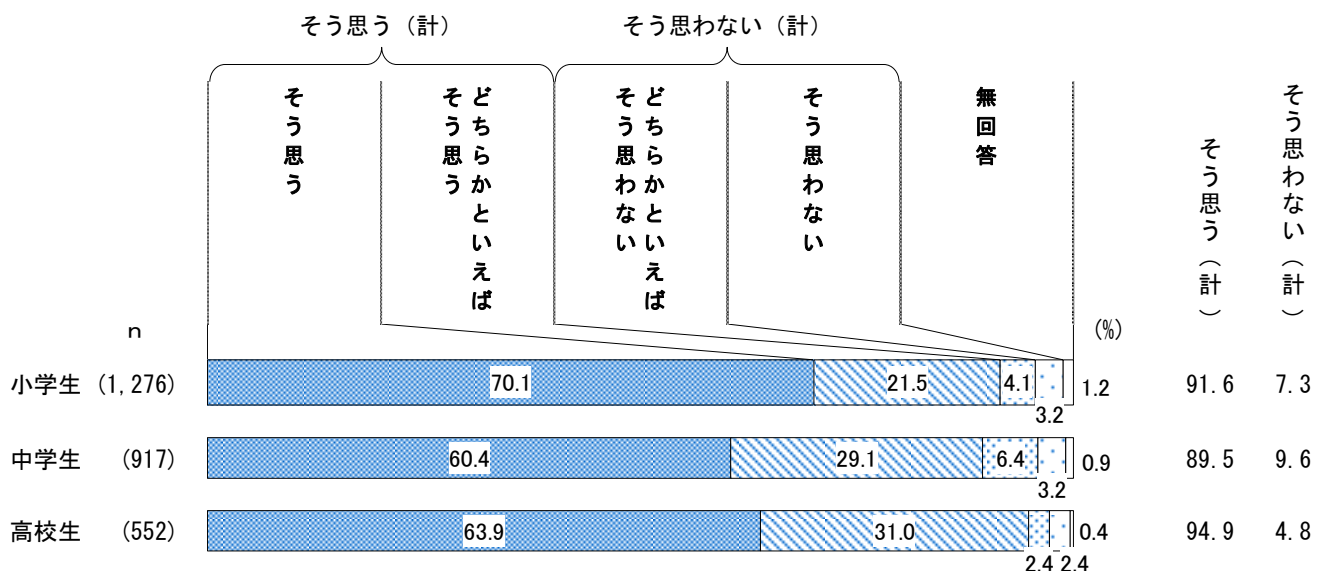
■何でも悩みを相談できる人がいる

家族・親族との関わり方について、何でも悩みを相談できる人がいるかを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う 計》は小学生（82.1%）が特に高くなっています。



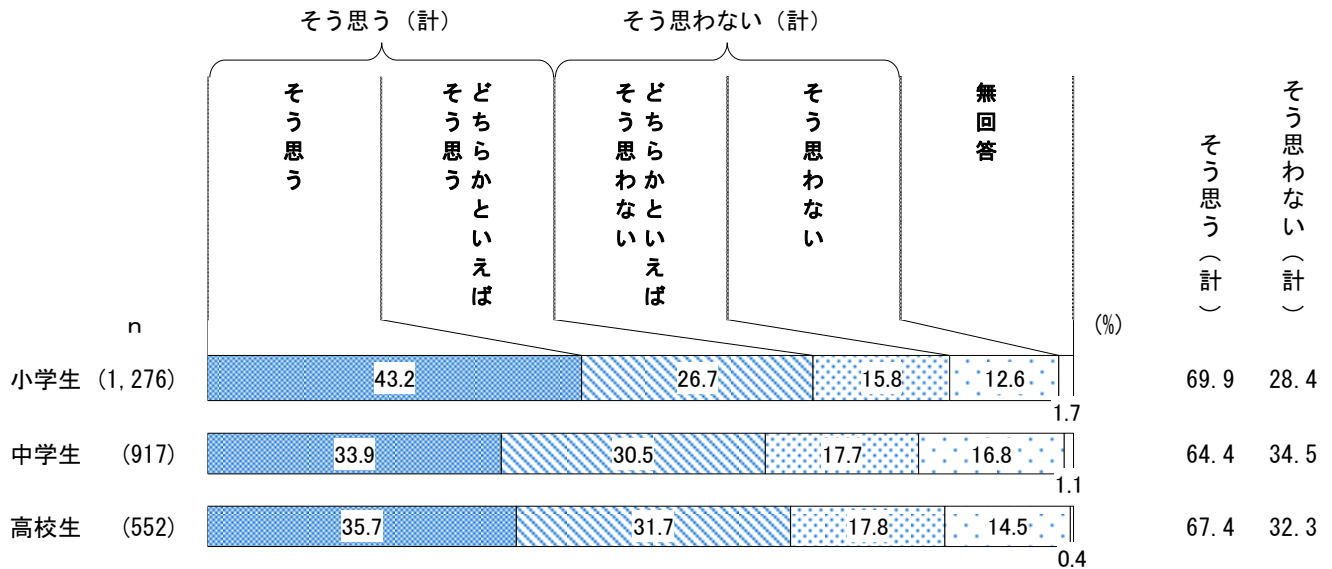
■困ったときは助けてくれる

家族・親族との関わり方について、困ったときは助けてくれるかを聞いたところ、《そう思う 計》は高校生が94.9%と特に高く、小学生、中学生も9割前後となっています。



■他の人には言えない本音を話せることがある

家族・親族との関わり方について、他の人には言えない本音を話せることがあるかを聞いたところ、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも6割台となっています。

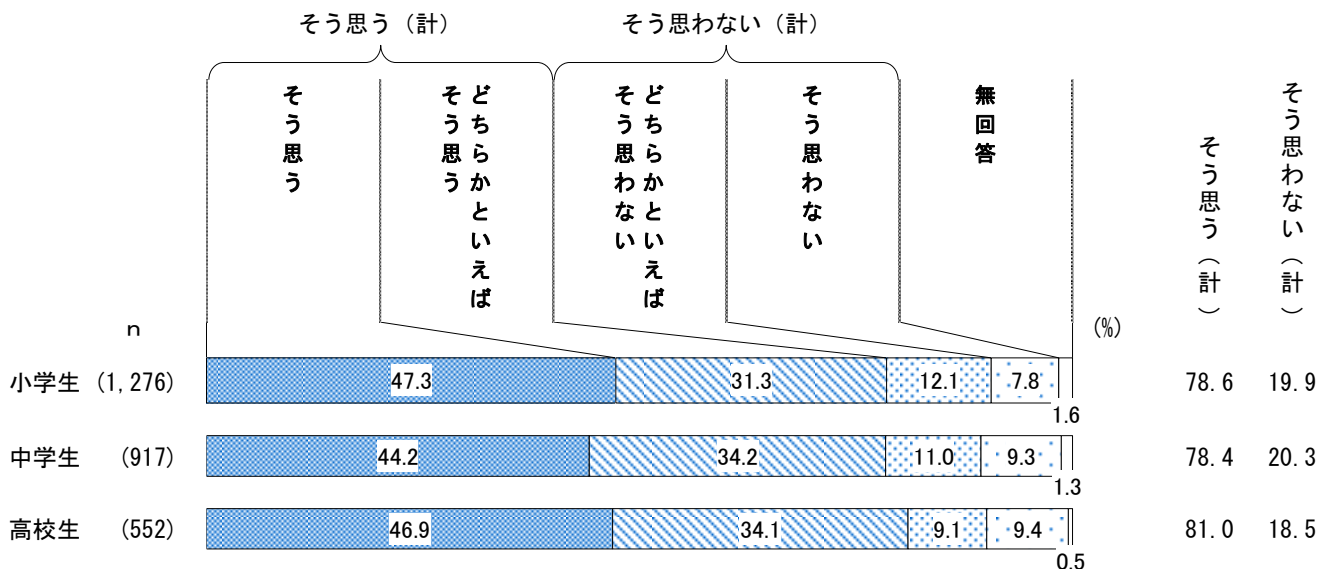


(4) 学校で出会った友人との関わり方

Q：学校で出会った友達（現在通っている学校やこれまでに通っていた学校の友達など）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（○は1つ）

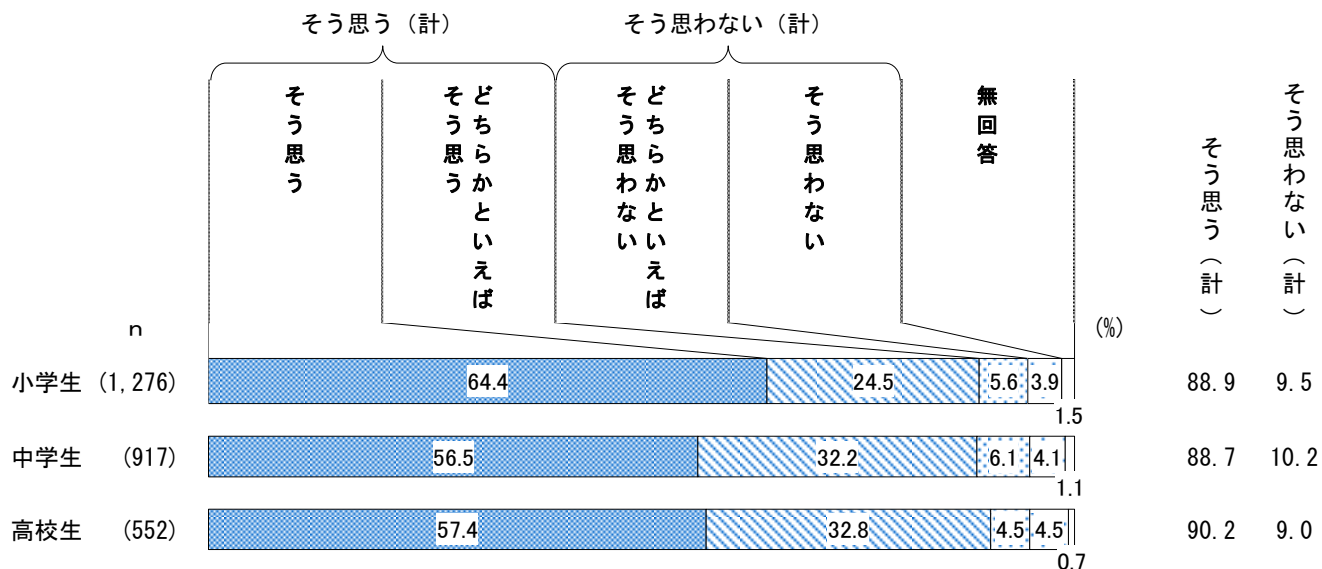
■何でも悩みを相談できる人がいる

学校で出会った友人との関わり方について、何でも悩みを相談できる人がいるかを聞いたところ、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも8割前後となっています。



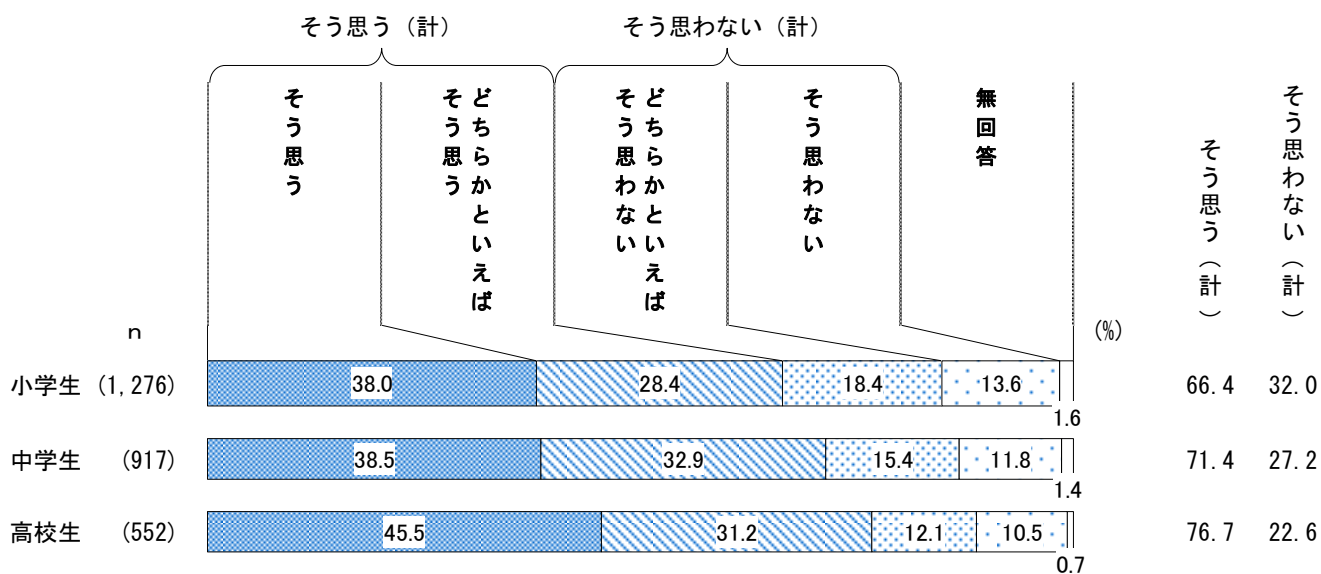
■困ったときは助けてくれる

学校で出会った友人との関わり方について、困ったときは助けてくれるかを聞いたところ、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも9割前後となっています。



■他の人には言えない本音を話せることがある

学校で出会った友人との関わり方について、他の人には言えない本音を話せることがあるかを聞いたところ、《そう思う 計》は高校生が76.7%と特に高くなっており、「そう思う」も小学生、中学生と比べて高くなっています。

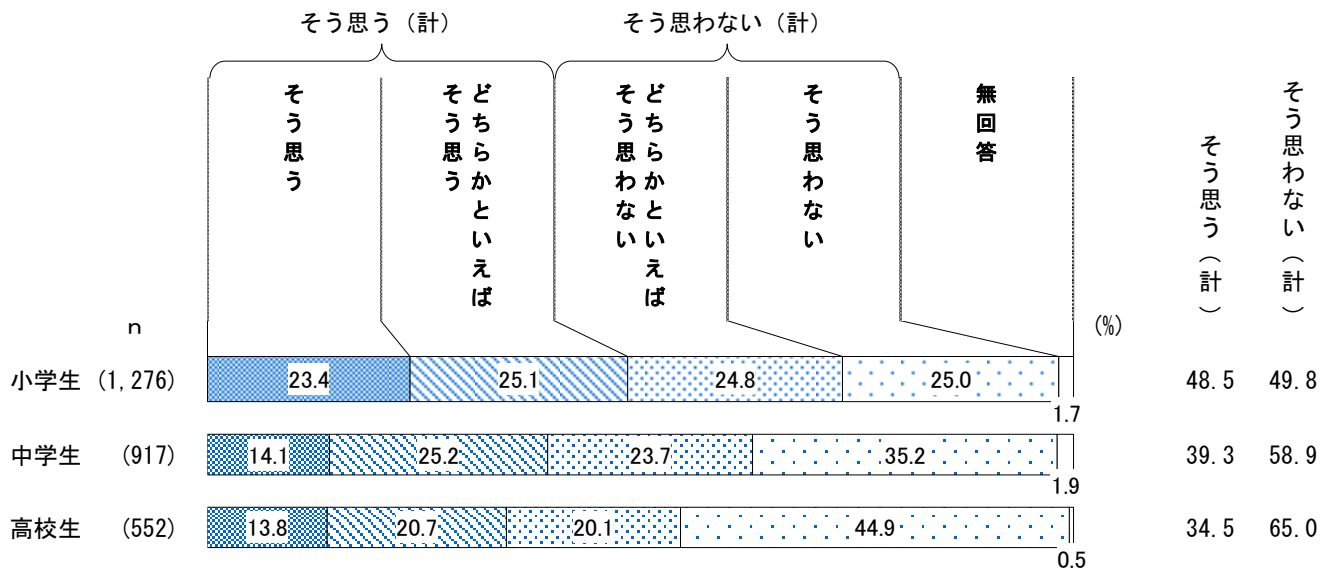


（5）地域の人との関わり方

Q：地域の人（近所の人、塾や習い事での友達など）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（○は1つ）

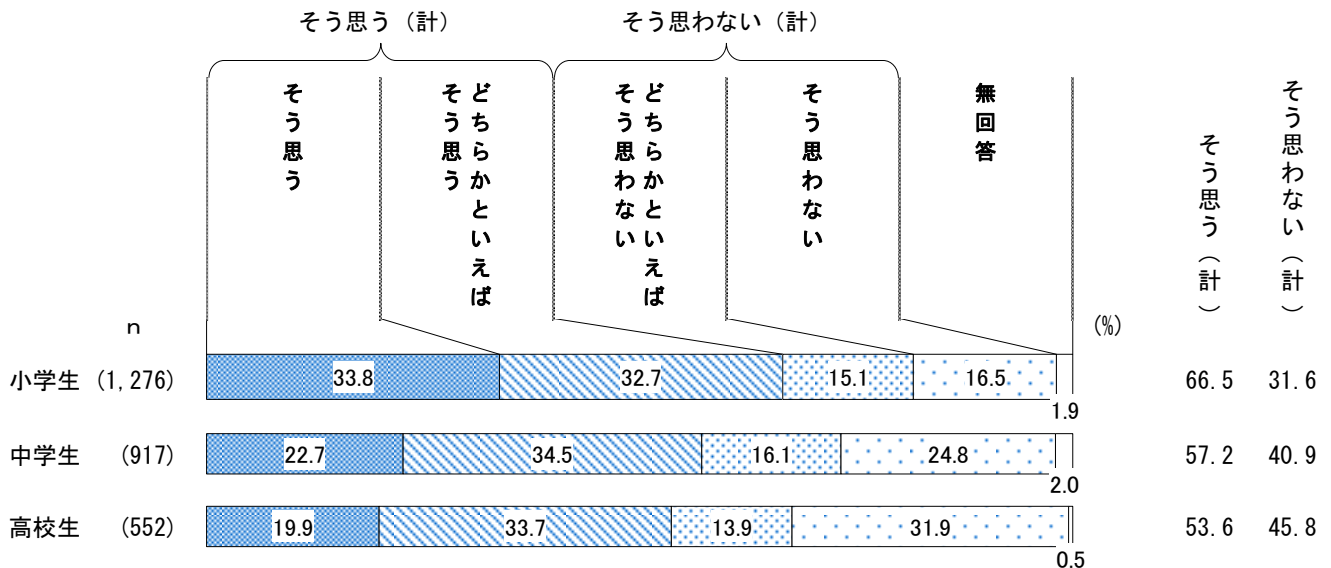
■何でも悩みを相談できる人がいる

地域の人との関わり方について、何でも悩みを相談できる人がいるかを聞いたところ、《そう思う 計》の割合が、小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて高くなっています。



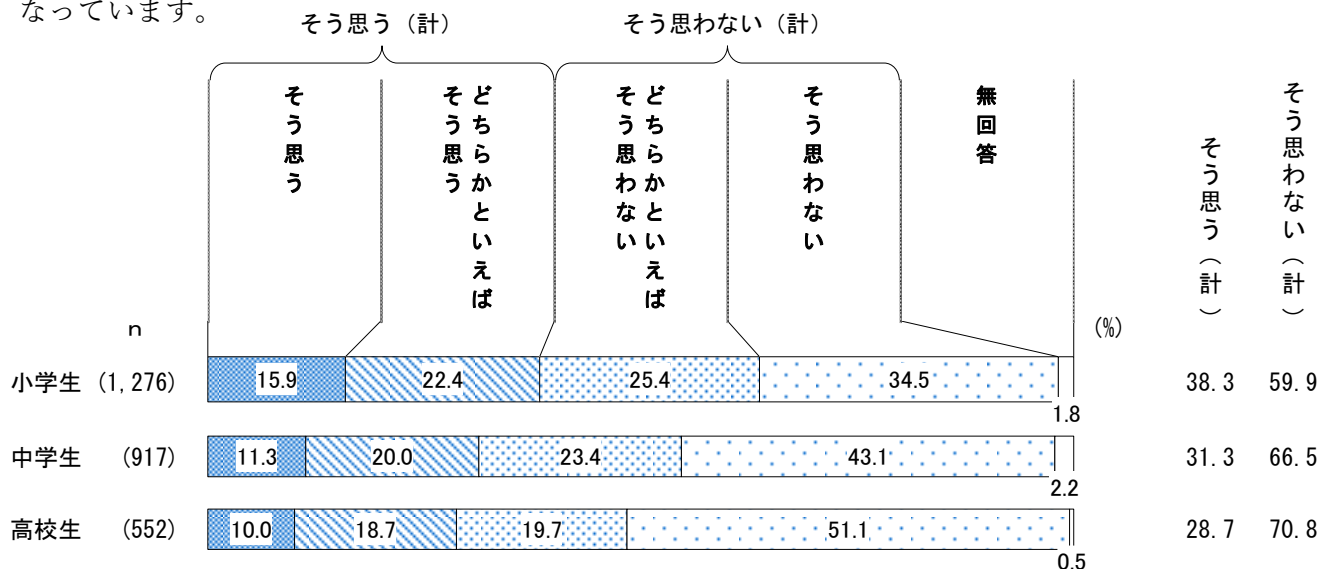
■困ったときは助けてくれる

地域の人との関わり方について、困ったときは助けてくれるかを聞いたところ、《そう思う 計》は小学生（66.5%）が6割台半ばと特に高くなっています。「そう思う」でみても、小学生は33.8%と、中学生、高校生と比べて高くなっています。



■他の人には言えない本音を話せることがある

地域の人との関わり方について、他の人には言えない本音を話せることがあるかを聞いたところ、《そう思わない 計》の割合が、小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて高くなっています。

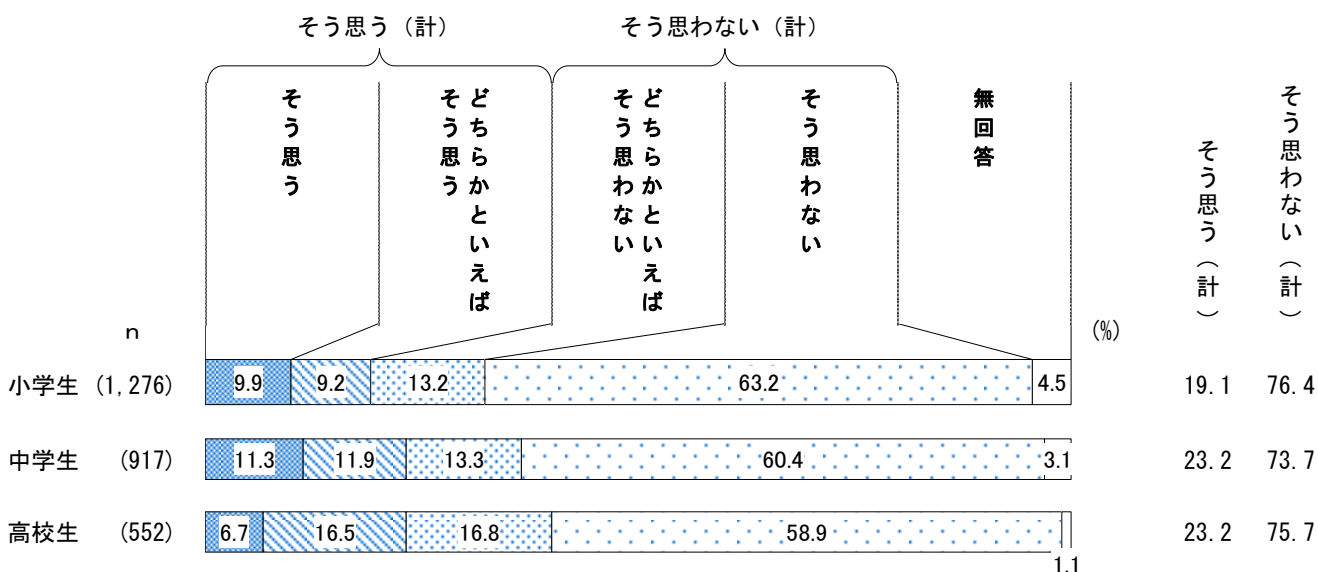


(6) インターネット上での他者との関わり方

Q：インターネット上で出会った人やグループ（基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（○は1つ）

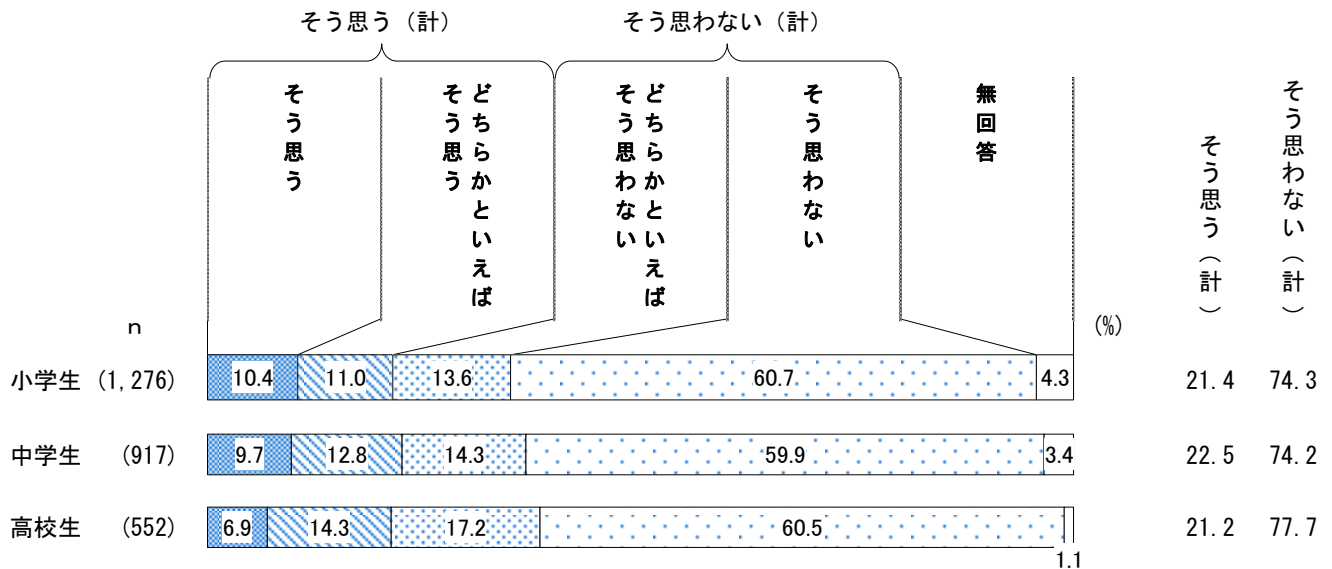
■何でも悩みを相談できる人がいる

インターネット上での他者との関わり方について、何でも悩みを相談できる人がいるかを聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも《そう思わない 計》が7割を超えています。



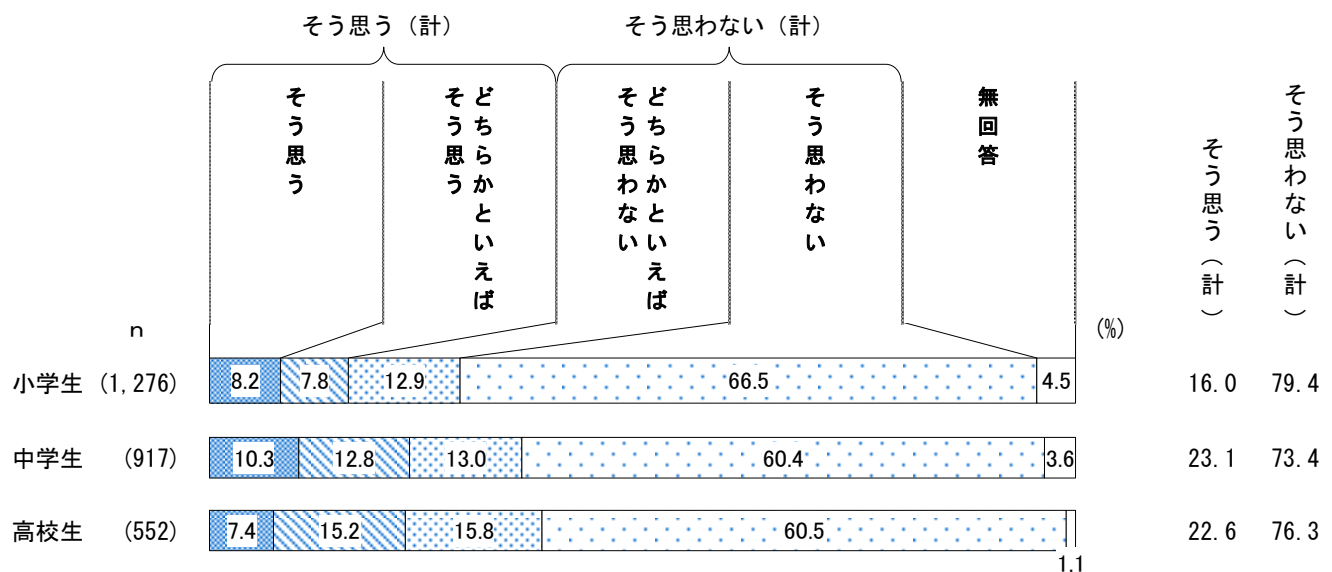
■困ったときは助けてくれる

インターネット上での他者との関わり方について、困ったときは助けてくれるかを聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも《そう思わない 計》が7割台を占めており、特に高校生（77.7%）が高くなっています。



■他の人には言えない本音を話せることがある

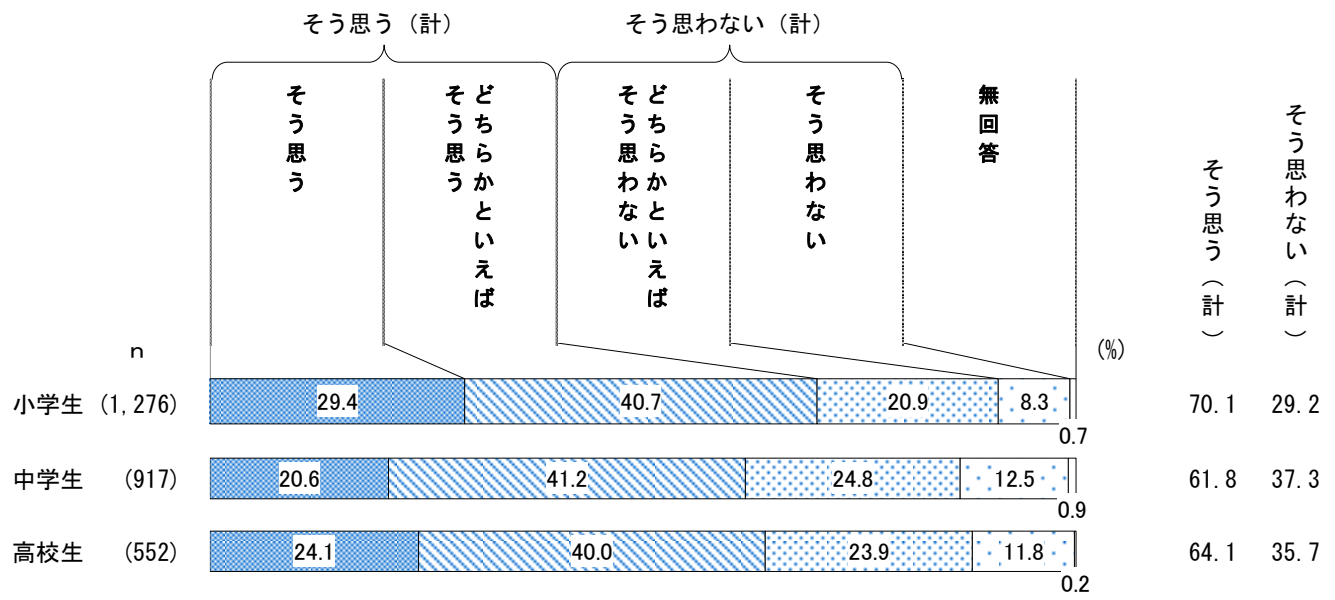
インターネット上での他者との関わり方について、他の人には言えない本音を話せることがあるかを聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも《そう思わない 計》が7割台を占めており、特に小学生（79.4%）が高くなっています。



(7) 他者との付き合い方

Q：あなたは、誰とでもすぐに仲良くなれる方ですか。（○は1つ）

誰とでもすぐ仲良くなれるかについて、《そう思う 計》は小学生（70.1%）が特に高くなっています。

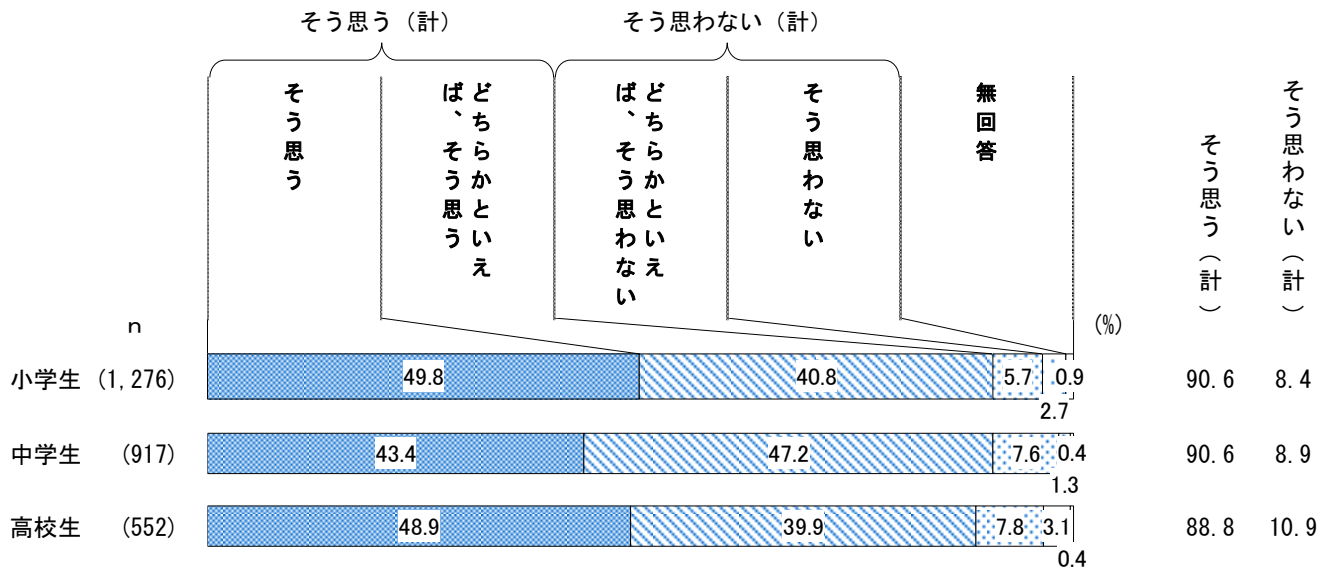


7 社会参加について

（1）社会貢献への意欲

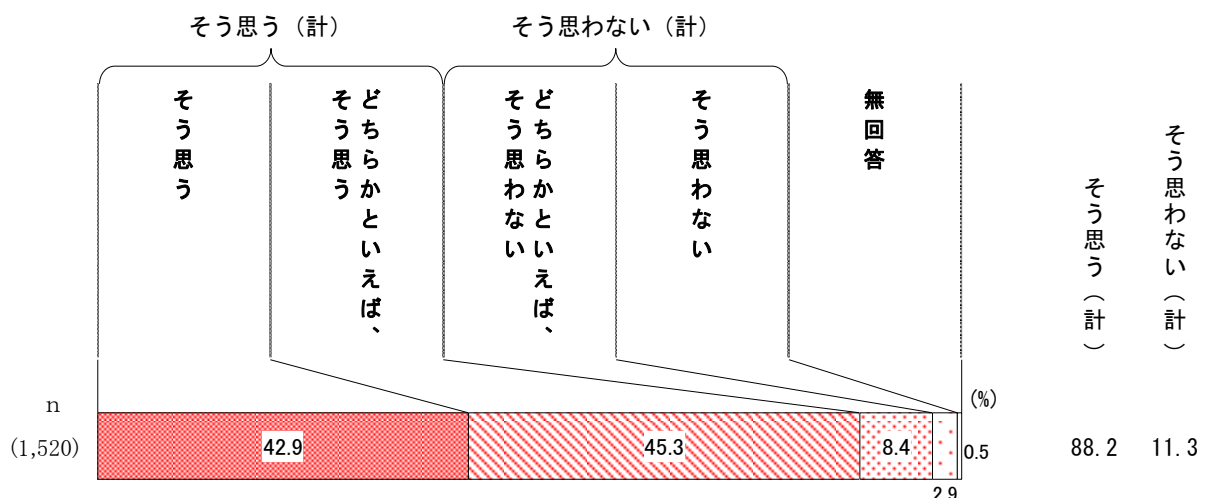
Q：あなたは、「社会のために役立つことをしたい」と思いますか。（○は1つ）

社会貢献への意欲について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う 計》は、小学生、中学生、高校生のいずれも約9割を占めています。



全国調査※との比較

全国調査の結果は《そう思う 計》が88.2%となっており、市調査の小学生（90.6%）、中学生（90.6%）は全国調査を上回り、高校生（88.8%）はほぼ同率となっています。



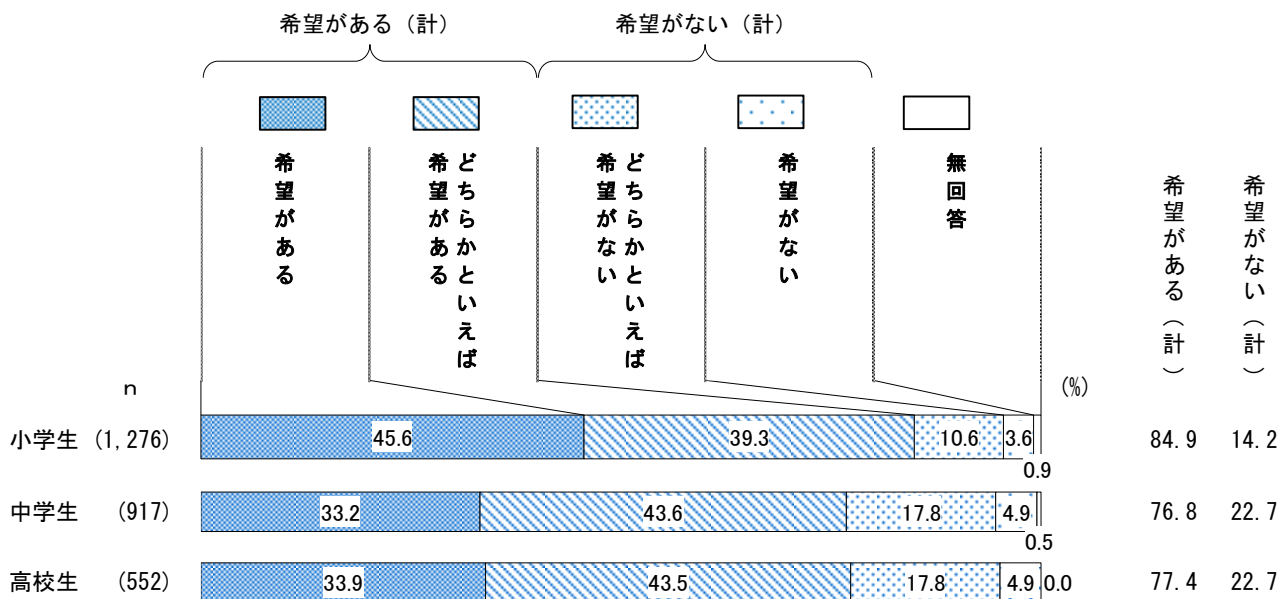
※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

8 将来像について

（1）将来への希望

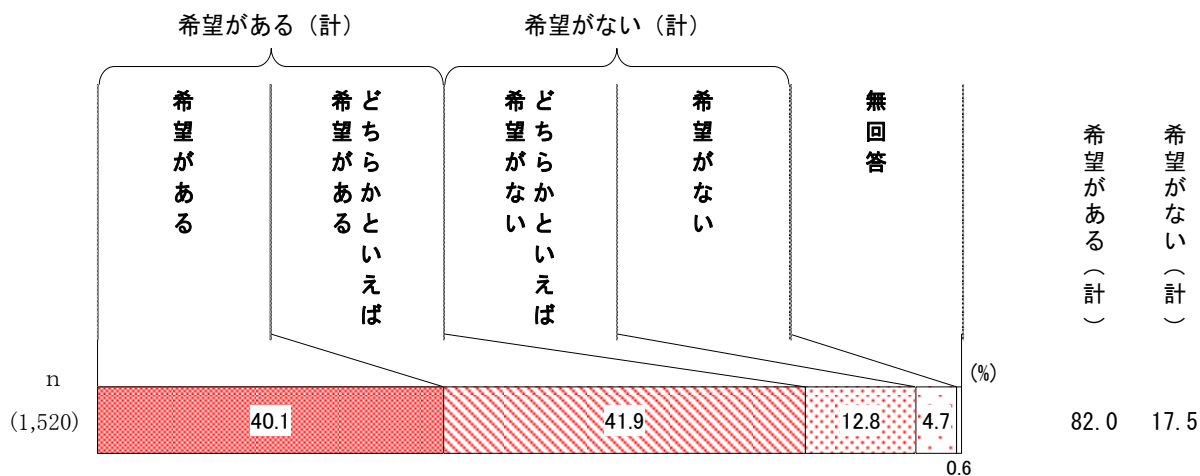
Q：あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。（○は1つ）

将来への希望について、「希望がある」と「どちらかといえば希望がある」を合わせた《希望がある 計》は小学生が84.9%と特に高くなっています。



全国調査※との比較

全国調査の結果は《希望がある 計》が82.0%となっており、市調査の小学生（84.9%）は全国調査を上回っています。一方、中学生（76.8%）、高校生（77.4%）は全国調査を下回っています。



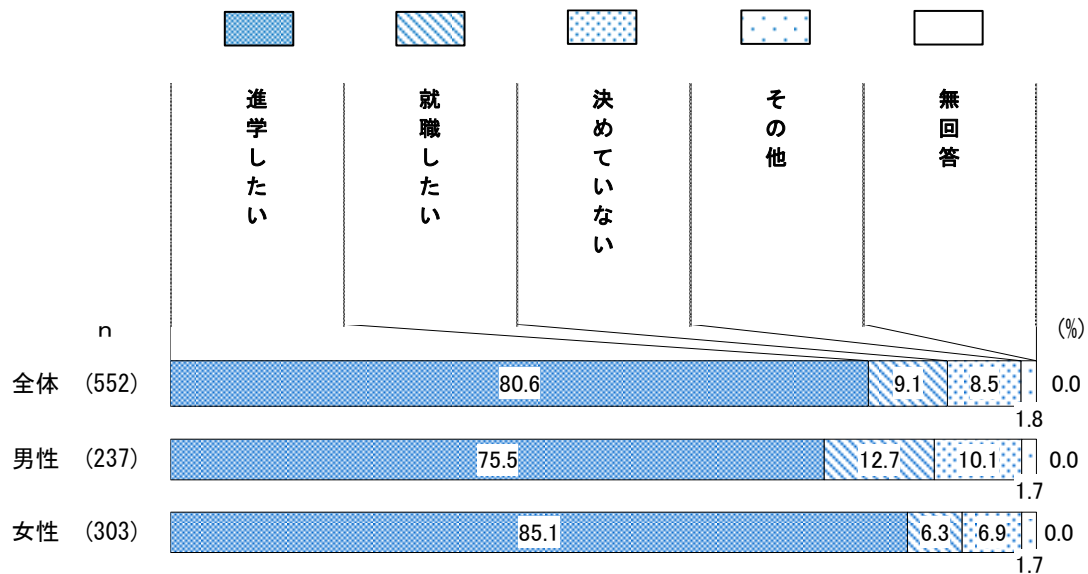
※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

（2）高校卒業後の進路【高校生調査】

Q：あなたは、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。（○は1つ）

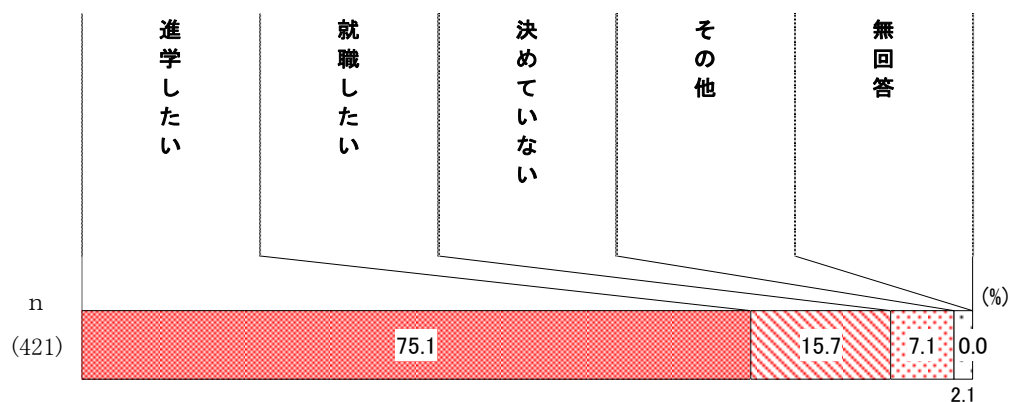
高校卒業後の進路について、全体では「進学したい」が80.6%を占めています。

性別にみると、「進学したい」は女性（85.1%）が男性（75.5%）を9.6ポイント上回っています。
「就職したい」は男性（12.7%）が女性（6.3%）を6.4ポイント上回っています。



県調査※との比較

県調査の結果は「進学したい」が75.1%となっており、市調査の高校生（80.6%）の結果は県調査を上回っています。



※群馬県 第8回ぐんま青少年基本調査（令和5年度）

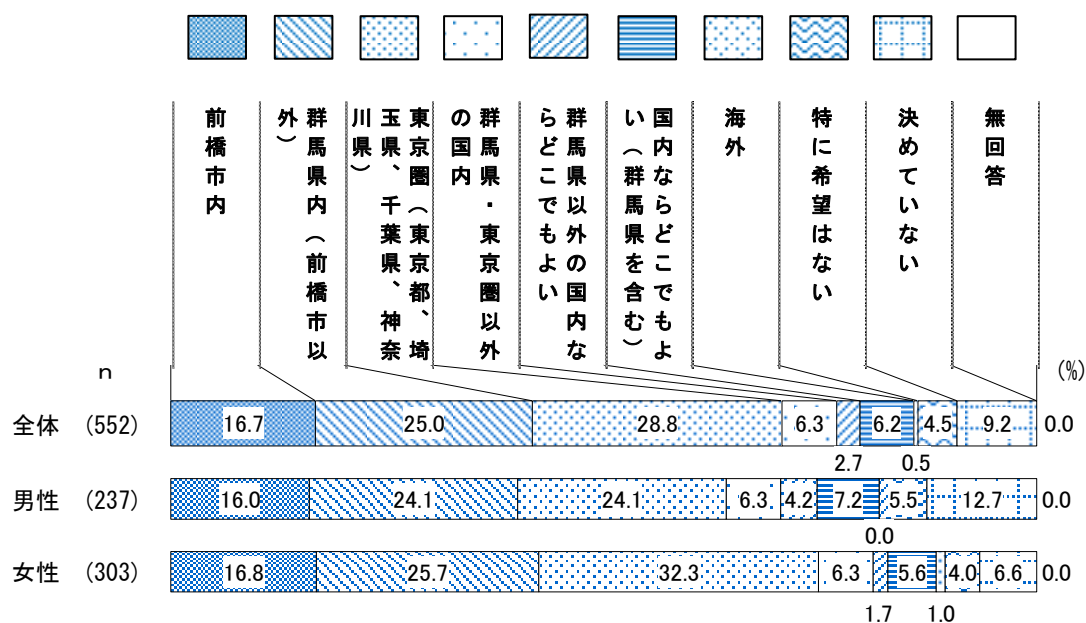
（3）高校卒業後に進路や就職などを考えている地域【高校生調査】

Q：あなたが高校卒業後、進学や就職などを考えている地域はどこですか。（○は1つ）

高校卒業後に進路や就職などを考えている地域について、全体では「東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）」が28.8%と最も高く、「群馬県内（前橋市以外）」（25.0%）、「前橋市内」（16.7%）と続いています。

性別にみると、「前橋市内」と「群馬県内（前橋市以外）」は男女ともに同様の傾向がみられます。「東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）」は女性（32.3%）が男性（24.1%）を8.2ポイント上回っています。

また、「決めていない」は男性で1割を超えています。



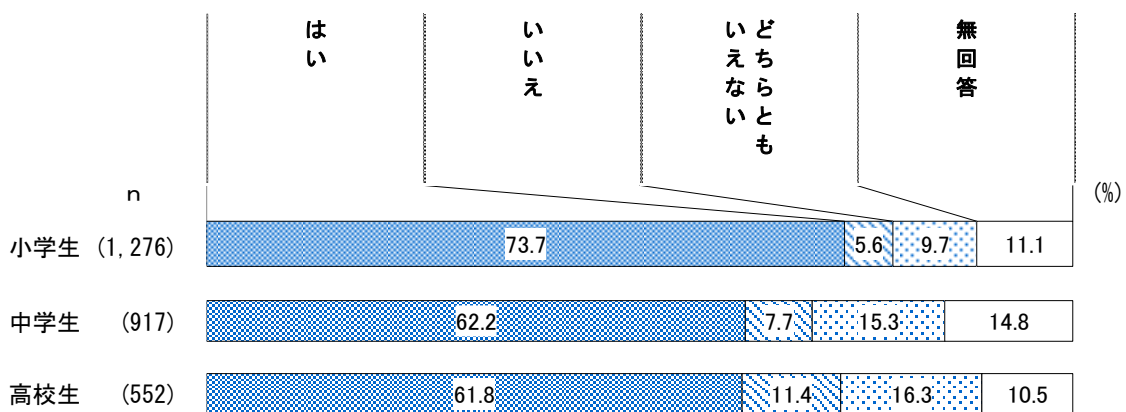
9 家庭生活・学校教育について

（1）父親との関係

Q：あなたのお父さんについてお聞きます。（現在、お父さんと一緒に住んでいない人は答えなくてよいです。）（○は1つ）

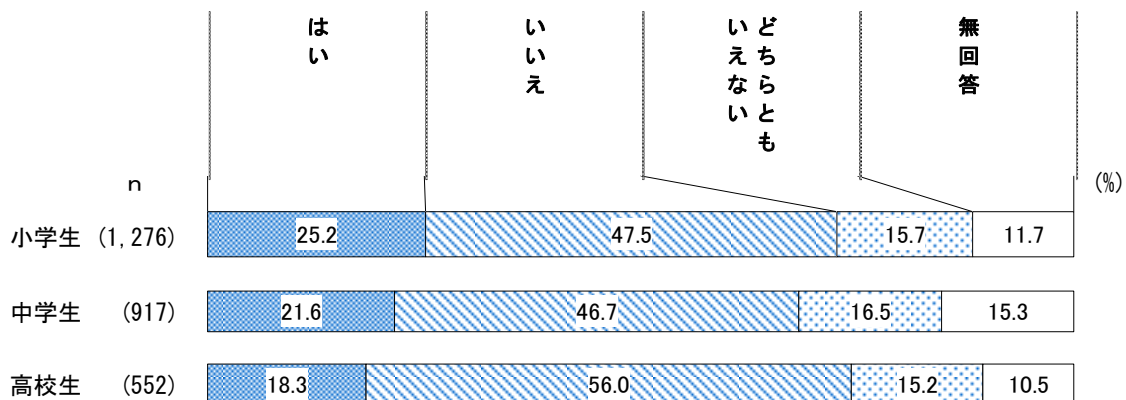
■あなたとよく話をする

父親とよく話をするかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に小学生では7割台半ばを占めています。



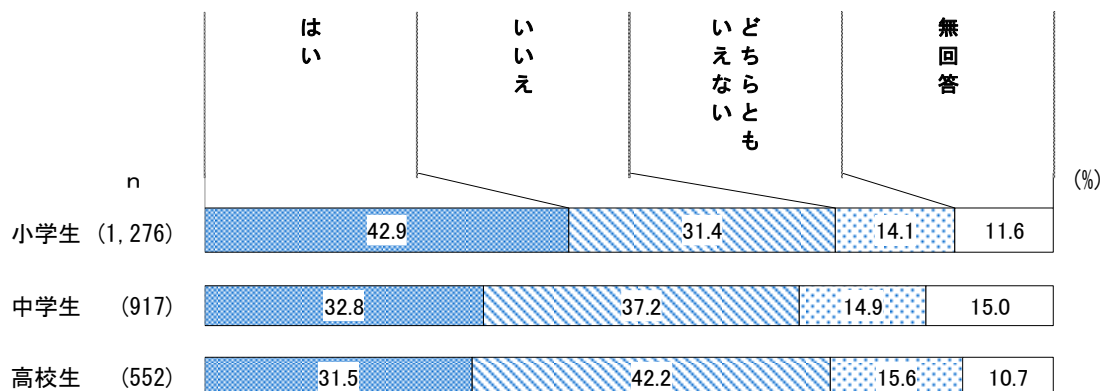
■あいさつやことばづかいについて、うるさく言う

父親からあいさつや言葉づかいに関するしつけについてうるさく言われるかを聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも「いいえ」が高く、特に高校生では5割台半ばとなっています。



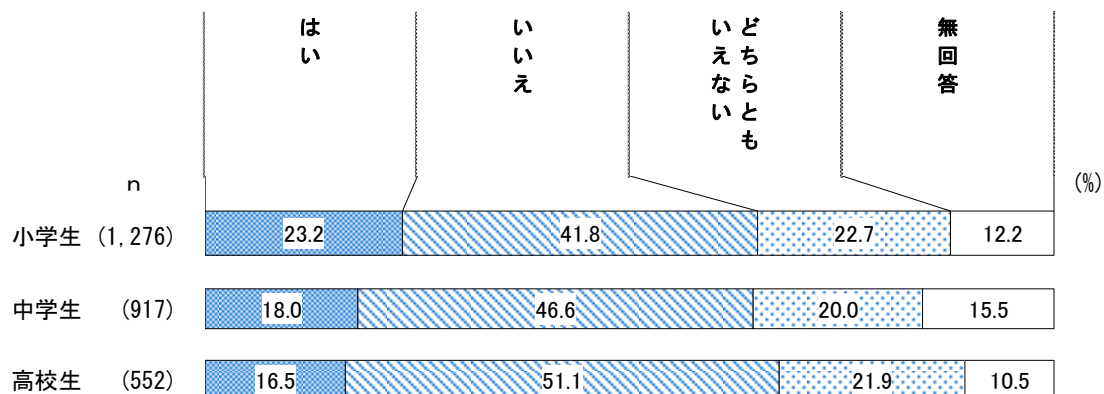
■「人に迷惑をかけないように」とよく言う

父親から「人に迷惑をかけないように」とよく言われるかについて、小学生は「はい」（42.9%）が高く、中学生と高校生は「いいえ」（中学生37.2%、高校生42.2%）が高くなっています。



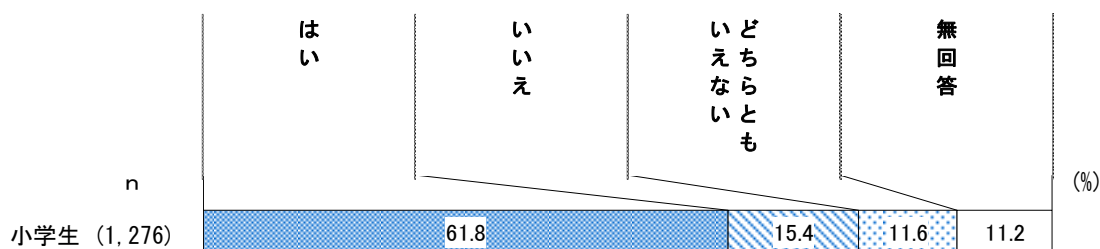
■「お年寄りやからだの不自由な人をいたわるように」とよく言う

父親から「お年寄りやからだの不自由な人をいたわるように」とよく言われるかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「いいえ」が高く、特に高校生では5割を超えています。



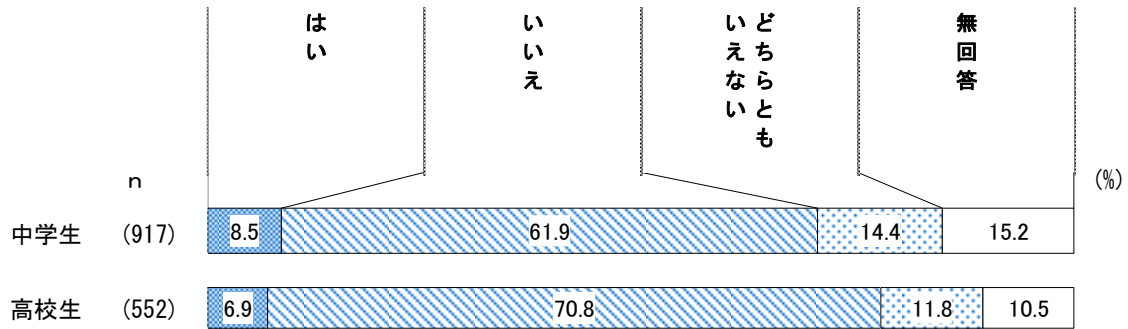
■おこるとこわい【小学生調査】

父親はおこるとこわいかを聞いたところ、「はい」が61.8%と高くなっています。



■服装や頭髪などについてうるさく言う【中学生・高校生調査】

父親から服装や頭髪などについてうるさく言われるかを聞いたところ、中学生、高校生のいずれも「いいえ」が高く、特に高校生では7割となっています。

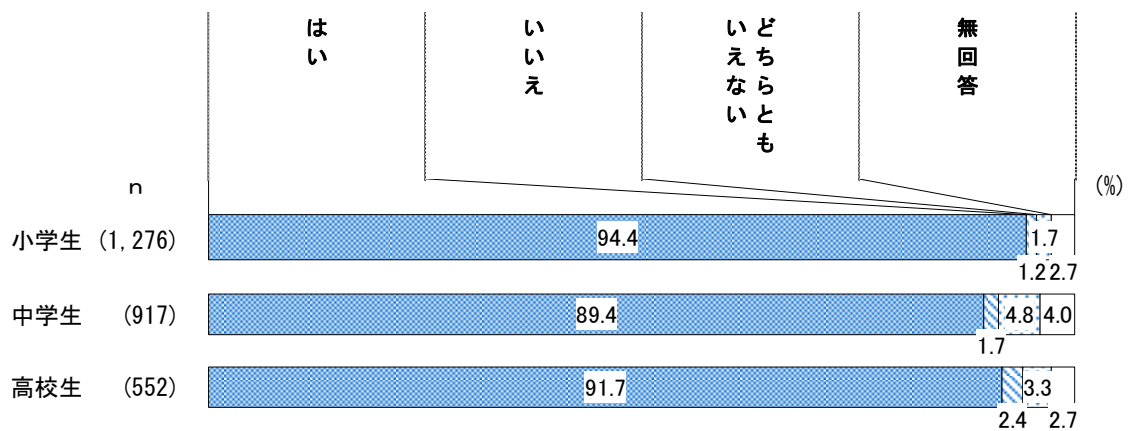


(2) 母親との関係

Q：あなたのお母さんについてお聞きます。（現在、お母さんと一緒に住んでいない人は答えなくてよいです。）（○は1つ）

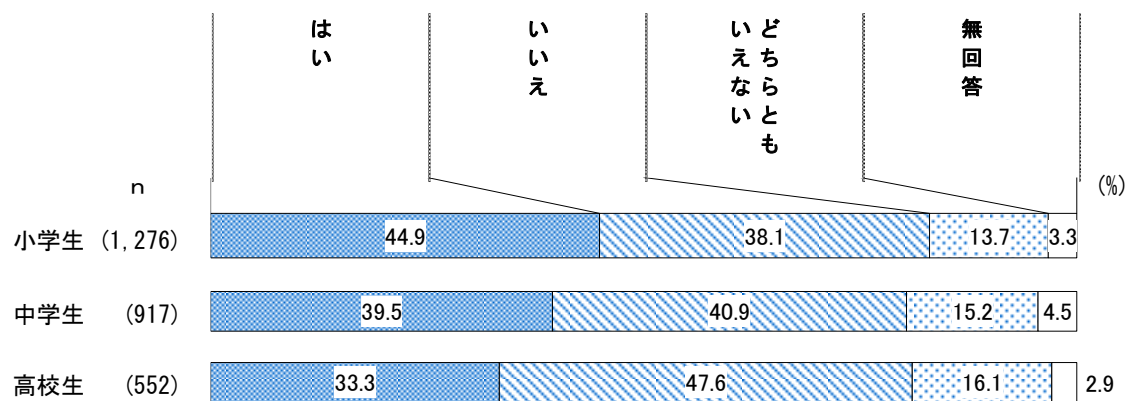
■あなたとよく話をする

母親とよく話をするかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に小学生では9割台半ばを占めています。



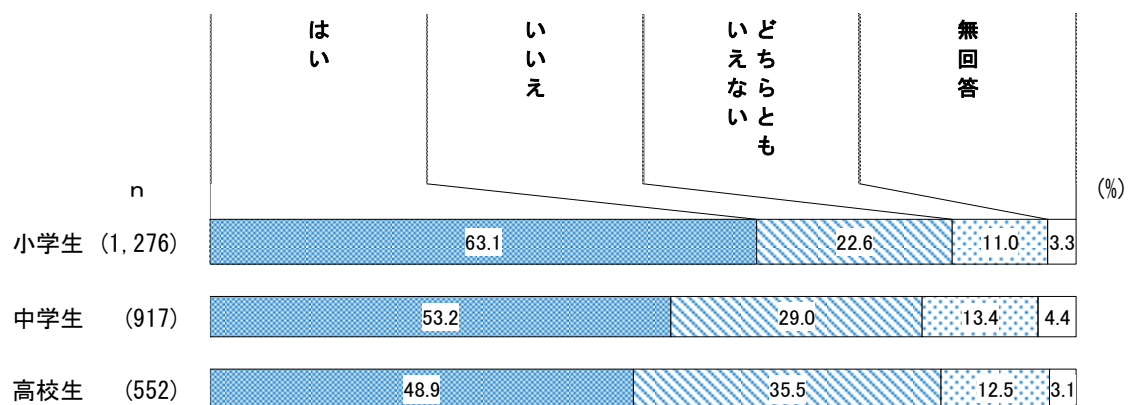
■あいさつやことばづかいについて、うるさく言う

母親からあいさつや言葉づかいに関するしつけについてうるさく言われるかを聞いたところ、小学生は「はい」（44.9%）が高く、中学生は「はい」と「いいえ」が4割前後とほぼ同率、高校生は「いいえ」（47.6%）が高くなっています。



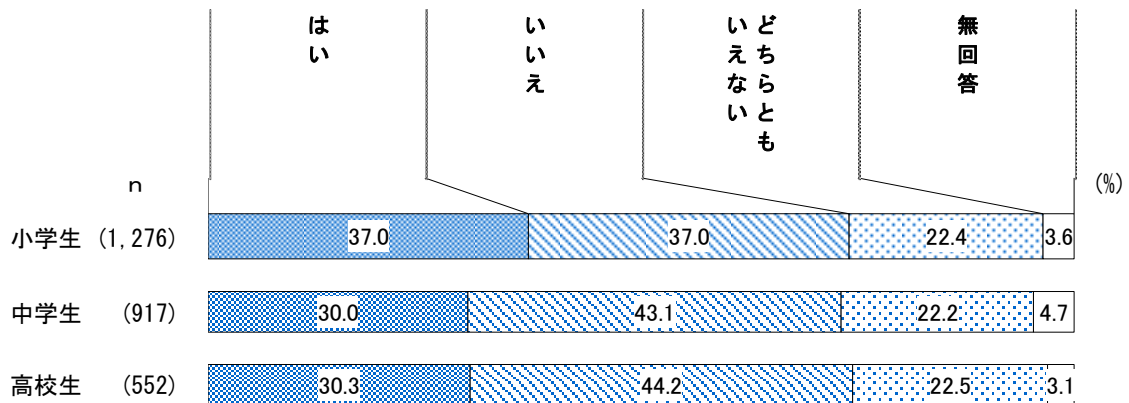
■「人に迷惑をかけないように」とよく言う

母親から「人に迷惑をかけないように」とよく言われるかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に小学生では6割台半ばを占めています。



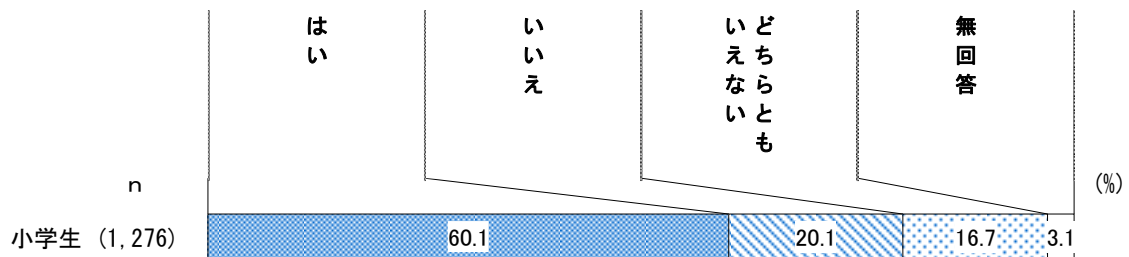
■「お年寄りやからだの不自由な人をいたわるように」とよく言う

母親から「お年寄りやからだの不自由な人をいたわるように」とよく言われるかについて、小学生は「はい」と「いいえ」が37.0%と同率、中学生と高校生は「いいえ」（中学生43.1%、高校生44.2%）が高くなっています。



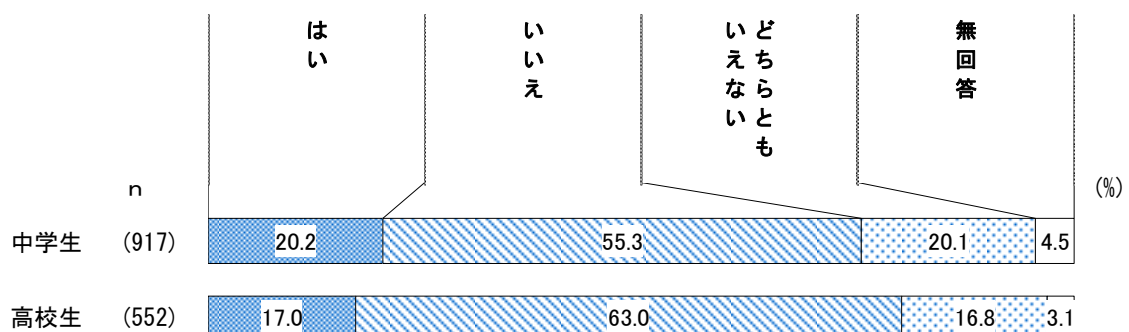
■おこるとこわい【小学生調査】

母親はおこるとこわいかを聞いたところ、「はい」が60.1%と高くなっています。



■服装や頭髪などについてうるさく言う【中学生・高校生調査】

母親から服装や頭髪などについてうるさく言われるかを聞いたところ、中学生、高校生のいずれも「いいえ」が高く、特に高校生では6割台半ばとなっています。



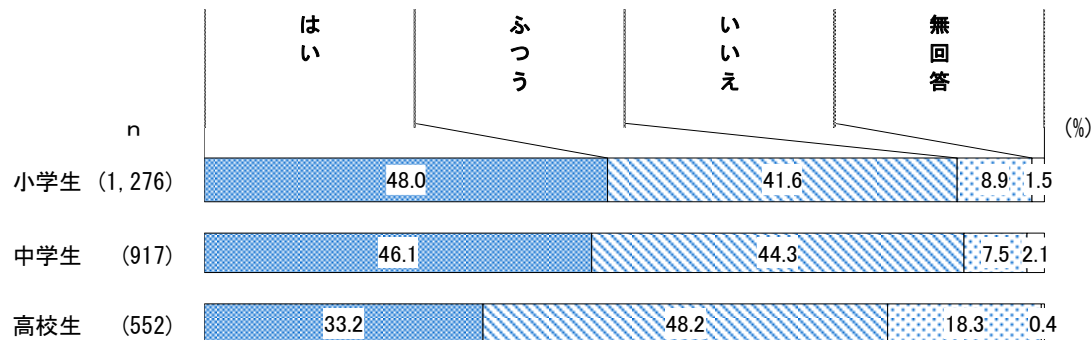
10 学校生活について

（1）クラスや学校の様子

Q：あなたのクラスや学校はどちらにあてはまりますか。（○は1つ）

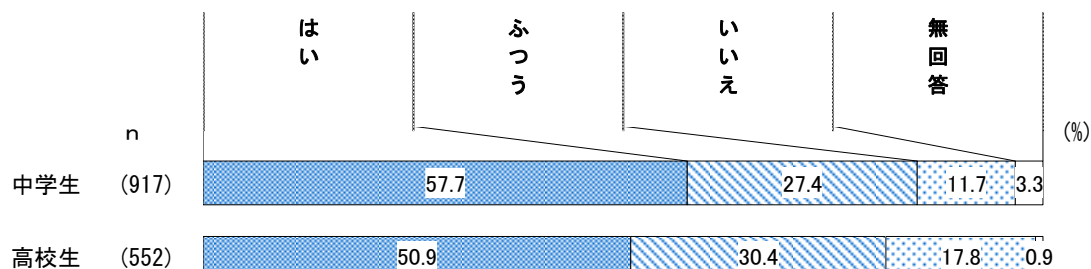
■授業がおもしろい

授業がおもしろいかについて、小学生と中学生は「はい」（小学生48.0%、中学生46.1%）が高く、高校生は「いいえ」（48.2%）が高くなっています。



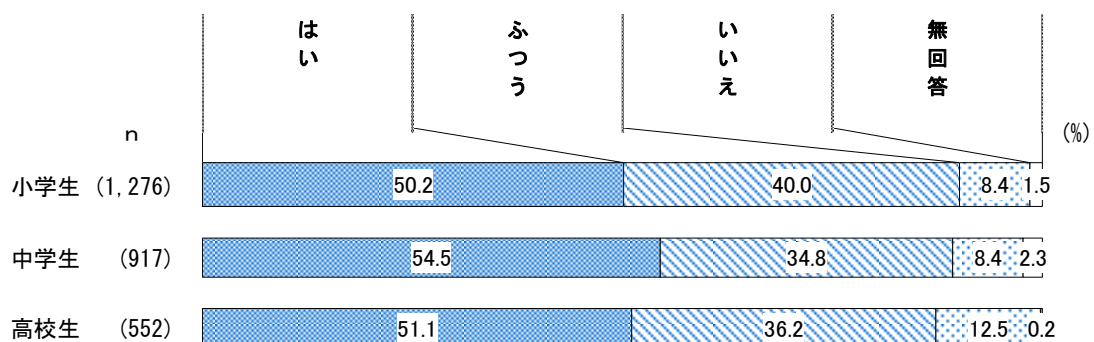
■クラブや部活が楽しい【中学生・高校生調査】

クラブ活動や部活動が楽しいかについて、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に中学生では約6割となっています。



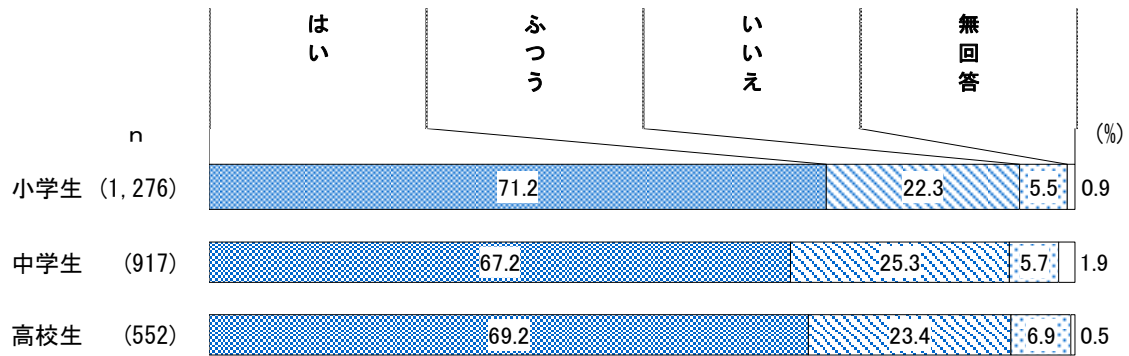
■楽しい学校行事が多い

楽しい学校行事が多いかについて聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に中学生では5割台半ばとなっています。



■ いい友達や先輩・後輩にめぐまれている

いい友達や先輩にめぐまれているかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に小学生では7割を超えています。

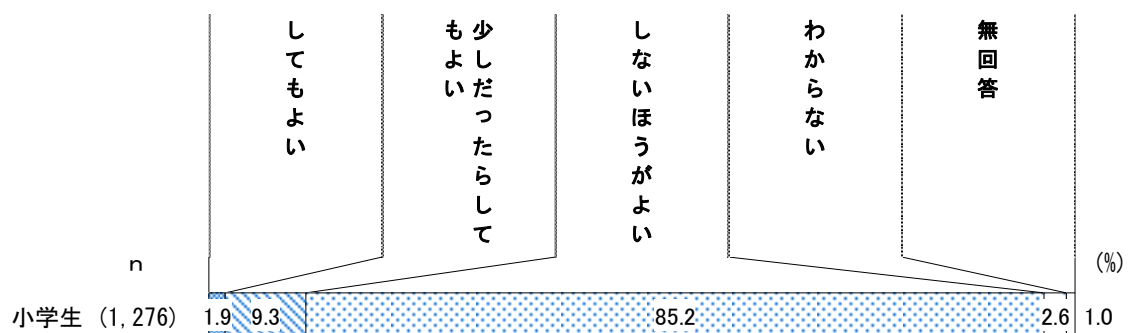


(2) 規範意識

Q：小学生・中学生・高校生が次のようなことをすることについて、あなたはどのように思いますか。
(○は1つ)

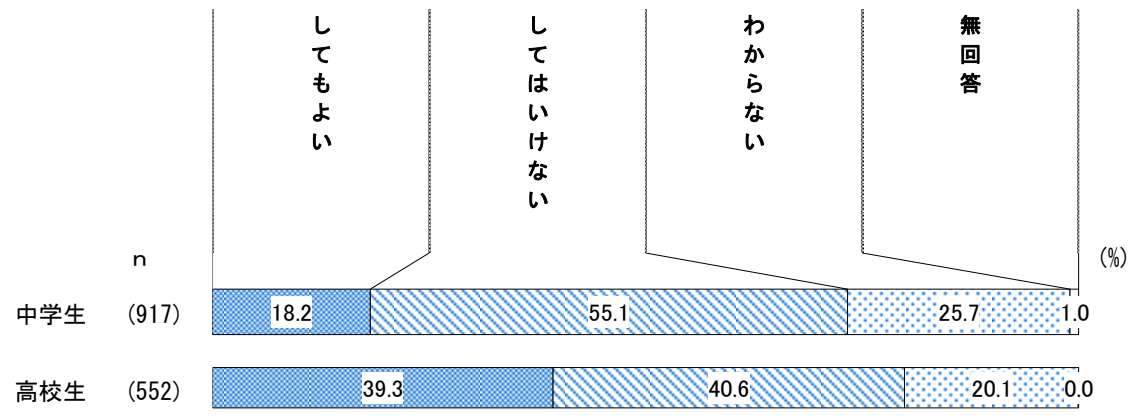
■ 係や当番の仕事をさぼる【小学生調査】

「係や当番の仕事をさぼる」ことについて、「しないほうがよい」が85.2%を占めています。



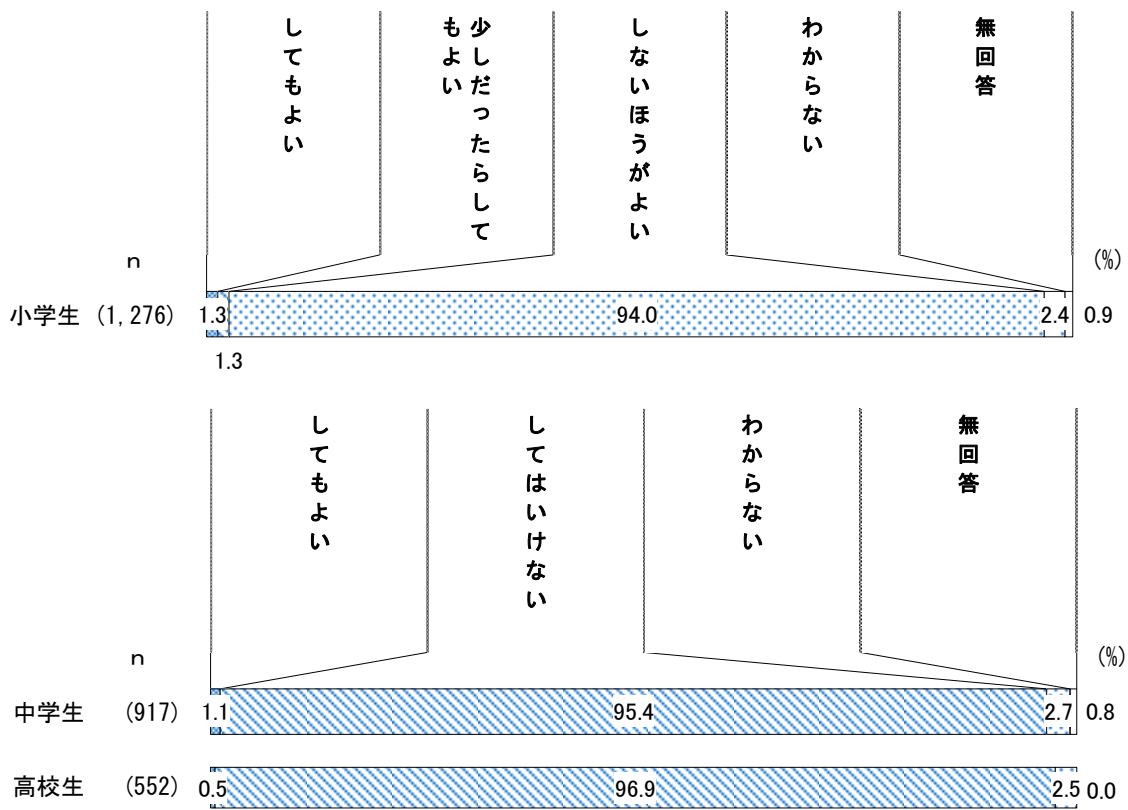
■学校をさぼる【中学生・高校生調査】

「学校をさぼる」ことについて、中学生は「してはいけない」が高く、高校生は「してもよい」と「してはいけない」が約4割とほぼ同率となっています。



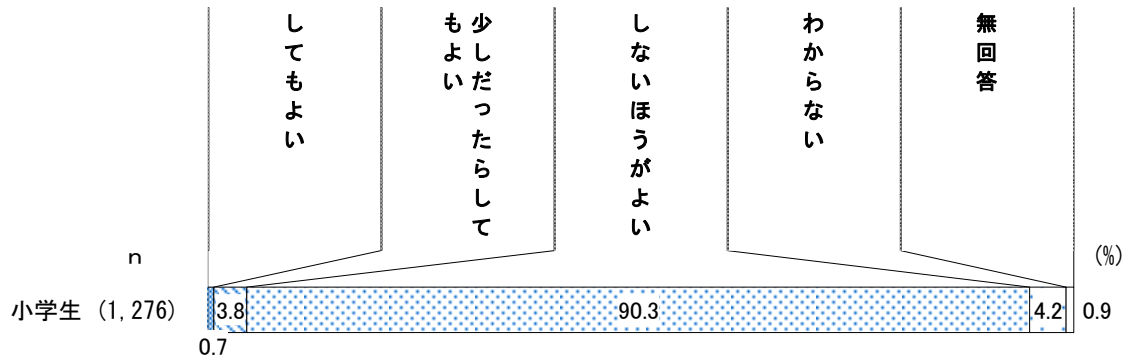
■空き缶やゴミを投げ捨てる

「空き缶やゴミを投げ捨てる」ことについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「しないほうがよい」が高く、ほぼ全数を占めています。



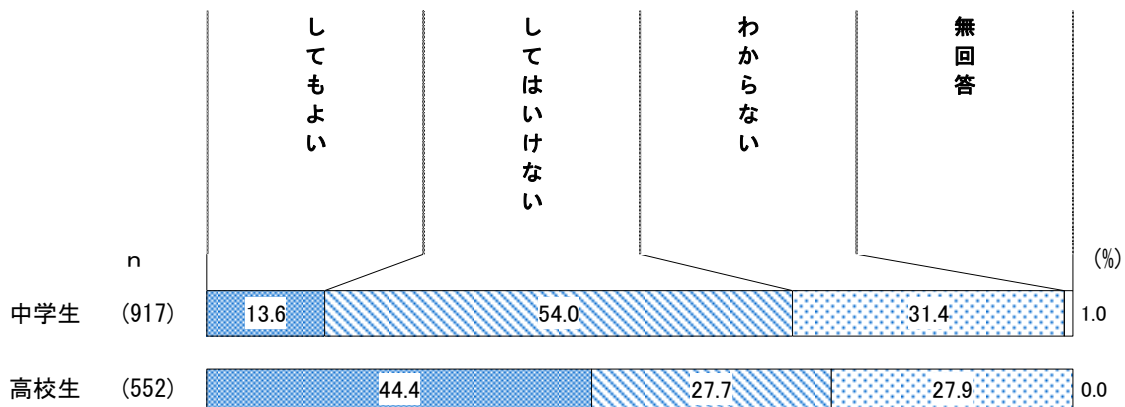
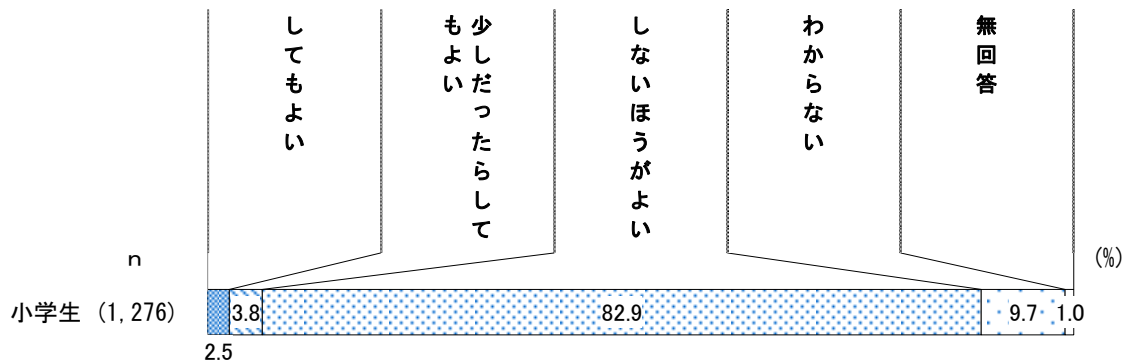
■友だちを無視する【小学生調査】

「友だちを無視する」ことについて「しないほうがよい」が90.3%を占めています。



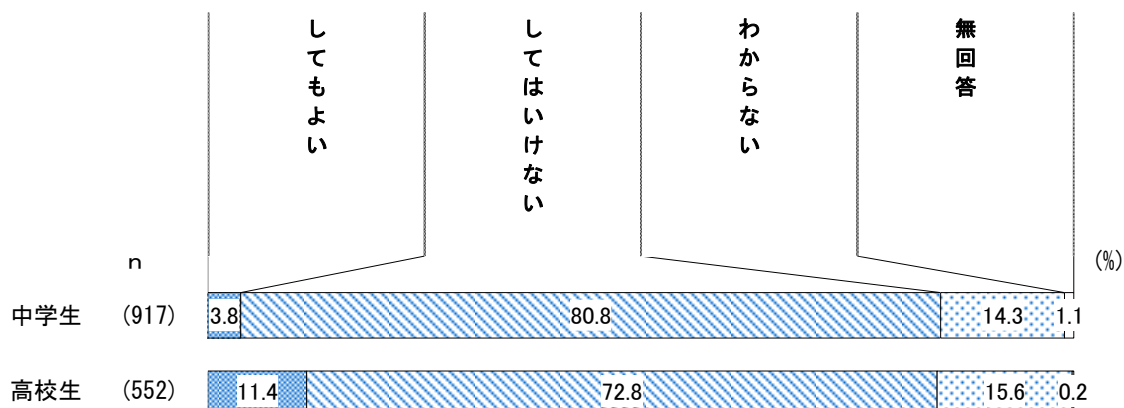
■いやらしい雑誌や動画を見る

「いやらしい雑誌や動画を見る」ことについて、小学生は「しないほうがよい」(82.9%)、中学生は「してはいけない」(54.0%)、高校生は「してもよい」(44.4%) がそれぞれ高くなっています。



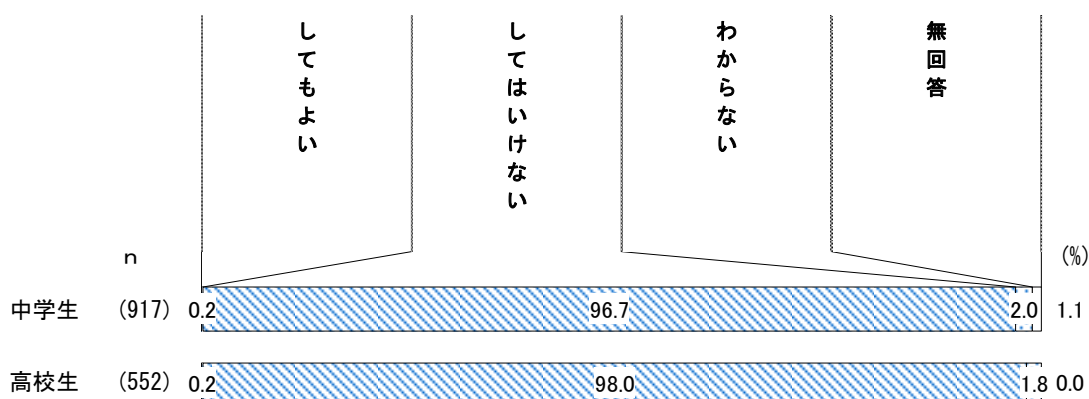
■無断外泊をする【中学生・高校生調査】

「無断外泊をする」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、中学生は8割、高校生は7割を超えています。



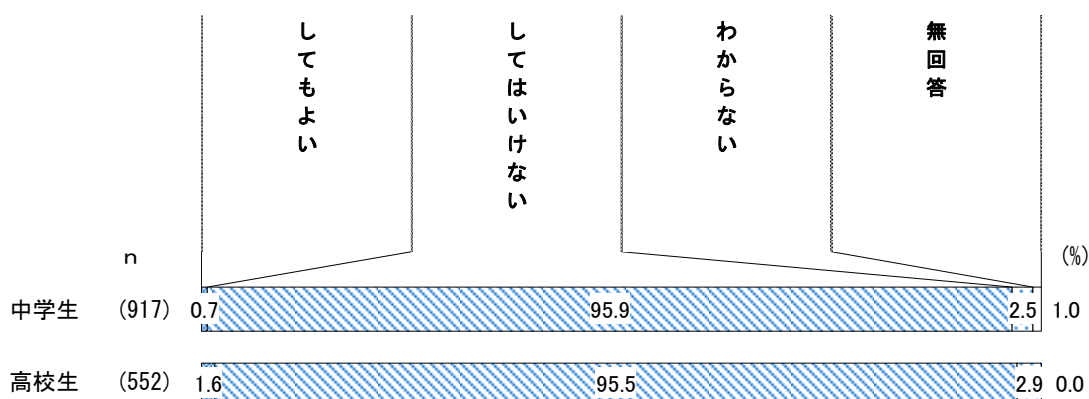
■万引きをする【中学生・高校生調査】

「万引きをする」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、中学生は9割台半ば、高校生はほぼ全数を占めています。



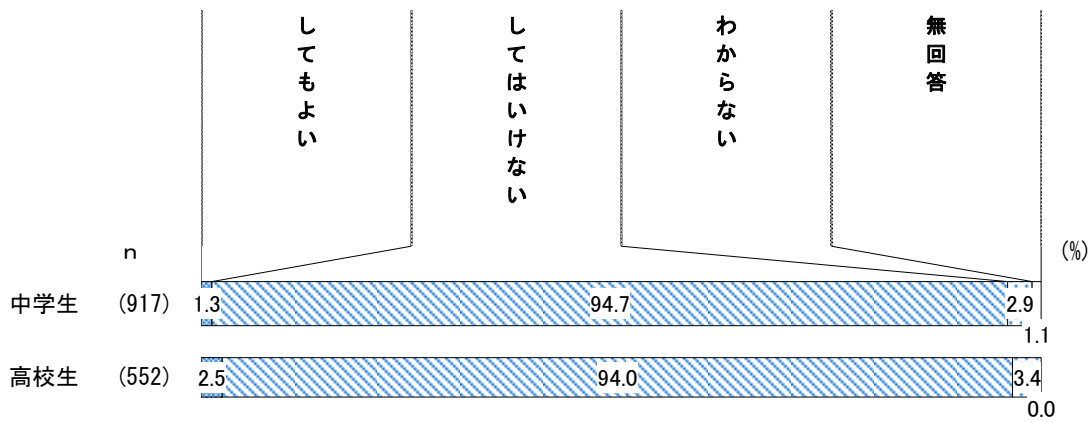
■タバコを吸う【中学生・高校生調査】

「タバコを吸う」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が9割台半ばを占めています。



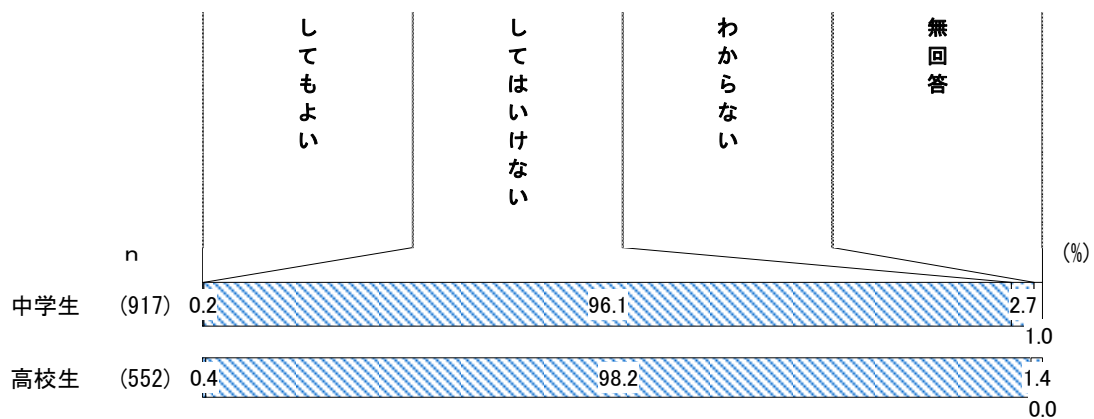
■酒を飲む【中学生・高校生調査】

「酒を飲む」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、9割台半ばを占めています。



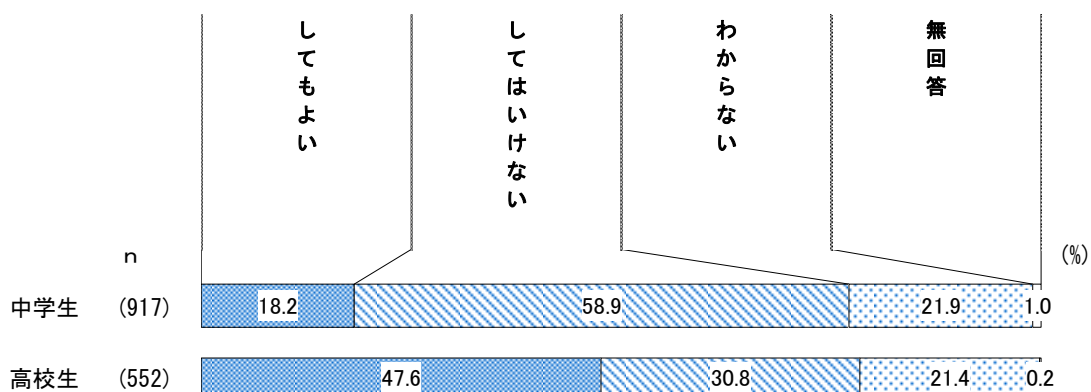
■覚せい剤等のドラッグ（薬物）を使用する【中学生・高校生調査】

「覚せい剤等のドラッグ（薬物）を使用する」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、中学生は9割台半ば、高校生はほぼ全数を占めています。



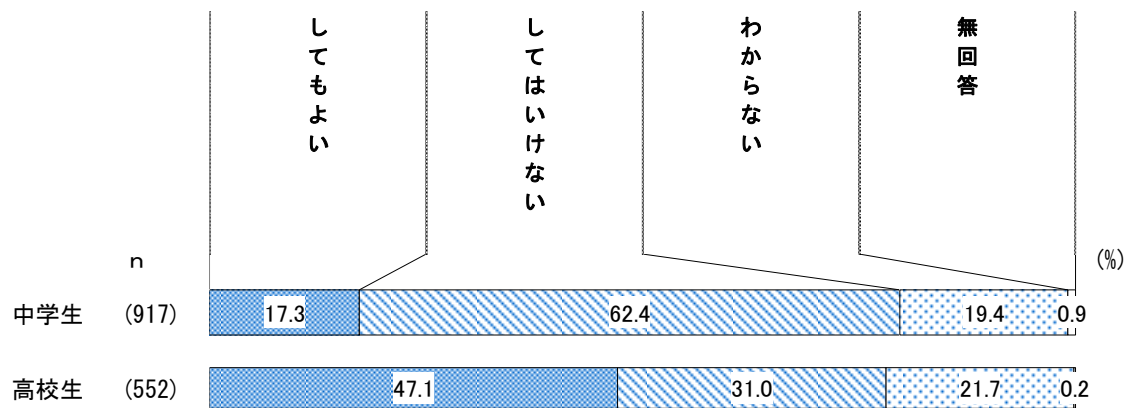
■髪を染めたり脱色したりする【中学生・高校生調査】

「髪を染めたり脱色したりする」ことについて、中学生は「してはいけない」(58.9%)、高校生は「してもよい」(47.6%) がそれぞれ高くなっています。



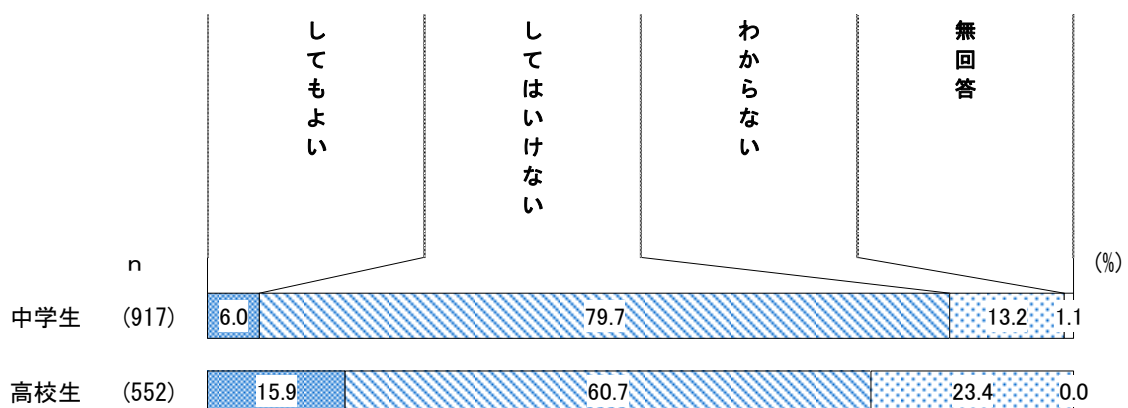
■ピアスをする【中学生・高校生調査】

「ピアスをする」ことについて、中学生は「してはいけない」（62.4%）、高校生は「してもよい」（47.1%）がそれぞれ高くなっています。



■タトゥー（入れ墨）を入れる【中学生・高校生調査】

「タトゥー（入れ墨）を入れる」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、特に中学生では約8割となっています。

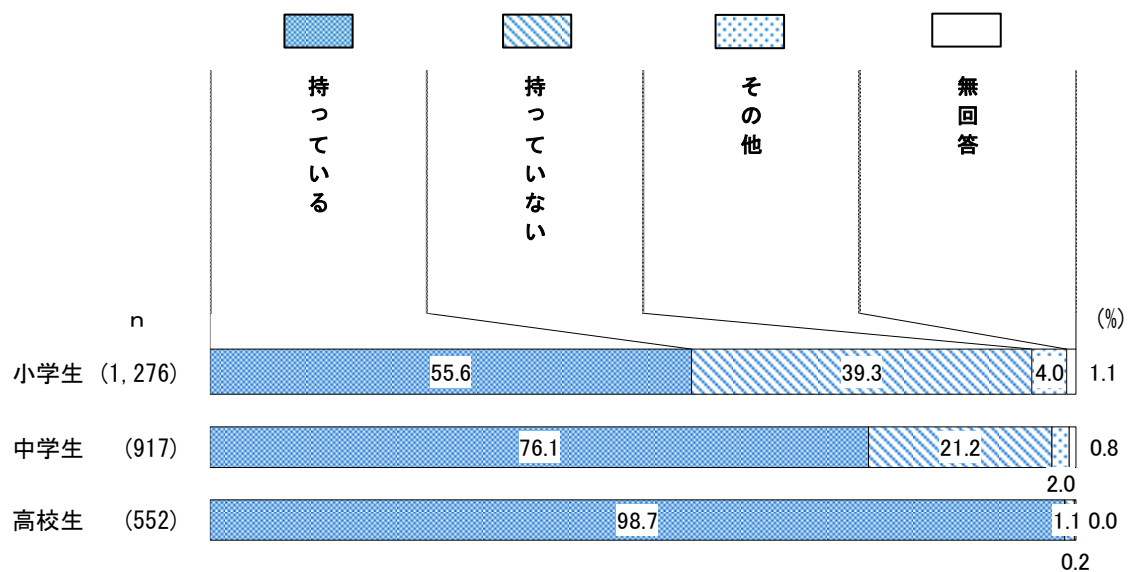


11 インターネットについて

（1）スマートフォン等の所持状況

Q：インターネットのできるスマートフォンをはじめとした端末機器を自分用に持っていますか。（学校から貸し出されている端末は除く）（○は1つ）

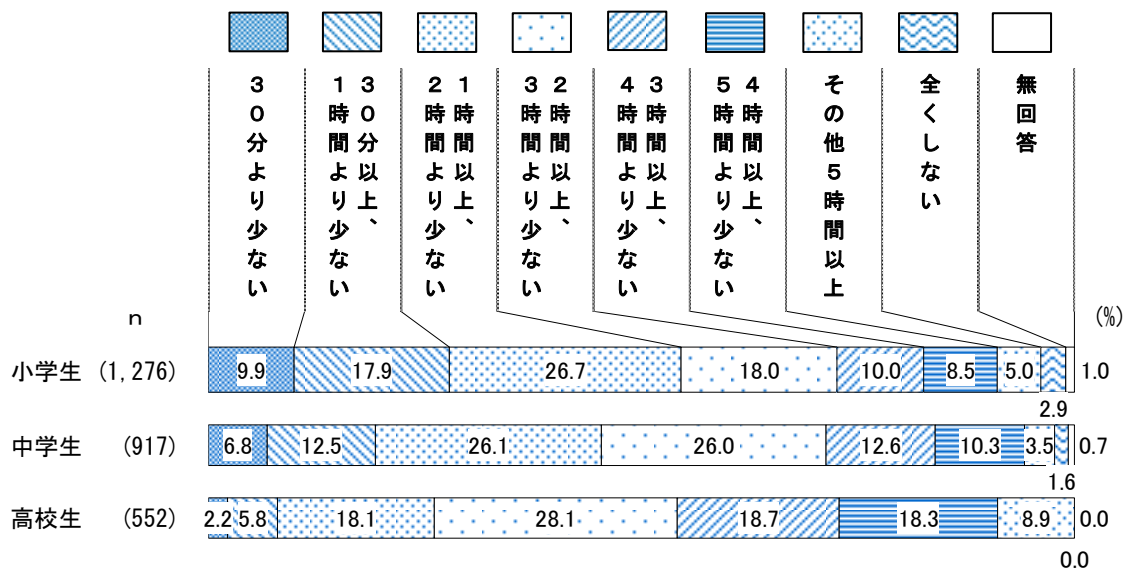
スマートフォン等を持っているかについて、小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて「持っている」割合は増加しており、高校生ではほぼ全数を占めています。



（2）スマートフォン等の利用状況

Q：1日あたりどれくらいの時間、スマートフォンやタブレットなどの端末機器を利用していますか。（○は1つ）

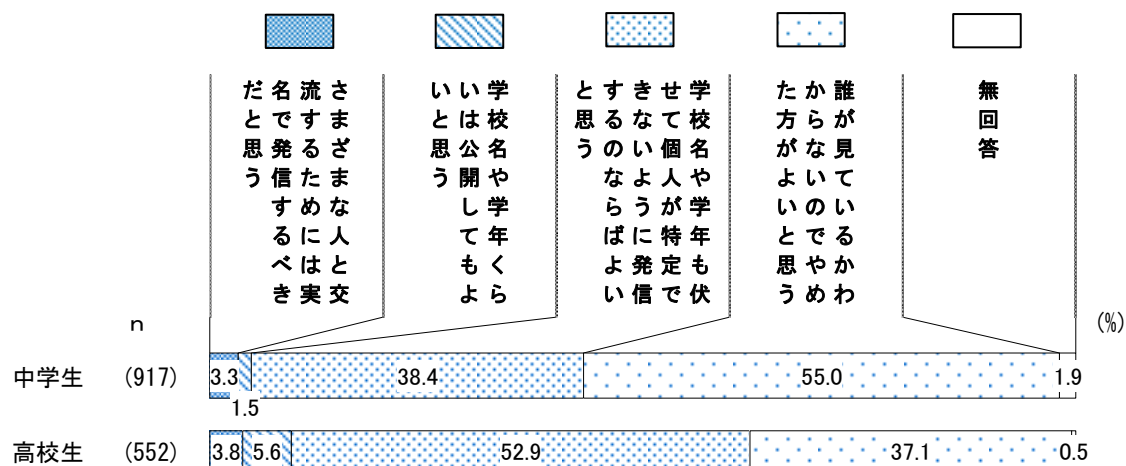
スマートフォン等の利用状況について、小学生は「1時間以上、2時間より少ない」（26.7%）、中学生は「1時間以上、2時間より少ない」（26.1%）、高校生は「2時間以上、3時間より少ない」（28.1%）がそれぞれ最も高くなっています。



（3）インターネット上に自分に関する情報を発信する【中学生・高校生調査】

Q：インターネット上に自分に関する情報を発信することについてどう思いますか。（○は1つ）

インターネット上に自分に関する情報を発信することについて、中学生は「誰が見ているかわからないのでやめた方がよいと思う」（55.0%）、高校生は「学校名や学年も伏せて個人が特定できないように発信するのならばよいと思う」（52.9%）がそれぞれ高くなっています。



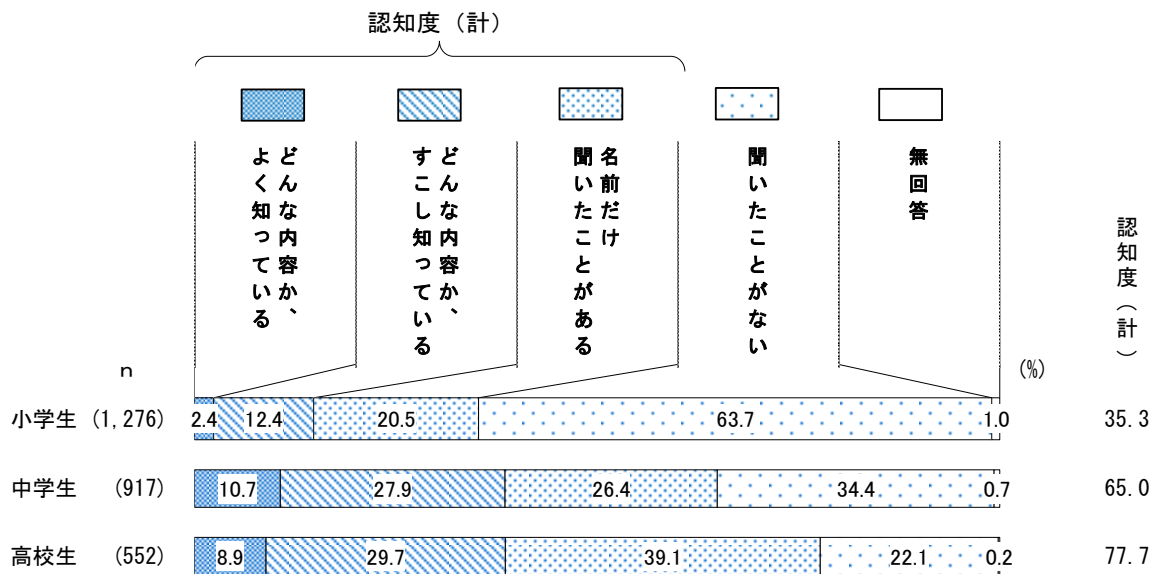
12 こどもの権利について

（1）子どもの権利条約の認知度

Q：あなたは、「子どもの権利条約」※について聞いたことがありますか。（○は1つ）

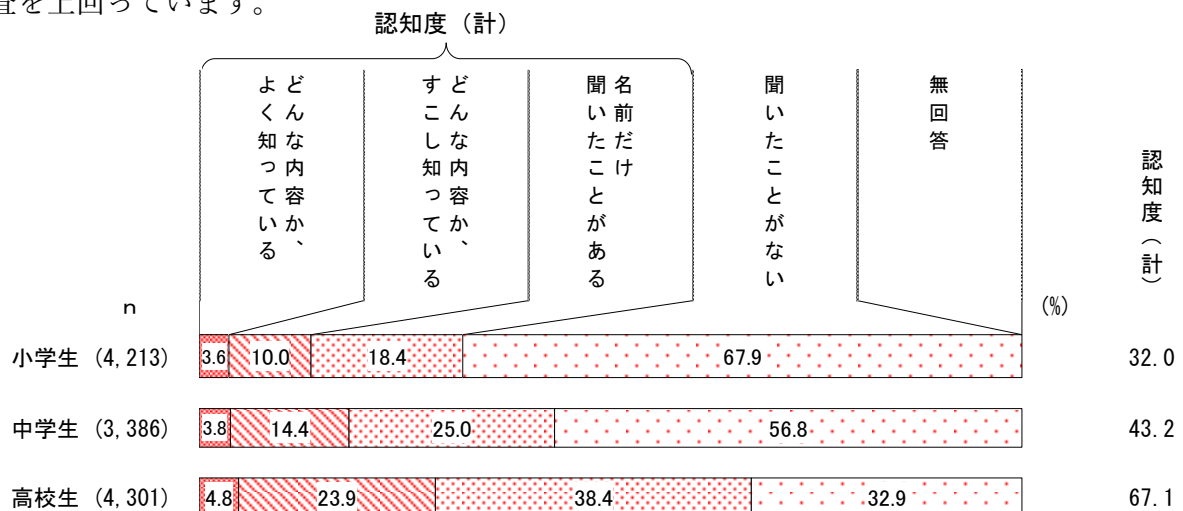
※「子どもの権利条約」とは、すべてのこどもが持つ人権を保証するために定められた、日本を含めた世界196の国・地域が批准している条約です。

子どもの権利条約について、「どんな内容か、よく知っている」、「どんな内容か、すこし知っている」、「名前だけ聞いたことがある」、「聞いたことがない」、「無回答」を合わせた《認知度 計》は、小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて割合は増加しており、高校生では約8割となっています。



全国調査※との比較

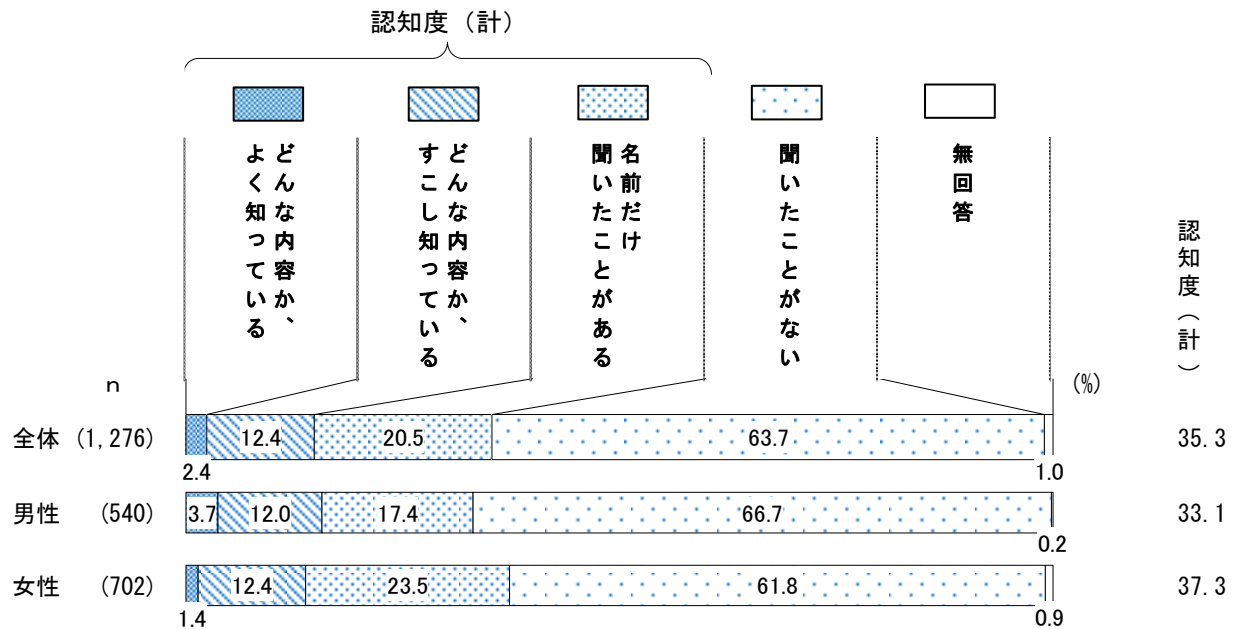
全国調査の結果をみると、認知度は小学生が32.0%、中学生が43.2%、高校生が67.1%となっており、市調査の小学生（35.3%）、中学生（65.0%）、高校生（77.7%）の結果はいずれも全国調査を上回っています。



※子ども家庭庁 児童の権利に関する条約の認知度等調査（令和5年度）

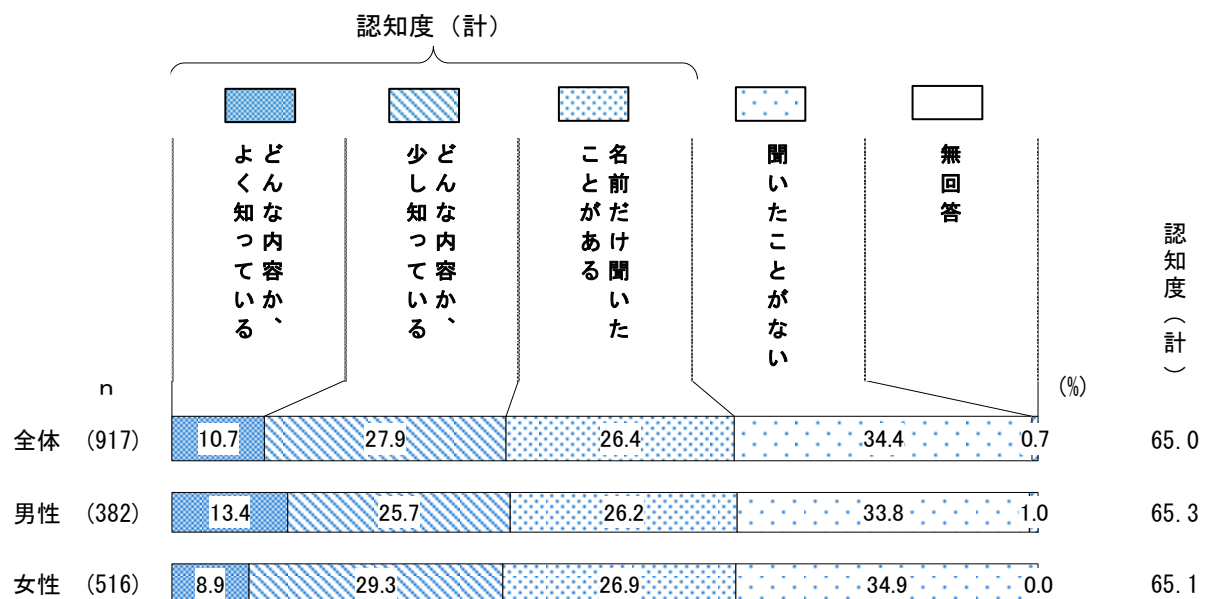
【小学生調査】

子どもの権利条約の認知度を小学生の性別でみると、《認知度 計》は女性の方がやや高いものの、大きな違いはみられません。



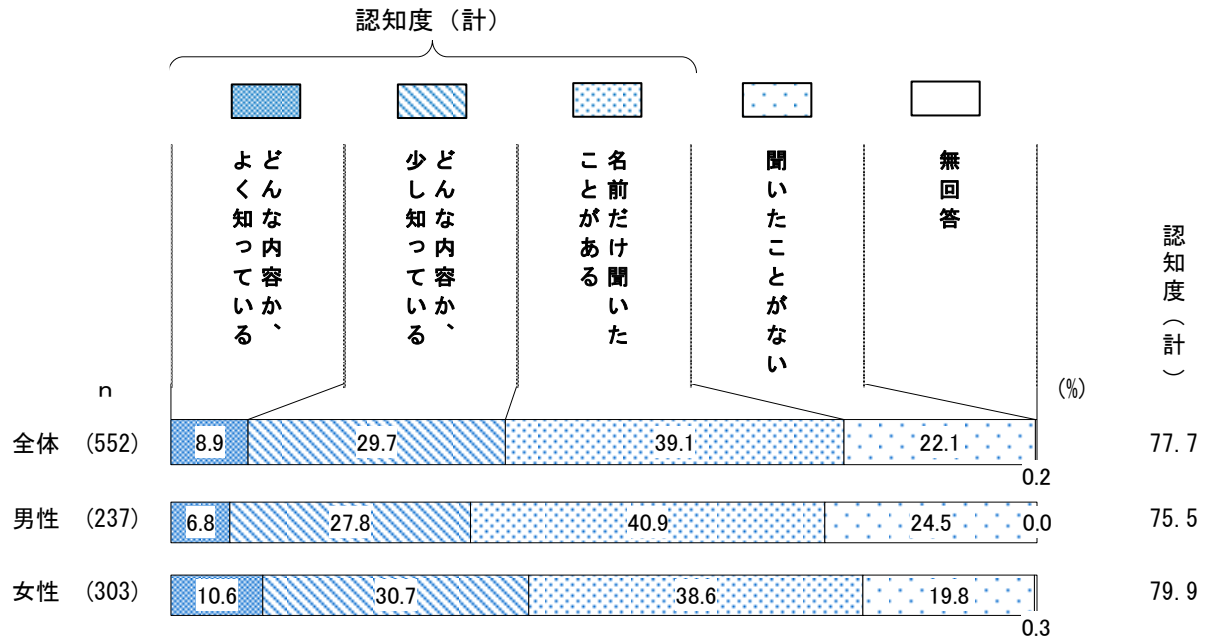
【中学生調査】

子どもの権利条約の認知度を中学生の性別でみると、男女で《認知度 計》は約65%とほぼ同率です。



【高校生調査】

子どもの権利条約の認知度を高校生の性別でみると、《認知度 計》は女性の方がやや高いものの、大きな違いはみられません。



（２）前橋市に必要なこと

Q：前橋市は、こどもの権利が守られて、すべてのこどもたちが安心して、健やかに成長できる社会の実現を目指しています。すべてのこどもたちが安心して、健やかに成長できる市を実現するために、前橋市に必要なことについて、あなたの意見を聞かせてください。（自由記載）

市への意見・要望を自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

▼こどもの権利（意見尊重など）に関すること

小学生
・子供の話をもっとよく聞いてほしい。 ・大人に伝わる、子どもの話し合いの場を設ける。 ・大人たちが勝手に私たちのすることなどを決めつけるのではなく私たちの意見を聞いて自分たちの好きにさせる方がいいと思う。 ・一人一人の個性、意見を尊重していけるようにしたらいいと思います。 ・みんな平等に、平和に差別なく豊かに暮らすことが必要だと思う。 ・差別や嫌がらせなどの心が傷付くような事が無く、みんな平等に生活できるように。 ・いろいろな障害(診断がつかないグレーゾーンと言われている発達障害なども)に対してもっと理解・支援を広げていじめや差別がなくなるようにして欲しいです。 ・人々がいろいろ支え合って、みんなで社会を作るのがいいと思います。前橋市は事件や事故などが少ないと思うので、みんなでもっと平和な社会を作っていきたい！
中学生
・子供の意見が尊重される社会の実現。 ・子供の意見を信じてくれる大人が居てくれる事。 ・いろんな子供達のことについて、理解しようとする事。子供達の気持ちについて、理解してあげること。 ・大人たちの判断で色々決めるのではなく、しっかりと子どもたちの意見を聞いて、それを取り入れるようにしてほしい。 ・誰もが平等に勉強や運動などができる環境をつくっていくことが必要だと思います。 ・自分や他人の個性を尊重できるような人間性を育む。
高校生
・子供達の意見をもっと聞き入れる体制を学校や市で整え、教師や権力のある大人に意見をしてもらい良い環境を整えるべき。 ・自分の気持ちや意見を素直に積極的に言えるような環境を作る。

▼悩みや相談に関すること

小学生
・相談できる場所を目立つ場所につくって欲しい。 ・もう少し子供が悩み事を相談できるところを増やしたほうがいいと思う。 ・スクールカウンセラーの人にもっと会う機会を多くして、悩み事を相談しやすくした方が良く思う。 ・いじめられている人や何か悩んでいる人が、このタブレットで簡単にお悩み相談をできるアプリを入れたらいいと思います。

▼悩みや相談に関すること（続き）

小学生
・子供だけでも相談できる場所があるといい。 ・病院や学校の専門の人に悩みを聞いてもらうことが出来ると知っていても、気軽に相談が出来ない(親や先生に話さないでだったり、そもそもどうしたら聞いてもらえるか分からなかったり)ので、子どもだけで、休み時間や放課後に簡単に相談に行ける環境をつくってほしい。親や友だちにはバレたくない悩みを打ち明ける環境がほしい。 ・他人には話せない悩みをかかえている人も少なくないと思うので、簡単に、気軽に話ができる環境をもっと沢山作り、多くの人に知ってもらう事が大切だと思う。また、学校や施設に貼ってある僕たち(子ども)向けのポスターをもっと増やして知ってもらい、協力してもらうのが良いと思う。
中学生
・悩みを相談できる場所を身近なものにする。(どんな悩みを持ってる人がいて、その人たちはそこに相談してどうなったかが分かるようなものがあると相談しやすくなるのでは) ・スクールカウンセリングなどについて、必要な人や特別な場合にのみ受けられるシステムではなく、なんでもない日常からカウンセリングの教室に気兼ねなく出入りできたり、カウンセラーの先生と接点を持てるような環境が学校の中にあるといいと思う。ヤングケアラーの実態把握や救済にも力をいれてほしい。 ・LINE や電話で相談できるという紙などはもらうけれど自信がなくて掛けられないです。私たちのもっと身近な場所に気軽に相談できる場所や思っていることを書く手紙などを受け取ってもらえる場所が欲しいです。今の自分だけでは考えが偏ってどうしようもなくなってしまうからです。 ・もっと子供一人一人が悩みや疑問を大人に相談出来る場所や環境作りをした方が良いと思う。大人も子供の事について、理解を深める場が必要だと思う。 ・虐待など外部の人間にはわかりにくく相談しにくいことが、さらに相談、通報しやすくできるようにしてほしいです。また、子育てをする人に向けた、虐待をしない(毒親にならない)ための講座のようなものがあると私が子育てをする身なら嬉しいし助かると思います。
高校生
・スクールカウンセラーの数が足りていないので、1校に1人常勤させるべき。1人のカウンセラーが何校も掛け持ちしているのは悩みを抱える生徒一人一人と充分に向き合えないと思う。 ・いじめや病気などで学校に来れない人の相談窓口を今よりも増やして、その人達が楽しく生活を送れるようにしてほしいです。そして、相談窓口があっても利用しづらいとってしまう人もあると思うので、気軽に相談できるような取り組みも必要なのではないかと思います。 ・誰もが気軽に話しに行ける相談所を設置。カウンセラーとかに話に行きたいと思ったことがあったけど、行くことに抵抗があったり、それを見た他の生徒とかにどう思われるかが心配でいけないことがあった。 ・進路のことや友人関係などたくさんの不安や悩みを抱えているけれど、友人や家族には言えない人もいると思うので、気楽に相談できて、相談事を親身に聞いてくれて共感してくれるような悩み相談所の設備を充実すること。 ・自分の生活において直接的な関わりがない人（学校の先生などでは無い）との受動的ではなく能動的に行われる悩み相談（全ての生徒に対して必須で行わなければならないなど）ができる機会。学校にもカウンセラーの人は来るが特定の場所に行く必要があり勇気がでない。自分の苦しみは他人と比べて一般的なものであるのか逸脱したものであるのか分からないので、その場所に訪れる資格があるのか不安である。相談したところで解決するわけが無いと思っているなどの理由からハードルが高くカウンセラーを頼りづらいと感じているため。 ・気軽に不満を吐き出したり相談できる場所(現実でも SNS 内でも)を作る。

▼いじめや不登校に関すること

小学生
・いじめを減らす取り組みをした方が良いと思う。 ・不登校の子供達や悩んでいる子どもが交流できる場をつくる。もっと楽しめる施設をつくる。 ・いじめを見たり、したりしたことはないですが、ニュースでよく聞きます。いじめはいけないことだと思います。いじめがなくなる前橋市になってほしいです。 ・いじめっこなどは注意しても聞かないので誰にでも優しくする日みたいなのを作ったりしたらいいんじゃないかと思う。
中学生
・学校でのいじめ問題にもっと取り組んでほしい。 ・すべてのこどもが学校に行きやすいような環境づくり。（いじめにいち早く気づき、生徒も教師に報告しやすいような環境） ・僕は小学校から不登校です。心と体の健康を守ることがとても大変です。 大人も子どもも元気で安心して住める優しい市になってほしいです。 ・学校に行けていない子や周りとは少し違う子に対して、もう少し目を向けるべきだと思います。
高校生
・アメリカでは子供が学校を休むと理由によっては親が保護責任を放棄したとされて追求されることがあるそうです。そこまで厳しい措置をとってほしい訳ではありませんが、自分たちで手に入れた権利なのだから学校を休むというのはどうなのかなと思います。もちろん不登校の理由について色々あるのは承知の上ですが、周りにも心配をかけるし、〇〇だからといって学校に行かなくなるのは自分の可能性を余計に狭めている気がします。不登校児の数も年々上昇しています。社会に優秀な人材を輩出するためにも、そういった人々を無くすのが大事なかなと感じました。 ・いじめ防止に、より力を入れることだと思います。前橋市内の高校で生活する中、高校生になると道徳の授業はなくなり、いじめ防止についての講談会があまりないと感じました。私は年齢が上がるとインターネットやいじめの重みがより強くなると思いました。スクールカウンセラーはいても、あまり相談しにくいと思う方もいると思うので、いじめを根本的になくす対策を高校生向けにより力を入れる必要があると思いました。前橋市ではいじめ防止について対策していますので、より尽力してもらいたいと思います。

▼学校や教育に関すること

小学生
・ちゃんと話を聞いてくれる先生がたくさんいるといいと思う。 ・嫌な事があった人や、嫌なことがあって自分を傷つけてしまった人達が、ちゃんと悩みを言えるような環境づくりを学校などでもっとして欲しいです。 ・すべての子どもたちが平等に健康に暮らせるように、将来役に立てるように楽しく学べる学校にしてほしい。 ・もっとタブレットを使った授業や、ネットマナーなどの授業があったほうが良いと思います。 ・学校の行事をみんなが楽しくできるように、学校の児童にアンケートをとって意見を取り入れた方がいと思う。また、学校の行事を増やしたら、あまり話さない人などと交流できたり、信頼もできるのでその方がいいと思う。 ・今も安心して、すこやかに成長しているので、今の教育のままでいいと思います。

▼学校や教育に関すること（続き）

中学生
・中学校の休み時間を伸ばして、先生と話す時間が欲しい。 ・女子生徒のスラックスを許可している学校は増えているが、男子生徒のスカートを許可している学校はとても少ないと感じる。男子もスカートかズボンか選べるようになればいいと思う。 ・中学校は義務教育でやるような勉強ではなく、自分の将来のことに時間を注ぎ込めるようになると思います。人生は一度きりなので、自分が本気で就きたい仕事に就職できるように、中学校でも就職したい仕事に就けるようにできる限りサポートしてくれるといいと思います。 ・自分の存在を理解するために、学校の校則をもっとゆるくするべきだと考えます。自分らしく生きるということを望んでいる人が多いと思います。 ・たくさんの情報がある社会で、いずれは自立していかなければいけないと感じることが多いため、学校の校外学習をもっと増やすべきだと思います。そのなかで得た情報を自分の中で理解し、正しいのかを見極められる力が向上するのではないかと考えます。そして、校外学習での経験を通して、自分の将来のことにについて考えられるきっかけにもなると、なお良いと思うからです。 ・高校まで義務教育にして欲しい。 ・医療や福祉の体験型の授業をふやしてほしい。
高校生
・何らかの障がいのある子どもでも安心安全に通えるように、保育園や小中学校の設備を改善して彼らを受け入れられるような教育を進める。 ・学校に行かないという選択肢をもう少し身近なものにしてほしい。 ・学べる環境が充実していることだと考えます。私は学校に行って友達と接したりして元気が出たりするし、教育の場で対面で学びたいので学校に行くのが好きです。ですが私のような考えの人ばかりでは無いと思いますし、実際、不登校の人数が増えているのも事実としてあります。大事なのは学校に行っても行かなくても学ぶことだと私は考えます。学ぶことで自分の将来に何かしらプラスに働くと思うので、一時の気持ちで学びを止めるのではなく、全ての人が自分のために学び続ける必要があると思います。なので、学校に行く人も行かない人も学習できる環境があり、その方法を周知されていたらとてもいいと感じます。 ・環境を整えるというより、子供自体がどんな環境でも対応できる知識や教育が必要だと思います。

▼居場所や街の活性化に関すること

小学生
・子供が安心できる居場所を作ること。 ・落ち着いてゆっくり過ごせる場所を増やす。（図書館など） ・犯罪や事件が起きない町作りをして欲しいです。友だちと身体を動かして遊んだり、話しをしたりできる安全安心な無料で使える施設を作って欲しいです。
中学生
・図書館や公共施設など子ども達が安心して集まれる場所を沢山作ってほしい。 ・中学生も楽しめるようなイベントや施設をもっと増やしてほしいと思う。
高校生
・県庁所在地なのに私たち高校生のような若者が楽しめる施設が少ないと思います！友達と遊ぶときはいつも高崎なので、前橋も素敵な商店街や伝統ある駅周辺を若者向けの商業施設や飲食店で盛り上げてくれたら嬉しいです！！

▼居場所や街の活性化に関すること（続き）

高校生
・図書館や公園などの施設が充実していたり、イベントが充実していたり、道路が整備されていたりと、こどもが安全に暮らせ、さまざまな体験ができる環境が整ってきていると感じているので、今の状態を市民の方々と協力しながら維持していただきたい。 ・他の市のような大型商業施設があると若者の人口流出が少し防げるのではないかと思います。実際に友達間でそういう話になります。 ・年代別の子どもたちがのびのび遊べたり、飲んだり食べたり、写真を撮れたり、勉強できるスペースを作る。 ・前橋は高崎などと異なり、生産年齢人口の人々、学生など前橋市を担うであろう人々にとって魅力になりにくい施設にお金を使っており、前橋に遊びに行こうとはならない都市であると感じます。そのため、同じように税金を得ているのならば、駅近、または駅隣接で、学生が遊べるような場所を設けた方が、即効性に加え、長い目で見ても活気の溢れる都市になると思います。それにより、市民同士、県民同士の関わりも増え、子供たちにも交流の機会が生まれて良くなると思います。 ・もっと子供が楽しめる施設や遊べる施設を増やすと良いと思います。また、悩んでいる子供が気軽に相談したり、居心地がいいと思える環境をつくる必要があると思います。

▼街の安全確保に関すること

小学生
・街灯を増やす、十分な歩道を確保する、道路の白線をはっきりとさせるなどを期待します。 ・交通事故の危険がある道路を、安全な道路にしてほしいです。
中学生
・冬の夜は、暗くて自転車通学が少し危ないと感じるので街灯を増やして欲しいです。 ・登下校中では歩行者、自転車専用道路がきちんと整備されていて照明（街灯）も整備されていた方が安心して生活ができます。 ・登下校の道路の街灯や道の補修により危険を減らす。 ・通学の利便性。（公共機関の充実や学生の乗車代の減額） ・自転車と車の事故などを減らすために道路整備をした方が良いと思います。
高校生
・冬とかはすぐ暗くなるから下校時に辺りが真っ暗なことが結構あるので、もう少し街灯ほしいです。 ・もっとバスの本数を増やすか、自転車が使いやすい町にしたい。 ・交通の便を整えて欲しい。特に電車。 ・自転車や歩行者が安心して通れる道路にする。 ・車通りが多いので、カーブミラーなどの交通系の設備を強化していただきたいです。 ・自転車用の道路、通路を作ることを希望します。歩道通行が可能な場所もありますが、登校中の小中学生やご年配の方々が安心して移動でき、自転車側も加害者になる不安がなくなるため効果的だと思います。子どもとご老人が共生する市を目指すことで、明るい前橋市が続いていくと考えています。 ・街灯が少ない地域も多いです。中高生は部活で帰りが遅くなったりして暗い時間帯に帰ることが多いです。暗いから集団でなるべく帰ってと指示されますが帰る方向が合わない人は単独で帰ることになり危ないと感じることがありました。 ・不審者を無くすためにパトロールを増やす、街灯を増やして暗くて怖い道を無くす、空き家などの危険な場所を無くす。

▼遊びや体験、交流に関すること

小学生
・自由に遊べて遊具がいっぱいある広い公園を増やしてほしい。 ・自転車に乗れたりボール遊びなどスポーツがもっとできる公園が欲しい！今の公園はネットがないからボール遊びをするとボールが飛んでいってしまうから！小さい子の遊具はあるけど大きくなると楽しくない。 ・雨の日も遊べる施設や広い公園などがいると思います。理由は雨の日は部屋でこもって SNS を長時間使用してしまうからです。広い公園は、ボールが使えない公園があったり、狭くて2グループしか遊べないという事があったからです。 ・もっと色々な体験がしてみたいです。日本の伝統文化や地域の伝統文化などを体験してみたい。 ・もっと地域のイベントなどを増やして交流を深めたほうがいいと思う。 ・年齢や性別に関わらず、好きなことを話したり、情報交換ができるようなイベントを開催する。
中学生
・多くの年代の人が楽しめるイベントをつくる。 ・地域活性化のために、自由に参加することができて楽しそうなイベントを企画する。 ・部活やクラブ、学習活動といったことが親の収入に関わらず誰でも経験できる環境が町の公民館ごとにあればいいと思う。
高校生
・今、子供達はインターネットや SNS などにより外出することが減少し身体能力が低くなっている、公園などに遊べるように遊具などを増やしたほうがいいと思う。 ・僕の地域では小学校の頃、育成会地域活動が盛んな方でした。【上毛カルタやスマイルボーリング、地域文化祭など】学年に関係なく交流できて、よい経験でした。中学生になってからは、部活動が中心になってしまいましたが、小学生の時の体験は貴重だったと思います。 ・若い世代とお年寄りの世代の交流の機会をもっと設けて、地域間のつながりを強めることが必要と考えます。そうすることで地域の人と連携して安心して暮らしていける環境づくりができると思います。 ・前橋市がさらに成長するためには 前橋市の自然や歴史を活かしてみたり、芸術やスポーツ・文化など発信することによって周りの方と交流して意見を集めて行動して成長して新しい前橋市を作ることができると思います。みんなが安心して健やかに成長し、一人一人が活躍できるそんな場所になってほしいと思います。 ・子育てしている方やその子供と、高校生の関わりがあるといいと思う。別の県の事例で、高校生が子育てしている方から子育て中の楽しみや大変なことを聞いたり、子供と触れ合ったりする「高校生の子育て支援」というものがあると教科書で知った。これを行うことで、子育てをしている方は普段は言えない悩みや共感してほしい楽しみを高校生と分かち合うことができる。また、高校生は教科書ではわからない、リアルな子育ての話を聞くことができ、大きな勉強になると思う。「高校生の子育て支援」で、今の子育て世帯への援助だけでなく、未来の子育て世帯に子育てについて学ぶ機会を与えられることができ、市全体で成長すると思う。高校生の私も何か子供のためにしてあげたいと思っているので、高校生でも参加できる子育て支援があったらぜひ参加したい。 ・自然などをできる限りで良いので残し、自然との繋がりや自然の大切さ・魅力・必要性を重視して伝えることが自分の意見です。 ・自治体運営の習い事を増やし、他学年・他学校との関わりをもつことでより前橋市を好きになれる。

▼支援に関すること

小学生
・できたら、みんなが給食を無料で食べられるようにしてほしいです。 ・全ての子が食べ物に困らず、元気に登校できるように、もう使わなくなったものを無料でゆづったりご飯を無料でいろいろなところで支給したりする。 ・給食費や私立の学校に行く場合のお金を助成してほしい。 ・お母さんお父さんが子育てしやすいように工夫したら、子どもたちも安心して過ごせると思います。 ・学校の費用を全額無償化に、高校も無料に
中学生
・小中義務教育の間は、給食、学用品、修学旅行費など全ての子どもに平等にかかる費用はもっと負担をなくしてほしい。 ・小学校、中学校、高校、大学の無償化 ・教育がしやすいようにもう少し補助金などに力を入れて実現してくださると助かります
高校生
・大学生になって進学するときにたくさんお金がかかるため、進学時に物を買うときに支援する制度があったほうがいいと思う。 ・全ての世帯が金銭的な余裕を持って子供を育てられる環境づくり、援助。 ・高校、大学の費用を軽減または無償化する。 ・高校生までの医療費無料は大変有難い。資格試験等学びたい人への補助をお願いしたい。 ・お金のことで悩まずに望むことができる社会になるといいと思う。学びたいものを学べる環境になってほしい。 ・現状、お金もちの家とあまり持ってない家との間で学習に不平等が生じていると思う。お金を持っていると学習塾などに入れることができ成績が伸びる。しかし、お金をあまり持っていない人たちはいくら勉強にやる気があったとしても、塾に入れることができず成績は伸びづらいと思う。その差は将来の就職に影響し、貧富の差がますます拡大していくと思う。頑張った分の努力が公平に反映されるような、学習環境の差を埋められるような対策が必要だと思う。

▼その他

小学生
・ポイ捨てをしないこととゴミを川などに捨てないようにすること。
中学生
・今のままでも十分健やかに成長できると思います。 ・今、環境問題や地球温暖化などの様々な問題が起きているからゴミを捨てないようにしたりゴミを拾う人が増えたらいいと思います。
高校生
・市は優先順位をよく考え、何が大切か見極めて欲しいです。はっきり言って今の世の中、市にまでも疑いの目を向けてしまうような方が以前よりも多いと感じます。なので不信感や、今の若い世代の政治への無関心さをなんとかするため市の取り組みについて知る機会を設けたり若い世代が興味を引くような取り組みが必要だと思います。現に私も市がどのような取り組みをしているかあまり詳しくありません。具体的な案は出せませんが少しでも市がより良くなりますよう心から願っております。

第4章 こども・若者意識調査

(独身者、既婚者、子育て中の保護者)

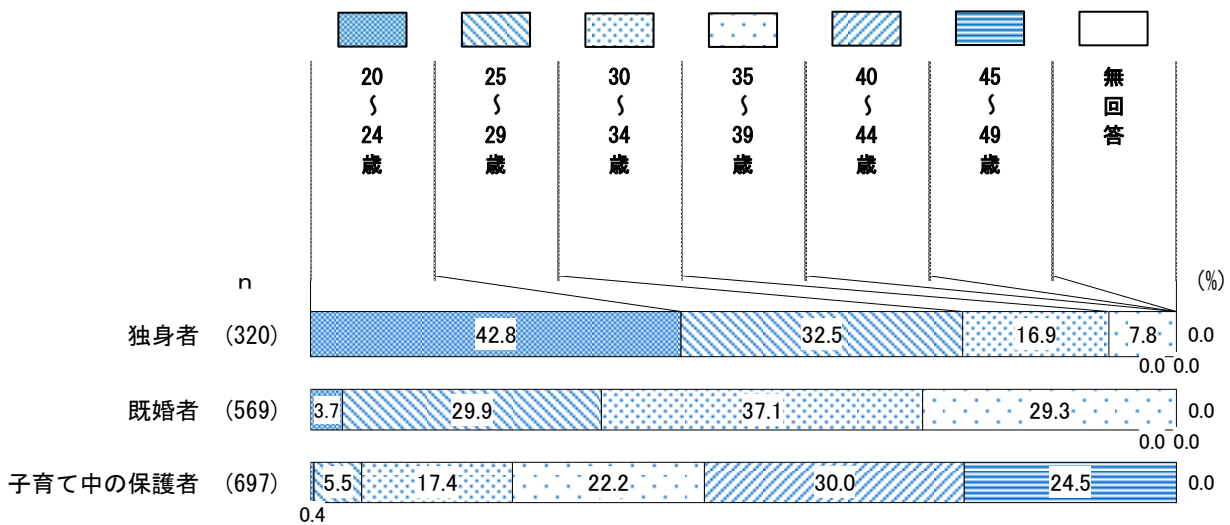
結果詳細

こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）結果詳細

1 属性について

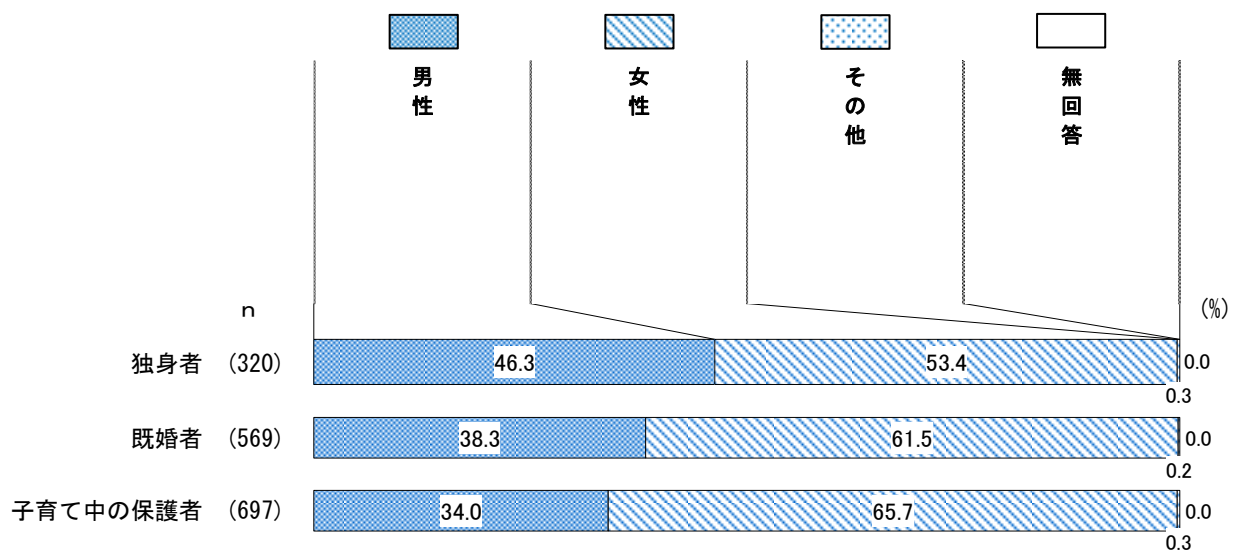
（1）年齢

Q：あなたの年齢をお答えください。（○は1つ）



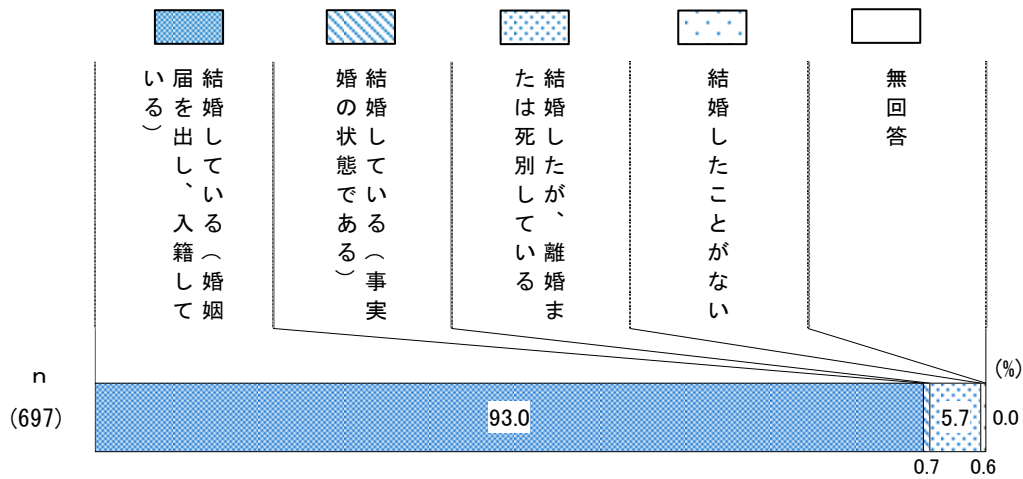
（2）性別

Q：あなたの性別をお答えください。（○は1つ）



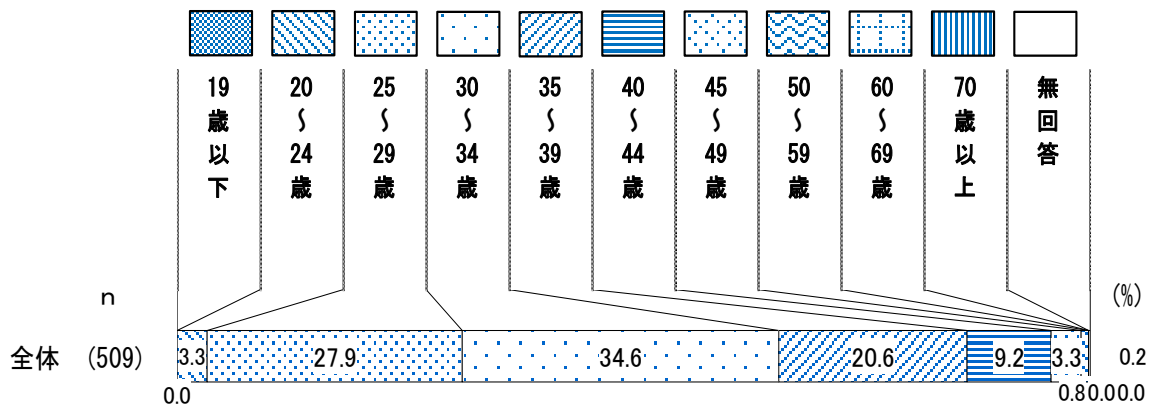
(3) 婚姻状況【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは現在結婚をしていますか。（○は1つ）



(4) パートナー（配偶者）の年齢【既婚者調査】

Q：あなたのパートナー（配偶者）の年齢をお答えください。（○は1つ）

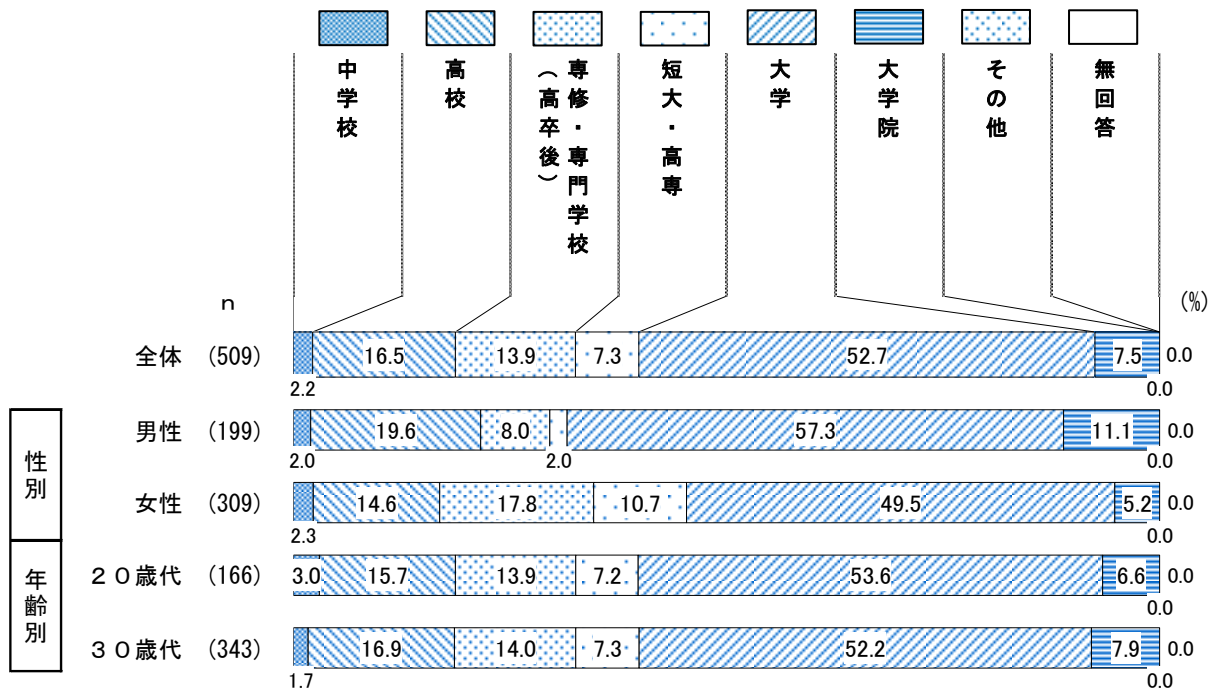


（5）回答者とパートナー（配偶者）の最終学歴【既婚者調査】

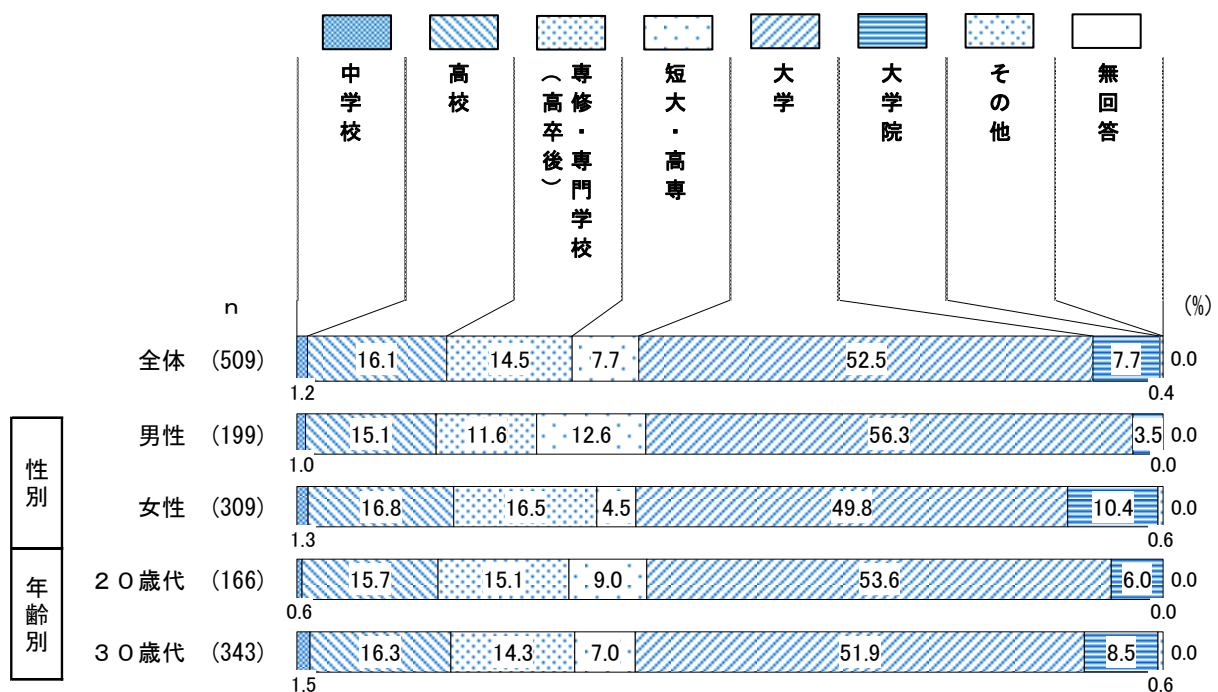
Q：あなた方ご夫婦それぞれについて、最後に卒業された（あるいは在学中の）学校をお答えください。（○は1つ）

※本調査ではパートナーの性別は聞いていませんが、男性回答者のパートナー(配偶者)を女性(妻)、女性回答者のパートナー(配偶者)を男性(夫)とみなして分析しています。

■あなた（回答者）

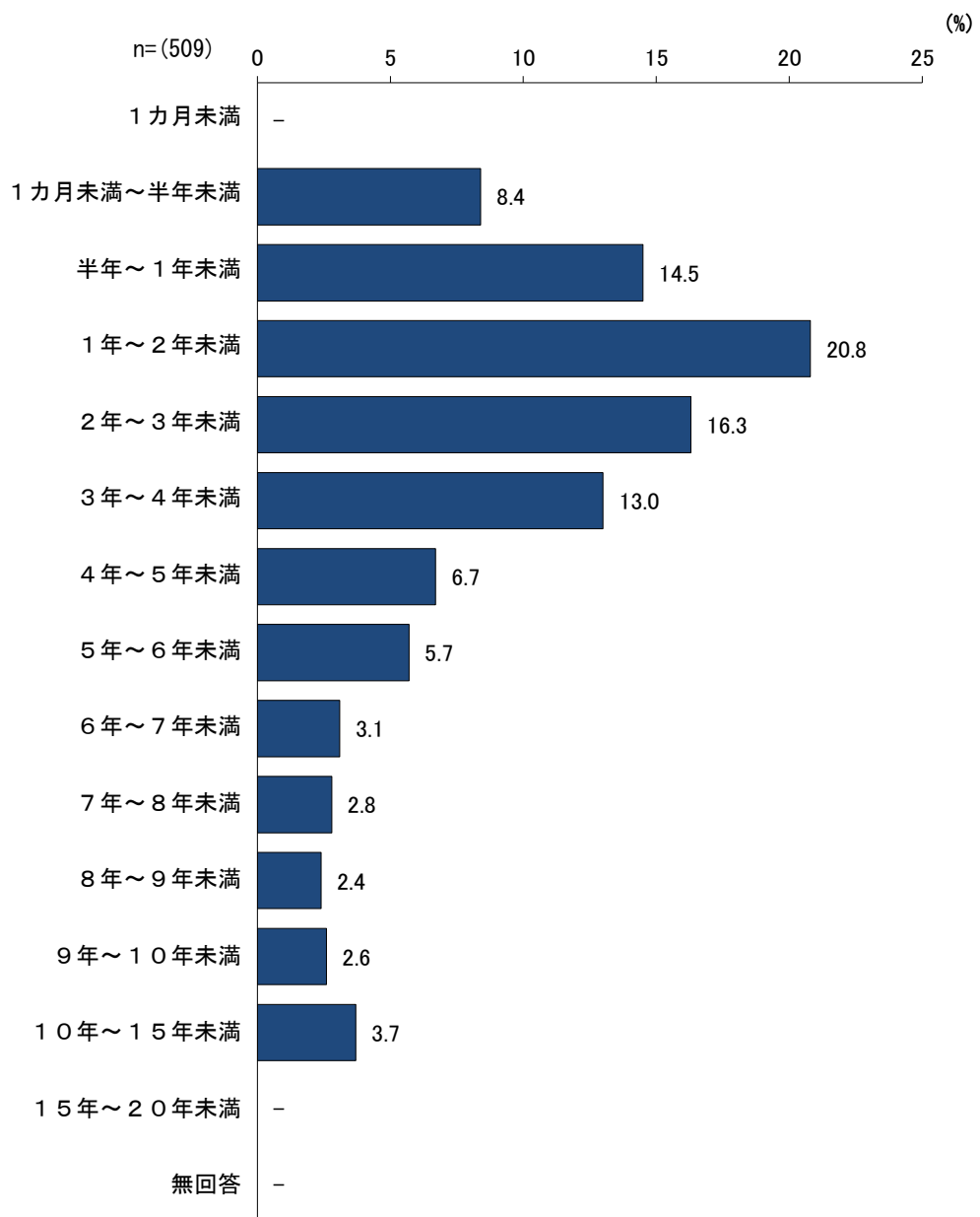


■パートナー（配偶者）



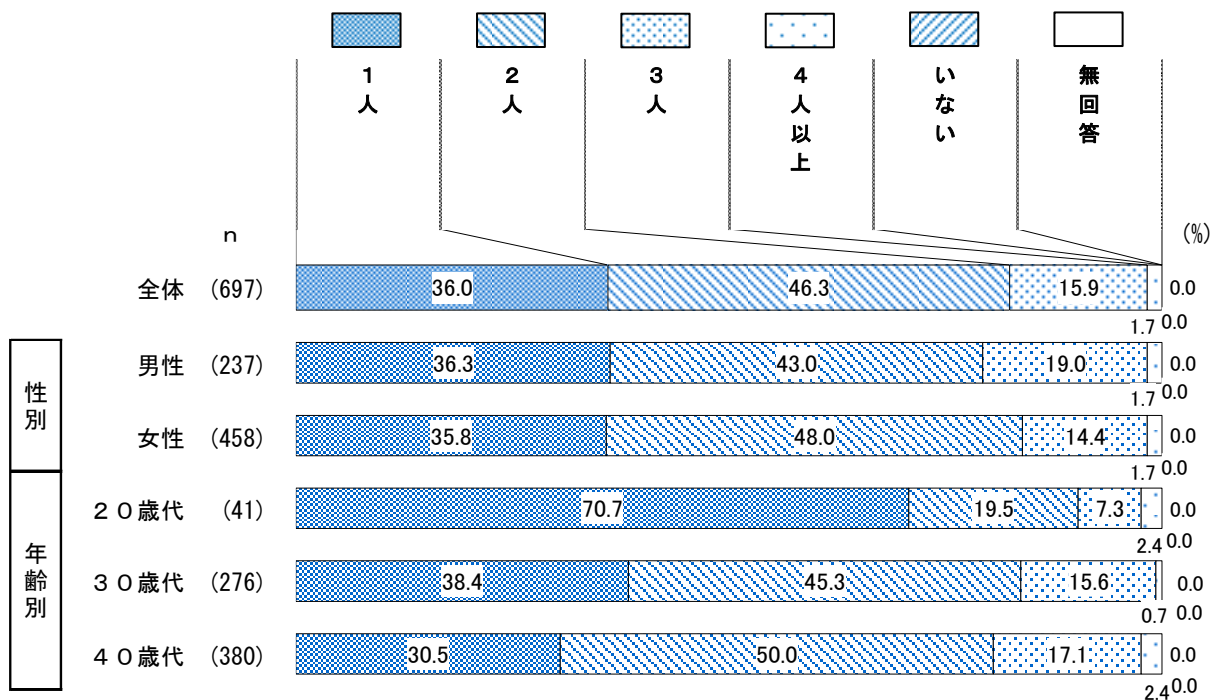
（6）結婚からの経過期間【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦の結婚からの経過期間についてお答えください。（○は1つ）



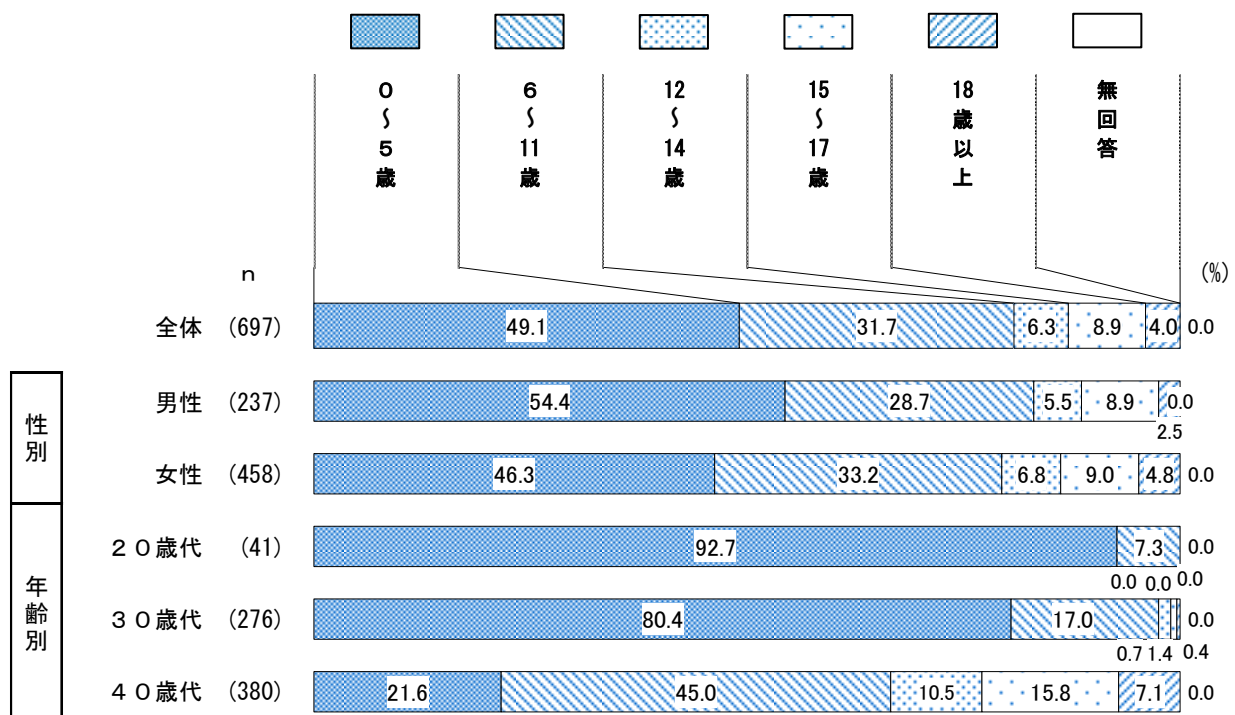
（7）子どもの数【子育て中の保護者調査】

Q：あなたはお子さんが何人いますか。（○は1つ）



（8）子どもの年齢【子育て中の保護者調査】

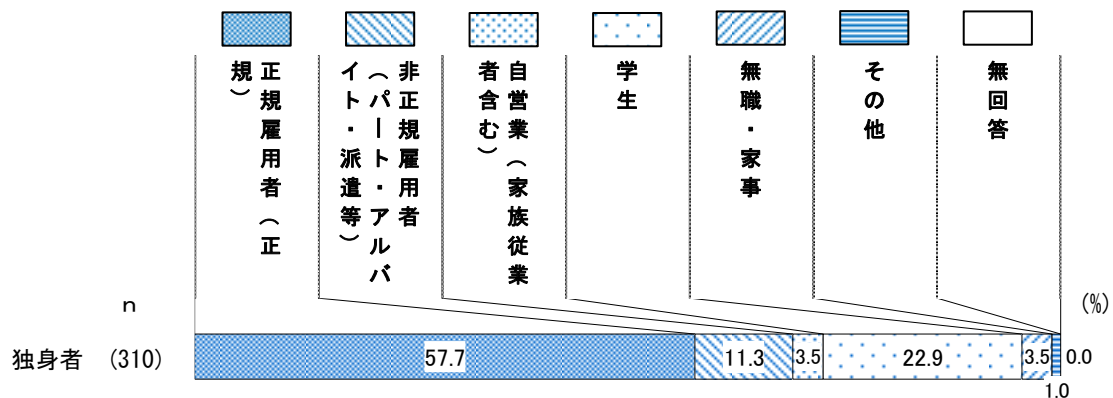
Q：お子さんの年齢をお聞かせください。2人以上いらっしゃる場合は一番下のお子さんの年齢を教えてください。



（9）回答者（とパートナー（配偶者））の職業

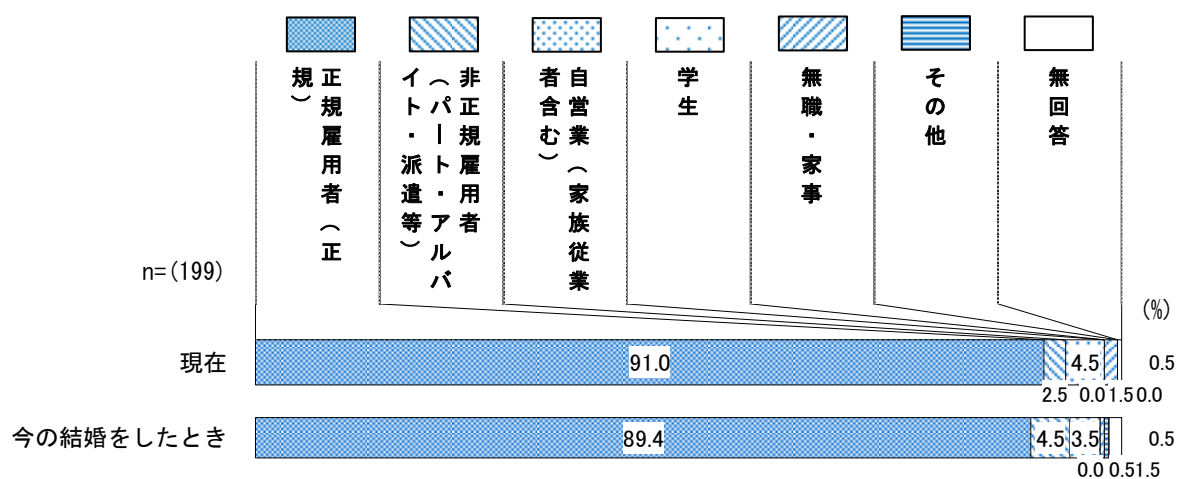
Q：あなたの職業をお答えください。（○は1つ）

【独身者調査】

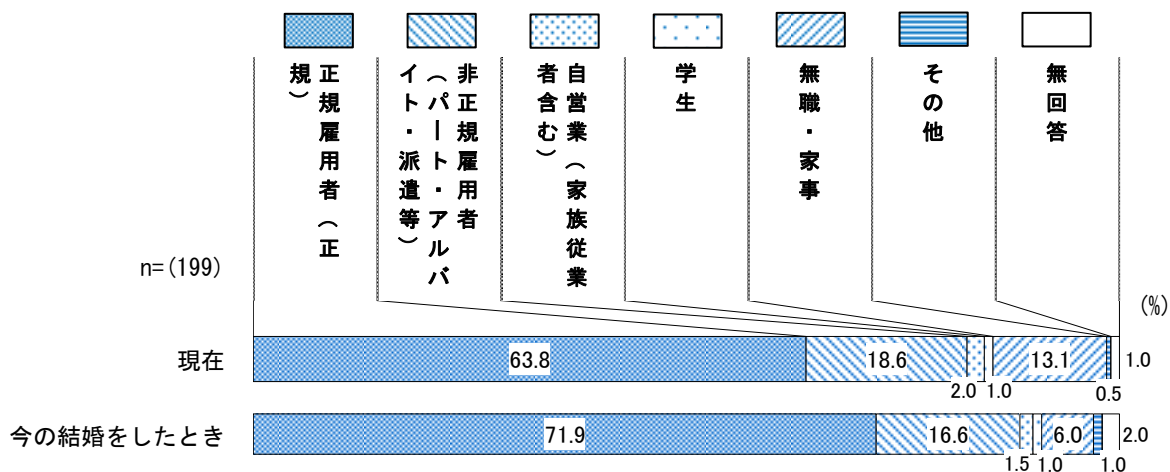


【既婚者調査】

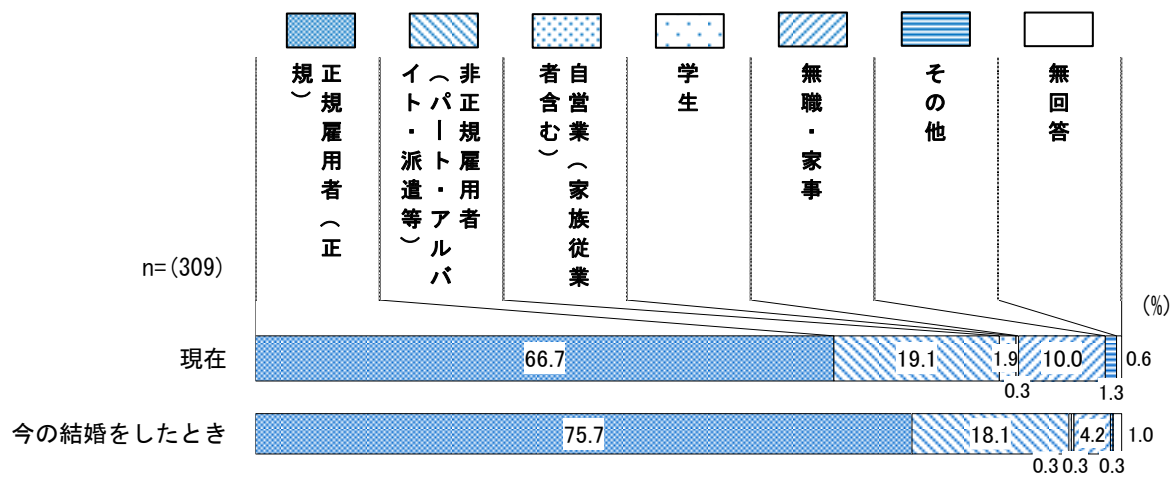
■あなた（回答者）／男性回答



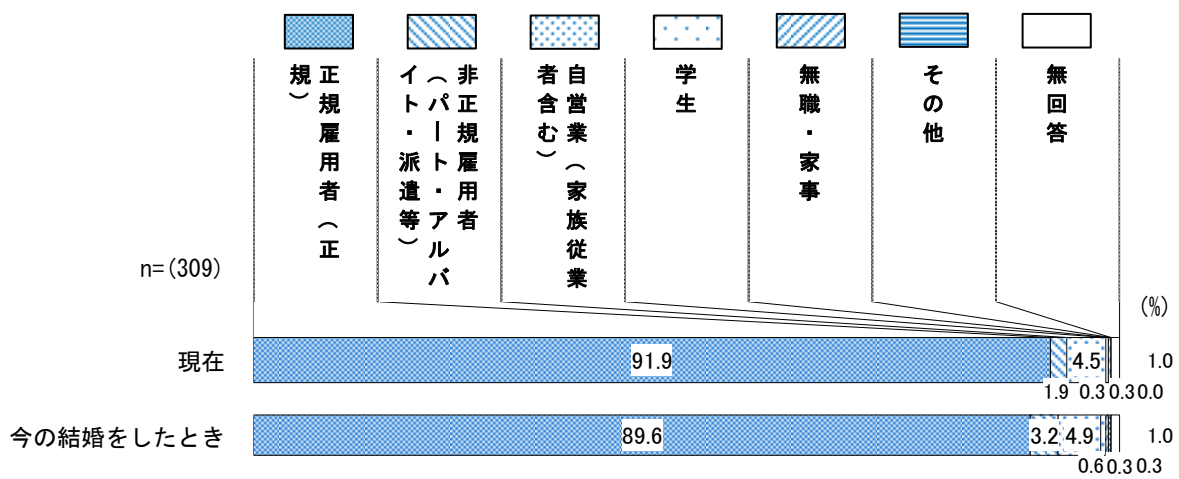
■パートナー（配偶者）／男性回答



■あなた（回答者）／女性回答

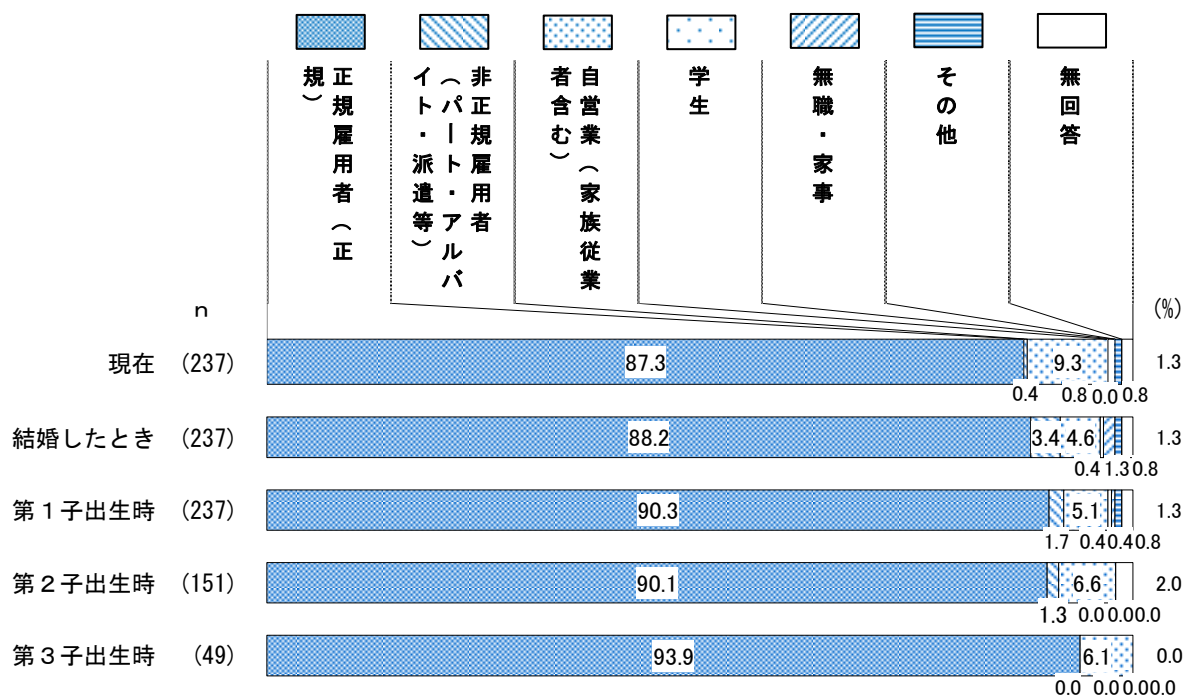


■パートナー（配偶者）／女性回答

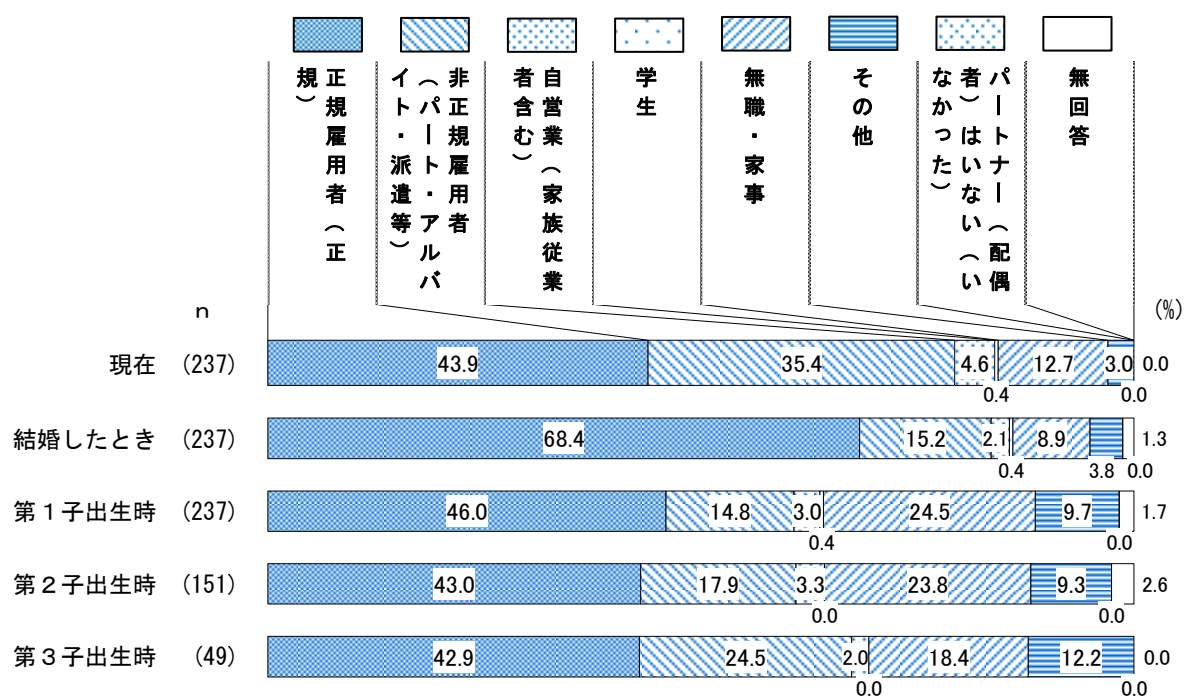


【子育て中の保護者調査】

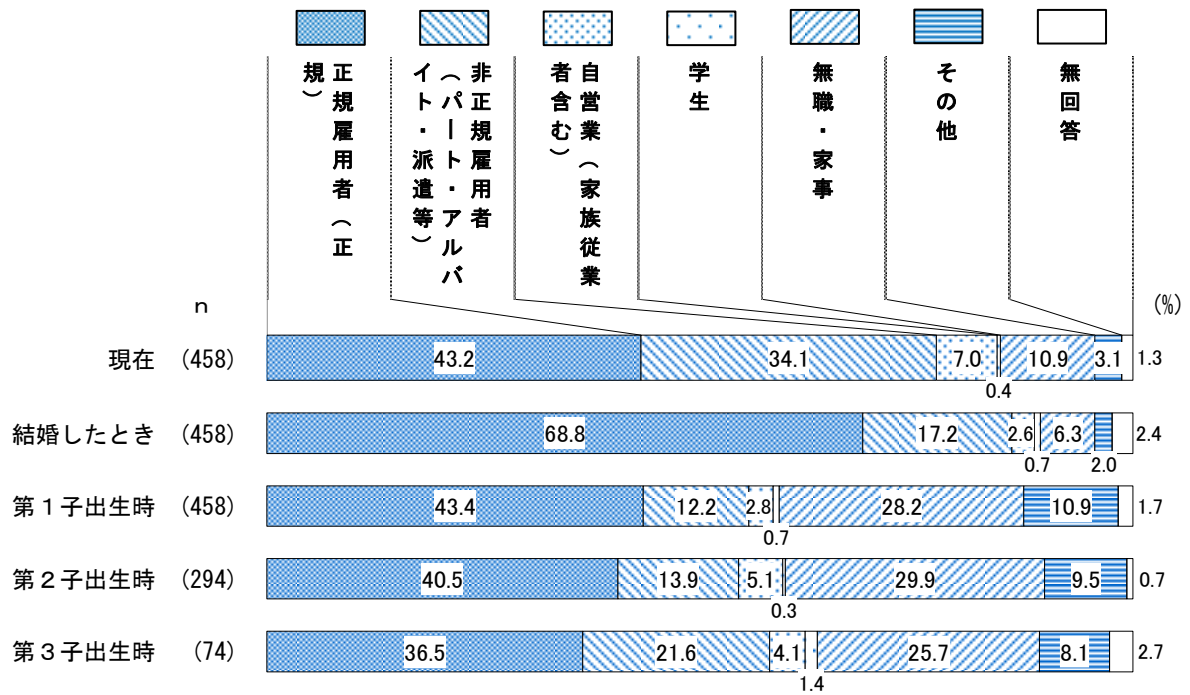
■あなた（回答者）／男性回答



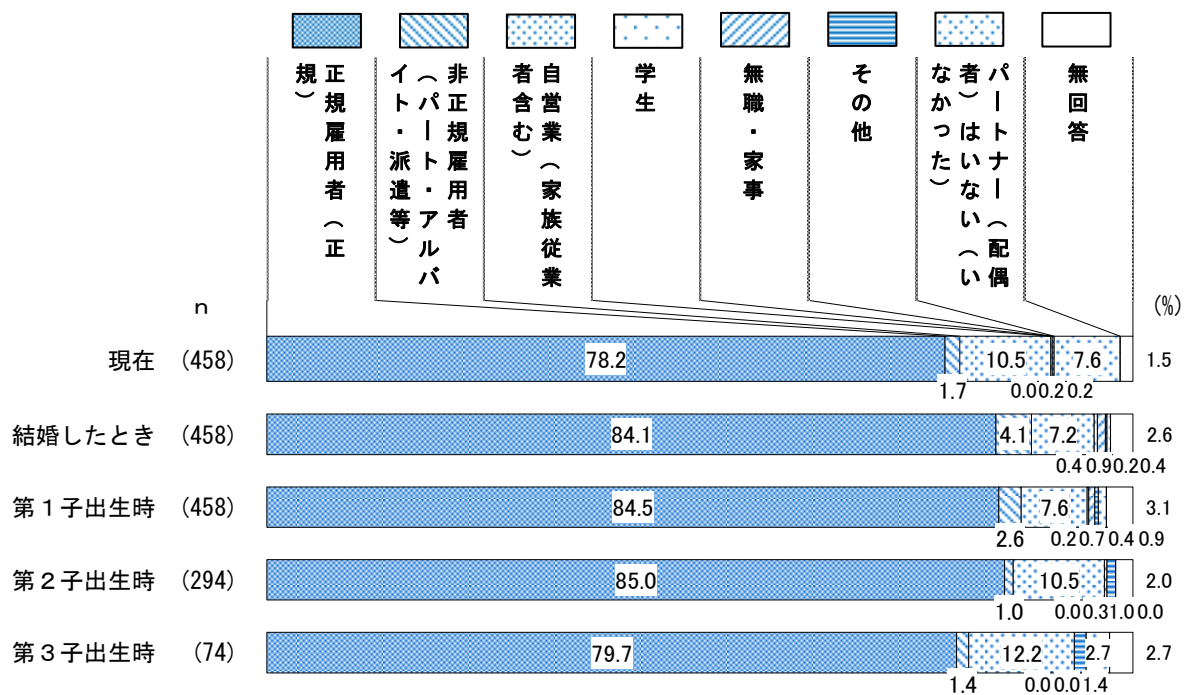
■パートナー（配偶者）／男性回答



■あなた（回答者）／女性回答

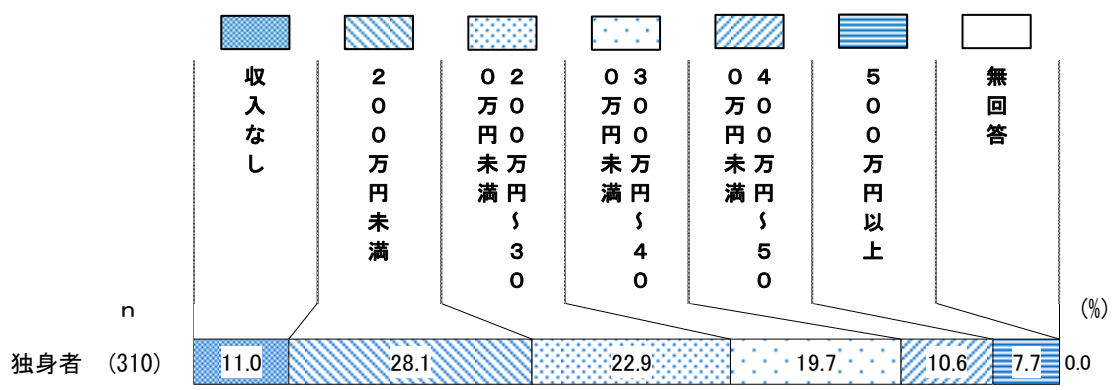


■パートナー（配偶者）／女性回答

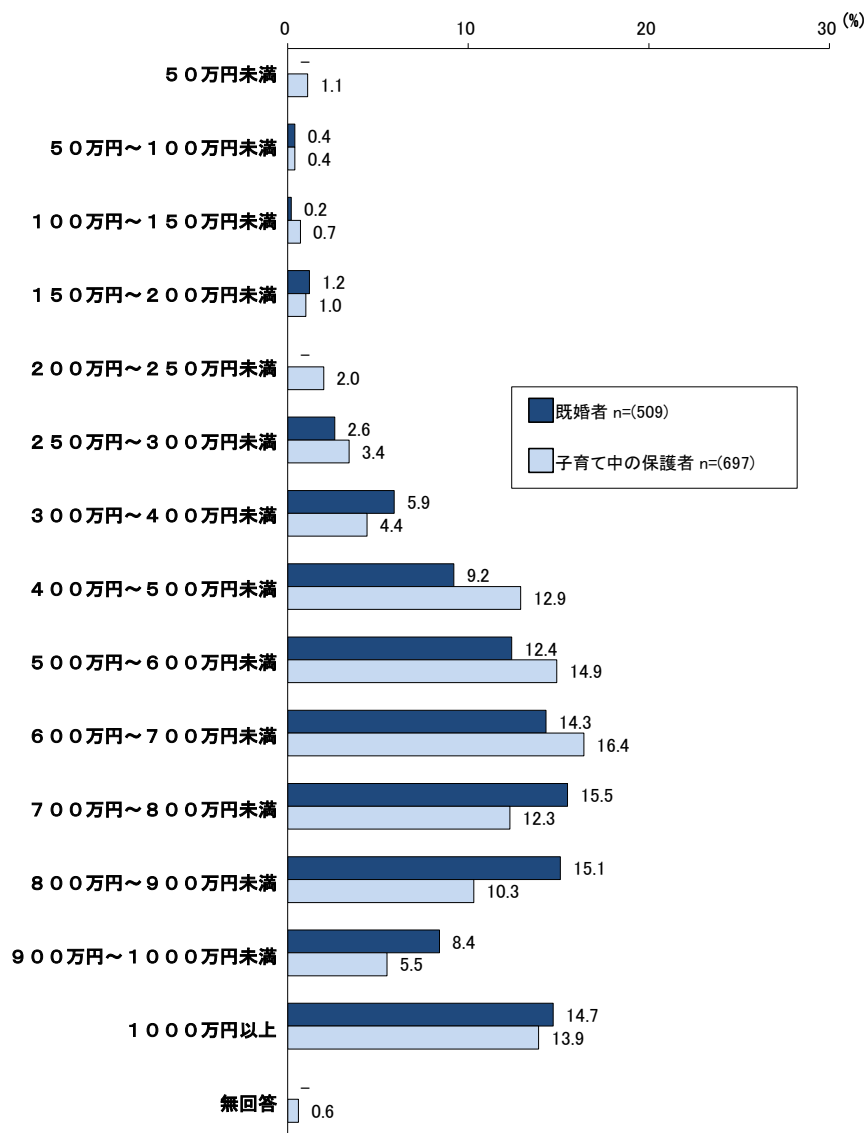


(10) 世帯年収

【独身者調査】 Q：あなたの年間収入を教えてください。（○は1つ）



【既婚者調査・子育て中の保護者調査】
Q：あなたとパートナーの収入を合わせた、2023年における世帯の収入を教えてください。（○は1つ）



2 結婚について

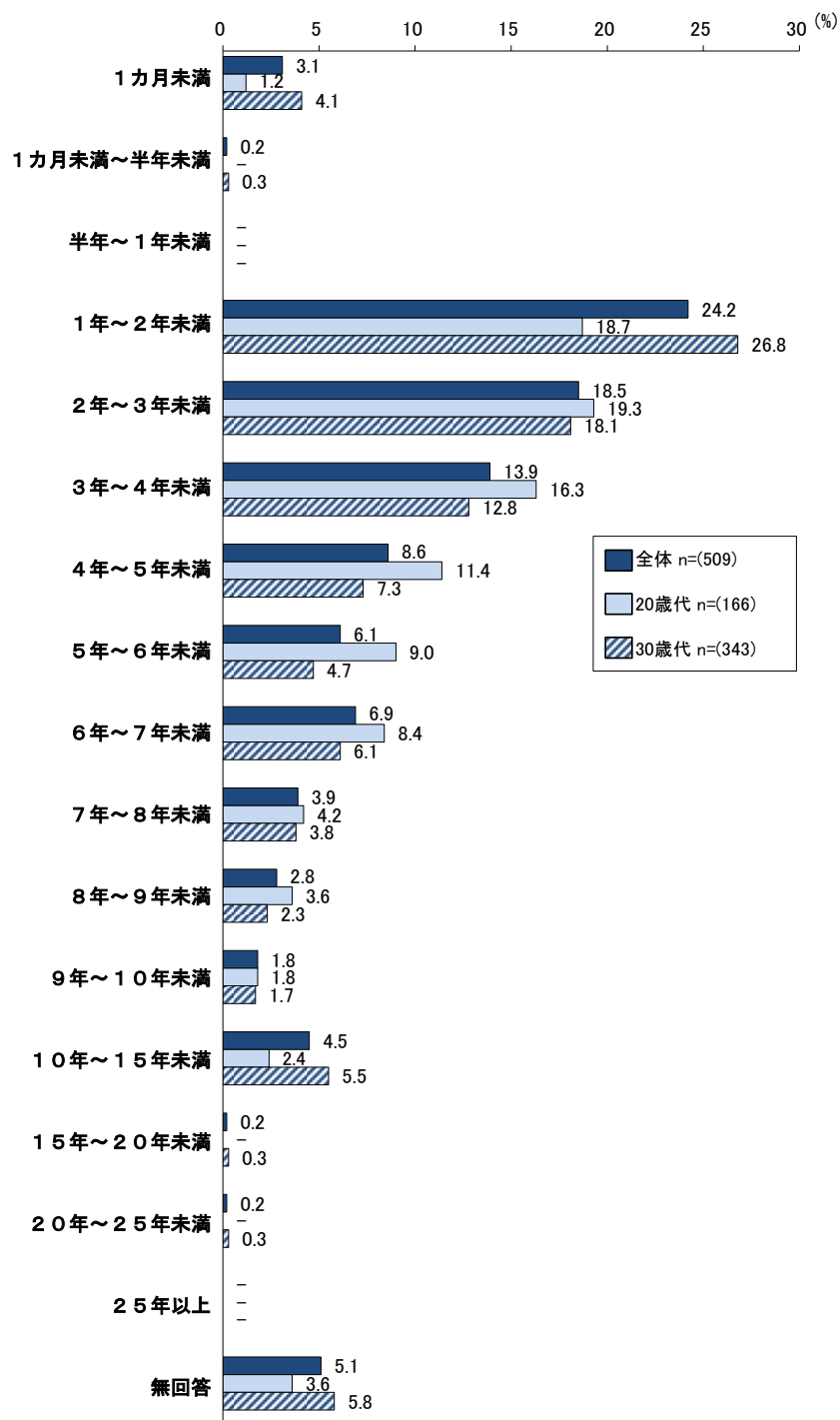
（1）交際期間・同棲期間【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦の(1)交際期間、(2)うち同棲期間をお答えください。

■結婚までの交際期間

交際期間は「1年～2年未満」が24.2%で最も高く、次いで「2年～3年未満」が18.5%、「3年～4年未満」が13.9%となっています。

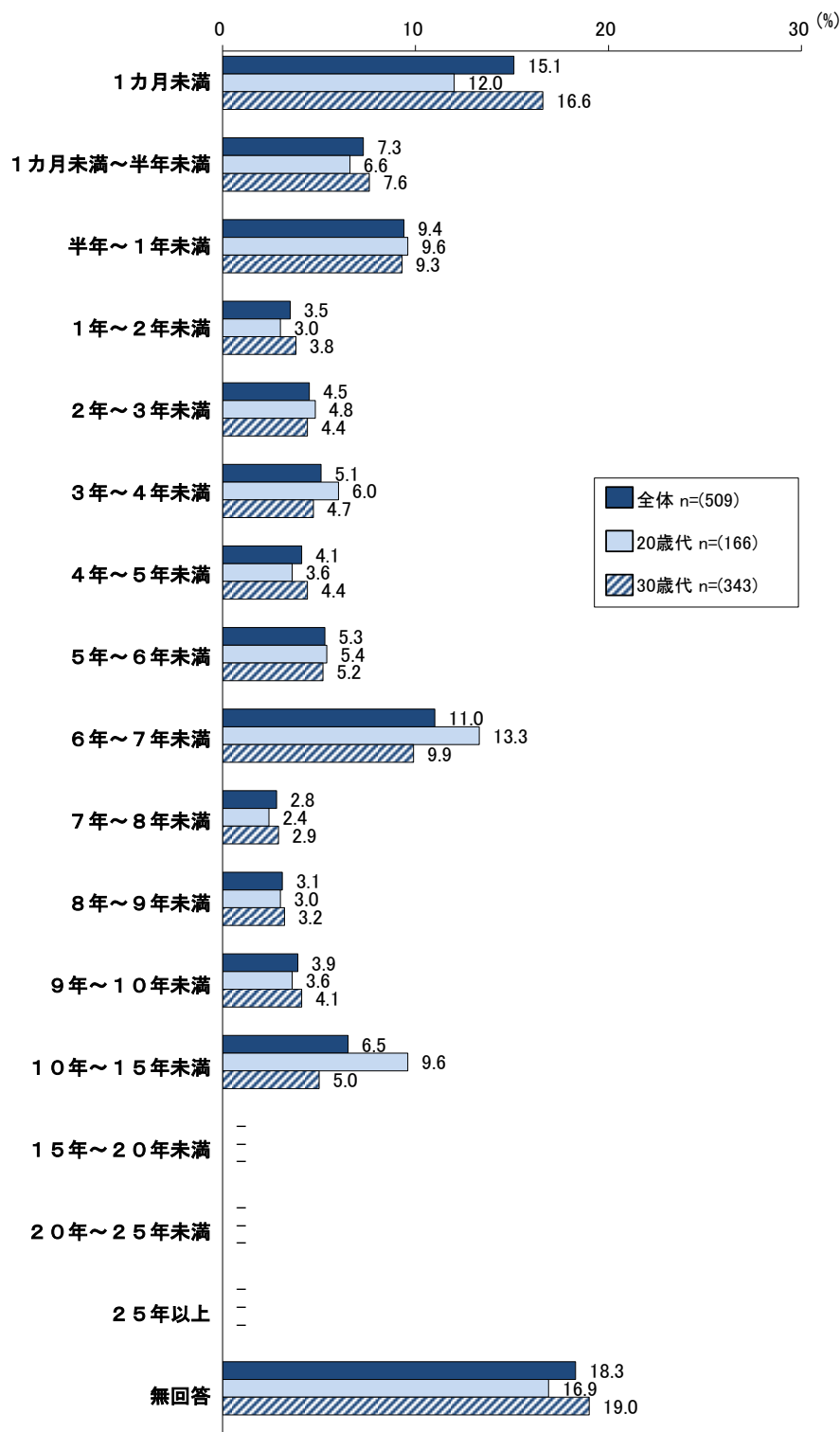
年齢別でみると、「1年～2年未満」は30歳代で26.8%と高くなっています。一方、「2年～3年未満」は20歳代で19.3%と高くなっています。



■結婚までの同棲期間

同棲期間は「1カ月未満」が15.1%で最も高く、次いで「6年～7年未満」が11.0%、「半年～1年未満」が9.4%となっています。

年齢別でみると、「1カ月未満」は30歳代で16.6%と高くなっています。一方、「6年～7年未満」は20歳代で13.3%と高くなっています。



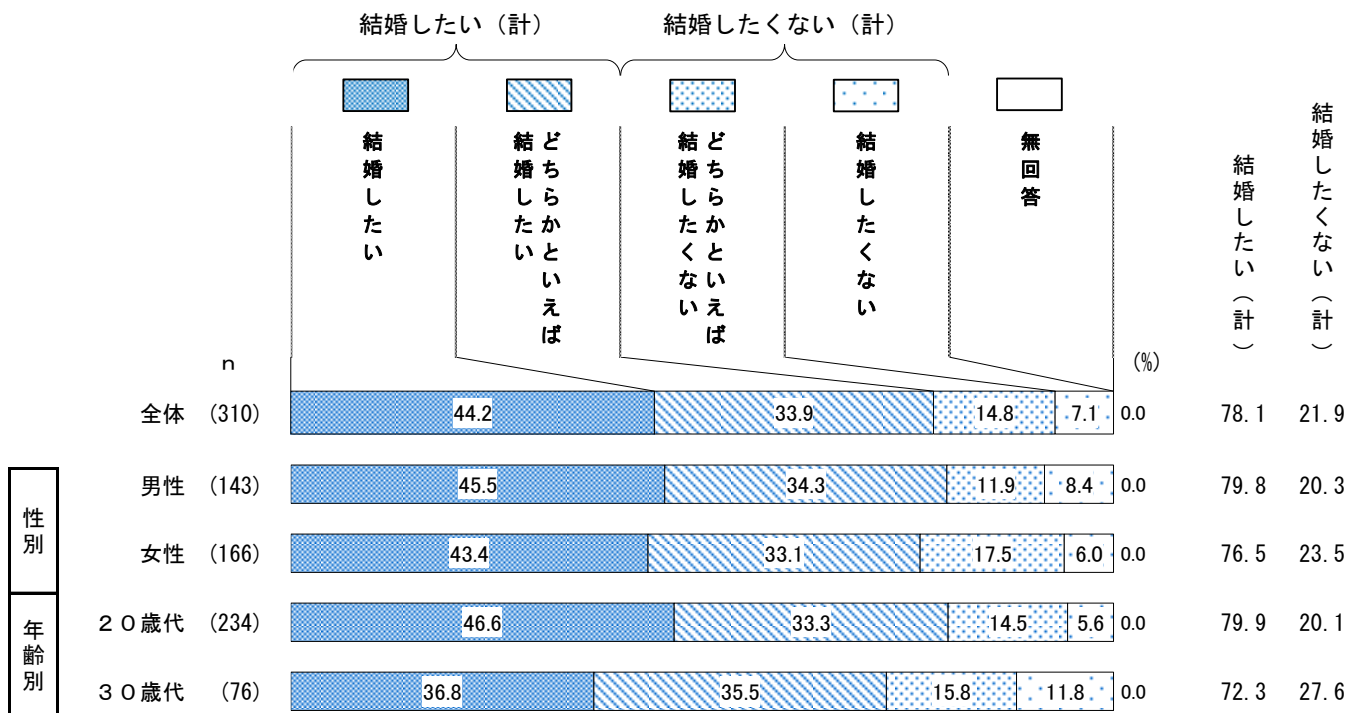
（2）将来の結婚意向【独身者調査】

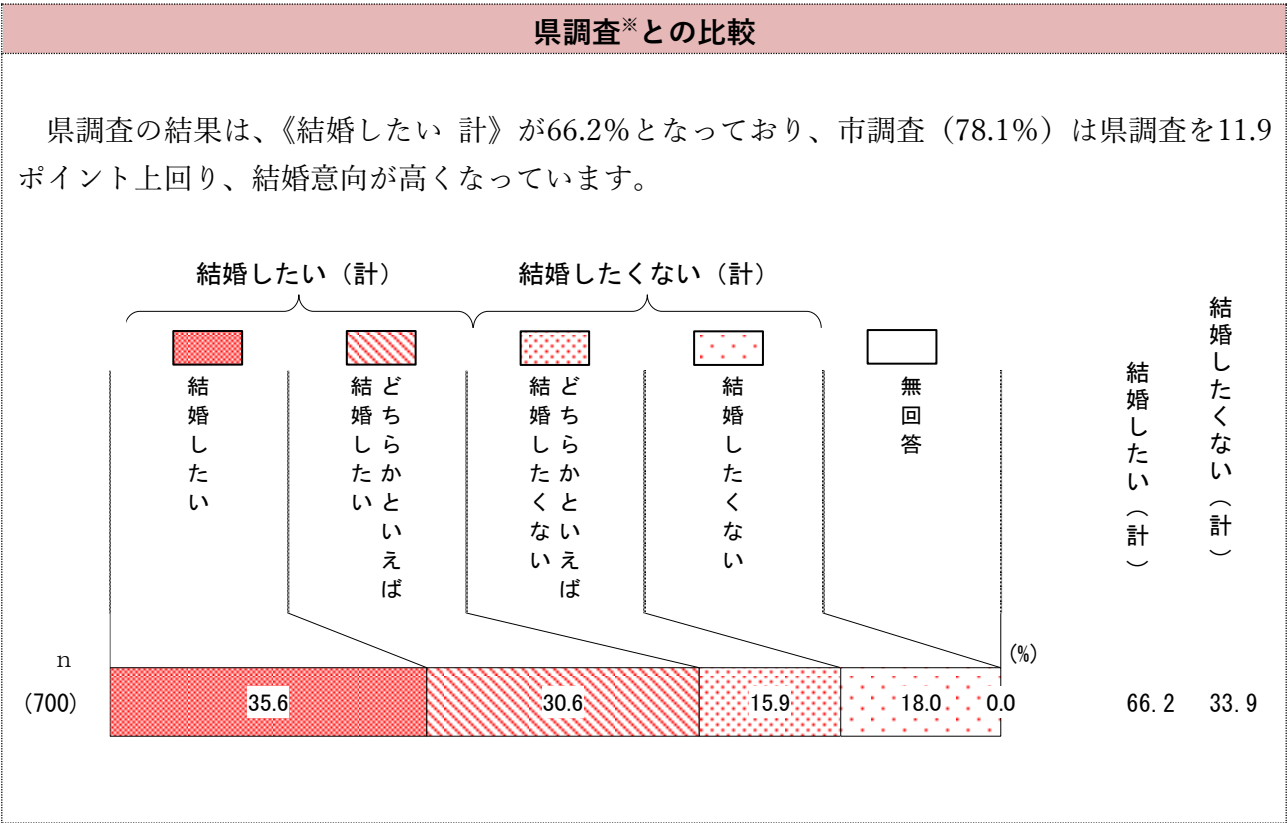
Q：あなたは将来結婚したいと思いますか。（○は1つ）

将来の結婚意向については、「結婚したい」と「どちらかといえば結婚したい」を合わせた《結婚したい 計》は78.1%、「どちらかといえば結婚したくない」と「結婚したくない」を合わせた《結婚したくない 計》は21.9%となっています。

性別でみると、《結婚したい 計》は男性が女性より3.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、《結婚したい 計》は20歳代（79.9%）のほうが、30歳代（72.3%）より高くなっています。





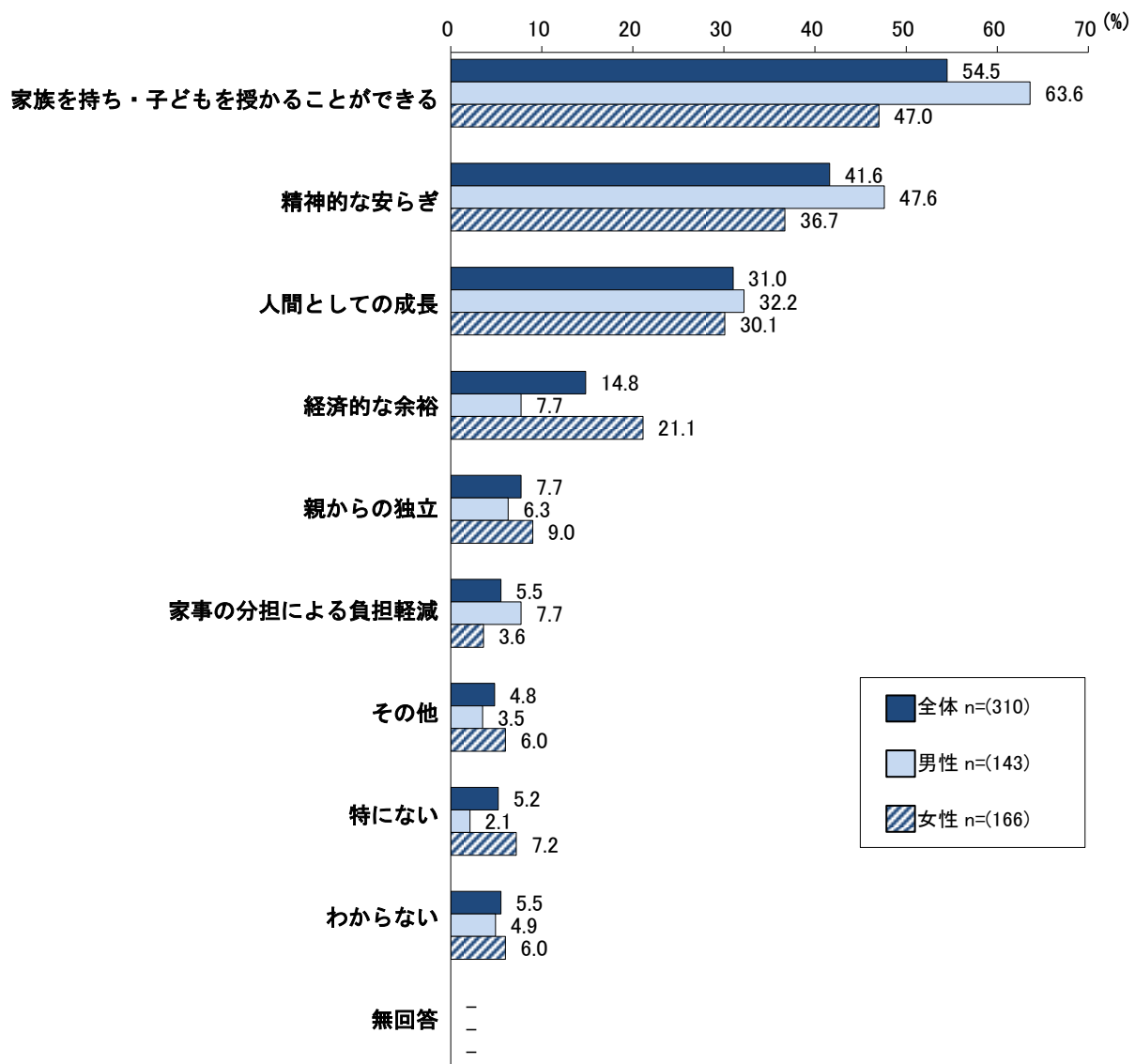
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

（3）結婚により得られるもの【独身者調査】

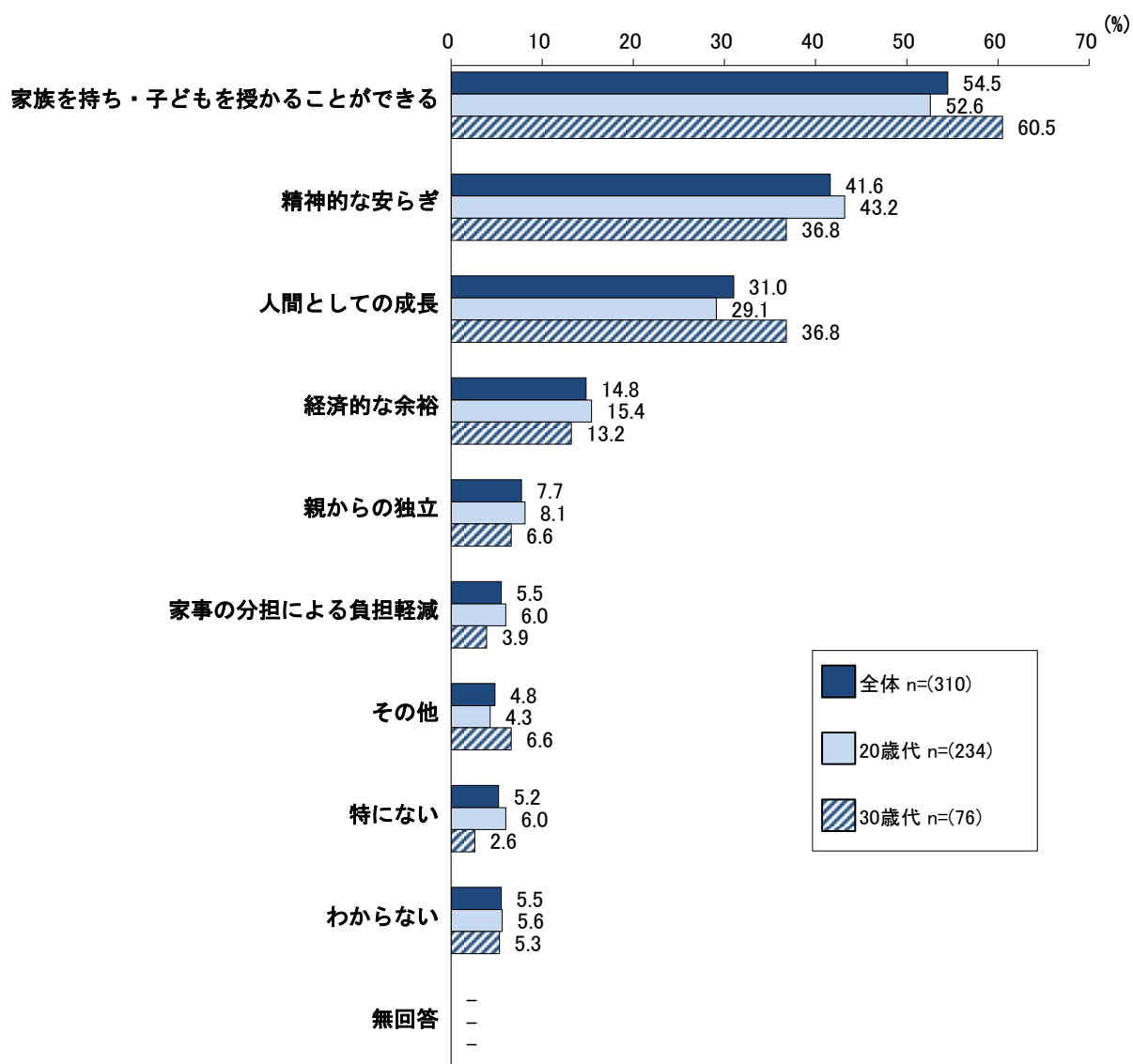
Q：結婚により得られるものは何だと思えますか。（○は2つ）

結婚により得られるものは、「家族を持ち・子どもを授かることができる」が54.5%で最も高く、次いで「精神的な安らぎ」が41.6%、「人間としての成長」が31.0%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「経済的な余裕」が13.4ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「家族を持ち・子どもを授かることができる」が16.6ポイント、「精神的な安らぎ」が10.9ポイント高くなっています。



年齢別でみると、「家族を持ち・子どもを授かることができる」は30歳代で60.5%と高くなっています。



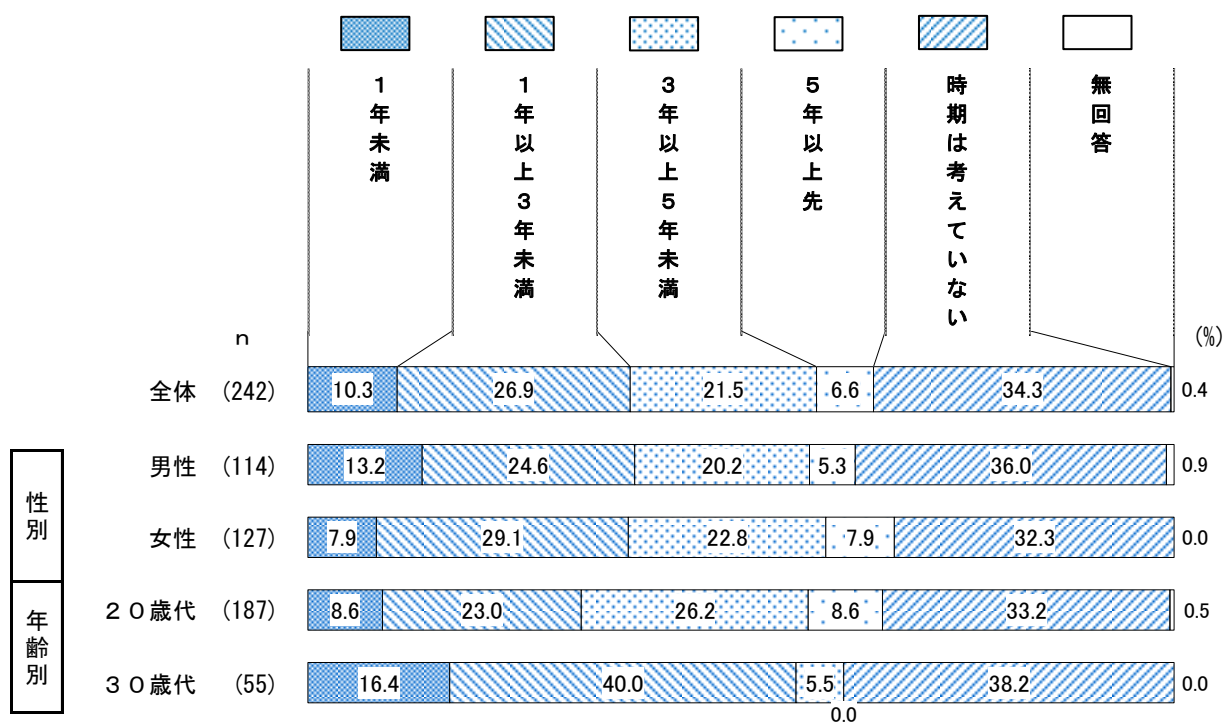
（4）結婚したいタイミング【独身者調査】

※将来、結婚したいかで「結婚したい」、「どちらかといえば結婚したい」を選んだ方のみ回答
 Q：いつ頃までに結婚したいですか。（○は1つ）

結婚したいタイミングは、「時期は考えていない」が34.3%、「1年以上3年未満」が26.9%、「3年以上5年未満」が21.5%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「1年未満」が5.3ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「1年以上3年未満」が4.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「1年以上3年未満」は30歳代で40.0%と高くなっています。

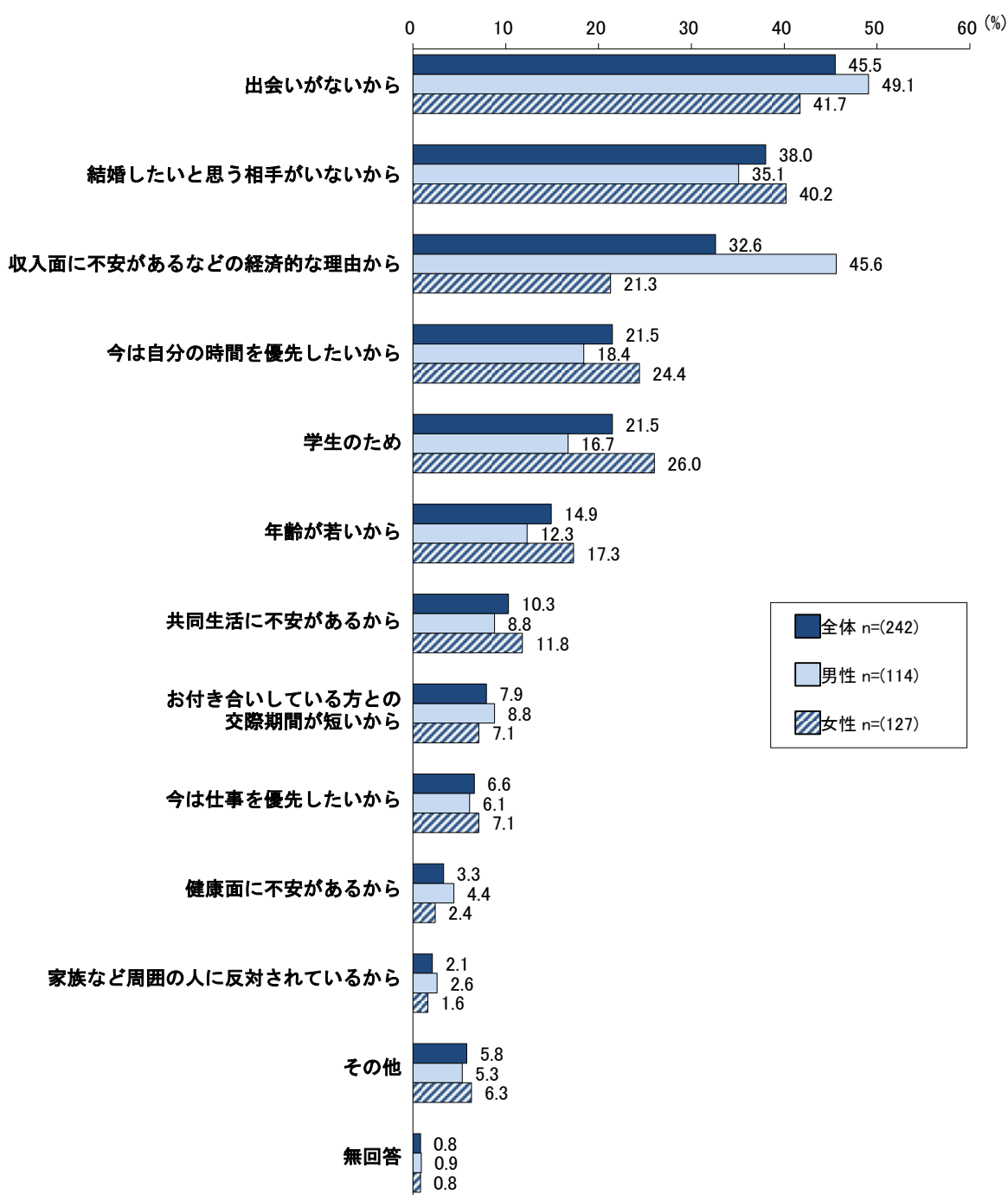


（5）結婚していない理由【独身者調査】

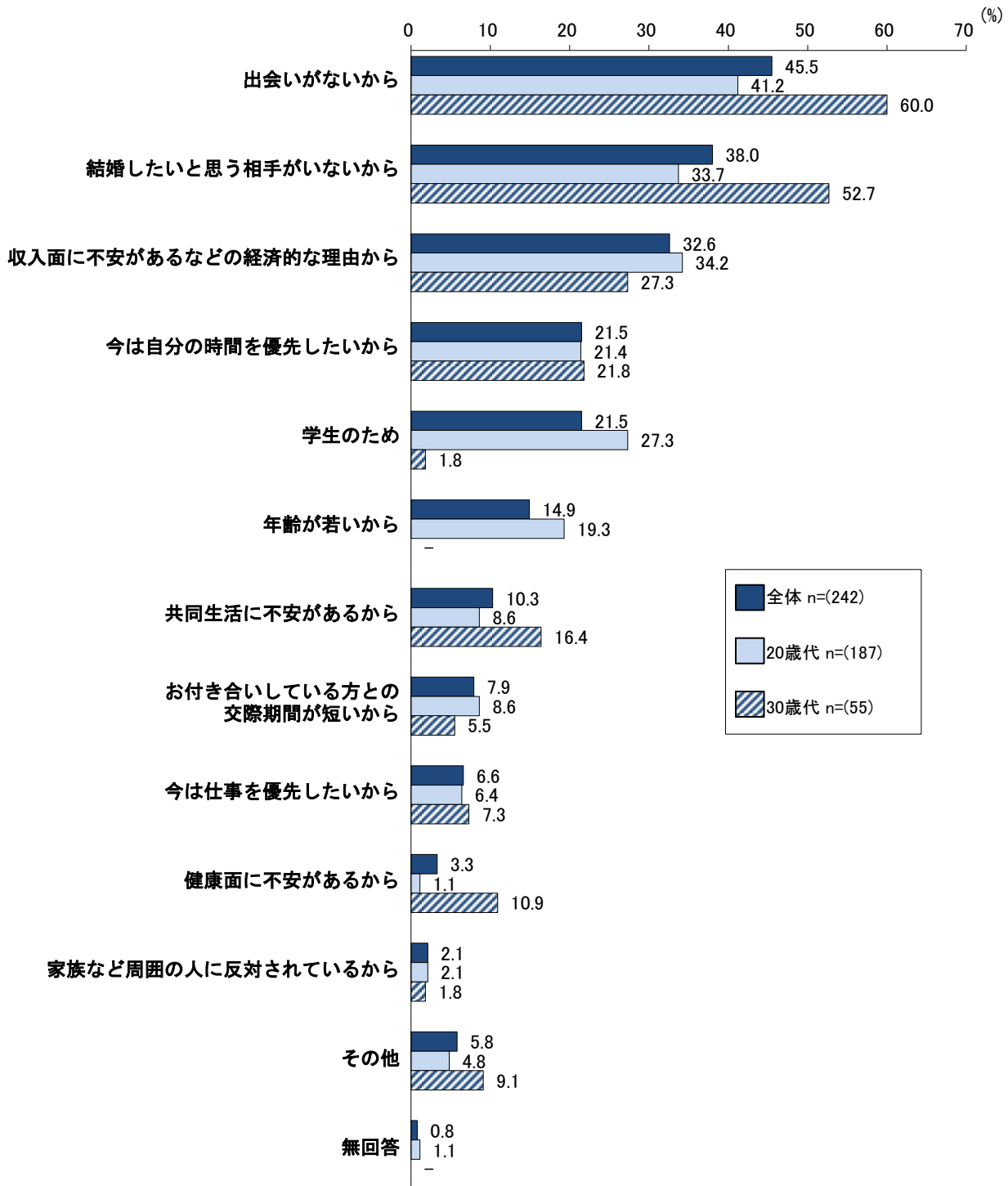
※将来、結婚したいかで「結婚したい」、「どちらかといえば結婚したい」を選んだ方のみ回答
Q：現在、結婚していない理由は何ですか。（○は3つ）

結婚していない理由は、「出会いがないから」が45.5%で最も高く、次いで「結婚したいと思う相手がいないから」が38.0%、「収入面に不安があるなどの経済的な理由から」が32.6%となっています。

性別でみると、男性は「出会いがないから」（49.1%）、「収入面に不安があるなどの経済的な理由から」（45.6%）などが女性より高いが、女性は「結婚したいと思う相手がいないから」（40.2%）、「今は自分の時間を優先したいから」（24.4%）などが男性よりも高くなっています。



年齢別でみると、20歳代で「収入面に不安があるなどの経済的な理由から」は34.2%、「学生のため」は27.3%と高く、30歳代で「出会いがないから」は60.0%、「結婚したいと思う相手がいないから」は52.7%と高くなっています。



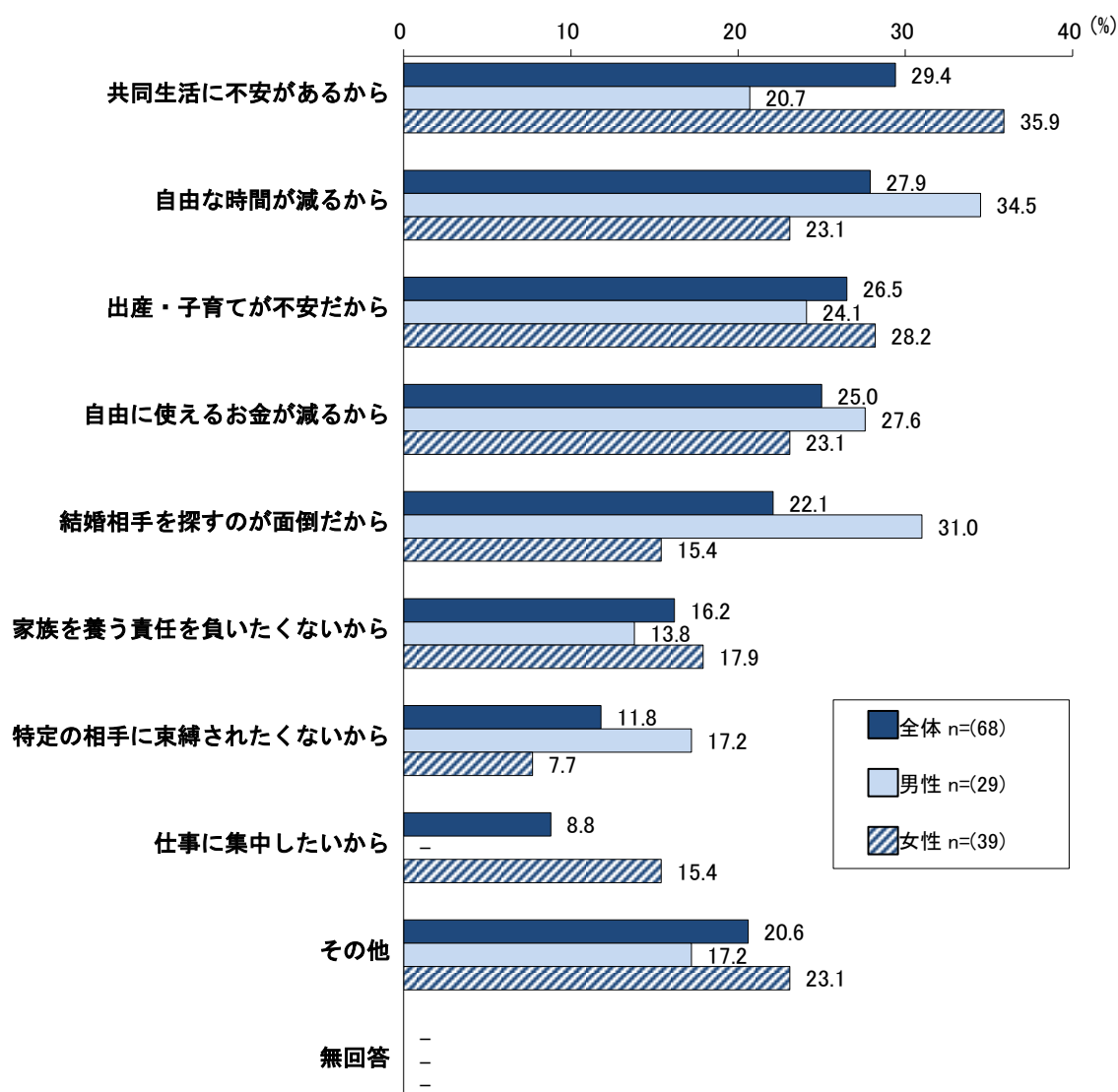
（6）結婚したくない理由【独身者調査】

※将来、結婚したいかで「どちらかといえば結婚したくない」、「結婚したくない」を選んだ方のみ回答

Q：「結婚したくない」と思う理由は何ですか。（○は2つ）

「結婚したくない」と思う理由は、「共同生活に不安があるから」が29.4%で最も高く、次いで「自由な時間が減るから」が27.9%、「出産・子育てが不安だから」が26.5%となっています。

性別でみると、男性は「自由な時間が減るから」が34.5%、次いで「結婚相手を探すのが面倒だから」が31.0%と女性より高くなっています。一方、女性は「共同生活に不安があるから」が35.9%、次いで「出産、子育てが不安だから」が28.2%と男性より高くなっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

（7）結婚相手と知り合うきっかけとして期待するもの／知り合ったきっかけ

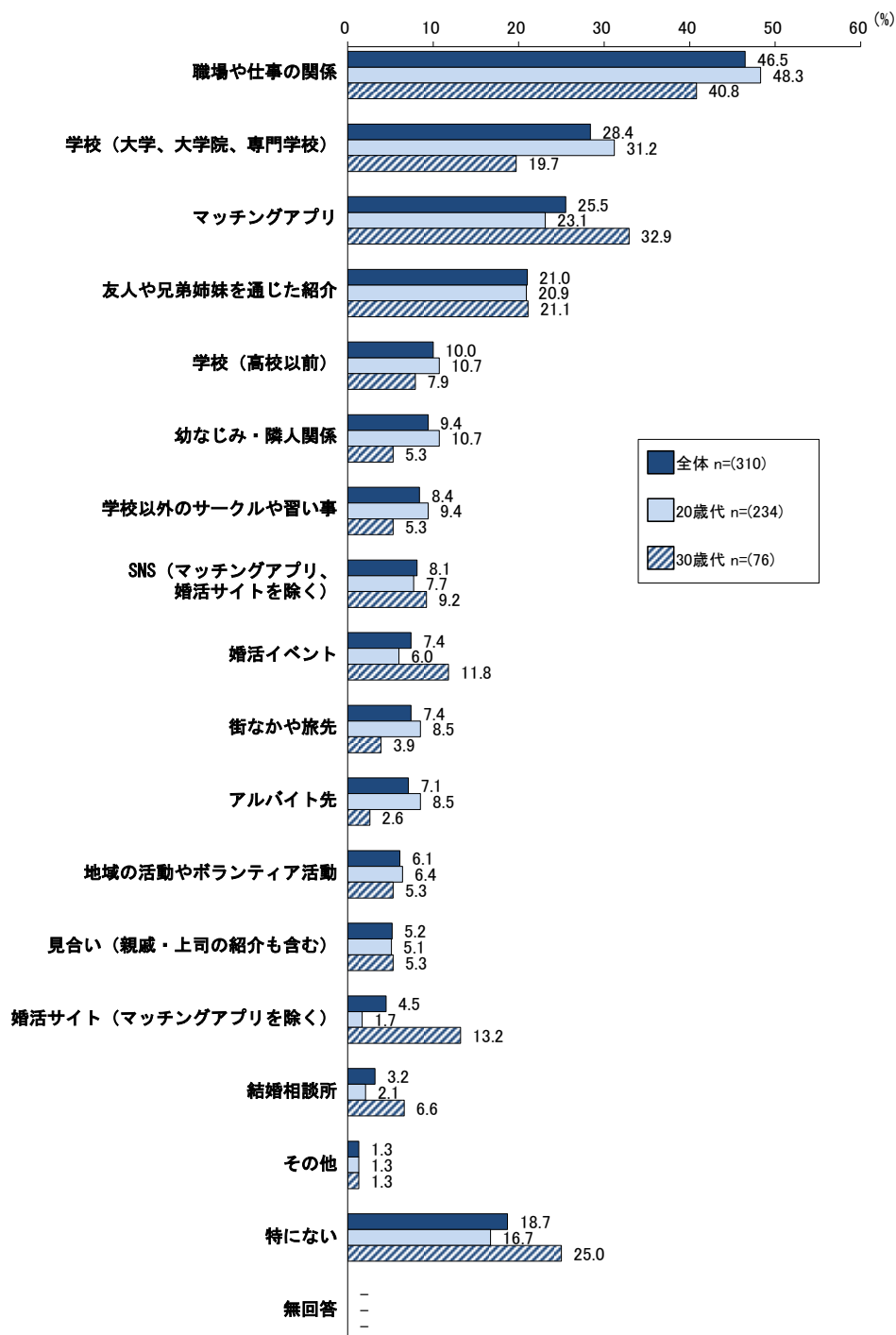
【独身者調査・既婚者調査】

【独身者調査】Q：結婚相手と知り合うきっかけとして期待するものはどのようなことですか。

（○は3つ）

結婚相手と知り合うきっかけとして期待するものは「職場や仕事の関係」が46.5%で最も高く、次いで「学校（大学、大学院、専門学校）」が28.4%、「マッチングアプリ」が25.5%となっています。

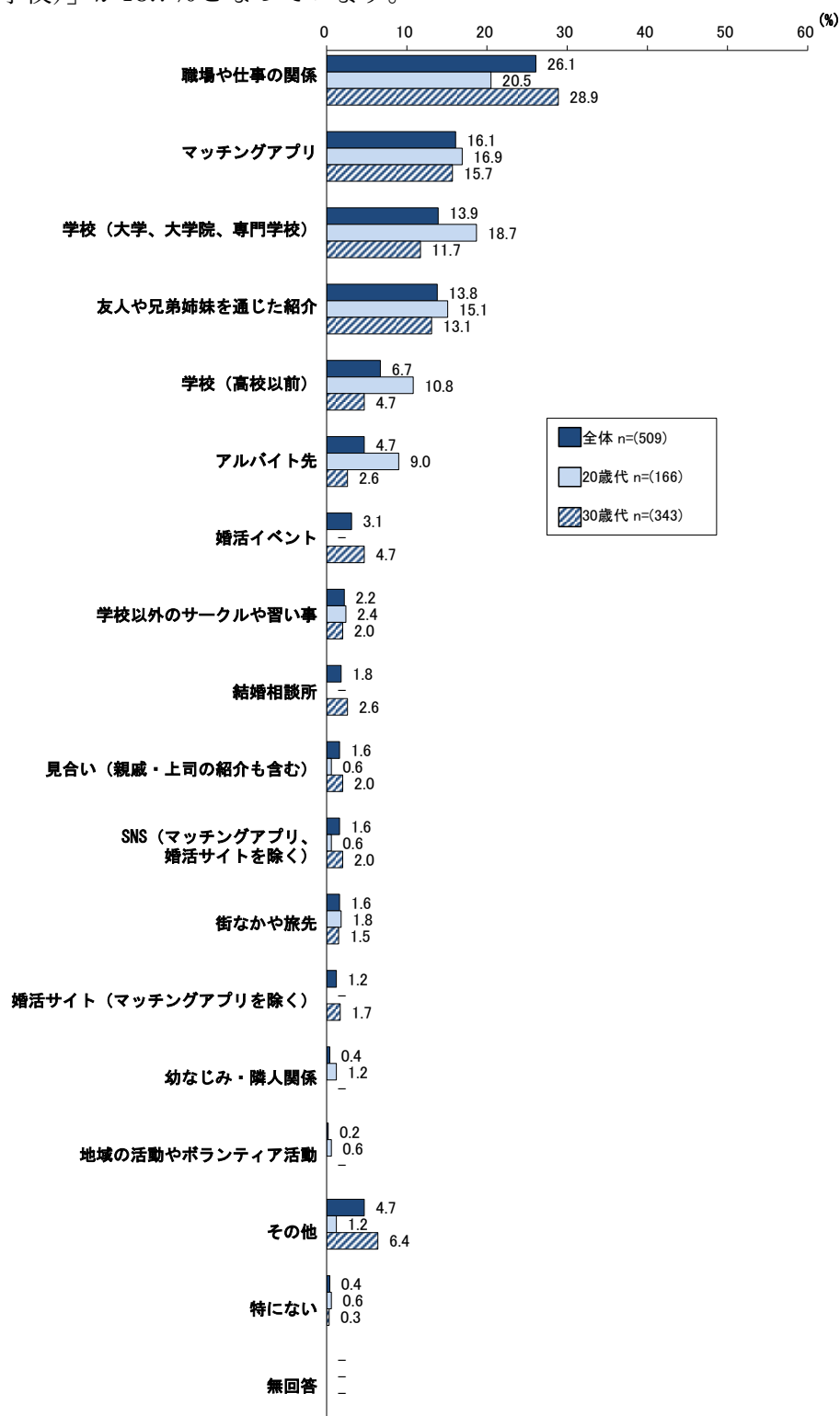
年齢別でみると、20歳代で「職場や仕事の関係」が48.3%、「学校（大学、大学院、専門学校）」が31.2%と高くなっています。一方、「マッチングアプリ」は30歳代で32.9%と高くなっています。



【既婚者調査】Q：あなた方ご夫婦の知り合ったきっかけを教えてください。（○は1つ）

夫婦の知り合ったきっかけは、「職場や仕事の関係」が26.1%で最も高く、次いで「マッチングアプリ」が16.1%、「学校（大学、大学院、専門学校）」が13.9%、「友人や兄弟姉妹を通じた紹介」が13.8%となっています。

年齢別でみると、「職場や仕事の関係」は30歳代で28.9%、次いで「マッチングアプリ」が15.7%となっています。一方、20歳代は「職場や仕事の関係」の20.5%に次いで「学校（大学、大学院、専門学校）」が18.7%となっています。



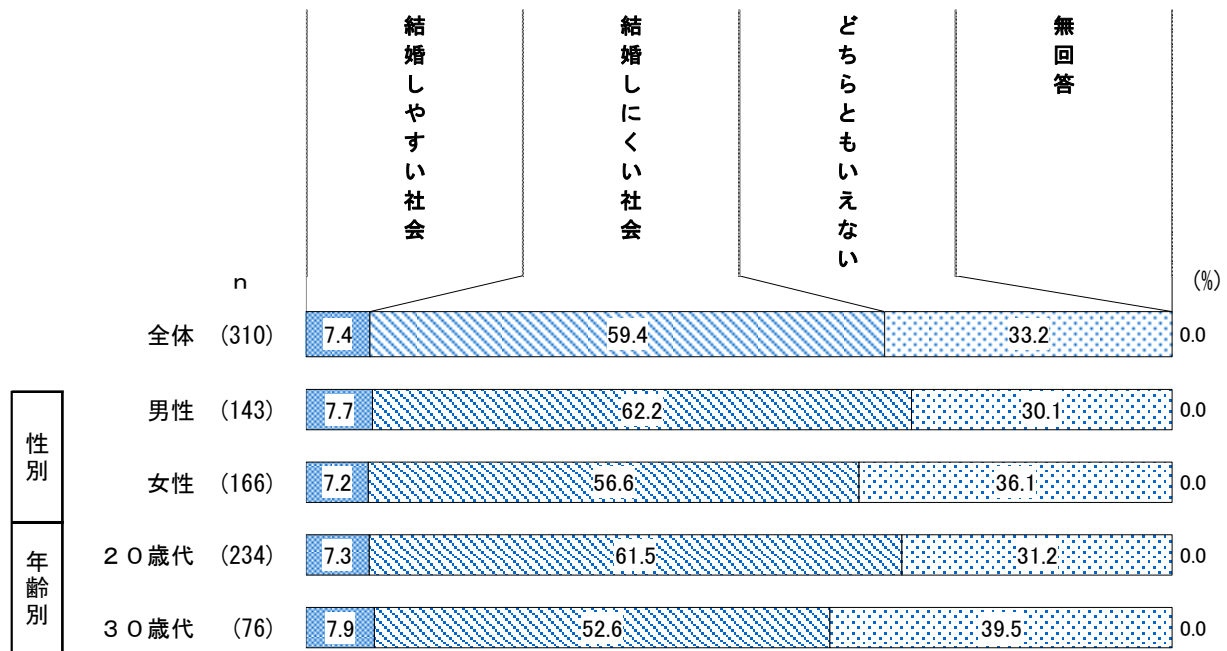
（8）今の社会は結婚しやすい社会だと思うか【独身者調査】

Q：今の社会は結婚しやすい社会だと思いますか。（○は1つ）

今の社会は結婚しやすい社会だと思うかは、「結婚しにくい社会」が59.4%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が33.2%、「結婚しやすい社会」が7.4%となっています。

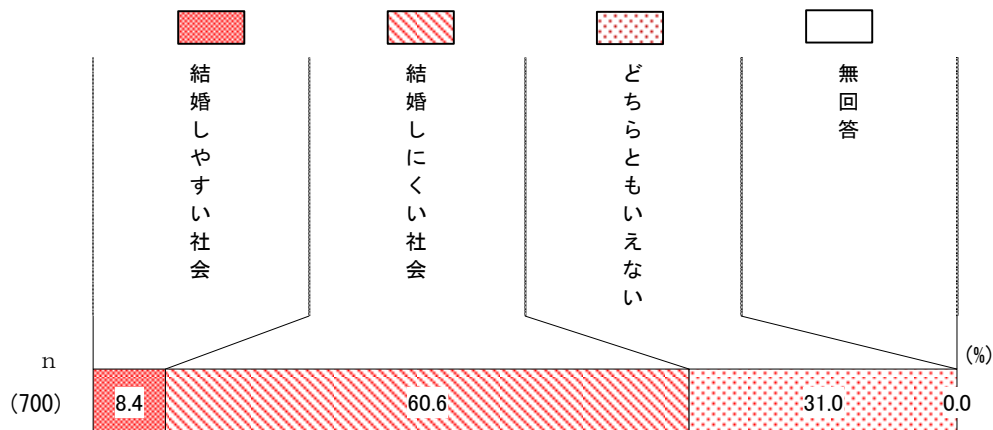
性別でみると、「結婚しにくい社会」は男性が女性よりも5.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「結婚しにくい社会」は20歳代で61.5%とやや高くなっています。



県調査※との比較

県調査の結果は、「結婚しやすい社会」が8.4%となっており、市調査（7.4%）の結果とほぼ同率です。また、「結婚しにくい社会」（県調査60.6%）も市調査（59.4%）とほぼ同率となっています。



※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

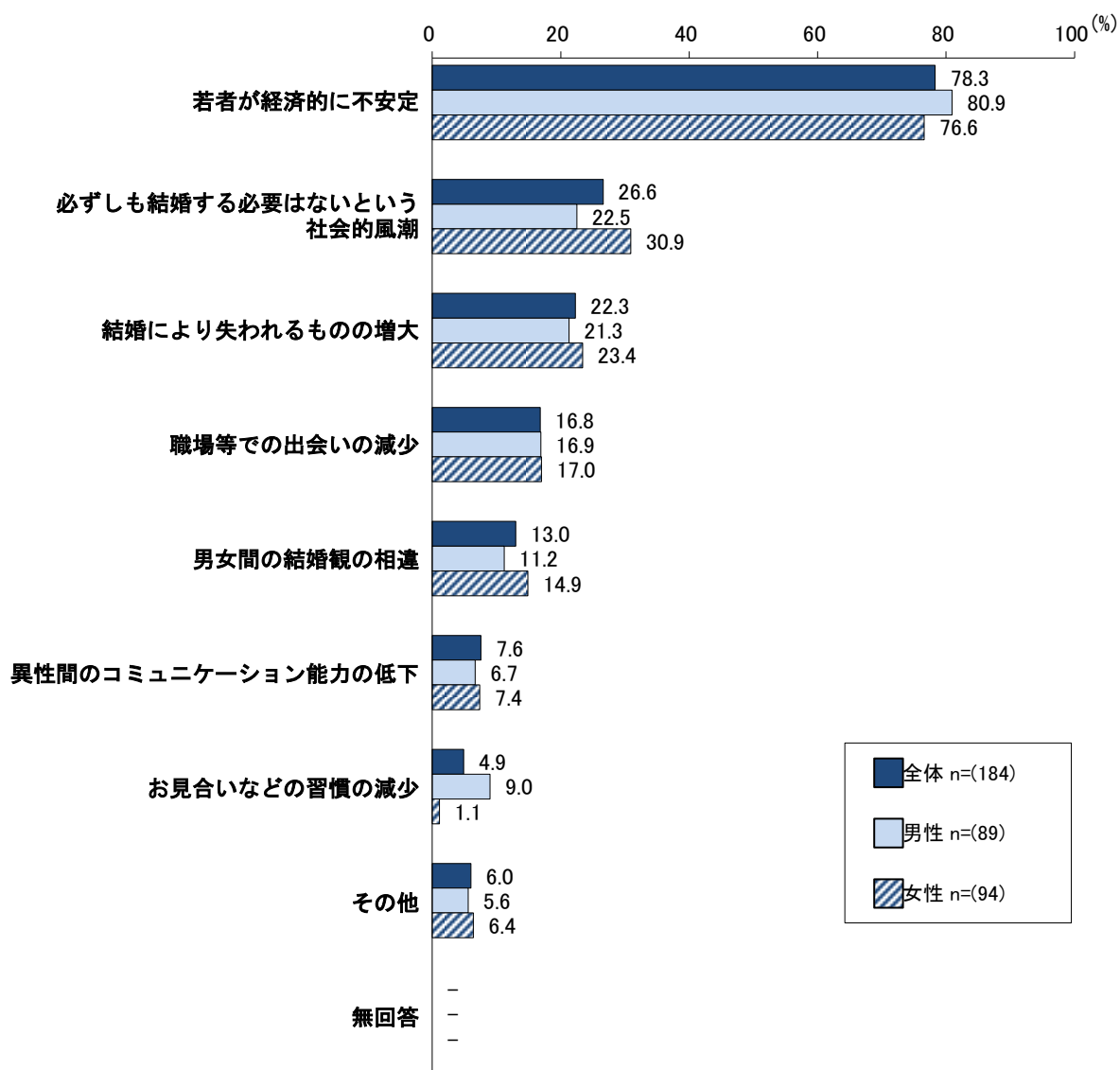
（9）結婚しにくい社会だと思う理由【独身者調査】

※今の社会は結婚しやすいと思うかについて「結婚しにくい社会」を選んだ方のみ回答

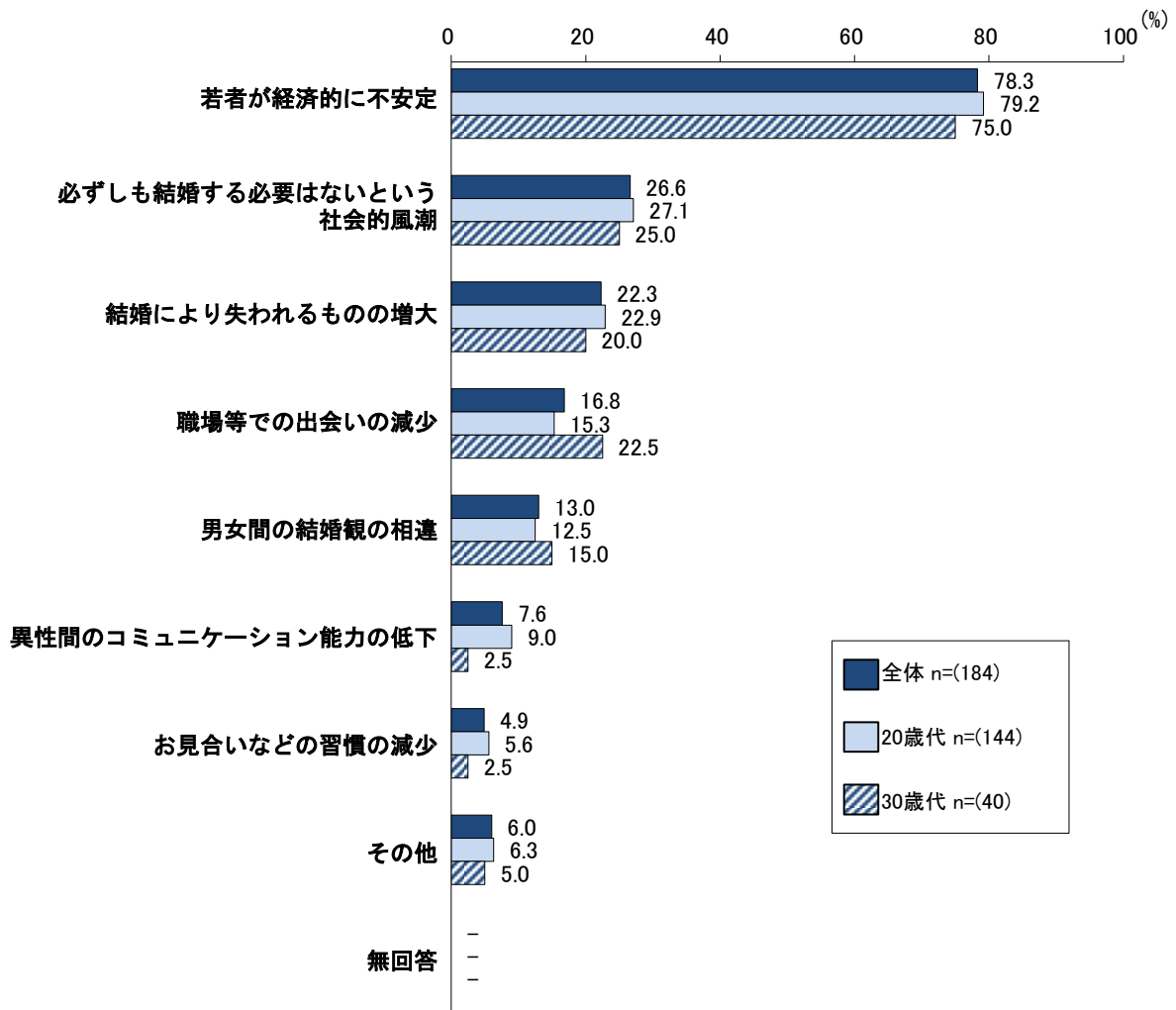
Q：その理由について、どのようにお考えですか。（○は2つ）

結婚しにくい社会だと思う理由は、「若者が経済的に不安定」が78.3%で最も高く、次いで「必ずしも結婚する必要はないという社会的風潮」が26.6%、「結婚により失われるものの増大」が22.3%となっています。

性別でみると、男性は「若者が経済的に不安定」が女性よりも高くなっています。一方女性は、「必ずしも結婚する必要はないという社会的風潮」が男性よりも高くなっています。



年齢別でみると「若者が経済的に不安定」は20歳代で79.2%と高く、「職場等での出会いの減少」は30歳代で22.5%と高くなっています。



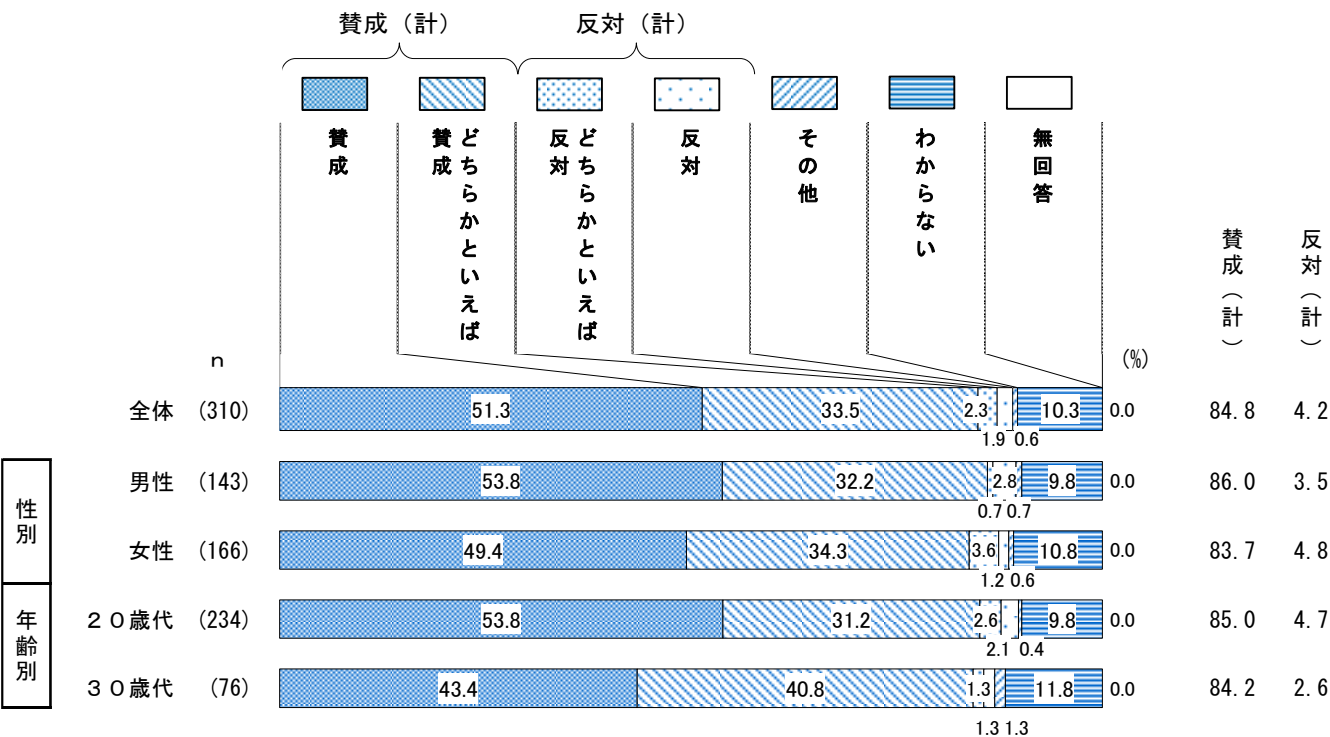
(10) 行政が結婚を支援する施策を行うことについて【独身者調査】

Q：結婚を希望する人に対して、行政が結婚を支援する施策を行うことについて、どのようにお考えですか。（○は1つ）

行政が結婚を支援する施策を行うことは、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成計》が84.8%となっています。一方、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた《反対計》は4.2%となっています。

性別でみると、男女間に大きな差はみられません。

年齢別でみると、「賛成」は20歳代で53.8%と高くなっています。一方、30歳代では43.4%と低くなっていますが、《賛成計》では年齢による大きな差はみられません。



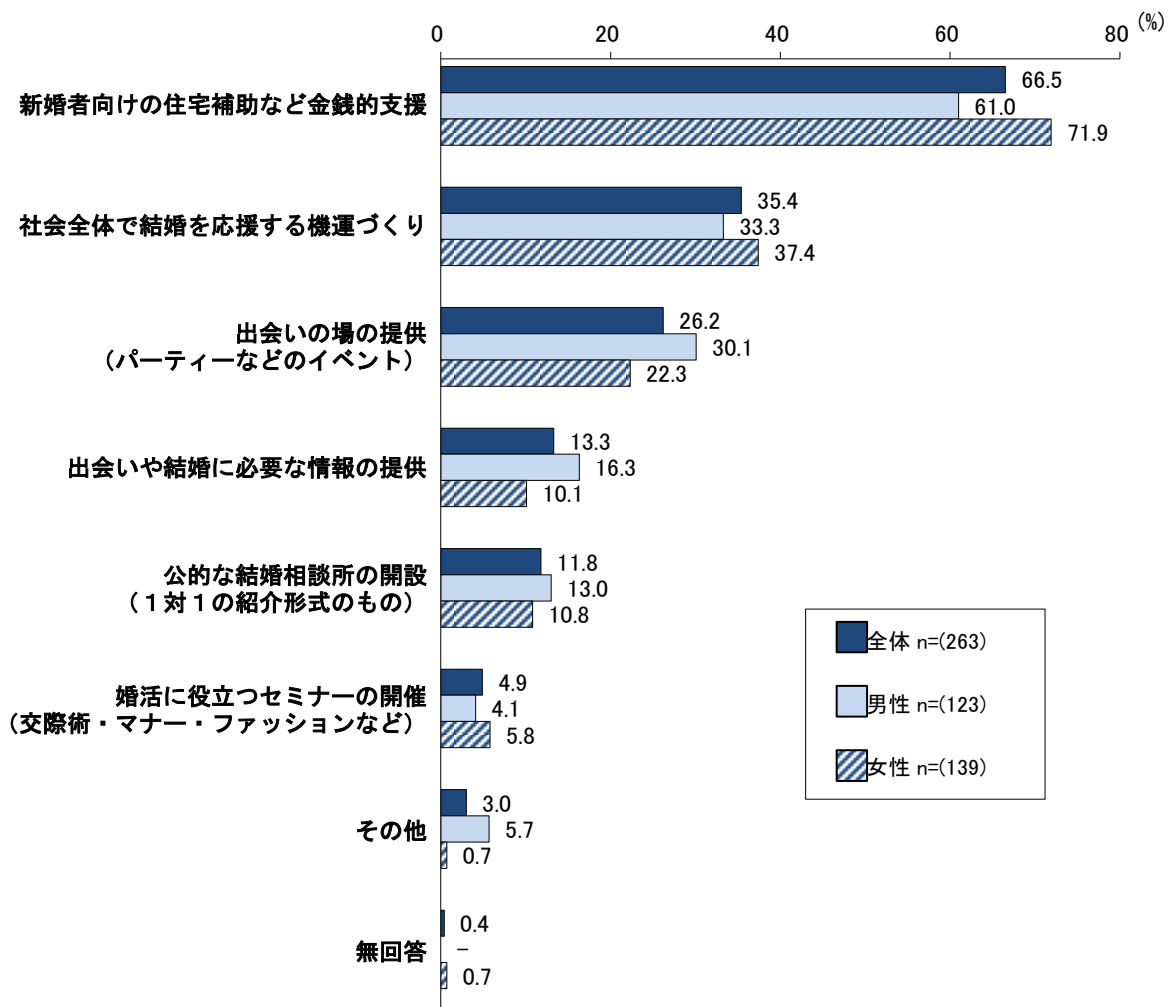
(11) 結婚に関する支援で行政に期待すること【独身者調査】

※行政が結婚を支援する施策を行うことについて「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ方のみ回答

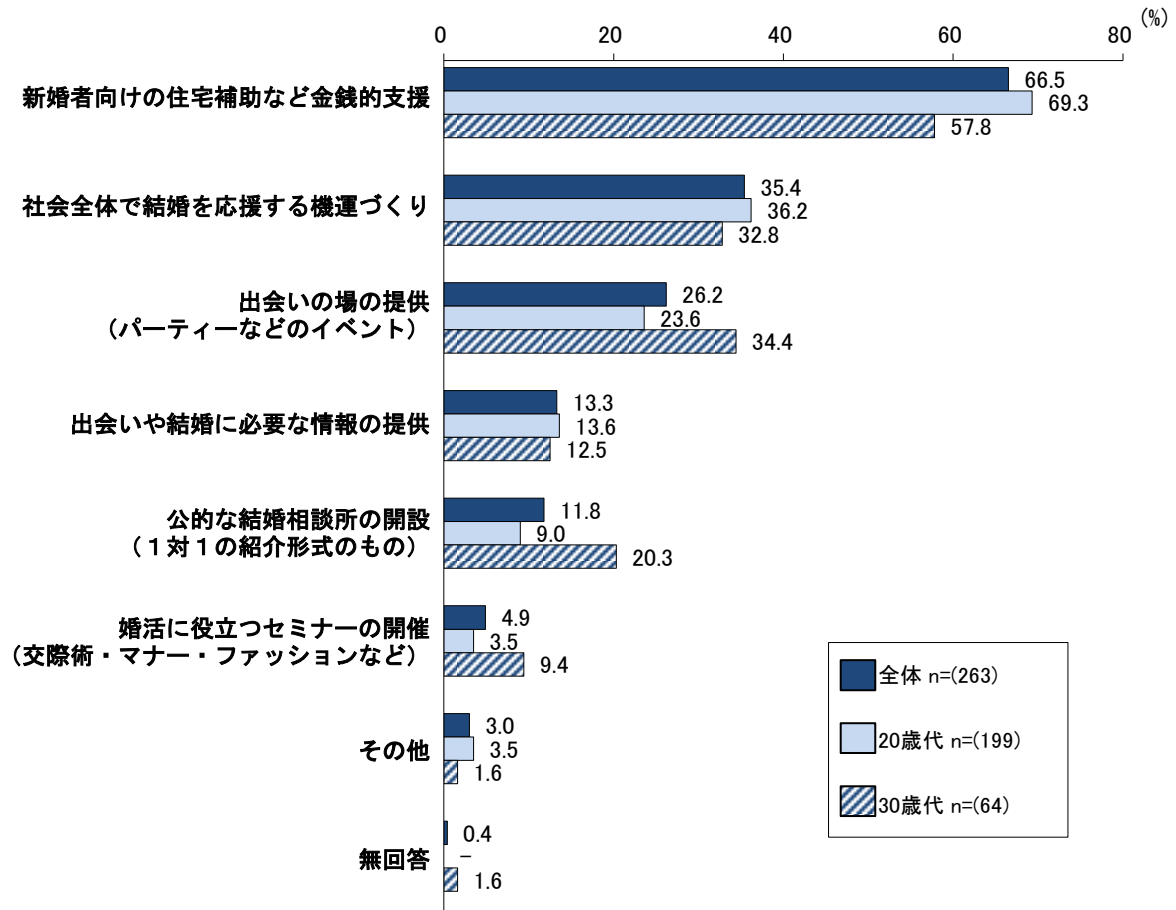
Q：結婚の支援として、どのようなことを行政に期待しますか。（〇は2つ）

行政に期待する結婚に関する支援は、「新婚者向けの住宅補助など金銭的支援」が66.5%で最も高く、次いで「社会全体で結婚を応援する機運づくり」が35.4%、「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が26.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「新婚者向けの住宅補助など金銭的支援」が10.9ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が7.8ポイント、「出会いや結婚に必要な情報の提供」が6.2ポイント高くなっています。



年齢別でみると、「新婚者向けの住宅補助など金銭的支援」は20歳代で69.3%と高くなっています。一方、「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が30歳代で34.4%、「公的な結婚相談所の開設（1対1の紹介形式のもの）」は30歳代で20.3%と高くなっています。



3 妊娠・出産について

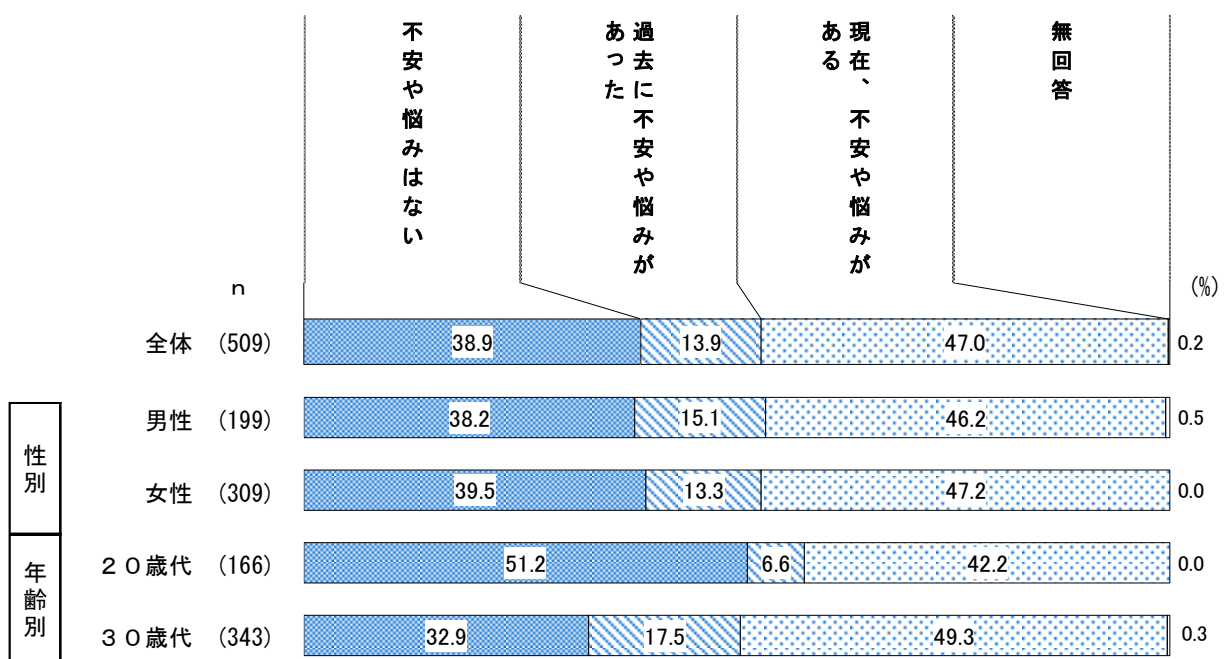
（1）不妊についての不安や悩み【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦は、不妊について不安や悩みがありますか。（○は1つ）

不妊についての不安や悩みは、「現在、不安や悩みがある」が47.0%、「不安や悩みはない」が38.9%、「過去に不安や悩みがあった」が13.9%となっています。「不安や悩みの経験あり」（「過去に不安や悩みがあった」または「現在、不安や悩みがある」）の割合は60.9%となっています。

性別でみると、男女間に大きな差はみられません。

年齢別でみると、「不安や悩みの経験あり」は30歳代で66.8%と高くなっています。



（2）不妊治療の経験【既婚者調査】

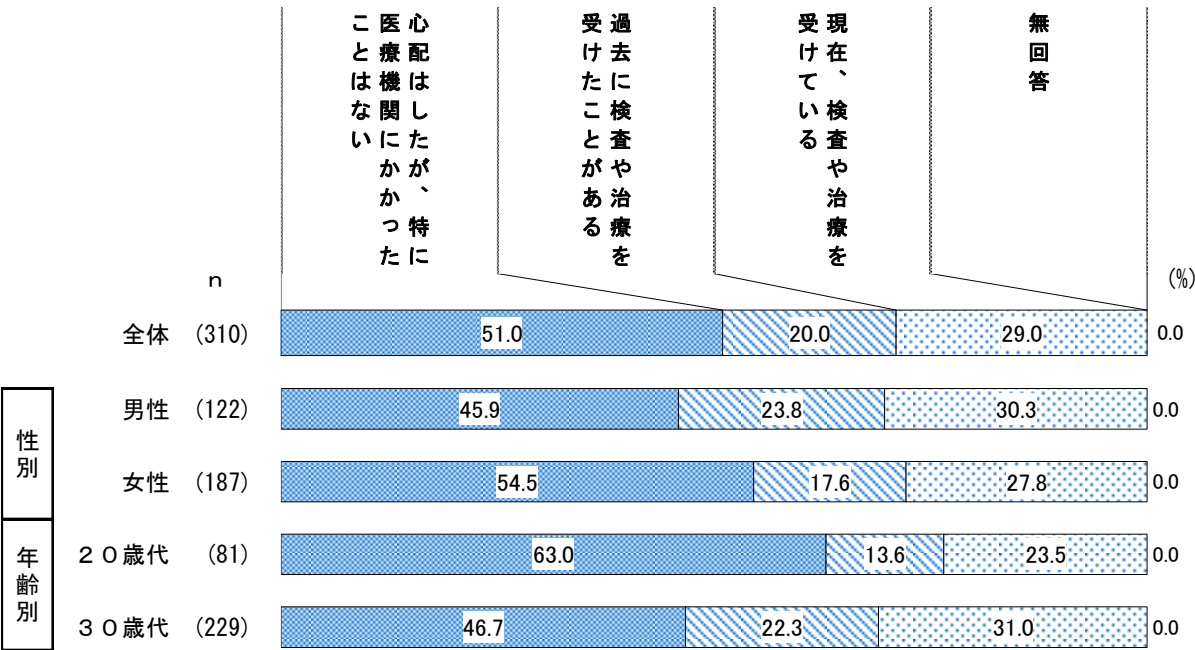
※不妊についての不安や悩みはあるかで「過去に不安や悩みがあった」、「現在、不安や悩みがある」を選んだ方のみ回答

Q：あなた方ご夫婦は、不妊治療の経験はありますか。（○は1つ）

不妊についての不安や悩みがある（あった）場合の治療経験は、「心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない」が51.0%、「現在、検査や治療を受けている」が29.0%、「過去に検査や治療を受けたことがある」が20.0%となっています。「検査や治療の経験あり」（「過去に検査や治療を受けたことがある」または「現在、検査や治療を受けている」）の割合は49.0%となっています。

性別でみると、「検査や治療の経験あり」は男性が女性より8.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「検査や治療の経験あり」は30歳代で53.3%と高くなっています。一方、20歳代では37.1%と低くなっています。



（3）不育についての不安や悩み【既婚者調査】

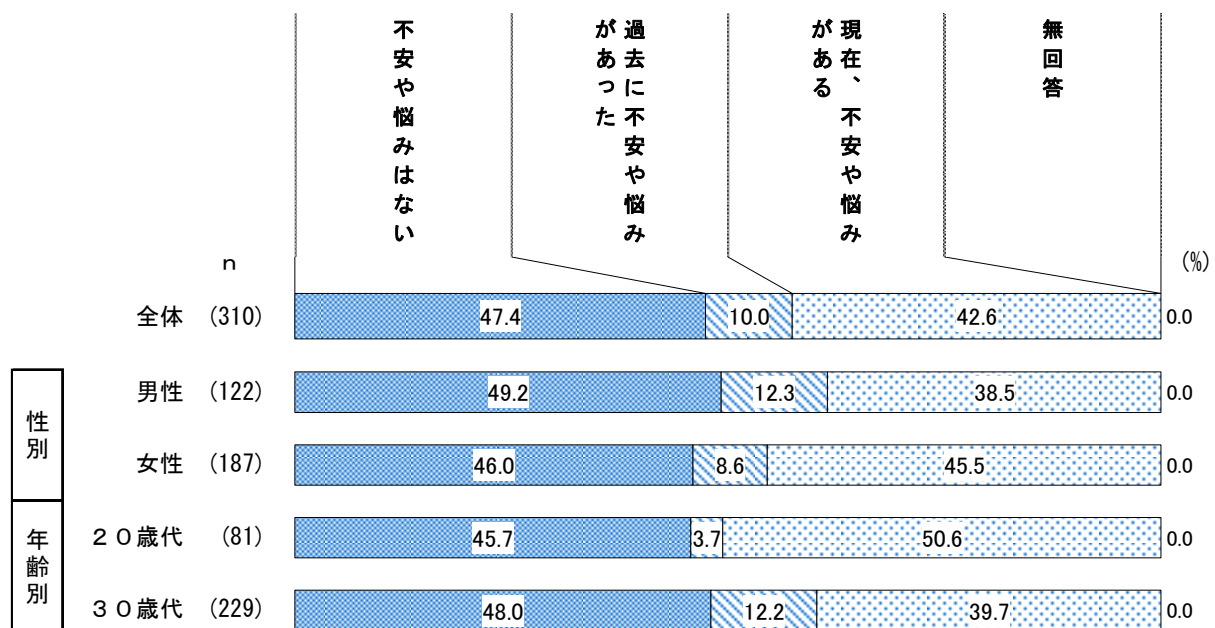
Q：あなた方ご夫婦は、不育※について不安や悩みはありますか。（○は1つ）

※不育症…妊娠はするけれど2回以上の流産・死産もしくは生後1週間以内に死亡する早期新生児脂肪によって子どもを持てない場合のこと

不育についての不安や悩みは、「不安や悩みはない」が47.4%、「現在、不安や悩みがある」が42.6%、「過去に不安や悩みがあった」が10.0%となっています。「不安や悩みの経験あり」（「過去に不安や悩みがあった」または「現在、不安や悩みがある」）の割合は52.6%となっています。

性別でみると、「不安や悩みの経験あり」は女性が男性より3.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「不安や悩みの経験あり」は20歳代で54.3%とやや高くなっています。



（4）不育治療の経験【既婚者調査】

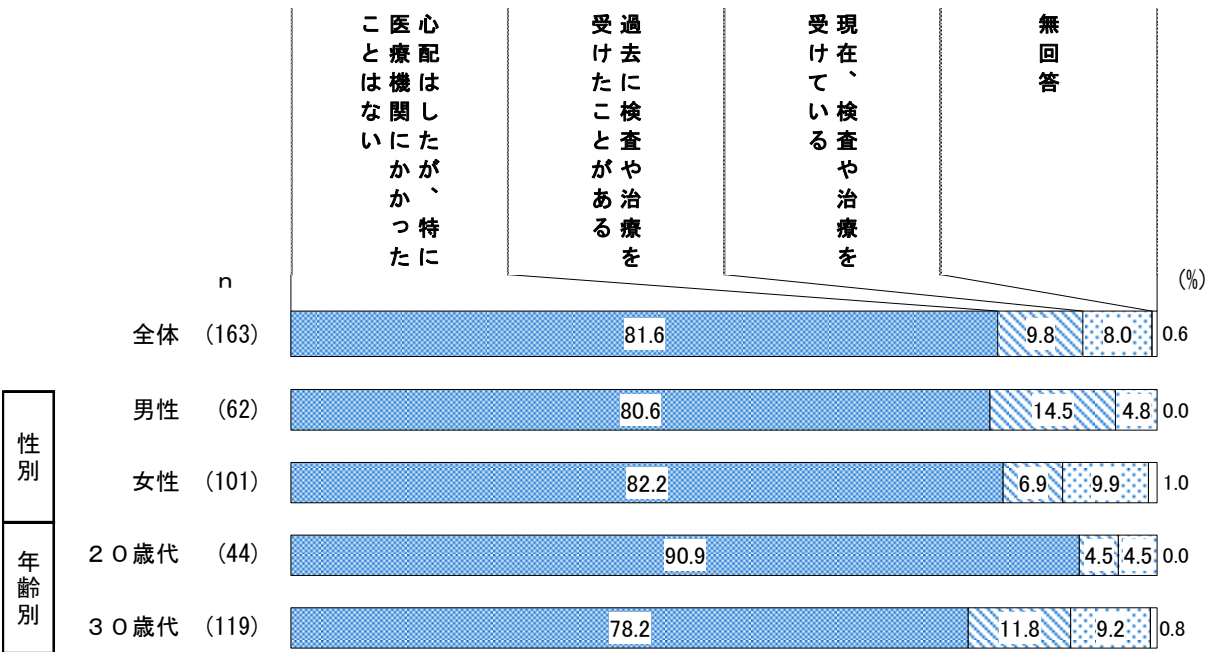
※不育についての不安や悩みはあるかで「過去に不安や悩みがあった」、「現在、不安や悩みがある」を選んだ方のみ回答

Q：あなた方ご夫婦は、不育症治療の経験はありますか。（○は1つ）

不育について不安や悩みがある（あった）場合の治療経験は、「心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない」が81.6%、「過去に検査や治療を受けたことがある」が9.8%、「現在、検査や治療を受けている」が8.0%となっています。「検査や治療の経験あり」（「過去に検査や治療を受けたことがある」または「現在、検査や治療を受けている」）の割合は17.8%となっています。

性別でみると、「不安や悩みの経験あり」は男性が女性より2.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「検査や治療の経験あり」は30歳代で21.0%とやや高くなっています。



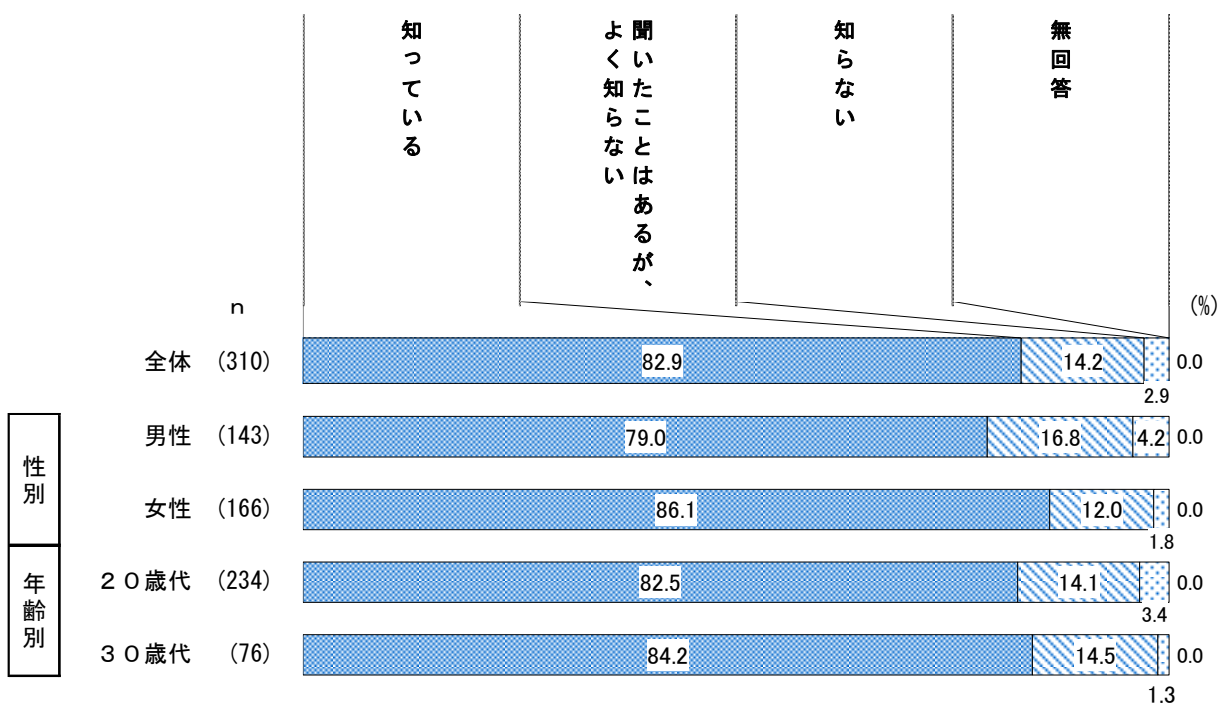
（5）妊娠と年齢の関係の認知度【独身者調査】

Q：あなたは男女ともに年齢が高くなるほど妊娠の確率が低下することなど、妊娠と年齢の関係について知っていますか。（○は1つ）

妊娠と年齢の関係については、「知っている」が82.9%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」が14.2%、「知らない」が2.9%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「知っている」が7.1ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「聞いたことはあるが、よく知らない」が4.8ポイント高くなっています。

年齢別では、大きな差はみられません。



（6）妊娠と年齢の関係の認知手段【独身者調査】

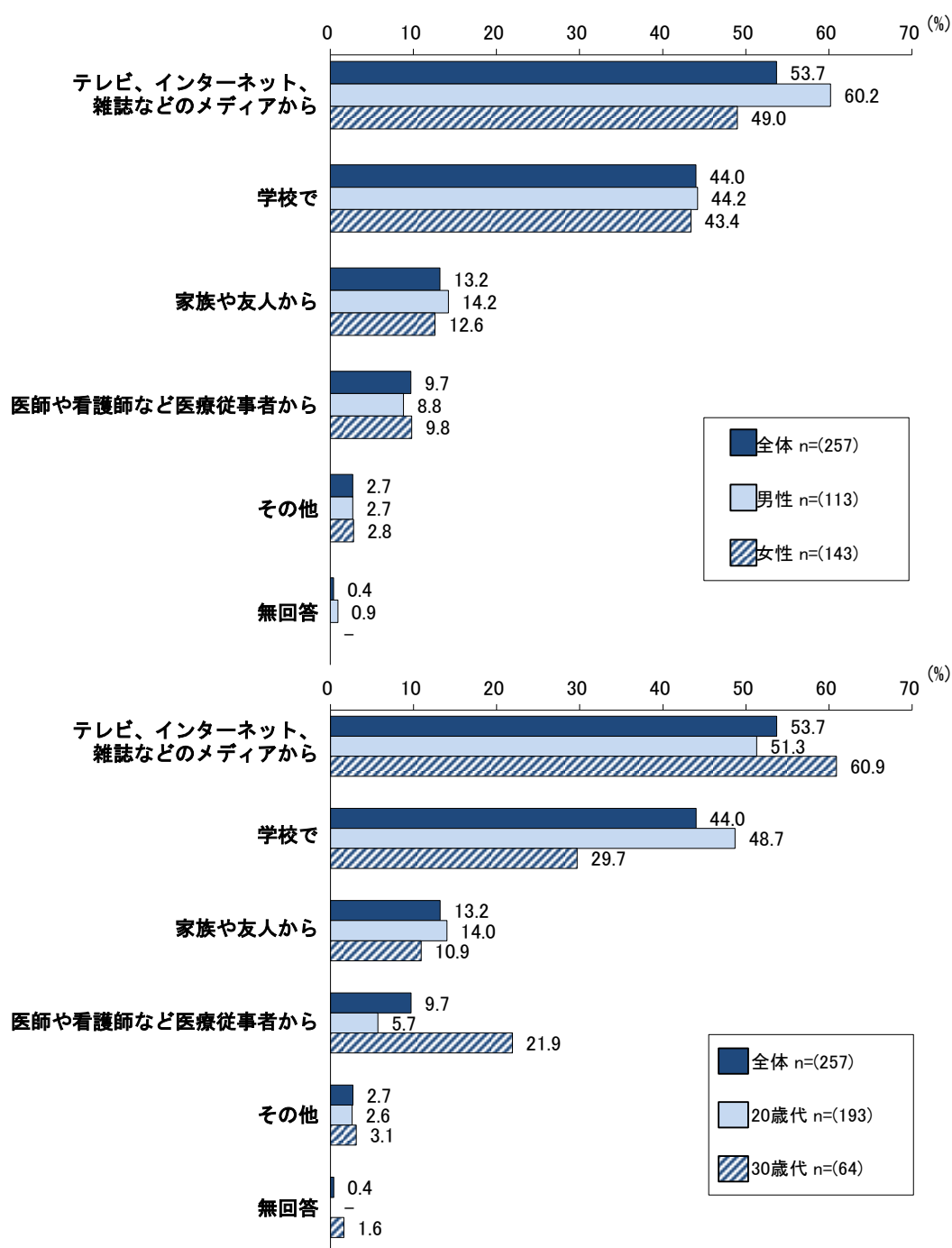
※妊娠と年齢の関係の認知度で「知っている」を選んだ方のみ回答

Q：どのようにして知りましたか。（○はいくつでも）

どのように知ったかは、「テレビ、インターネット、雑誌などのメディアから」が53.7%で最も高く、次いで「学校で」が44.0%、「家族や友人から」が13.2%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「テレビ、インターネット、雑誌などのメディアから」が11.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「テレビ、インターネット、雑誌などのメディアから」は30歳代で60.9%と高くなっています。一方、「学校で」は20歳代で48.7%と高くなっています。

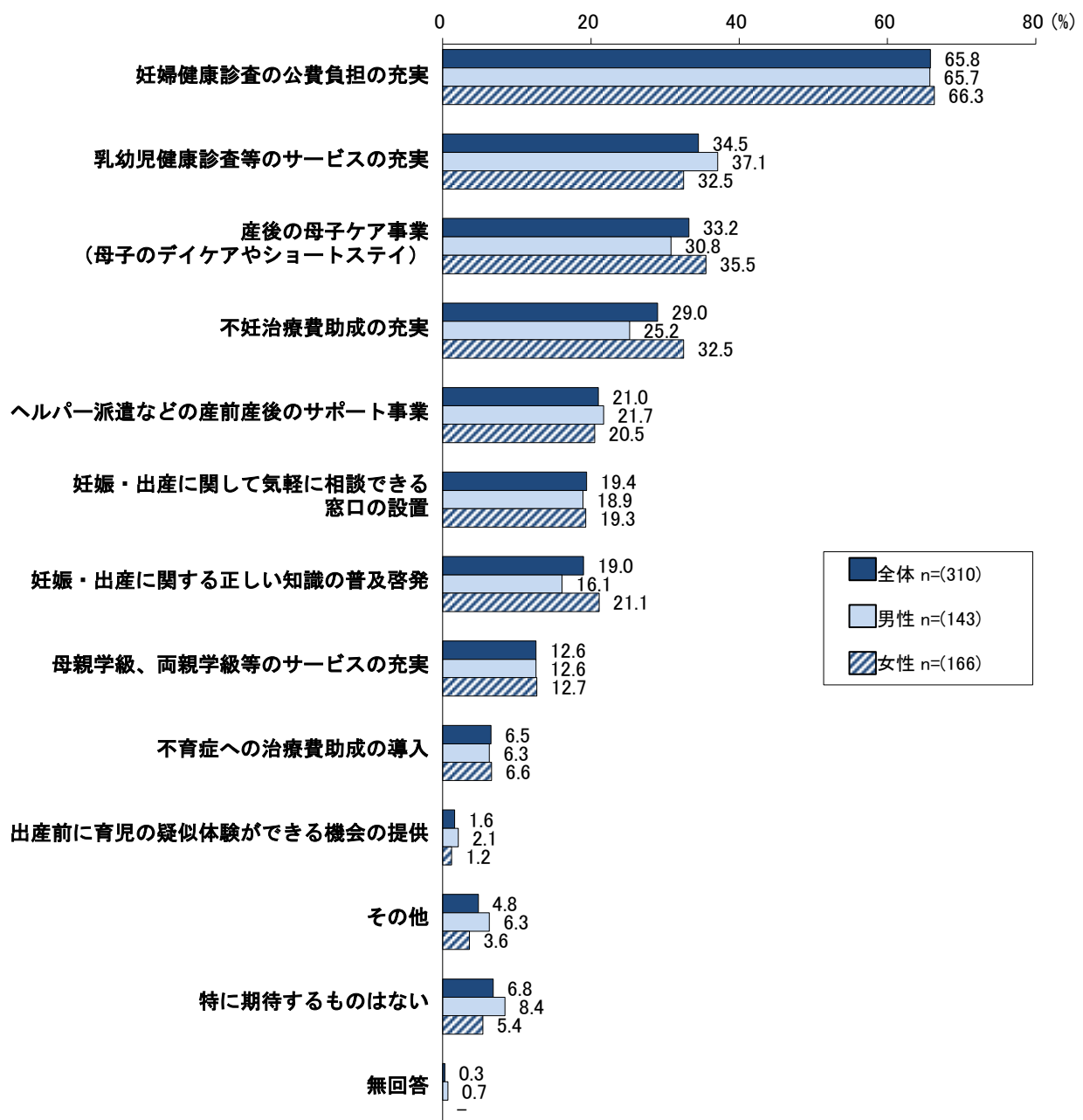


（7）妊娠・出産に関する支援として行政に期待すること【独身者調査】

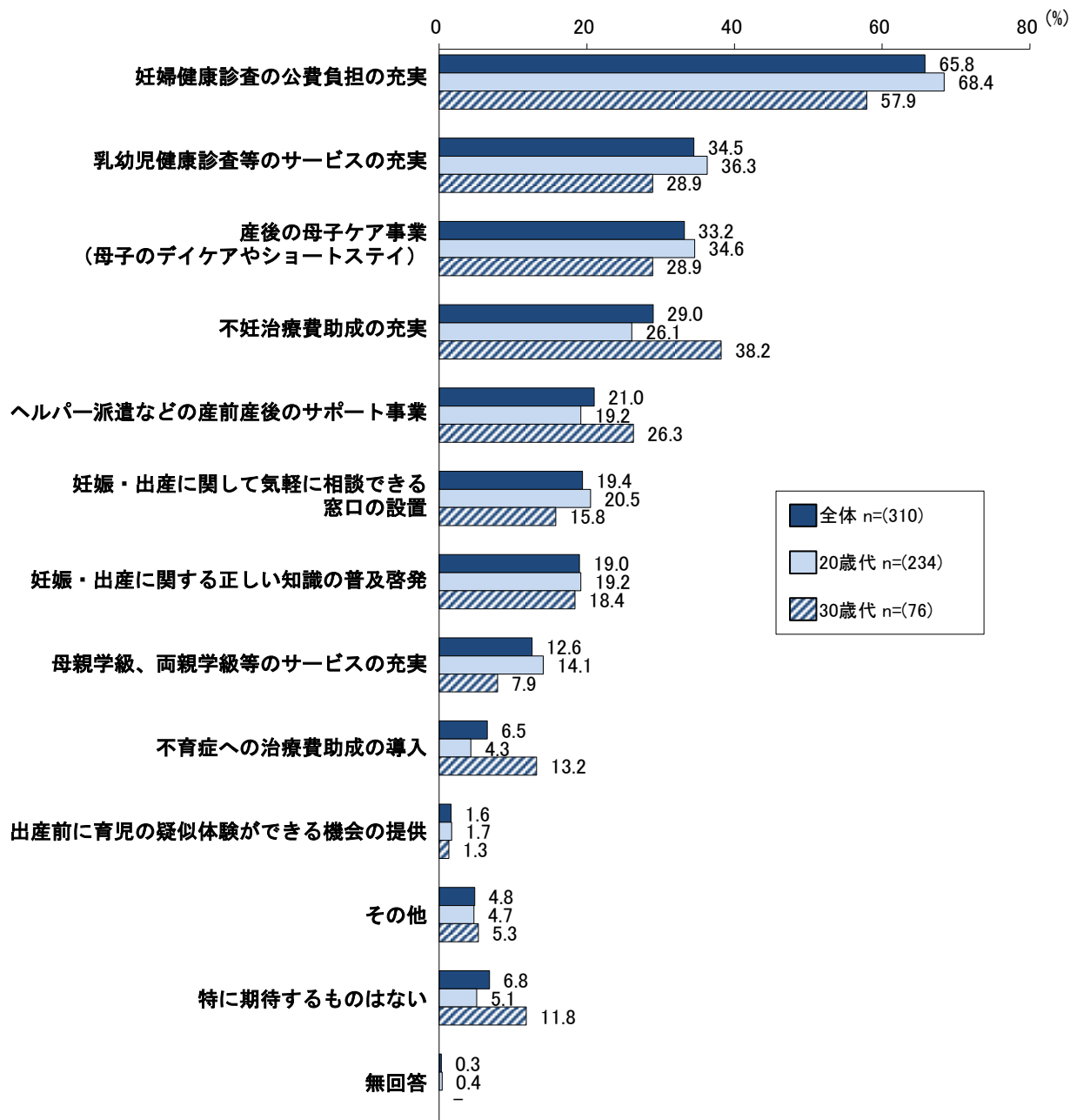
Q：妊娠・出産の支援として、どのようなことを行政に期待しますか。（○は3つ）

行政に期待する妊娠・出産に関する支援は、「妊婦健康診査の公費負担の充実」が65.8%で最も高く、次いで「乳幼児健康診査等のサービスの充実」が34.5%、「産後の母子ケア事業（母子のデイケアやショートステイ）」が33.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「不妊治療費助成の充実」が7.3ポイント、「妊娠・出産に関する正しい知識の普及啓発」が5.0ポイント、「産後の母子ケア事業（母子のデイケアやショートステイ）」が4.7ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「乳幼児健康診査等のサービスの充実」が4.6ポイント高くなっています。



年齢別でみると、20歳代で「妊婦健康診査の公費負担の充実」が68.4%、「乳幼児健康診査等のサービスの充実」が36.3%、「産後の母子ケア事業（母子のデイケアやショートステイ）」が34.6%と高くなっています。一方、「不妊治療費助成の充実」は30歳代で38.2%と高くなっています。



4 子どもについて

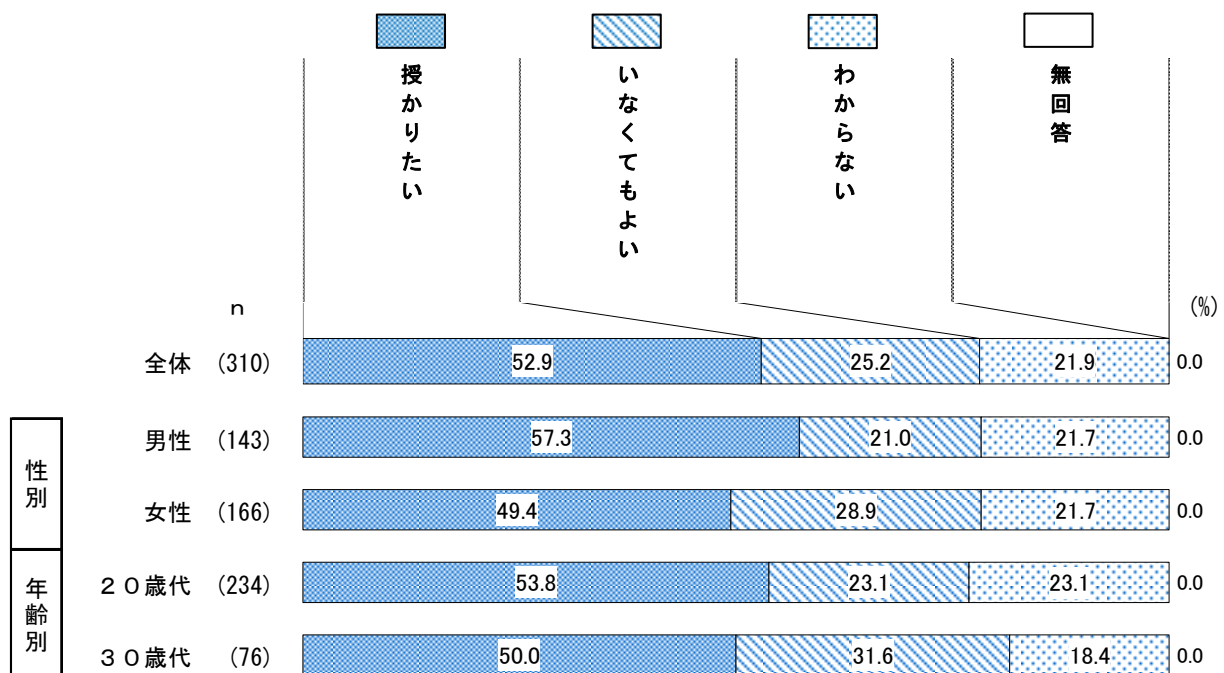
（1）将来子どもを授かりたいか【独身者調査】

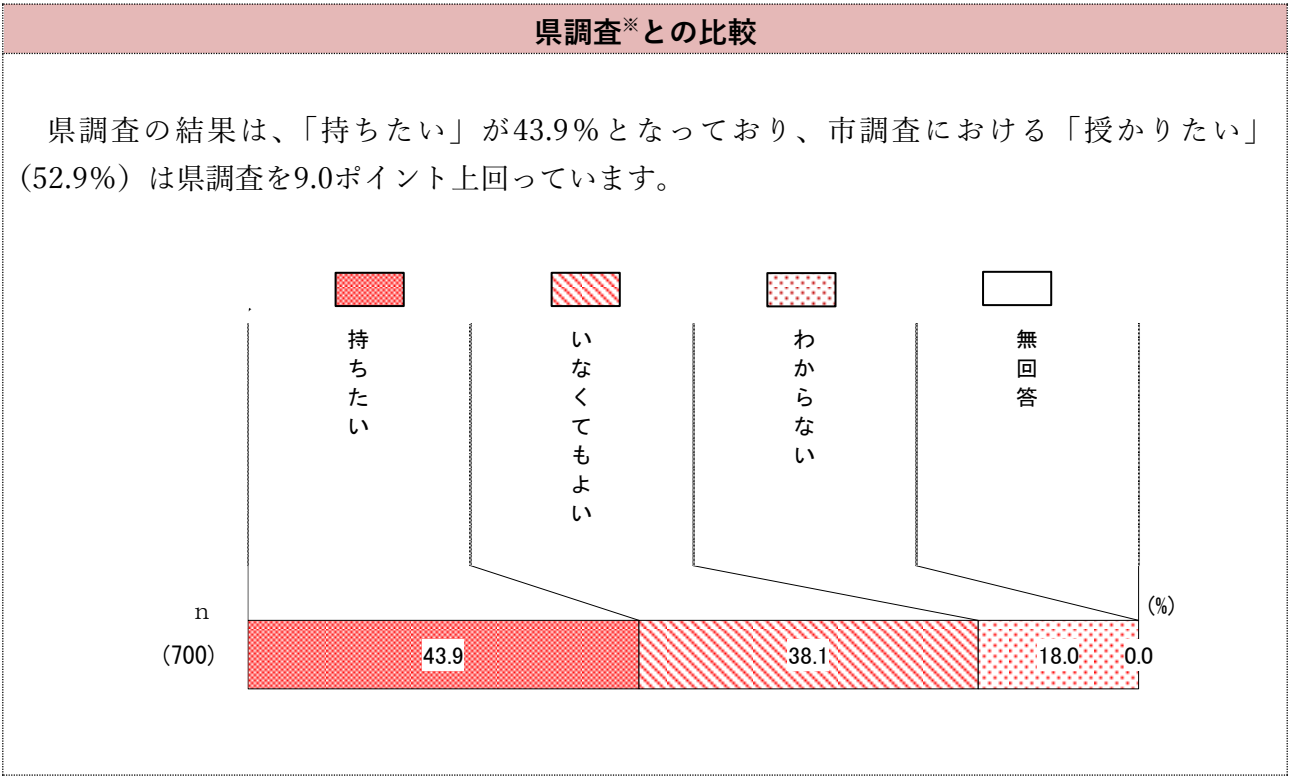
Q：あなたは将来子どもを授かりたいですか。（○は1つ）

将来子どもを授かりたいかは、「授かりたい」が52.9%、「いなくてもよい」が25.2%、「わからない」が21.9%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「授かりたい」が7.9ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「いなくてもよい」が7.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「いなくてもよい」は30歳代で31.6%とやや高くなっています。





※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

（2）将来授かりたい子どもの人数／理想の子どもの人数

【独身者調査】※将来子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答

Q：あなたは将来子どもを何人授かりたいですか。（○は1つ）

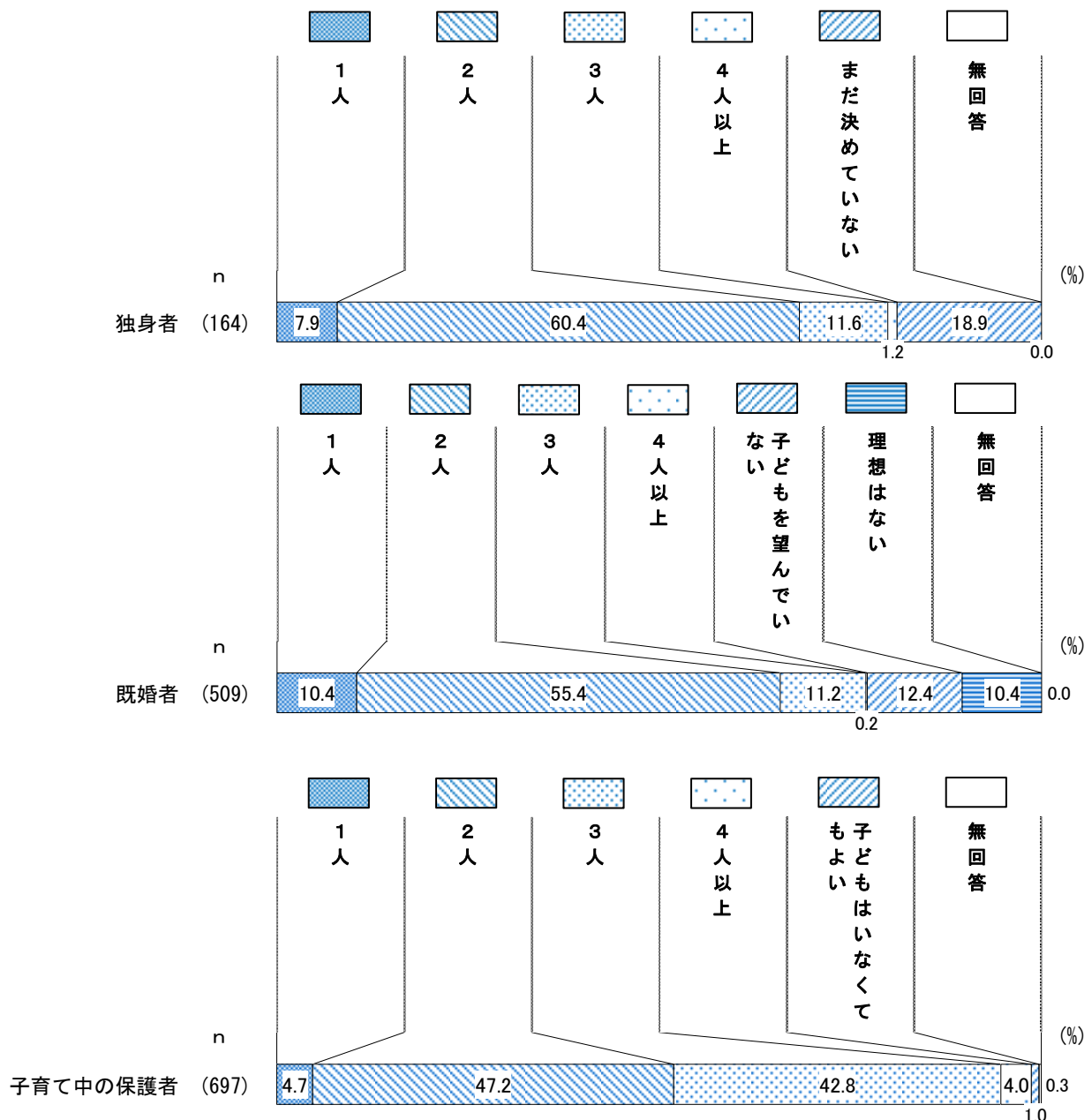
【既婚者調査・子育て中の保護者調査】

Q：あなた方ご夫婦にとって、理想的な子どもの人数は何人ですか。

将来授かりたい子どもの人数は、独身者調査では「2人」が60.4%で最も高く、次いで「まだ決めていない」が18.9%、「3人」が11.6%となっています。

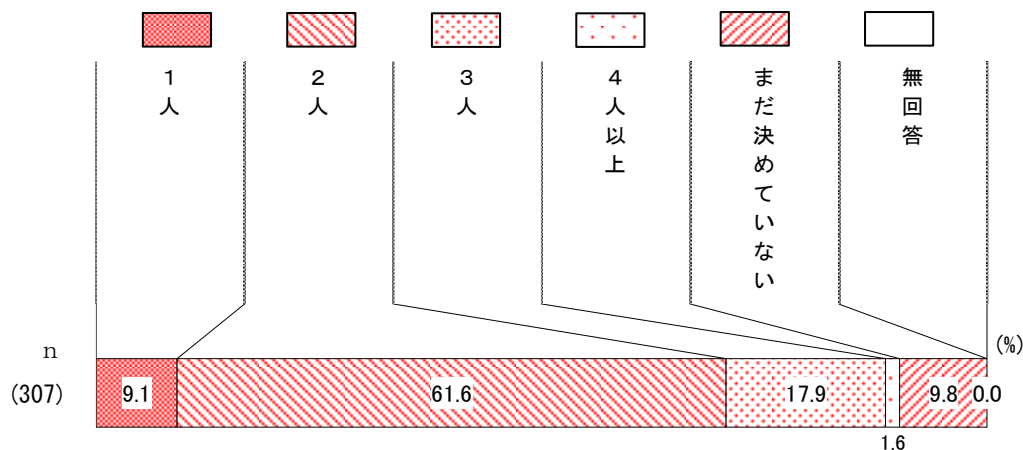
理想の子どもの数は、既婚者調査では「2人」が55.4%で最も高く、次いで「子どもを望んでいない」が12.4%、「3人」が11.2%、「1人」が10.4人となっています。

子育て中の保護者調査では「2人」が47.2%で最も高く、次いで「3人」が42.8%、「1人」が4.7%、「4人以上」が4.0%となっています。

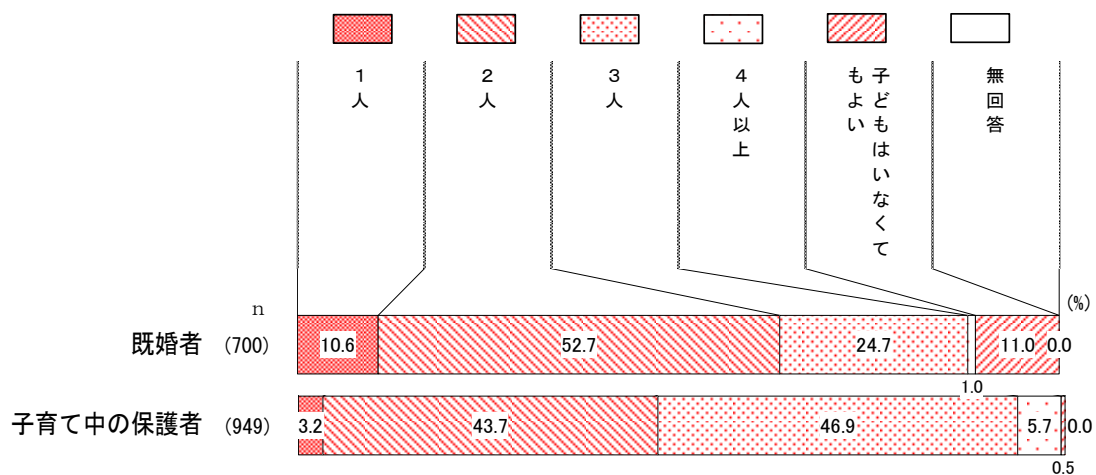


県調査※との比較

独身者調査では、市調査と同様に「2人」（61.6%）が高くなっています。県調査の結果は「3人」が17.9%となっており、市調査（11.6%）は県調査より6.3ポイント低くなっています。一方、「まだ決めていない」は9.8%となっており、市調査（18.9%）は県調査より9.1ポイント高くなっています。



県調査の結果は「3人」が既婚者調査で24.7%、子育て中の保護者調査で46.9%となっており、市調査の結果は既婚者調査（11.2%）で13.5ポイント、子育て中の保護者調査（42.8%）で4.1ポイント低くなっています。



※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）
 夫婦全般に関する調査（既婚者調査）
 地域での子育てに関する調査（保護者調査）

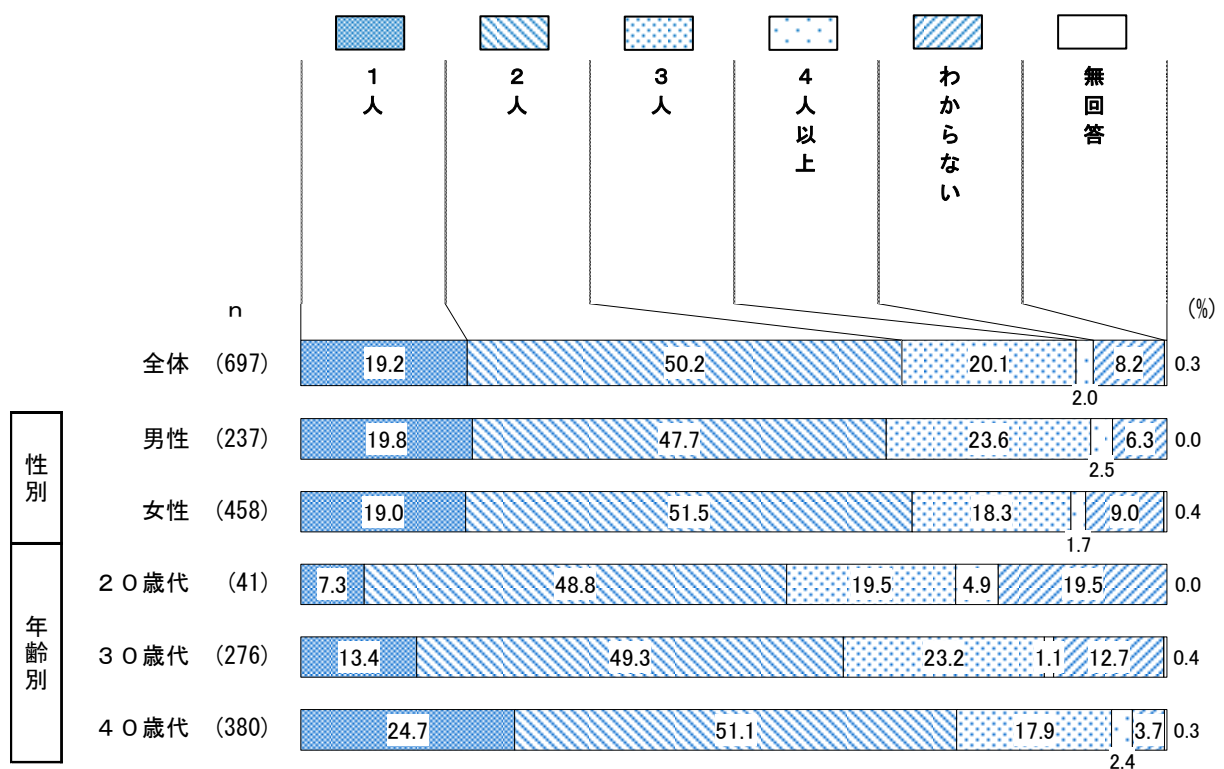
（3）予定の子どもの人数【子育て中の保護者調査】

Q：あなたの子どもの人数について、最終的に何人を予定していますか。（予定の子どもの人数）
（○は1つ）

子どもの最終的な予定数は、「2人」が50.2%で最も高く、次いで「3人」が20.1%、「1人」が19.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「2人」が3.8ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「3人」が5.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20歳代で「1人」は7.3%、「2人」は48.8%と低く、いずれも年齢が上がるほど高くなっています。「3人」は30歳代で23.2%とやや高くなっています。



（４）「理想の子どもの人数」より「予定の子どもの人数」が少ない理由

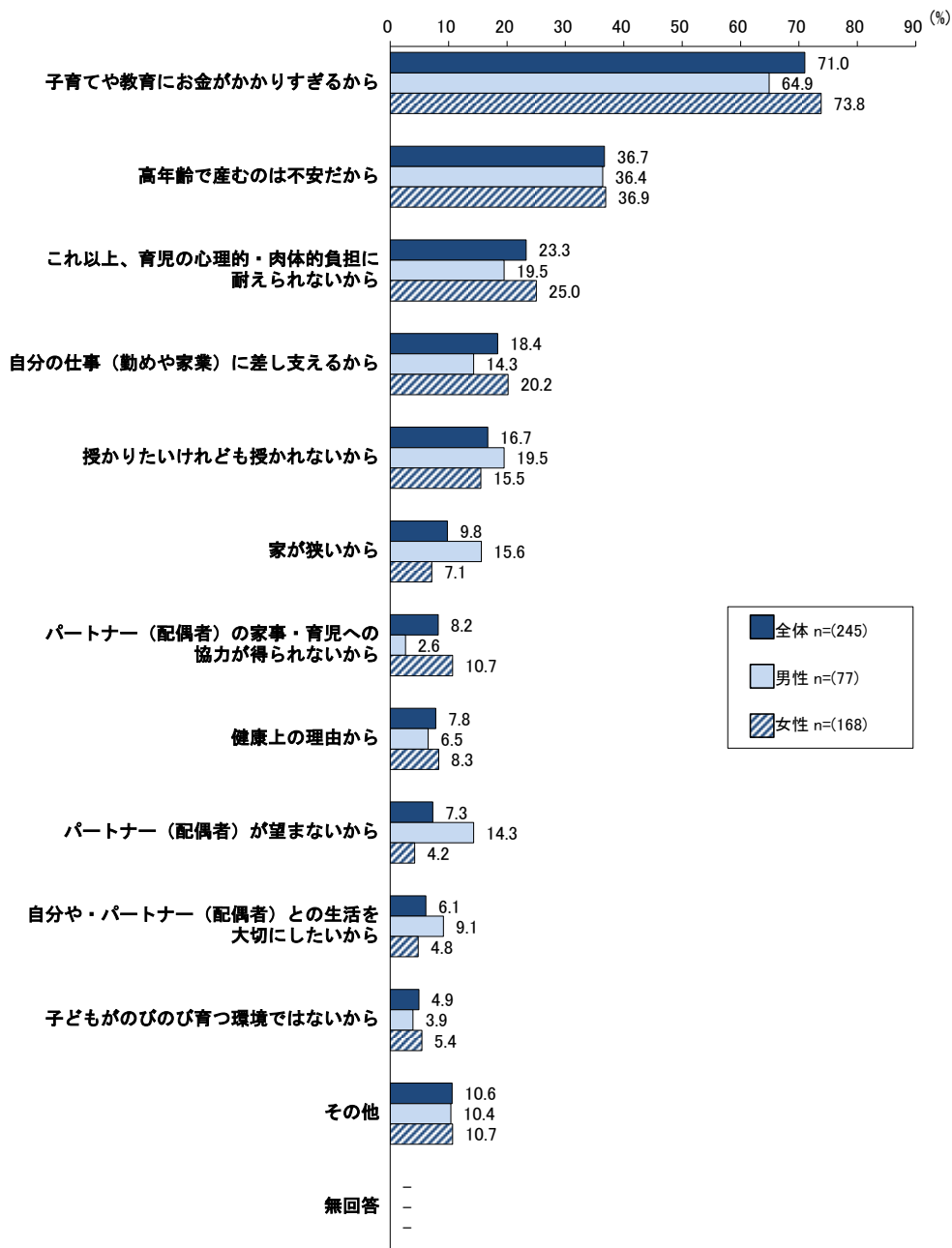
【子育て中の保護者調査】

※「理想の子ども数」より「予定の子ども数」が少ない方のみ回答

Q：「理想の子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は何ですか。（○は３つ）

「理想の子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が71.0%で最も高く、次いで「高年齢で産むのは不安だから」が36.7%、「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」が23.3%となっています。

性別でみると、男性は「授かりたいけれども授けられないから」や「パートナー（配偶者）が望まないから」などが女性よりも高くなっています。また、女性では、「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」や「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」などが男性よりも高くなっています。



年齢別でみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は30歳代で83.3%と高くなっています。一方、「高年齢で産むのは不安だから」は40歳代で50.0%となっています。

単位：%		調査数（n）	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高年齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	授かりたいけれども授けられないから	家が狭いから	パートナー（配偶者）の家事・育児への協力が得られないから	健康上の理由から	パートナー（配偶者）が望まないから	自分や・パートナー（配偶者）との生活を大切にしたいから	子どもがのびのび育つ環境ではないから	その他	無回答
全体		697	71.0	36.7	23.3	18.4	16.7	9.8	8.2	7.8	7.3	6.1	4.9	10.6	0.0
年齢別	20歳代	9	88.9	0.0	22.2	22.2	11.1	44.4	22.2	0.0	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0
	30歳代	84	83.3	16.7	28.6	27.4	16.7	10.7	3.6	4.8	4.8	9.5	8.3	13.1	0.0
	40歳代	152	63.2	50.0	20.4	13.2	17.1	7.2	9.9	9.9	8.6	3.9	2.0	9.9	0.0

※母数が30未満の項目は参考値とする。

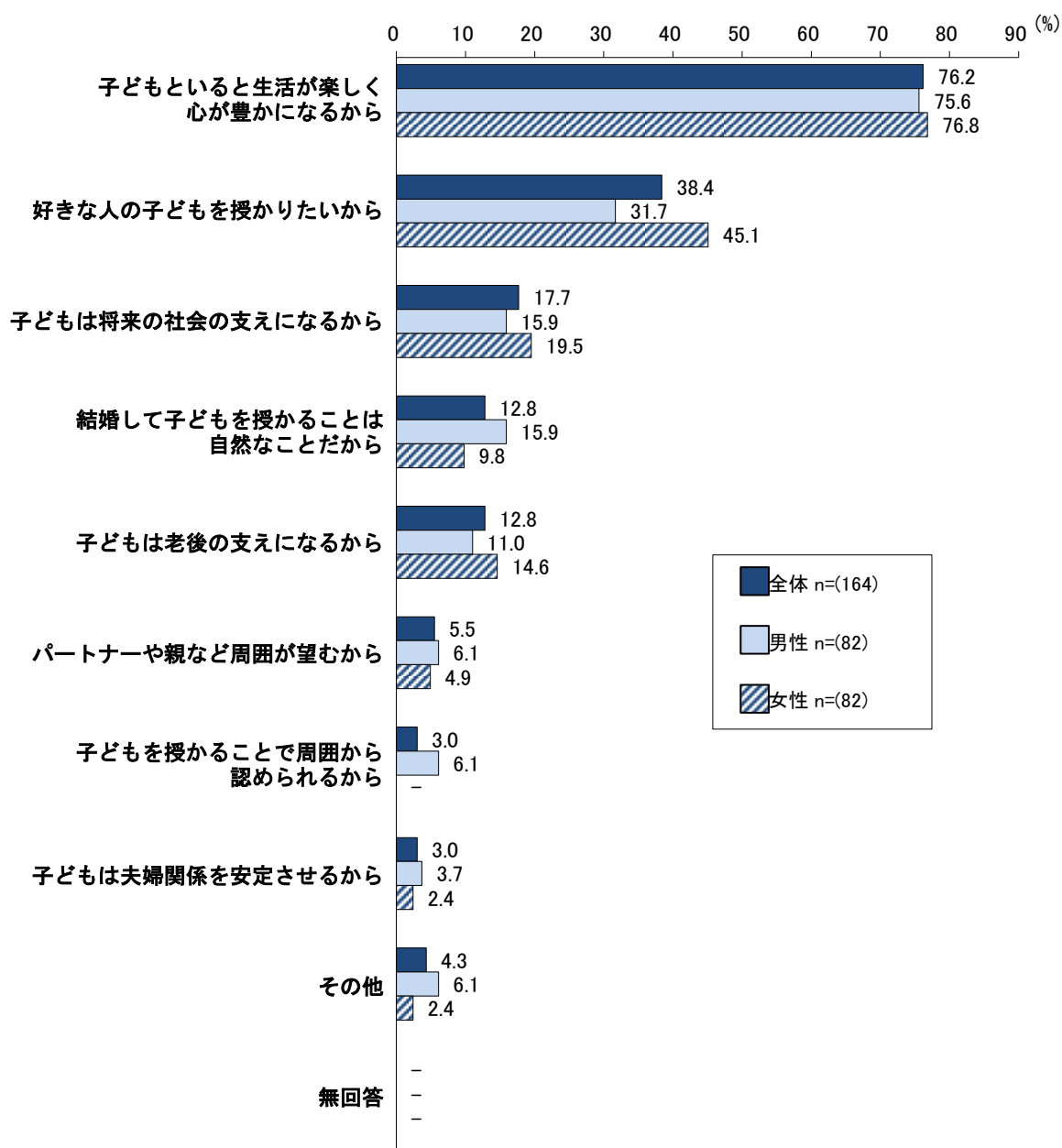
（5）子どもを授かりたい理由【独身者調査】

※将来子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答

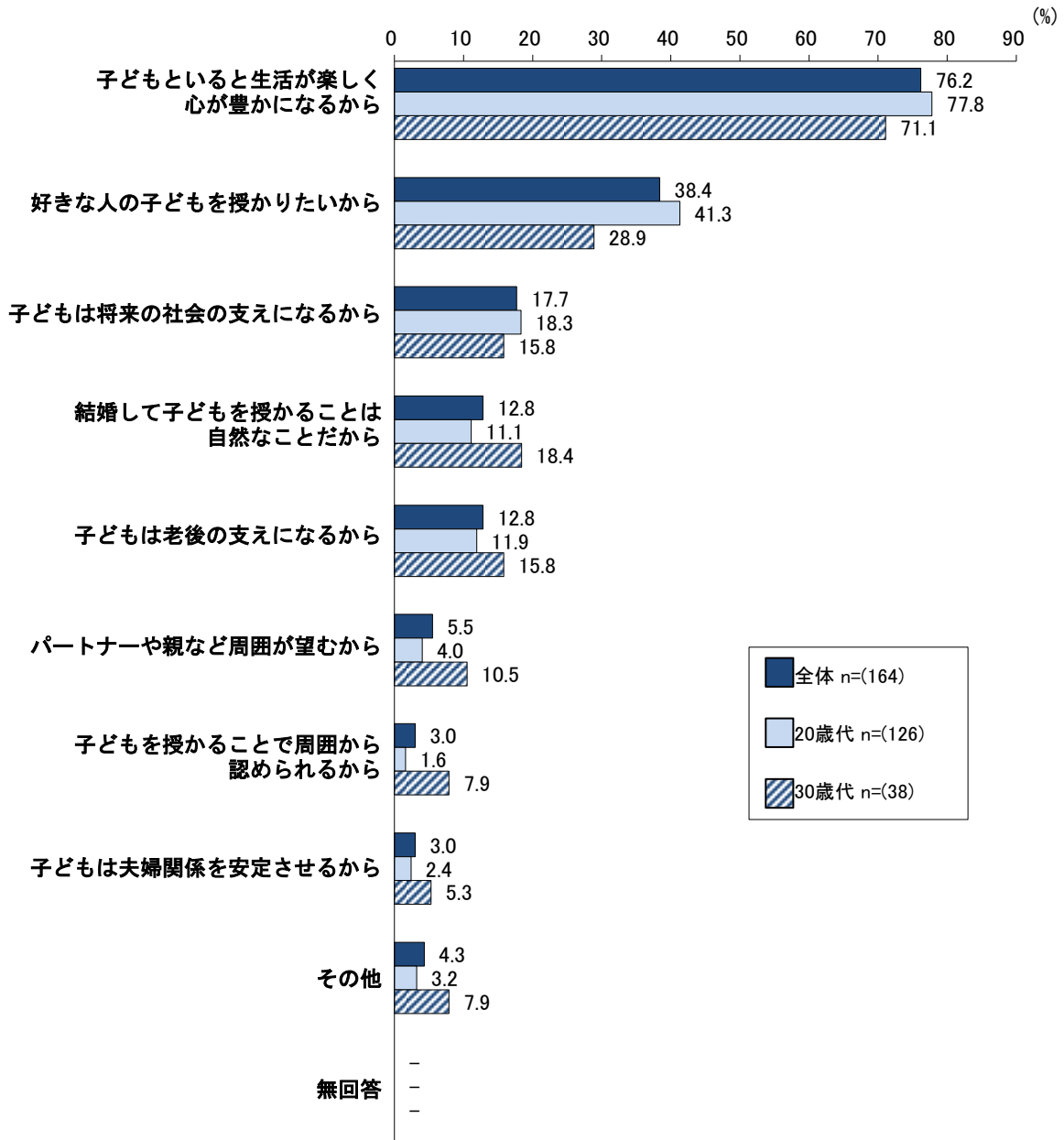
Q：子どもを1人以上授かりたいと思う理由は何ですか。（○は1つ）

子どもを授かりたいと思う理由は、「子どもといると生活が楽しく心が豊かになるから」が76.2%で最も高く、次いで「好きな人の子どもを授かりたいから」が38.4%、「子どもは将来の社会の支えになるから」が17.7%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「好きな人の子どもを授かりたいから」が13.4ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「結婚して子どもを授かることは自然なことだから」と「子どもを授かることで周囲から認められるから」が6.1ポイント高くなっています。



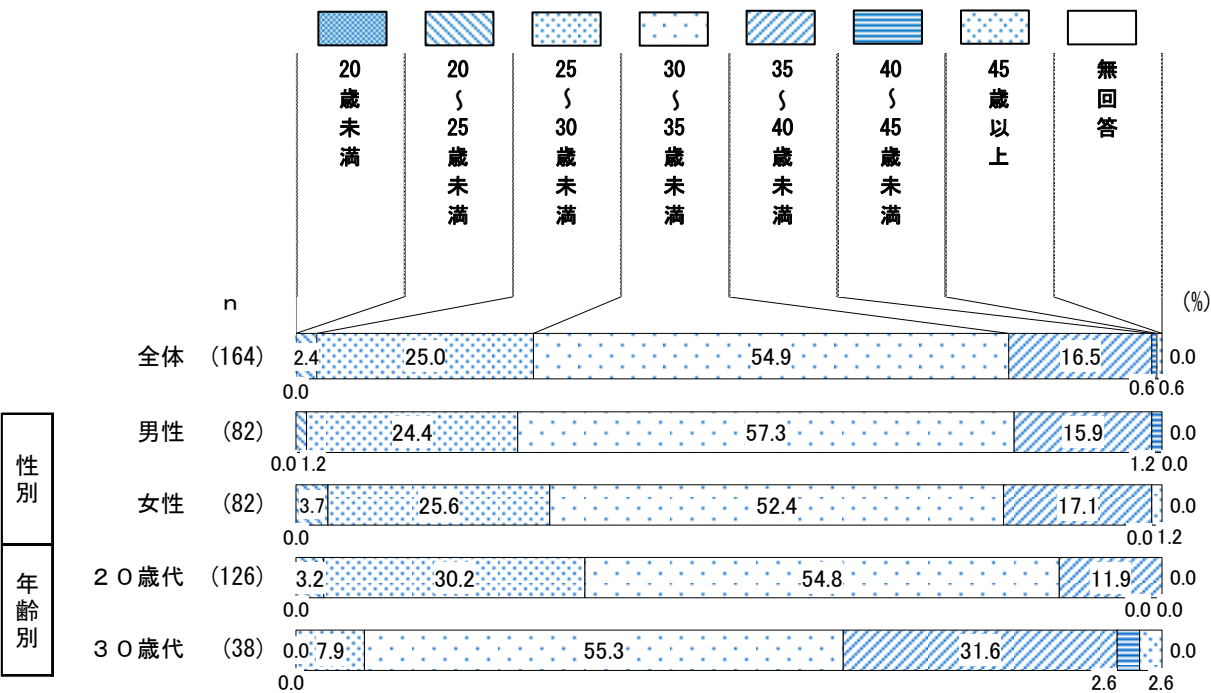
年齢別でみると、「好きな人の子どもを授かりたいから」は20歳代で41.3%と高くなっています。一方、「結婚して子どもを授かることは自然なことだから」は30歳代で18.4%と20歳代より高くなっています。



（6）女性は何歳になるまでに出産を迎えた方がいいと考えるか【独身者調査】

※将来子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答
Q：遅くとも女性は何歳になるまでに出産を迎えた方がよいと考えていますか。（○は1つ）

遅くとも女性は何歳になるまでに出産を迎えた方がよいと考えるかは、「30～35歳未満」が54.9%で最も高く、次いで「25～30歳未満」が25.0%、「35～40歳未満」が16.5%となっています。
性別でみると、男性は女性よりも「30～35歳未満」が4.9ポイント高くなっています。
年齢別でみると、「25～30歳未満」は20歳代で30.2%と高くなっています。一方、「35～40歳未満」は30歳代で31.6%と高くなっています。



（7）結婚しないまま子どもを授かりたいか【独身者調査】

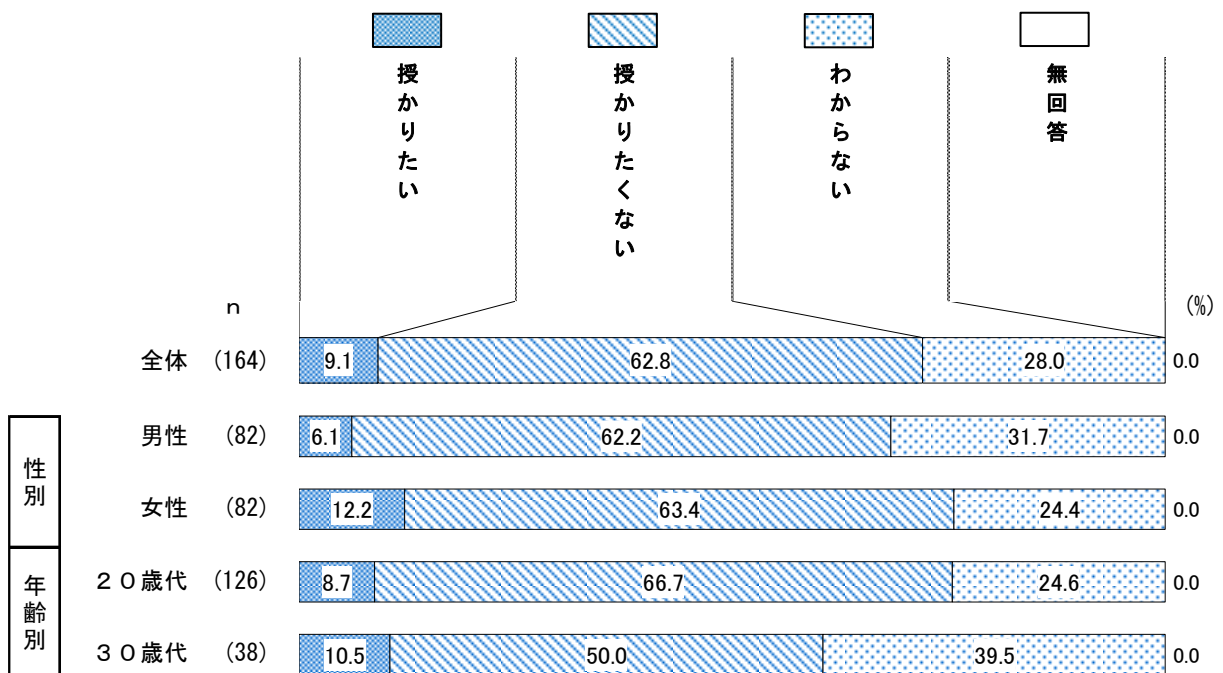
※将来子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答

Q：あなたは結婚しないまま子どもを授かりたいと思いますか。（○は1つ）

結婚しないまま子どもを授かりたいと思うかは、「授かりたくない」が62.8%で最も高く、次いで「わからない」が28.0%、「授かりたい」が9.1%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「授かりたい」が6.1ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「わからない」が7.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「授かりたくない」は20歳代で66.7%と高くなっています。一方、「わからない」は30歳代で39.5%と高くなっています。

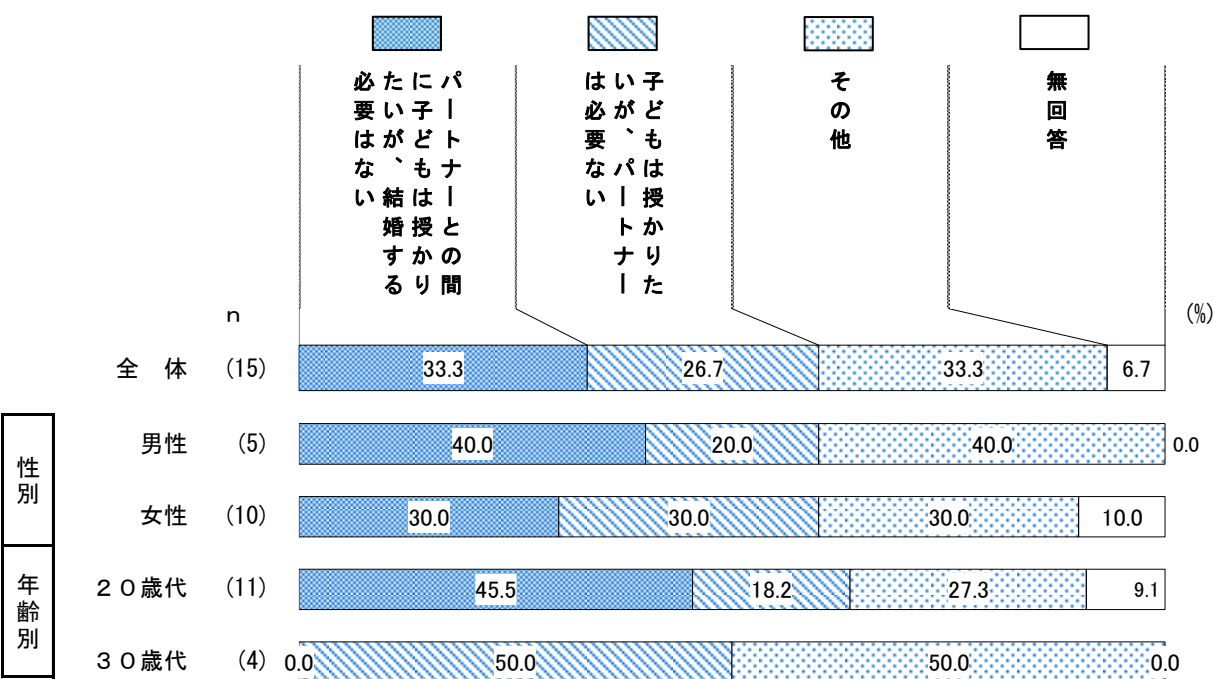


(8) 結婚しないまま子どもを授かりたい理由【独身者調査】

※結婚しないまま子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答
Q：結婚しないまま子どもを授かりたいと思う理由は何ですか。（○は1つ）

「結婚しないまま子どもを授かりたい」と思う理由は、「パートナーとの間に子どもは授かりたいが、結婚する必要はない」と「その他」が33.3%で高く、次いで「子どもは授かりたいが、パートナーは必要ない」が26.7%となっています。

※クロス集計の分析については母数が少ないため省略しています。



※母数が30未満のため参考値とする。

（9）子どもを望まない理由【独身者調査・既婚者調査】

【独身者調査】※将来子どもを授かりたいかで「いなくてもよい」を選んだ方のみ回答

Q：「いなくてもよい」と思う理由は何ですか。（○は2つ）

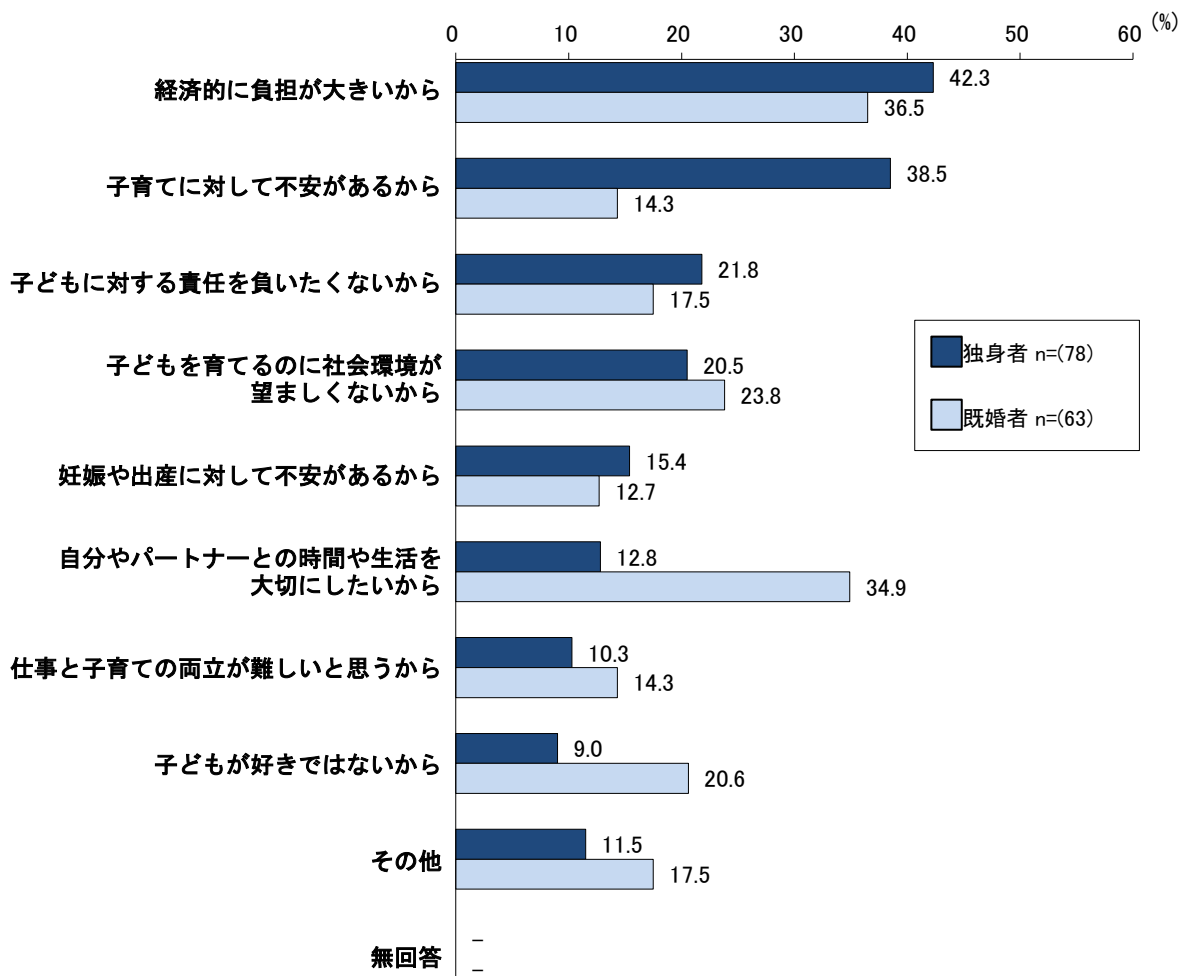
【既婚者調査】※理想的な子どもの数で「子どもを望んでいない」を選んだ方のみ回答

Q：その理由は何ですか。（○は2つ）

独身者調査で子どもがいなくてもよい理由は、「経済的に負担が大きいから」が42.3%で最も高く、次いで「子育てに対して不安があるから」が38.5%、「子どもに対する責任を負いたくないから」が21.8%となっています。

既婚者調査で子どもを望まない理由は、「経済的に負担が大きいから」が36.5%で最も高く、次いで「自分やパートナーとの時間や生活を大切にしたいから」が34.9%、「子どもを育てるのに社会環境が望ましくないから」が23.8%となっています。

「その他」の主な内容は、独身者調査では「体力的・身体的に自信がない」、「必要と思わない・理由はない」など、既婚者調査では「年齢的に難しい」、「健康面で不安がある」、「夫婦・自分のために時間・お金を使いたい」などが挙げられています。

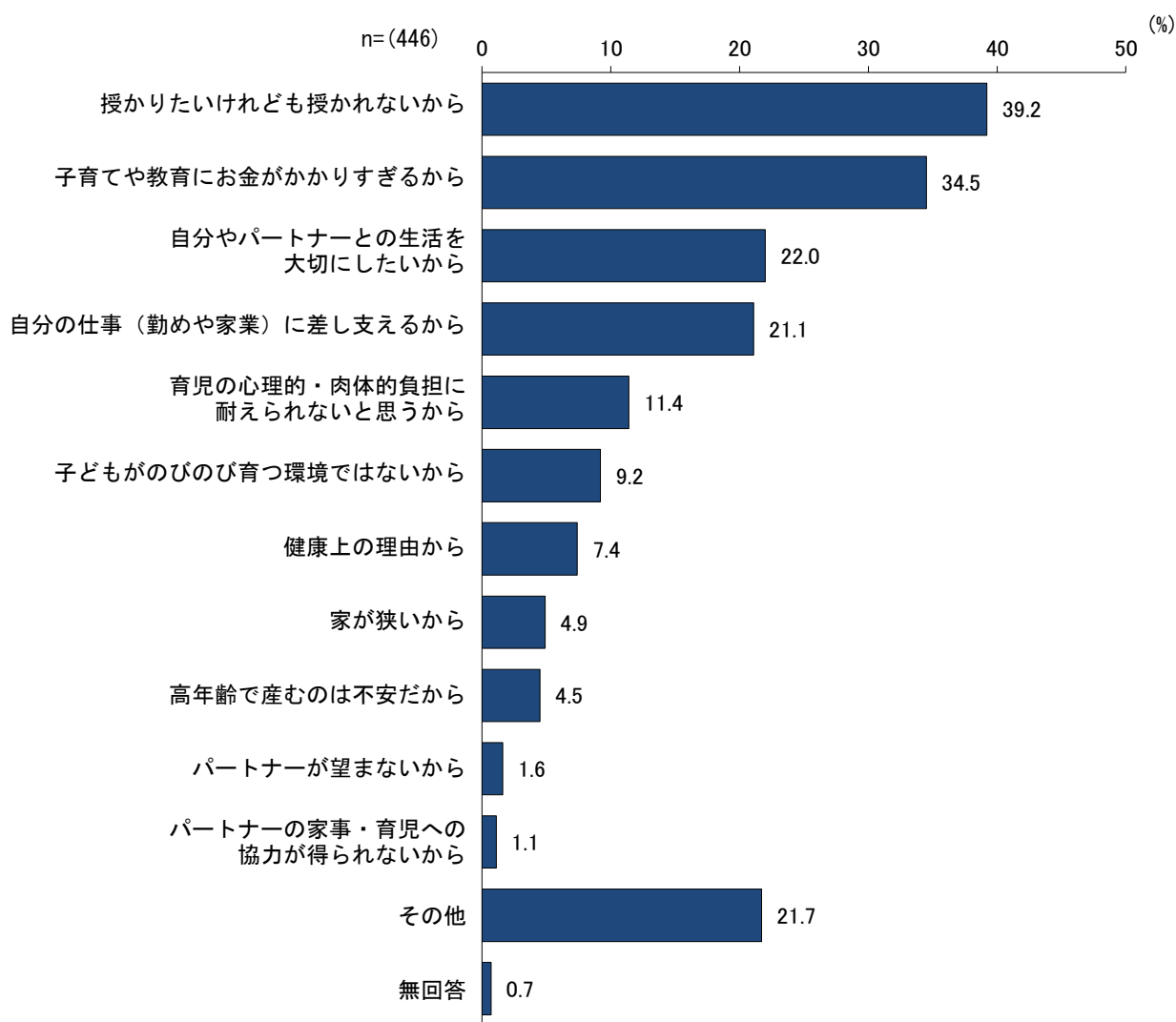


(10) 子どもがいない理由【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦に、現在子どもがいない理由は何ですか。（〇は3つ）

現在子どもがいない理由は、「授かりたいけれども授けられないから」が39.2%で最も高く、次いで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が34.5%、「自分やパートナーとの生活を大切にしたいから」が22.0%、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が21.1%となっています。

「その他」の主な内容は、「妊娠しているから」、「結婚前・結婚から間もないから」、「妊活中だから」などが挙げられています。



5 子育てについて

（1）子どもが就学までの間に利用した制度・施設【子育て中の保護者調査】

Q：あなたのお子さんが小学生になるまでの間（就学前）に利用した制度・施設について教えてください。（○はいくつでも）

■第1子が就学前に利用した制度・施設

「産前・産後休暇」が45.1%と最も高く、次いで「認定こども園」が42.9%、「育児休業制度（あなた）」が35.2%となっています。

年齢別でみると、「産前・産後休暇」と「認定こども園」は30歳代で5割台と最も高く、「産前・産後休暇」は20歳代でも56.1%となっています。

単位：%		調査数（n）	産前・産後休暇	認定こども園	育児休業制度（あなた）	子育て支援センターなど地域の親子交流や相談の場	認可保育所（小規模認可型保育所含む）	育児休業制度（パートナー（配偶者））	育児時間制度・短時間勤務制度（あなた）	幼稚園（預かり保育を除く）	幼稚園が行っている預かり保育	育児時間制度・短時間勤務制度（パートナー（配偶者））
全体		697	45.1	42.9	35.2	32.9	28.0	19.4	17.9	14.8	11.8	9.5
年齢別	20歳代	41	56.1	43.9	46.3	19.5	22.0	26.8	29.3	2.4	12.2	9.8
	30歳代	276	56.2	56.5	48.2	36.2	23.9	26.4	22.1	6.9	9.1	13.0
	40歳代	380	35.8	32.9	24.5	31.8	31.6	13.4	13.7	21.8	13.7	6.8

単位：%		調査数（n）	一時預かり事業	事業所内保育施設	病児・病後児保育施設	その他の認可外保育施設	ファミリー・サポート・センター	ベビシッター（居宅訪問型保育含む）	家庭的保育（保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業）	どれも利用しなかった	無回答
全体		697	6.3	5.0	4.4	3.4	3.0	0.6	0.1	4.6	1.1
年齢別	20歳代	41	7.3	0.0	4.9	2.4	2.4	0.0	0.0	12.2	2.4
	30歳代	276	6.5	7.2	4.0	4.3	2.5	1.4	0.4	2.5	0.0
	40歳代	380	6.1	3.9	4.7	2.9	3.4	0.0	0.0	5.3	1.8

■第1子が就学前に利用した制度（育児休業制度、育児時間制度・短時間勤務制度）

		育児休業制度		育児時間制度・短時間勤務制度	
単位：%	調査数（n）	あなた	パートナー（配偶者）	あなた	パートナー（配偶者）
男性回答	237	11.8	43.9	0.8	25.7
女性回答	458	47.4	6.8	26.9	1.1

■第2子が就学前に利用した制度・施設

「産前・産後休暇」が41.3%と最も高く、次いで「認定こども園」が40.6%、「育児休業制度（あなた）」が33.2%となっています。

年齢別でみると、「産前・産後休暇」は30歳代で5割台と最も高く、30歳代では「育児休業制度（あなた）」と「認定こども園」も4割台となっています。

単位：％		調査数（n）	産前・産後休暇	認定こども園	育児休業制度（あなた）	認可保育所（小規模認可型保育所含む）	子育て支援センターなど地域の親子交流や相談の場	育児休業制度（パートナー（配偶者））	育児時間制度・短時間勤務制度（あなた）	幼稚園（預かり保育を除く）	幼稚園が行っている預かり保育	育児時間制度・短時間勤務制度（パートナー（配偶者））
全体		446	41.3	40.6	33.2	28.9	22.9	20.2	15.7	14.8	11.4	9.6
年齢別	20歳代	12	50.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	41.7	0.0	0.0	16.7
	30歳代	170	52.4	45.3	47.1	27.1	24.1	31.2	19.4	7.1	8.8	12.4
	40歳代	264	33.7	38.3	23.5	30.3	23.1	12.9	12.1	20.5	13.6	7.6

単位：％		調査数（n）	病児・病後児保育施設	一時預かり事業	事業所内保育施設	ファミリー・サポート・センター	その他の認可外保育施設	5人以下の子どもを保育する家庭等（家庭的保育（保育者の家庭等））	ベビーシッター（居宅訪問型保育含む）	どれも利用しなかった	無回答
全体		446	4.5	3.8	2.7	2.0	1.6	0.0	0.0	4.9	2.5
年齢別	20歳代	12	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	30歳代	170	4.1	2.9	2.9	2.4	1.2	0.0	0.0	2.4	2.4
	40歳代	264	4.9	4.2	2.7	1.9	1.9	0.0	0.0	5.3	2.7

※母数が30未満の項目は参考値とする。

■第2子が就学前に利用した制度（育児休業制度、育児時間制度・短時間勤務制度）

		育児休業制度		育児時間制度・短時間勤務制度	
単位：％	調査数（n）	あなた	パートナー（配偶者）	あなた	パートナー（配偶者）
男性回答	237	12.6	38.4	2.0	25.2
女性回答	458	43.9	10.9	22.8	1.7

■第3子が就学前に利用した制度・施設

「認定こども園」が42.3%と最も高く、次いで「産前・産後休暇」が41.5%、「認可保育所（小規模認可型保育所を含む）」が35.8%となっています。

年齢別でみると、「産前・産後休暇」は30歳代で5割台と最も高く、40歳代では「認定こども園」と「認可保育所（小規模認可型保育所を含む）」が4割台となっています。

単位：％		調査数（n）	認定こども園	産前・産後休暇	認可保育所（小規模認可型保育所を含む）	育児休業制度（あなた）	育児休業制度（パートナー（配偶者））	子育て支援センターなど地域の親子交流や相談の場	育児時間制度・短時間勤務制度（あなた）	育児時間制度・短時間勤務制度（パートナー（配偶者））	幼稚園が行っている預かり保育	幼稚園（預かり保育を除く）
全体		123	42.3	41.5	35.8	27.6	23.6	14.6	12.2	9.8	8.9	8.1
年齢別	20歳代	4	25.0	50.0	25.0	50.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	30歳代	45	40.0	53.3	28.9	37.8	31.1	13.3	13.3	11.1	2.2	2.2
	40歳代	74	44.6	33.8	40.5	20.3	18.9	16.2	9.5	8.1	13.5	12.2

単位：％		調査数（n）	事業所内保育施設	病児・病後児保育施設	一時預かり事業	その他の認可外保育施設	ファミリー・サポート・センター	家庭的保育（保育者の家庭等で5人以下のこどもを保育する事業）	ベビーシッター（居宅訪問型保育を含む）	どれも利用しなかった	無回答
全体		123	4.1	4.1	4.1	3.3	0.8	0.0	0.0	2.4	4.1
年齢別	20歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	30歳代	45	6.7	4.4	4.4	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	4.4
	40歳代	74	2.7	4.1	4.1	4.1	1.4	0.0	0.0	1.4	2.7

※母数が30未満の項目は参考値とする。

■第3子が就学前に利用した制度（育児休業制度、育児時間制度・短時間勤務制度）

		育児休業制度		育児時間制度・短時間勤務制度	
単位：％	調査数（n）	あなた	パートナー（配偶者）	あなた	パートナー（配偶者）
男性回答	237	10.2	42.9	4.1	20.4
女性回答	458	39.2	10.8	17.6	2.7

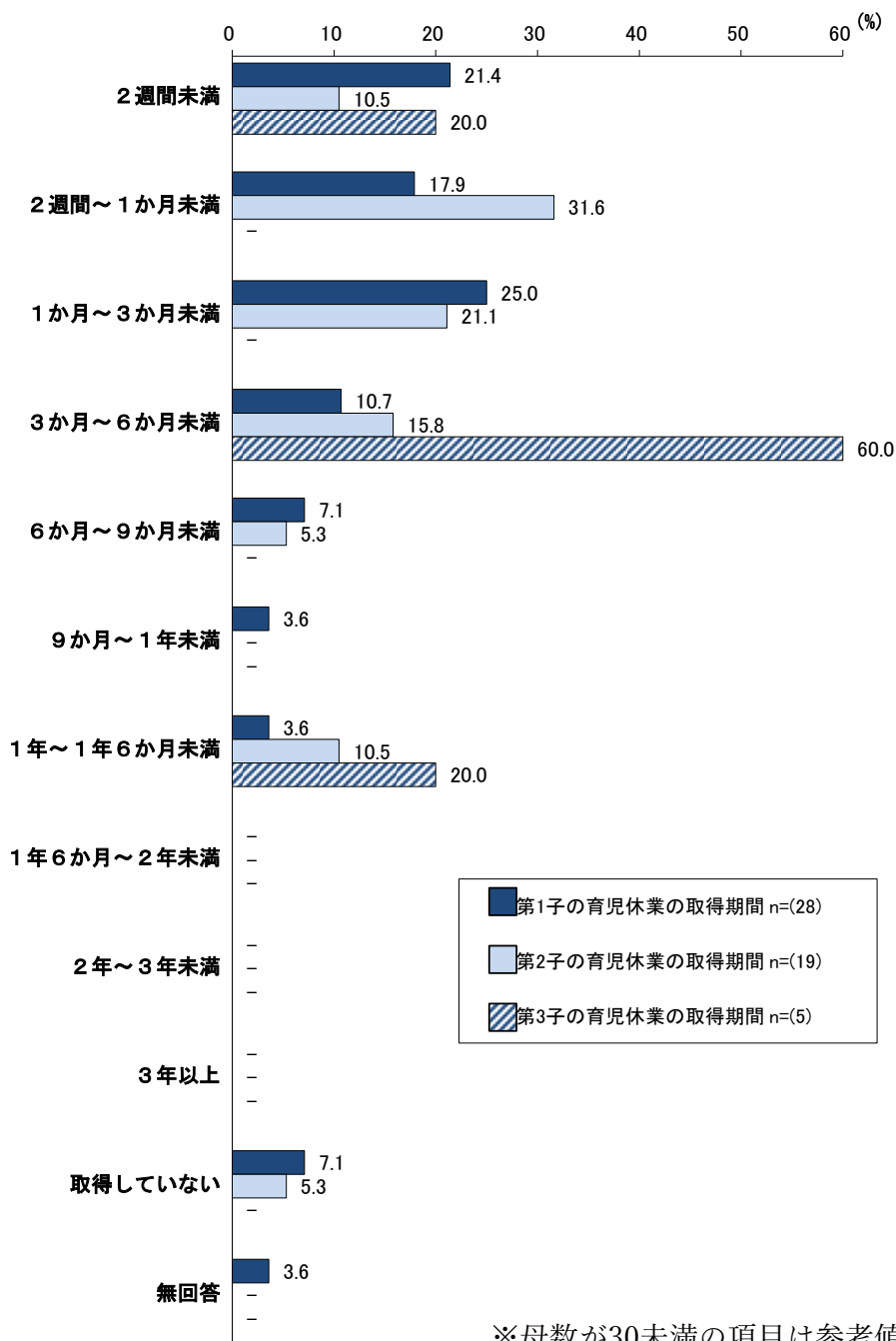
（2）育児休業の取得期間【子育て中の保護者調査】

※就学前に利用した制度・施設で「育児休業制度（あなた）」を選んだ方のみ回答

Q：育児休業の取得期間について教えてください。（○は1つ）

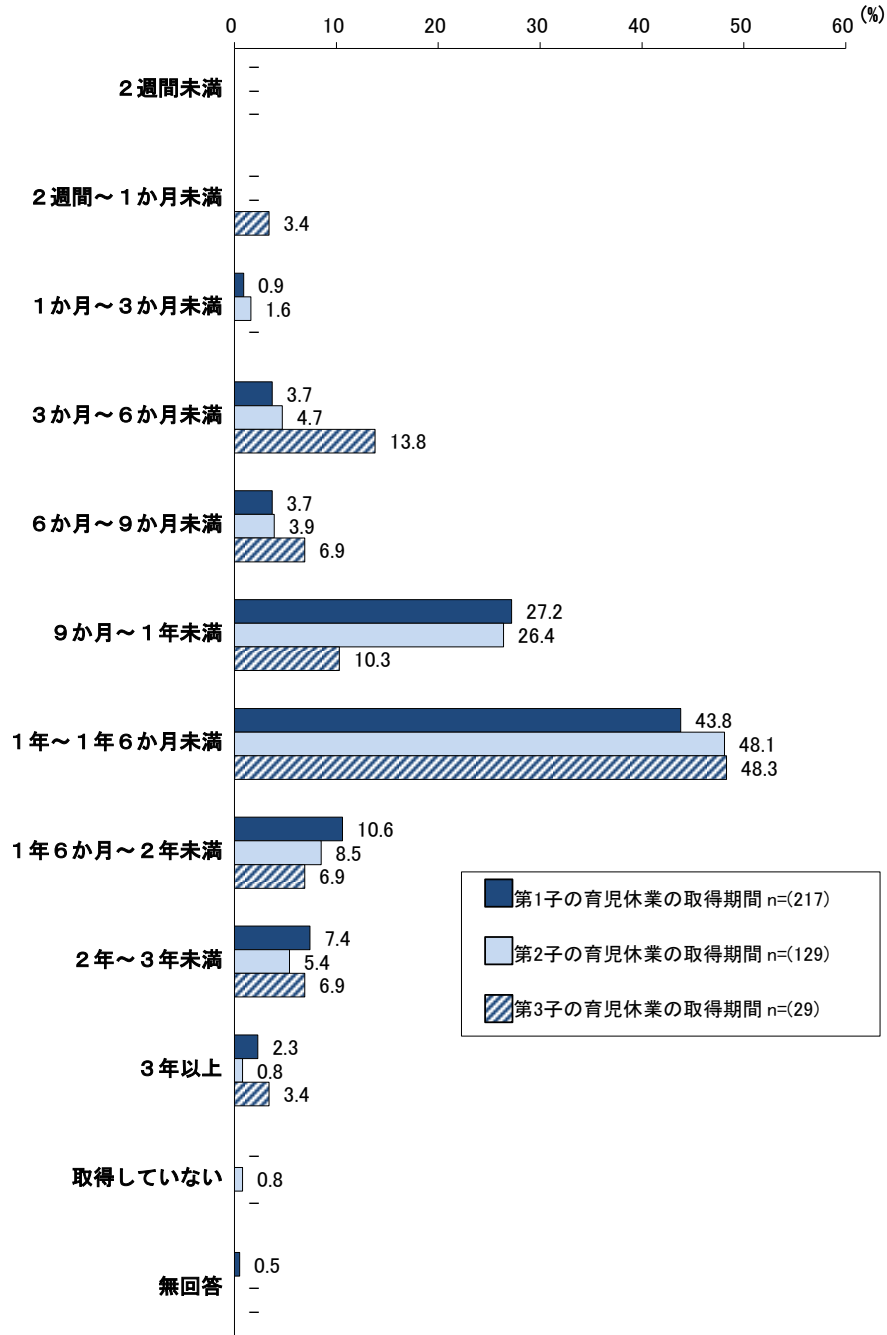
育児休業の取得期間を性別でみると、男性では母数が少ないため参考にとどめますが、第1子では「1か月～3か月未満」が25.0%で最も高くなっています。第2子では「2週間～1か月未満」が31.6%、第3子では「3か月～6か月未満」が60.0%となっています。

性別／男性回答



女性では、第1子～第3子でいずれも「1年～1年6か月未満」が4割台と最も高く、第1子と第2子では「9か月～1年未満」が2割台となっています。

性別／女性回答



※母数が30未満の項目は参考値とする。

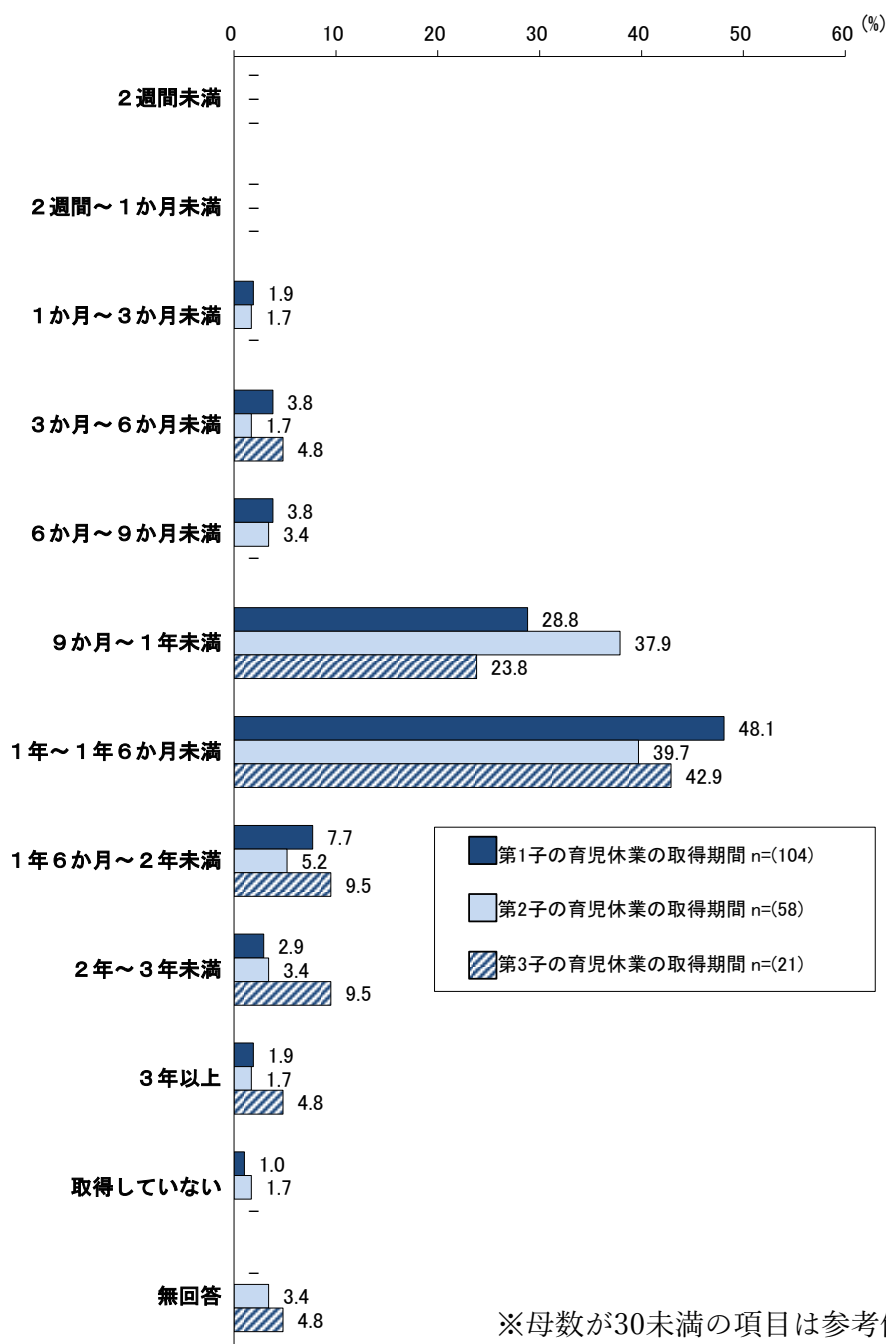
（3）パートナー（配偶者）の育児休業の取得期間【子育て中の保護者調査】

※就学前に利用した制度・施設で「育児休業制度（パートナー）」を選んだ方のみ回答

Q：育児休業の取得期間について教えてください。（○は1つ）

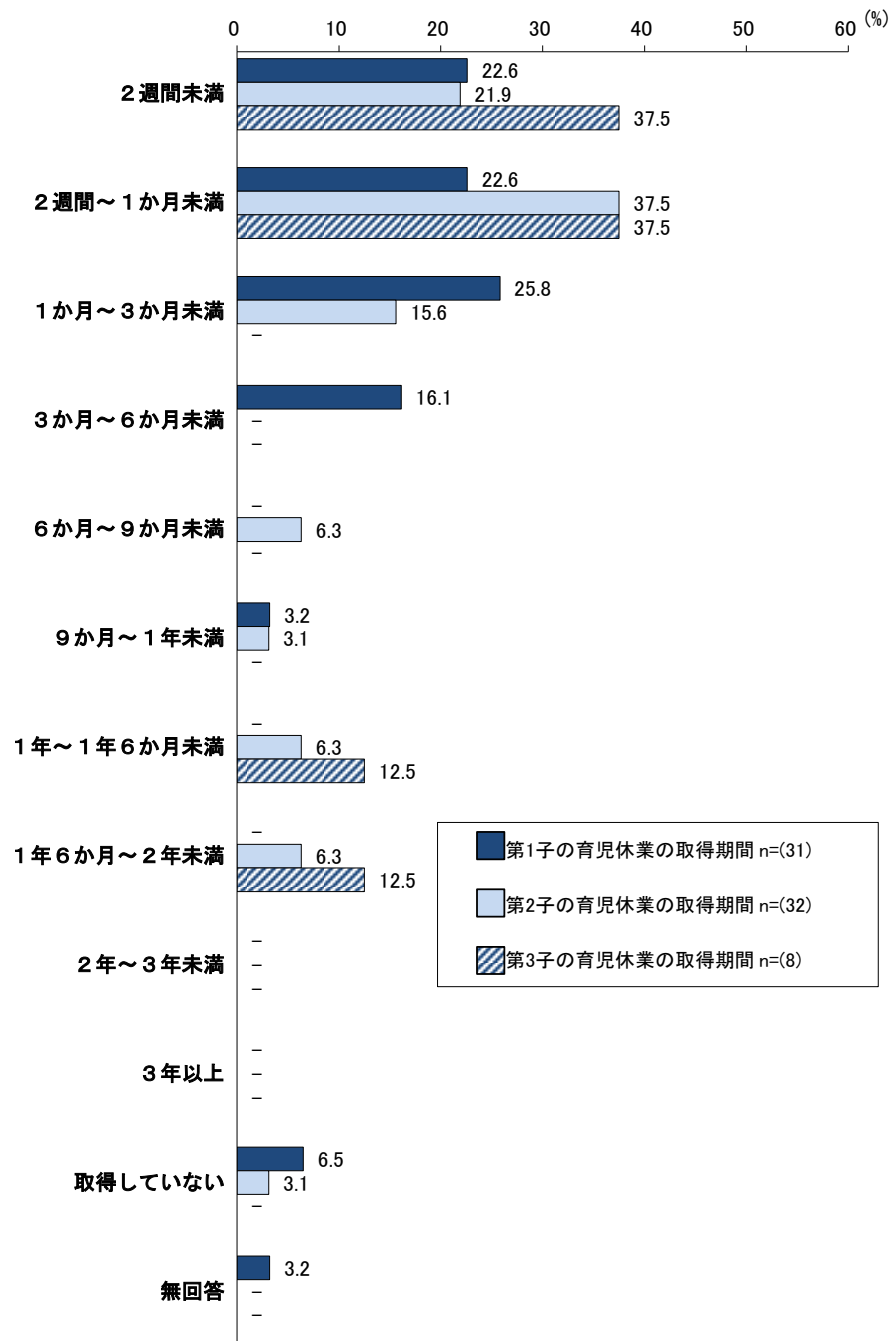
パートナー（配偶者）の育児休業の取得期間について、性別でみると、男性では第1子～第3子でいずれも「1年～1年6か月未満」が最も高く、第1子では約5割となっています。また、第2子では「9か月～1年未満」も3割台となっています。

性別／男性回答



女性では、第1子では「1か月～3か月未満」が25.8%で最も高く、第2子では「2週間～1か月未満」が37.5%となっています。

性別／女性回答



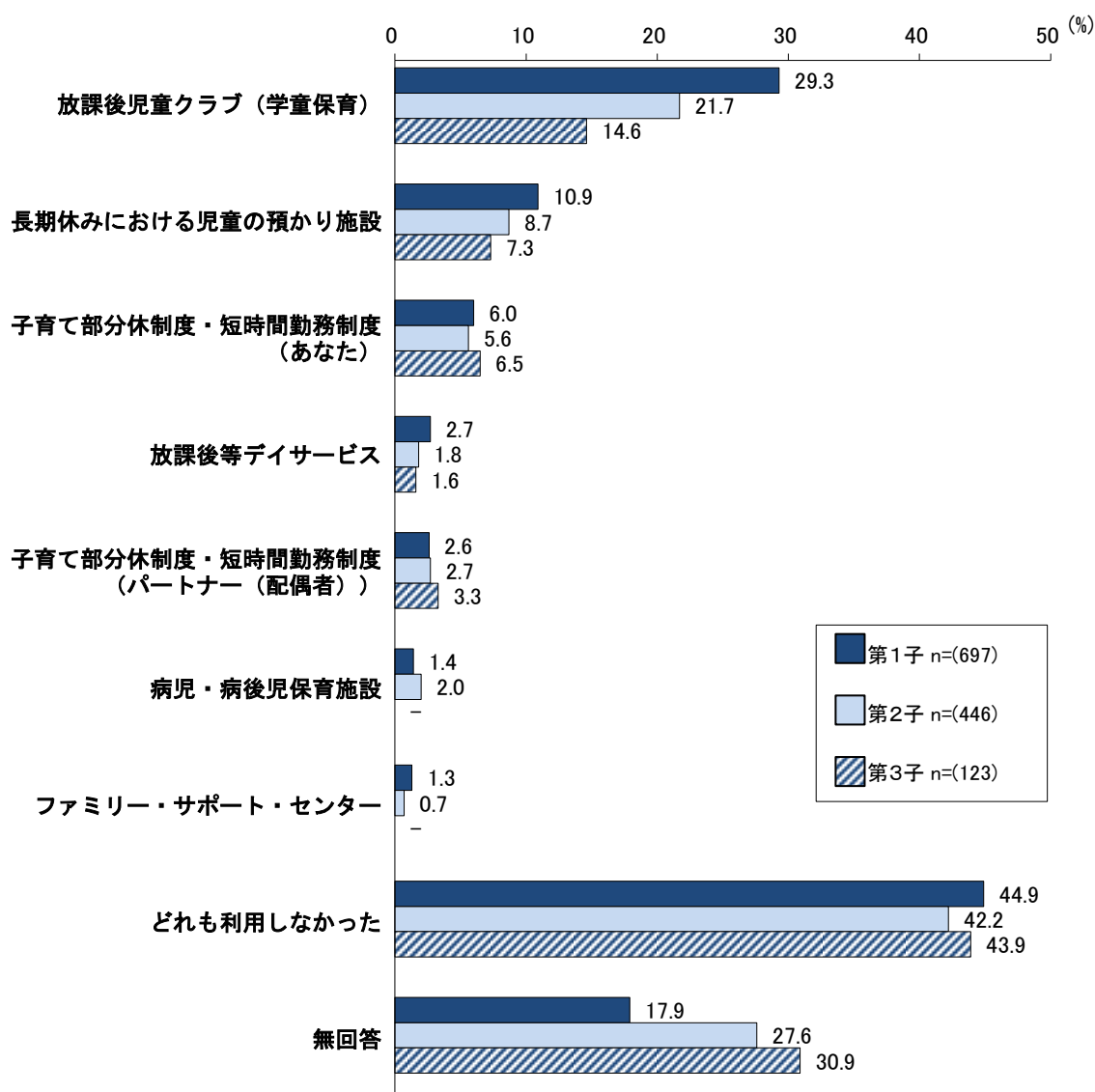
※母数が30未満の項目は参考値とする。

（4）子どもが就学以降に利用した制度・施設【子育て中の保護者調査】

Q：あなたのお子さんが就学以降（小学校入学以降）に利用した制度・施設について教えてください。（〇はいくつでも）

子どもが就学以降に利用した制度・施設は、第1子～第3子のいずれも「どれも利用しなかった」が4割台と最も高くなっています。

利用したものでは、「放課後児童クラブ（学童保育）」が第1子で29.3%、第2子で21.7%、第3子で14.6%といずれも最も高くなっています。また、第1子では「長期休みにおける児童の預かり施設」が10.9%となっています。



※未就学児童保護者の回答結果も含まれるため、「どれも利用しなかった」という回答が多い結果となっている。

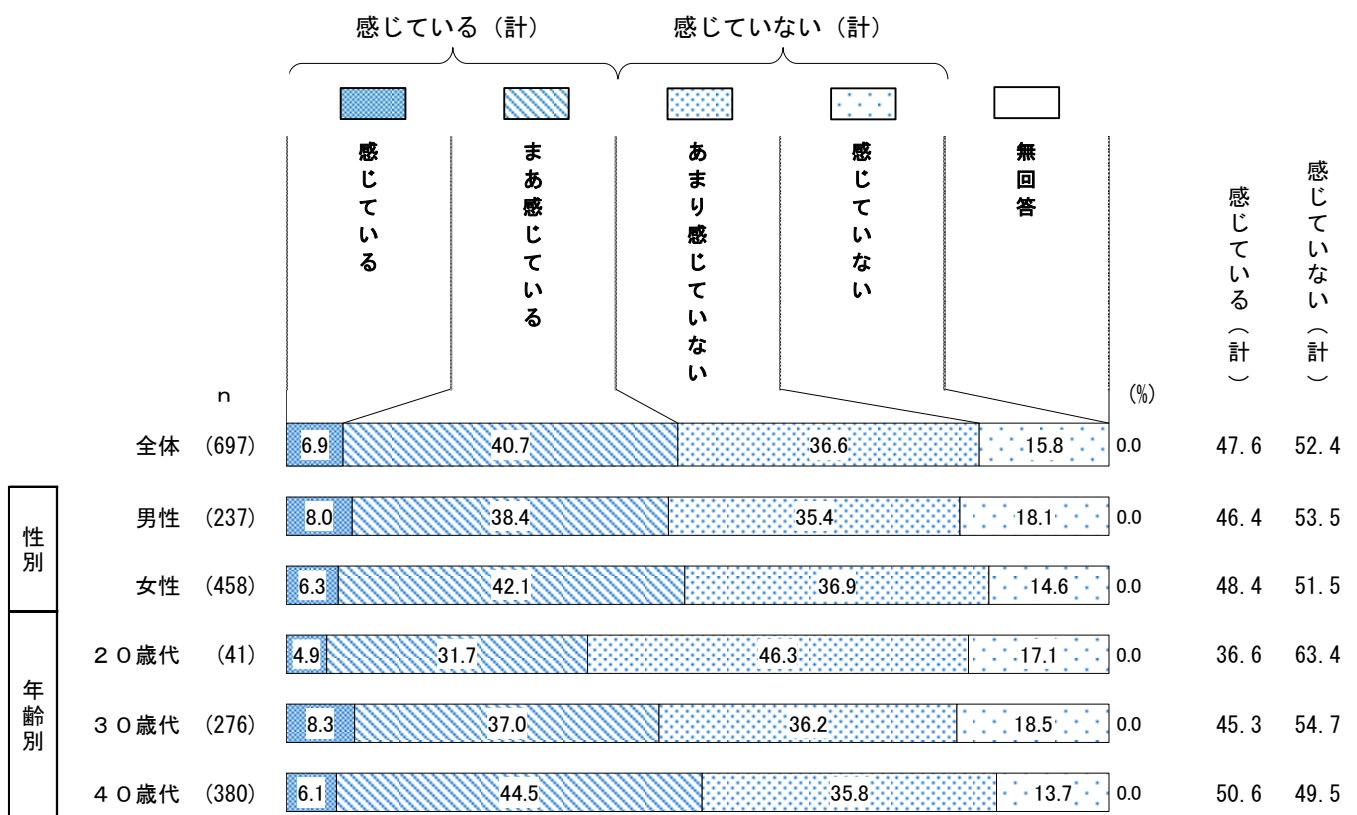
(5) 子どもを産み育てやすい環境と感じているか【子育て中の保護者調査】

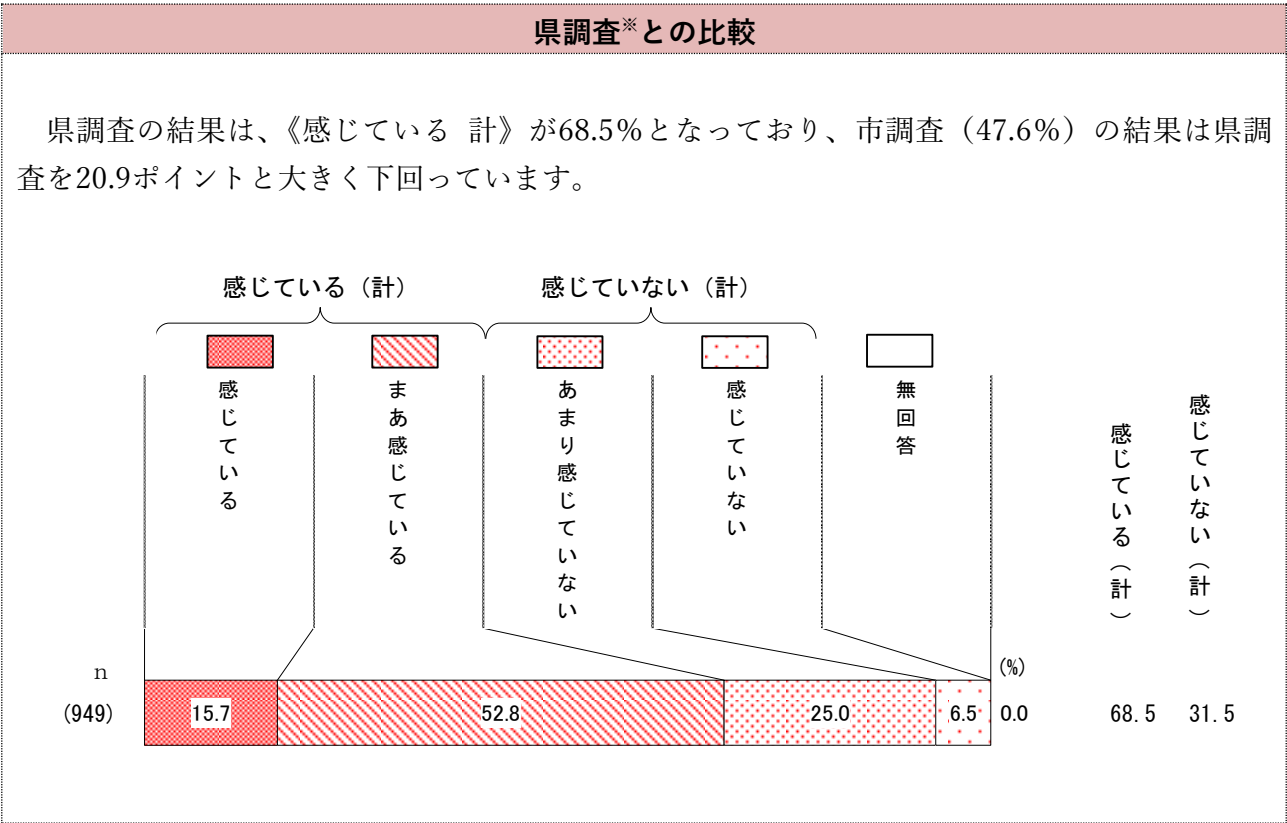
Q：現在、あなたがお子さんを育てている環境について、子どもを産み育てやすいと感じていますか。（〇は1つ）

現在、あなたがお子さんを育てている環境が子どもを産み育てやすいと感じているかは、「感じている」と「まあ感じている」を合わせた《感じている 計》は47.6%、「あまり感じていない」と「感じていない」を合わせた《感じていない 計》は52.4%となっています。

性別でみると、男女間に大きな差はみられません。

年齢別でみると、《感じている 計》は年齢が上がるほど高い傾向がみられ、40歳代で50.6%となっています。一方、《感じていない 計》は20歳代で63.4%と高くなっています。





（6）将来子育てをする上で不安なこと／子育てに関して不安感や負担感を感じること

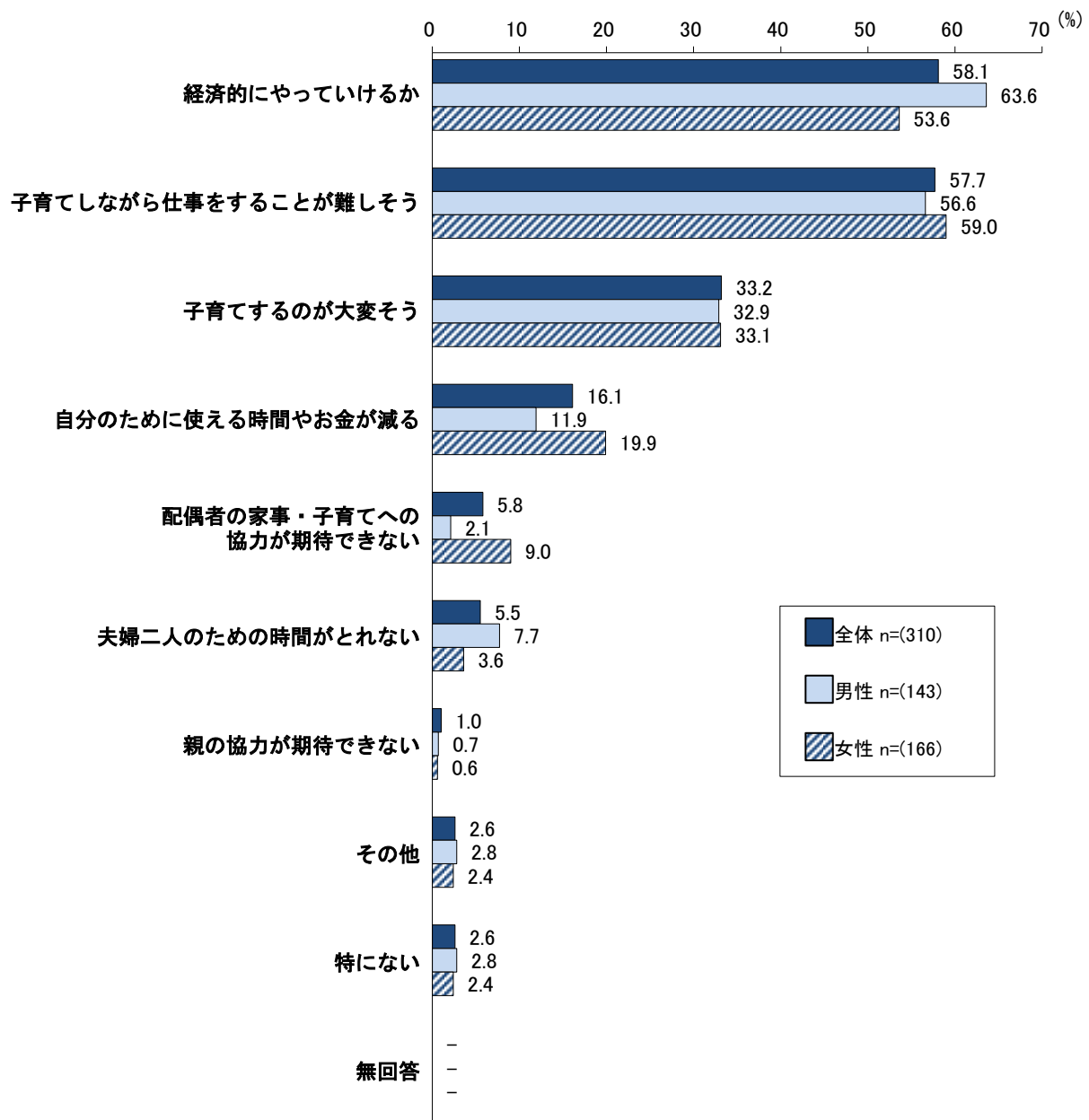
【独身者調査・子育て中の保護者調査】

【独身者調査】

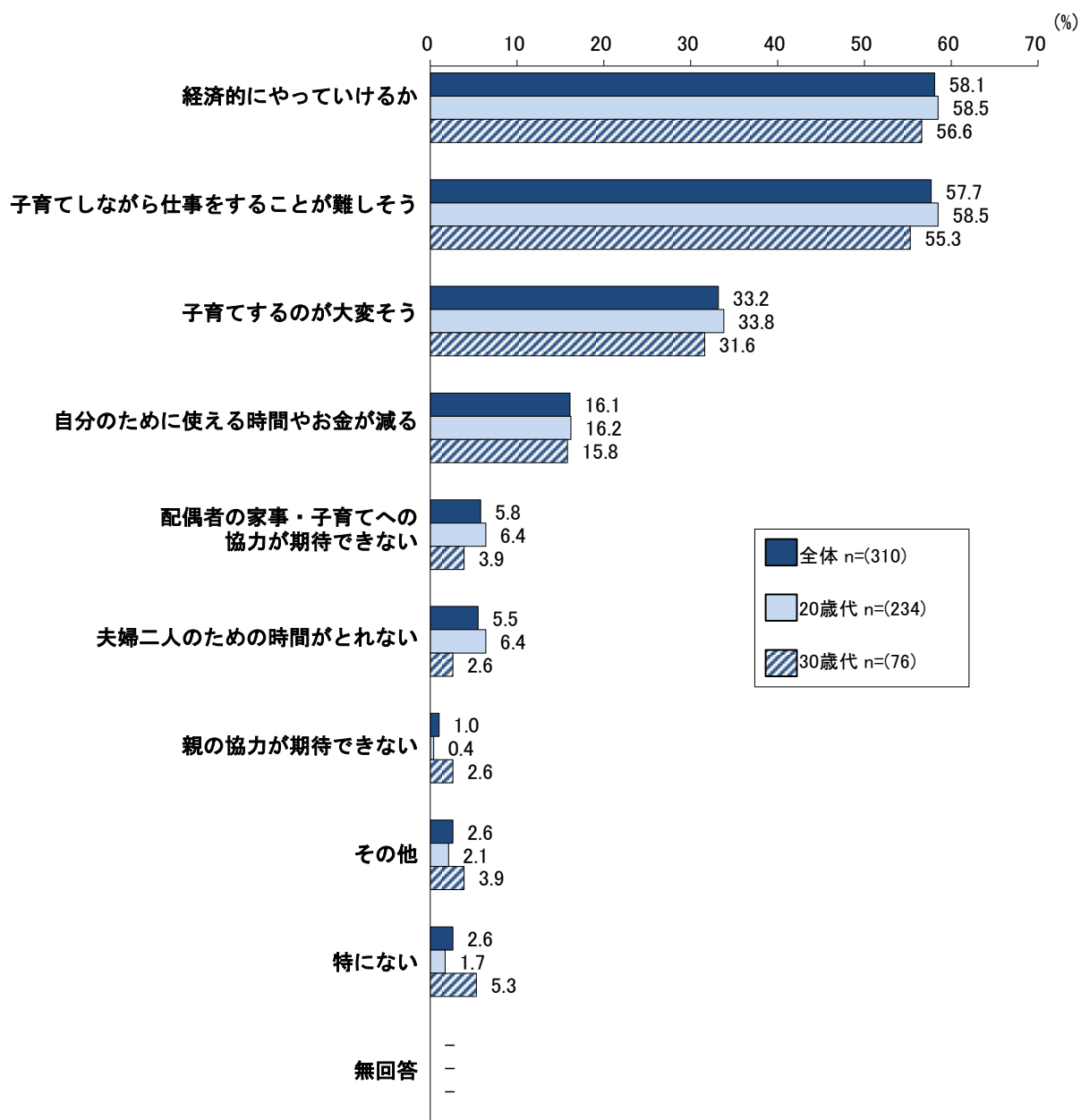
Q：将来、子育てをする機会があるとした場合、不安に思うことは何ですか。（○は1つ）

将来子育てをする上で不安なことは、「経済的にやっていけるか」が58.1%で最も高く、次いで「子育てしながら仕事をすることが難しそう」が57.7%、「子育てするのが大変そう」が33.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「自分のために使える時間やお金が減る」が8.0ポイント、「配偶者の家事・子育てへの協力が期待できない」が6.9ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「経済的にやっていけるか」が10.0ポイント高くなっています。



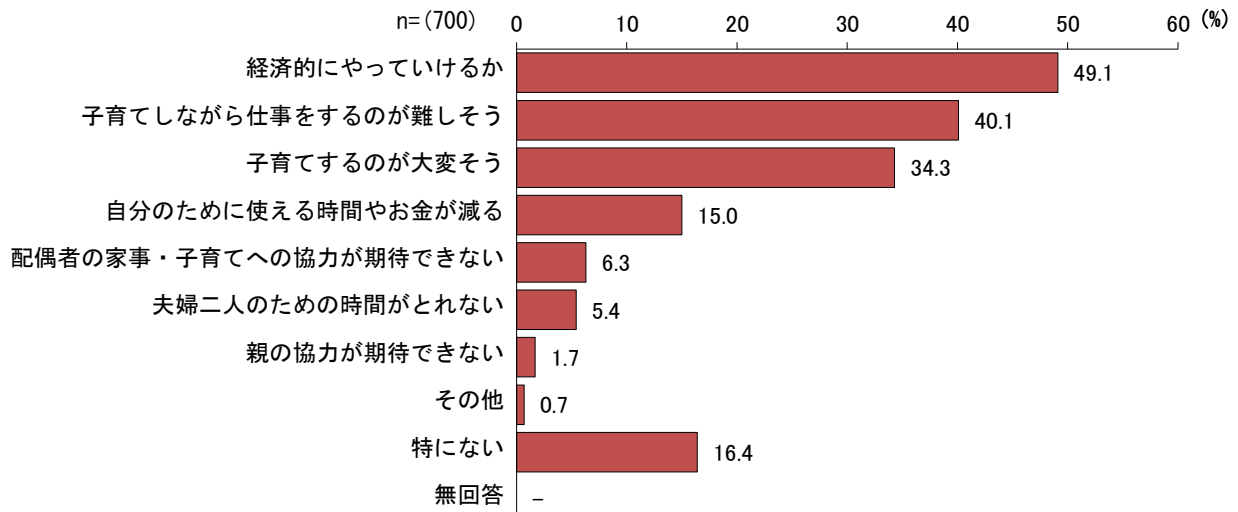
年齢別でみると、「夫婦二人のための時間がとれない」は20歳代で6.4%とやや高くなっています。一方、「特にない」は30歳代で5.3%とやや高くなっています。



県調査※との比較

県調査の結果は「子育てしながら仕事をするのが難しそう」は40.1%となっており、市調査（57.7%）では県調査より17.6ポイント高くなっています。また、「経済的にやっていけるか」は49.1%となっており、市調査（58.1%）では県調査より9.0ポイント高くなっています。

また、「特にない」は県調査が16.4%となっており、市調査（2.6%）のほうが13.8ポイント低くなっています。



※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

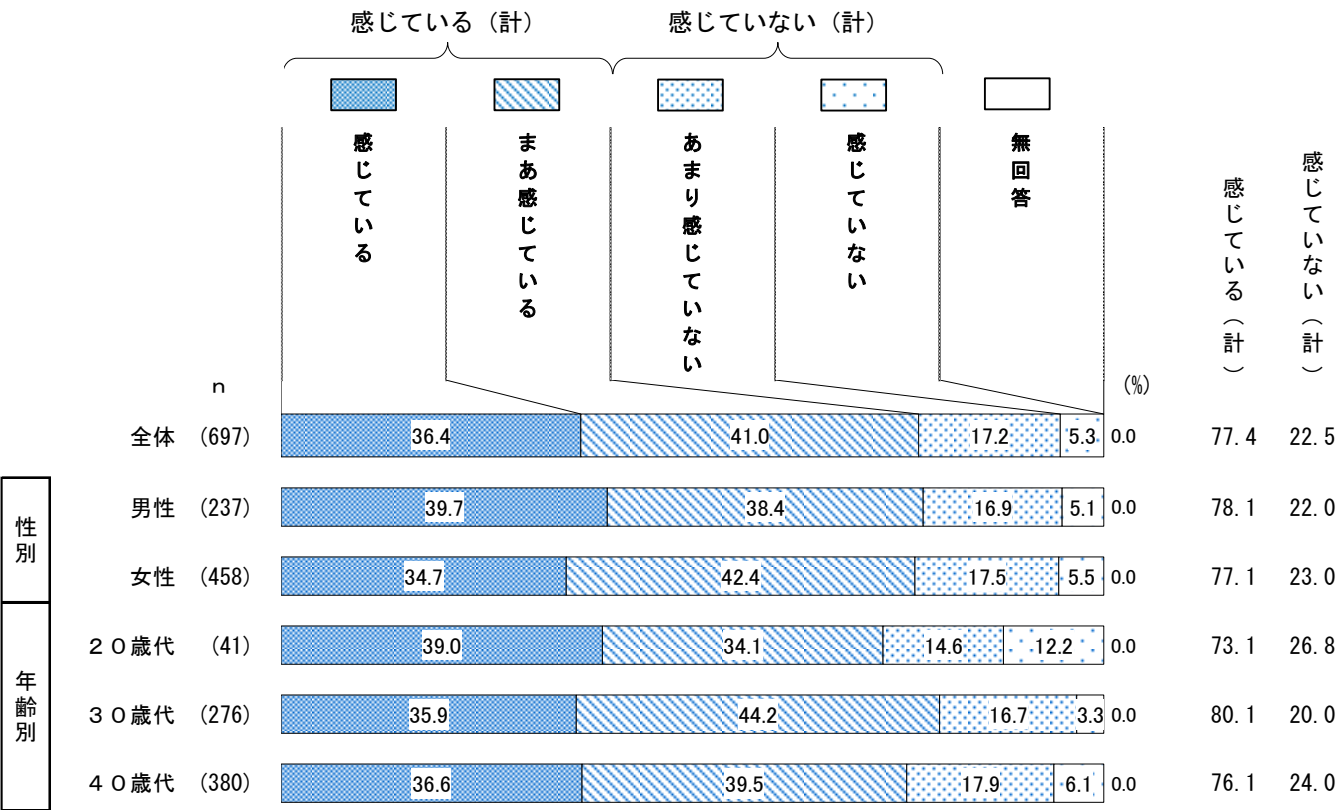
【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは子育てに関して不安感や負担感を感じることはありますか。（○は1つ）

子育てに関して不安感や負担感を感じることはあるかは、「感じている」と「まあ感じている」を合わせた《感じている 計》は77.4%、「あまり感じていない」と「感じていない」を合わせた《感じていない 計》は22.5%となっています。

性別でみると、男女間に大きな差はみられません。

年齢別でみると、《感じている 計》は30歳代で80.1%とやや高くなっています。一方、《感じていない 計》は20歳代で26.8%とやや高くなっています。



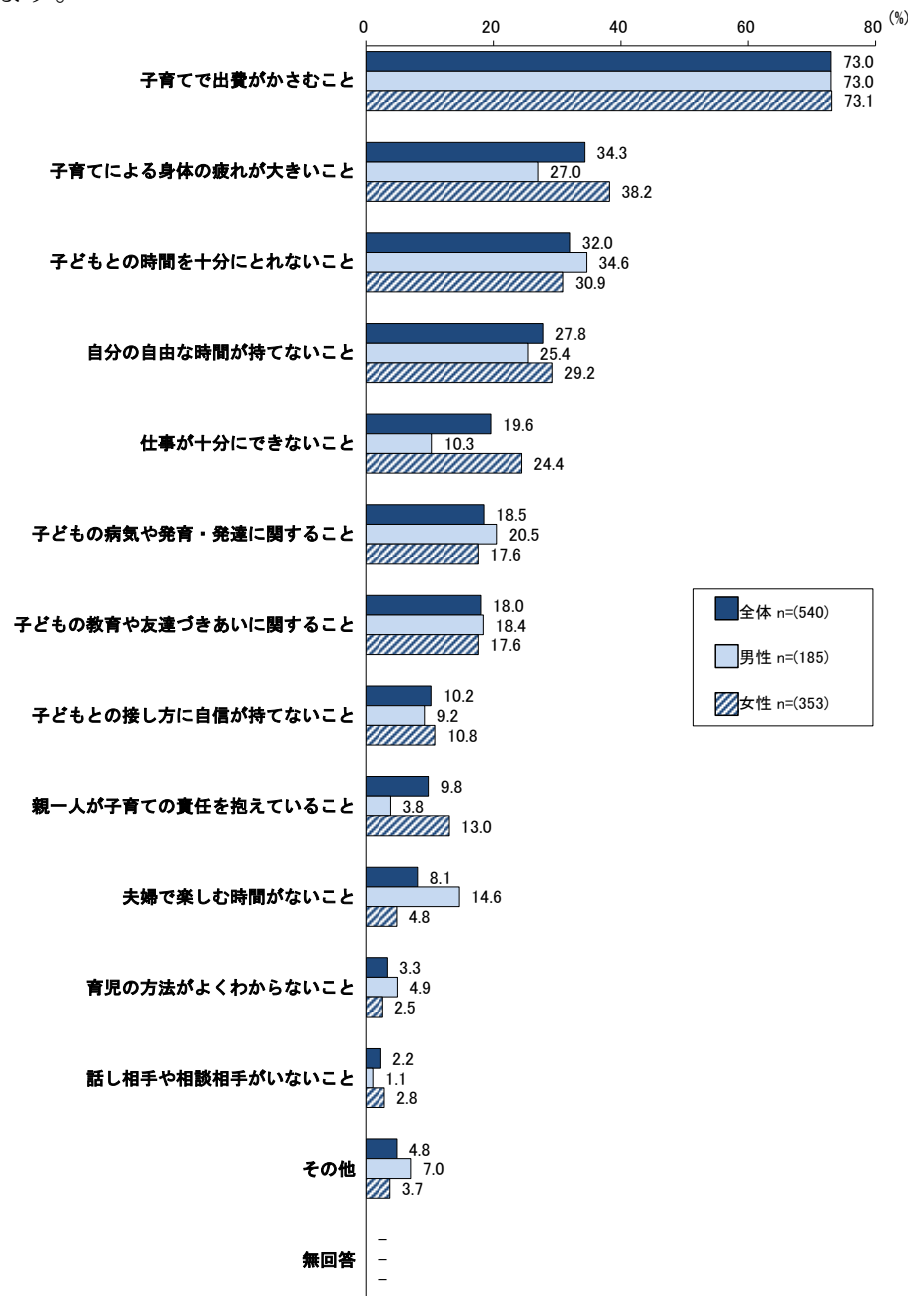
（7）子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること【子育て中の保護者調査】

※子育てに関して不安感や負担感を感じることで「感じている」、「まあ感じている」を選んだ方のみ回答

Q：あなたが子育てをする上で、負担に感じることや悩んでいることはどのようなことですか。
（○は3つ）

子育てをする上で、負担に感じることや悩んでいることは、「子育てで出費がかさむこと」が73.0%で最も高く、次いで「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が34.3%、「子どもとの時間を十分にとれないこと」が32.0%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「仕事が十分にできないこと」が14.1ポイント、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が11.2ポイント、「親一人が子育ての責任を抱えていること」が9.2ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「夫婦で楽しむ時間がないこと」が9.8ポイント高くなっています。



年齢別でみると、「子育てで出費がかさむこと」は20歳代と30歳代で7割台とやや高くなっています。「子育てによる身体の疲れが大きいこと」は20歳代で46.7%と高くなっています。

単位：%		調査数（n）	子育てで出費がかさむこと	子育てによる身体の疲れが大きいこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	自分の自由な時間が持てないこと	仕事が多忙にできないこと	子どもの病気や発育・発達に関すること	子どもの教育や友達づきあいに関すること
全体		540	73.0	34.3	32.0	27.8	19.6	18.5	18.0
年齢別	20歳代	30	73.3	46.7	26.7	40.0	16.7	10.0	13.3
	30歳代	221	77.4	37.1	33.0	28.1	24.4	21.3	16.3
	40歳代	289	69.6	30.8	31.8	26.3	16.3	17.3	19.7

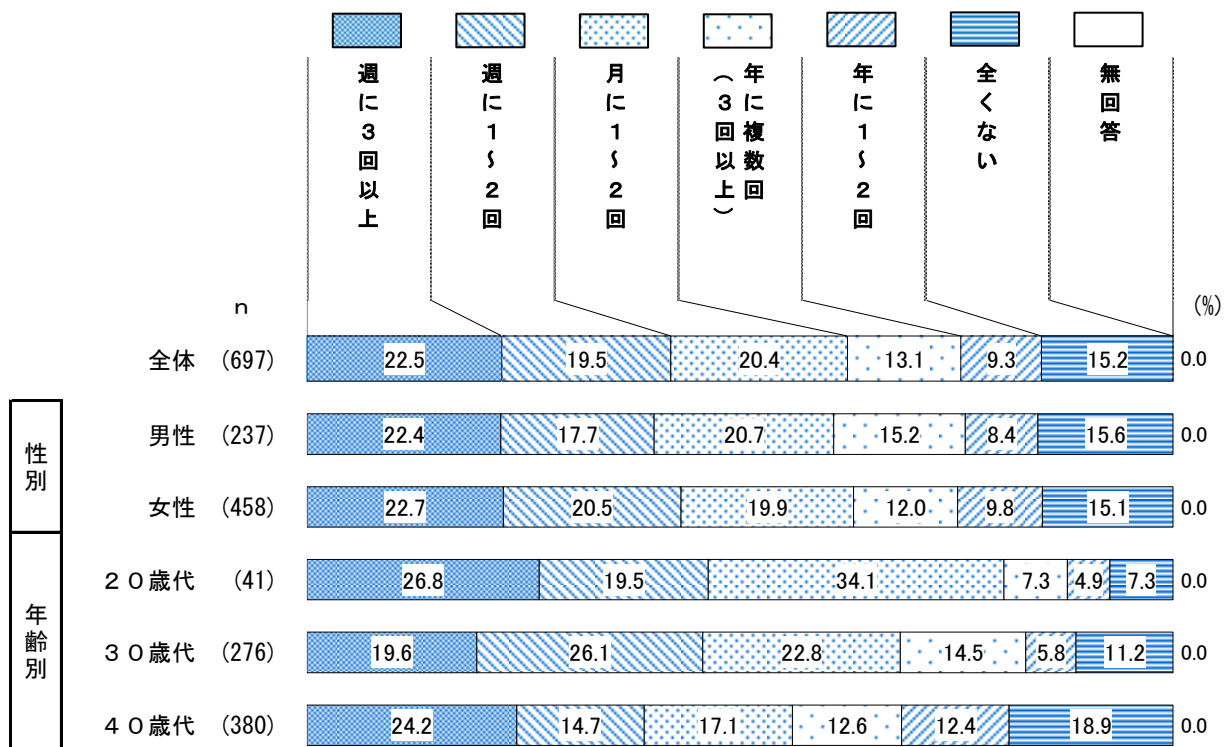
単位：%		調査数（n）	子どもとの接し方に自信が持てないこと	親一人が子育ての責任を抱えていること	夫婦で楽しむ時間がないこと	育児の方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がいな	その他	無回答
全体		540	10.2	9.8	8.1	3.3	2.2	4.8	0.0
年齢別	20歳代	30	6.7	10.0	13.3	3.3	10.0	3.3	0.0
	30歳代	221	9.0	10.4	10.4	3.6	1.4	1.4	0.0
	40歳代	289	11.4	9.3	5.9	3.1	2.1	7.6	0.0

（8）祖父母等からの手助けの程度【子育て中の保護者調査】

Q：子の祖父母等からの子育ての手助けはどの程度ありますか。（○は1つ）

子の祖父母等からの子育ての手助けの程度は、「週に3回以上」が22.5%で最も高く、次いで「月に1～2回」が20.4%、「週に1～2回」が19.5%となっています。週1回以上という回答は42.0%となっています。

年齢別でみると、週1回以上という回答は20歳代で46.3%と高く、年齢が上がるほど低くなっています。また、年齢が上がるほど「全くない」が高くなります。



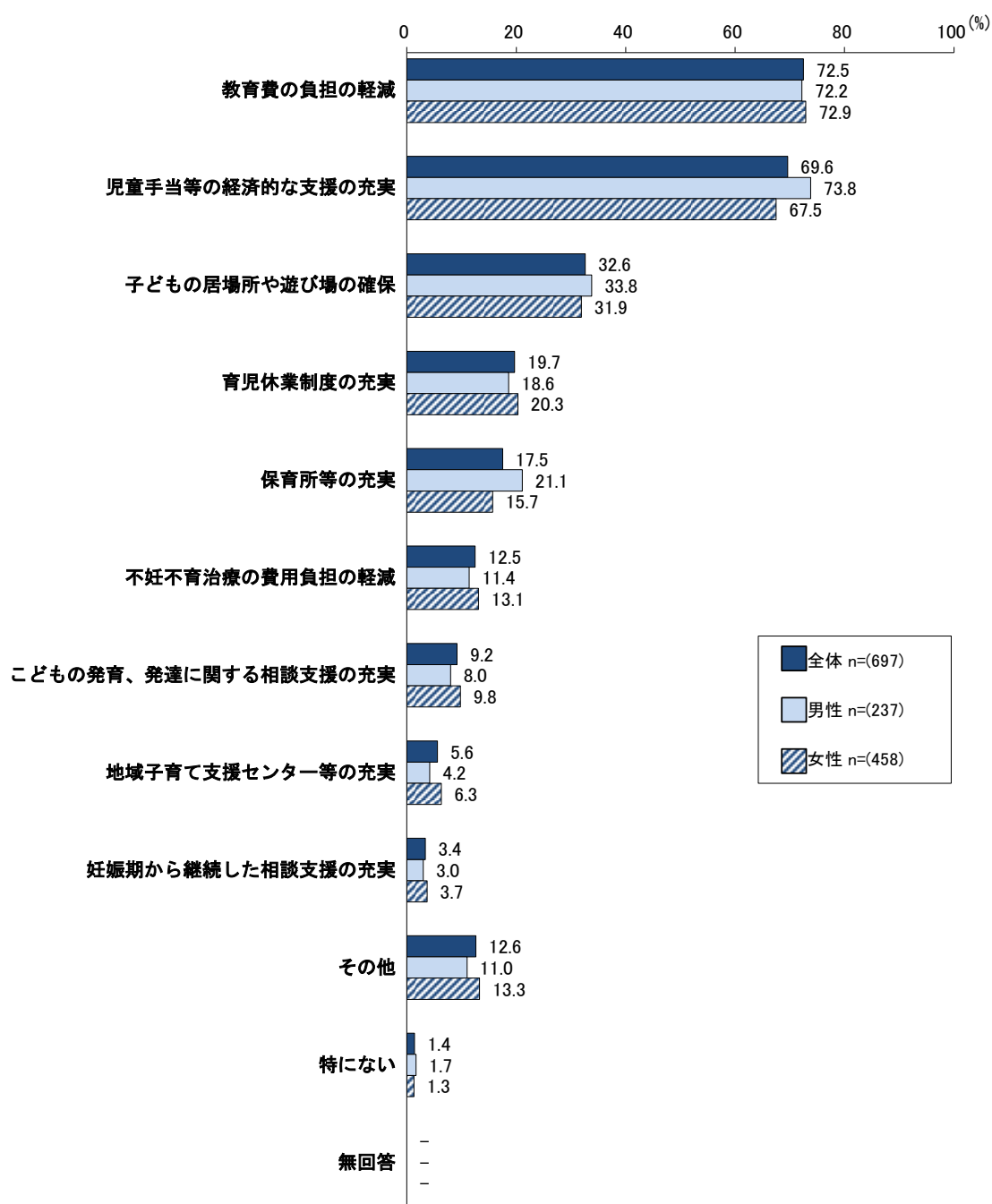
（9）出産や子育て環境整備のために力を入れる必要があるもの【子育て中の保護者調査】

Q：出産や子育て環境の整備を推進するために、もっと力を入れる必要があると思うものはどれですか。（○は3つ）

出産や子育て環境の整備を推進するために力を入れる必要があると思うものは、「教育費の負担の軽減」が72.5%で最も高く、次いで「児童手当等の経済的な支援の充実」が69.6%、「子どもの居場所や遊び場の確保」が32.6%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「児童手当等の経済的な支援の充実」が6.3ポイント、「保育所等の充実」が5.4ポイント高くなっています。

「その他」の主な内容は、「学童保育の充実」、「病児保育施設の充実」、「障害児を持つ親への支援」などが挙げられています。



年齢別でみると、「児童手当等の経済的な支援の充実」は20歳代で90.2%と高く、年齢が上がるほど低くなっています。「子どもの居場所や遊び場の確保」は30歳代で37.0%とやや高くなっています。

単位：%		調査数 (n)	教育費の負担の軽減	児童手当等の経済的な支援の充実	子どもの居場所や遊び場の確保	育児休業制度の充実	保育所等の充実	不妊不育治療の費用負担の軽減	こどもの発育、発達に関する相談支援の充実	地域子育て支援センター等の充実	妊娠から継続した相談支援の充実	その他	特にない	無回答
全体		697	72.5	69.6	32.6	19.7	17.5	12.5	9.2	5.6	3.4	12.6	1.4	0.0
年齢別	20歳代	41	65.9	90.2	29.3	31.7	31.7	7.3	0.0	12.2	0.0	4.9	0.0	0.0
	30歳代	276	72.8	77.2	37.0	25.4	19.9	9.8	6.2	6.2	3.3	12.7	0.4	0.0
	40歳代	380	72.9	61.8	29.7	14.2	14.2	15.0	12.4	4.5	3.9	13.4	2.4	0.0

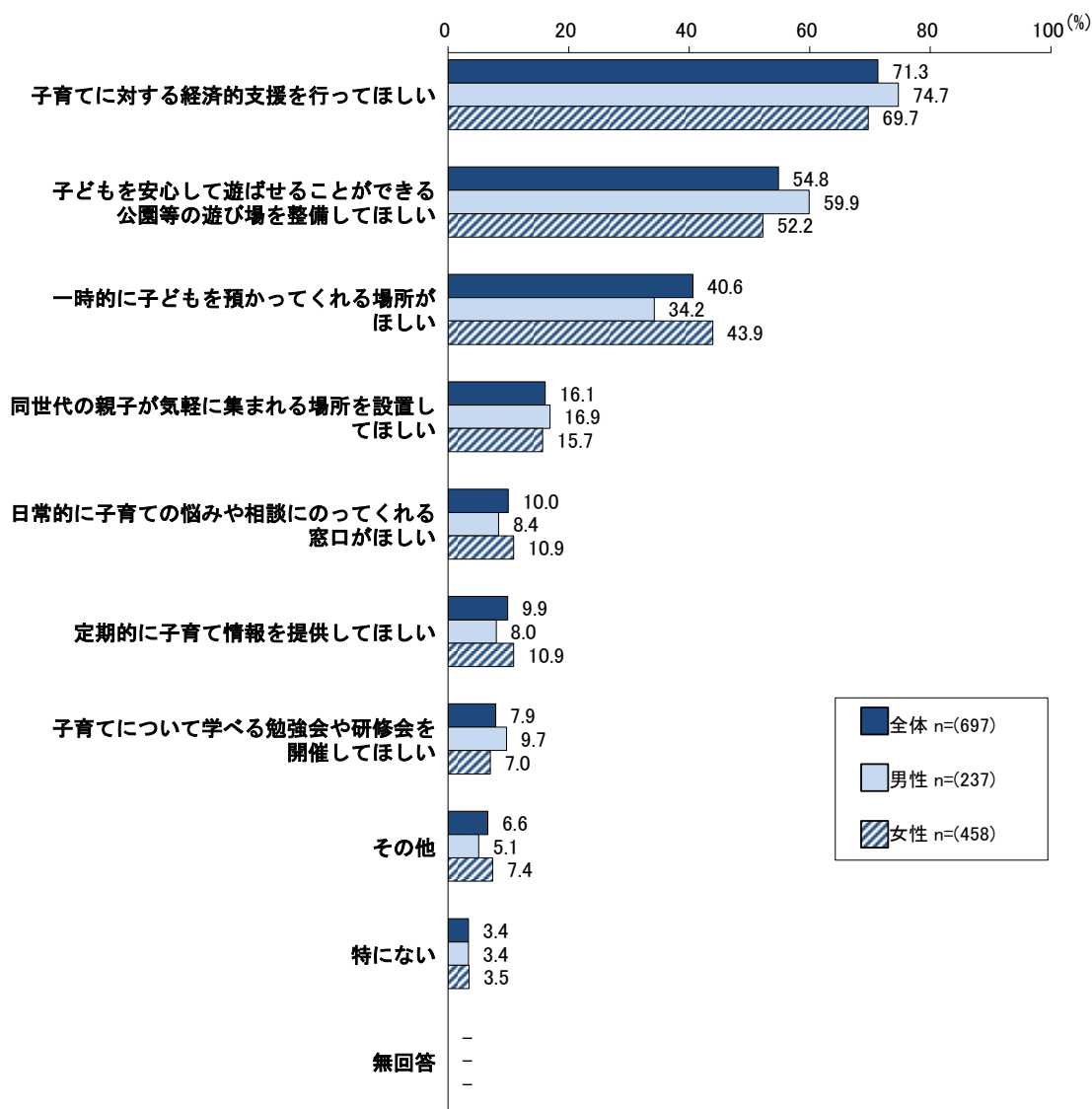
(10) 充実させてほしい子育て支援【子育て中の保護者調査】

Q：家庭で子育てをする上で、どのような子育て支援を充実させてほしいですか。（○は3つ）

家庭で子育てをする上で、子育て支援を充実させてほしいことは、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」が71.3%で最も高く、次いで「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい」が54.8%、「一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい」が40.6%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい」が7.7ポイント、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」が5.0ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい」が9.7ポイント高くなっています。

「その他」の主な内容は、「シッター制度・子育てヘルパーの充実」、「幼稚園・習い事の送迎支援」、「発達に関する相談窓口や医院の拡充」、「交通安全、治安の改善」などが挙げられています。



年齢別でみると、20歳代では「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」が82.9%、「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい」が70.7%と高く、年齢が上がるほど低くなっています。

			調査数（n）	子育てに対する経済的支援を行ってほしい	子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい	一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい	同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい	定期的に子育ての悩みや相談にのってくれる窓口がほしい	定期的に子育て情報を提供してほしい	子育てについて学べる勉強会や研修会を開催してほしい	その他	特にない	無回答
単位：％													
全体		697	71.3	54.8	40.6	16.1	10.0	9.9	7.9	6.6	3.4	0.0	
年齢別	20歳代	41	82.9	70.7	39.0	17.1	2.4	9.8	4.9	2.4	2.4	0.0	
	30歳代	276	78.6	61.2	44.2	17.8	9.8	10.1	8.3	6.5	1.1	0.0	
	40歳代	380	64.7	48.4	38.2	14.7	11.1	9.7	7.9	7.1	5.3	0.0	

県調査※との比較

県調査の結果は「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」は67.2%となっており、市調査（71.3%）では県調査より4.1ポイント高くなっています。一方、「同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい」は31.5%となっており、市調査（16.1%）では県調査より15.4ポイント低くなっています。

単位：％		調査数（n）	子育てに対する経済的支援を行ってほしい	子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい	一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい	同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい	定期的に子育て情報を提供してほしい	日常的に子育ての悩みや相談にのってくれる窓口がほしい	定期的に子育て情報提供してほしい	子育てについて学べる勉強会や研修会を開催してほしい	その他	特にない	無回答
全体		235	67.2	61.3	43.8	31.5	14.9	12.3	11.5	3.0	0.0	1.7	0.0

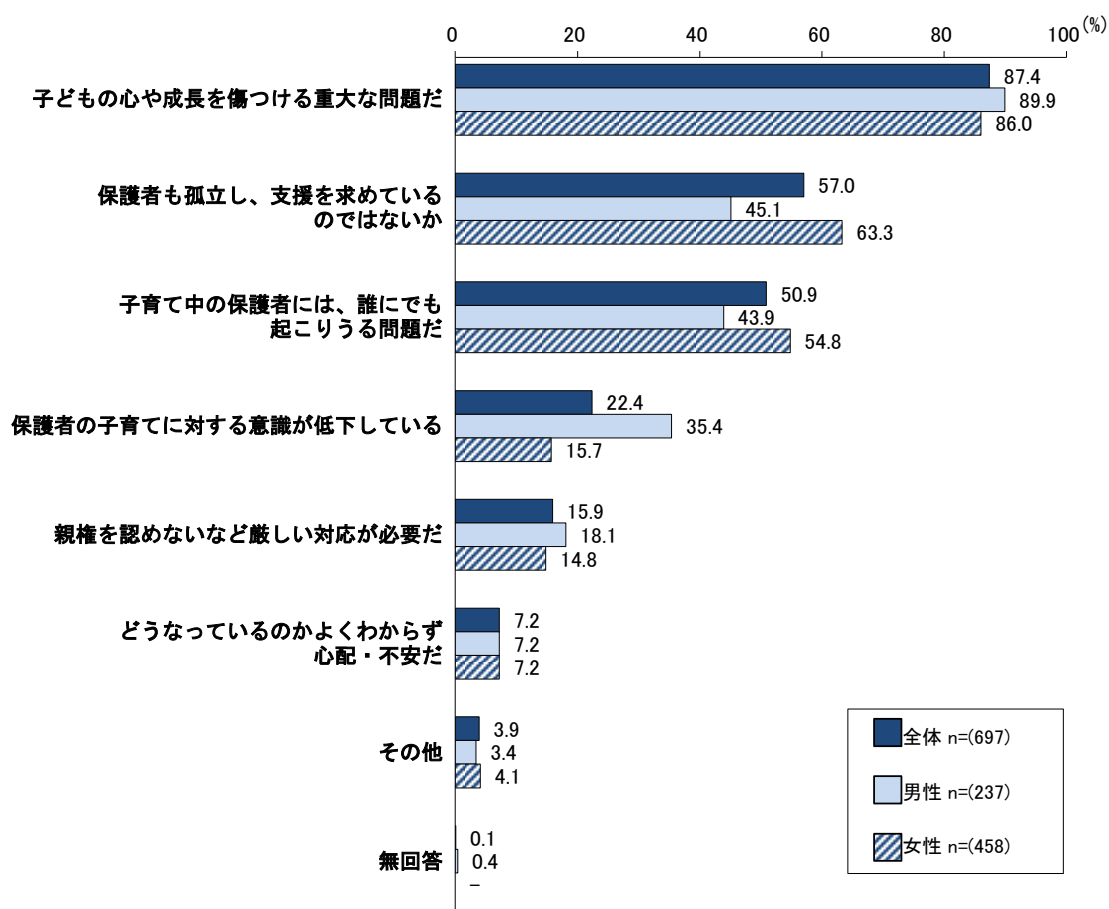
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／地域での子育てに関する調査（保護者調査）

(11) 児童虐待への考え【子育て中の保護者調査】

Q：近年、問題になっている保護者による児童虐待について、あなたはどのように思いますか。
（○は3つ）

保護者による児童虐待は、「子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ」が87.4%で最も高く、次いで「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が57.0%、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」が50.9%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が18.2ポイント、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」が10.9ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「保護者の子育てに対する意識が低下している」が19.7ポイント高くなっています。



年齢別でみると、30歳代では「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が67.0%、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」が57.6%と高くなっています。一方、「保護者の子育てに対する意識が低下している」は40歳代で25.3%とやや高くなっています。

		調査数（n）	子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ	保護者も孤立し、支援を求めているのではないか	子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ	保護者の子育てに対する意識が低下している	親権を認めないなど厳しい対応が必要だ	どうなっているのかよくわからず心配・不安だ	その他	無回答
単位：%										
全体		697	87.4	57.0	50.9	22.4	15.9	7.2	3.9	0.1
年齢別	20歳代	41	85.4	58.5	36.6	22.0	14.6	14.6	4.9	0.0
	30歳代	276	87.7	67.0	57.6	18.5	15.2	6.9	1.4	0.0
	40歳代	380	87.4	49.5	47.6	25.3	16.6	6.6	5.5	0.3

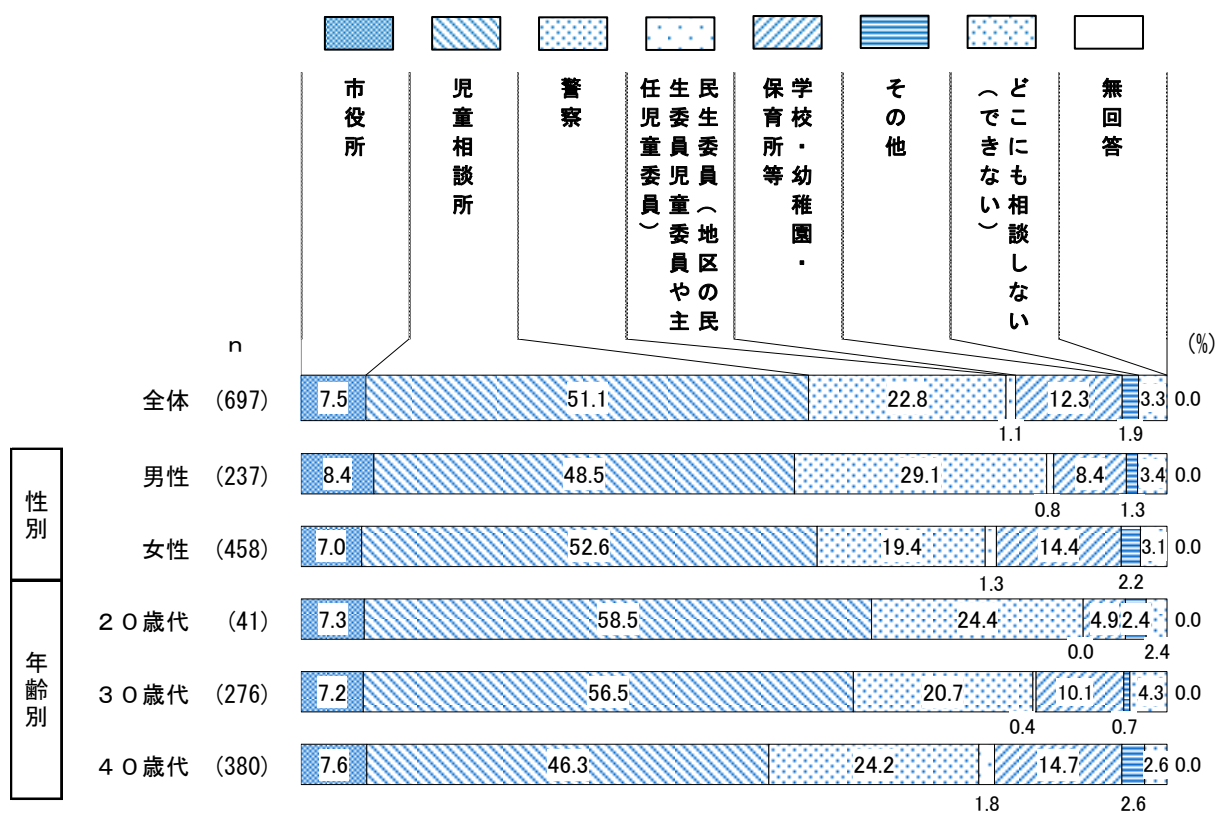
(12) 児童虐待発見時の相談機関【子育て中の保護者調査】

Q：児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合、どの機関に相談しますか。（○は1つ）

児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合の相談機関は、「児童相談所」が51.1%で最も高く、次いで「警察」が22.8%、「学校・幼稚園・保育所等」が12.3%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「学校・幼稚園・保育所等」が6.0ポイント、「児童相談所」が4.1ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「警察」が9.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「児童相談所」は20歳代で58.5%と高く、年齢が上がるほど低くなっています。

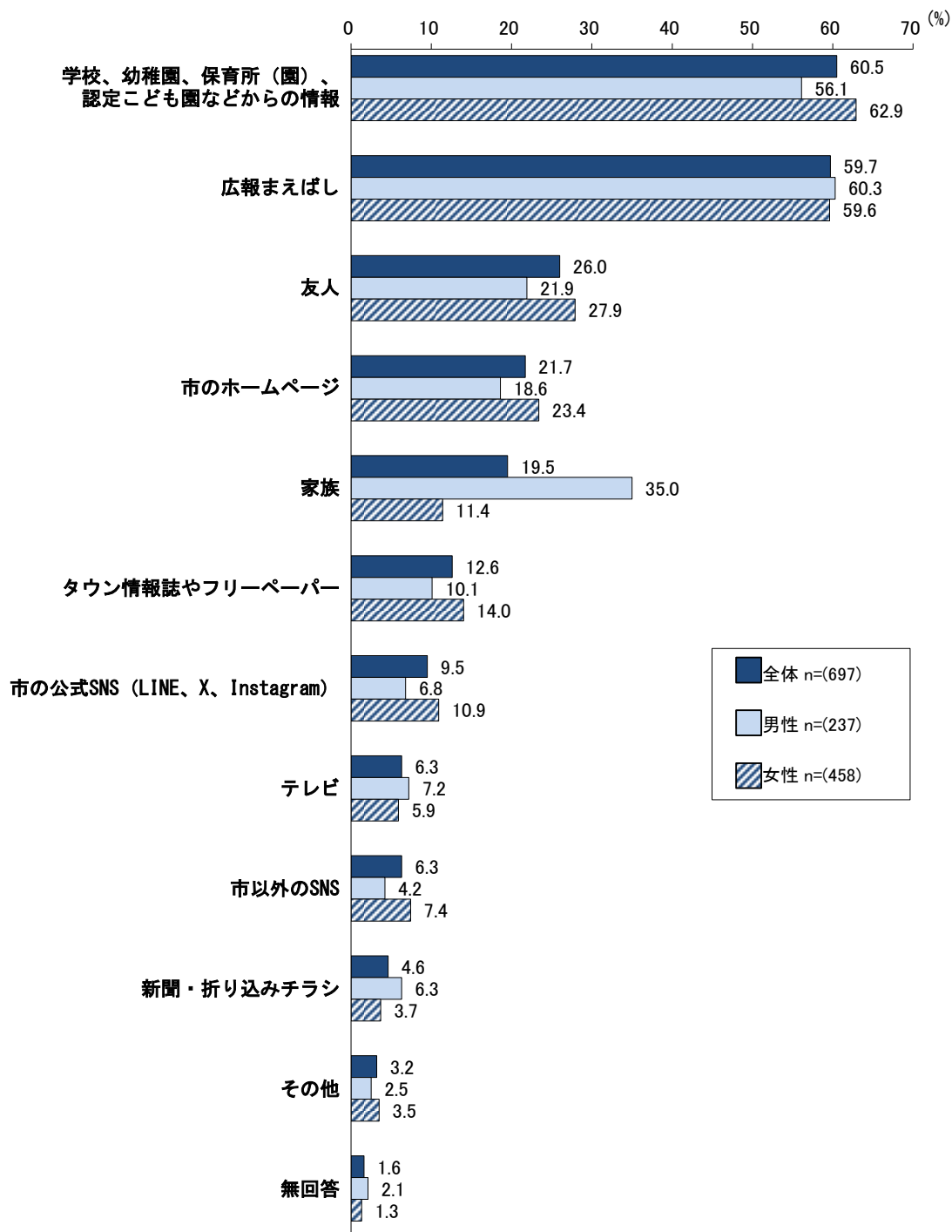


(13) 行政の子育て支援サービスなどの情報入手源【子育て中の保護者調査】

Q：行政が行っている子育て支援サービスなどの情報をどのように入手していますか。（○はいくつでも）

行政が行っている子育て支援サービスなどの情報入手源は、「学校、幼稚園、保育所（園）、認定こども園などからの情報」が60.5%で最も高く、次いで「広報まえばし」が59.7%、「友人」が26.0%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「家族」が23.6ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「学校、幼稚園、保育所（園）、認定こども園などからの情報」が6.8ポイント、「友人」が6.0ポイント高くなっています。



第4章 こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）

年齢別でみると、「広報まえばし」は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で63.4%となっています。「学校、幼稚園、保育所（園）、認定こども園などからの情報」は30歳代と40歳代で6割台と高くなっています。「友人」は30歳代で30.8%と高くなっています。

単位：％		調査数（n）	学校、幼稚園、保育所（園）、認定こども園などからの情報	広報まえばし	友人	市のホームページ	家族	タウン情報誌やフリーペーパー	X、Instagram、市の公式SNS（LINE、	テレビ	市以外のSNS	新聞・折り込みチラシ	その他	無回答
全体		697	60.5	59.7	26.0	21.7	19.5	12.6	9.5	6.3	6.3	4.6	3.2	1.6
年齢別	20歳代	41	46.3	36.6	22.0	22.0	17.1	12.2	2.4	12.2	4.9	2.4	2.4	9.8
	30歳代	276	62.3	58.0	30.8	24.3	23.2	10.1	9.8	6.2	8.3	6.2	3.3	1.4
	40歳代	380	60.8	63.4	22.9	19.7	17.1	14.5	10.0	5.8	5.0	3.7	3.2	0.8

6 地域とのかかわりについて

（1）子育てにおける地域とのかかわりの程度【子育て中の保護者調査】

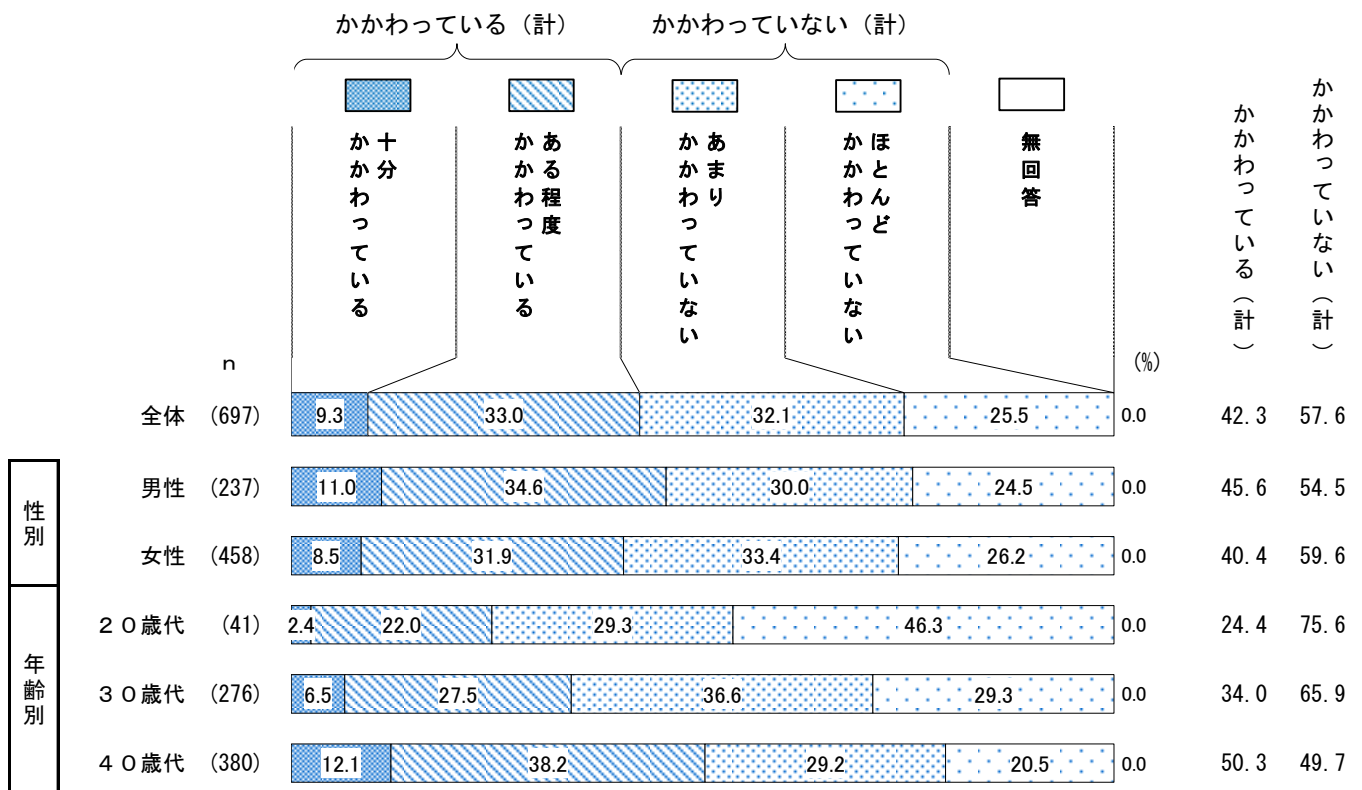
Q：子育てをしている中で、現在、あなたの住んでいる地域※とのかかわりはどれくらいありますか。（○は1つ）

※地域…近隣住民、子ども会、自治会など

子育てをしている中で、現在の住んでいる地域とのかかわりは、「十分かかわっている」と「ある程度かかわっている」を合わせた《かかわっている 計》は42.3%、「あまりかかわっていない」と「ほとんどかかわっていない」を合わせた《かかわっていない 計》は57.6%となっています。

性別でみると、《かかわっている 計》は男性が女性より5.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、《かかわっている 計》は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で50.3%となっています。

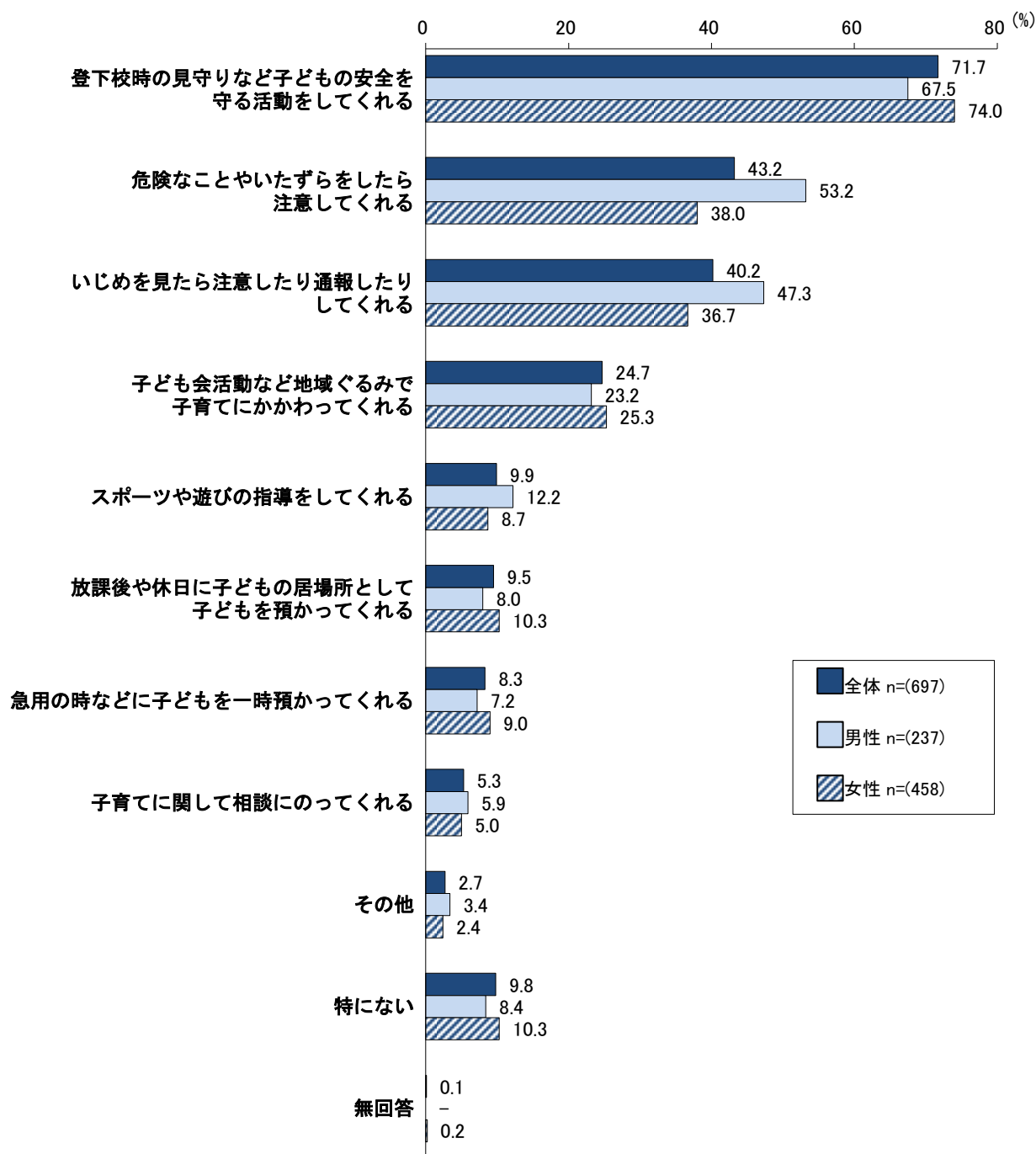


（2）近所や地域の人に期待すること【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは子育てをする上で、近所や地域の人にどのようなことを期待しますか。（○は3つ）

子育てをする上で近所や地域の人に期待することは、「登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる」が71.7%で最も高く、次いで「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」が43.2%、「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」が40.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる」が6.5ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」が15.2ポイント、「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」が10.6ポイント高くなっています。



7 結婚、仕事と子育て、家庭等について

(1) 自分自身の仕事と子育てについての希望

【独身者調査】

※将来結婚したいと思うかで「結婚したい」、「どちらかといえば結婚したい」を選んだ方のみ回答

Q：あなたは、自分自身の仕事と結婚・子育てについて、どのような希望がありますか。（○は2つ）

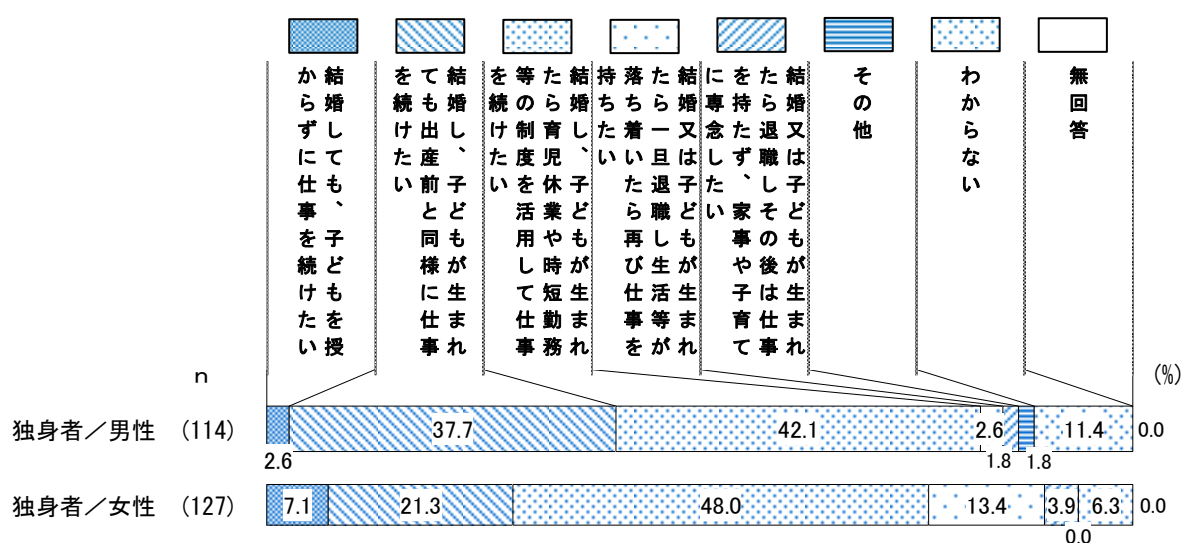
【既婚者・子育て中の保護者調査】

Q：あなたは、自分自身の仕事と子育てについて、どのような希望がありますか。（○は2つ）

【独身者調査】

独身者調査において、自分自身の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「結婚し、子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けたい」が42.1%で最も高く、次いで「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けたい」が37.7%、「わからない」が11.4%となっています。

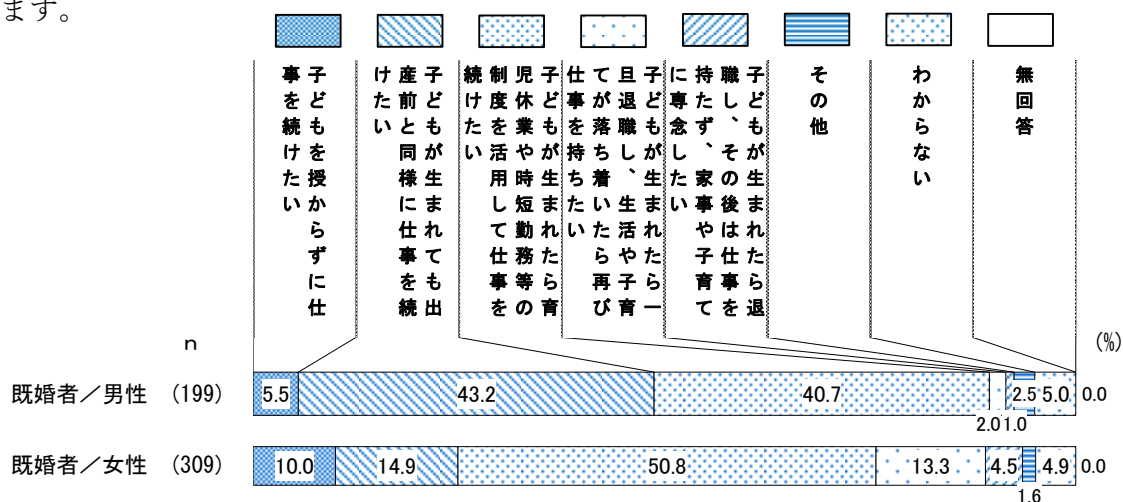
女性では「結婚し、子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けたい」が48.0%で最も高く、次いで「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けたい」が21.3%、「結婚又は子どもが生まれたら一旦退職し生活等が落ち着いたら再び仕事をもちたい」が13.4%となっています。



【既婚者調査】

既婚者調査において、自分自身の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けたい」が43.2%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けたい」が40.7%、「子どもを授からずに仕事を続けたい」が5.5%となっています。

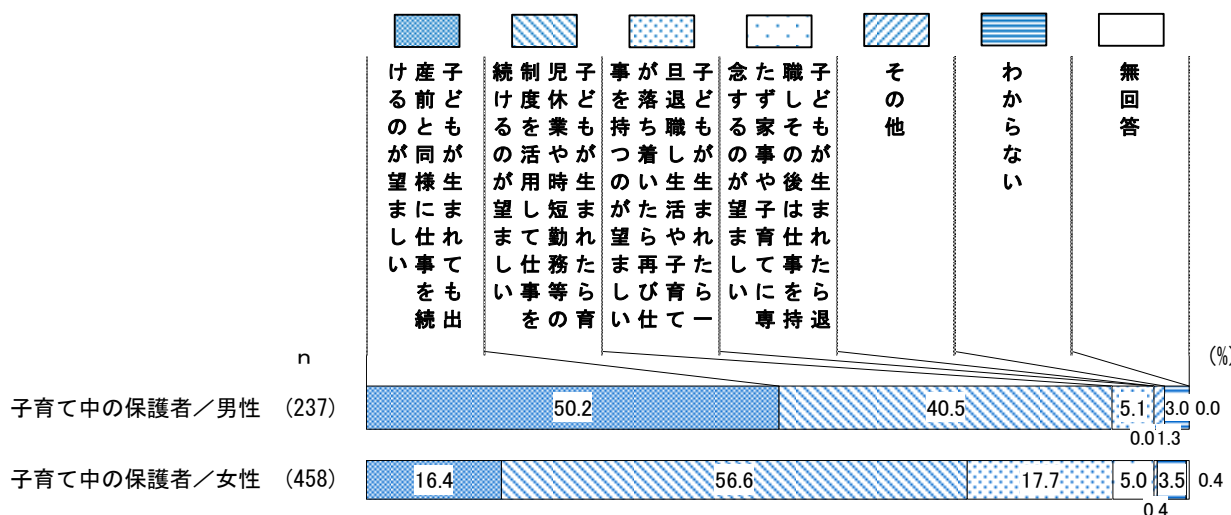
女性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けたい」が50.8%で最も高く、次いで「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けたい」が14.9%、「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事をしたい」が13.3%となっています。



【子育て中の保護者調査】

子育て中の保護者調査において、自分自身の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けるのが望ましい」が50.2%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けるのが望ましい」が40.5%、「子どもが生まれたら一旦退職し生活や子育てが落ち着いたら再び仕事をしたい」が5.1%となっています。

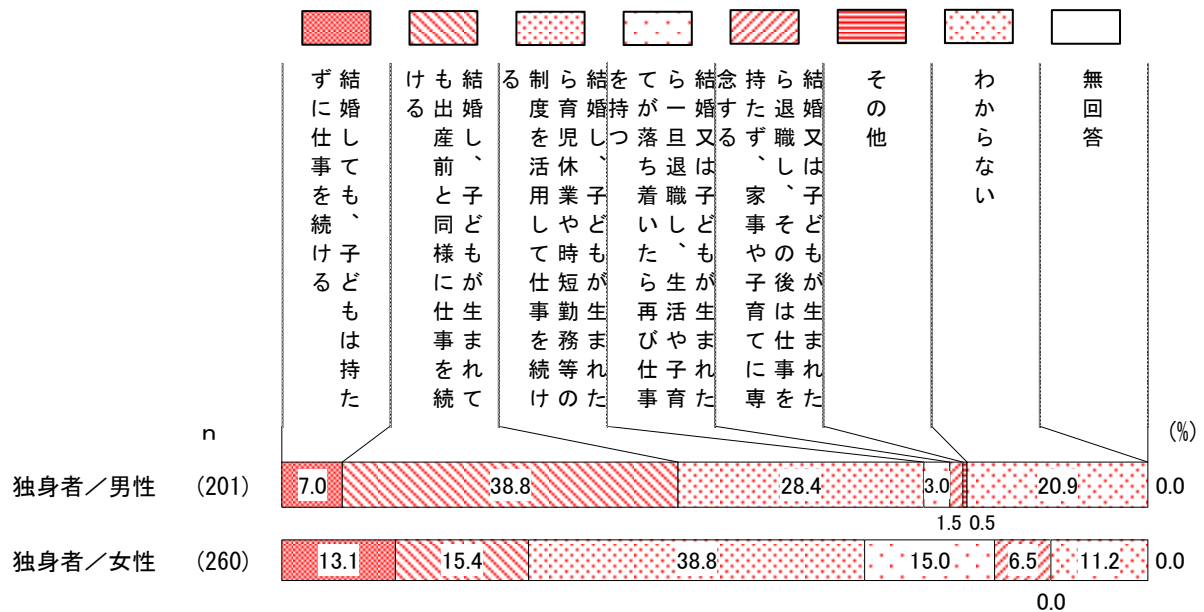
女性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けるのが望ましい」が56.6%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら一旦退職し生活や子育てが落ち着いたら再び仕事をしたい」が17.7%、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けるのが望ましい」が16.4%となっています。



県調査※との比較

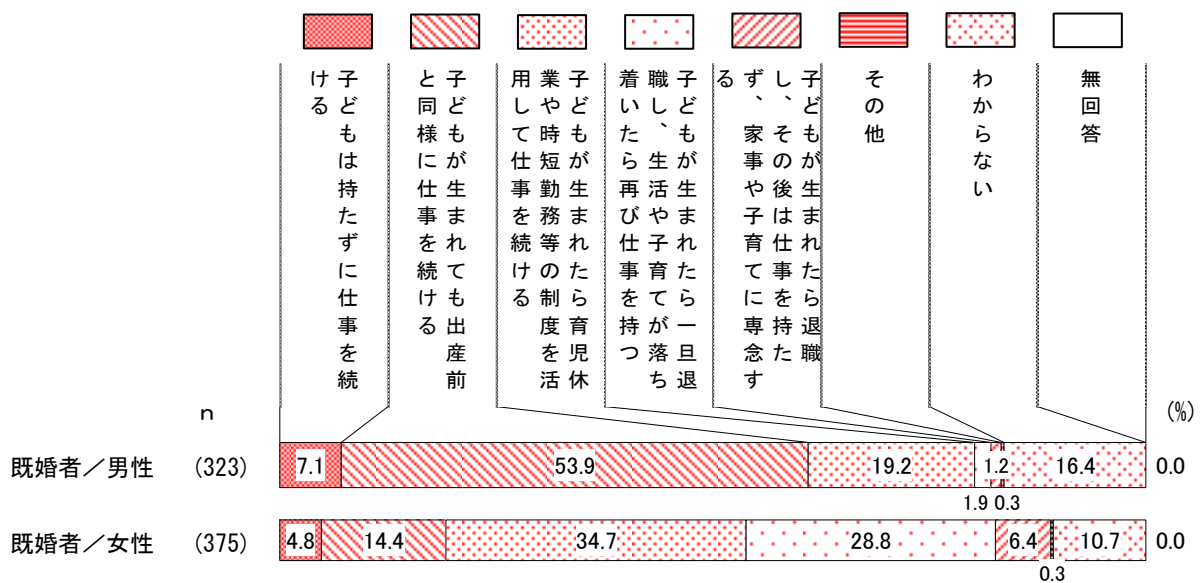
県調査の独身者の結果は、男性では「結婚し、子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が28.4%となっており、市調査（42.1%）は13.7ポイント県調査を大きく上回っています。

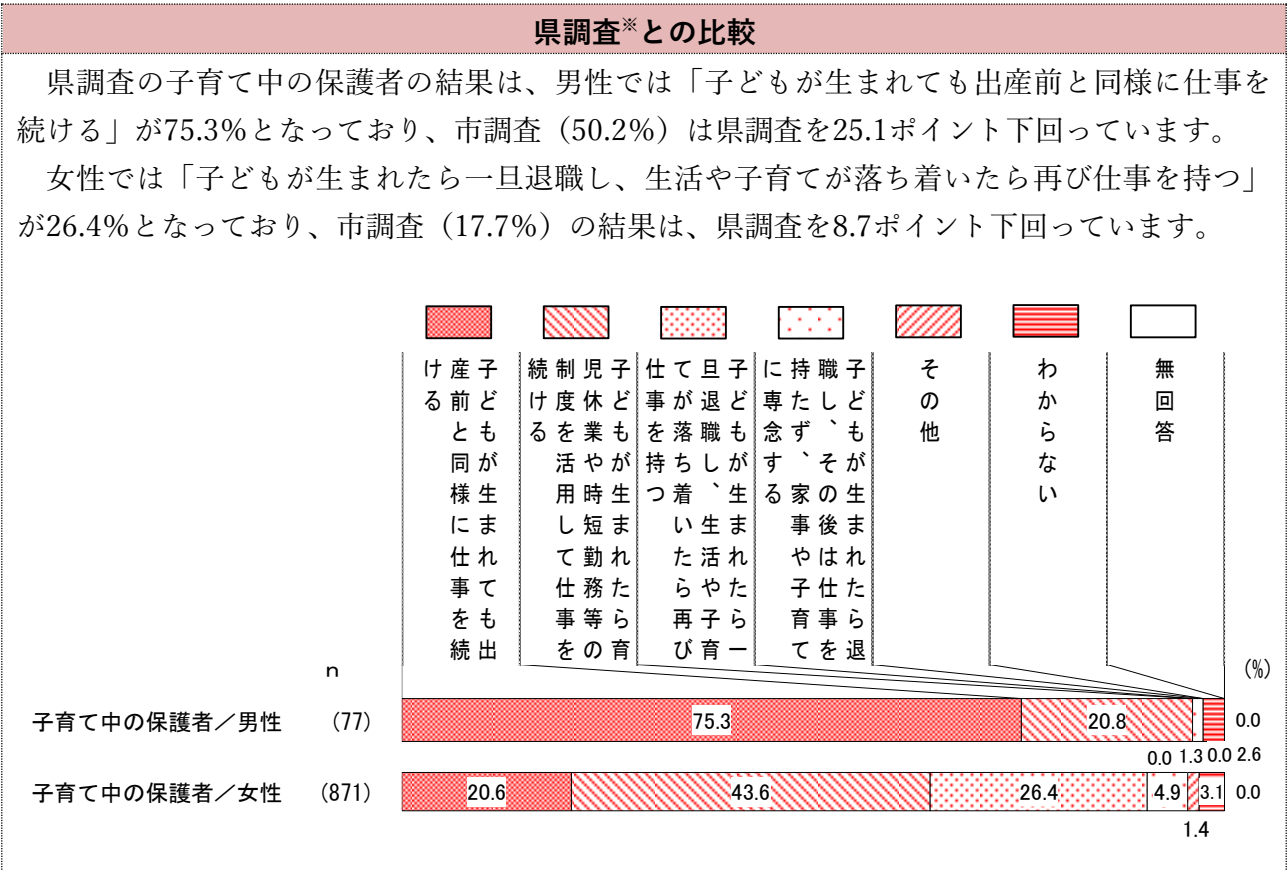
女性では「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が15.4%となっており、市調査（21.3%）は県調査を5.9ポイント上回っています。



県調査の既婚者の結果は、男性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が53.9%となっており、市調査（43.2%）は県調査を10.7ポイント下回っています。

女性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が34.7%となっており、市調査（50.8%）は県調査を16.1ポイント上回っています。





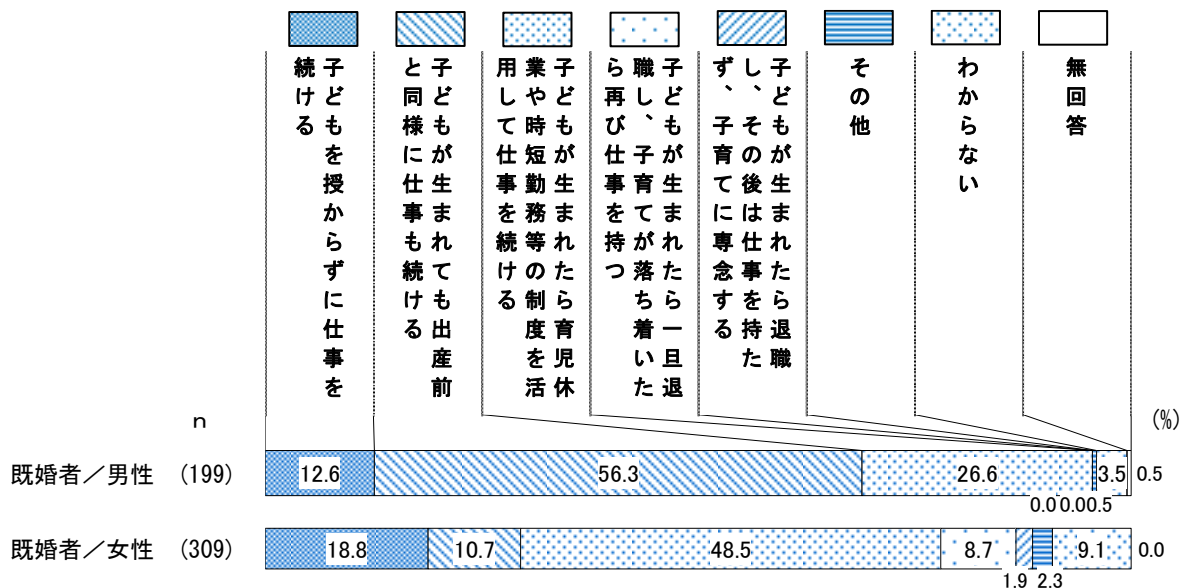
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）
夫婦全般に関する調査（既婚者調査）
地域での子育てに関する調査（保護者調査）

（2）自分自身の仕事と子育てについての実際【既婚者調査】

Q：あなたは、自分自身の仕事と子育てについて、実際にはどのようになりそうですか。（○は1つ）

既婚者調査において、自分自身の仕事と結婚・子育てについての実際は、男性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事も続ける」が56.3%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が26.6%、「子どもを授からずに仕事を続ける」が12.6%となっています。

女性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が48.5%で最も高く、次いで「子どもを授からずに仕事を続ける」が18.8%、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事も続ける」が10.7%となっています。



（3）パートナー（配偶者）の仕事と子育てについての希望

【独身者調査】

※将来結婚したいと思うかで「結婚したい」、「どちらかといえば結婚したい」を選んだ方のみ回答

Q：あなたは、将来のパートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについて、どのような希望がありますか。（○は1つ）

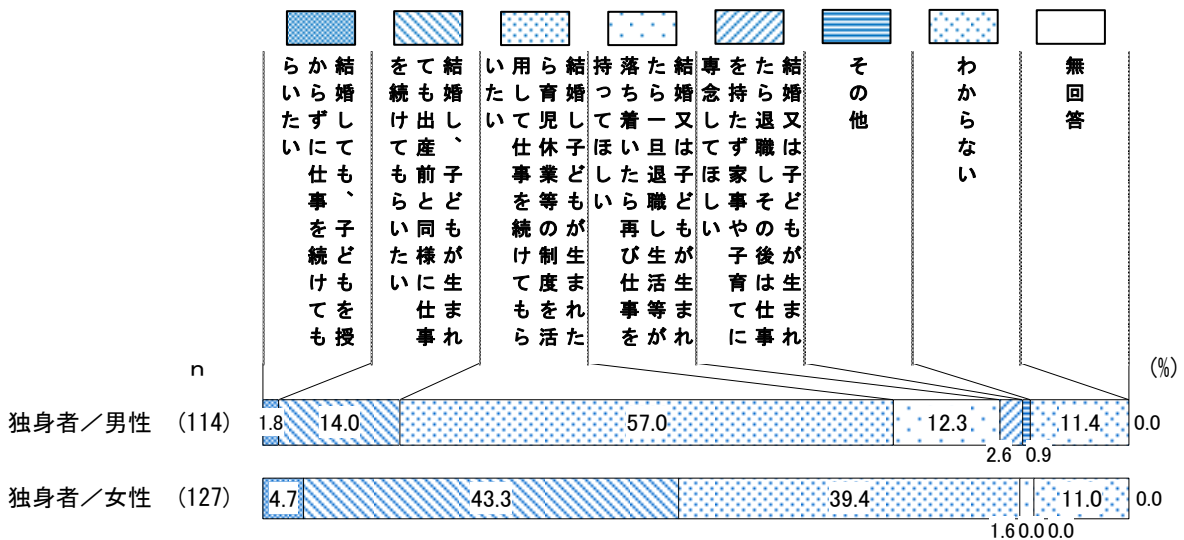
【既婚者・子育て中の保護者調査】

Q：あなたは、パートナーの仕事と子育てについて、どのような希望がありますか（ありましたか）。（○は1つ）

【独身者調査】

独身者調査において、パートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「結婚し子どもが生まれたら育児休業等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が57.0%で最も高く、次いで「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が14.0%、「結婚又は子どもが生まれたら一旦退職し生活等が落ち着いたら再び仕事を持ってほしい」が12.3%、「わからない」が11.4%となっています。

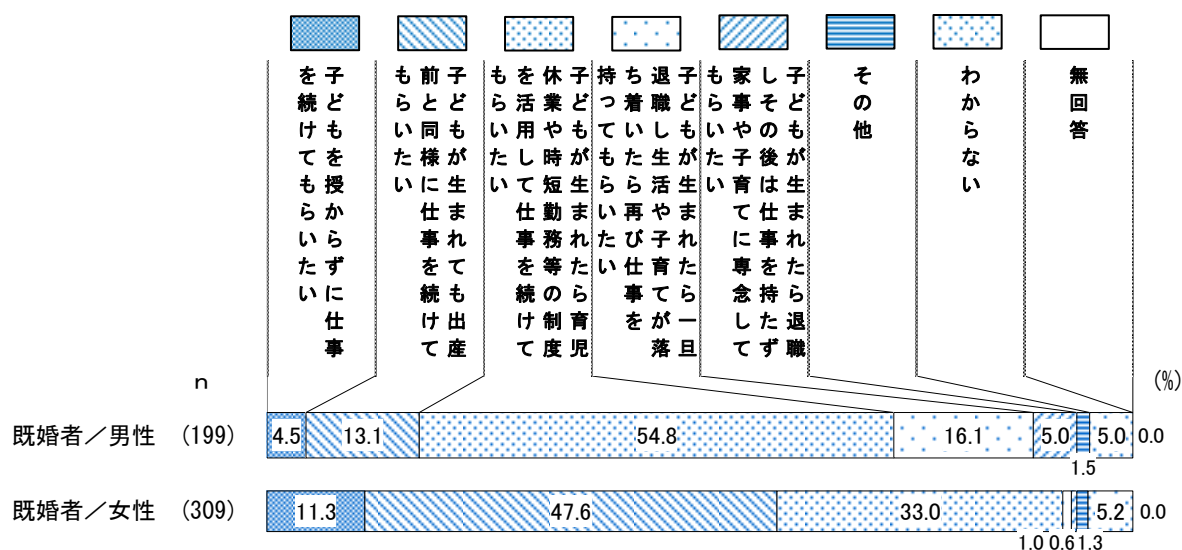
女性では「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が43.3%で最も高く、次いで「結婚し子どもが生まれたら育児休業等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が39.4%、「わからない」が11.0%となっています。



【既婚者調査】

既婚者調査において、パートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が54.8%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら一旦退職し生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持ってもらいたい」が16.1%、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が13.1%となっています。

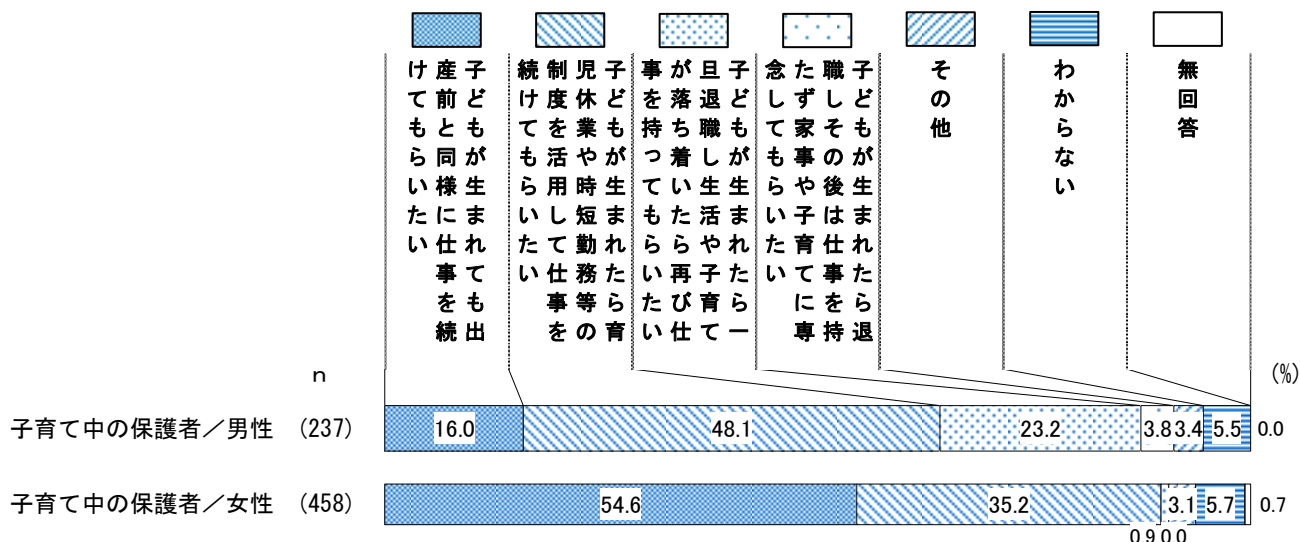
女性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が47.6%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が33.0%、「子どもを授からずに仕事を続けてもらいたい」が11.3%となっています。



【子育て中の保護者調査】

子育て中の保護者調査において、パートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が48.1%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら一旦退職し生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持ってもらいたい」が23.2%、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が16.0%となっています。

女性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が54.6%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が35.2%、「わからない」が5.7%となっています。

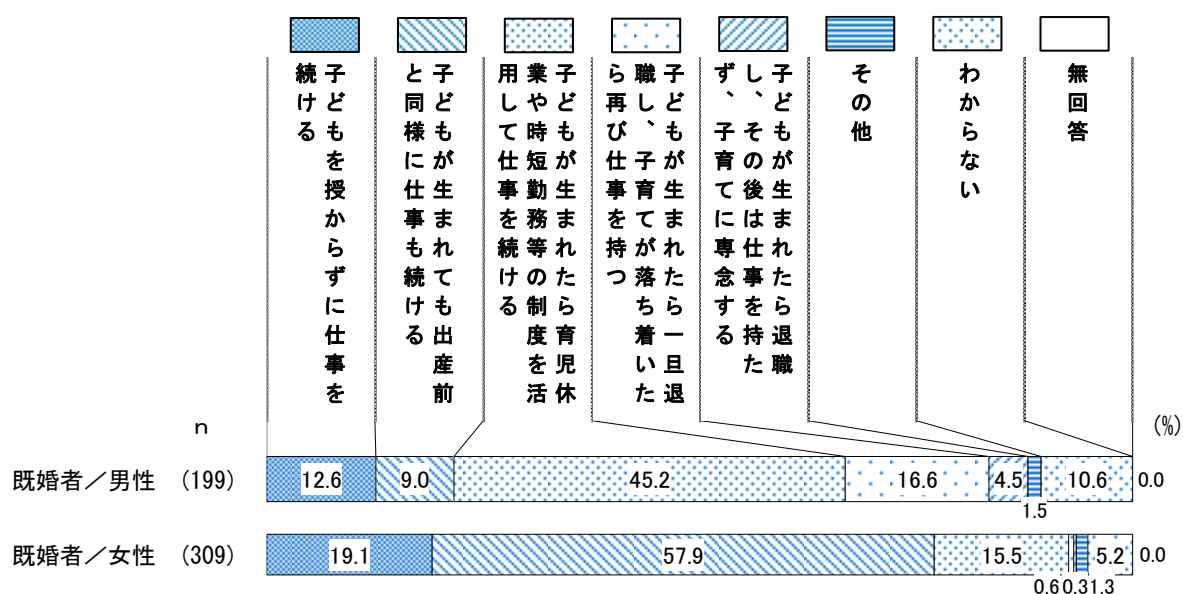


（4）パートナー（配偶者）の仕事と子育てについての実際【既婚者調査】

Q：パートナーの仕事と子育てについて、実際にはどのようになりそうですか。（○は1つ）

既婚者調査において、パートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについての実際は、男性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が45.2%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が16.6%、「子どもを授からずに仕事を続ける」が12.6%となっています。

女性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事も続ける」が57.9%で最も高く、次いで「子どもを授からずに仕事を続ける」が19.1%、「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が15.5%となっています。

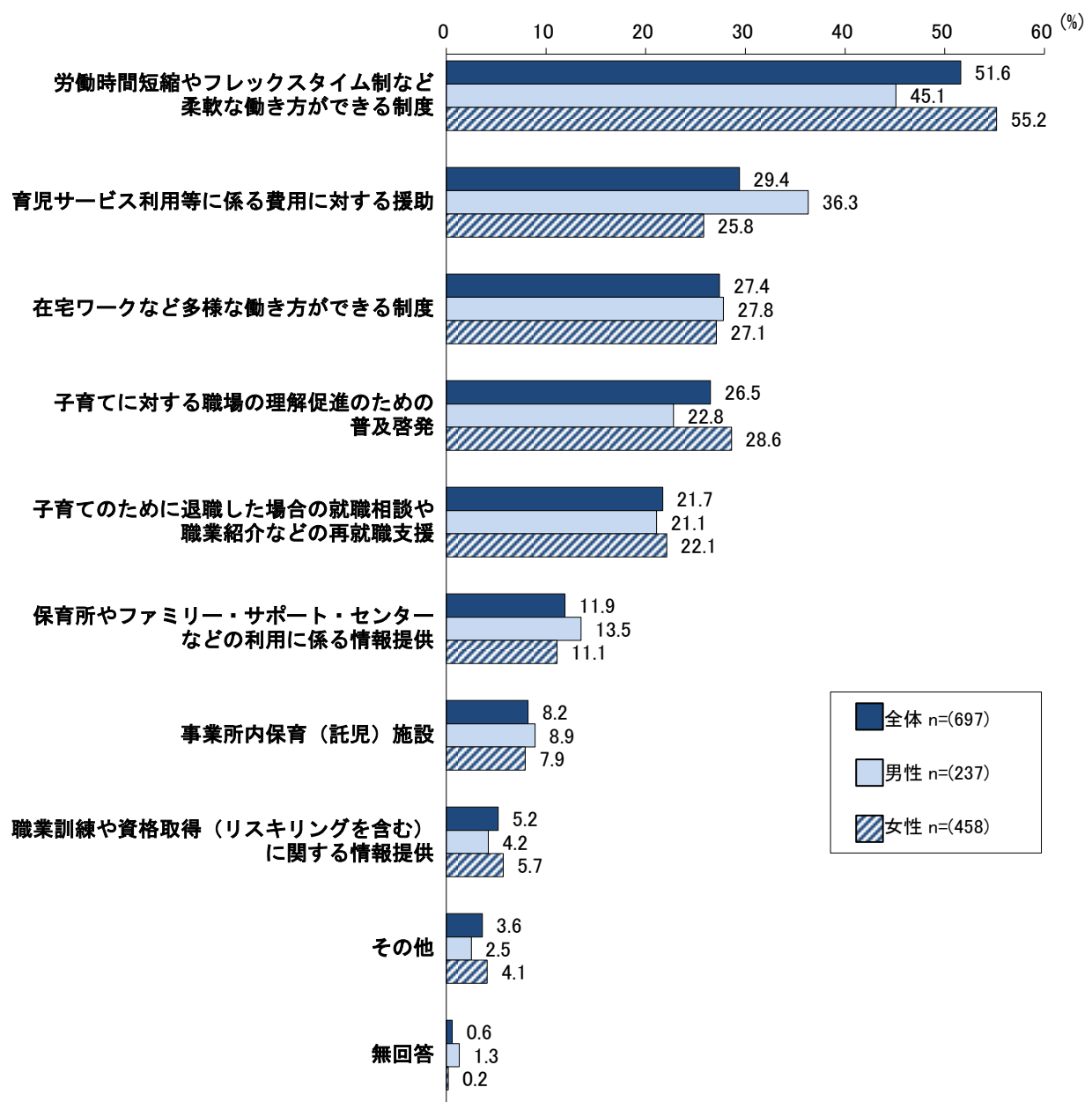


（5）仕事と子育ての両立に関して必要な支援【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは、仕事と子育ての両立に関して、どのような支援が必要だと思いますか。（○は2つ）

仕事と子育ての両立に関して必要だと思う支援は、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」が51.6%で最も高く、次いで「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」が29.4%、「在宅ワークなど多様な働き方ができる制度」が27.4%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」が10.5ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」が10.1ポイント、「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」が5.8ポイント高くなっています。



年齢別でみると、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」は20歳代で73.2%と高くなっています。「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」は20歳代と30歳代で3割台、「在宅ワークなど多様な働き方ができる制度」は20歳代で34.1%とやや高くなっています。

		調査数（n）	労働時間短縮やフレックスタイム 制など柔軟な働き方ができる制度	育児サービス利用等に係る費用に 対する援助	在宅ワークなど多様な働き方がで きる制度	子育てに対する職場の理解促進の ための普及啓発	職相談や職業紹介などの再就職支 援	子育てのために退職した場合の就 職相談や職業紹介などの再就職支 援	保育所やファミリー・サポート・ センターなどの利用に係る情報提 供	事業所内保育（託児）施設	職業訓練や資格取得（リスキリン グを含む）に関する情報提供	その他	無回答
単位：％													
全体		697	51.6	29.4	27.4	26.5	21.7	11.9	8.2	5.2	3.6	0.6	
年 齢 別	20歳代	41	73.2	31.7	34.1	19.5	14.6	7.3	7.3	4.9	2.4	0.0	
	30歳代	276	52.5	34.4	25.4	28.3	21.0	12.7	8.0	3.6	2.9	0.7	
	40歳代	380	48.7	25.5	28.2	26.1	22.9	11.8	8.4	6.3	4.2	0.5	

県調査※との比較

県調査の結果においても「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」（52.6%）が最も高くなっていますが、以降の順位は市調査とは異なり、「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」（31.8%）、「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」（26.1%）と続きます。

		調査数（n）	労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度	子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発	育児サービス利用等に係る費用に対する援助	在宅ワークなど多様な働き方ができる制度	職相談や職業紹介などの再就職支援	保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供	事業所内保育（託児）施設	職業訓練や資格取得（リスキリングを含む）に関する情報提供	その他	無回答
単位：％												
全体	949	52.6	31.8	26.1	26.0	18.2	12.9	11.4	5.0	2.1	0.0	

※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／地域での子育てに関する調査（保護者調査）

（6）（結婚前までの）身近な状況【独身者調査・既婚者調査】

【独身者調査】

Q：あなたの身近な状況について、あてはまるものをお答えください。（○は1つ）

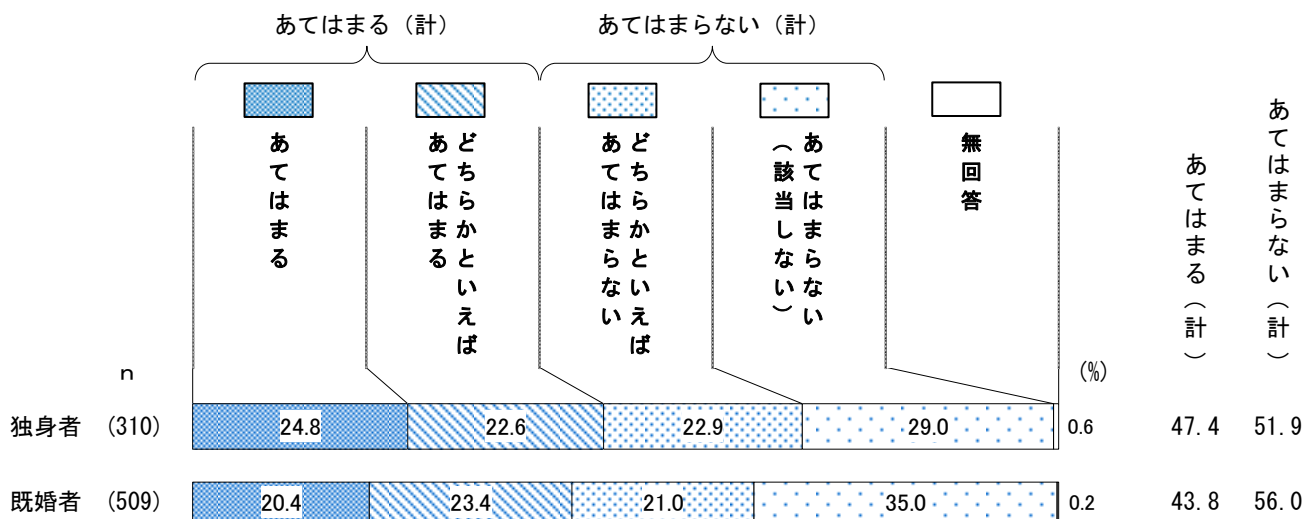
【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦の結婚前までの身近な状況について、あてはまるものをお答えください。（○は1つ）（質問項目に該当する相手がいない（いなかった）場合は、「あてはまらない（該当しない）」を選択してください。）

■赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった（ある）

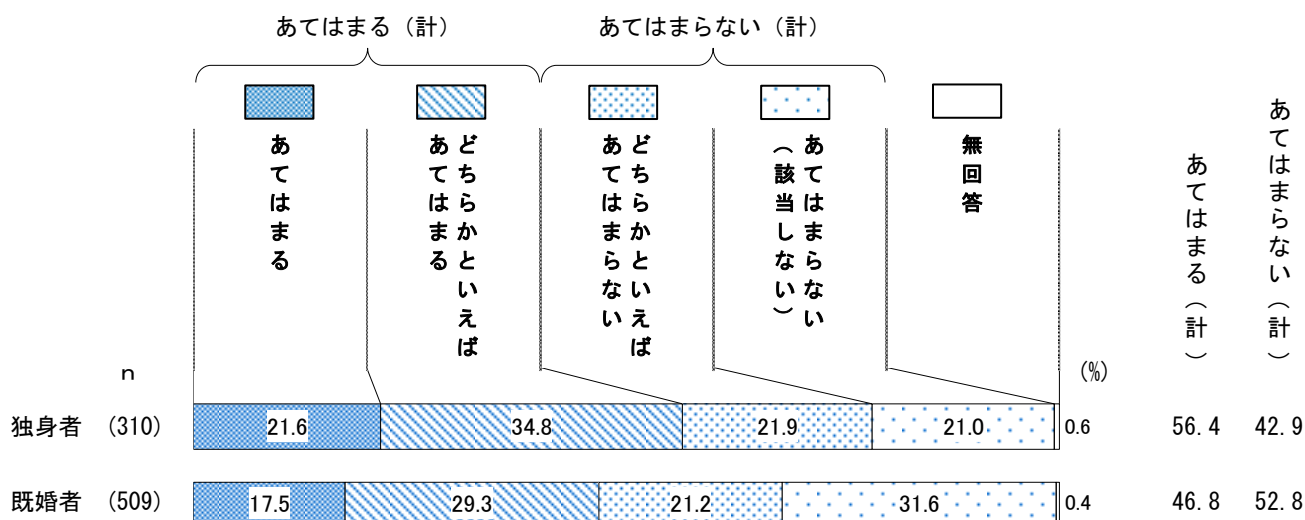
赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会は、独身者調査では、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた《あてはまらない 計》は51.9%、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた《あてはまる 計》は47.4%となっています。

既婚者調査では、《あてはまらない 計》は56.0%、《あてはまる 計》は43.8%となっています。



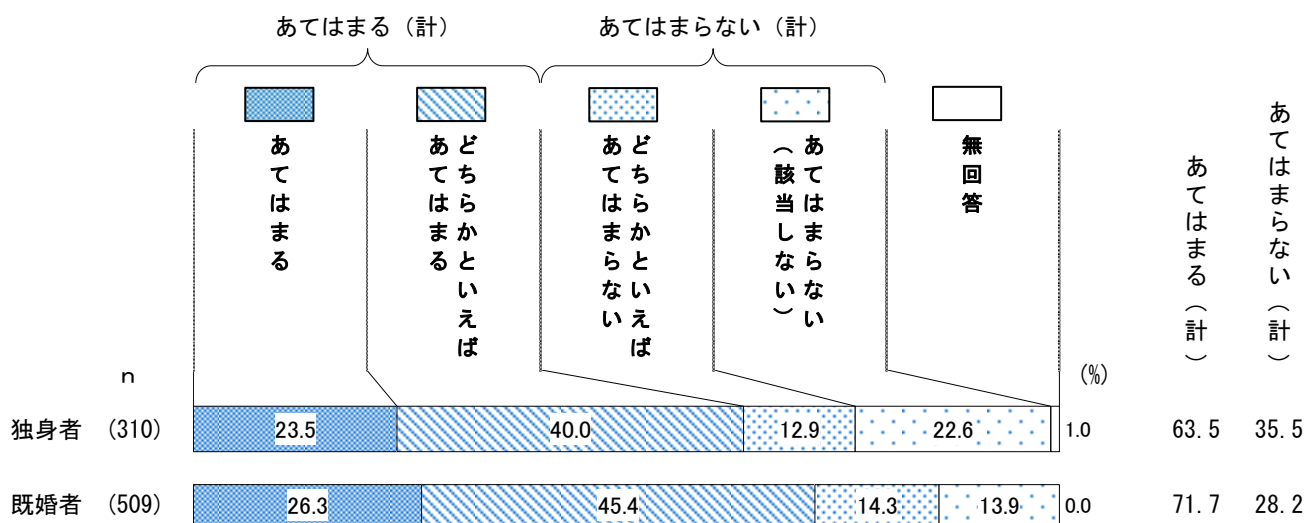
■両親のような夫婦関係をうらやましく思う

両親のような夫婦関係をうらやましく思うかでは、独身者調査では「どちらかといえばあてはまる」が34.8%で最も高くなっています。また、《あてはまる 計》と《あてはまらない 計》は独身者と既婚者で数値の多少が逆転しています。



■結婚している周りの友人をみると、幸せそうだと思う

結婚している周りの友人をみると、幸せそうだと思うかでは、独身者調査では「どちらかといえばあてはまる」が40.0%で最も高くなっています。また独身者よりも既婚者のほうが《あてはまる 計》は高くなります。



（7）家庭内での家事、育児、看護、介護の分担についての考え【独身者調査】

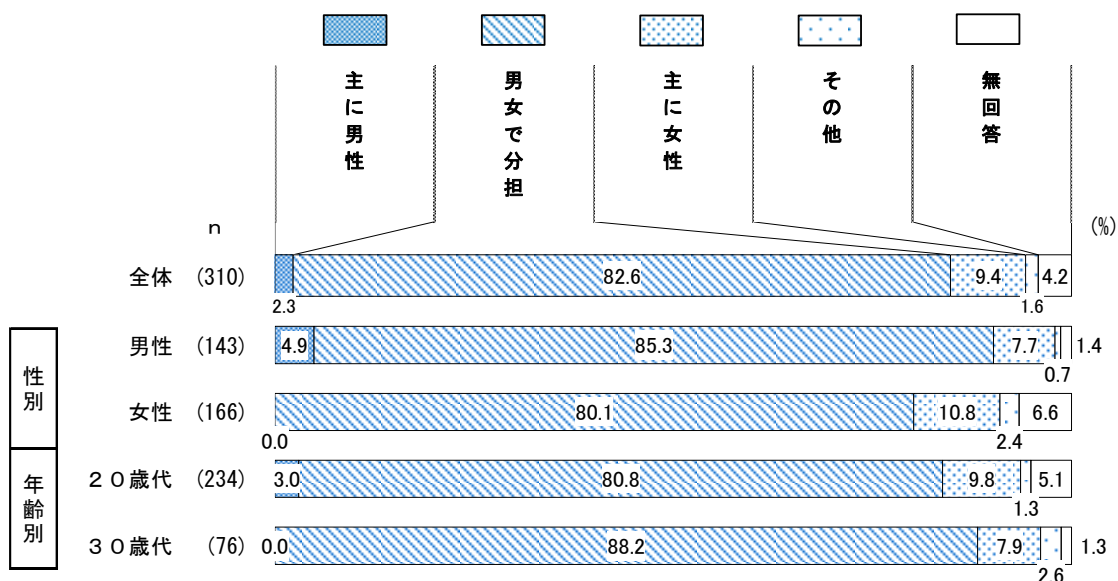
Q：あなたは、家庭内での家事、育児、看護、介護の分担について、どのように考えていますか。（○は1つ）

■家事（炊事、洗濯、掃除、買い物）

「男女で分担」が82.6%と最も高く、「主に女性」が9.4%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「男女で分担」が5.2ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「主に女性」が3.1ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は30歳代で88.2%と高くなっています。

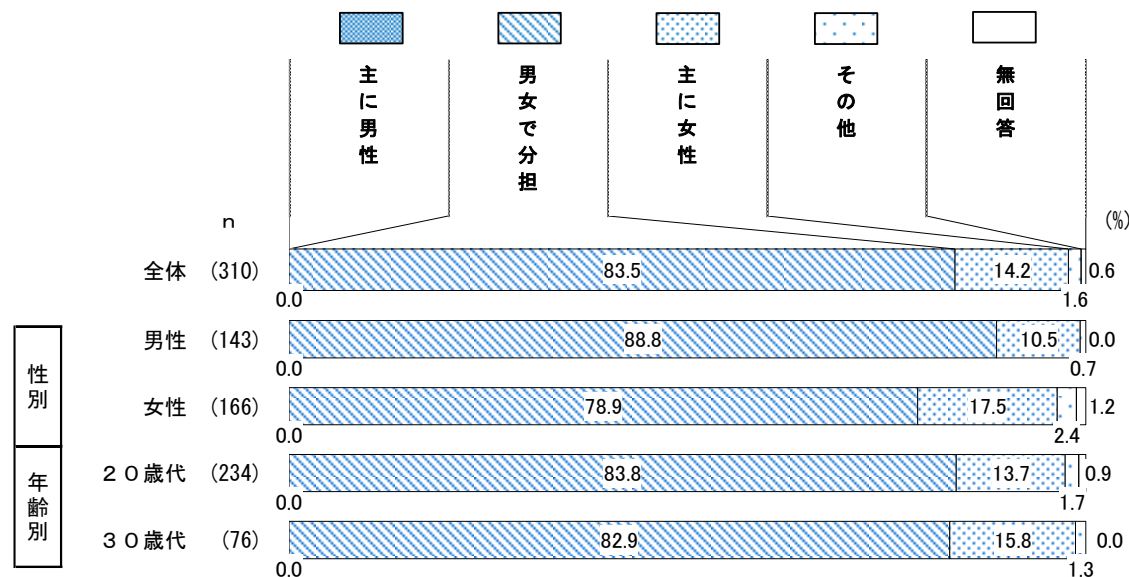


■育児

「男女で分担」が83.5%と最も高く、「主に女性」が14.2%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「男女で分担」が9.9ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「主に女性」が7.0ポイント高くなっています。

年齢別でみると、年齢による大きな差はみられません。

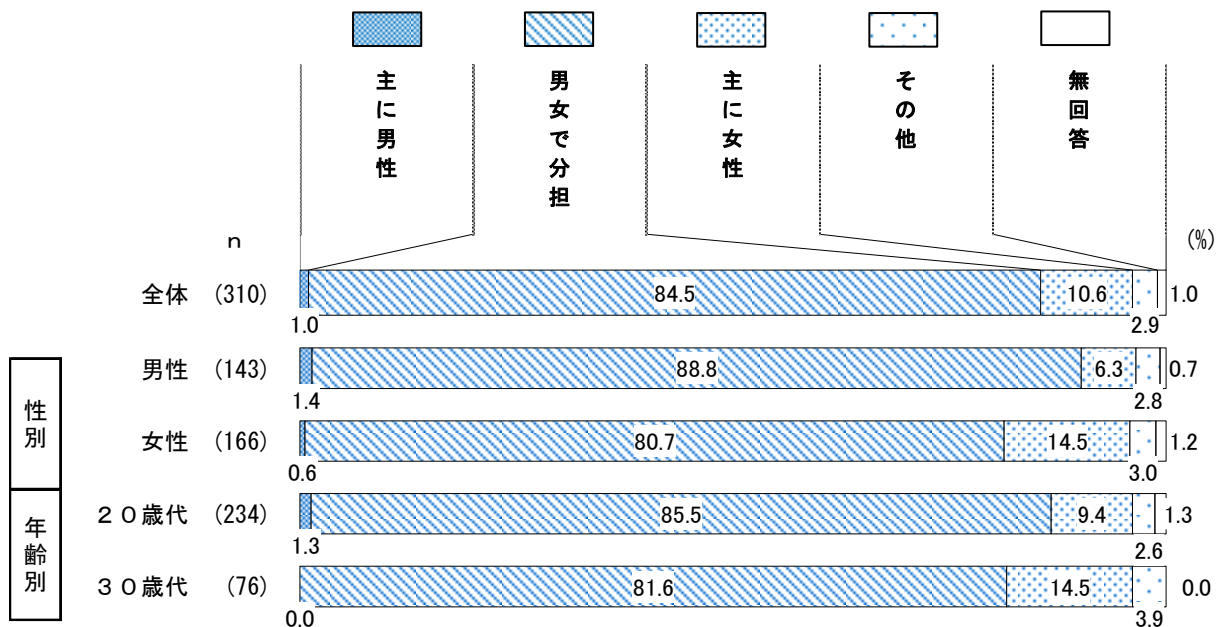


■看護

「男女で分担」が84.5%と最も高く、「主に女性」が10.6%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「男女で分担」が8.1ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「主に女性」が8.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「主に女性」は30歳代で14.5%とやや高くなっています。

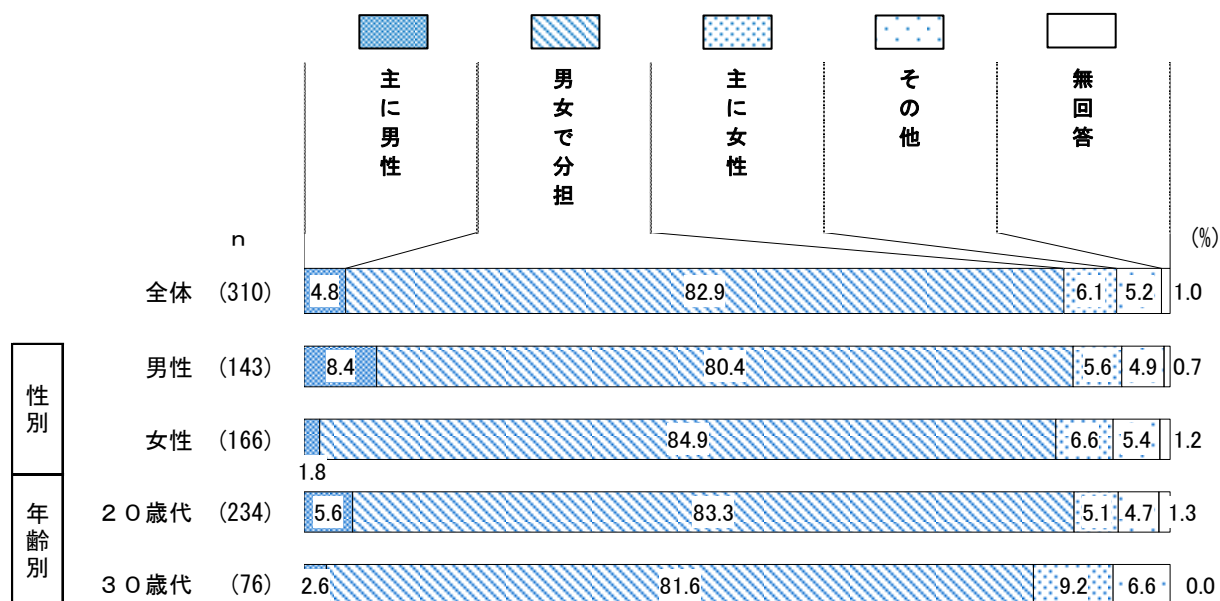


■介護

「男女で分担」が82.9%と最も高く、「主に女性」が6.1%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「主に男性」が6.6ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「男女で分担」が4.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「主に女性」は30歳代で9.2%とやや高くなっています。



(8) 家庭内での家事、育児、看護、介護の分担についての理想と現実【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは、家庭内での家事、育児、看護、介護の分担について、理想としてどのように考えますか。(○は1つ)

Q：あなたは、家庭内での家事、育児、看護、介護の分担について、現実はどうですか。(○は1つ)

家事、育児、看護、介護の分担について<理想>と<現実>を比較してみると、いずれの項目においても、「男女で分担」を理想としていますが、現実は「主に女性」の数値が高くなっています。また、男性は「男女で分担」が高いが、女性では「主に女性」のほうが高く、男女間で分担している感覚の違いが大きくみられます。

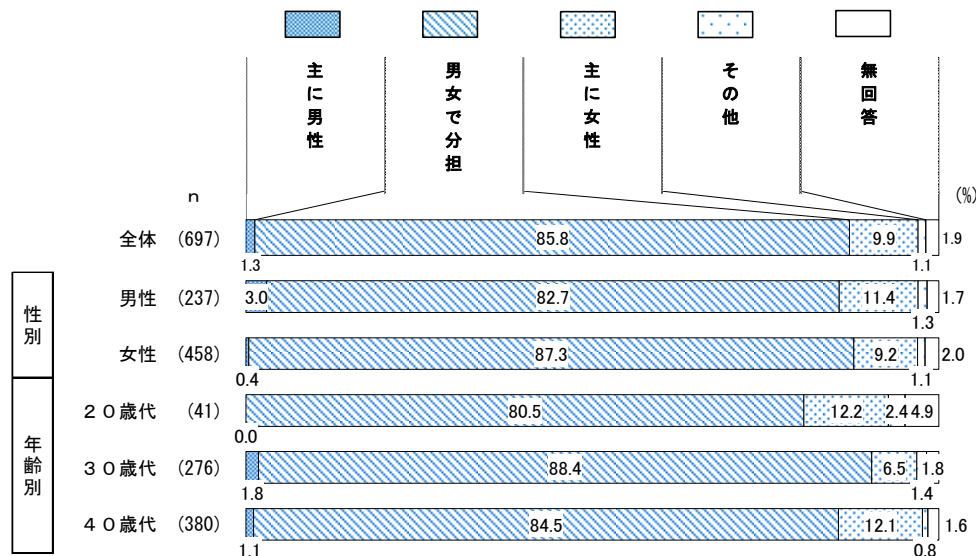
■家事（炊事、洗濯、掃除、買い物）

<理想>

「男女で分担」が85.8%と最も高く、「主に女性」が9.9%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「男女で分担」が4.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は30歳代で88.4%と高くなっています。

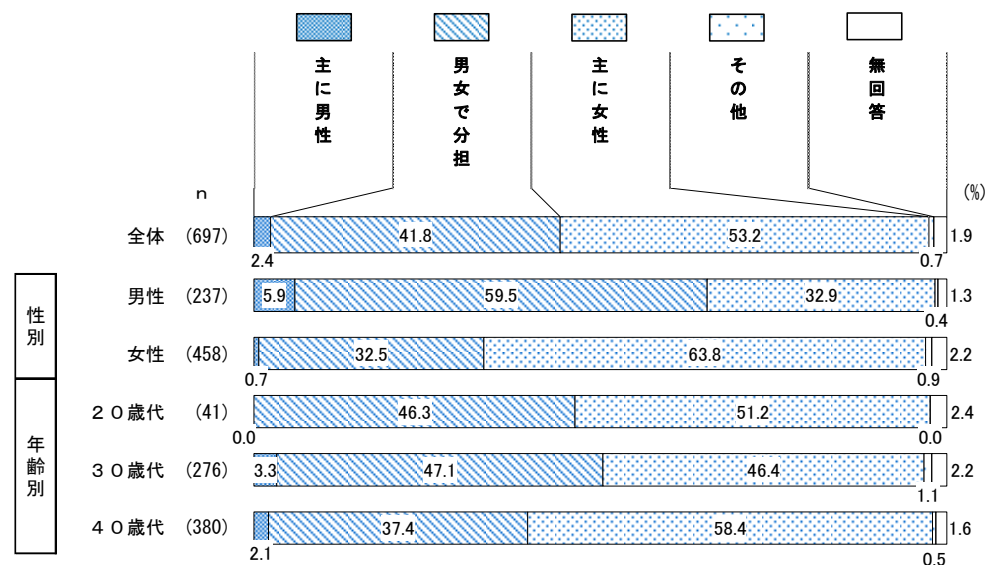


<現実>

「主に女性」が53.2%と最も高く、「男女で分担」が41.8%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が30.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「主に女性」は40歳代で58.4%と高くなっています。



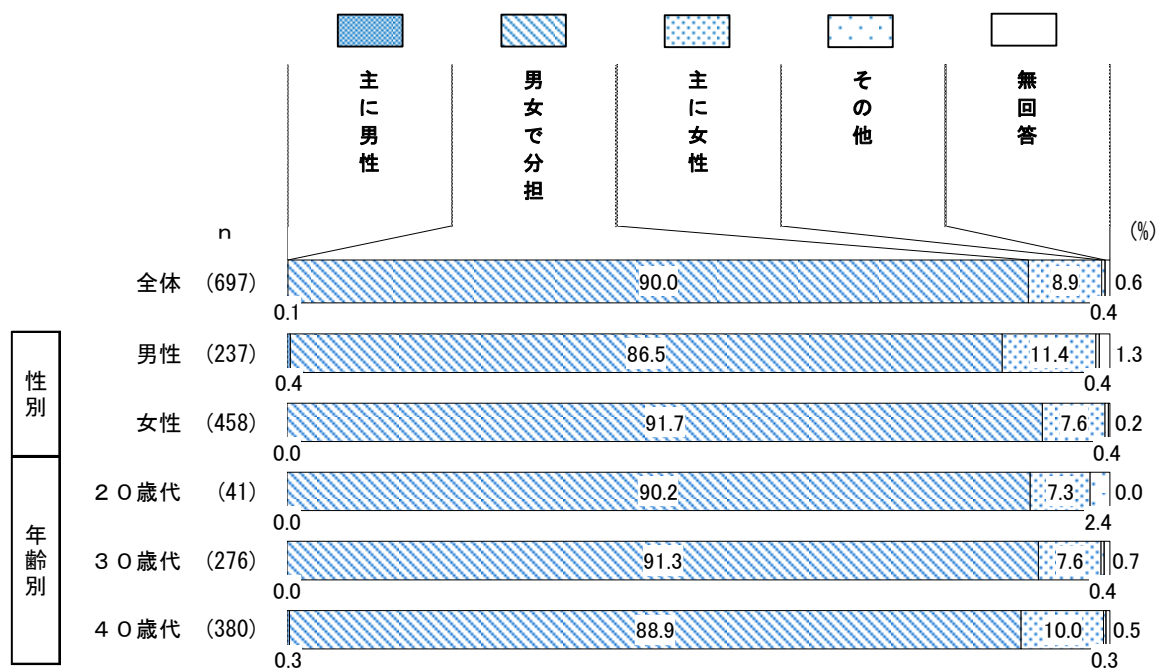
■育児

<理想>

「男女で分担」が90.0%と最も高く、「主に女性」が8.9%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「男女で分担」が5.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は20歳代と30歳代で9割台と高くなっています。

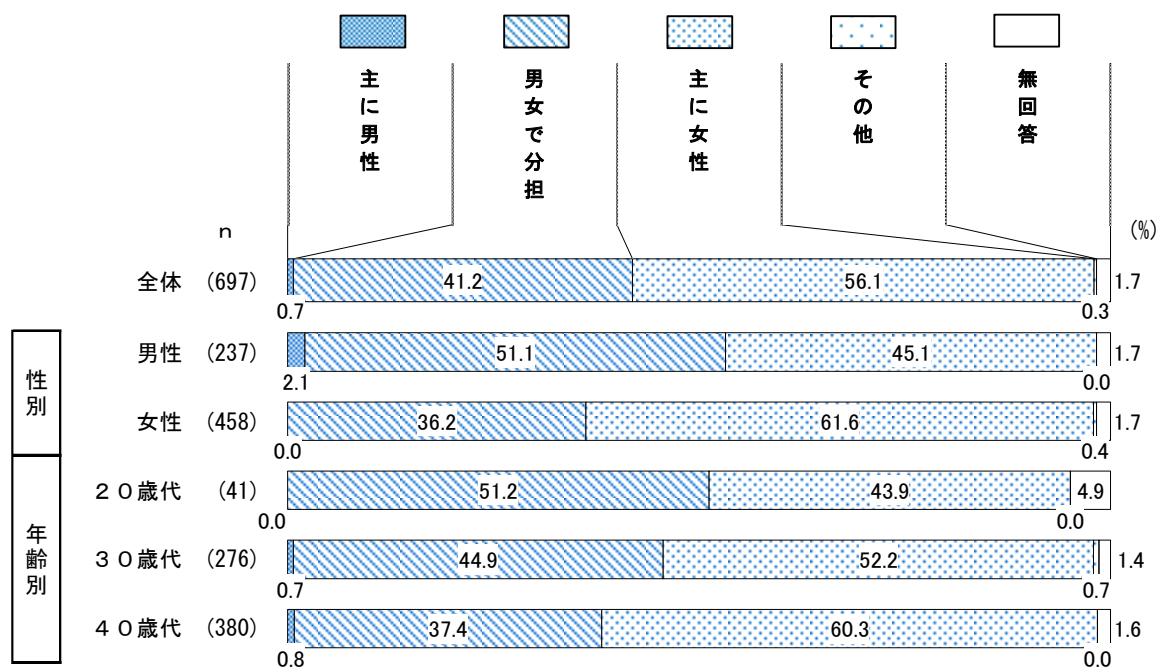


<現実>

「主に女性」が56.1%と最も高く、「男女で分担」が41.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が16.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「主に女性」は40歳代で60.3%とやや高くなっています。



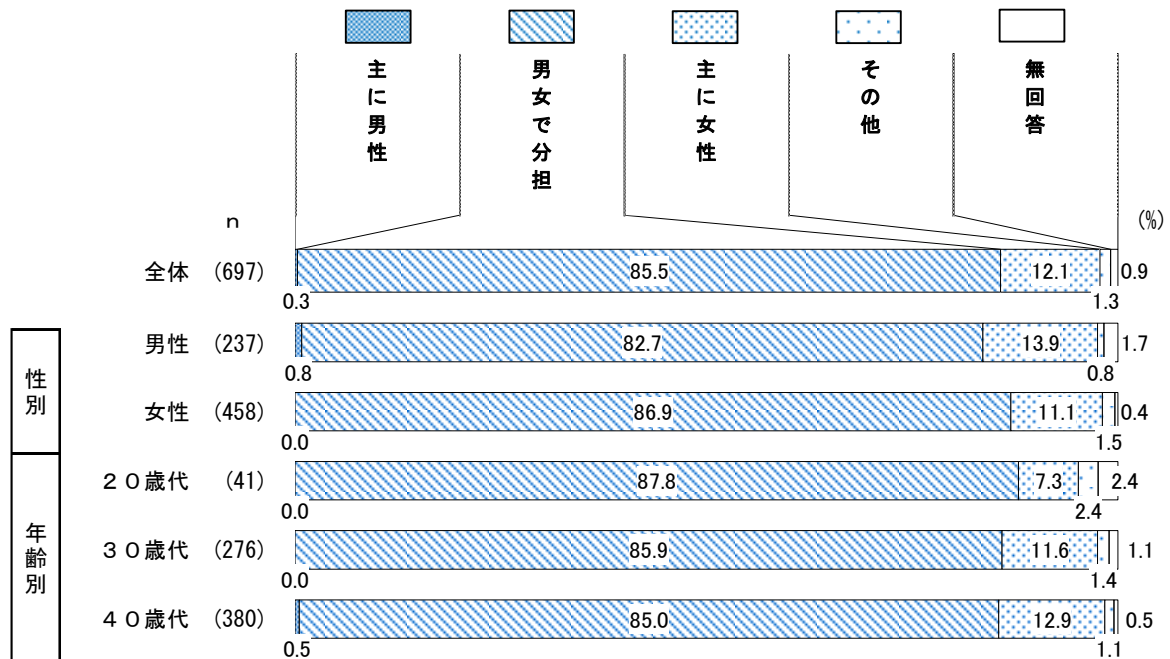
■看護

<理想>

「男女で分担」が85.5%と最も高く、「主に女性」が12.1%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「男女で分担」が4.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は20歳代で87.8%とやや高くなっています。

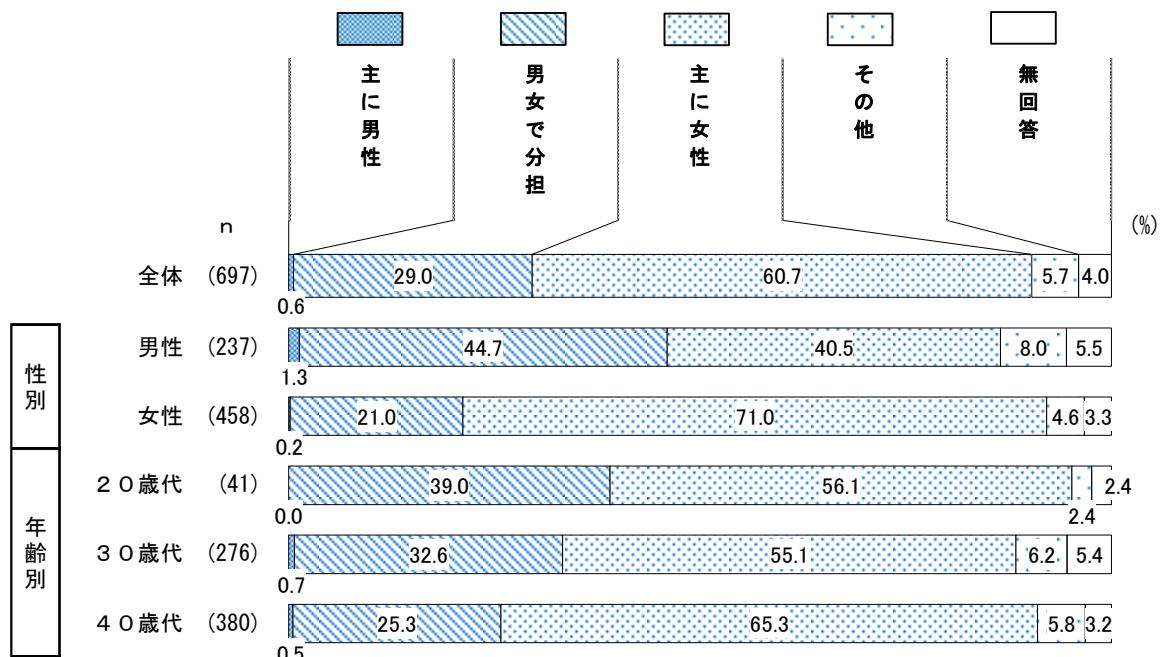


<現実>

「主に女性」が60.7%と最も高く、「男女で分担」が29.0%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が30.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「主に女性」は年齢が上がるほど高い傾向がみられ、40歳代で65.3%となっています。



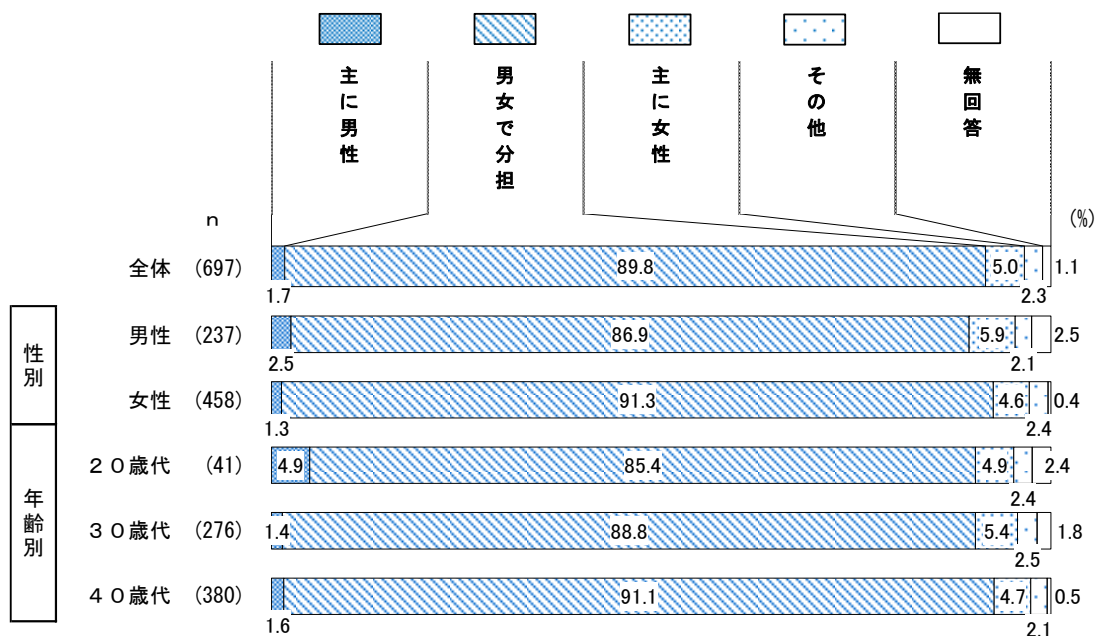
■介護

<理想>

「男女で分担」が89.8%と最も高く、「主に女性」が5.0%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「男女で分担」が4.4ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は40歳代で91.1%と高くなっています。



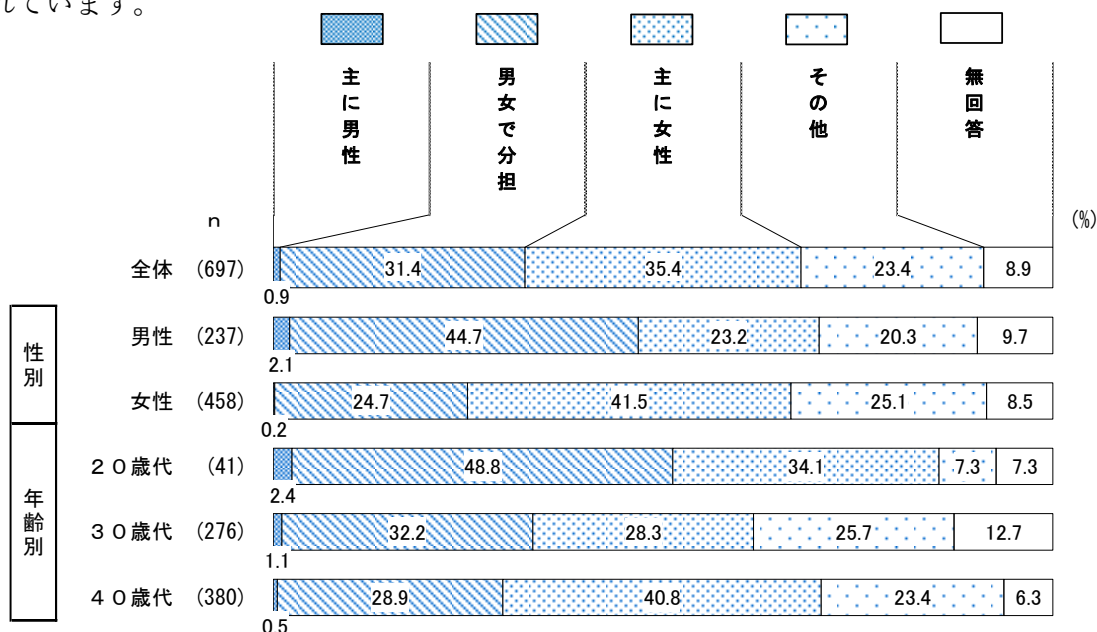
<現実>

「主に女性」が35.4%と最も高く、「男女で分担」が31.4%、「その他」が23.4%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「男女で分担」が20.0ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「主に女性」が18.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は20歳代で48.8%、「主に女性」は40歳代で40.8%と高くなっています。

「その他」の主な内容は、「介護経験なし・介護していない」、「介護施設、ヘルパー」などが挙げられています。



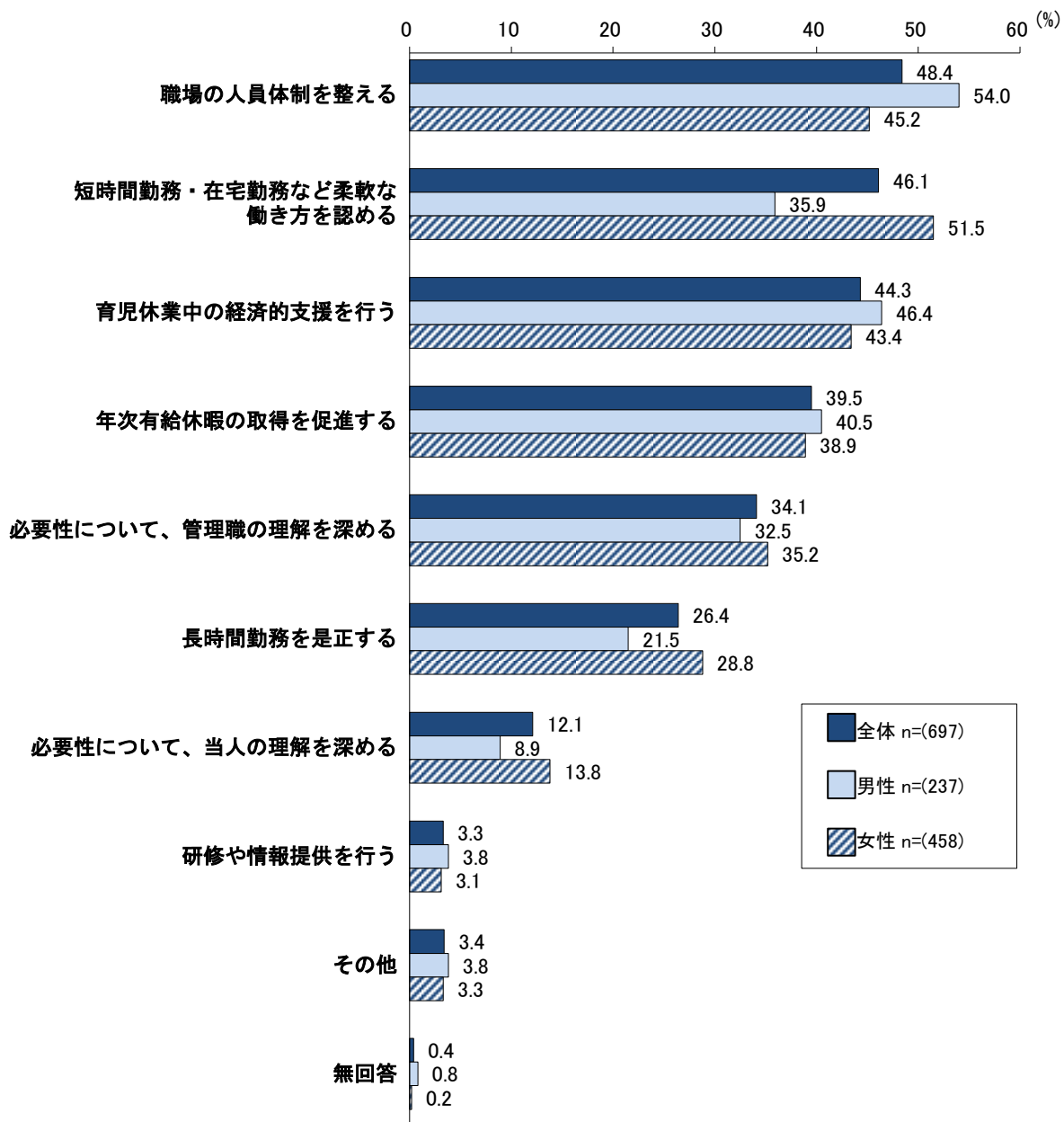
（9）「共育て」を促進するために必要だと思うこと【子育て中の保護者調査】

Q：「共育て※」を促進するためにあなたが職場に必要だと思うことは何ですか。（○は3つ）

※共育て…男性育休の取得促進や育児期を通じた柔軟で多様な働き方を推進することで、仕事と子育てを両立し、夫婦（パートナー）がともに子育てを行うこと

「共育て」を促進するために必要だと思うことは、「職場の人員体制を整える」が48.4%で最も高く、次いで「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」が46.1%、「育児休業中の経済的支援を行う」が44.3%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」が15.6ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「職場の人員体制を整える」が8.8ポイント高くなっています。



(10) 里親制度の認知度【既婚者調査】

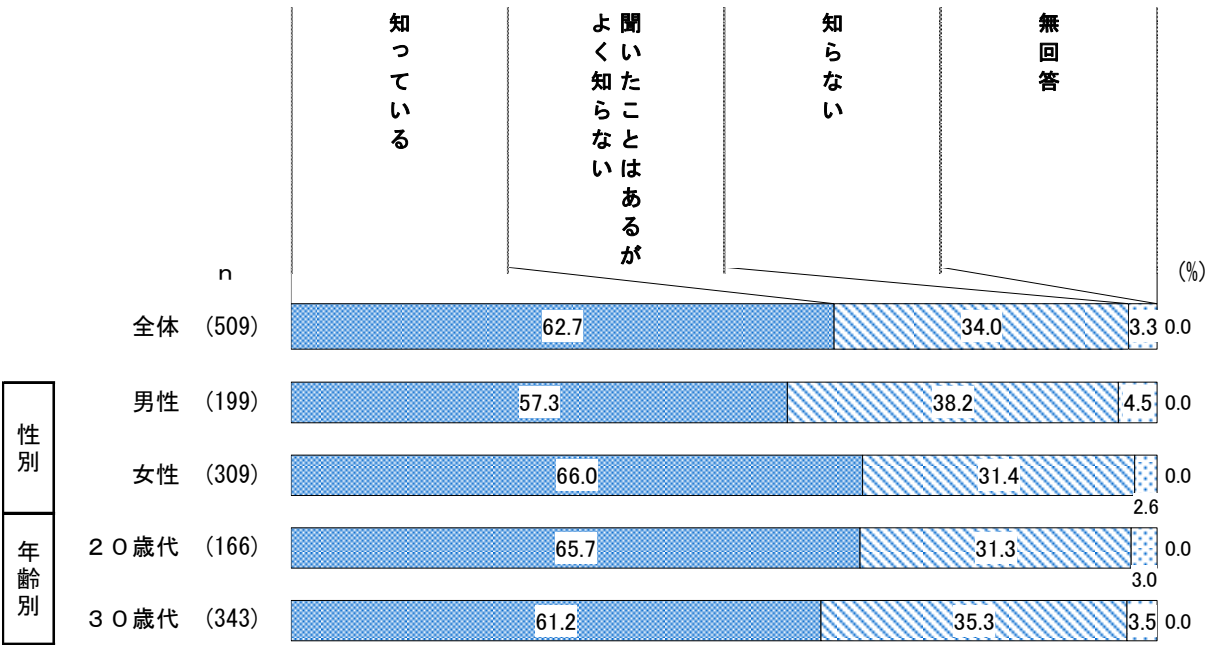
Q：里親制度*を知っていますか。（○は1つ）

※里親制度…様々な事情により家庭で生活することができないお子さんに、温かい愛情と正しい理解をもった家庭環境の下での養育を提供する制度

里親制度の認知度は、「知っている」が62.7%、「聞いたことはあるがよく知らない」が34.0%、「知らない」が3.3%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「知っている」が8.7ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「聞いたことはあるがよく知らない」が6.8ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「知っている」は20歳代で65.7%とやや高くなっています。



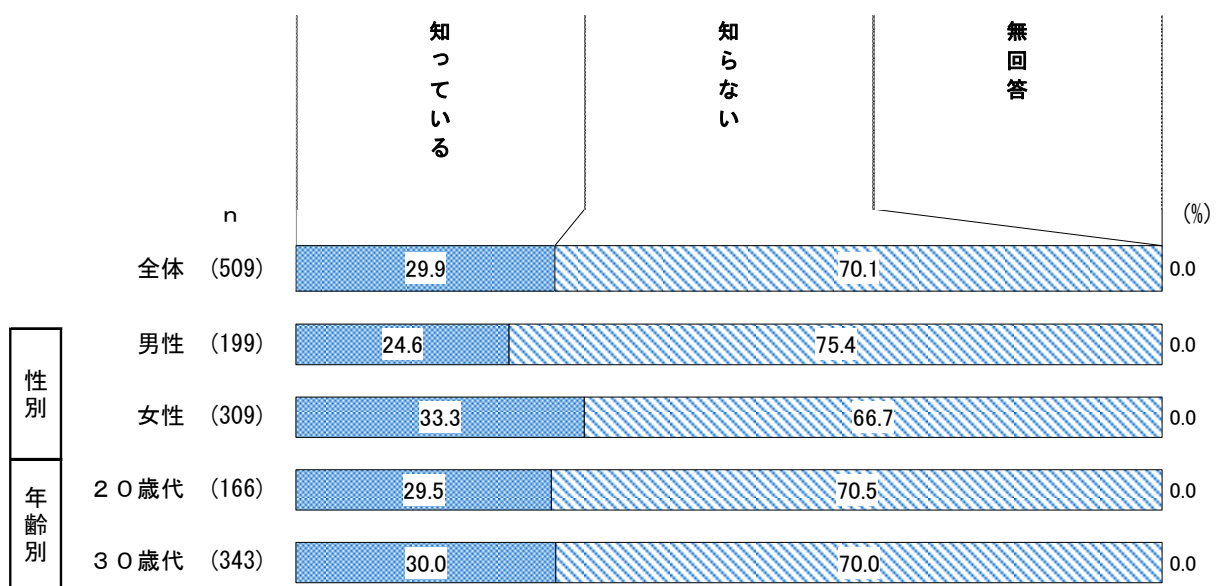
(11) 里親制度で手当や養育費が支給されることの認知度【既婚者調査】

Q：里親制度では、養育期間について、養育する子どもの年齢や人数に応じて、里親手当、養育費（生活費、学校教育費、医療費など）が、里親に対して支給されることを知っていますか。
（○は1つ）

里親制度では養育する子どもの年齢や人数に応じて、里親手当、養育費が支給されることを知っているかについては、「知っている」が29.9%、「知らない」が70.1%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「知っている」が8.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、年齢による大きな差はみられません。



(12) 特別養子縁組制度の認知度【既婚者調査】

Q：特別養子縁組制度※を知っていますか。（○は1つ）

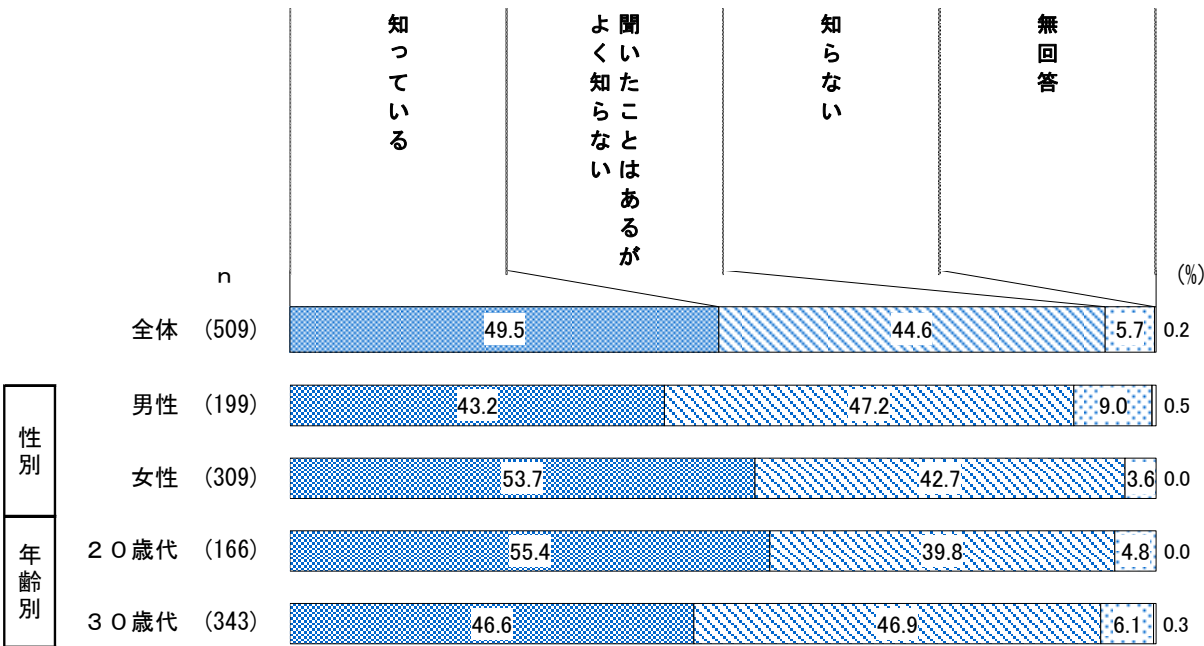
※特別養子縁組制度…子どもの福祉の増進を図るために、養子となるお子さんの実親との法的な親子関係を解消し、実の子として、新たな親子関係を結ぶ制度

特別養子縁組制度の認知度は、「知っている」が49.5%、「聞いたことはあるがよく知らない」が44.6%、「知らない」が5.7%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「知っている」が10.5ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「知らない」が5.4ポイント、「聞いたことはあるがよく知らない」が4.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「知っている」は20歳代で55.4%と高くなっています。

一方、30歳代は「聞いたことはあるがよく知らない」が46.9%と高くなっています。



8 少子化対策について

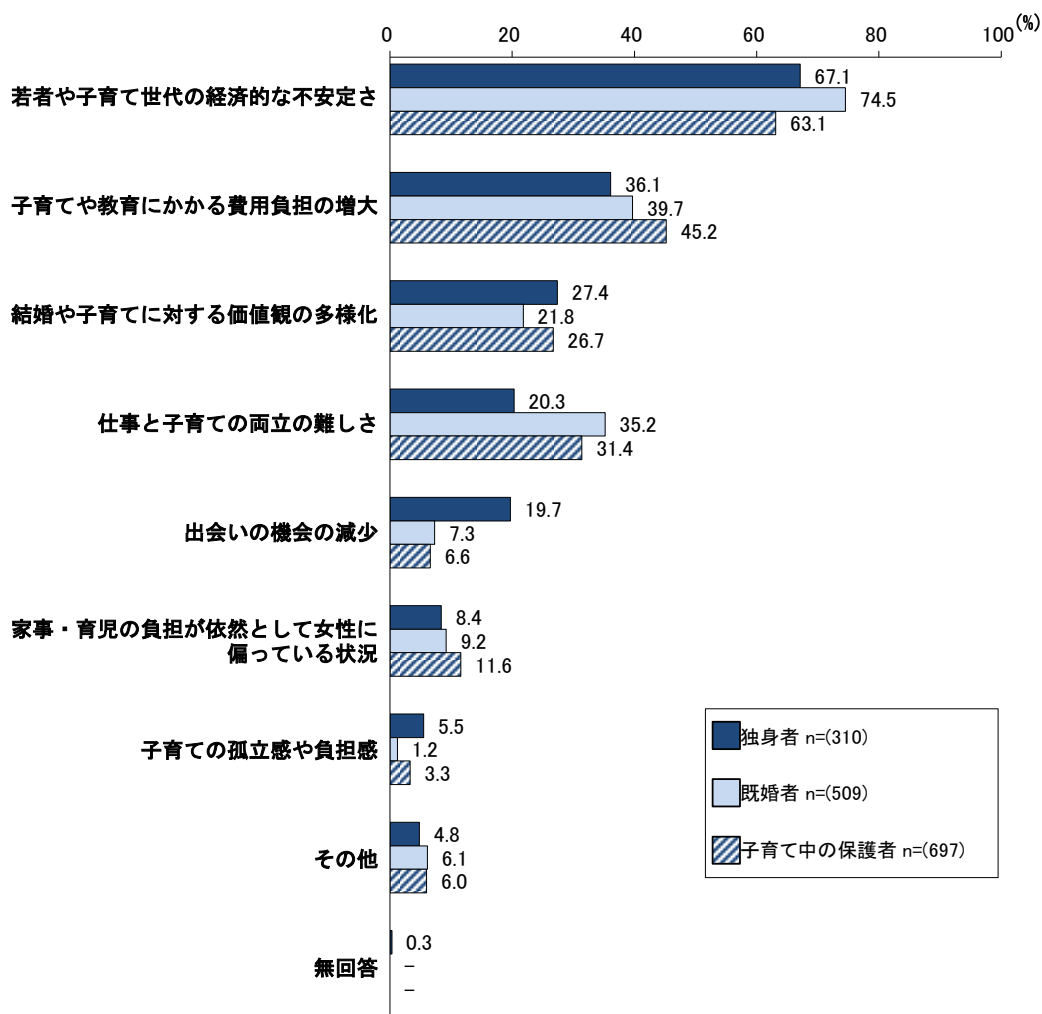
（1）少子化の要因

Q：現在、日本は出生率が低下し、子どもの数が少なくなっていく「少子化」が進んでいます。少子化の要因はどのようなことだと思いますか。（○は2つ）

少子化の要因は、独身者調査では「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」が67.1%で最も高く、次いで「子育てや教育にかかる費用負担の増大」が36.1%、「結婚や子育てに対する価値観の多様化」が27.4%となっています。

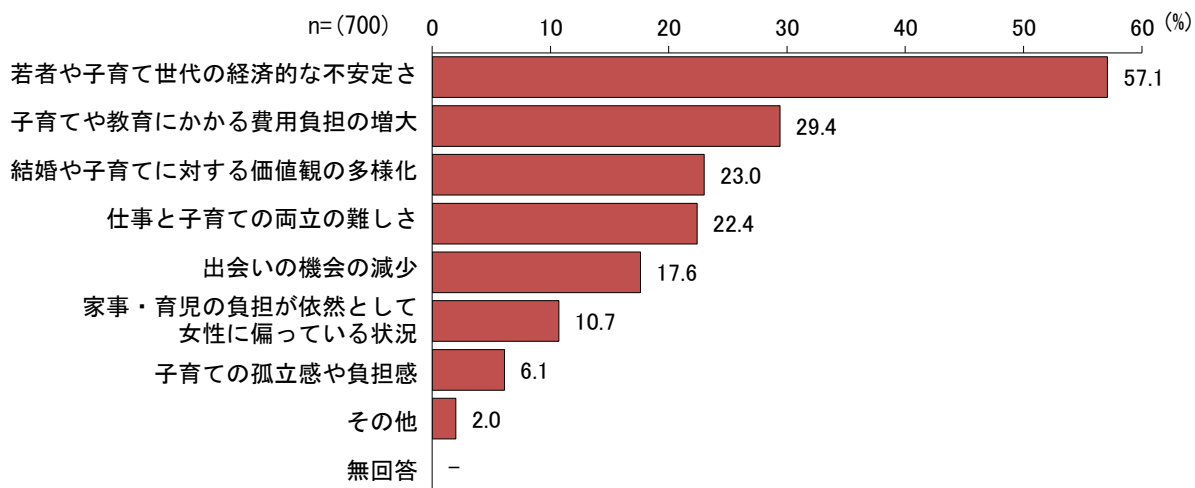
既婚者調査では「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」が74.5%で最も高く、次いで「子育てや教育にかかる費用負担の増大」が39.7%、「仕事と子育ての両立の難しさ」が35.2%となっています。

子育て中の保護者調査では「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」が63.1%で最も高く、次いで「子育てや教育にかかる費用負担の増大」が45.2%、「仕事と子育ての両立の難しさ」が31.4%となっています。



県調査※との比較

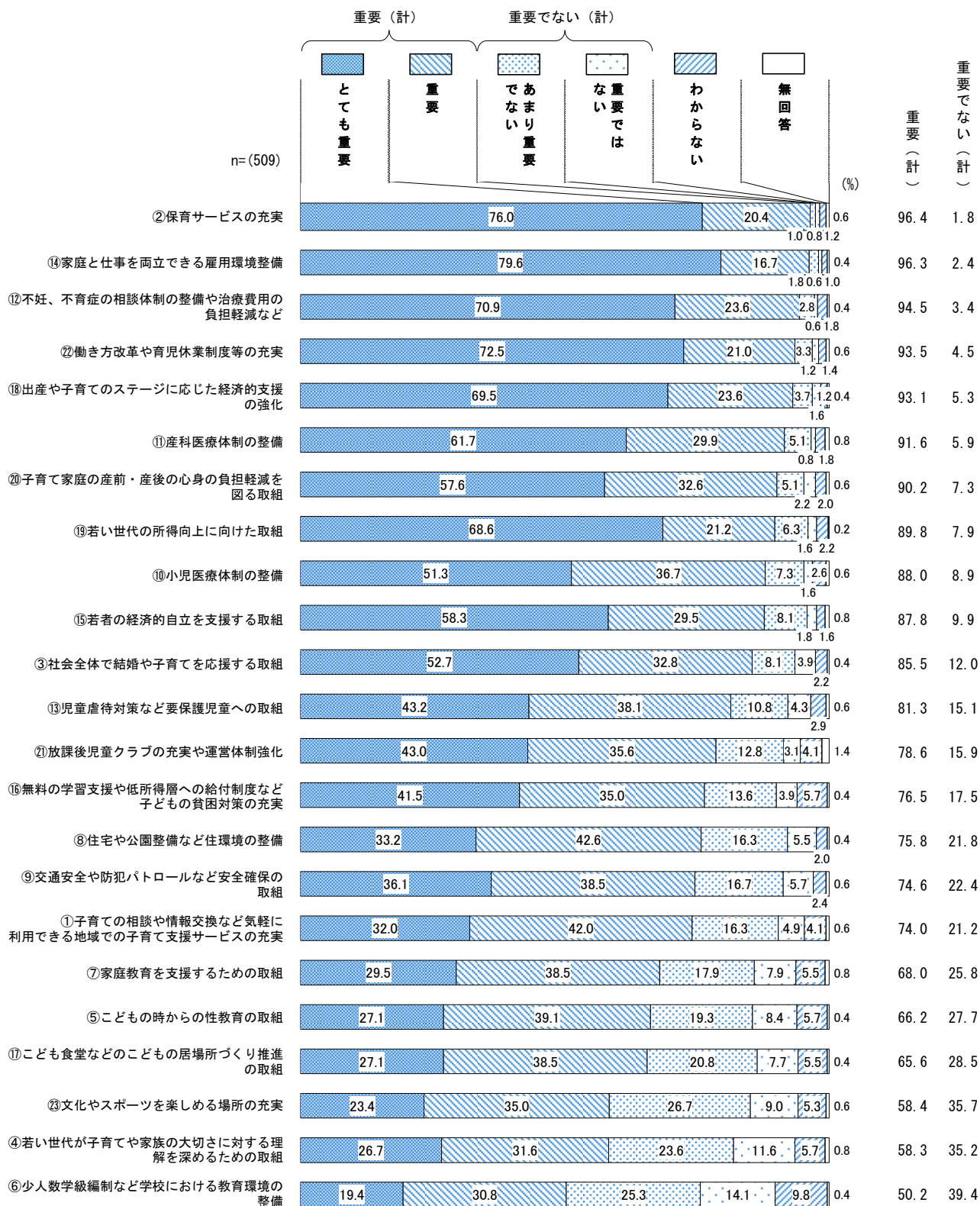
県調査の独身者の結果は、「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」は57.1%となっており、市調査（67.1%）は県調査より10.0ポイント高くなっています。また、「子育てや教育にかかる費用負担の増大」は29.4%となっており、市調査（36.1%）は県調査より6.7ポイント高くなっています。



※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

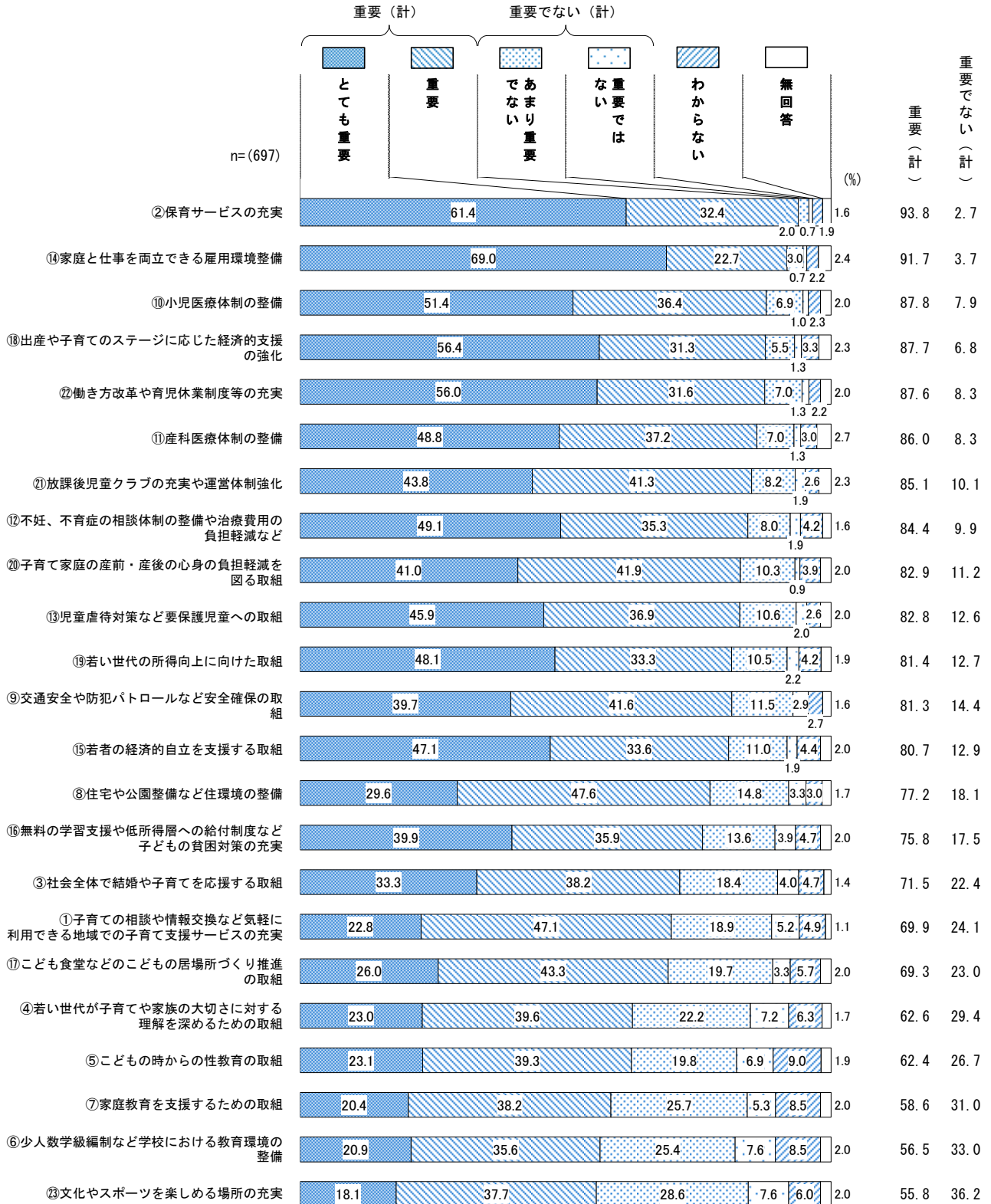
【既婚者調査】

少子化対策の重要度については、既婚者調査では《重要 計》は“②保育サービスの充実”が96.4%、“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が96.3%、“⑫不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など”が94.5%、“⑳働き方改革や育児休業制度等の充実”が93.5%と高くなっています。一方、《重要でない 計》は“⑥少人数学級編制など学校における教育環境の整備”が39.4%、“㉓文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が35.7%、“④若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組”が35.2%と高くなっています。



【子育て中の保護者調査】

少子化対策の重要度については、子育て中の保護者調査では《重要 計》は“②保育サービスの充実”が93.8%、“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が91.7%、“⑩小児医療体制の整備”が87.8%と高くなっています。一方、《重要でない 計》は“②③文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が36.2%、“⑥少人数学級編制など学校における教育環境の整備”が33.0%、“⑦家庭教育を支援するための取組”が31.0%と高くなっています。

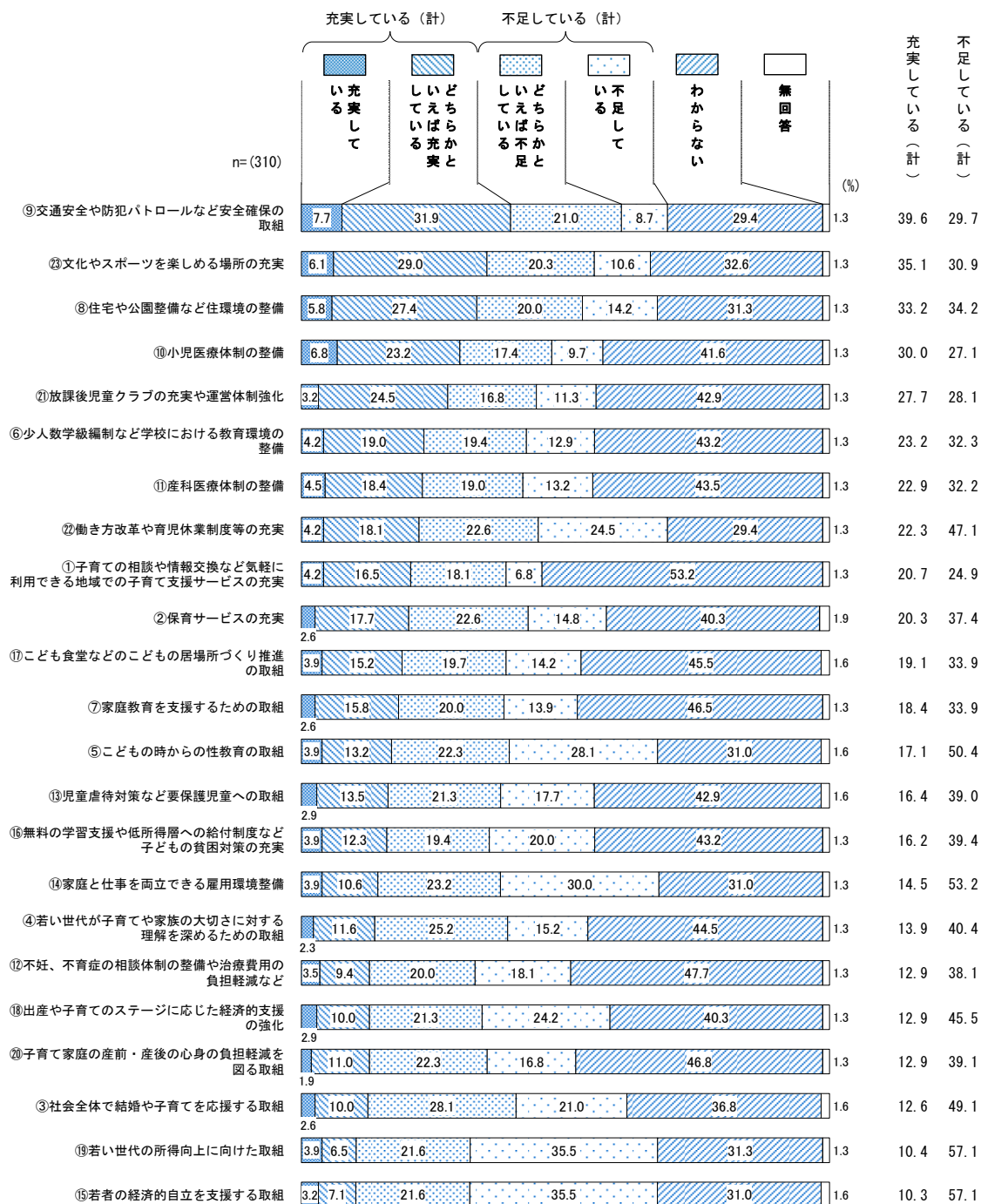


（3）少子化対策の各施策の取組状況

Q：現状の少子化対策の各施策の取り組み状況についてどう思いますか。（○は1つ）

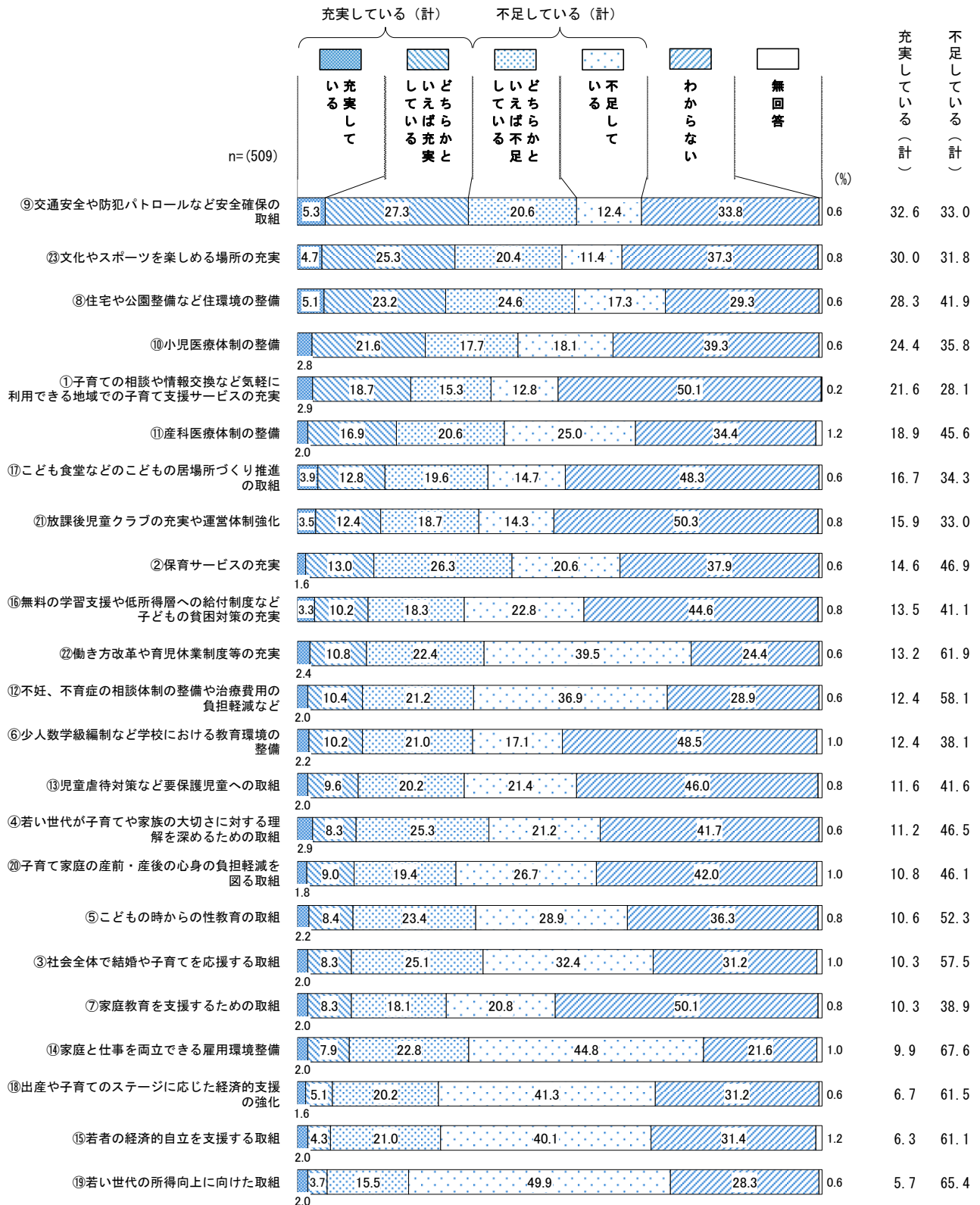
【独身者調査】

少子化対策の取組状況については、独身者調査では《充実している 計》は“⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組”が39.6%、“②③文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が35.1%、“⑧住宅や公園整備など住環境の整備”が33.2%と高くなっています。一方、《不足している 計》は“⑮若者の経済的自立を支援する取組”と“⑰若い世代の所得向上に向けた取組”が57.1%、“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が53.2%、“⑤こどもの時からの性教育の取組”が50.4%と高くなっています。



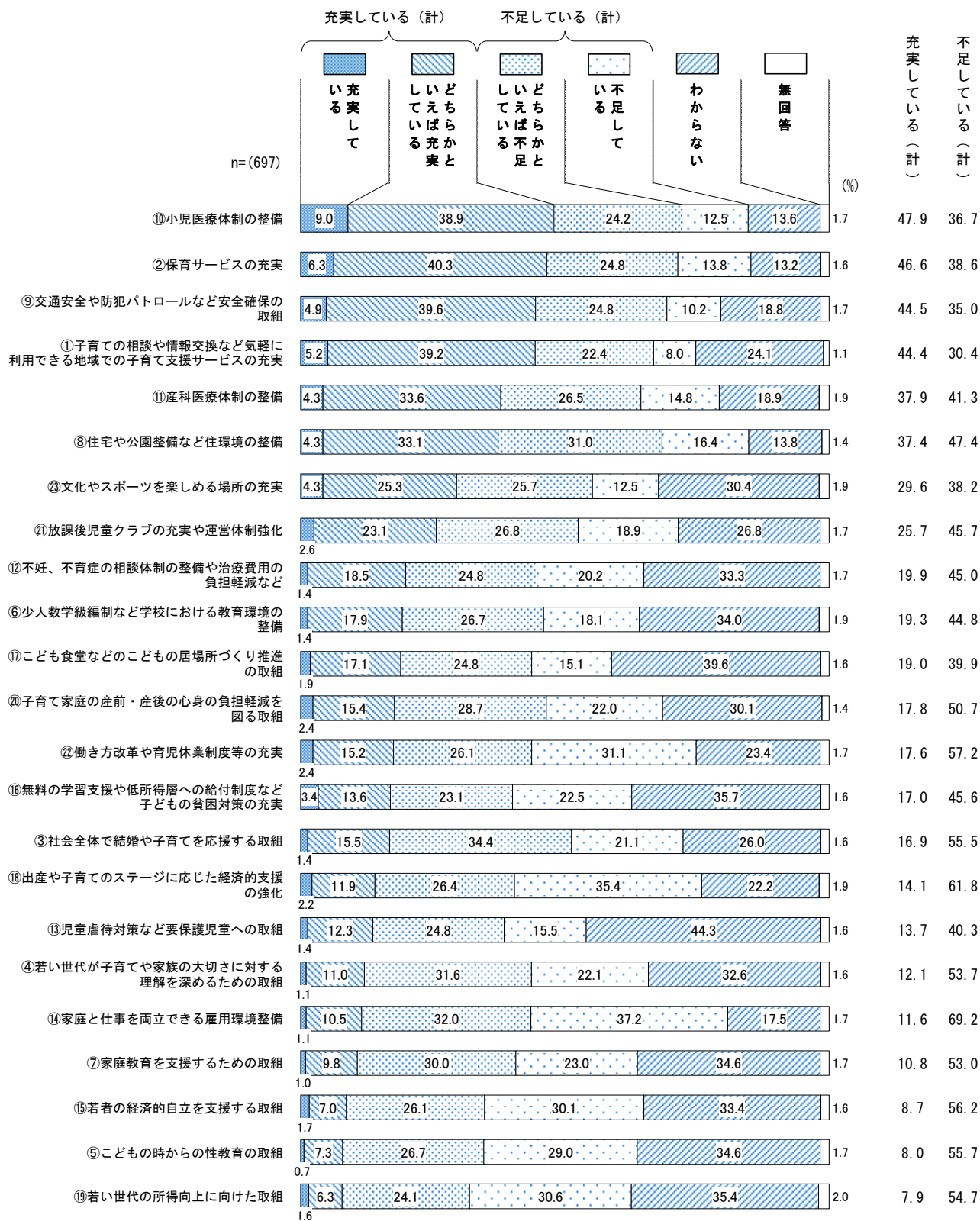
【既婚者調査】

少子化対策の取組状況については、既婚者調査では《充実している 計》は“⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組”が32.6%、“②③文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が30.0%、“⑧住宅や公園整備など住環境の整備”が28.3%と高くなっています。一方、《不足している 計》は“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が67.6%、“⑩若い世代の所得向上に向けた取組”が65.4%、“②②働き方改革や育児休業制度等の充実”が61.9%と高くなっています。



【子育て中の保護者調査】

少子化対策の取組状況については、子育て中の保護者調査では《充実している 計》は“⑩小児医療体制の整備”が47.9%、“②保育サービスの充実”が46.6%、“⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組”が44.5%と高くなっています。一方、《不足している 計》は“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が69.2%、“⑮出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化”が61.8%、“⑫働き方改革や育児休業制度等の充実”が57.2%と高くなっています。



少子化対策の各施策の重要度および取組状況の5段階回答を指標化（※）しました。

※指標化の方法

各項目の回答結果を下表の通りに得点化し、無回答を母数から除き、加重平均により指標化しました。
得点が高いほど、より重要に思っている／充実していることを示しています。

	4点	3点	2点	1点	0点
重要度	とても重要	重要	わからない	あまり重要でない	重要でない
充実度	充実している	どちらかといえば充実している	わからない	どちらかといえば不足している	不足している

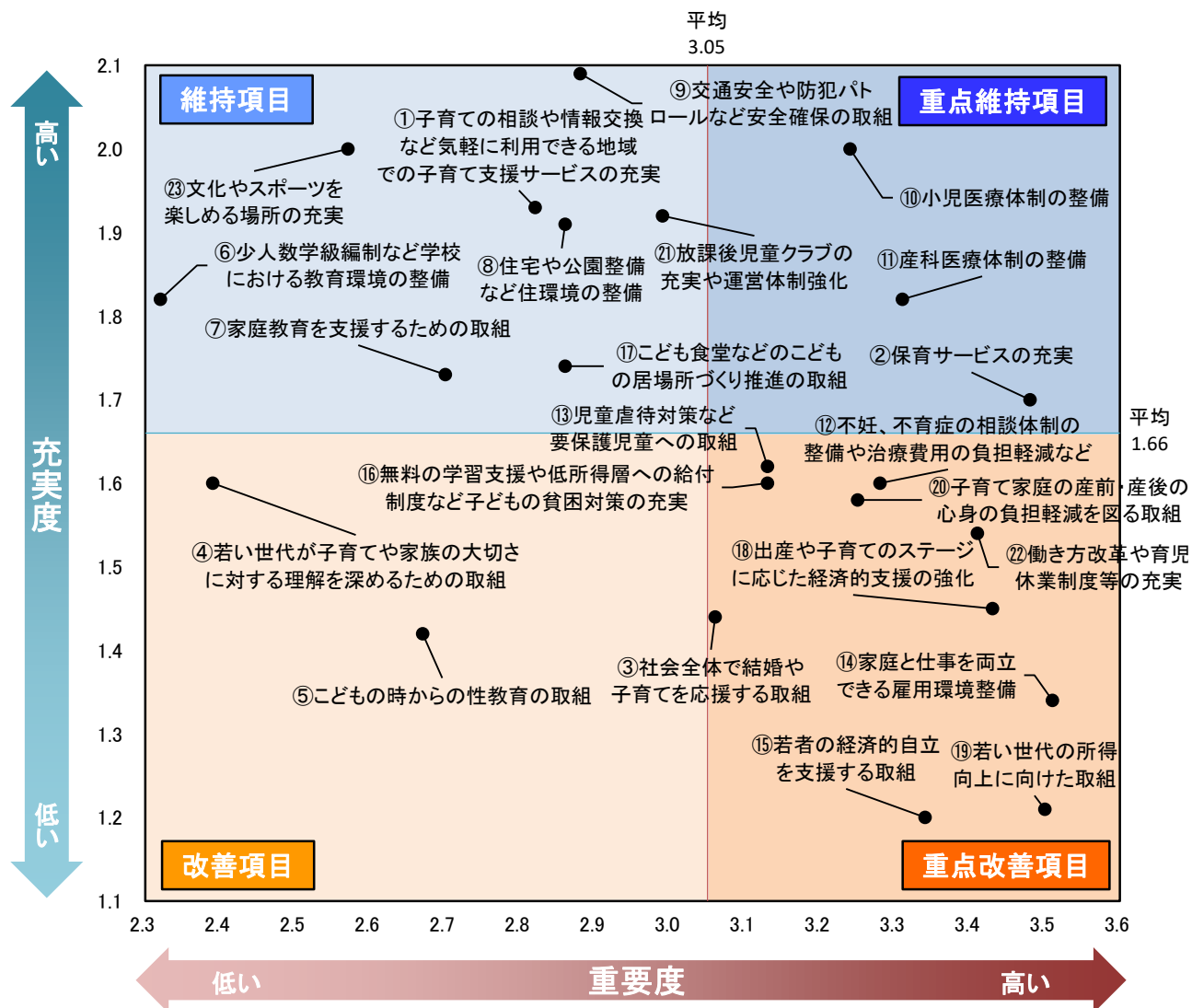
独身者調査では結果、重要度は「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が3.51点で最も高く、次いで「⑲若い世代の所得向上に向けた取組」が3.50点、「②保育サービスの充実」が3.48点となっています。

充実度は「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」が2.09点で最も高く、次いで「⑩小児医療体制の整備」と「②③文化やスポーツを楽しめる場所の充実」が2.00点、「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実」が1.93点となっています。一方、「⑮若者の経済的自立を支援する取組」（1.20点）、「⑲若い世代の所得向上に向けた取組」（1.21点）、「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」（1.34点）は低くなっています。

重要度・充実度の加重平均【独身者調査】

	重要度	充実度
⑭ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.51	1.34
⑲ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.50	1.21
② 保育サービスの充実	3.48	1.70
⑮ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.43	1.45
②② 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.41	1.54
⑮ 若者の経済的自立を支援する取組	3.34	1.20
⑪ 産科医療体制の整備	3.31	1.82
⑫ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.28	1.60
⑳ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.25	1.58
⑩ 小児医療体制の整備	3.24	2.00
⑬ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.13	1.62
⑯ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	3.13	1.60
③ 社会全体で結婚や子育てを応援する取組	3.06	1.44
②① 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	2.99	1.92
⑨ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	2.88	2.09
⑧ 住宅や公園整備など住環境の整備	2.86	1.91
⑰ こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.86	1.74
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実	2.82	1.93
⑦ 家庭教育を支援するための取組	2.70	1.73
⑤ こどもの時からの性教育の取組	2.67	1.42
②③ 文化やスポーツを楽しめる場所の充実	2.57	2.00
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.39	1.60
⑥ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	2.32	1.82

重要度を横軸、充実度を縦軸として設定し、プロットした結果が、下図の通りです。



重点維持項目	重要度が高く、充実度も高いことから、今後もより重点的に維持（充実）すべき項目
維持項目	重要度が低い、充実度が高いことから、現状を維持すべき項目
重点改善項目	重要度が高く、充実度が低いことから、重点的に改善すべき項目
改善項目	重要度が低く、充実度も低いことから、優先度は低い改善すべき項目

重要度及び充実度の平均値で区切った4つのグループに分類すると、重要度、充実度がともに高い“重点維持項目”は、「⑩小児医療体制の整備」、「⑪産科医療体制の整備」、「②保育サービスの充実」の3項目となっています。また、重要度が低い、充実度が高い“維持項目”は、「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」など8項目が該当しています。

一方、重要度が高く、充実度が低い“重点改善項目”は、「⑫働き方改革や育児休業制度等の充実」、「⑮出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」など10項目が該当しています。また、重要度も充実度も低い“改善項目”は、「⑤こどもの時からの性教育の取組」、「④若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組」の2項目となっています。

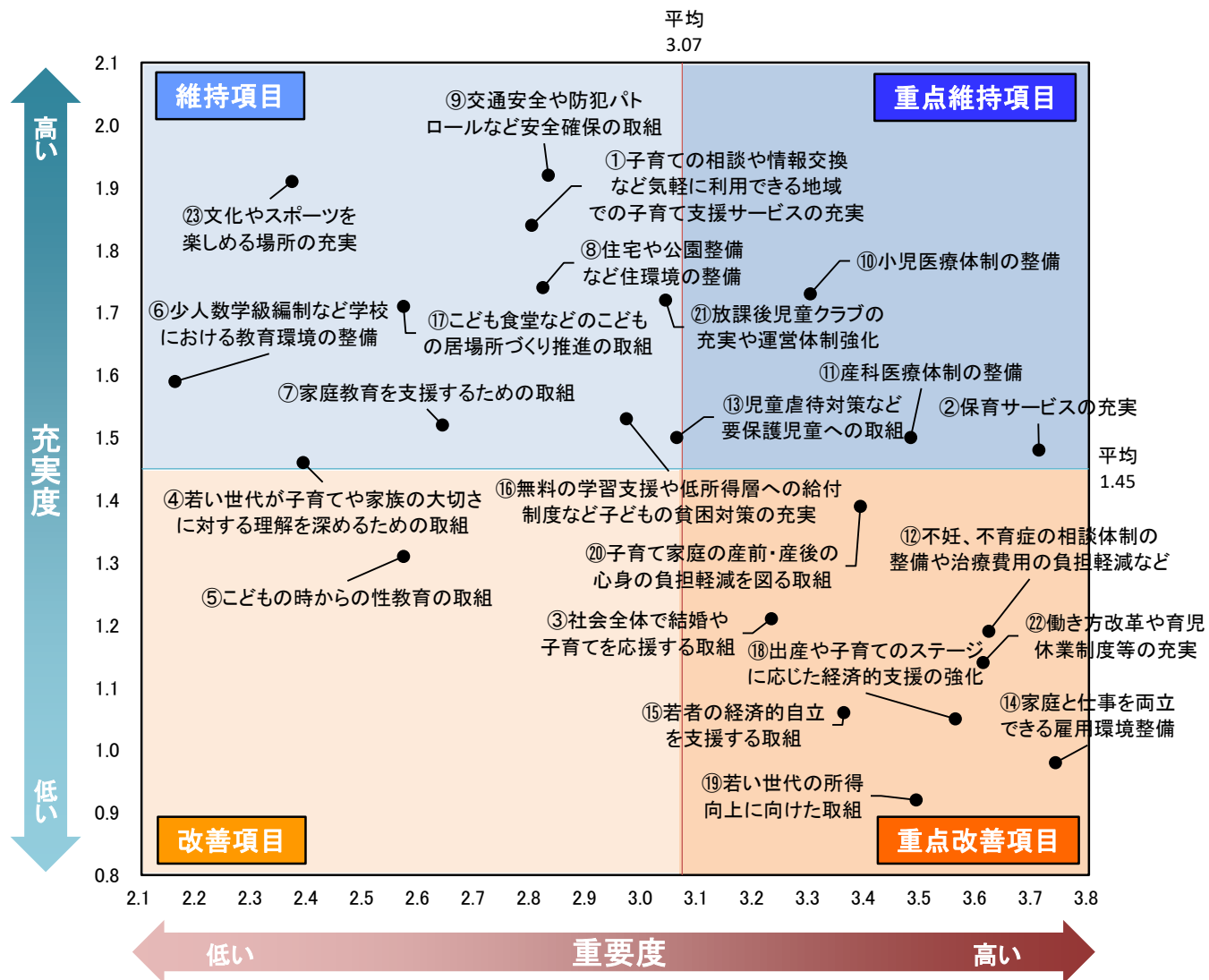
既婚者調査では結果、重要度は「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が3.74点で最も高く、次いで「②保育サービスの充実」が3.71点、「⑫不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など」が3.62点となっています。

充実度は「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」が1.92点で最も高く、次いで「②③文化やスポーツを楽しめる場所の充実」が1.91点、「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実」が1.84点となっています。一方、「⑩若い世代の所得向上に向けた取組」（0.92点）、「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」（0.98点）、「⑮出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」（1.05点）は低くなっています。

重要度・充実度の加重平均【既婚者調査】

	重要度	充実度
⑭ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.74	0.98
② 保育サービスの充実	3.71	1.48
⑫ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.62	1.19
②② 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.61	1.14
⑮ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.56	1.05
⑩ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.49	0.92
⑪ 産科医療体制の整備	3.48	1.50
②⑩ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.39	1.39
⑮ 若者の経済的自立を支援する取組	3.36	1.06
⑩ 小児医療体制の整備	3.30	1.73
③ 社会全体で結婚や子育てを応援する取組	3.23	1.21
⑬ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.06	1.50
②① 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	3.04	1.72
⑮ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	2.97	1.53
⑨ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	2.83	1.92
⑧ 住宅や公園整備など住環境の整備	2.82	1.74
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実	2.80	1.84
⑦ 家庭教育を支援するための取組	2.64	1.52
⑤ こどもの時からの性教育の取組	2.57	1.31
⑮ とも食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.57	1.71
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.39	1.46
②③ 文化やスポーツを楽しめる場所の充実	2.37	1.91
⑥ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	2.16	1.59

重要度を横軸、充実度を縦軸として設定し、プロットした結果が、下図の通りです。



重点維持項目	重要度が高く、充実度も高いことから、今後もより重点的に維持（充実）すべき項目
維持項目	重要度が低い、充実度が高いことから、現状を維持すべき項目
重点改善項目	重要度が高く、充実度が低いことから、重点的に改善すべき項目
改善項目	重要度が低く、充実度も低いことから、優先度は低い改善すべき項目

重要度及び充実度の平均値で区切った4つのグループに分類すると、重要度、充実度がともに高い“重点維持項目”は、「⑩小児医療体制の整備」、「⑪産科医療体制の整備」、「②保育サービスの充実」の3項目となっています。また、重要度が低い、充実度が高い“維持項目”は、「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」など11項目が該当しています。

一方、重要度が高く、充実度が低い“重点改善項目”は、「⑳子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組」、「③社会全体で結婚や子育てを応援する取組」など8項目が該当しています。また、重要度も充実度も低い“改善項目”は、「⑤こどもの時からの性教育の取組」の1項目となっています。

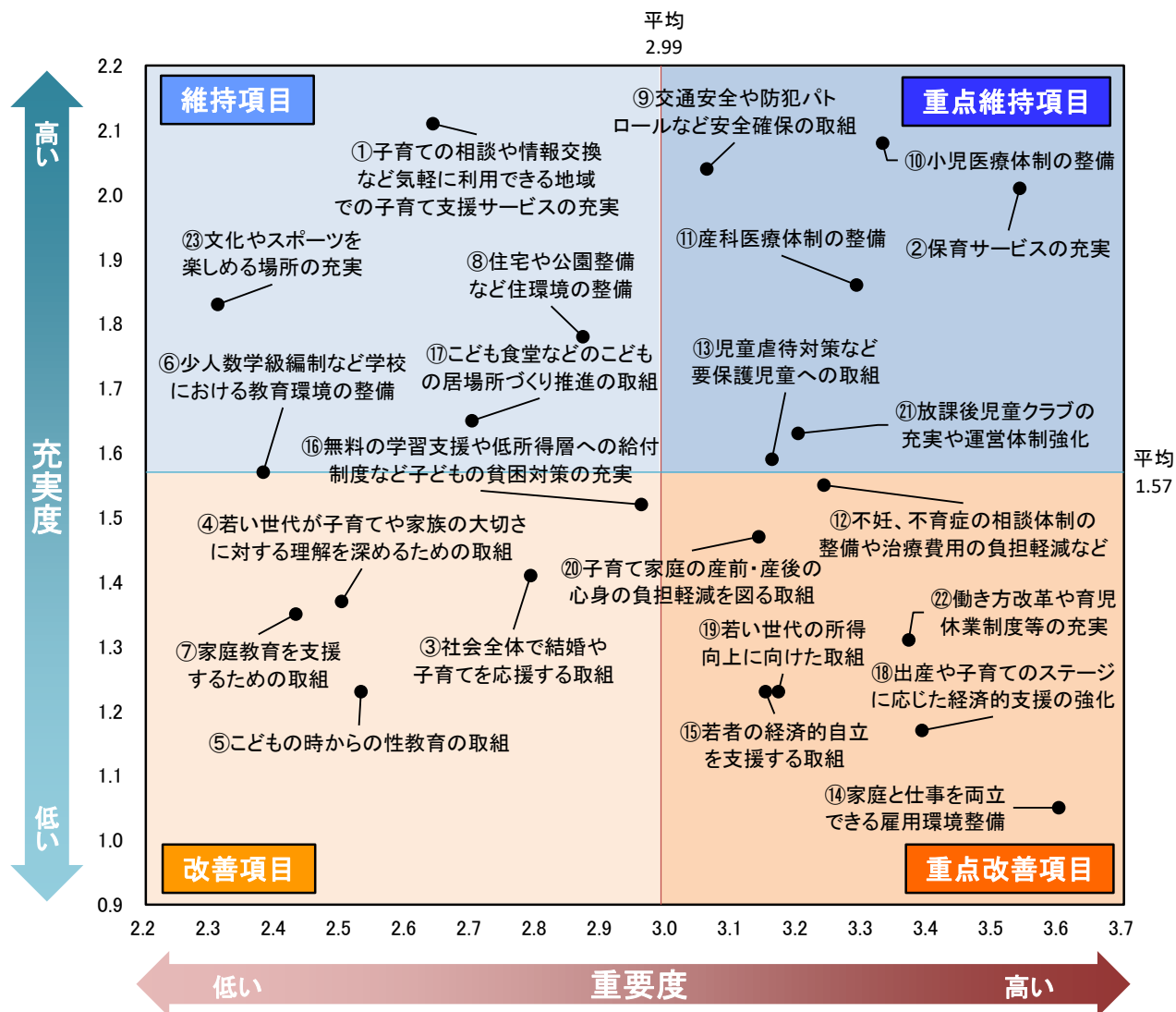
子育て中の保護者調査では結果、重要度は「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が3.60点で最も高く、次いで「②保育サービスの充実」が3.54点、「⑱出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」が3.39点となっています。

充実度は「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実」が2.11点で最も高く、次いで「⑩小児医療体制の整備」が2.08点、「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」が2.04点となっています。一方、「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」（1.05点）、「⑱出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」（1.17点）は低くなっています。

重要度・充実度の加重平均【子育て中の保護者調査】

	重要度	充実度
⑭ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.60	1.05
② 保育サービスの充実	3.54	2.01
⑱ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.39	1.17
②② 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.37	1.31
⑩ 小児医療体制の整備	3.33	2.08
⑪ 産科医療体制の整備	3.29	1.86
⑫ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.24	1.55
②① 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	3.20	1.63
⑲ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.17	1.23
⑬ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.16	1.59
⑮ 若者の経済的自立を支援する取組	3.15	1.23
②⑦ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.14	1.47
⑨ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	3.06	2.04
⑯ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	2.96	1.52
⑧ 住宅や公園整備など住環境の整備	2.87	1.78
③ 社会全体で結婚や子育てを応援する取組	2.79	1.41
⑰ こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.70	1.65
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実	2.64	2.11
⑤ こどもの時からの性教育の取組	2.53	1.23
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.50	1.37
⑦ 家庭教育を支援するための取組	2.43	1.35
⑥ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	2.38	1.57
②③ 文化やスポーツを楽しめる場所の充実	2.31	1.83

重要度を横軸、充実度を縦軸として設定し、プロットした結果が、下図の通りです。



重点維持項目	重要度が高く、充実度も高いことから、今後もより重点的に維持（充実）すべき項目
維持項目	重要度が低い、充実度が高いことから、現状を維持すべき項目
重点改善項目	重要度が高く、充実度が低いことから、重点的に改善すべき項目
改善項目	重要度が低く、充実度も低いことから、優先度は低い改善すべき項目

重要度及び充実度の平均値で区切った4つのグループに分類すると、重要度、充実度がともに高い“重点維持項目”は、「②保育サービスの充実」、「⑩小児医療体制の整備」など6項目となっています。また、重要度が低いが充実度が高い“維持項目”は、「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実」など5項目が該当しています。

一方、重要度が高く充実度が低い“重点改善項目”は、「⑫不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など」、「⑬働き方改革や育児休業制度等の充実」など7項目が該当しています。また、重要度も充実度も低い“改善項目”は、「⑦家庭教育を支援するための取組」など5項目となっています。

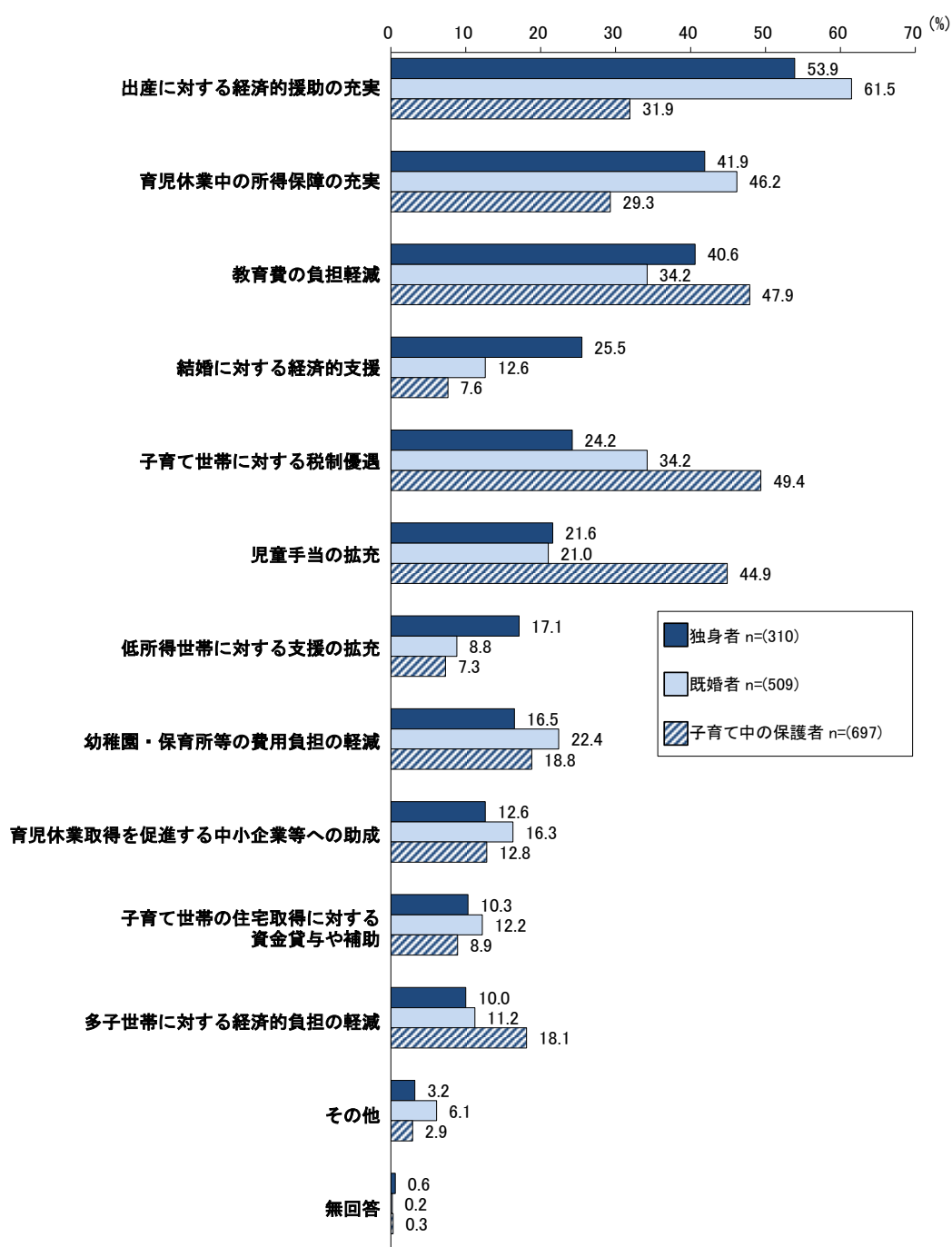
（4）少子化対策として必要な経済的支援

Q：あなたは少子化対策としてどのような経済的支援が必要だと思いますか。（〇は3つ）

少子化対策として必要な経済的支援は、独身者調査では「出産に対する経済的援助の充実」が53.9%で最も高く、次いで「育児休業中の所得保障の充実」が41.9%、「教育費の負担軽減」が40.6%となっています。

既婚者調査では「出産に対する経済的援助の充実」が61.5%で最も高く、次いで「育児休業中の所得保障の充実」が46.2%、「教育費の負担軽減」と「子育て世帯に対する税制優遇」が34.2%となっています。

子育て中の保護者調査では「子育て世帯に対する税制優遇」が49.4%で最も高く、次いで「教育費の負担軽減」が47.9%、「児童手当の拡充」が44.9%となっています。



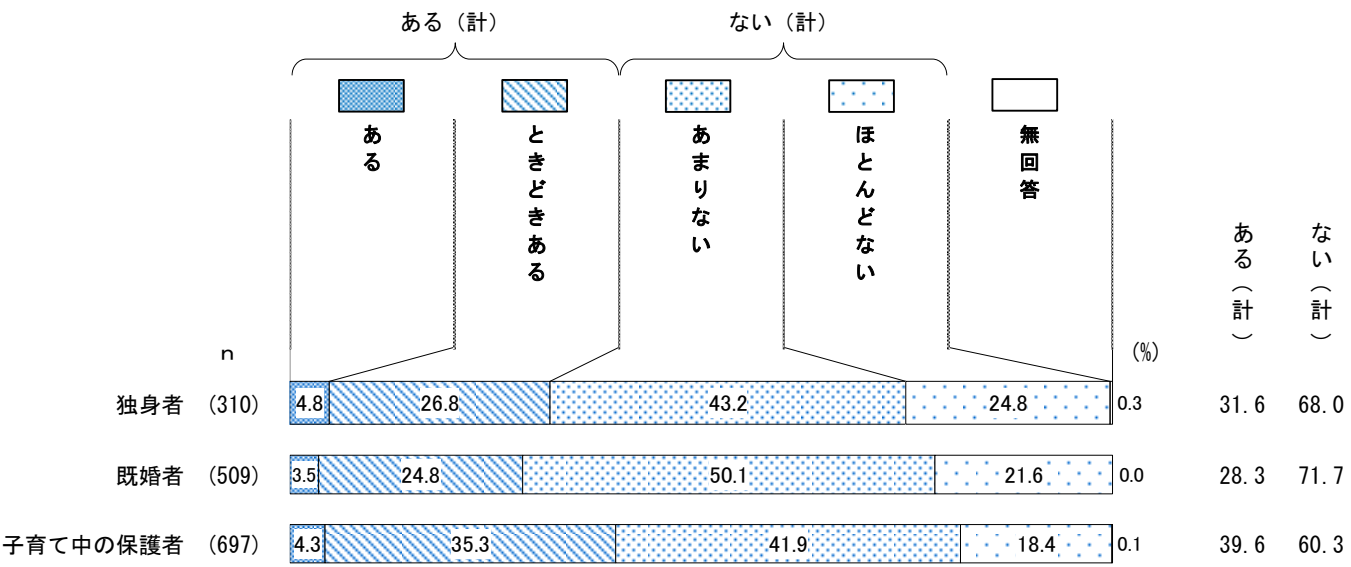
（5）行政施策に意見が反映されている実感

Q：結婚、妊娠・出産、子育てや少子化対策について、自身が考える対策や施策を、行政が取り組んでいる実感はありますか。（○は1つ）

行政の施策に対して自身の意見が反映されている実感は、独身者調査では「ある」と「ときどきある」を合わせた《ある 計》は31.6%、「あまりない」と「ほとんどない」を合わせた《ない 計》は68.0%となっています。

既婚者調査では、《ある 計》は28.3%、《ない 計》は71.7%となっています。

子育て中の保護者調査では、《ある 計》は39.6%、《ない 計》は60.3%となっています。



（6）日頃の考えや行政に対する要望等

Q：子育て支援や少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたらご自由にお書きください。（自由記載）（結婚支援、妊娠・出産支援、子育てに係る精神的支援、経済的支援以外の取組等）

市への意見・要望等を自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

▼労働環境・就業支援について

独身者
・個人事業主にも目を向けた対策をしてほしい。独立開業したいけどそれをした後の出産は不安しかない。結婚してたととしても相手の収入が安定しているとも限らない。男性は出産にあたり働けない期間は無いが、女性は働けない期間が必ずできてしまう。その部分の補償があると前向きに考えられると思う。
既婚者
・企業側も結婚や出産が想定される若い女性を雇用することが負担にならない仕組みがあると望ましいと思う。特に中小企業では産休、育休に伴い不足した人材の確保なども簡単ではないはず。その不安が取り除ければ若い女性を積極的に雇用する企業も増えるのではないかと。女性の正規雇用が増えることが少子化対策にもつながると思う。 ・ここ数年で育児休暇を取得する男性が増えてきた印象がある一方で、その中でも1年以上の育児休暇を取得する方、復職時に時短勤務を選択する方は非常に少なく感じる。それぞれの家庭で考え方や選択が異なることはあると思うが、産休・育休を取得することに伴う収入減の不安やキャリアの選択肢が狭まる懸念がその選択を妨げることがないように、制度の充実を望む。また、同僚の様子などを見ていると、休暇に入ることによる周囲への負担を心配して休暇の取得を躊躇される方も多く感じている。また、残念ながら実際に他の従業員に多くの負担がかかるのも現実にある。仕事のカバーをする側のモチベーションにつながり、お休みされる方の心理的負担も軽減するように、産休・育休に入る方の仕事のカバーをする従業員へのインセンティブが充実するような制度、またはそれを助成するような制度があるとうれしく思う。 ・群馬県の中小企業において、事務職女性の仕事の賃金が低いと思う。それに見合った仕事の質をみての金額もあるが、この金額では、子育てを諦める方やお子さん1人で精一杯のご家庭も増えてくるのではないかと考える。現在の私も今後授かる前からその不安がある。物価上昇や税金が高くなる中で、それぞれの企業の中での賃金の話はあるが、群馬県や市からの要請の一声が必要だと感じた。 ・時短勤務について、同僚への負担が増えるので、躊躇してしまう。時短勤務について、補助人員を増やす補助等あれば、職場の負担が減ると思う。
子育て中の保護者
・仕事復帰後、子供が病気になった時に仕事が休みづらい。夫の育休はもらえないから、子供が病気の時に夫が会社を休む選択肢もあるということがもっと一般的になって欲しい。 ・私の場合、群馬で仕事をしつつ実家が会社経営をしていて役員として在籍しているので金銭面は困っていないが、所謂一般的な家庭の場合は子供に関わる一切の費用を公費で負担しないとやっていけないだろうと思う。1年前に雇用先で育休を取得したが、会社規定で1週間と言われたが自分で調べて1年は取れると説明して、ようやく取得できた。人手不足のため仕方ないと思うが、悪意のある会社には率先して罰すべきと思う。

▼労働環境・就業支援について（続き）

子育て中の保護者
・30代半ばで初めての出産となると、順調だった仕事が今までと同じようにはできないことをとても強く実感する。仕事が好きな人は、キャリアと出産を天秤にかけキャリアをとる人も多いと思うし、2人目を考える人は少ないように思う。個人事業主は育休などの補助がないため、産後できるだけ早く仕事復帰しないと収入ゼロなので生活していけない。仕事復帰しやすい環境や、育休など補助がない個人事業主も不安を拭えるような給付や手当があれば、気持ちに余裕もうまれて子供を産んでも大丈夫だと思える環境になれば少子化も少しはマシになるのではないだろうか。 ・出産して、女性が元のキャリアに戻るのは現実的に厳しい。保育園や幼稚園も待機児童がいらないと言いながら、入れていない人が現実で周りにいる。そうすると仕事復帰もしたくてもできない。出産一時金の料金をあげたりそういうことで少子化対策にはなっていない。もちろんその一時金は助かっているが、その後もお金がたくさんかかるし女性に負担が大きいから子供を持たなくていいと言う人が増えている。

▼男女平等意識について

独身者
・小さい頃からの性教育や男女の公平さについて教育するなどが重要だと思う。 ・あらゆる面で、女性の権利がないがしろにされていると感じる。
既婚者
・漠然と子どもを積極的に産みたいと思える世の中ではない気がする。金銭的な不安もあるが、女性の社会進出の割にはまだまだ男女で子育ての負担の差がある様に思う。しかし、女性が働かずにゆとりを持って暮らせる世帯がどれくらいあるのか。世の中の世帯年収と子育てにかかる費用を平均値や中央値でなく見直して欲しい。その上で計画を立てて欲しい。 ・現在の物価高の日本では男女共に正社員で働かないと生活が成り立たないが、女性は長くても子供が小学1年生になるとときには時短勤務から正社員に戻らなくてはならず仕事との両立が厳しい。結果的に経済的な問題につながる。（職場でお子さんがいる社員は実際残業が多く保育園にお迎えに行けない場面などを多く見る）周囲を見ても女性の仕事と育児の両立の課題、経済的な問題が1番影響していると思う。 ・働いていると男女平等は難しいと思う。出産すれば女性への負担は仕方ないこと。それでも、現状女性も働かなければ金銭的に厳しい世の中だと思う。
子育て中の保護者
・女性側に負担が大きいのが少子化を進めている。多くの女性が共働きをしているのに、家事育児はかなりの割合を女性が担っている。男性が育休をとっても、家事スキルが無かったり、そもそもやる気が無かったり、何の助けにもならないどころか逆に家にいる事で女性の負担が増える事もあるので、男性の学校時代からの（家事育児は男女でという）意識付けやスキルを身に付けさせる事も必要だと思う。 ・家族の1人が働いてみんなが満足して暮らせるように、賃金をもらえればいいと思う。働くのは男性でも女性でもよくて、パパが家で子育てしても女性がしてもよいと思う。2人とも働きながら中途半端にお休みをとろうとするからやり辛いのだと思う。それも男女平等なのではないかと思う。労働力が足りないともいいますが、例えば家庭に親が1人いれば、こども園や学童はそれほど必要ないですし、学校にも色々協力できて、子どもも安心すると思う。

▼ワーク・ライフ・バランスについて

独身者
・仕事と育児の両立が難しく、女性はどうしても出産することで社会的立場を失い、家庭内所得も減ってしまうことで育児をしにくい環境に感じる。低所得者やシングルマザーは優遇措置を取られるが、税金をしっかりと払って所得も並々の中間層、かつ子育てをしている世帯は生活をしているのが厳しいと感じている。若者の間で子供をもつ＝高所得の方程式が成り立っているのも、子育て世帯は税金を多少なりとも免除するなど、対策をしないと今後も少子化は進む一方だと思う。 ・認可保育園に入れたくても仕事していないとなかなか入れない。仕事したくても保育園が決まらなないと仕事を探せない。企業保育があるところは極わずか。まだまだ残業ありきの職場で正規雇用だと定時あがりができない、保育園は早く終わってまじう。自分がリフレッシュしたくても保育園は仕事が休みだと見てくれない、新たにお金を払ってまで預けてるほど金銭的な余裕があるわけではない。ママ同士で気分転換にご飯に行きたくても静かにできない遊び盛りの子どもを歓迎してくれる飲食店はない。
既婚者
・子育て支援と少子化対策とは、異なる項目になると思うが、子育て支援においては就学前の保護者の仕事との両立が大切であると考えている。つまりは、社会的に子育てに対する認識と、制度によって子供を育てることに対しての、安心を得られる施策が必要。また、それらが実際の保護者や、子どもに関わる仕事の現場に生きてくるものにして欲しい。数字上での達成度ももちろん必要であるが、保護者と働く人たちの満足度をあげていくためのサイクルをしていくと、より子育てに対して積極的に関わっていけるのではないかなと思う。
子育て中の保護者
・子育てと仕事を両立したいと思っても子どもの体調不良でままたず、仕事に専念できない現実がある。出産前のようにやりがいを持って仕事に取り組みたいのに歯がゆい。さらに保育料も高額で、しかも現状の制度では(働けば働くほど年収が増えれば)負担が増え、身も心もすり減らして働くことに疑問を感じてしまう。とは言え子育てにお金はかかるので仕事を諦めることもできない。保育園はととてもありがたいと思うが、病気時に利用できるサービスがないとやっぱり厳しいと感じる。祖父母に頼れる人ばかりではない。 ・仕事と育児、家事を両立しなくちゃいけないのに結婚すると保護者会や育成会、地域の活動など一気に負担が増す。地域で子どもをサポートしていこうというがそれを負担するのはその保護者。長時間拘束されるくらいなら、お金を払ってでも業者を雇ってほしいと思う。 ・片親での仕事しながらの育児が難しい。実質ひとりでは家事育児しながら十分な給料を受け取ることが出来るだけの仕事をこなす事は無理だと思う。

▼社会制度について

独身者
・現状どのような支援が受けられるかわからないので、チラシや Web で分かりやすく伝えて欲しい。 ・非課税世帯などの限定的な改革ではなく世帯同一の改革、兵庫県明石市モデルのような取り組みで前橋市がより魅力的で住みやすい街になることを望んでいる。 ・少子化対策として、今の世代に子を産ませることを促すのではなく、今現在いる子ども達を守らなければならないと思う。日本は若年層の自殺率が圧倒的に高い。また、虐待に対する取り組みなども不足していると考えられるため、踏み込んだ介入が必要だと感じる。子ども及びその家族を守るには、社会全体の理解と協力が必要であるため、1人1人の意識改革的なことも大事だと思う。経済的に支えることも重要だが、安心して妊娠・出産・子育てするには、社会全体の基盤づくりが必要だと思う。

▼社会制度について（続き）

既婚者
・ホームページなどには調べたら支援のことは載っているのかもしれませんが、そもそも知らないと調べるに至らない気がする。なので、広報やラジオ、テレビなどで、こんな取り組みをしています、という情報を流していただけるといざという時に情報が得やすいのかと思う。もうやっていることかと思うが、目にする機会を増やしていただくと違うのかなと思う。
子育て中の保護者
・例えば高学歴な人、所得がある人などの様に少し余裕がある人ほど結婚、出産等をリスクと捉えているように感じる。低所得の人が結婚、出産、子育てをする時にベーシックインカムのような制度があると低所得だからこそ勢いでいけるのではないか？多様化が進む現代においては人々の普通や当たり前は通用することはないと思う。 ・行政は本当に少子化を改善しようとしているのかわからない。国も地方自治体も真剣に解決しようとするような制度や施策を打ち出していないように感じる。 ・非課税世帯への金銭のばら撒きなど、一定の人しか恩恵が得られないような制度ではなく、子育て中の全世帯が安心して育児ができるような制度と環境整備を進めてほしい。前橋市も明石市や流山市のような子育て支援制度を拡充させてほしい。

▼地域力・治安について

既婚者
・地域力がないと感じる。地域の人さえも不審者扱いされるので、地域で子育てができる昔のような環境に憧れる。 ・もし子供を授かったら、将来的にベビーカー移動や子供と手を繋いで歩くことが容易な、歩行者に優しい街になれば良いと考えている。中高生の自転車事故率が高いことについても、不安がある。 ・キャッチボールすらできない公園が増えていることに疑問を感じる。教育現場における子どもへの指導も、学校の価値観によって外国人の文化さえも統制されてしまうこともある（ピアスなど）。髪型や制服、靴などのつまらない校則も教育委員会全体で見直しを図って欲しい。 ・高崎市との比較になってしまうが、育児環境としては魅力が少ないと思う。
子育て中の保護者
・前橋市に住んで思うのは、公園をもう少し増やして欲しいと思う。あとは、公園ではなく子供を連れて行けるショッピングセンターや無料で遊べる室内遊び場を増やして頂きたい。 ・地域の貧困家庭、格差への取り組み、公立の学校教員に対する教育、知識、理解の必要性。貧困家庭と、ハイレベルな教育を競う風潮への負担。転勤族が増え、親族、背景の見えないその場しのぎの付き合いの中、スマホの利用などもあり、コミュニケーションに苦心するうえ、学校役員や、行事参加がハイレベル化されて、家庭生活における、ゆとりが無く感じる。基本的な道徳観念、当たりの食生活や、生活態度や、礼儀、安心して休める休日を設ける事への取り組みなどの、重要性を痛感する。地域活動(高齢化による、老人会からの、育成会や、子育て世代の親子に対する、週末のお祭り、敬老の日、市民運動会などへの活動量の労働による負担)。少子高齢化による、介護問題、40代の負担軽減に対する対策(環境全般への取り組み)を願う。自然環境が少ないため、前橋の環境保全も重要だと感じる。

▼その他

独身者

- ・SNS やメディアで、結婚や妊娠・出産、子育て等に対するネガティブで、男女間で分断を煽るような話題を多く目にする事が増えた気がする。結婚、少子化対策等にポジティブな話題を浸透して欲しい。
- ・若い方が妊娠しやすいので、高校生や大学生など、学生の内に子供を産んだ人も退学などにならないようにサポートされるようになってほしい。でも性について無知だったために産むのもよくない。小学生からある程度性教育（プライベートゾーンについてや相手を思いやることなどから）を学校で受けられるよう、環境を整えられたらいいと思う。
- ・自分の産む子供が何らかの障害を持っている可能性を考えると、その子の人生に責任を負うことが出来ない。現代日本社会では、障害者は健常者より何倍も苦勞するから、場合によっては生まれてこない方が幸せなのではないかと感じてしまうだろうと思う。だから産む気にはなれない。
- ・個人的に、学生時代にはテストで良い点数を取ることが求められるのに、社会人になった途端全く別基軸の能力が求められ、違う価値基準にさらされることに社会の矛盾、社会との隔絶感を感じた。これには学生時代に社会の仕組みを知る機会が得られなかったことが要因であると考えますが、今の若者はこの社会への無知ゆえに、自己実現の達成ができず、他人に関心を向ける余裕を失くし、結婚のビジョンが持てないのではないかと思う。そのため、今の学生には、もっと政治、経済、仕事、地域への理解を深める機会を与え、学生のうちから社会との隔絶感を減らすようにして欲しいと思う。

既婚者

- ・問いに対しての視点がずれているかもしれませんが…子どもが居て、こども園や保育園等に預ける側への支援等様々な対策が増えてきて、助かっている家庭も多くあるかと思うが、子どもを受け入れる側（こども園や保育園等）の保育士や保育教諭への支援も充実させて欲しいと感じる。その面での支援もないと、現場は必要最低限の人数での運営で心身共に疲弊し、潜在保育士も増えて、もし少子化が改善されてきたとしても受け入れる側が人手不足とキャパシティオーバーで受け入れたいのに受け入れられない、保護者側は預けたいのに預けられない等お互いに困るかと思う。
- ・そもそも物価高なのに対し、あまりにも税金に取られすぎて、夫婦2人で生活するので精一杯なのが少子化の原因。子どもをもつことのメリットがあまりにもなさすぎる。出産するのでさえ補助金で賄えない場所が多いのに、子どもが生まれてからもさらにお金がかかる。もはや妊娠、出産、子どもに関するもの全てをタダ、もしくはお祝い金をたくさん出すくらいの勢いでいかないと少子化はとめられない。また、子どもに関わるもの、オムツ代、ミルク代などの負担も大きいので、それらの補助金などは出すべき。何度も言うが、今の状態では到底子どもを産みたいと思えないし、産みたくても産めない。
- ・2024年は出生数が70万人を下回る予測がされており、現状、少子化には歯止めがかかっていない。その原因として、子育ての前段階である結婚すらできない経済状況に置かれている若者が多数存在することが挙げられる。彼ら若者世帯への手取りを増やすような、経済支援施策（主に減税）が必要であり、そのような施策が少子化の改善になる。
- ・経済的、状況的に子供を持つことが可能なのに子供を持たない選択をしている世帯への対策が必要ではないか。この世帯が子供を持たない要因はお金の問題だけではなく、子育てにより自分の時間が減ってしまうと考えるため。対策として、子供と一緒に遊べる施設の充実や優遇、子供を一時的に預けることの出来る施設を充実させることが有効ではないか。また、若者を中心に老後に大金が必要になるという不安感があり、今の生活レベルを落としてまで子供を授かりたくないと思っている夫婦が多いはず。子供を育てることにより今の生活レベルが落ちる以上のメリットが感じられないと、子供を持ちたいとは思わない。中には子供は欲しいが相手がおらず結婚出来ないという人もいる。出会いの機会を与えるため公のマッチングアプリがあっても良いのではないか。民間のマッチングアプリもあるが、詐欺が横行していたり、利用料金も高いため、使用するのに抵抗がある。

▼その他（続き）

子育て中の保護者

- ・少子化が国力の衰退につながるということが自分事として捉えられていない。教育の責任かもしれない。合計特殊出生率2.08は維持しないとどうなるか。移民政策？どうなるかのシミュレーション結果もどんどん行政や教育から発信していくことが、今以上に必要と感じる。
- ・子どもが欲しくないとか結婚したくないという考えの人が一定数いる現状を変える必要があり、そういった人の意識を180° 変える施策が必要と考える。いっそのこと婚姻制度から見直し、結婚に囚われない子育て(多妻・多夫制度)も検討していった方が子どもの数は増えていくのではないかな。
- ・教育を充実させる。東京に出ていく人ばかりにしない。地域の経済を底上げする。結婚したいと思える人を増やす。地縁血縁だけで、子育て支援を完結させないなど。
- ・子育てを孤立した状態で行ってしまうと、虐待・ネグレクトをうむ要因になると感じる。子どもに対する支援はもちろんですが、それ以上に保護者に対する支援を充実させ、繋がりを持ちながら子育てをし、心に余裕を持ちながら育てられれば、2人目、3人目と考えられると思う。孤育てから、子育てへ、そして地域で育てる共育てにする必要があるのではないかな？

9 こどもの未来について

（1）子どもたちの10年後、20年後の未来

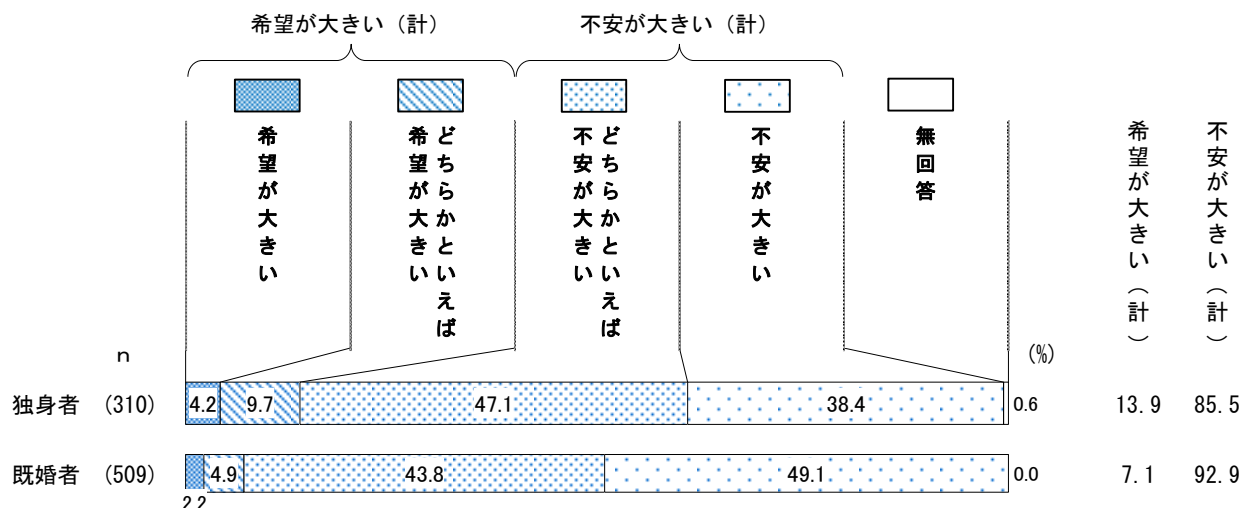
【独身者、既婚者】Q：将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後の未来について、どのように思いますか。（○は1つ）

【保護者】Q：10年後、20年後のあなたのお子さん達の住む未来に希望があると思いますか。（○は1つ）

【独身者、既婚者調査】

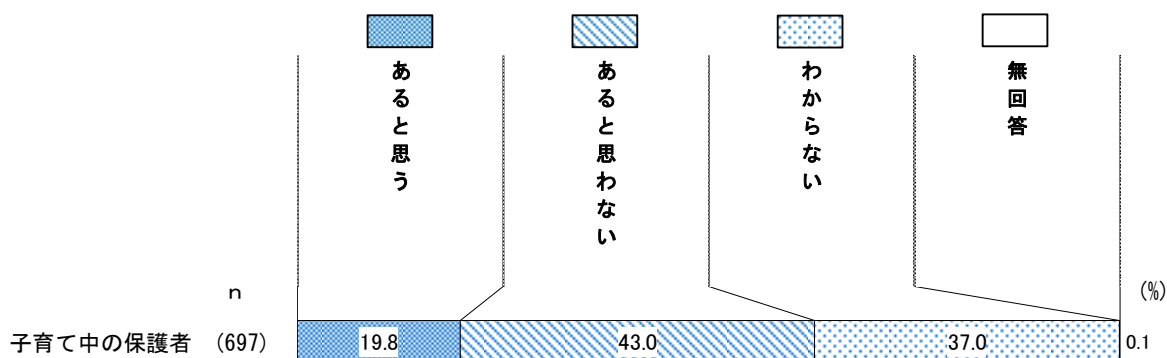
将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後の未来については、独身者調査では、「希望が大きい」と「どちらかといえば希望が大きい」を合わせた《希望が大きい 計》は13.9%、「どちらかといえば不安が大きい」と「不安が大きい」を合わせた《不安が大きい 計》は85.5%となっています。

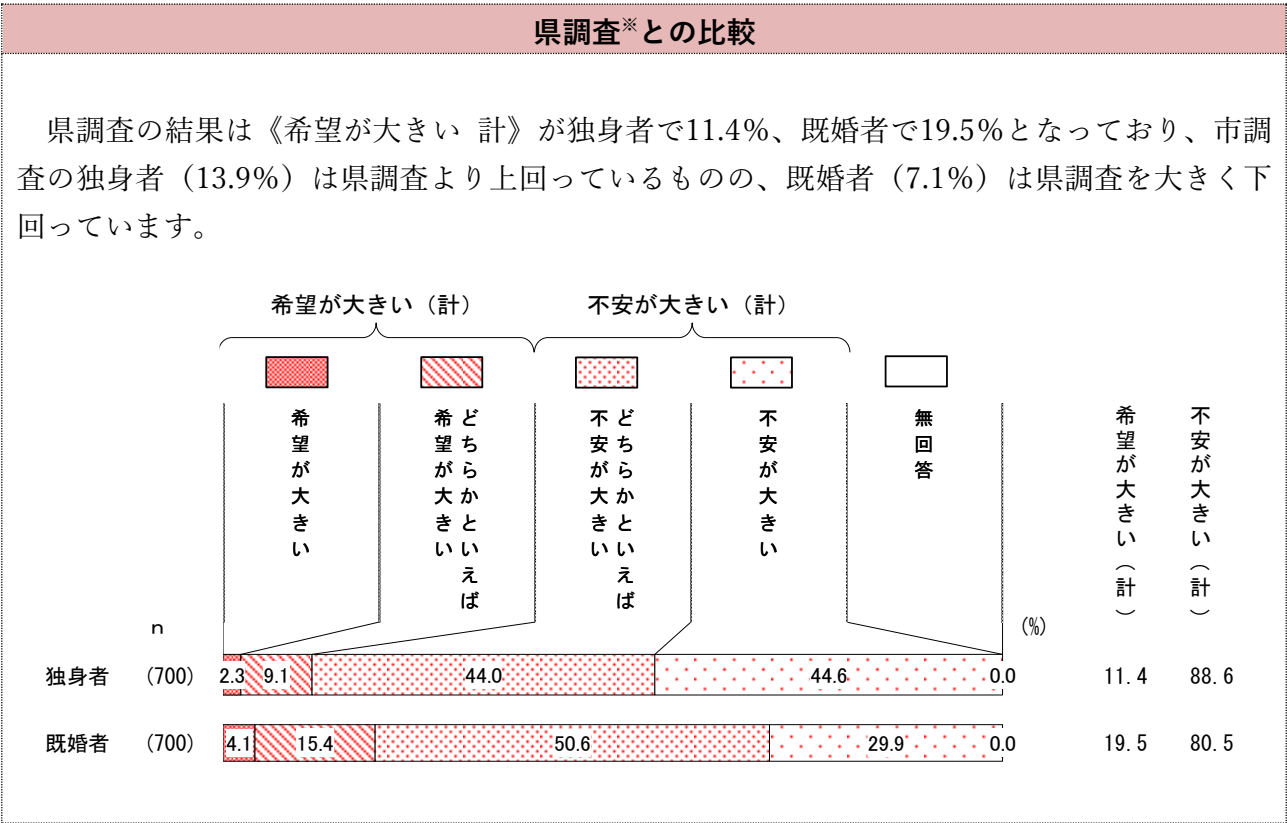
既婚者調査では、《希望が大きい 計》は7.1%、《不安が大きい 計》は92.9%となっています。



【子育て中の保護者調査】

子育て中の保護者調査では「あると思わない」が43.0%で最も高く、次いで「わからない」が37.0%、「あると思う」が19.8%となっています。





※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）
夫婦全般に関する調査（既婚者調査）

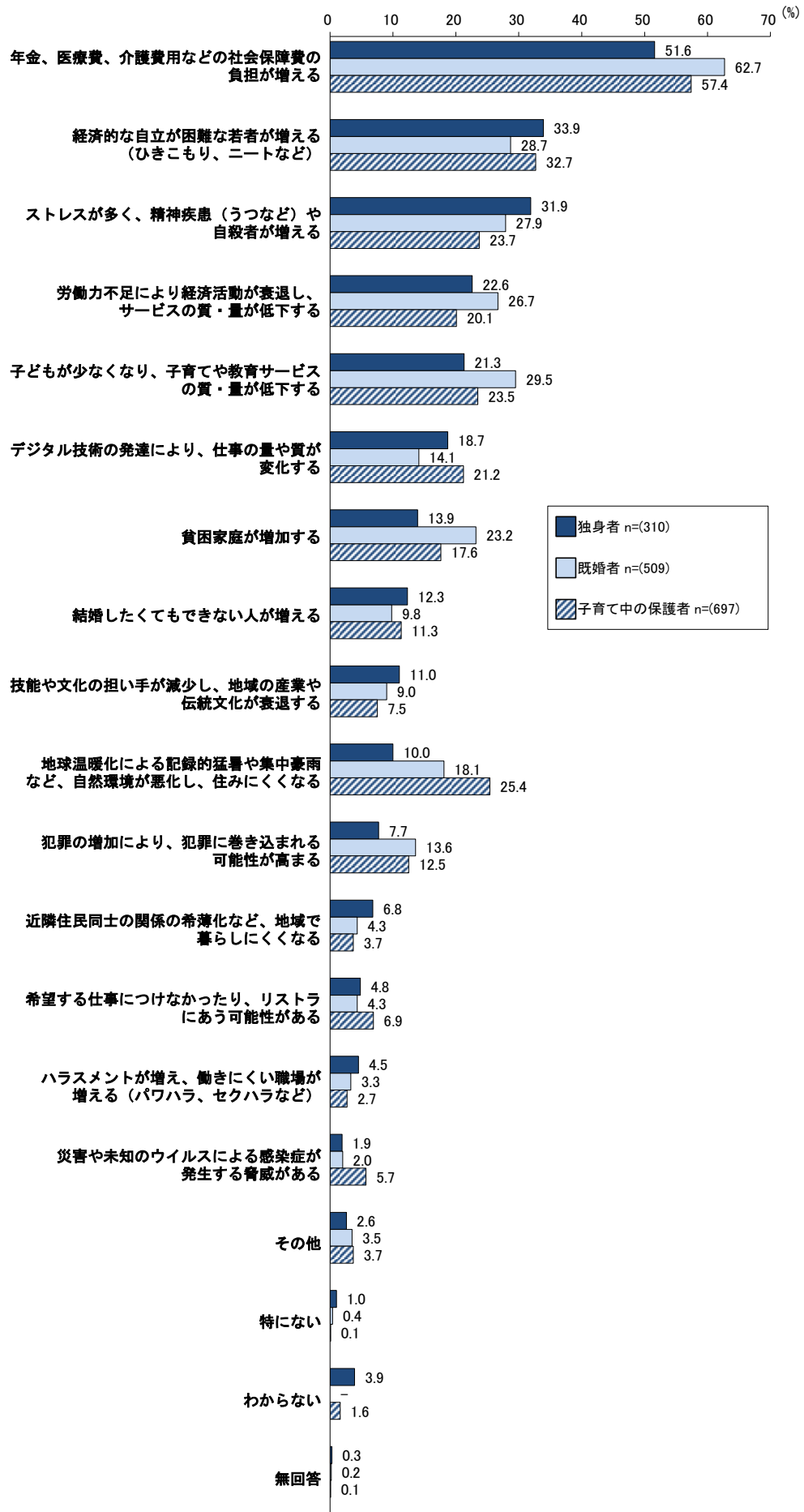
（２）子どもたちの１０年後、２０年後の不安

Ｑ：将来の社会を支える子ども達の１０年後、２０年後に不安があるとすれば、どんなことだと思いますか。（○は３つ）

将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後に対する不安は、独身者調査では「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が51.6%で最も高く、次いで「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」が33.9%、「ストレスが多く、精神疾患（うつなど）や自殺者が増える」が31.9%となっています。

既婚者調査では「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が62.7%で最も高く、次いで「子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する」が29.5%、「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」が28.7%となっています。

子育て中の保護者調査では「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が57.4%で最も高く、次いで「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」が32.7%、「地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる」が25.4%となっています。

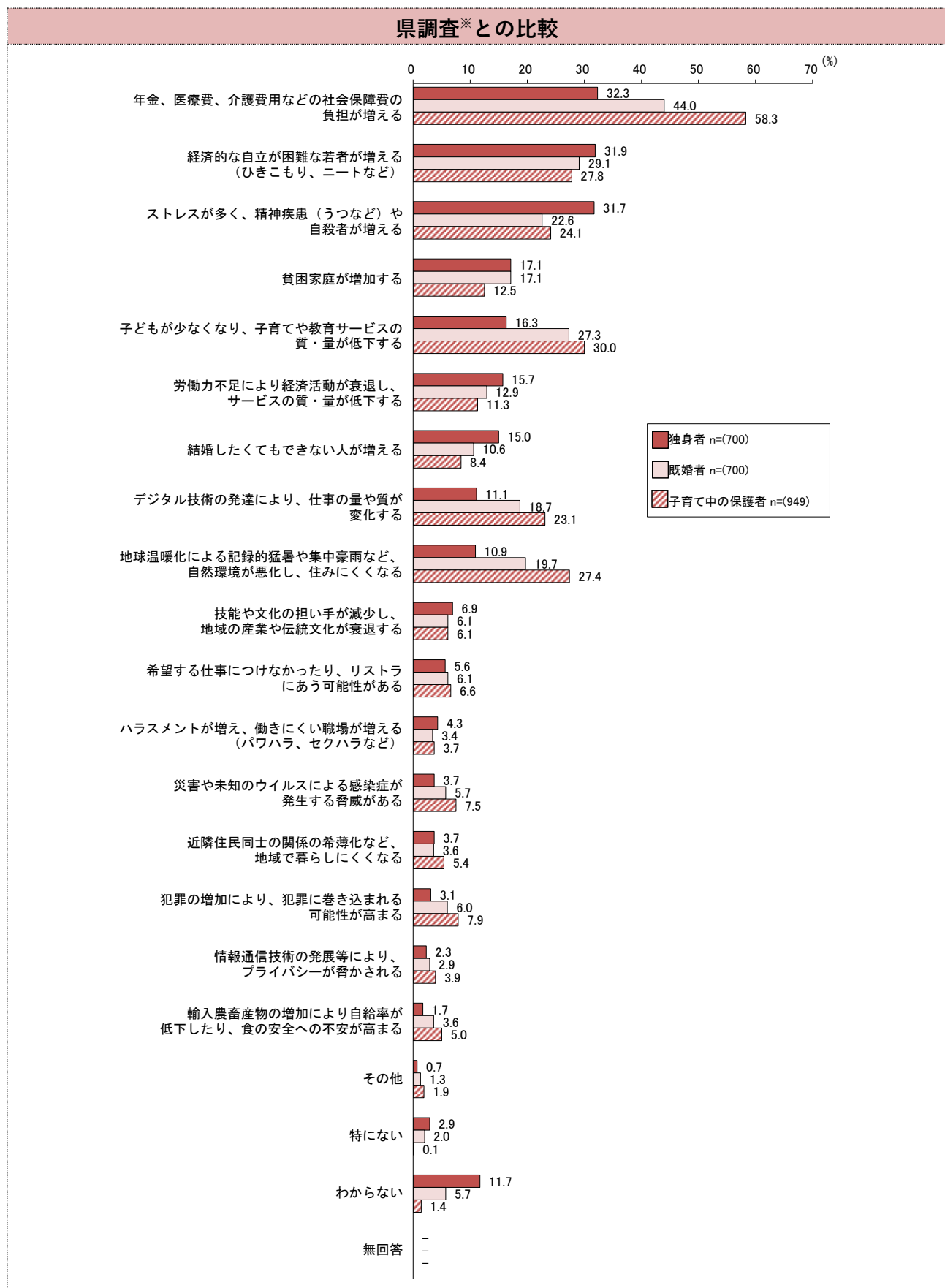


県調査※との比較

県調査の独身者の結果は「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」は32.3%となっており、市調査（51.6%）では県調査より19.3ポイント高くなっています。また、「子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する」は16.3%となっており、市調査（21.3%）では県調査より5.0ポイント高くなっています。

県調査の既婚者の結果は「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」は44.0%となっており、市調査（62.7%）では県調査より18.7ポイント高くなっています。また、「貧困家庭が増加する」は17.1%となっており、市調査（23.2%）では県調査より6.1ポイント高くなっています。

県調査の子育て中の保護者の結果は「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」は27.8%となっており、市調査（32.7%）では県調査より4.9ポイント高くなっています。また、「貧困家庭が増加する」は12.5%となっており、市調査（17.6%）では県調査より5.1ポイント高くなっています。



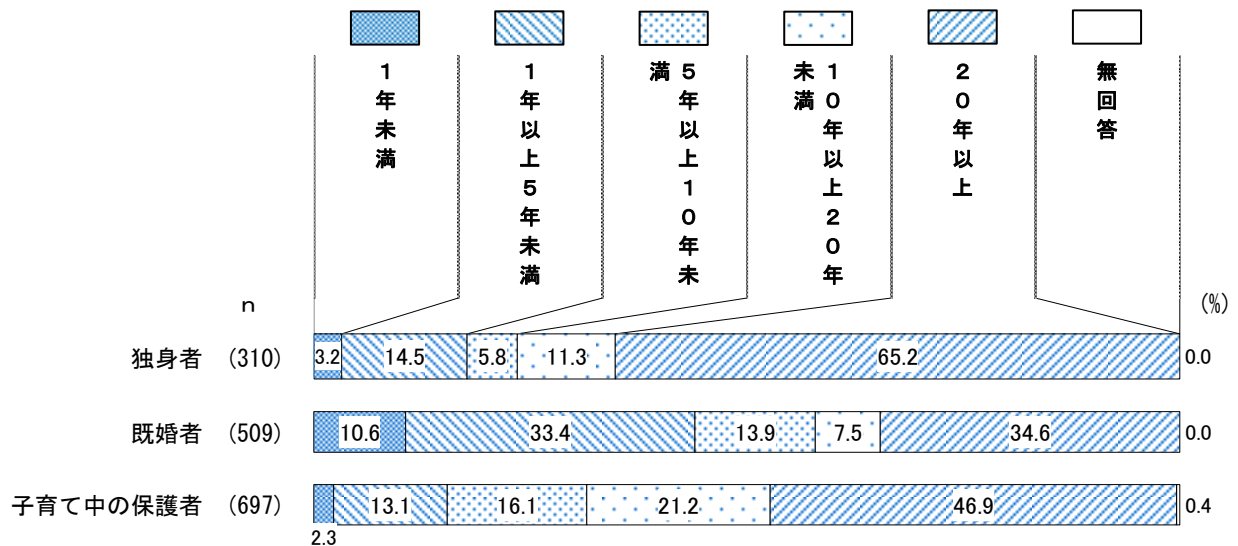
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）
 夫婦全般に関する調査（既婚者調査）
 地域での子育てに関する調査（保護者調査）

10 定住性について

（1）居住年数

Q：あなたは、前橋市に住んで何年になりますか。（○は1つ）

居住年数は、独身者調査では「20年以上」が65.2%で最も高く、次いで「1年以上5年未満」が14.5%となっています。「20年以上」は子育て中の保護者調査で46.9%、既婚者調査で34.6%と最も高く、「1年以上5年未満」も既婚者調査で33.4%と高くなっています。



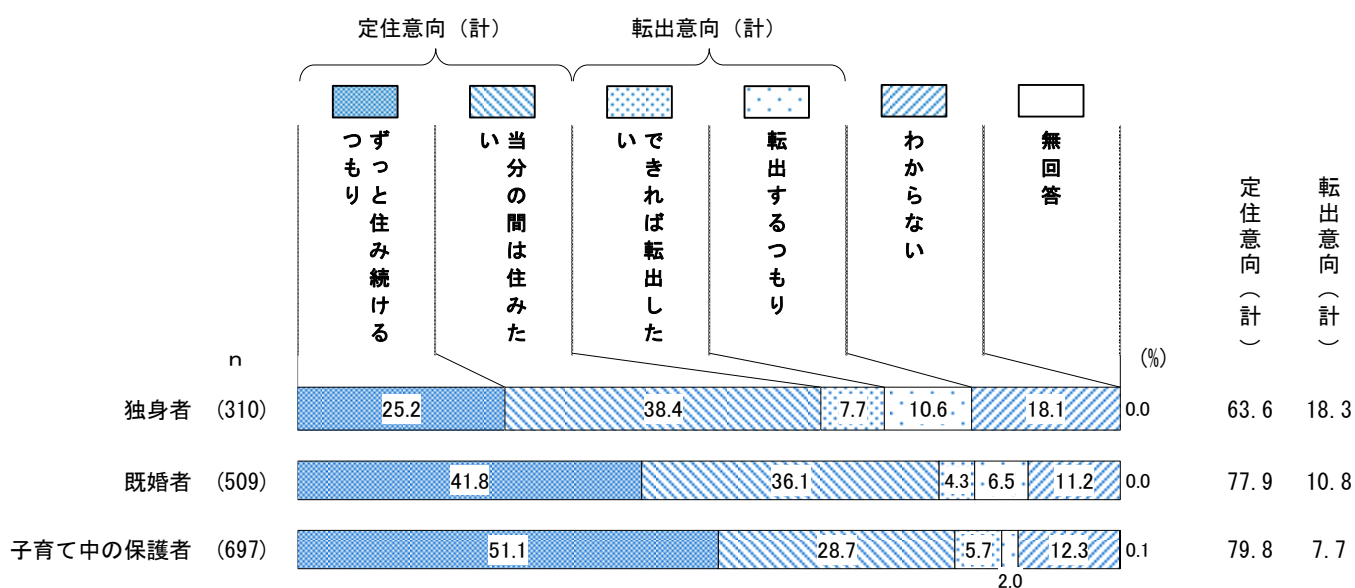
（2）定住意向

Q：あなたは、今後も前橋市に住み続けたいとお考えですか。（○は1つ）

定住意向は、独身者調査では「当分の間は住みたい」が38.4%で最も高く、「ずっと住み続けるつもり」と「当分の間は住みたい」を合わせた《定住意向 計》は63.6%、「転出するつもり」と「できれば転出したい」を合わせた《転出意向 計》は18.3%となっています。

既婚者調査では「ずっと住み続けるつもり」が41.8%で最も高く、《定住意向 計》は77.9%、《転出意向 計》は10.8%となっています。

子育て中の保護者では「ずっと住み続けるつもり」が51.1%で最も高く、《定住意向 計》は79.8%、《転出意向 計》は7.7%となっています。

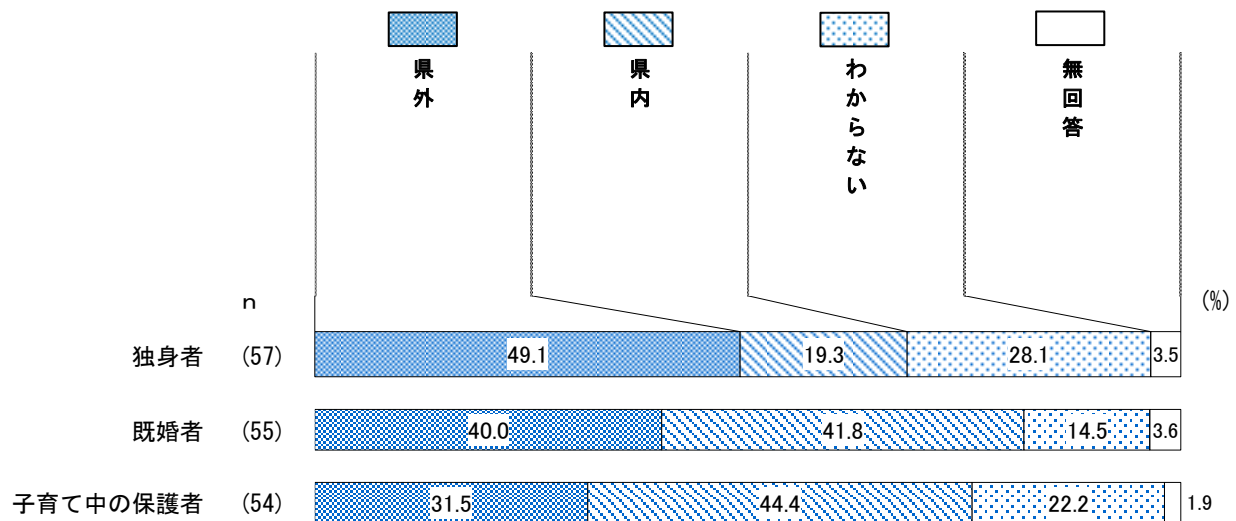


（3）希望する転出先

※今後も前橋市に住み続けたいと思うかで「できれば転出したい」、「転出するつもり」を選んだ方のみ回答

Q：転出先はどこですか。（希望でもかまいません。）（○は1つ）

転出先について、独身者調査では「県外」が49.1%で最も高く、次いで「わからない」が28.1%、「県内」が19.3%となっています。「県内」は子育て中の保護者調査で44.4%、既婚者調査で41.8%と最も高く、「県外」も既婚者調査で40.0%と高くなっています。



<具体的な転出先>※主な内容を抜粋

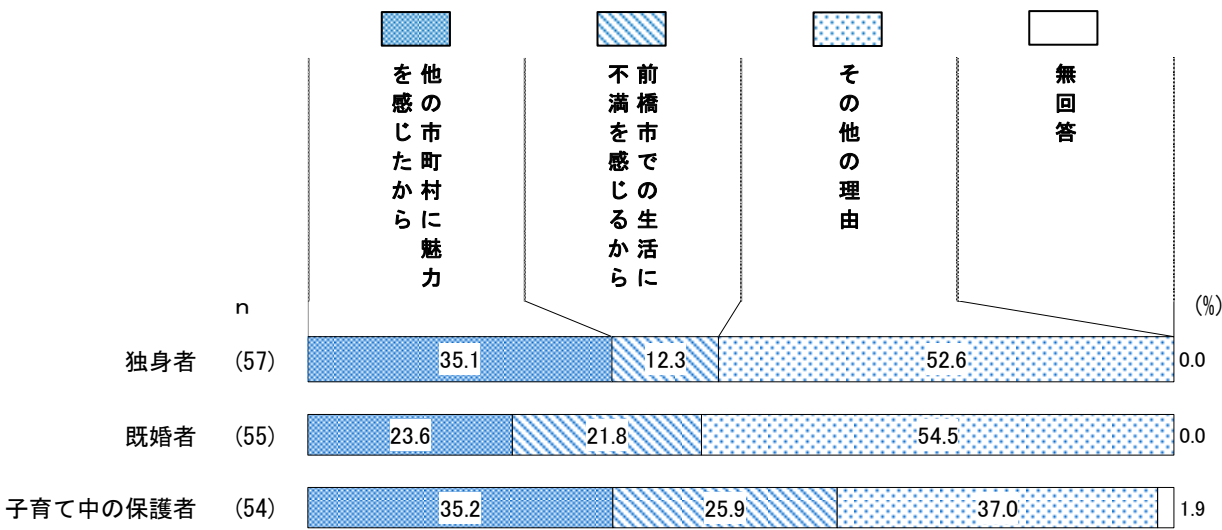
県外	県内
・東京都 ・埼玉県 ・神奈川県 ・北海道 ・海外	・高崎市 ・伊勢崎市 ・吉岡町 ・渋川市

（4）転出を考えた理由

※今後も前橋市に住み続けたいと思うかで「できれば転出したい」、「転出するつもり」を選んだ方のみ回答

Q：転出を考えた理由は何ですか。（○は1つ）

転出を考えた理由は、「他の市町村に魅力を感じたから」は子育て中の保護者が35.2%、独身者が35.1%となっています。「前橋市での生活に不満を感じるから」は、子育て中の保護者が25.9%、既婚者が21.8%となっています。「その他の理由」の主なものは下記のとおりです。



<具体的な理由>※主な内容を抜粋

独身者
・就職／仕事のため ・結婚／交際のため ・人生経験のため
既婚者
・実家があるため ・家を建てる／土地があるため ・仕事（配偶者の仕事）のため ・家族の都合のため
子育て中の保護者
・実家があるため ・子育て支援が充実しているため ・海外志向のため

（5）他の市町村に魅力を感じた理由

※転出を考えた理由で「他の市町村に魅力を感じたから」を選んだ方のみ回答

Q：他の市町村に魅力を感じた理由は何ですか。（自由記載）

他の市町村に魅力を感じた理由を自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

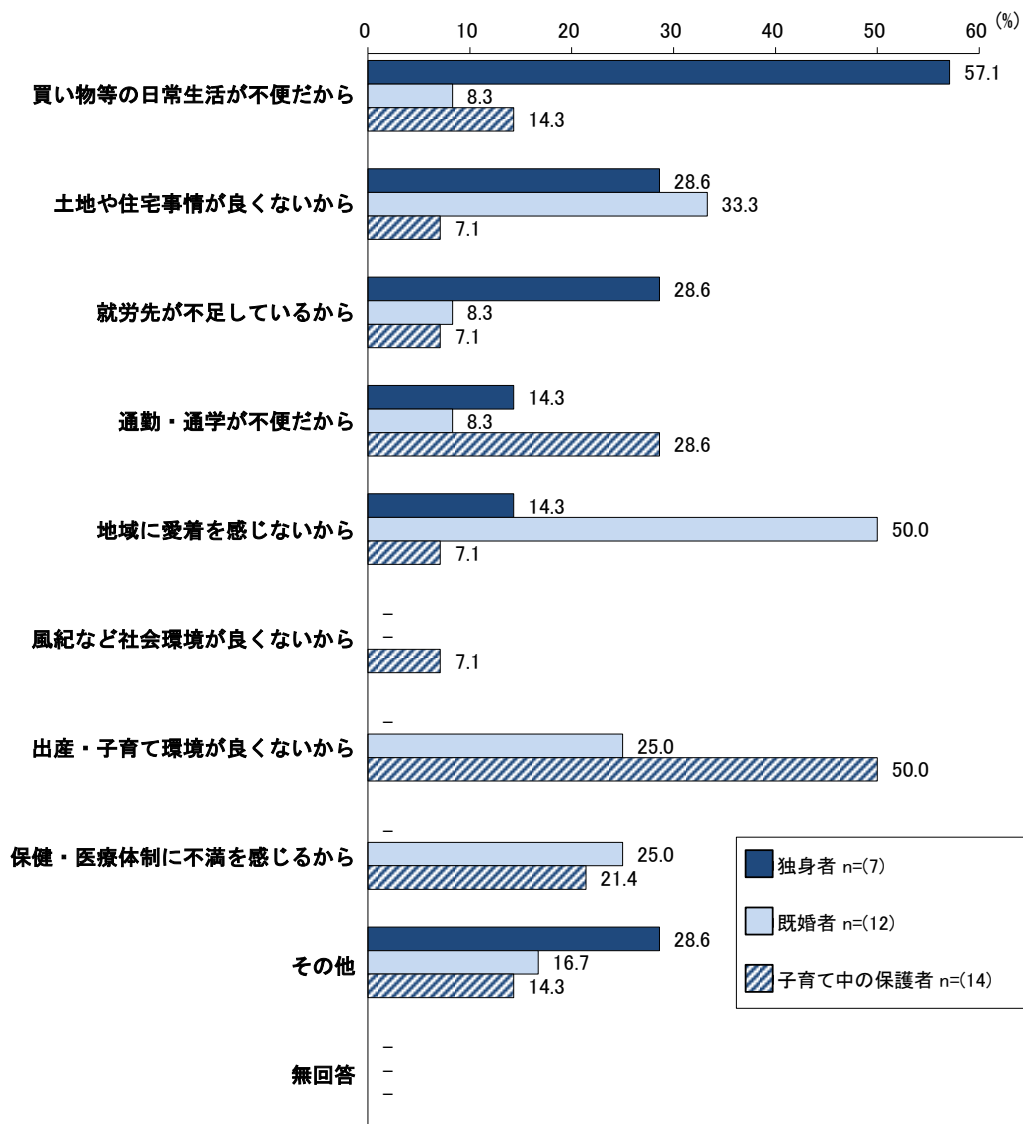
独身者
・交通の便の良さ。（愛知県） ・新幹線が停まる駅がある。（高崎市） ・日常的な生活に必要な施設の充実。（伊勢崎市） ・外国人労働者が少ないから。前橋市は外国人労働者が増える一方で、犯罪が増えたりして物騒である。それに対して支援がないため。（埼玉県） ・東京都心の方が仕事や参加したい活動が充実しているため。（東京都）
既婚者
・様々な支援。（吉岡町） ・保育料無償化。（吉岡町） ・子育て支援の充実、買い物など新たな施設の充実。（吉岡町） ・土地が安かった。（榛東村） ・自然が豊か。（北海道）
子育て中の保護者
・高崎市は子連れで遊びに行けるところが多く、子育て世帯への理解もある。また新しい建物や施設が多いので子供をつれて遊びに行くのに安心。（高崎市） ・前橋市は県庁所在地だが、他の市から比べて住民として受けられるサービスが少ないと感じている。毎年の健診内容や公立小・中学校などの質など他の市に魅力を感じている。（高崎市） ・自然が多く、落ち着く。（吾妻郡） ・チャイルドシートを購入した時などの補助もあったり子育てしやすい環境が整っている。（吉岡町） ・子育て支援が充実している。（0歳から保育料無料）（吉岡町） ・前橋市は、人口の割に子育て対策も頑張っていると思ういい街だと思うが、元気がない。子供が小さいうちは長閑で公園や公民館が充実しておりどこも空いているのでいいが、小学生以降はあまり魅力を感じない。（埼玉県） ・給食費が無料で、保育料も0歳から無料だから。（渋川市）

（6）前橋市での生活に不満を感じた理由

※転出を考えた理由で「前橋市での生活に不満を感じるから」を選んだ方のみ回答

Q：前橋市での生活に不満を感じた理由はなんですか。（○は2つまで）

前橋市での生活に不満を感じた理由は、いずれも母数が少ないため参考にとどめますが、独身者調査では「買い物等の日常生活が不便だから」が57.1%で最も高く、既婚者調査では「地域に愛着を感じないから」が50.0%、子育て中の保護者では「出産・子育て環境が良くないから」が50.0%と最も高くなっています。



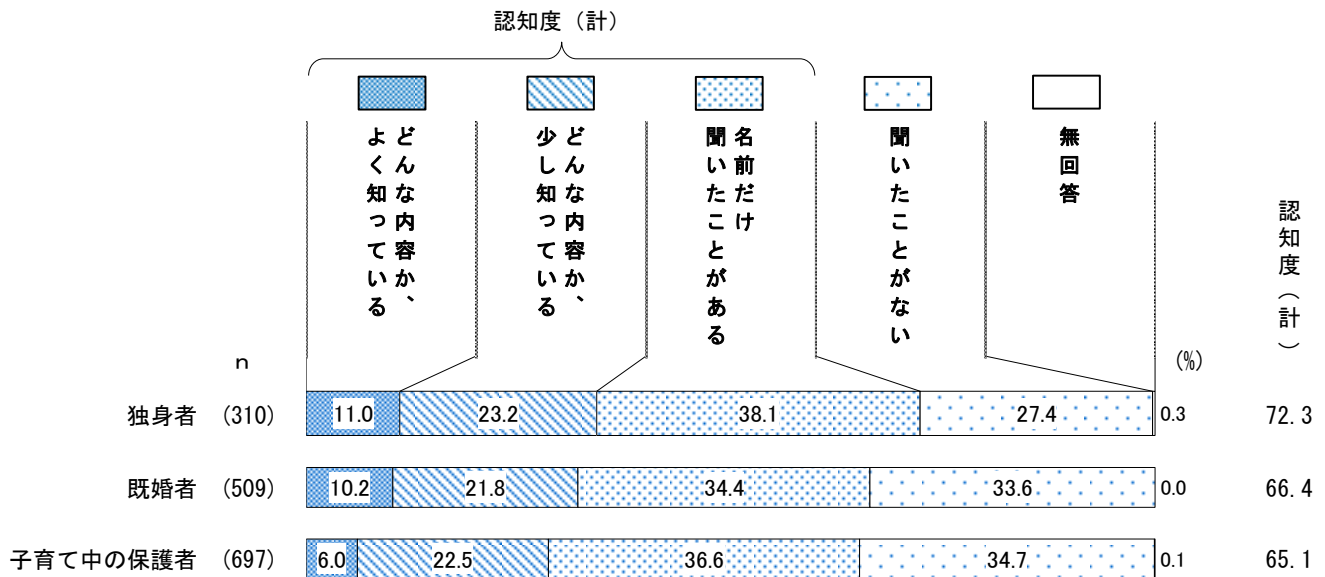
※母数が30未満のため参考値とする。

1.1 子どもの権利について

(1) 子どもの権利条約の認知度

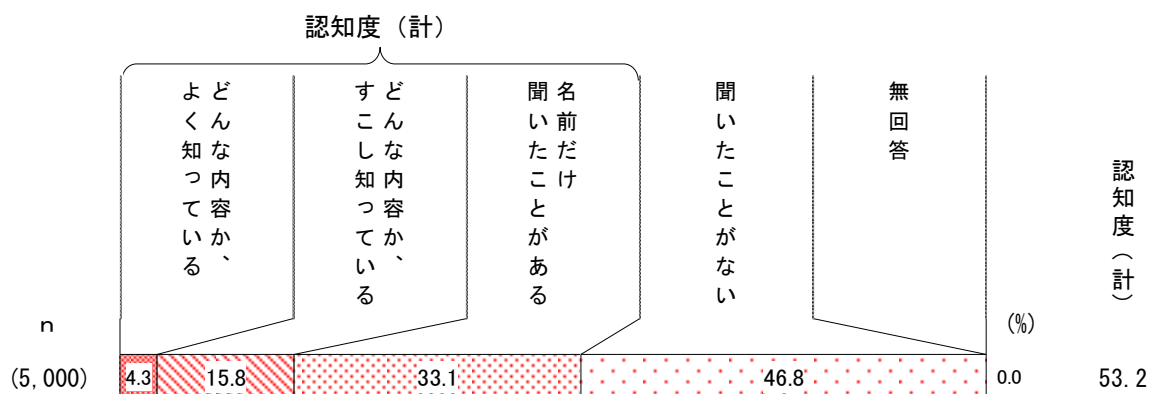
Q：あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか。（○は1つ）

子どもの権利条約について、「どんな内容か、よく知っている」、「どんな内容か、すこし知っている」、「名前だけ聞いたことがある」を合わせた《認知度 計》は、独身者、既婚者、子育て中の保護者の順につれて割合は減少しており、子育て中の保護者では65.1%となっています。



全国調査※との比較

全国調査の結果をみると、認知度は53.2%となっており、市調査の独身者（72.3%）、既婚者（66.4%）、子育て中の保護者（65.1%）の結果はいずれも全国調査を上回っています。



※子ども家庭庁 児童の権利に関する条約の認知度等調査（令和5年度）

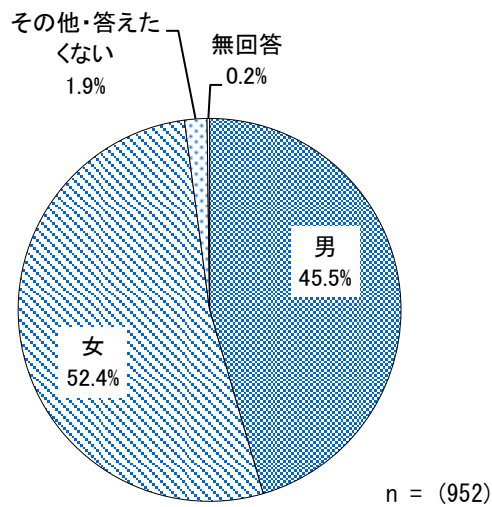
第 5 章 こどもの生活状況調査
(中学 2 年生、中学 2 年生保護者)
結果詳細

こどもの生活状況調査（中学2年生、中学2年生保護者）結果詳細

1 属性について

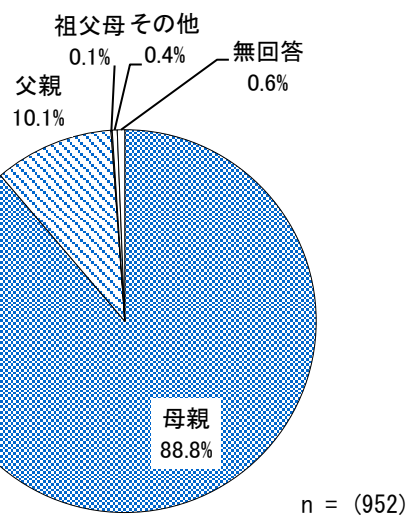
（1）性別【中学2年生調査】

Q：あなたの性別を教えてください。（○は1つ）



（2）子どもとの続柄【中学2年生保護者調査】

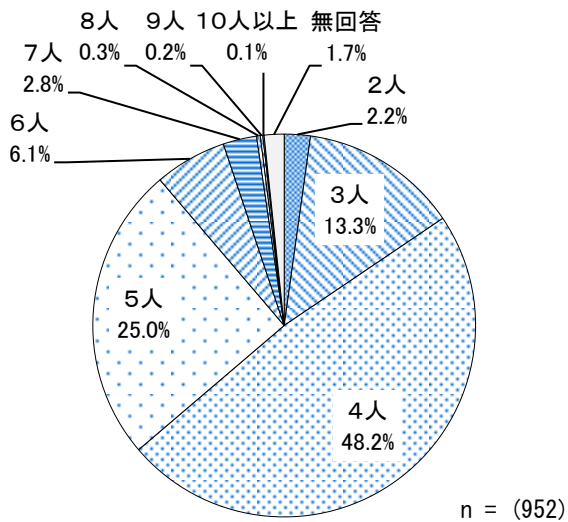
Q：お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。（○は1つ）



（3）同居家族【中学2年生保護者調査】

Q：お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。

■同居家族の合計人数

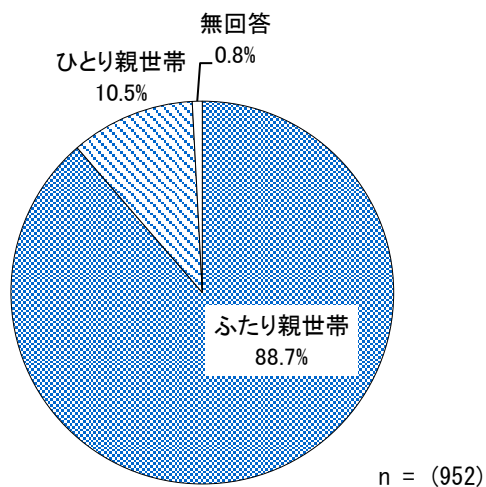


■続柄別構成員の人数

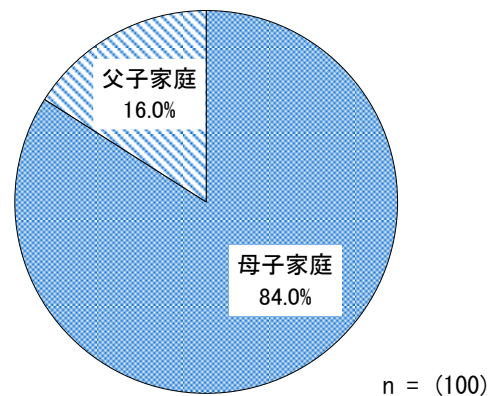
	いない	1人	2人	3人	4人以上	無回答
祖母	82.6%	11.1%	3.9%			2.4%
祖父	86.2%	8.0%	2.2%			3.6%
母親	1.8%	97.5%				0.7%
父親	8.7%	90.3%				0.9%
姉・兄	35.0%	37.7%	10.2%	1.5%	0.5%	15.1%
妹・弟	33.3%	36.7%	9.9%	0.7%	0.3%	19.1%
その他	48.7%	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%	50.3%

同居家族の人数、構成から、「ふたり親世帯」、「ひとり親世帯」の割合を推計で算出しました。また、「ひとり親世帯」のうちの「母子家庭」と「父子家庭」の割合も算出しています。

■ふたり親、ひとり親世帯別



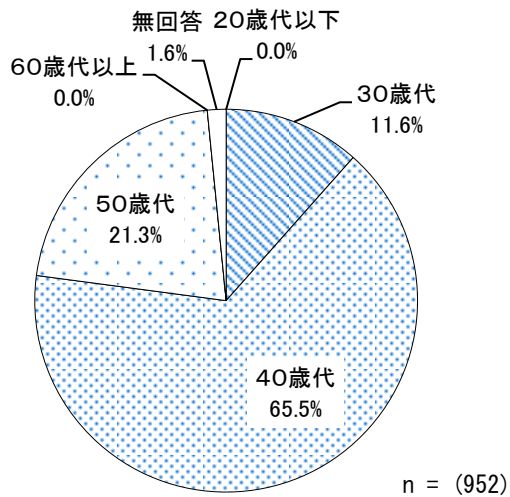
■ひとり親世帯の内訳



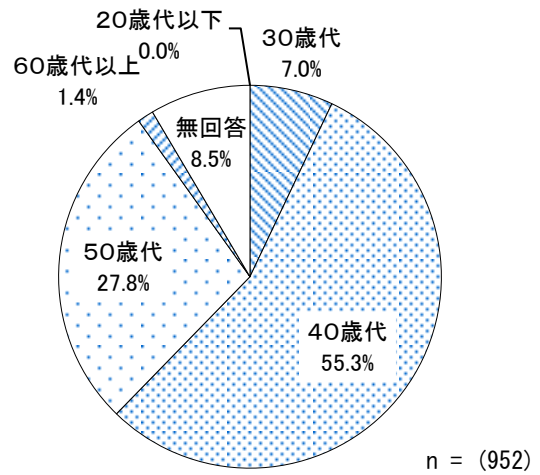
（4）保護者の年齢【中学2年生保護者調査】

Q：お子さんの保護者の現在の年齢についてお答えください。

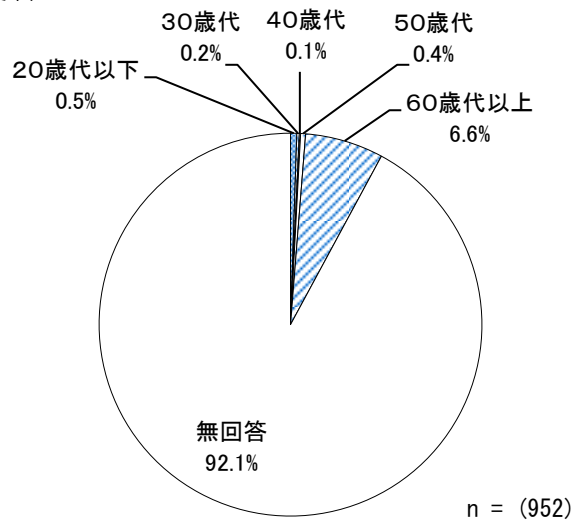
■母親



■父親

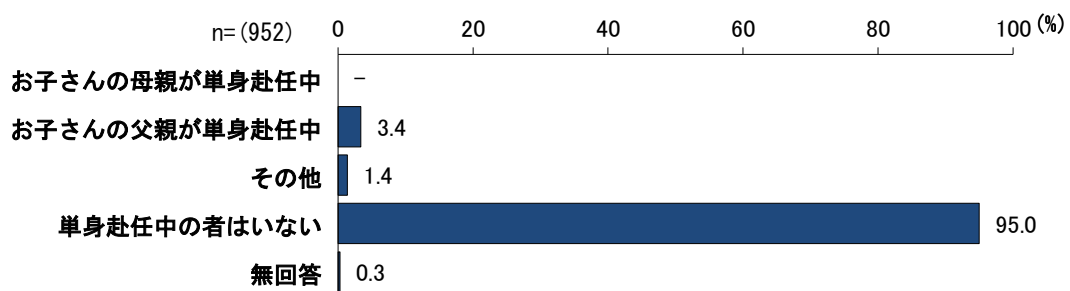


■母親・父親にかわる保護者



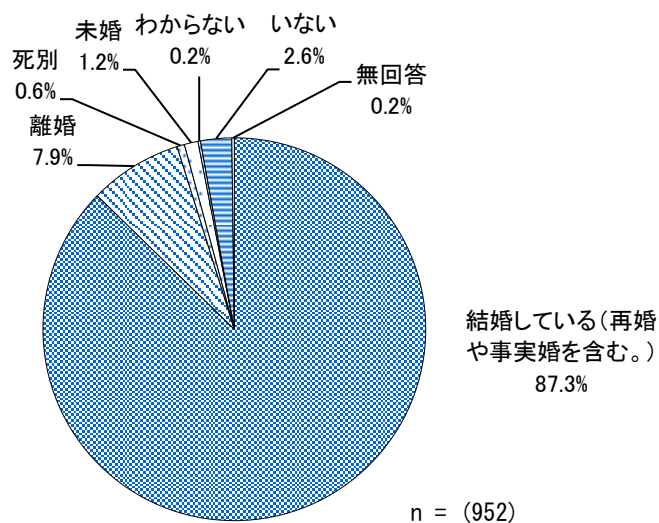
（5）単身赴任中の家族の有無【中学2年生保護者調査】

Q：お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。（○はいくつでも）



（6）親の婚姻状況【中学2年生保護者調査】

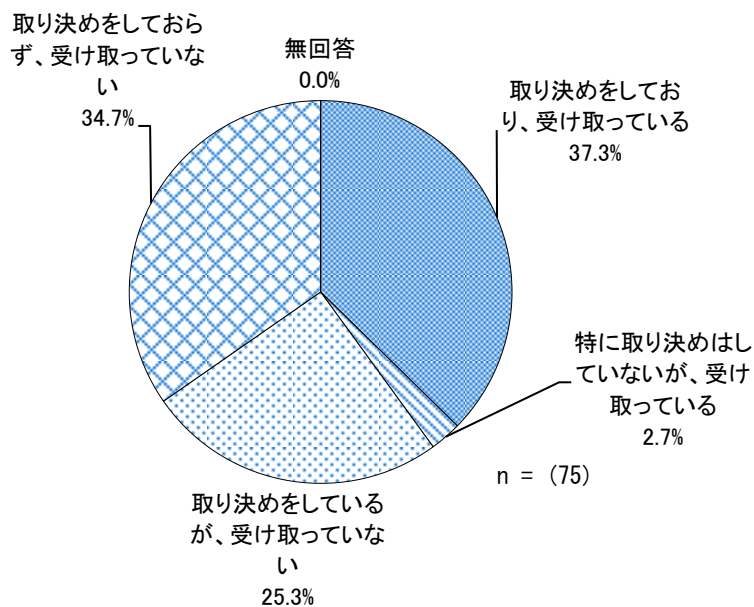
Q：お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。（○は1つ）



（7）離婚相手との養育費の取り決め【中学2年生保護者調査】

※婚姻状況で「2.離婚」を選んだ方のみ回答

Q：離婚相手と子供の養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。（○は1つ）

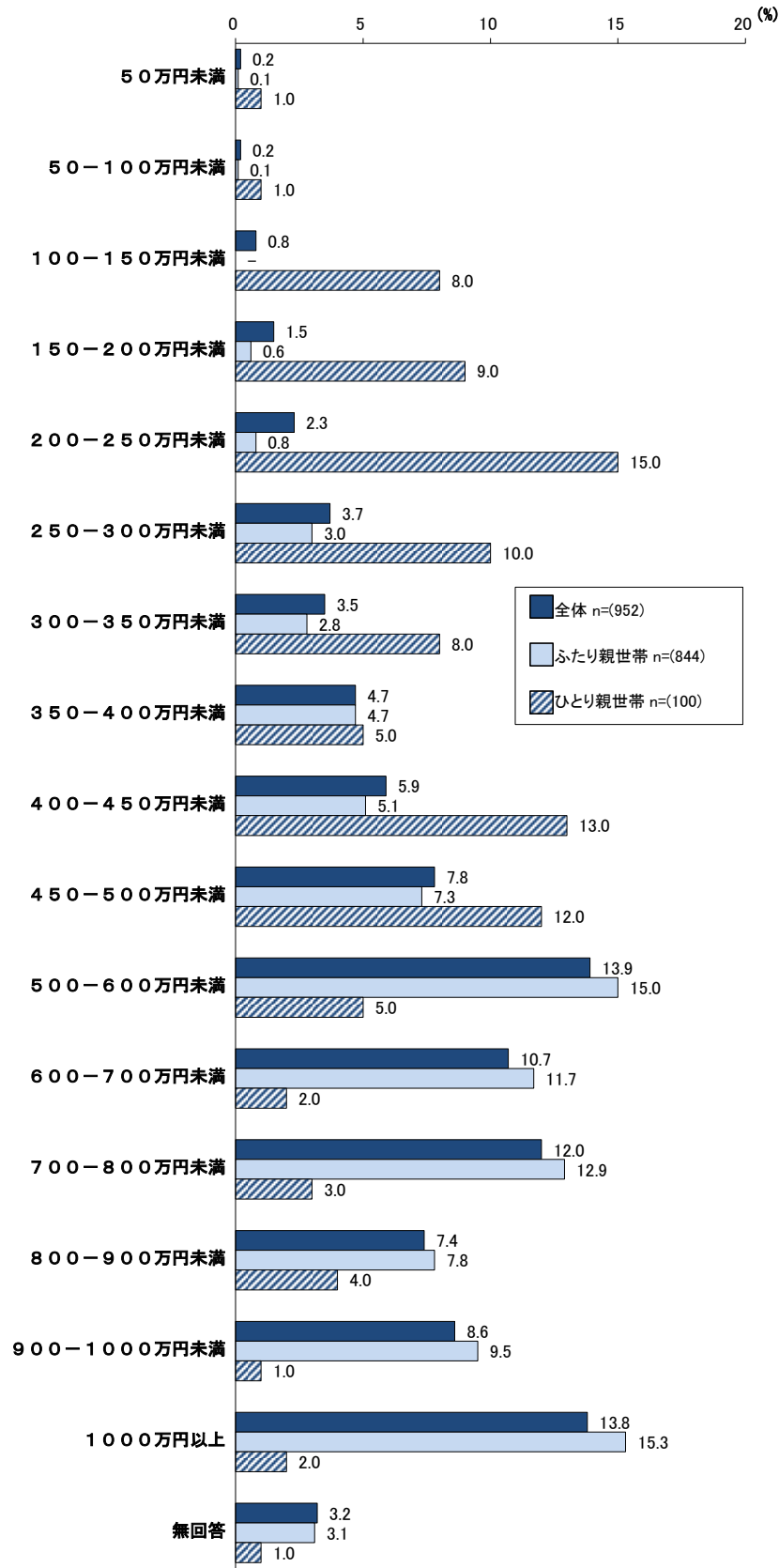


（8）世帯全体の年間収入【中学2年生保護者調査】

Q：世帯全体のおおその年間収入(税込)はいくらですか。（○は1つ）

※2023年（令和5年）の年間収入についてお答えください。

※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。



世帯の年間収入の水準について、「子供と同居し、生計を同一にしている家族の人数」の情報も踏まえて下記のような処理をし、「等価世帯収入」による分類を行いました。

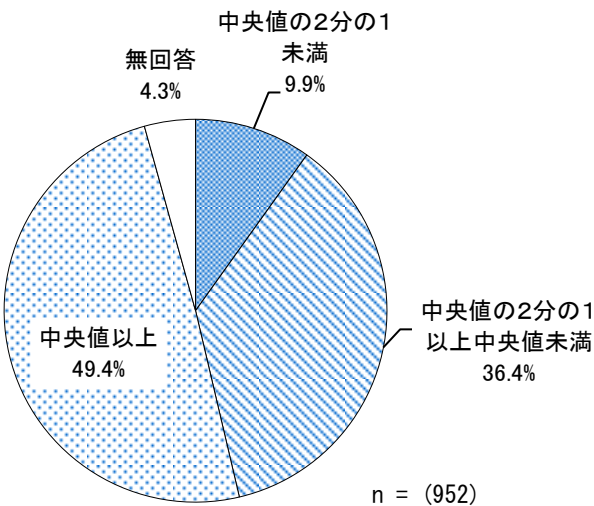
- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする。（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1000万円以上」は1050万円とする。）
- 上記の値を、保護者票問2で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す※。
- 上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する。

※生活水準を考えた場合、世帯人員が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要があるため、世帯人員の違いを調整するにあたって「同居家族の人数の平方根」を用いている。

【例】年収800万円の4人世帯と、年収200万円の1人世帯では、どちらも1人当たりの年収は200万円となるが、両者の生活水準が同じ程度とは言えない。光熱水費等の世帯人員共通の生活コストは、世帯人員が多くなるにつれて割安になる傾向がある。

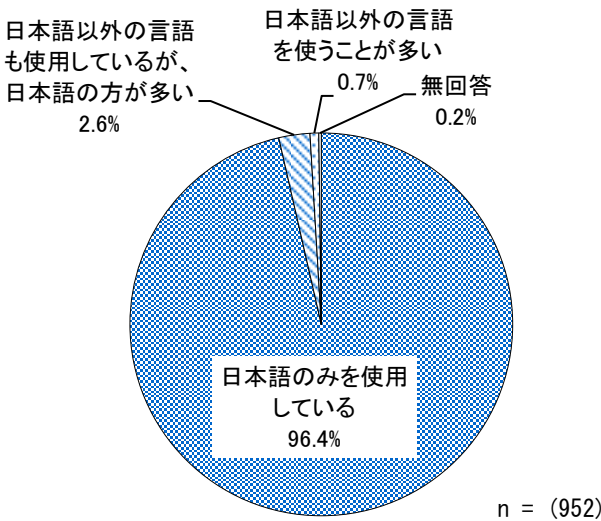
分類の結果、等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当するのは49.4%、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当するのは36.4%、「中央値の2分の1未満」に該当するのは9.9%でした。

等価世帯収入の中央値	325 万円
中央値の2分の1	162.5 万円



（9）日本語以外の言語の使用【中学2年生保護者調査】

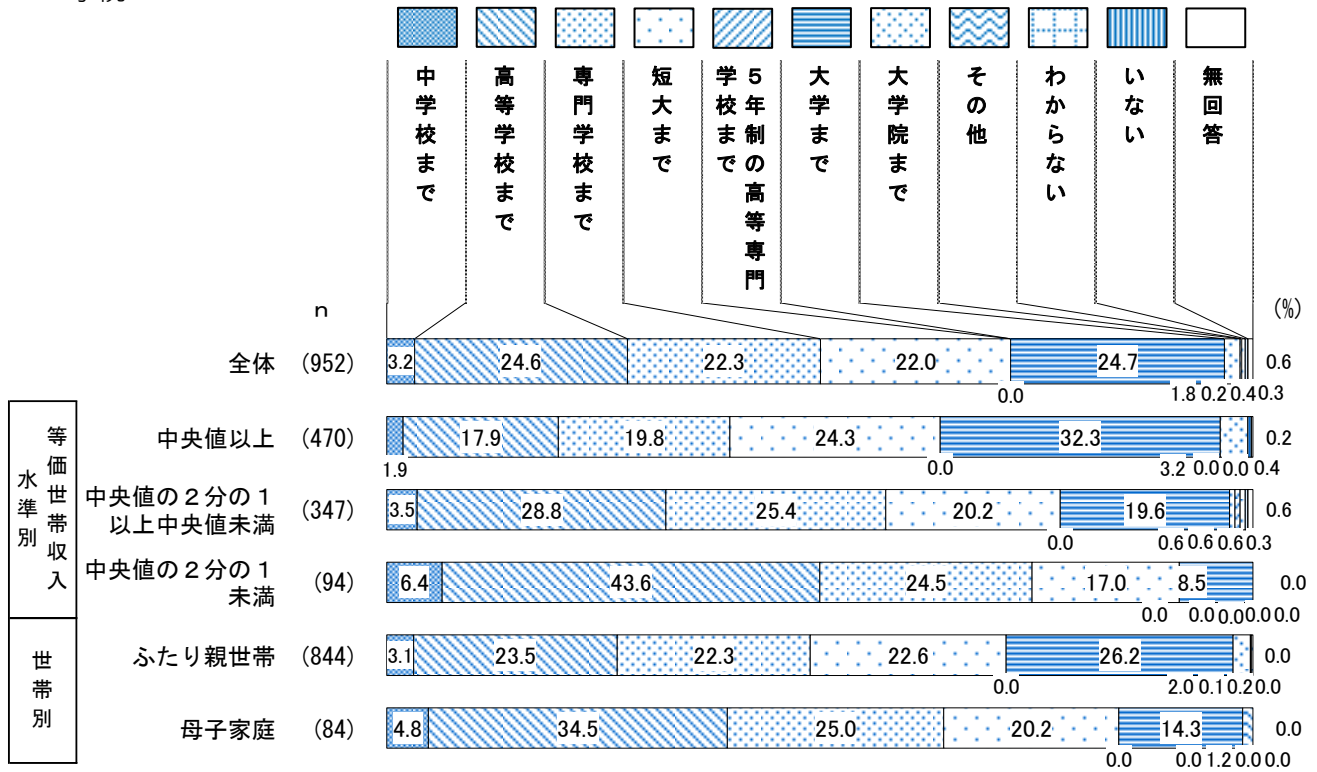
Q：ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（○は1つ）



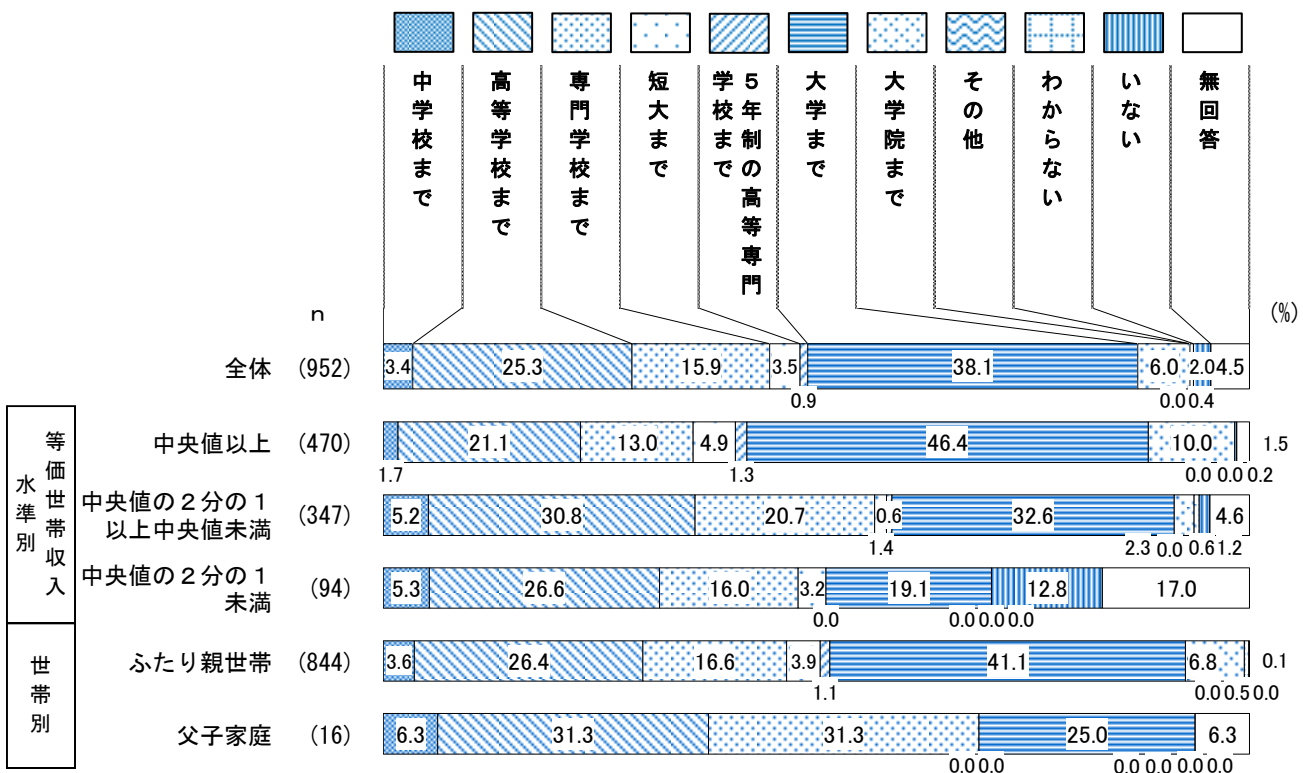
(10) 保護者の最終学歴【中学2年生保護者調査】

Q：お子さんの保護者の最終学歴（卒業した学校）をお答えください。

■母親



■父親



2 就労状況について

（1）保護者の就労状況【中学2年生保護者調査】

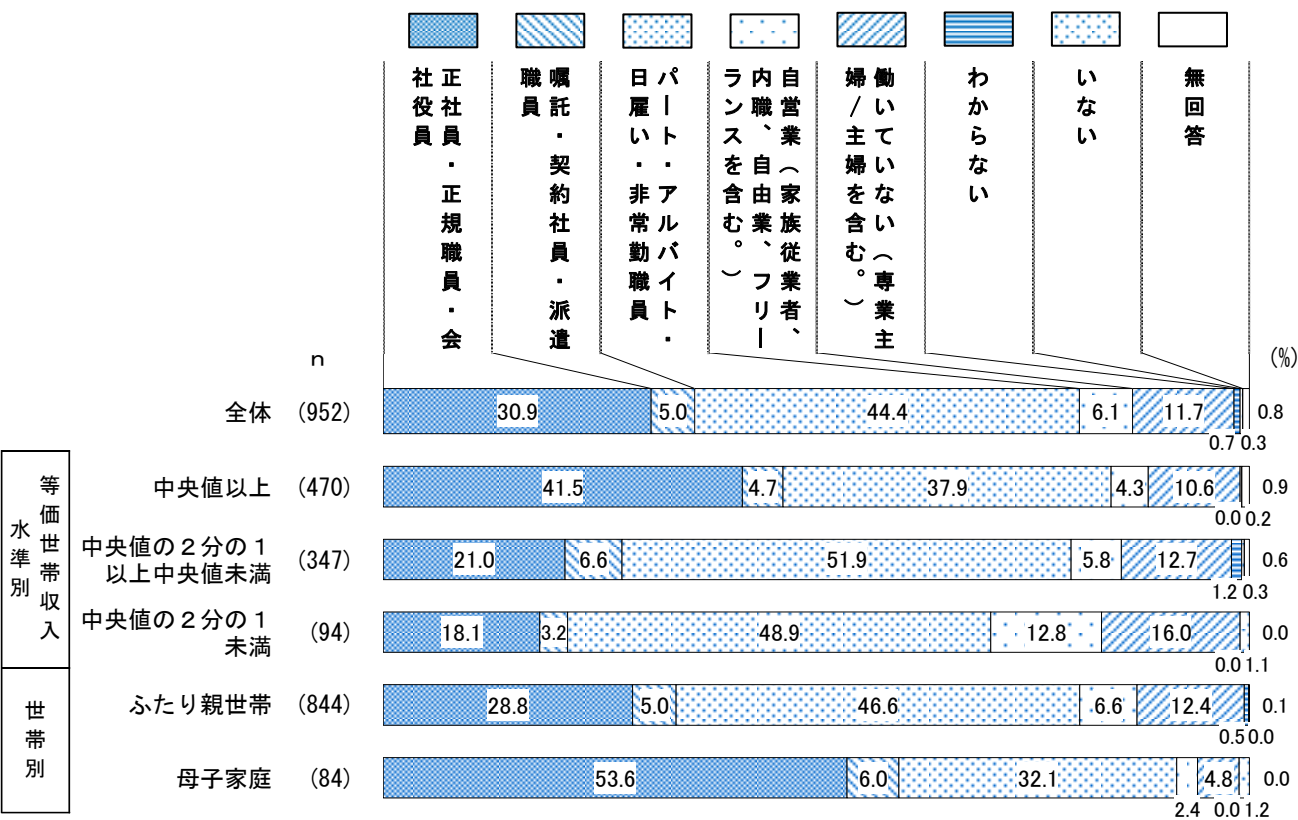
Q：お子さんの保護者の就労状況について、あてはまるものを回答してください。

保護者の就労状況について、「母親」では、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が44.4%、次いで「正社員・正規職員・会社役員」が30.9%、「働いていない（専業主婦／主夫を含む。）」が11.7%となっています。「父親」では、「正社員・正規職員・会社役員」が80.6%、次いで「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。）」が8.4%となっています。

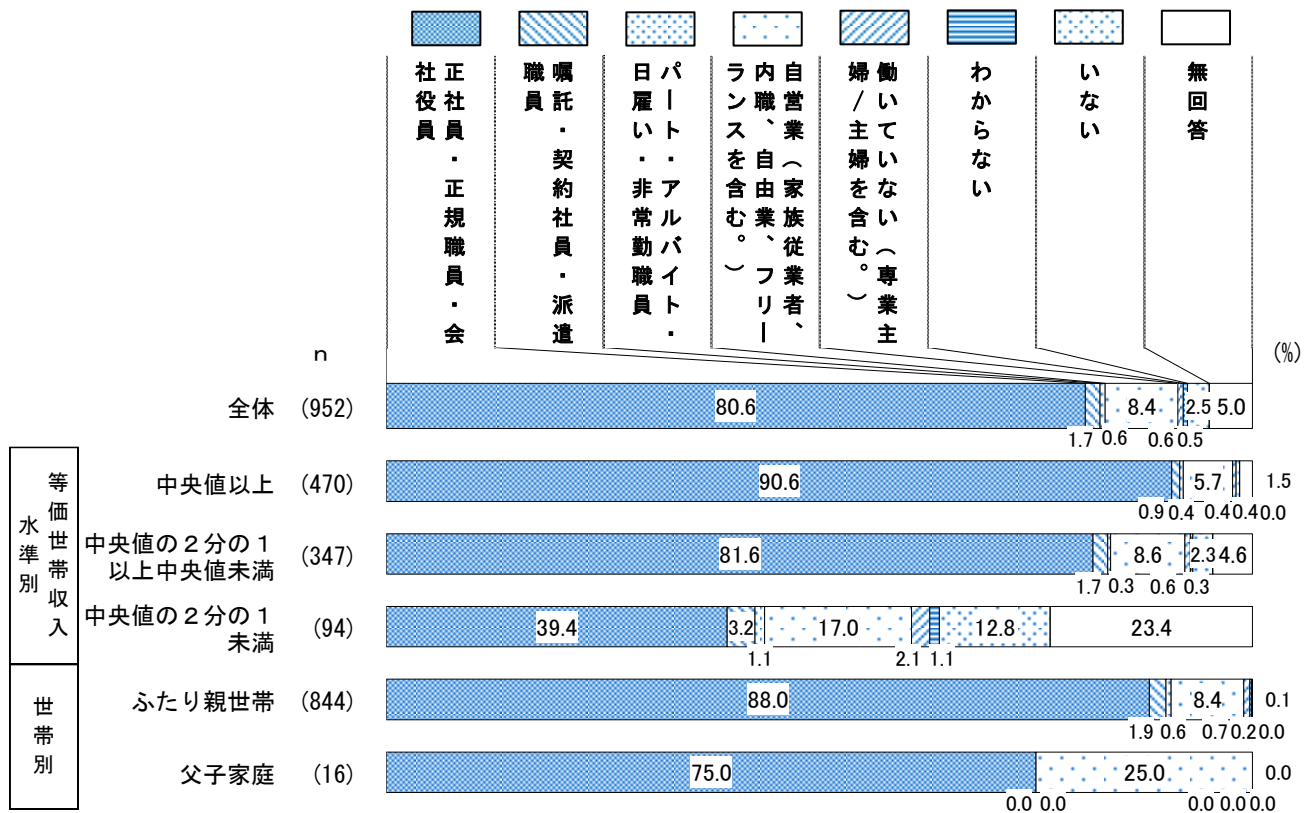
等価世帯収入水準別にみると、母親、父親ともに「正社員・正規職員・会社役員」の割合は中央値の2分の1未満の世帯で最も低くなっています。

世帯の状況別にみると、「正社員・正規職員・会社役員」の割合は、「母親」ではふたり親世帯より母子家庭で高くなっています。

■母親



■父親



※母数が30未満の項目は参考値とする。

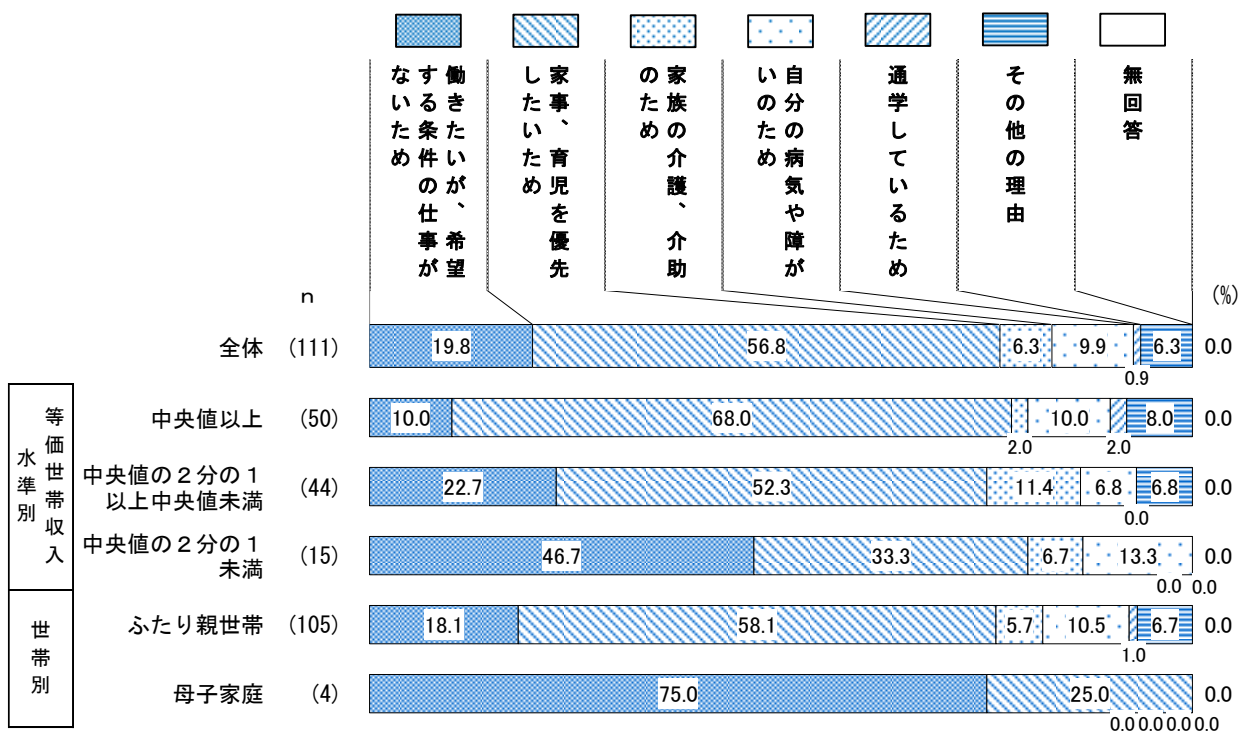
（2）働いていない理由【中学2年生保護者調査】

※就労状況で「5.働いていない」※を選んだ方のみ回答

Q：働いていない最も主な理由を教えてください。（○は1つ）

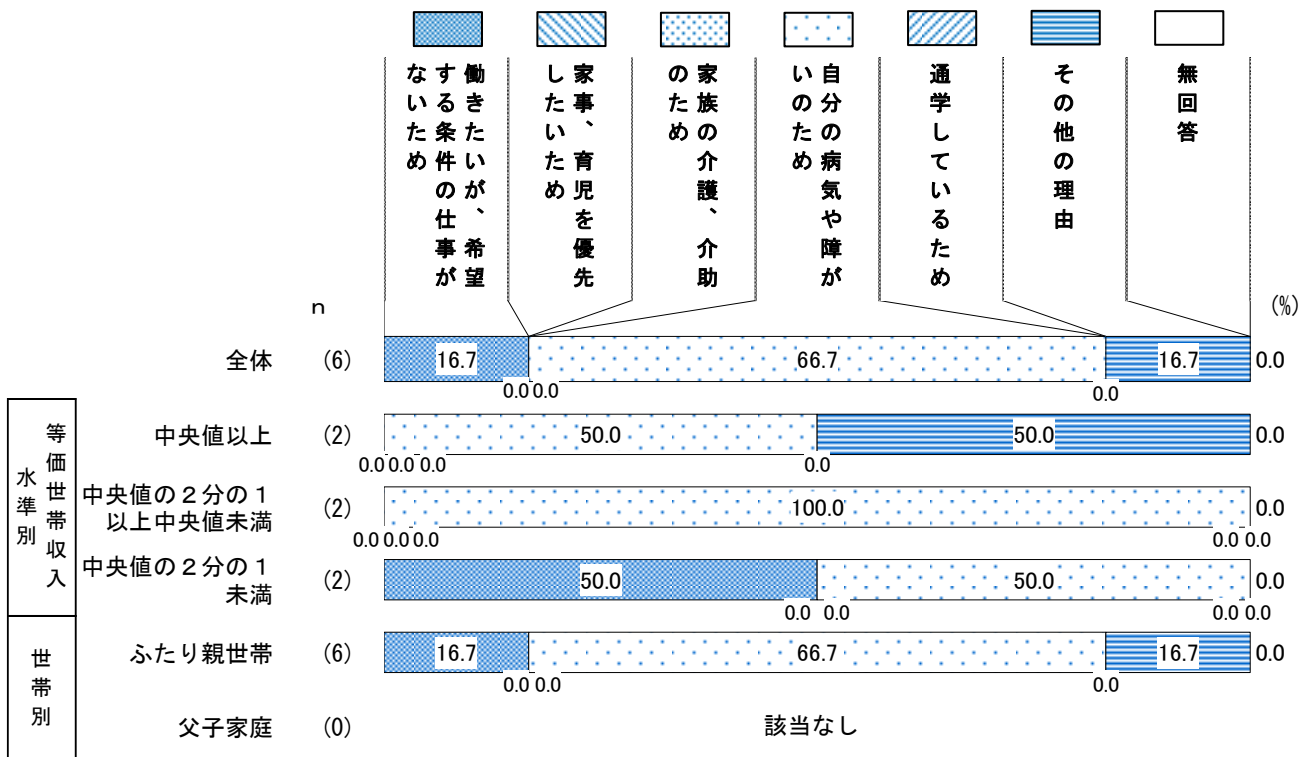
働いていない最も主な理由として、「母親」については、「家事、育児を優先したいため」が56.8%、次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」が19.8%、「自分の病気や障がいのため」が9.9%となっています。

■母親



※母数が30未満の項目は参考値とする。

■父親



3 子育てについて

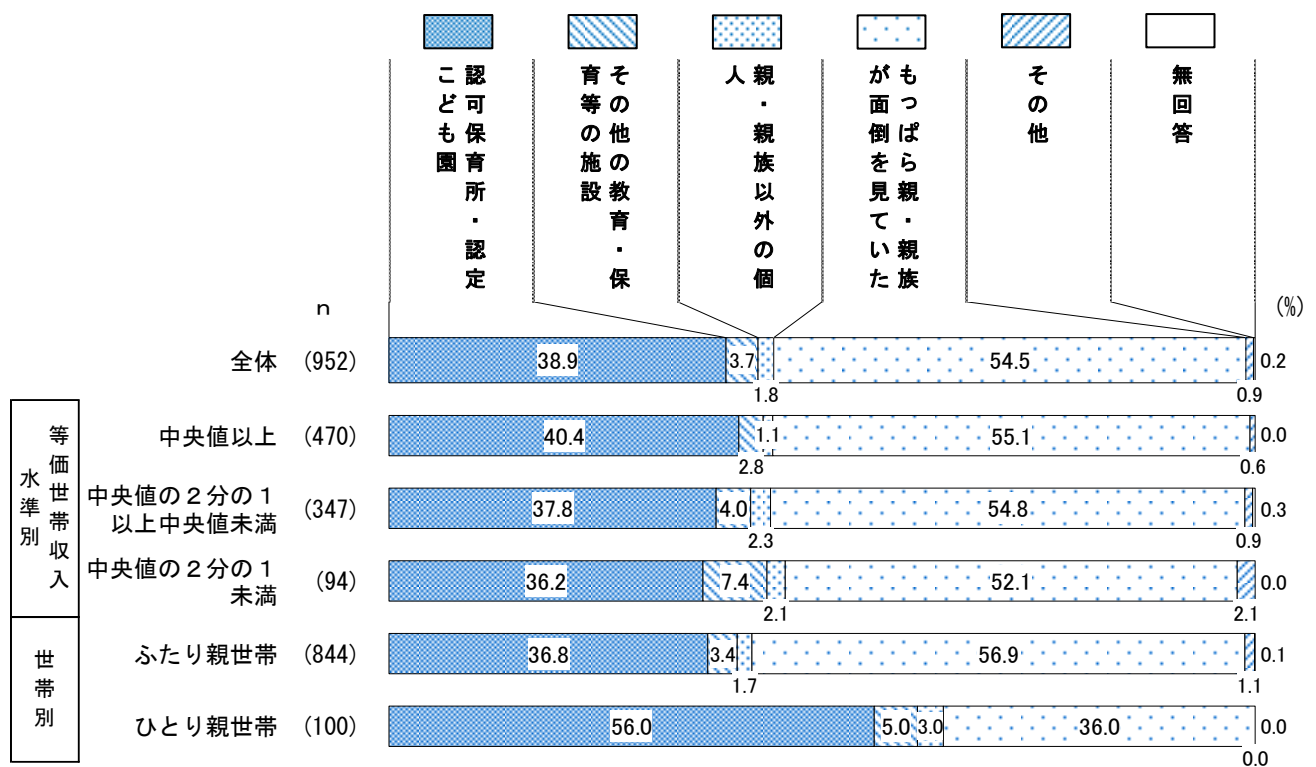
（1）子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等【中学2年生保護者調査】

Q：お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（○は1つ）

子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なものとしては、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が54.5%、次いで「認可保育所・認定こども園」が38.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「認可保育所・認定こども園」の割合は36.2%とやや低くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べて、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が低くなっています。

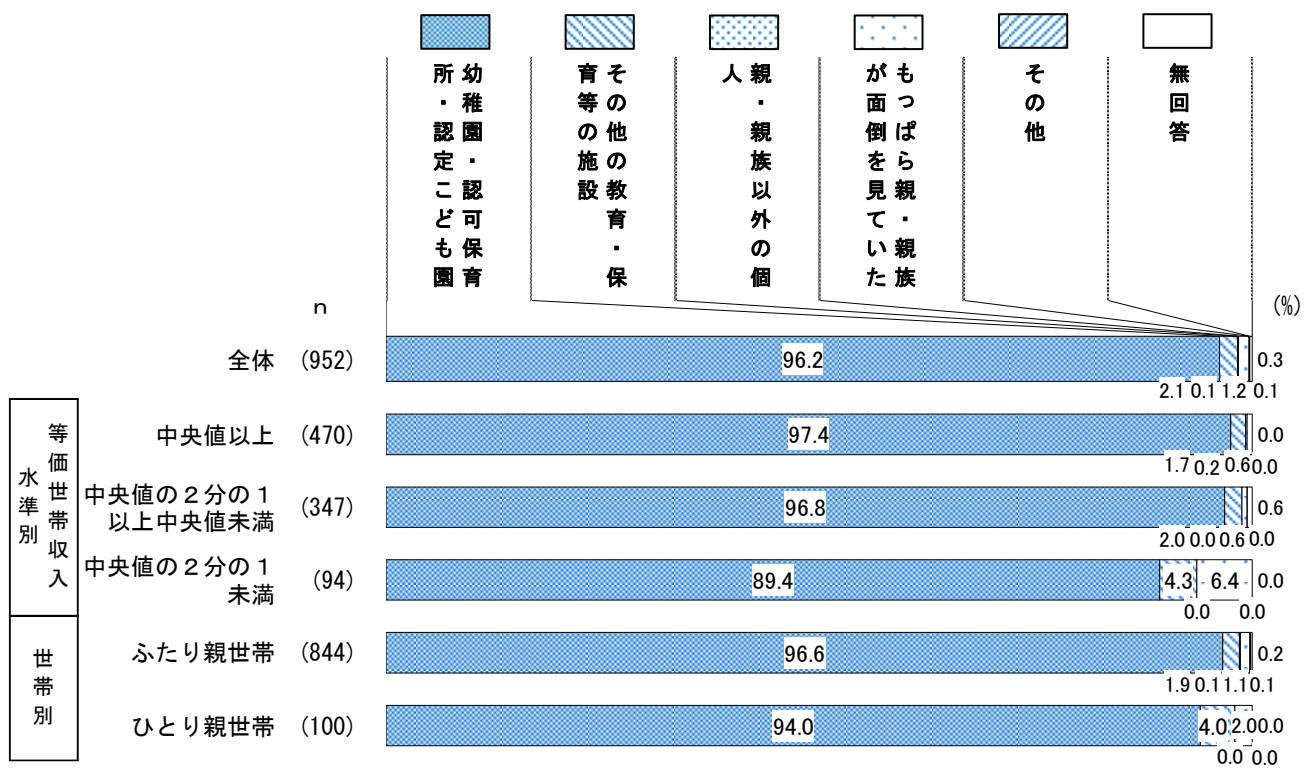


（2）子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等【中学2年生保護者調査】

Q：お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（○は1つ）

子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なものとしては、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」が9割台半ばとなっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」の割合は89.4%とやや低く、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が6.4%とやや高くなっています。



（3）子どもとの関わり方【中学2年生保護者調査】

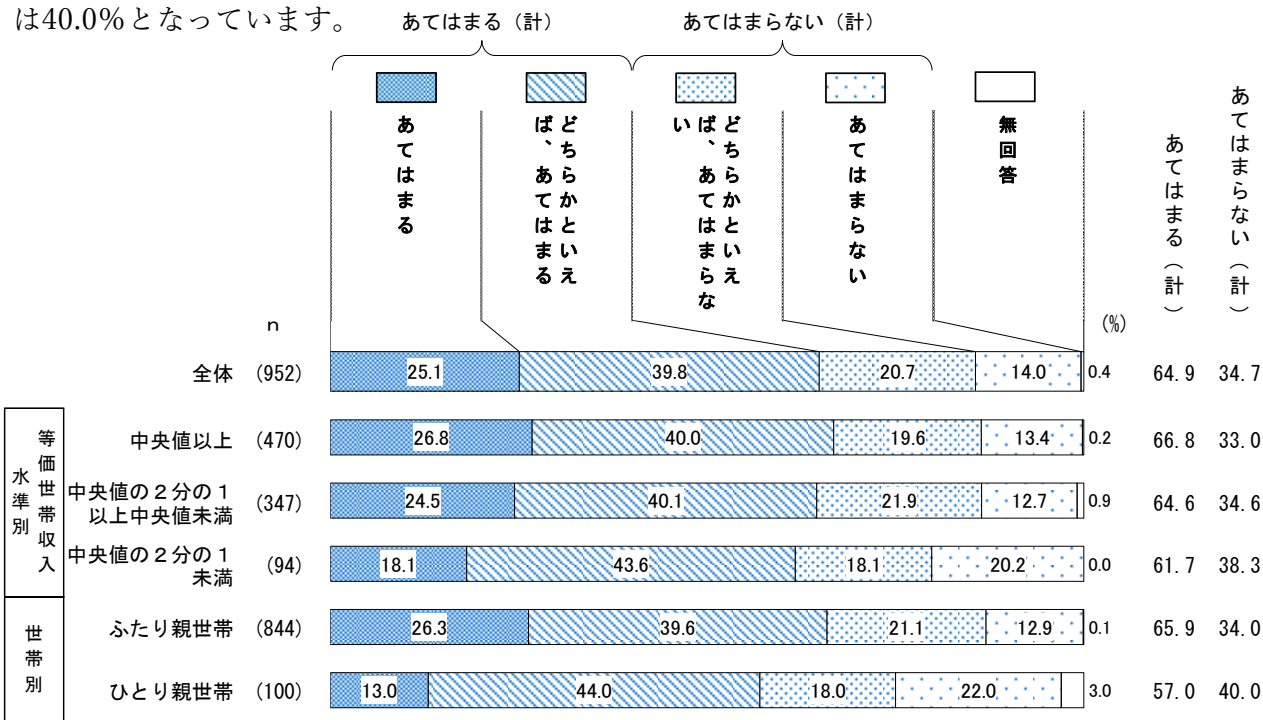
Q：あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。（○は1つ）

■テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているかについて、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた《あてはまる 計》は64.9%となっています。

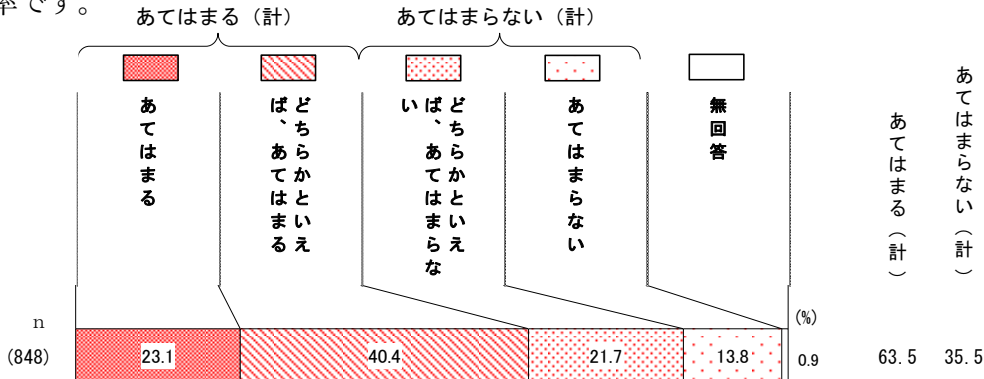
等価世帯収入水準別にみると、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた《あてはまらない 計》は、中央値以上の世帯では33.0%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では34.6%、中央値の2分の1未満の世帯では38.3%となっています。

世帯の状況別にみると、《あてはまらない 計》は、ふたり親世帯では34.0%、ひとり親世帯では40.0%となっています。



県調査※との比較

県調査の結果と比較すると、《あてはまる 計》は県調査が63.5%となっており、市調査（64.9%）とほぼ同率です。



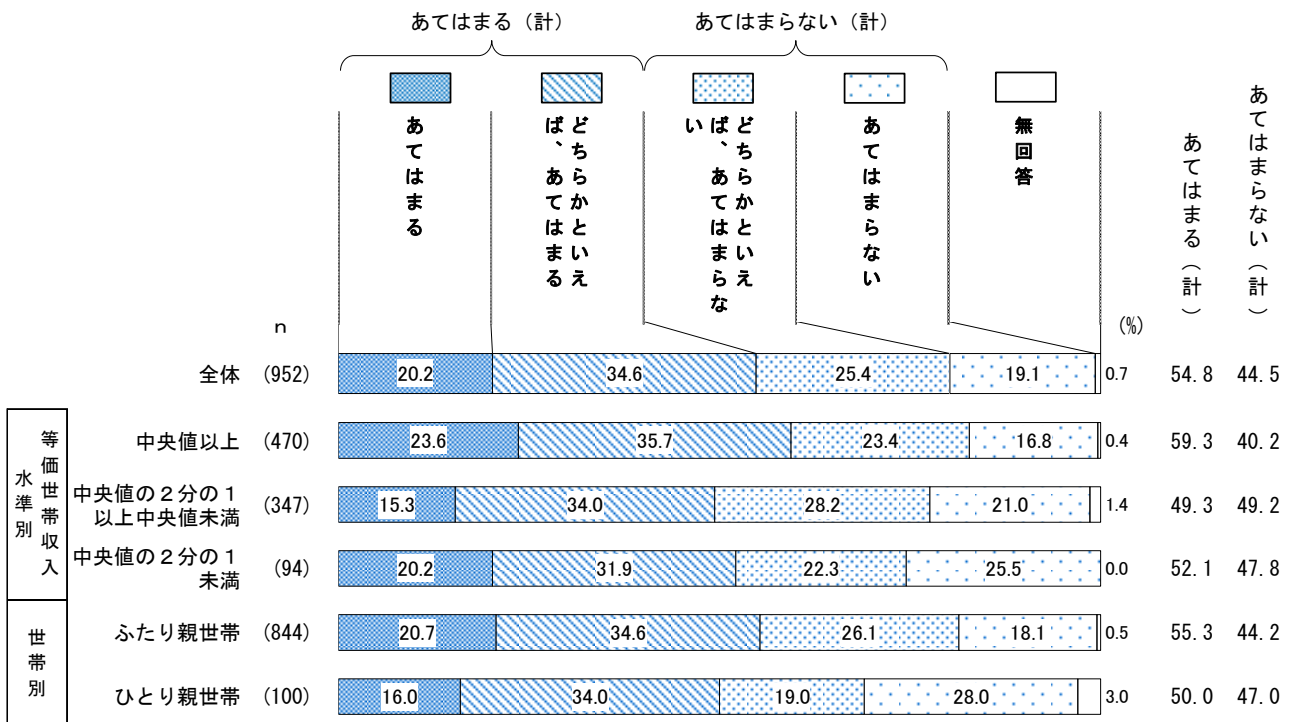
※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

■お子さんに本や新聞を読むように勧めている

お子さんに本や新聞を読むように勧めているかについて、《あてはまる 計》は54.8%となっています。

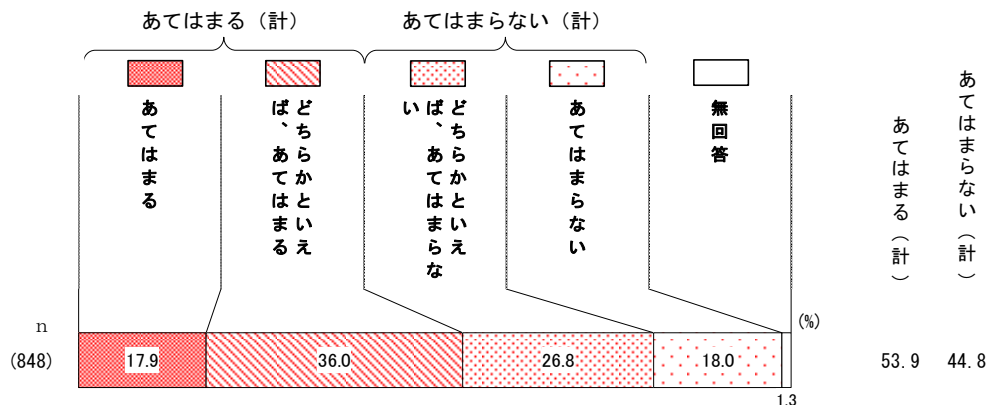
等価世帯収入水準別にみると、《あてはまらない 計》は、中央値以上の世帯では40.2%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では49.2%、中央値の2分の1未満の世帯では47.8%となっています。

世帯の状況別にみると、《あてはまらない 計》は、ふたり親世帯では44.2%、ひとり親世帯では47.0%となっています。



県調査※との比較

県調査の結果と比較すると、《あてはまる 計》は県調査が53.9%となっており、市調査(54.8%)とほぼ同率です。



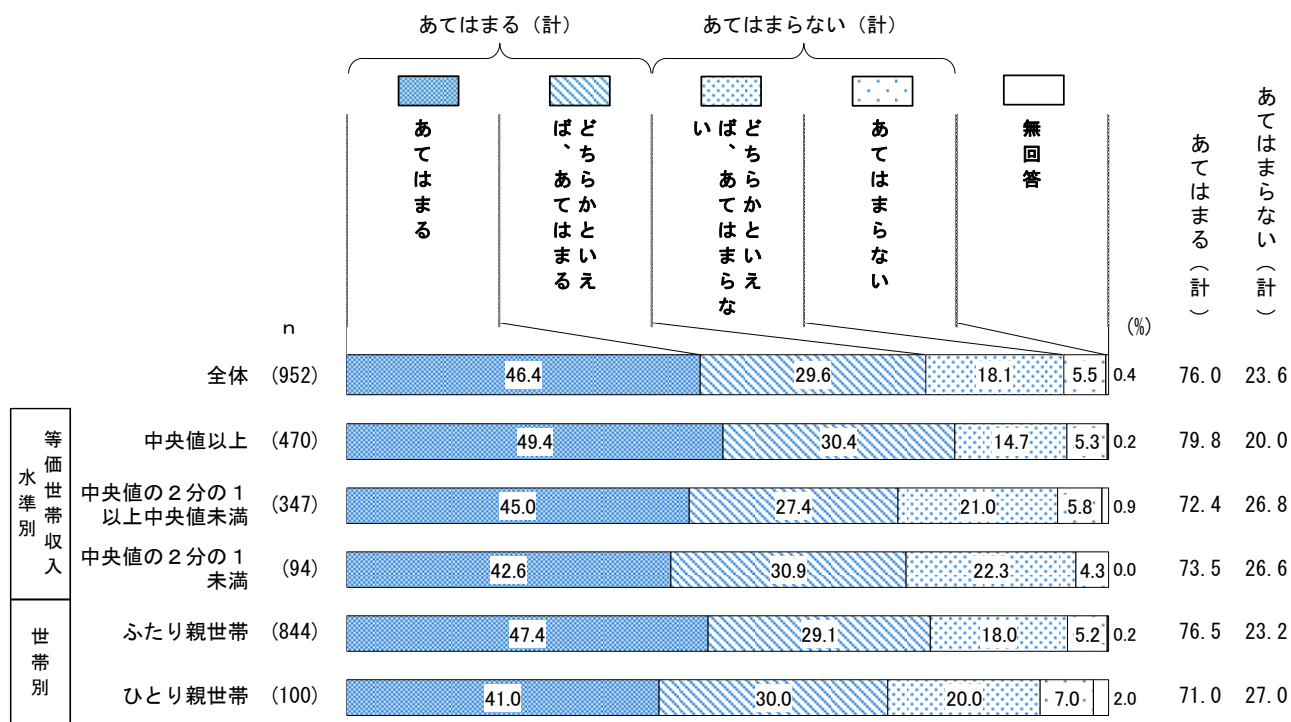
※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

■お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていたかについて、《あてはまる 計》は76.0%となっています。

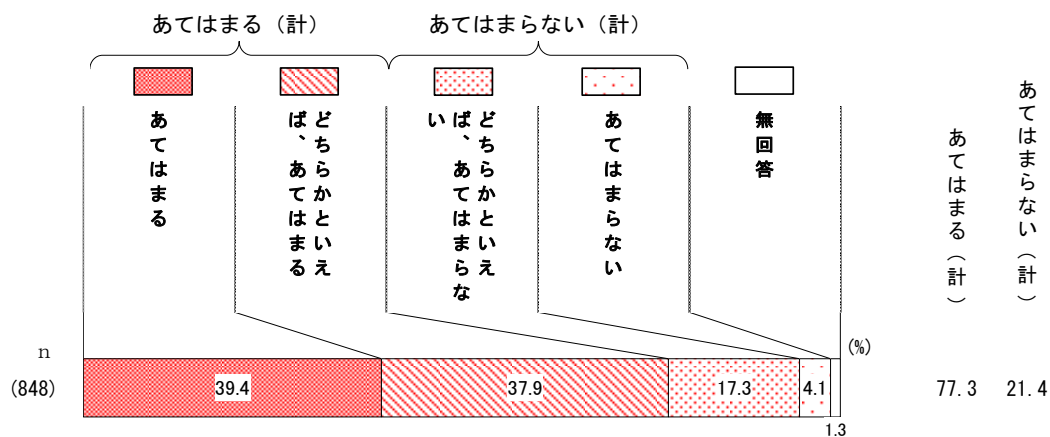
等価世帯収入水準別にみると、《あてはまらない 計》は、中央値以上の世帯では20.0%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では26.8%、中央値の2分の1未満の世帯では26.6%となっています。

世帯の状況別にみると、《あてはまらない 計》は、ふたり親世帯では23.2%、ひとり親世帯では27.0%となっています。



県調査※との比較

県調査の結果と比較すると、《あてはまる 計》は県調査が77.3%となっており、市調査(76.0%)とほぼ同率です。



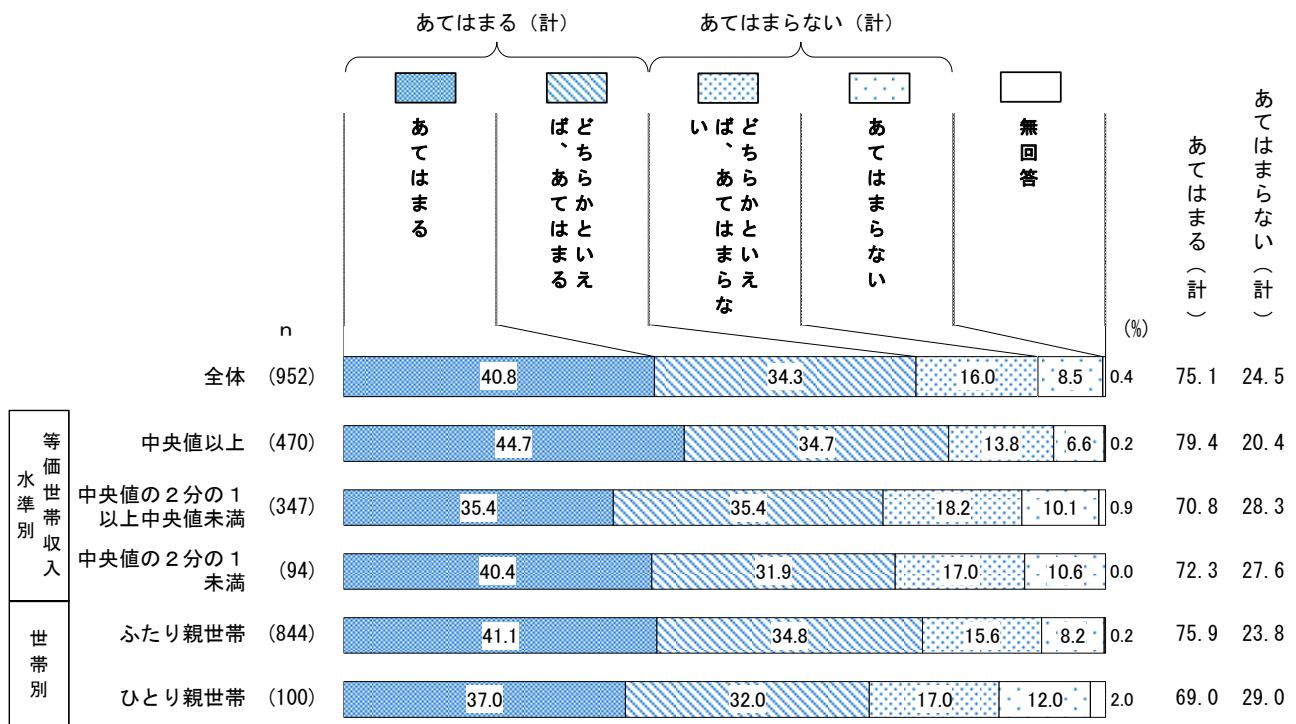
※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

■お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれるかについて、《あてはまる 計》は75.1%となっています。

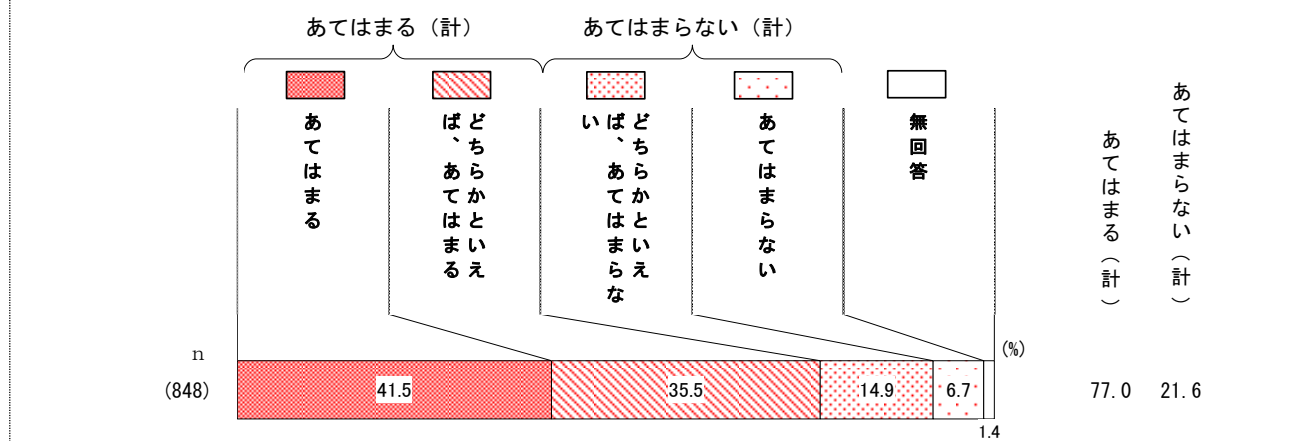
等価世帯収入水準別にみると、《あてはまらない 計》は、中央値以上の世帯では20.4%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では28.3%、中央値の2分の1未満の世帯では27.6%となっています。

世帯の状況別にみると、《あてはまらない 計》は、ふたり親世帯では23.8%、ひとり親世帯では29.0%となっています。



県調査※との比較

県調査の結果と比較すると、《あてはまる 計》は県調査が77.0%となっており、市調査(75.1%)とほぼ同率です。



※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

（4）学校等との関わり・参加【中学2年生保護者調査】

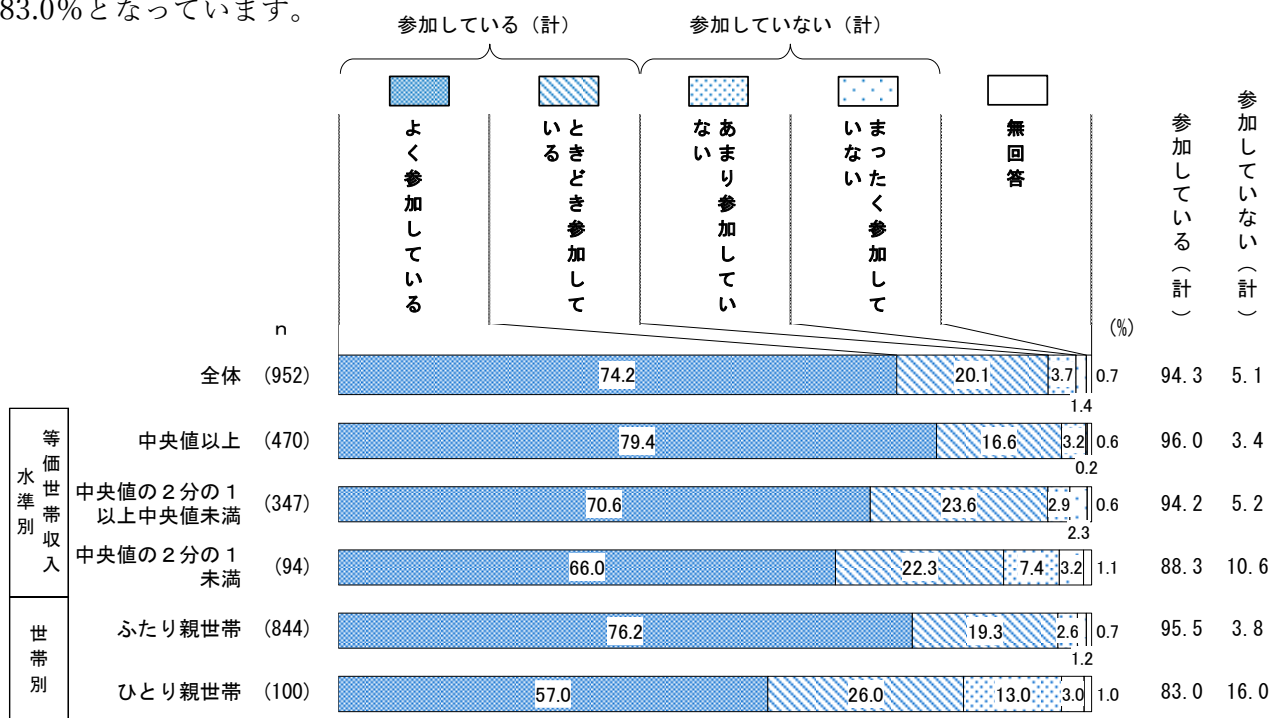
Q：あなたは、次のようなことをどの程度していますか。（○は1つ）

■授業参観や運動会などの学校行事への参加

授業参観や運動会などの学校行事への参加について、「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた《参加している 計》は94.3%となっています。

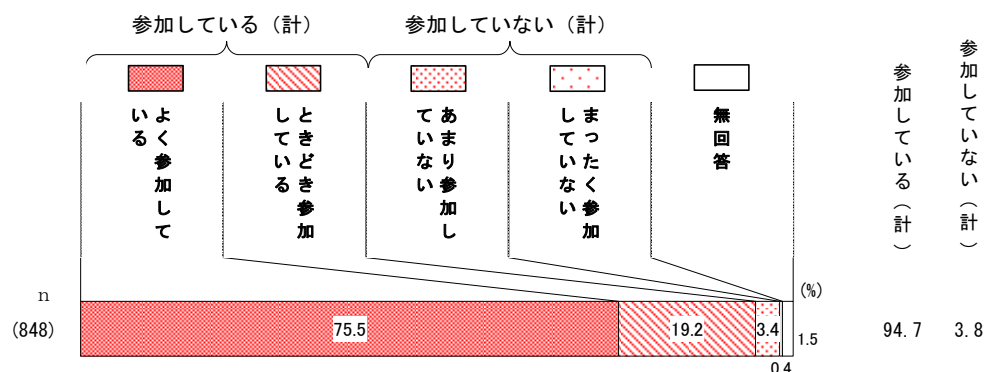
等価世帯収入水準別にみると、《参加している 計》は、中央値以上の世帯では96.0%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では94.2%、中央値の2分の1未満の世帯では88.3%となっています。

世帯の状況別にみると、《参加している 計》は、ふたり親世帯では95.5%、ひとり親世帯では83.0%となっています。



県調査※との比較

県調査の結果と比較すると、授業参観や運動会などの学校行事への参加については、《参加している 計》は県調査が94.7%、市調査が94.3%と同様の傾向がみられます。



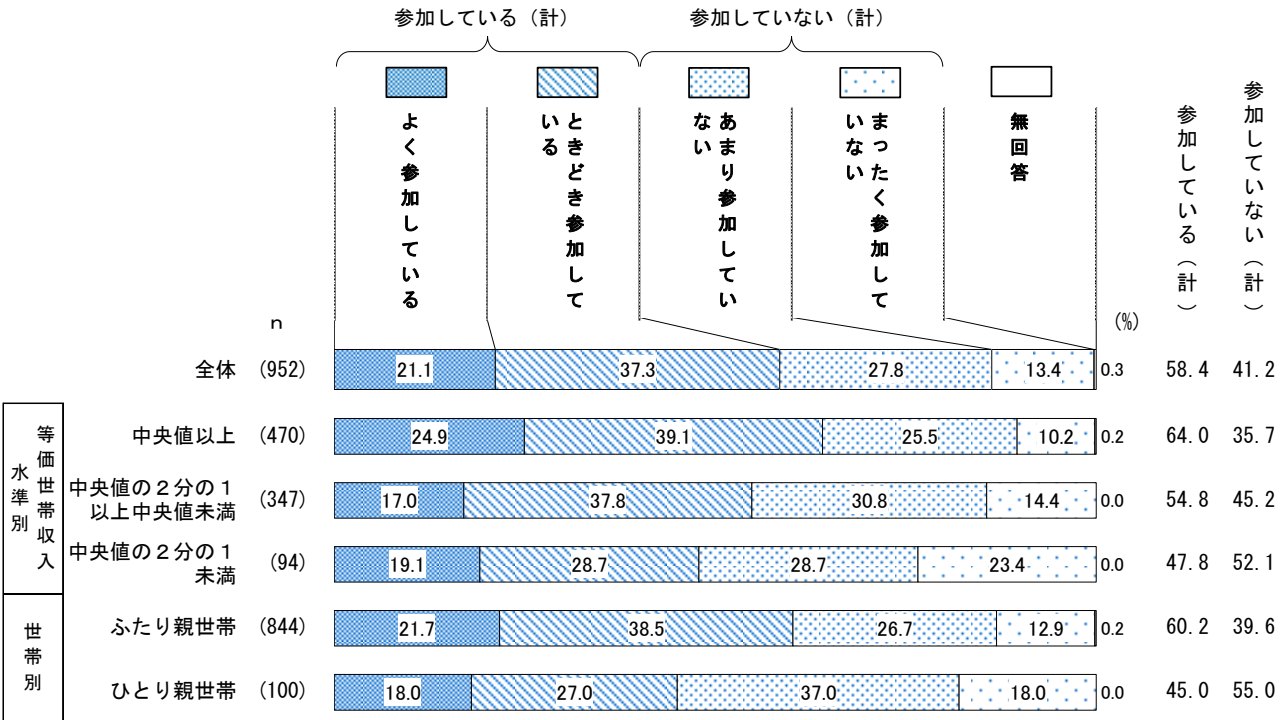
※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

■ P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加について、《参加している 計》は58.4%となっています。

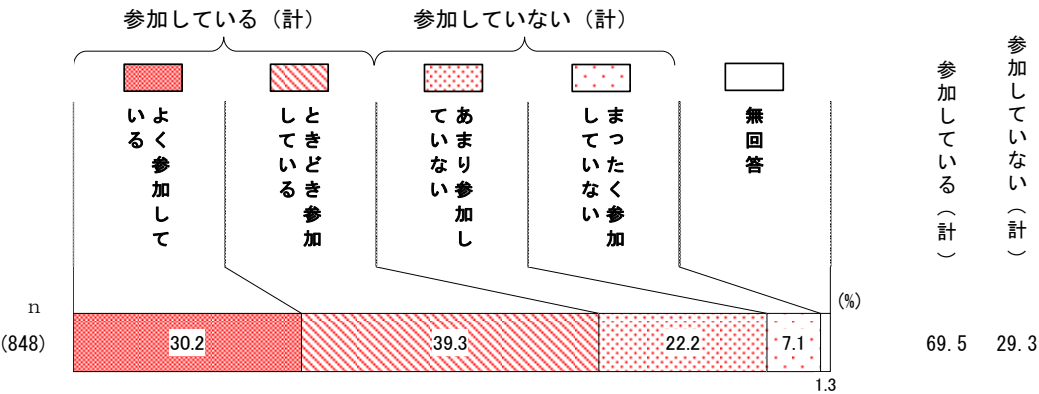
等価世帯収入水準別にみると、《参加している 計》は、中央値以上の世帯では64.0%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では54.8%、中央値の2分の1未満の世帯では47.8%となっています。

世帯の状況別にみると、《参加している 計》は、ふたり親世帯では60.2%、ひとり親世帯では45.0%となっています。



県調査※との比較

県調査の結果をみると、P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加については、《参加している 計》は県調査が69.5%、市調査が58.4%と、県調査よりも11.1ポイント下回っています。



※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

4 暮らしの状況について

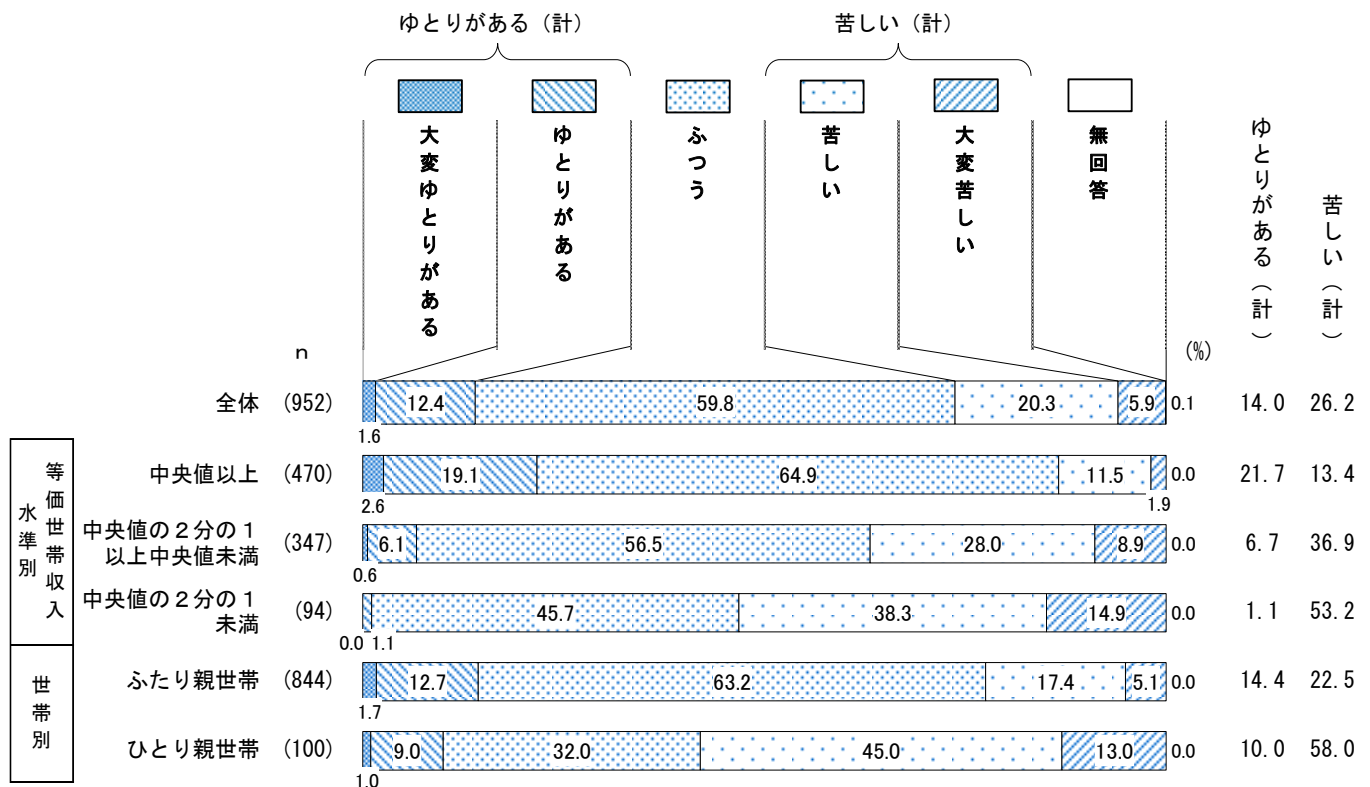
（1）暮らしの状況【中学2年生保護者調査】

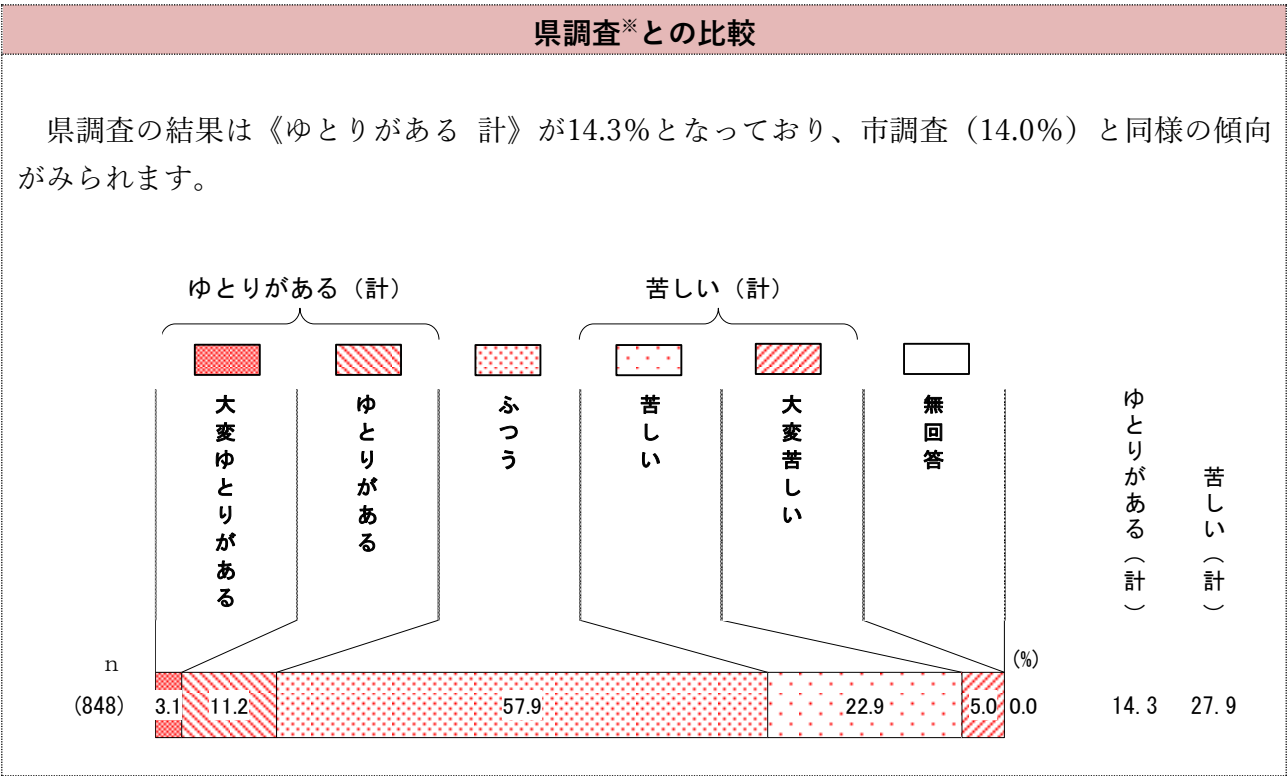
Q：あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。（○は1つ）

現在の暮らしの状況をどのように感じているかについては、「大変ゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせた《ゆとりがある 計》は14.0%となっています。「ふつう」は59.8%と多くを占めています。

等価世帯収入水準別にみると、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた《苦しい 計》は、中央値以上の世帯では13.4%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では36.9%、中央値の2分の1未満の世帯では53.2%となっています。

世帯の状況別にみると、《苦しい 計》は、ふたり親世帯では22.5%、ひとり親世帯では58.0%となっています。





※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

（2）食料が買えなかった経験・理由【中学2年生保護者調査】

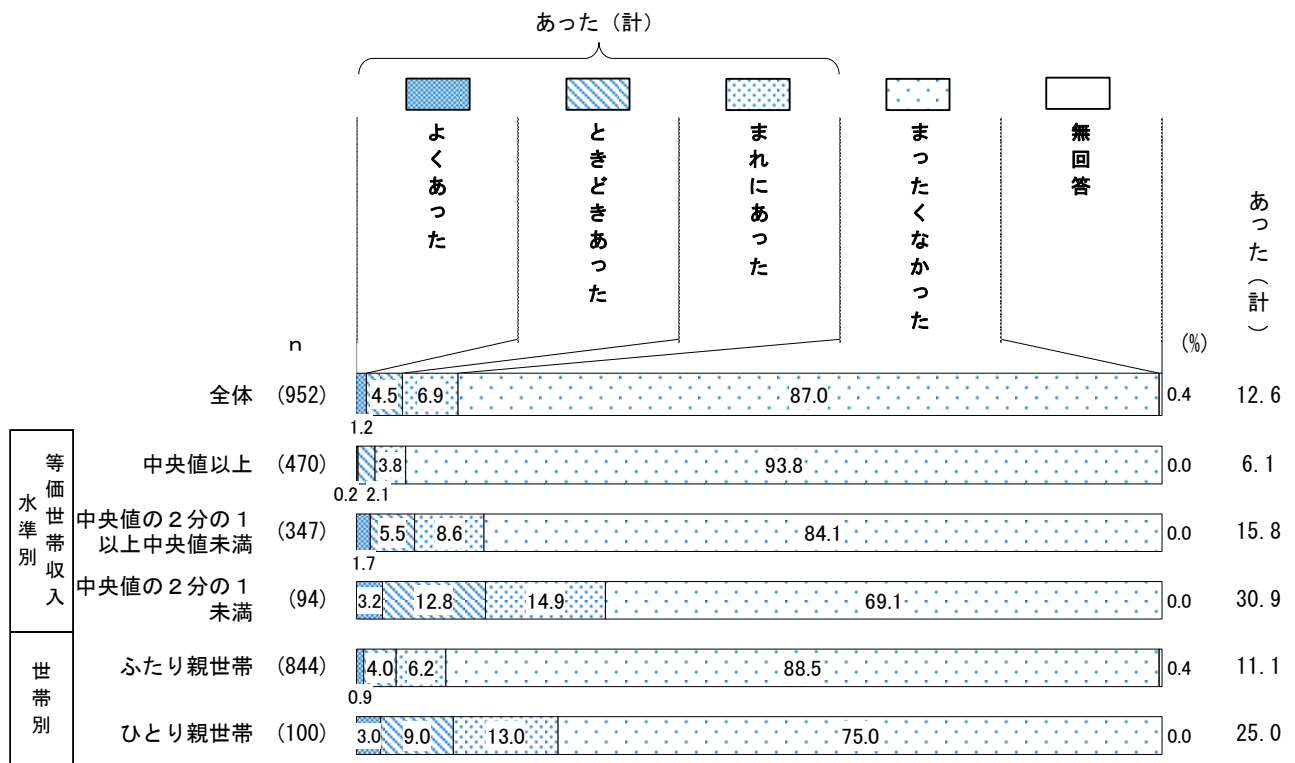
Q：あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。（○は1つ）

■食料が買えなかった経験

過去1年の間に必要とする食料が買えなかった経験があったかについては、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた《あった 計》は12.6%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《あった 計》は、「中央値以上」の世帯では6.1%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では15.8%、「中央値の2分の1未満」の世帯では30.9%となっています。

世帯の状況別にみると、《あった 計》は、ふたり親世帯では11.1%、ひとり親世帯では25.0%となっています。



※食料が買えなかった経験で「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を選んだ方
Q：その理由として考えられるものは何ですか。（〇はいくつでも）

■食料が買えなかった理由

食料が買えなかった理由については、「物価が上昇したため」が71.7%、「世帯の収入が減少したため」が29.2%、「大きな臨時支出があったため」が16.7%となっています。

		調査数（n）	物価が上昇したため	世帯の収入が減少したため	大きな臨時支出があったため	世帯主が失業したため	家族が増えるため	その他	無回答
単位：%									
全体		120	71.7	29.2	16.7	1.7	0.8	5.0	8.3
等価世帯収入水準別	中央値以上	29	69.0	20.7	24.1	0.0	0.0	6.9	13.8
	中央値の2分の1以上中央値未満	55	72.7	27.3	23.6	1.8	0.0	7.3	5.5
	中央値の2分の1未満	29	75.9	44.8	0.0	3.4	0.0	0.0	6.9
世帯別	ふたり親世帯	94	66.0	27.7	20.2	1.1	1.1	6.4	10.6
	ひとり親世帯	25	92.0	36.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0

※母数が30未満の項目は参考値とする。

（3）衣服が買えなかった経験・理由【中学2年生保護者調査】

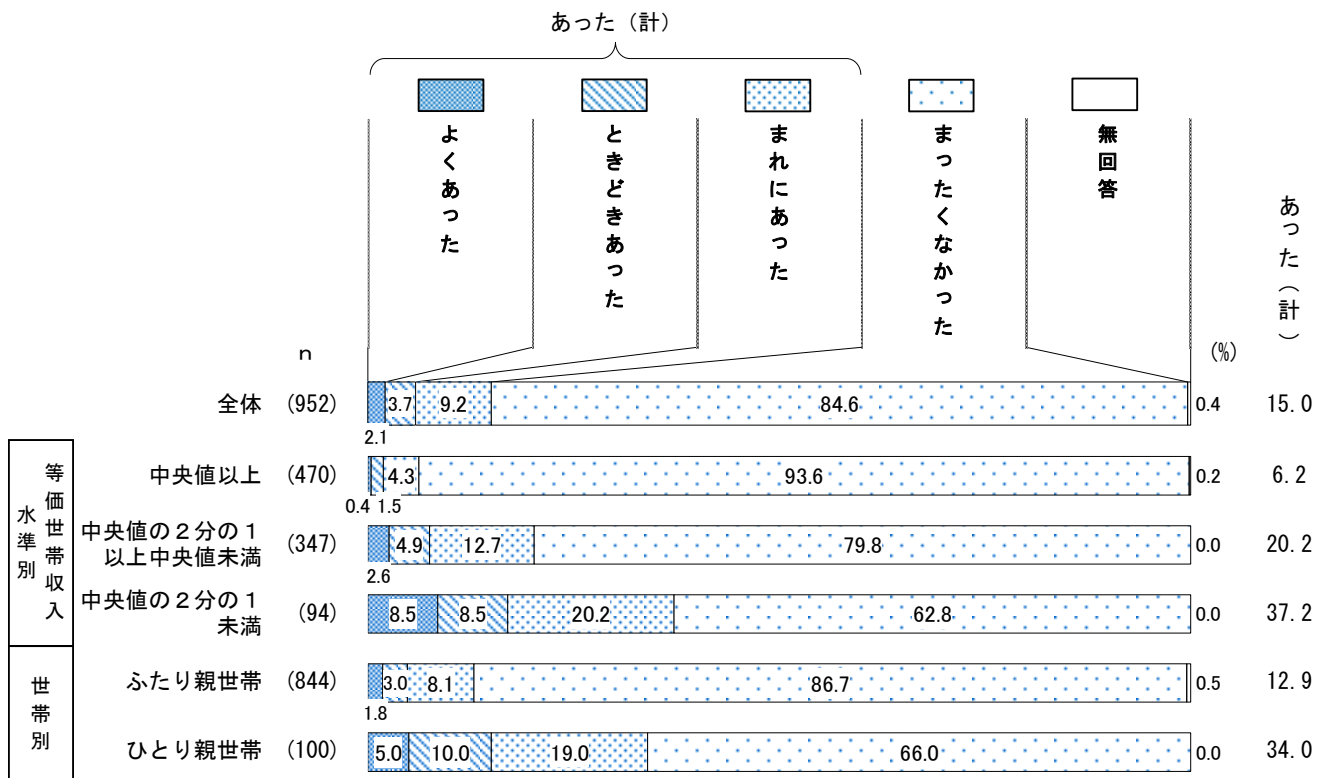
Q：あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。（○は1つ）

■衣服が買えなかった経験

過去1年の間に必要とする衣服が買えなかった経験があったかについては、《あった 計》は15.0%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《あった 計》は、中央値以上の世帯では6.2%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では20.2%、中央値の2分の1未満の世帯では37.2%となっています。

世帯の状況別にみると、《あった 計》は、ふたり親世帯では12.9%、ひとり親世帯では34.0%となっています。



※衣服が買えなかった経験で「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を選んだ方
Q：その理由として考えられるものは何ですか。（○はいくつでも）

■衣服が買えなかった理由

衣服が買えなかった理由については、「物価が上昇したため」が65.0%、「世帯の収入が減少したため」と「大きな臨時支出があったため」が24.5%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では「物価が上昇したため」のほか、「大きな臨時支出があったため」も高くなっています。

世帯の状況別にみると、「物価が上昇したため」はひとり親（79.4%）がふたり親（60.2%）に比べて19.2ポイント上回っています。

		調査数（n）	物価が上昇したため	世帯の収入が減少したため	大きな臨時支出があったため	世帯主が失業したため	家族が増えるため	その他	無回答
単位：%									
全体		143	65.0	24.5	24.5	1.4	0.0	5.6	9.8
等価世帯収入水準別	中央値以上	29	62.1	13.8	34.5	0.0	0.0	3.4	17.2
	中央値の2分の1以上中央値未満	70	68.6	25.7	30.0	1.4	0.0	5.7	4.3
	中央値の2分の1未満	35	65.7	34.3	8.6	2.9	0.0	2.9	11.4
世帯別	ふたり親世帯	108	60.2	22.2	27.8	0.9	0.0	6.5	12.0
	ひとり親世帯	34	79.4	32.4	14.7	2.9	0.0	2.9	2.9

※母数が30未満の項目は参考値とする。

(4) 公共料金における未払いの経験・理由【中学2年生保護者調査】

Q：あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありますか。（○はいくつでも）

■公共料金における未払いの経験

過去1年の間に「携帯電話、スマートフォン料金」、「電気料金」、「水道料金」、「ガス料金」について経済的な理由で未払いになったことがあるかについて、「あった」の割合は、「携帯電話、スマートフォン料金」が2.5%、「電気料金」が2.3%、「水道料金」が2.1%、「ガス料金」が2.0%となっています。また、いずれか1つ以上該当する割合は4.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、いずれの割合も中央値の2分の1未満の世帯で最も高く、「電気料金」が7.4%、「携帯電話、スマートフォン料金」が6.4%、「水道料金」と「ガス料金」が4.3%となっています。いずれか1つ以上該当する割合は、中央値以上の世帯では1.3%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では7.2%、中央値の2分の1未満の世帯では13.8%となっています。

世帯の状況別にみると、いずれの割合もひとり親世帯でやや高く、「水道料金」が6.0%、「携帯電話、スマートフォン料金」が4.0%、「電気料金」と「ガス料金」が3.0%となっています。いずれか1つ以上該当する割合は、ふたり親世帯では4.1%、ひとり親世帯では11.0%となっています。

		調査数 (n)	携帯電話、 スマートフォン料金	電気料金	水道料金	ガス料金	あてはまるものは ない	無回答
単位：%								
全体		952	2.5	2.3	2.1	2.0	94.3	0.8
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	0.4	0.9	0.9	0.6	98.5	0.2
	中央値の2分の1以上中央値未満	347	4.3	2.9	2.9	2.9	92.2	0.6
	中央値の2分の1未満	94	6.4	7.4	4.3	4.3	86.2	0.0
世帯別	ふたり親世帯	844	2.3	2.3	1.7	1.9	95.1	0.8
	ひとり親世帯	100	4.0	3.0	6.0	3.0	89.0	0.0

■公共料金における未払いの理由

※公共料金における未払いの経験で「1～4」※を選んだ方のみ回答

Q：その理由として考えられるものは何ですか。（○はいくつでも）

※ 選 択 肢	【公共料金における未払いの経験】							
	1. 電気料金							
	2. ガス料金							
	3. 水道料金							
	4. 携帯電話・スマートフォン料金							

経済的な理由で未払いがあった理由については、「物価が上昇したため」が56.5%、「世帯の収入が減少したため」が43.5%、「大きな臨時支出があったため」が39.1%となっています。

		調査数（n）	物価が 上昇した ため	世帯の 収入が 減少した ため	大 き な 臨 時 支 出 が あ っ た た め	世 帯 主 が 失 業 し た た め	家 族 が 増 え る た め	そ の 他	無 回 答
単位：%									
全体		46	56.5	43.5	39.1	2.2	2.2	10.9	0.0
等 価 水 準 別 世 帯 収 入	中央値以上	6	66.7	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	中央値の2分の1 以上中央値未満	25	56.0	44.0	44.0	4.0	4.0	16.0	0.0
	中央値の2分の1 未満	13	61.5	46.2	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0
世 帯 別	ふたり親世帯	34	52.9	44.1	41.2	2.9	2.9	11.8	0.0
	ひとり親世帯	11	63.6	36.4	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0

※母数が30未満の項目は参考値とする。

5 学習状況について

（1）学校の授業以外の勉強の仕方【中学2年生調査】

Q：あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。（○はいくつでも）
※勉強には学校の宿題も含まれます。

ふだん学校の授業以外でどのように勉強をしているのかについては、「自分で勉強する」が84.9%、次いで「塾で勉強する」が45.2%、「家の人に教えてもらう」が31.6%、「友達と勉強する」が25.8%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「家の人に教えてもらう」が22.3%、「友達と勉強する」が19.1%で他の世帯と比べて低くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べて、「自分で勉強する」、「塾で勉強する」、「家の人に教えてもらう」の割合が低くなっています。

単位：%		調査数（n）	自分で勉強する	塾で勉強する	家の人に教えてもらう	友達と勉強する	地域の人が行う無料の勉強会に参加する	家庭教師に教えてもらう	学校の補習を受ける	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答
全体		952	84.9	45.2	31.6	25.8	2.7	1.8	0.5	4.0	4.0	0.1
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	85.1	54.3	35.7	26.2	2.1	1.3	0.9	3.8	2.3	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	347	85.3	36.3	29.4	27.1	3.2	2.3	0.0	4.0	5.5	0.3
	中央値の2分の1未満	94	80.9	33.0	22.3	19.1	4.3	2.1	1.1	4.3	6.4	0.0
世帯別	ふたり親世帯	844	86.0	46.2	32.7	26.2	2.8	1.7	0.6	4.0	3.8	0.1
	ひとり親世帯	100	78.0	38.0	21.0	23.0	2.0	3.0	0.0	4.0	4.0	0.0

（2）授業以外の1日あたりの勉強時間【中学2年生調査】

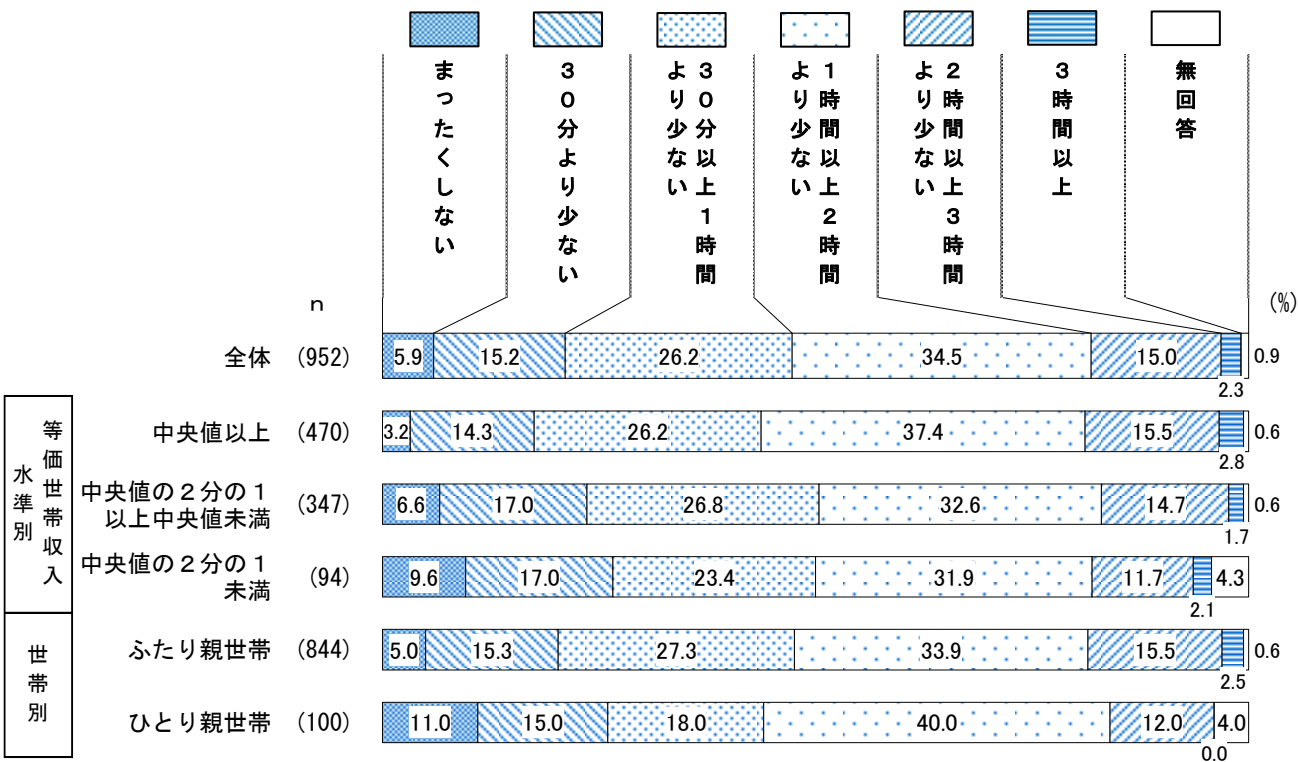
Q：あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。
※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。

■学校がある日（月～金曜日）

学校の授業以外での1日あたりの勉強時間について、「学校がある日（月～金曜日）」では、「1時間以上、2時間より少ない」が34.5%で最も割合が高く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が26.2%となっています。また、「まったくしない」は5.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「2時間以上」勉強している割合が他の世帯と比べてやや低くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べて、「2時間以上」勉強している割合が低く、「まったくしない」の割合が高くなっています。

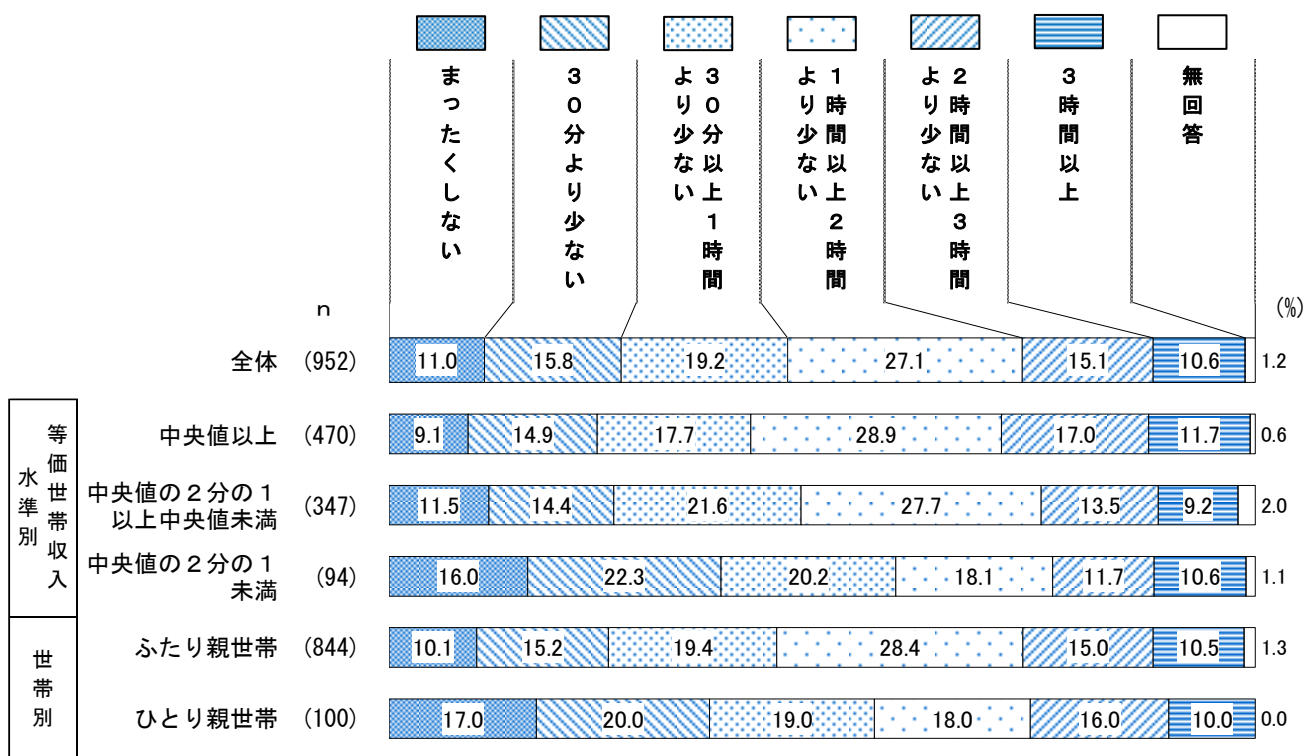


■学校がない日（土・日曜日・祝日）

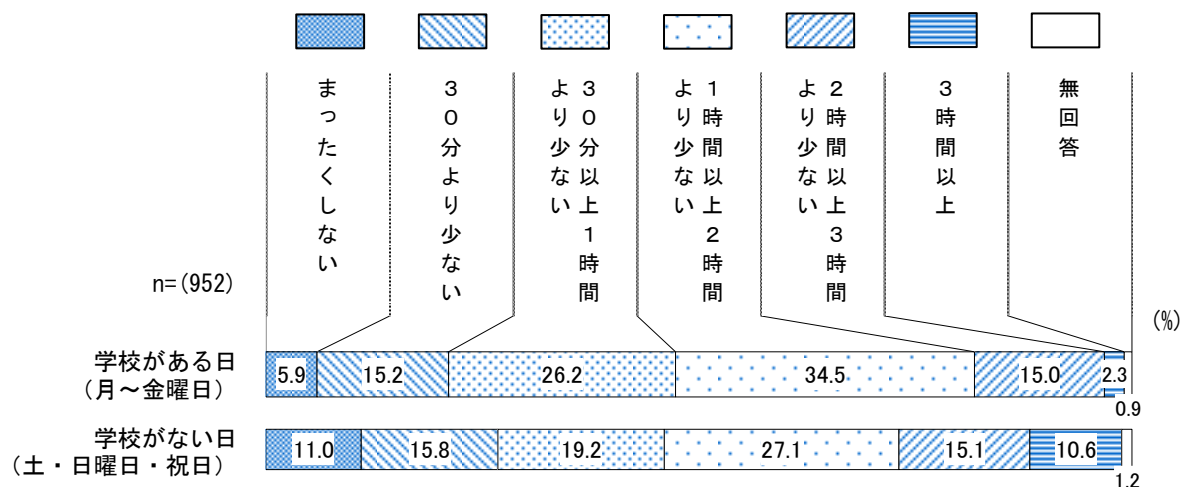
学校の授業以外での1日あたりの勉強時間について、「学校がない日（土・日曜日・祝日）」では、「1時間以上、2時間より少ない」が27.1%で最も割合が高く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が19.2%となっています。また、「まったくしない」は11.0%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「30分より少ない」の割合が他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べて、「まったくしない」の割合が高くなっています。



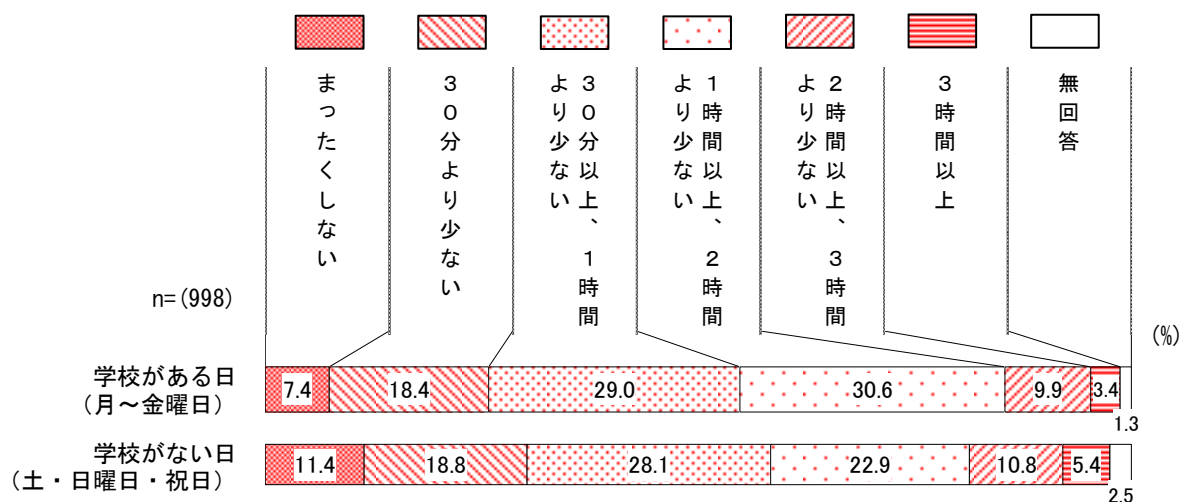
■学校がある日（月～金曜日）、学校がない日（土・日曜日・祝日）【再掲】



県調査※との比較

県調査の結果をみると、学校がある日（月～金曜日）の勉強時間については、「1時間以上、2時間より少ない」が30.6%で最も割合が高く、「30分以上、1時間より少ない」が29.0%と続いております、市調査と同様の傾向がみられます。

学校がない日（土・日曜日・祝日）の勉強時間については、「30分以上、1時間より少ない」が28.1%で最も割合が高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が22.9%となっております、市調査と上位項目が逆転しています。



※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

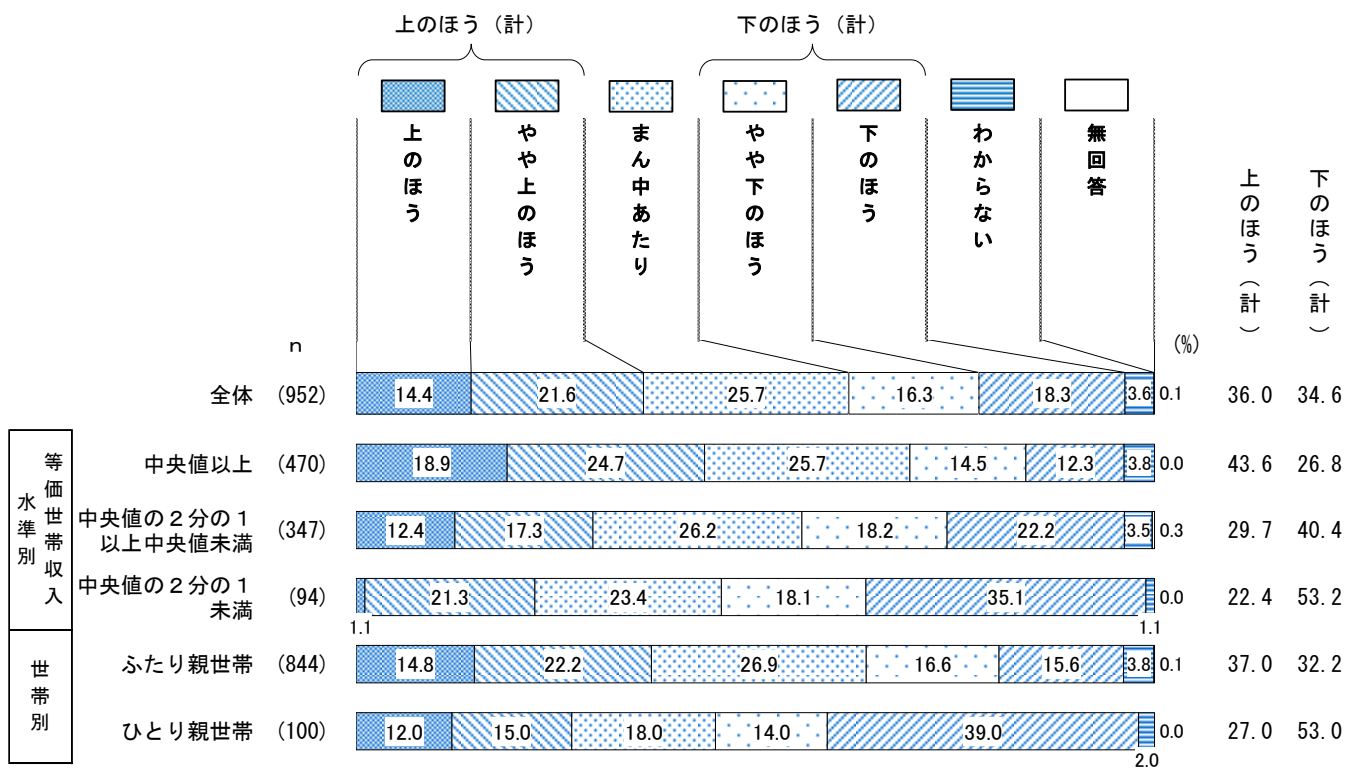
（3）クラスの中での成績【中学2年生調査】

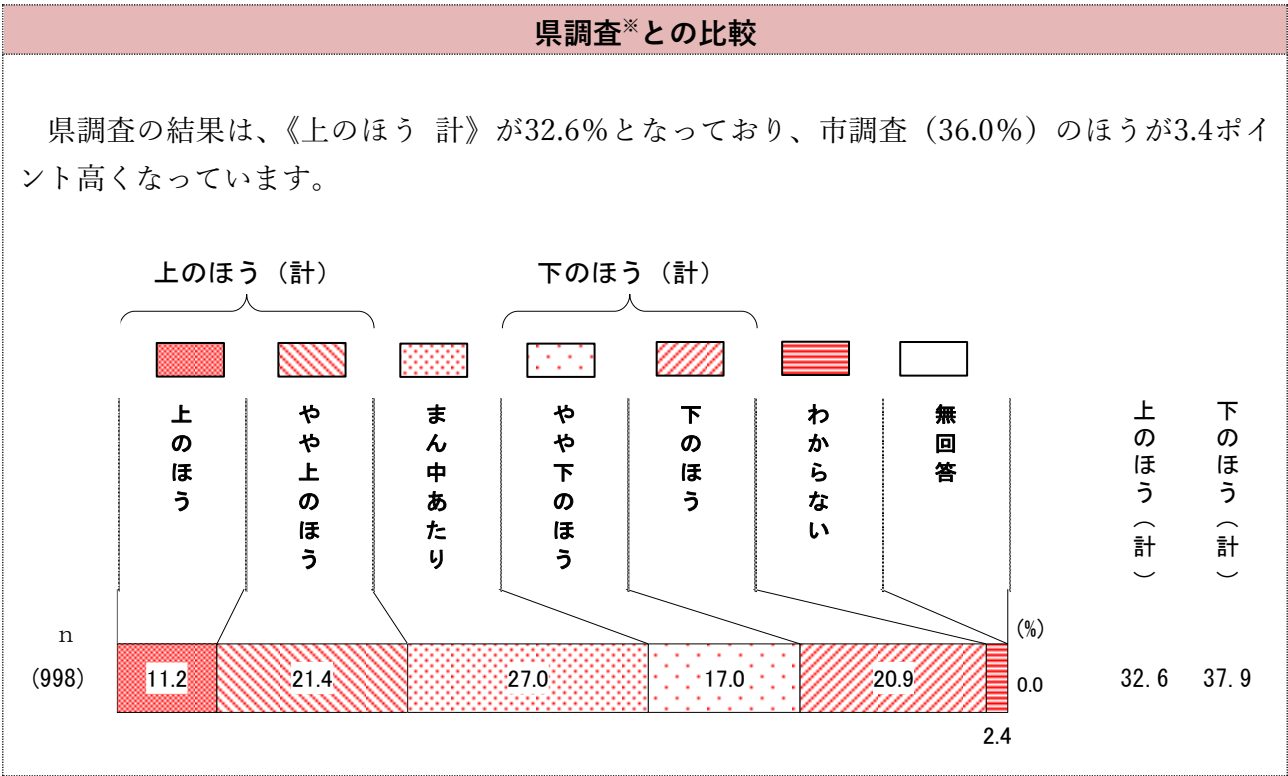
Q：あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。（○は1つ）

クラスの中での成績については、「上のほう」は14.4%、「やや上のほう」は21.6%、「まん中あたり」は25.7%、「やや下のほう」は16.3%、「下のほう」は18.3%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた《下のほう 計》は、中央値以上の世帯では26.8%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では40.4%、中央値の2分の1未満の世帯では53.2%となっています。

世帯の状況別にみると、《下のほう 計》は、「ふたり親世帯」では32.2%、「ひとり親世帯」では53.0%となっています。





※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

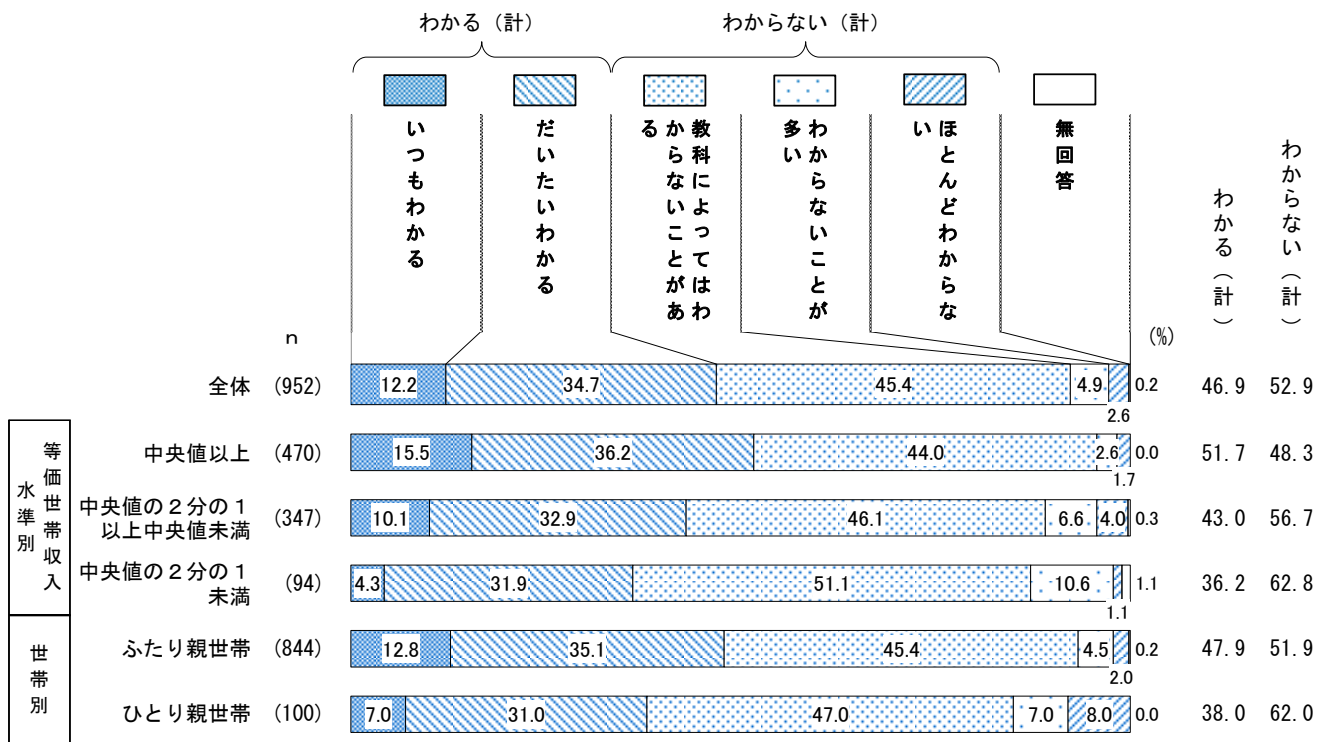
（4）授業の理解状況【中学2年生調査】

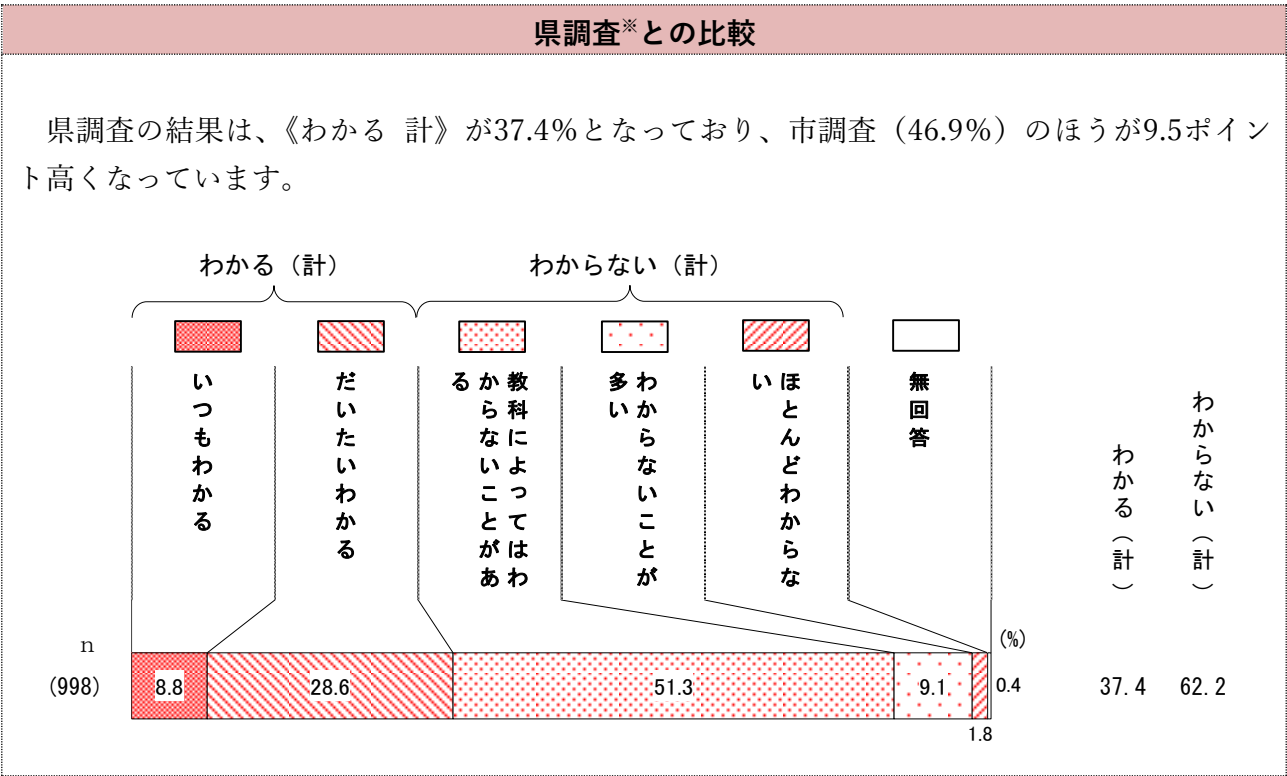
Q：あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。（○は1つ）

学校の授業の理解状況については、「いつもわかる」は12.2%、「だいたいわかる」は34.7%、「教科によってはわからないことがある」は45.4%、「わからないことが多い」は4.9%、「ほとんどわからない」は2.6%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」合わせた《わからない 計》は、中央値以上の世帯では48.3%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では56.7%、中央値の2分の1未満の世帯では62.8%となっています。

世帯の状況別にみると、《わからない 計》は、ふたり親世帯では51.9%、ひとり親世帯では62.0%となっています。





※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

（5）授業がわからなくなった時期【中学2年生調査】

※学校の授業がわからないことがあるかで「3」、「4」、「5」※を選んだ方のみ回答

Q：いつごろから、授業がわからないことがありましたか。（○は1つ）

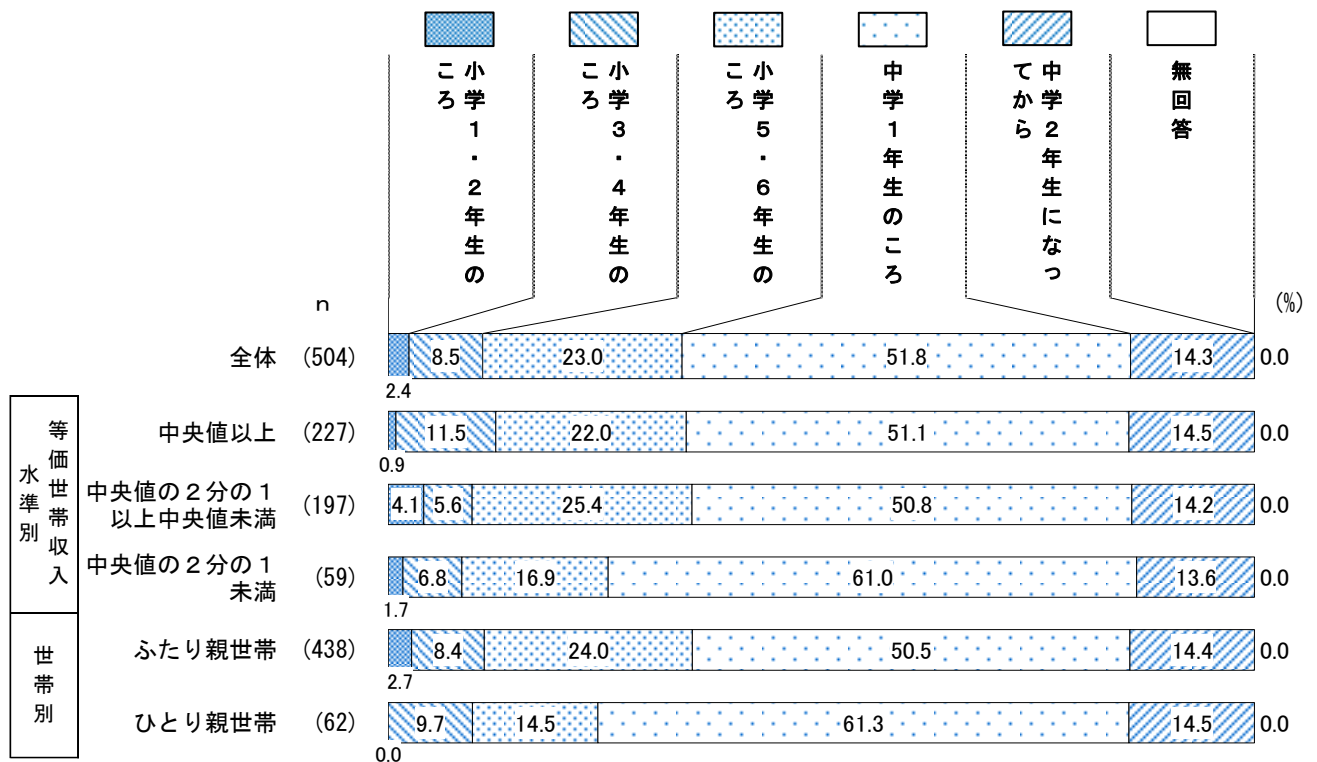
※選
択
肢

- 3.教科によってはわからないことがある
- 4.わからないことが多い
- 5.ほとんどわからない

授業がわからなくなった時期については、「小学1・2年生のころ」が2.4%、「小学3・4年生のころ」が8.5%、「小学5・6年生のころ」が23.0%、「中学1年生のころ」が51.8%、「中学2年生になってから」が14.3%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、小学生の時期に授業がわからなくなった割合は25.4%と他の世帯と比べて低くなっていますが、一方で「中学1年生のころ」の割合が61.0%と高く、中学生になると授業がわからなくなる傾向がみられます。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べて、小学生の時期に授業がわからなくなった割合は24.2%と低くなっていますが、一方で「中学1年生のころ」の割合が61.3%と高く、中央値の2分の1未満の世帯と同様に、中学生になると授業がわからなくなる傾向がみられます。



(2) 進学志望についてそう考える理由【中学2年生調査】

※進学したいと思う教育段階で「1～7」※を選んだ方のみ回答

Q：その理由を教えてください。（〇はいくつでも）

※選 択 肢	1.中学校まで 2.高等学校まで 3.専門学校まで 4.短大まで	5.5年制の高等専門学校まで 6.大学まで 7.大学院まで

進学希望の理由については、「希望する学校や職業があるから」が55.0%、次いで「親がそう言っているから」が20.1%、「自分の成績から考えて」が16.5%となっています。

進学したいと思う教育段階別にみると、進学希望の教育段階が「高等学校まで」の場合には、「自分の成績から考えて」が26.3%、「家にお金がないと思うから」が6.6%、「早く働く必要があるから」が10.2%、「とくに理由はない」が30.7%で、他の場合と比べて高くなっています。一方、「希望する学校や職業があるから」の回答割合は低くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「早く働く必要があるから」が6.7%、「家にお金がないと思うから」が5.3%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「早く働く必要があるから」が7.3%、「家にお金がないと思うから」が6.1%と、ふたり親世帯と比べて高くなっています。

			調査数（n）	希望する学校や職業があるから	親がそう言っているから	自分の成績から考えて	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	早く働く必要があるから	家にお金がないと思うから	その他	とくに理由はない	無回答
単位：％													
全体		726	55.0	20.1	16.5	8.5	3.7	3.4	1.9	5.6	21.1	0.0	
進学 したいと 思う 教育段階別	高等学校まで	137	36.5	15.3	26.3	4.4	4.4	10.2	6.6	4.4	30.7	0.0	
	専門学校、短大、 高等専門学校まで	106	78.3	6.6	11.3	2.8	2.8	1.9	0.9	2.8	14.2	0.0	
	大学または それ以上	483	55.1	24.4	14.9	11.0	3.7	1.9	0.8	6.6	19.9	0.0	
等価 世帯 収入 水準別	中央値以上	370	58.1	23.0	16.2	11.1	4.9	3.5	0.8	6.8	17.3	0.0	
	中央値の2分の1 以上中央値未満	252	51.6	17.1	17.1	5.2	2.4	2.8	2.4	5.6	24.6	0.0	
	中央値の2分の1 未満	75	46.7	20.0	13.3	5.3	4.0	6.7	5.3	1.3	30.7	0.0	
世帯 別	ふたり親世帯	639	55.2	19.7	16.4	9.5	3.8	3.0	1.4	5.8	21.0	0.0	
	ひとり親世帯	82	53.7	22.0	15.9	1.2	2.4	7.3	6.1	4.9	20.7	0.0	

（3）子どもの進学段階に関する希望・展望【中学2年生保護者調査】

Q：お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。（○は1つ）

子どもが将来どの段階まで進学するかについては、「大学まで」が52.1%、次いで「まだわからない」が20.5%、「専門学校まで」が12.3%、「高等学校まで」が10.8%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「大学まで」の割合は、中央値以上の世帯では62.6%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では42.7%、中央値の2分の1未満の世帯では34.0%となっており、中央値の2分の1未満の世帯では「高等学校まで」の割合が25.5%で他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べて、「大学まで」の割合が低く、「高等学校まで」と「専門学校まで」の割合が高くなっています。

単位：%		調査数（n）	中学校まで	高等学校まで	専門学校まで	短大まで	5年制の高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	まだわからない	無回答
全体		952	0.5	10.8	12.3	1.7	0.1	52.1	2.0	0.0	20.5	0.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	0.0	5.7	10.4	1.7	0.0	62.6	3.0	0.0	16.6	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	347	0.9	13.5	14.1	2.0	0.3	42.7	1.4	0.0	25.1	0.0
	中央値の2分の1未満	94	2.1	25.5	16.0	1.1	0.0	34.0	0.0	0.0	21.3	0.0
世帯別	ふたり親世帯	844	0.5	9.5	11.6	1.5	0.1	54.4	2.0	0.0	20.4	0.0
	ひとり親世帯	100	1.0	21.0	18.0	3.0	0.0	33.0	2.0	0.0	22.0	0.0

（4）進学段階に関する希望・展望についてそう考える理由【中学2年生保護者調査】

※子どもの進学段階に関する希望・展望で「1～7」※を選んだ方のみ回答

Q：その理由は何ですか。（○はいくつでも）

※選択肢	1.中学校まで 2.高等学校まで 3.専門学校まで 4.短大まで	5.5年制の高等専門学校まで 6.大学まで 7.大学院まで

進学希望・展望の理由については、「お子さんがそう希望しているから」が46.2%、次いで「お子さんの学力から考えて」が35.3%、「一般的な進路だと思うから」が28.8%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「家庭の経済的な状況から考えて」が20.3%と他の世帯と比べて高く、「お子さんがそう希望しているから」が37.8%と低くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「家庭の経済的な状況から考えて」が23.1%と、ふたり親世帯と比べて高くなっています。

			調査数（n）								
			単位：%								
			無回答								
			特に理由はない								
			その他								
			家庭の経済的な状況から考えて								
			一般的な進路だと思うから								
			お子さんの学力から考えて								
			お子さんがそう希望しているから								
			調査数（n）								
			単位：%								
全体		757	46.2	35.3	28.8	9.0	4.5	7.4	0.0		
等価世帯収入水準別	中央値以上	392	50.3	35.2	33.9	6.1	4.8	5.4	0.0		
	中央値の2分の1以上中央値未満	260	44.2	35.0	25.0	10.4	3.8	8.8	0.0		
	中央値の2分の1未満	74	37.8	36.5	12.2	20.3	6.8	13.5	0.0		
世帯別	ふたり親世帯	672	47.2	35.0	30.2	7.3	4.5	7.4	0.0		
	ひとり親世帯	78	39.7	38.5	16.7	23.1	5.1	7.7	0.0		

7 部活動等への参加について

（1）部活動への参加状況【中学2年生調査】

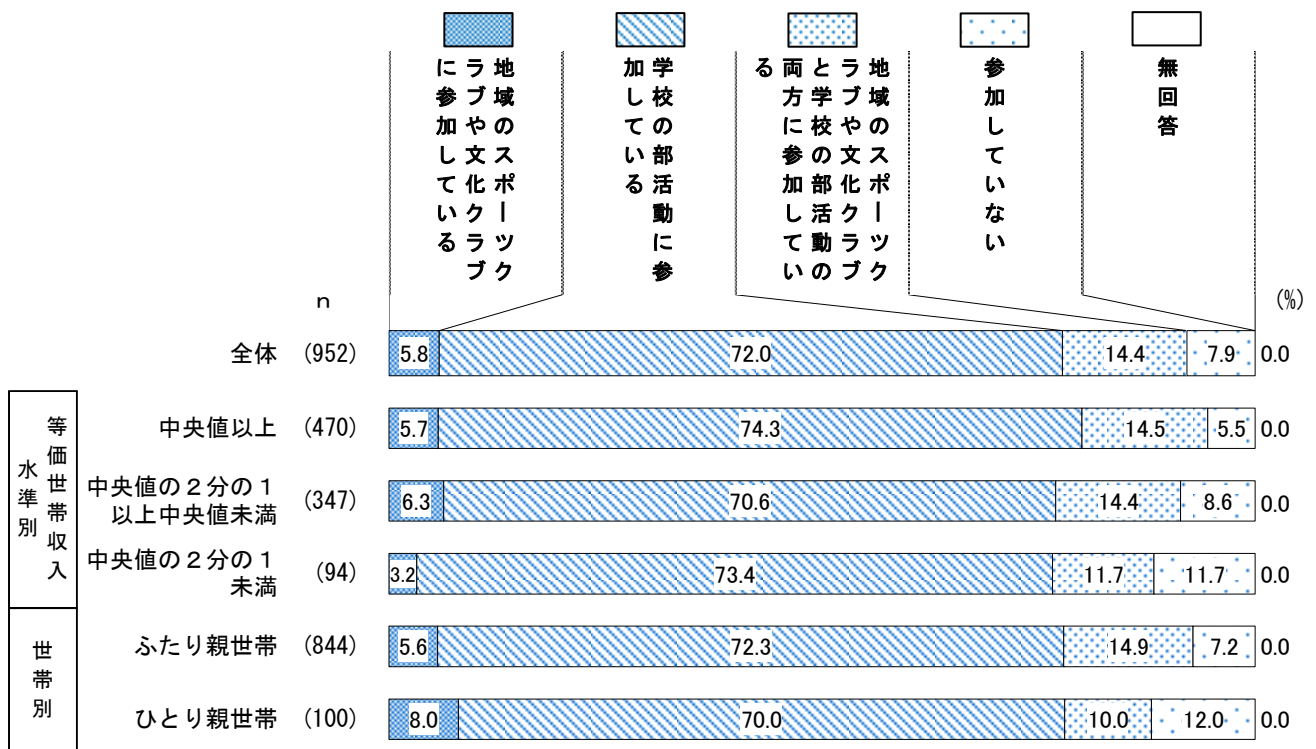
Q：あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。

（○は1つ）

地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加について、「地域のスポーツクラブや文化クラブに参加している」が5.8%、「学校の部活動に参加している」が72.0%、「地域のスポーツクラブや文化クラブと学校の部活動の両方に参加している」が14.4%、「参加していない」が7.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「参加していない」の割合は、中央値以上の世帯では5.5%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では8.6%、中央値の2分の1未満の世帯では11.7%となっています。

世帯の状況別にみると、「参加していない」の割合は、ふたり親世帯では7.2%、ひとり親世帯では12.0%となっています。



（2）部活動等に参加していない理由【中学2年生調査】

※地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動の参加状況で「4.参加していない」※を選んだ方のみ回答

Q：参加していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

部活動等に参加していない理由については、「入りたいクラブ・部活動がないから」が38.7%、「家の事情(家族の世話、家事など)があるから」と「一緒に入る友達がいないから」が8.0%となっています。

単位：%		調査数（n）	入りたいクラブ・部活動がないから	家の事情（家族の世話、家事など）があるから	一緒に入る友達がいないから	費用がかかるから	塾や習い事が忙しいから	その他	無回答
全体		75	38.7	8.0	8.0	6.7	5.3	53.3	0.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	26	38.5	11.5	11.5	7.7	7.7	46.2	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	30	23.3	3.3	6.7	3.3	3.3	63.3	0.0
	中央値の2分の1未満	11	72.7	9.1	9.1	9.1	0.0	45.5	0.0
世帯別	ふたり親世帯	61	32.8	9.8	8.2	6.6	4.9	60.7	0.0
	ひとり親世帯	12	58.3	0.0	8.3	8.3	8.3	25.0	0.0

※母数が30未満の項目は参考値とする。

8 日常的な生活の状況について

（1）食事の状況・食事を毎日食べない理由・1回の食事の量【中学2年生調査】

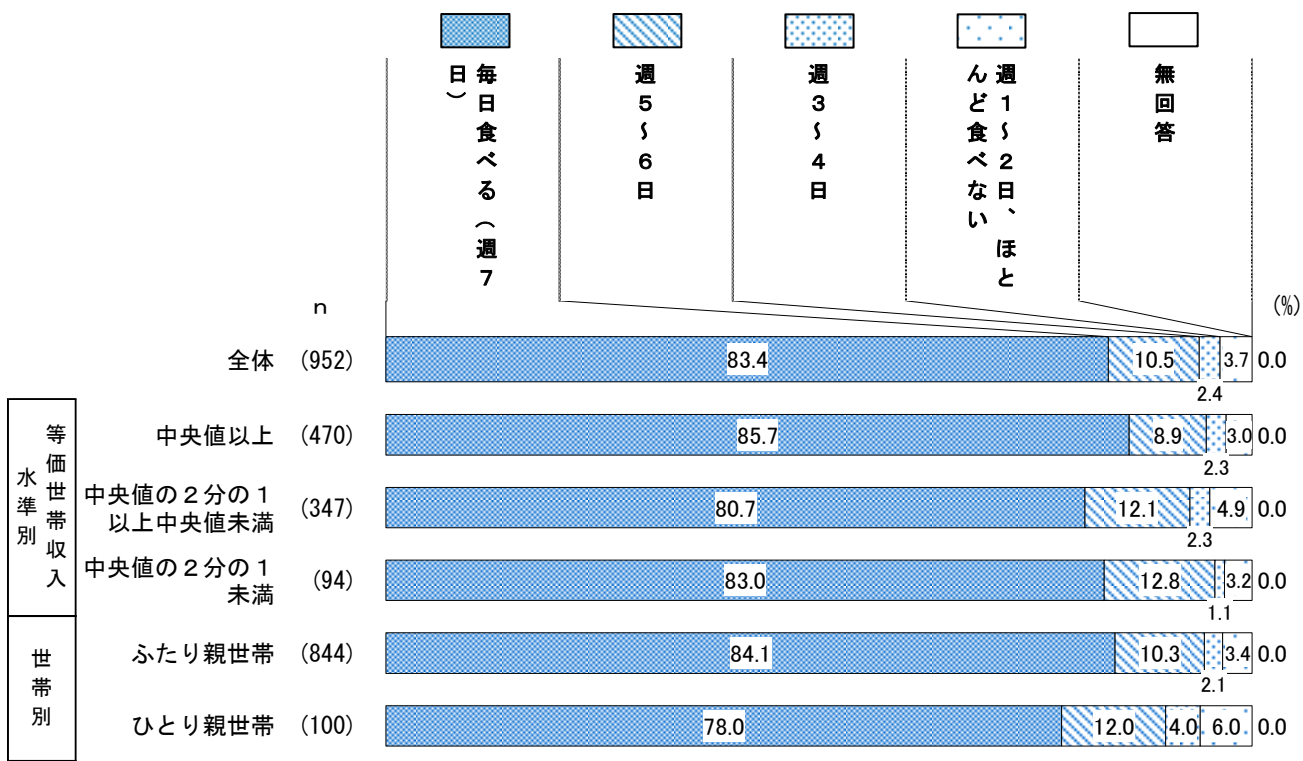
Q：あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。（○は1つ）

■朝食（食事の状況）

「朝食」の状況については、「毎日食べる（週7日）」が83.4%、「週5～6日」が10.5%、「週3～4日」が2.4%、「週1～2日、ほとんど食べない」が3.7%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯では、「毎日食べる（週7日）」の割合が85.7%と他の世帯と比べてやや高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「毎日食べる（週7日）」の割合が78.0%と、ふたり親世帯と比べて低くなっています。



※食事の状況で「2～4」※を選んだ方のみ回答

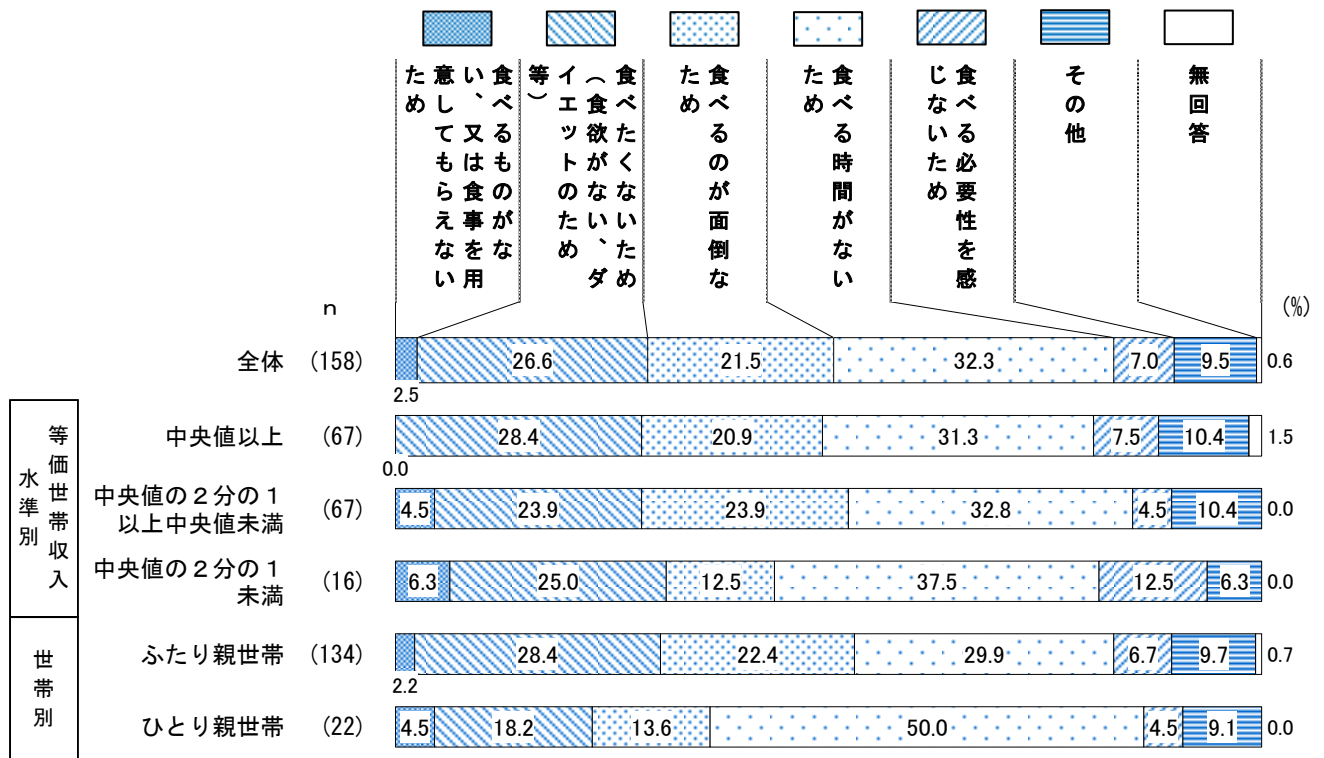
Q：食事を毎日食べない理由は何ですか。（○は1つ）

※選択肢

- 2.週5～6日
- 3.週3～4日
- 4.週1～2日、ほとんど食べない

■朝食（毎日食べない理由）

「朝食」を毎日食べない理由については、「食べる時間がないため」が32.3%、次いで「食べたくないため（食欲がない、ダイエットのため等）」が26.6%、「食べるのが面倒なため」が21.5%となっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

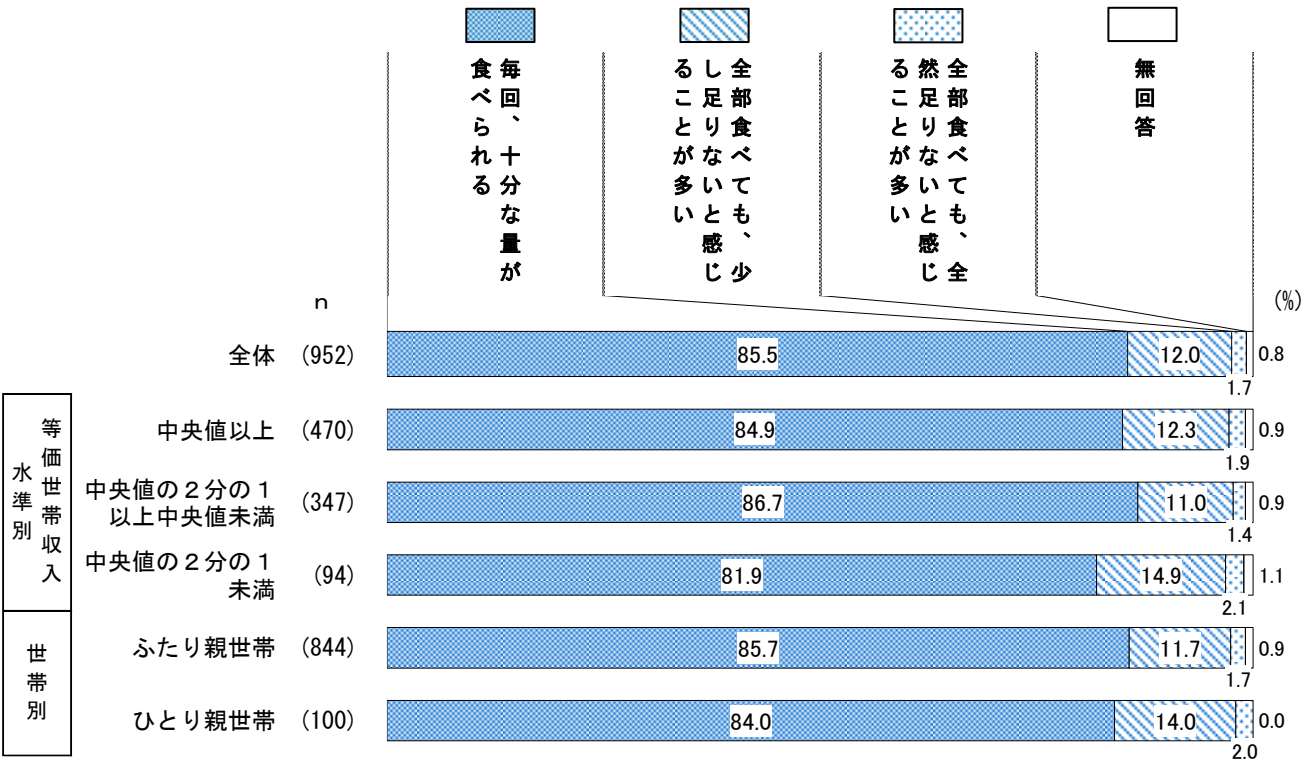
Q：1回の食事の量はどの程度ですか。（○は1つ）

■朝食（1回の食事量）

「朝食」の1回の量については、「毎回、十分な量が食べられる」が85.5%、「全部食べても、少し足りないと感じることが多い」が12.0%、「全部食べても、全然足りないと感じることが多い」が1.7%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「毎回、十分な量が食べられる」の割合が81.9%と他の世帯と比べてやや低くなっています。

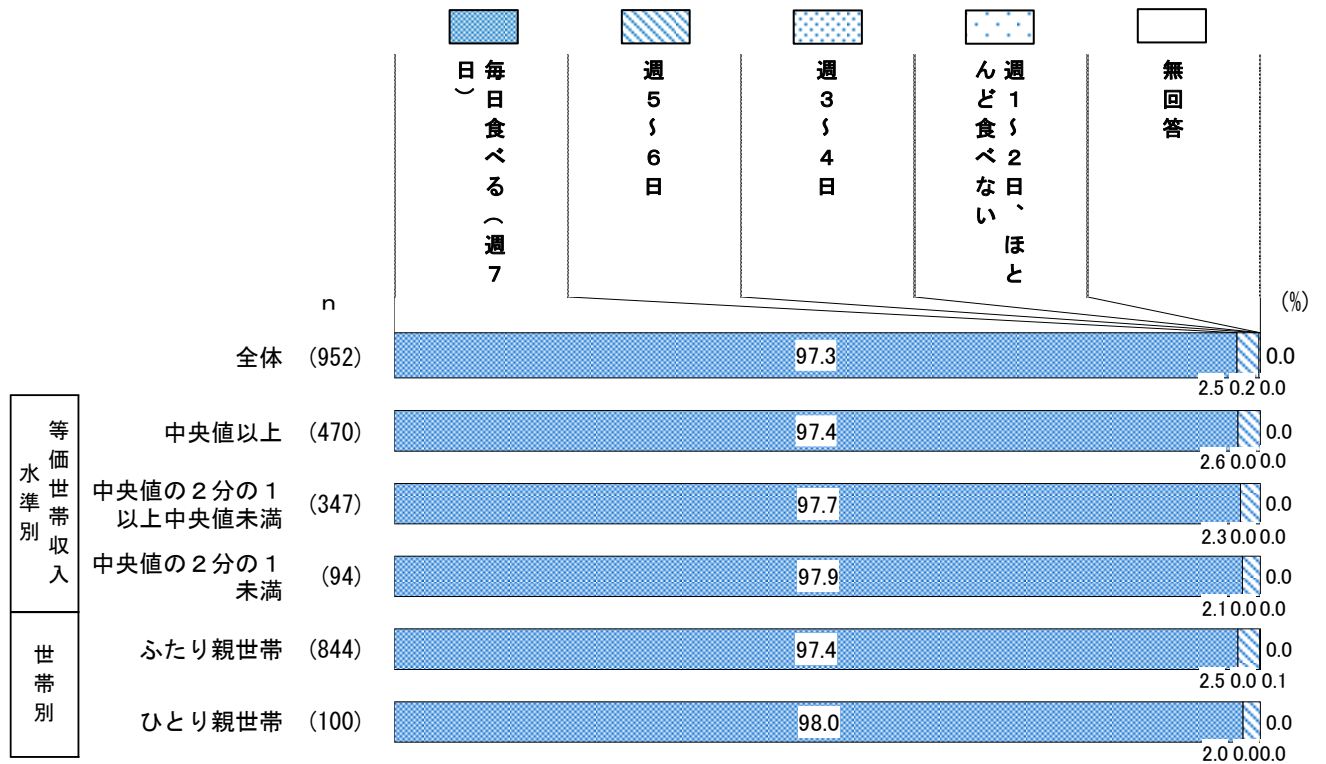
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「全部食べても、少し足りないと感じることが多い」の割合が14.0%と、ふたり親世帯と比べてやや高くなっています。



■夕食（食事の状況）

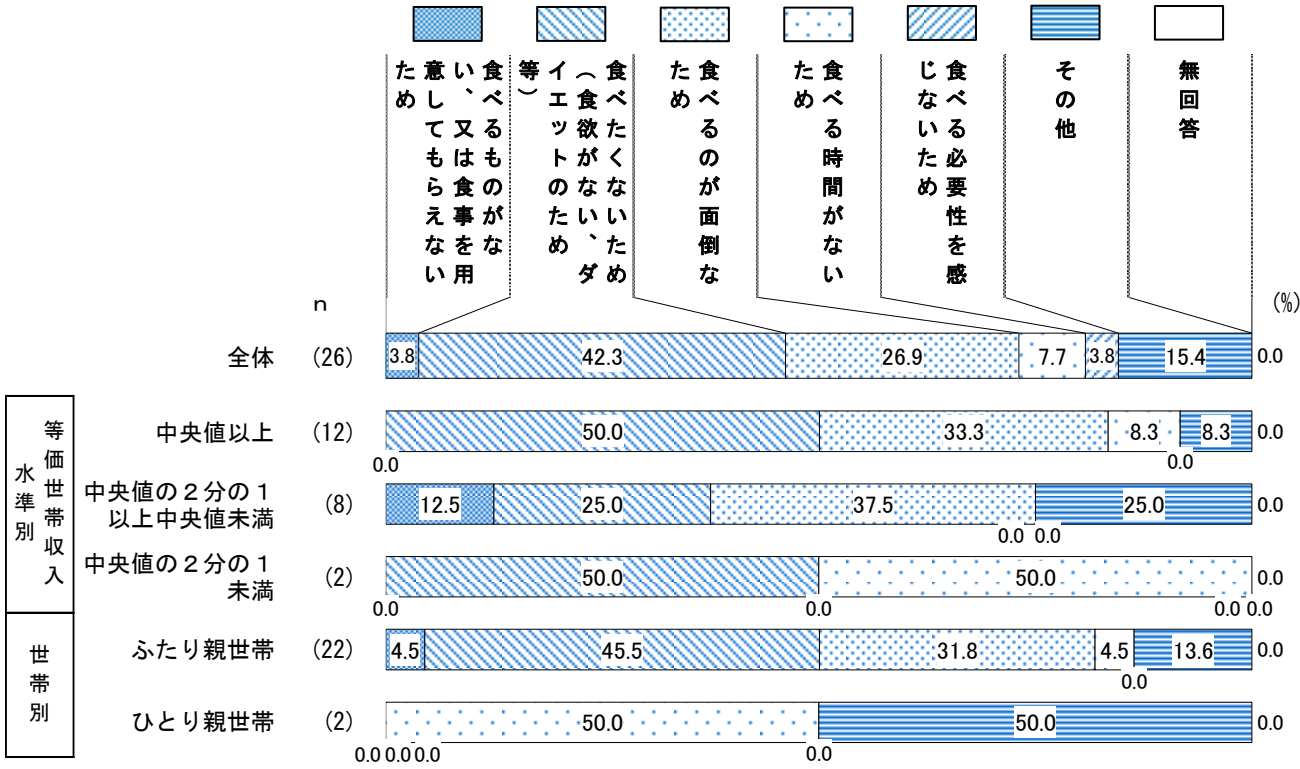
「夕食」の状況については、「毎日食べる（週7日）」が97.3%、「週5～6日」が2.5%、「週3～4日」が0.2%、「週1～2日、ほとんど食べない」が0.0%となっています。

等価世帯収入水準別、世帯の状況別にみると、「毎日食べる（週7日）」の割合がいずれもほぼ全数となっており、大きな差はみられません。



■夕食（毎日食べない理由）

「夕食」を毎日食べない理由については、「食べたくないため（食欲がない、ダイエットのため等）」が42.3%、次いで「食べるのが面倒なため」が26.9%、「食べる時間がないため」が7.7%となっています。



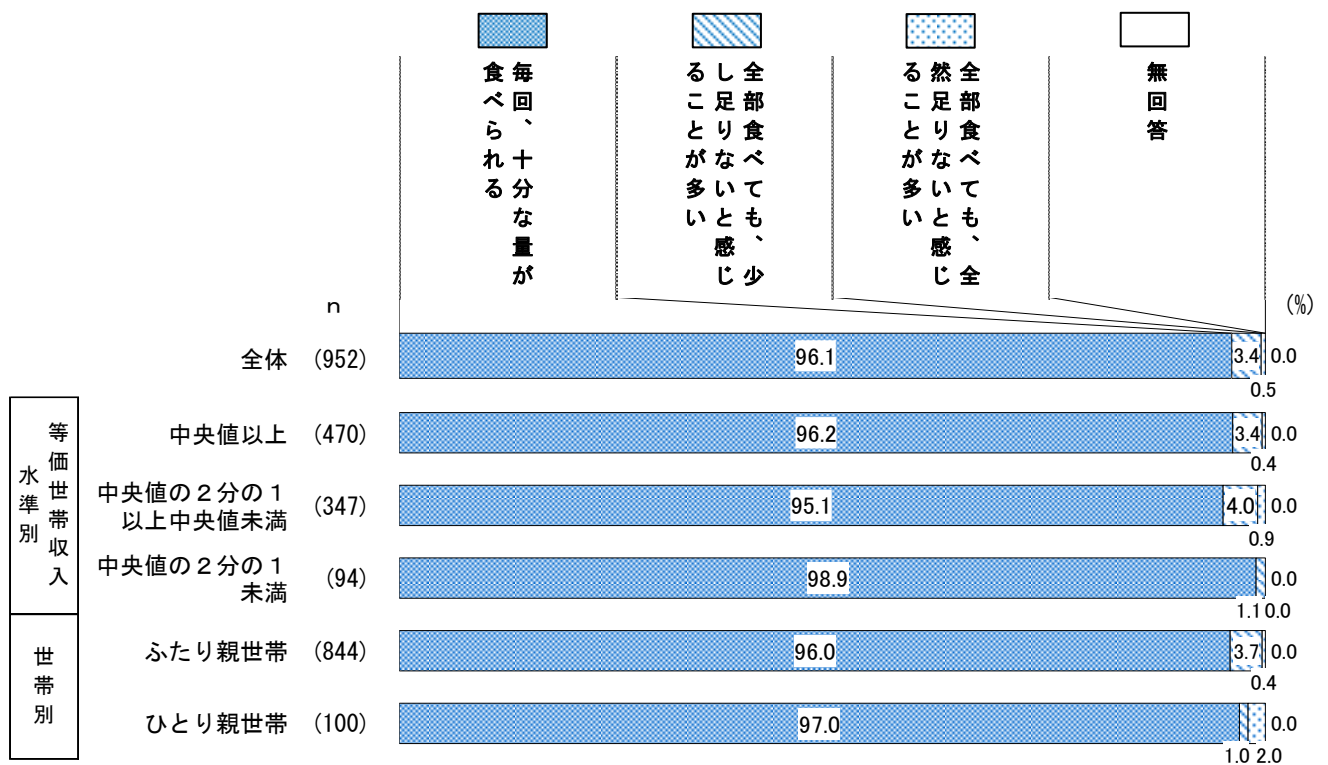
※母数が30未満の項目は参考値とする。

■夕食（1回の食事量）

「夕食」の1回の量については、「毎回、十分な量が食べられる」が96.1%、「全部食べても、少し足りないと感じることが多い」が3.4%、「全部食べても、全然足りないと感じることが多い」が0.5%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「毎回、十分な量が食べられる」の割合が98.9%と他の世帯と比べてやや高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では、「全部食べても、少し足りないと感じることが多い」の割合が3.7%と、ひとり親世帯と比べてやや高くなっています。

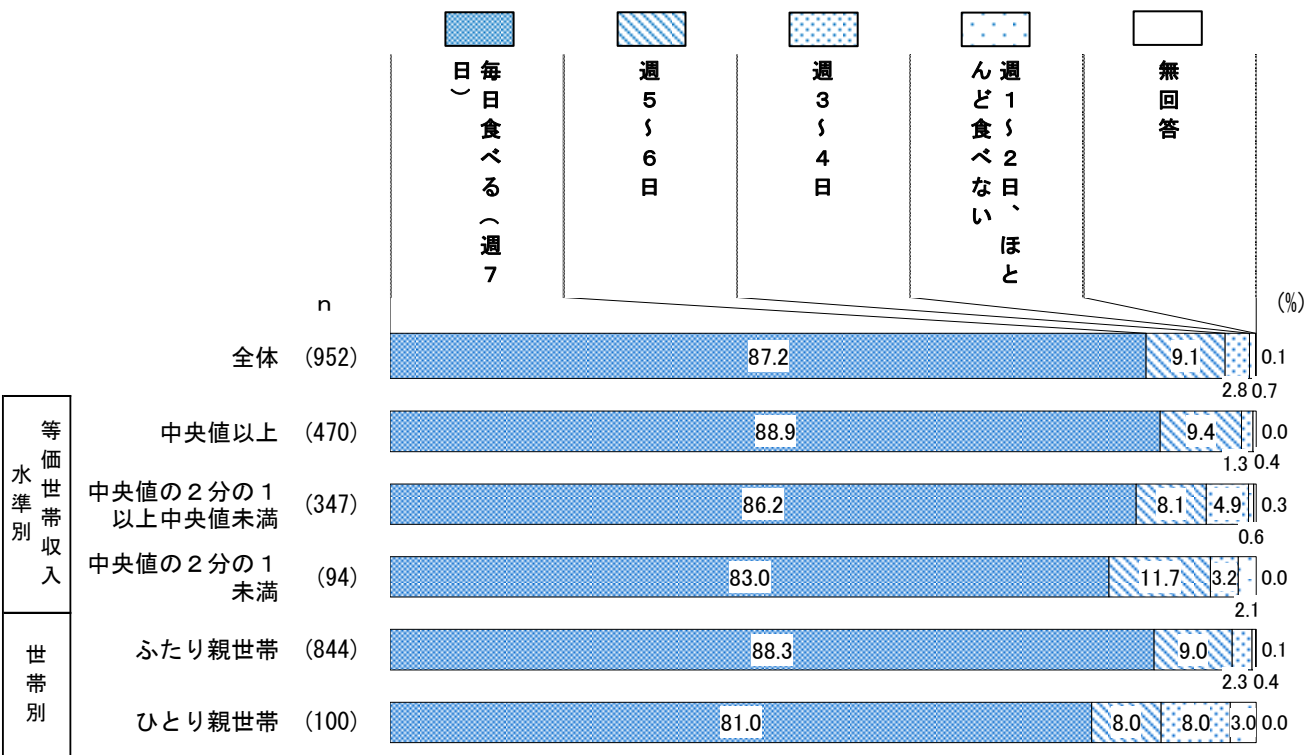


■夏休みや冬休みなどの期間の昼食（食事の状況）

「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」の状況については、「毎日食べる（週7日）」が87.2%、「週5～6日」が9.1%、「週3～4日」が2.8%、「週1～2日、ほとんど食べない」が0.7%となっています。

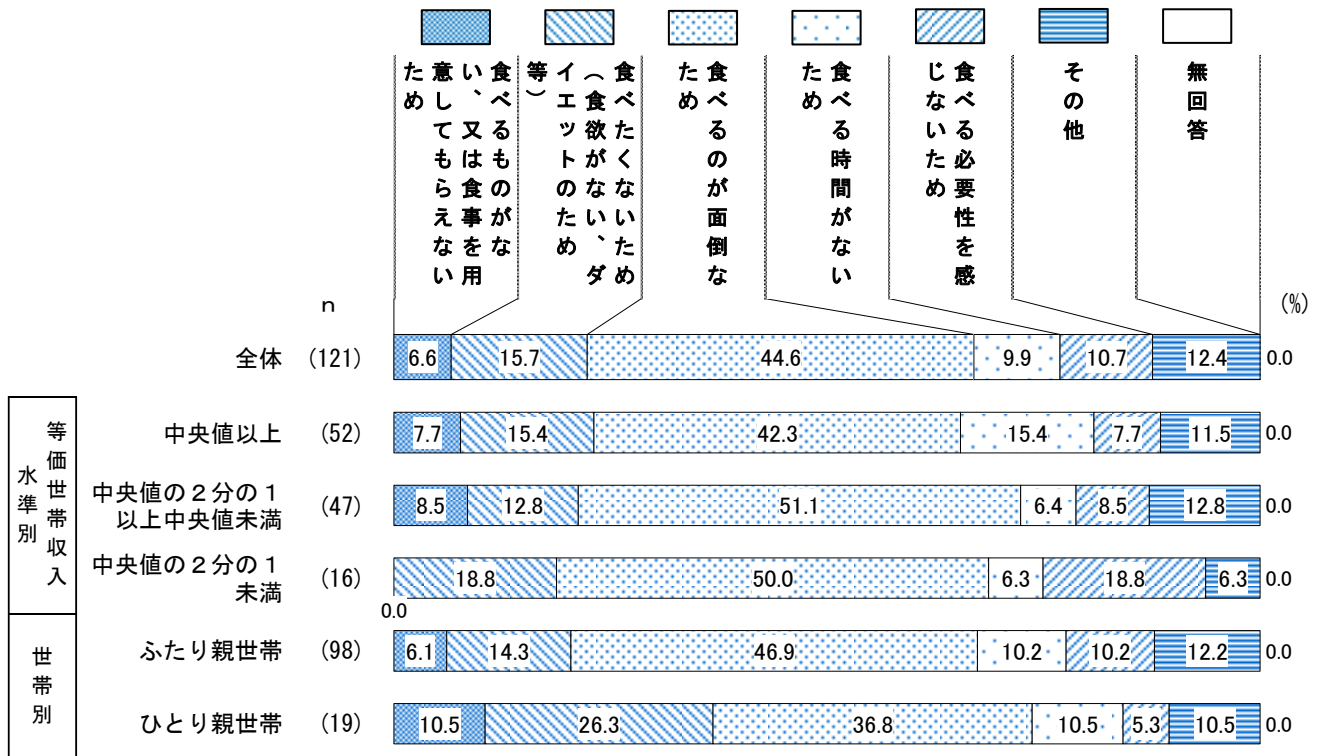
等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「週5～6日」が11.7%と他の世帯と比べてやや高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「週3～4日」の割合が8.0%と、ふたり親世帯と比べて高くなっています。



■夏休みや冬休みなどの期間の昼食（毎日食べない理由）

「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」を毎日食べない理由については、「食べるのが面倒なため」が44.6%、次いで「食べたくないため（食欲がない、ダイエットのため等）」が15.7%、「食べる必要性を感じないため」が10.7%となっています。



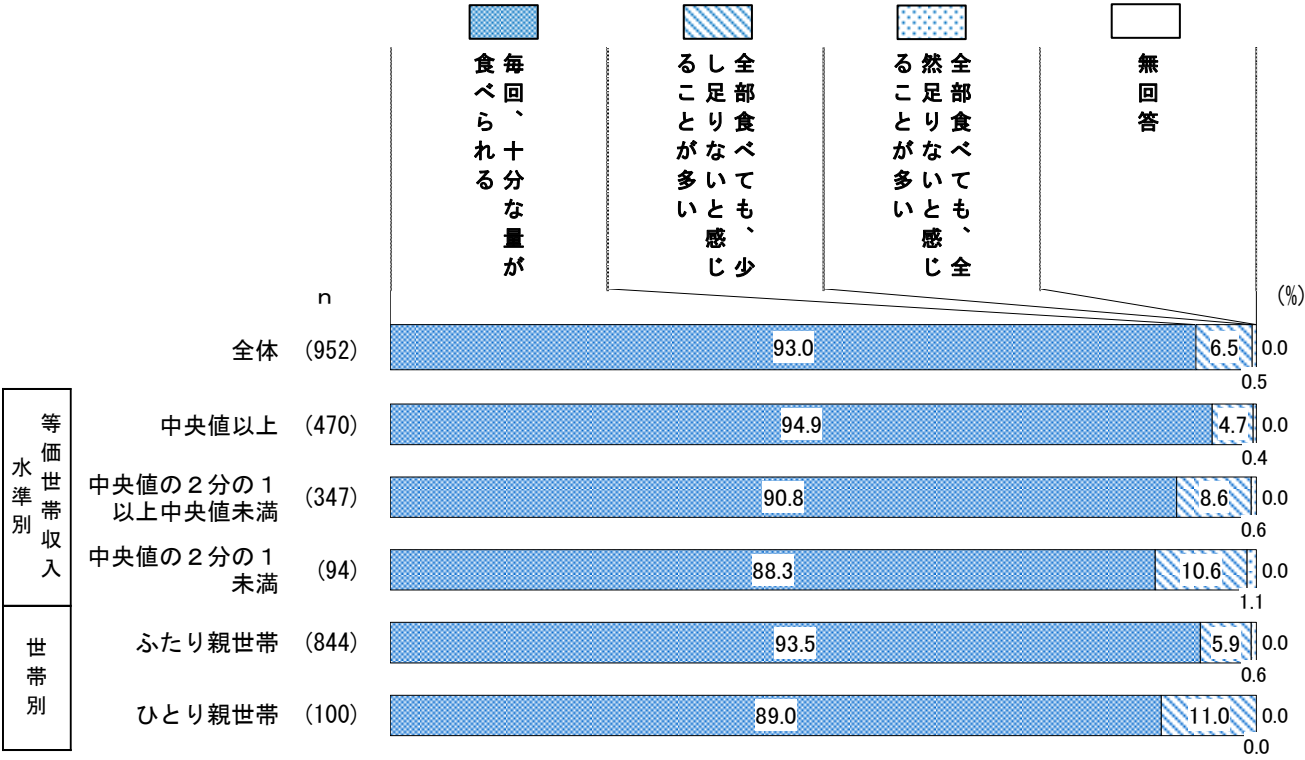
※母数が30未満の項目は参考値とする。

■夏休みや冬休みなどの期間の昼食（1回の食事量）

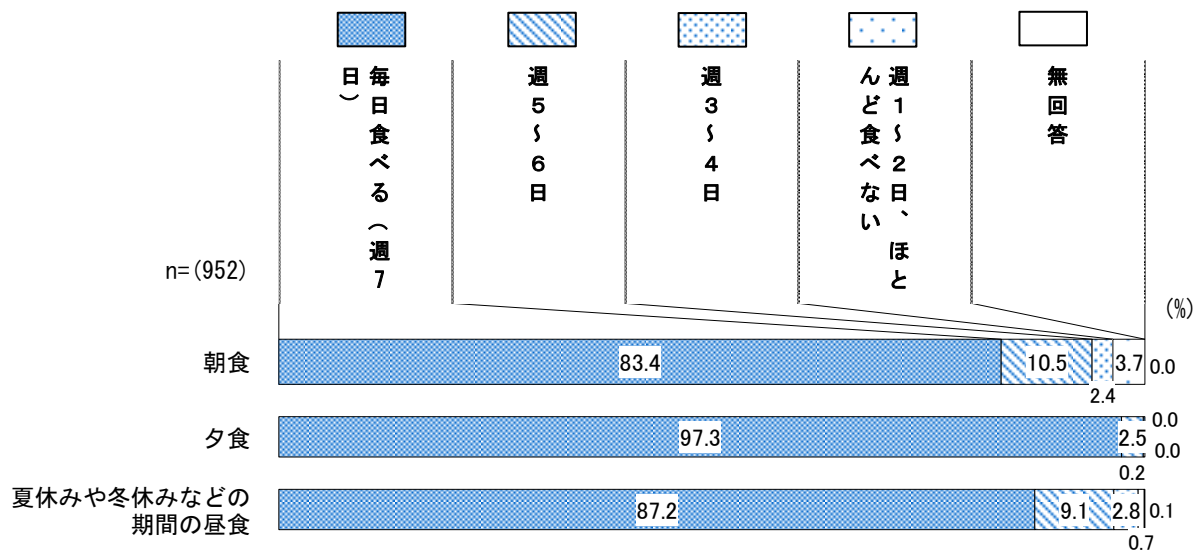
「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」の1回の量については、「毎回、十分な量が食べられる」が93.0%、「全部食べても、少し足りないと感じることが多い」が6.5%、「全部食べても、全然足りないと感じることが多い」が0.5%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「毎回、十分な量が食べられる」の割合が88.3%と他の世帯と比べて低く、「全部食べても、少し足りないと感じることが多い」の割合が10.6%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「全部食べても、少し足りないと感じることが多い」の割合が11.0%と、ふたり親世帯と比べて高くなっています。

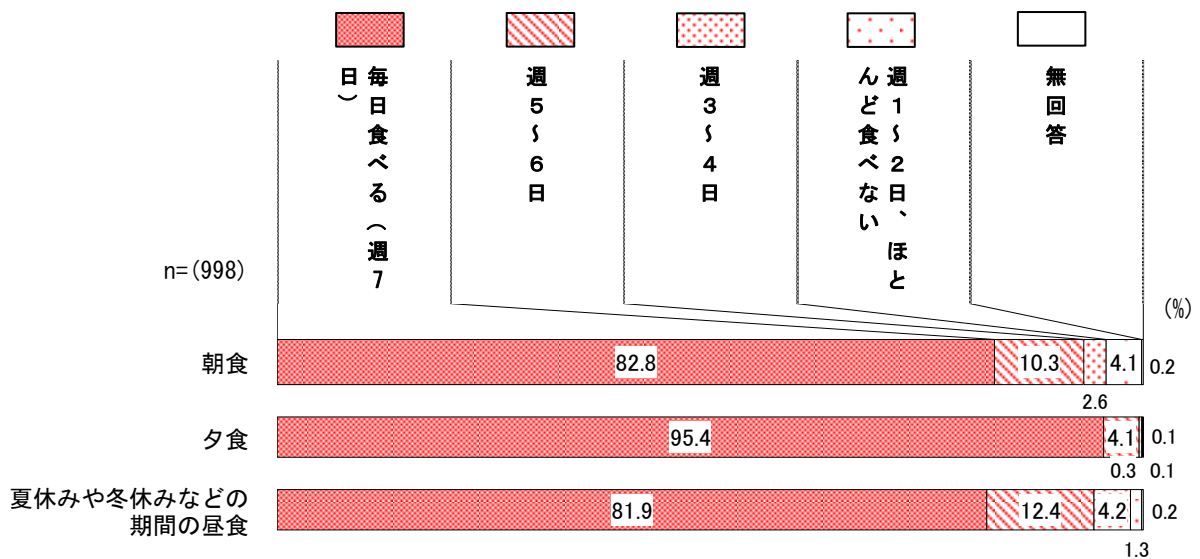


■朝食、夕食、夏休みや冬休みなどの期間の昼食（食事の状況）【再掲】



県調査※との比較

県調査の結果と比較すると、朝食については、「毎日食べる（週7日）」は県調査が82.8%、市調査が83.4%、夕食については、「毎日食べる（週7日）」は県調査が95.4%、市調査が97.3%とどちらも大きな差はなく同様の傾向がみられます。夏休みや冬休みなどの期間の昼食については、「毎日食べる（週7日）」は県調査が81.9%、市調査が87.2%と、市調査のほうが5.3ポイント高くなっています。



※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

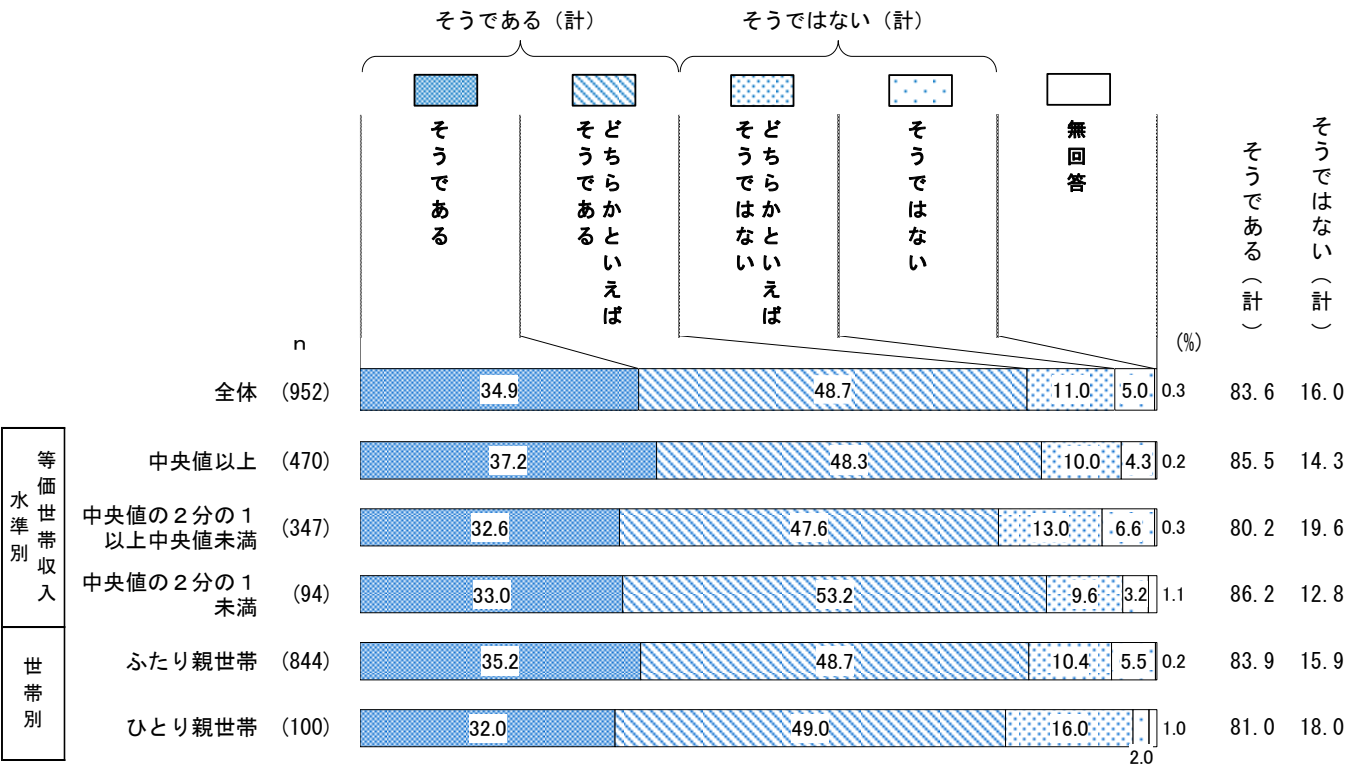
（2）就寝時間【中学2年生調査】

Q：あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(○は1つ)

就寝時間に関して、ほぼ同じ時間に寝ているかについては、「そうである」が34.9%、「どちらかといえばそうである」が48.7%、「どちらかといえばそうではない」が11.0%、「そうではない」が5.0%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では、「どちらかといえばそうではない」と「そうではない」を合わせた《そうではない 計》が19.6%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、《そうではない 計》が18.0%とふたり親世帯と比べてやや高くなっています。



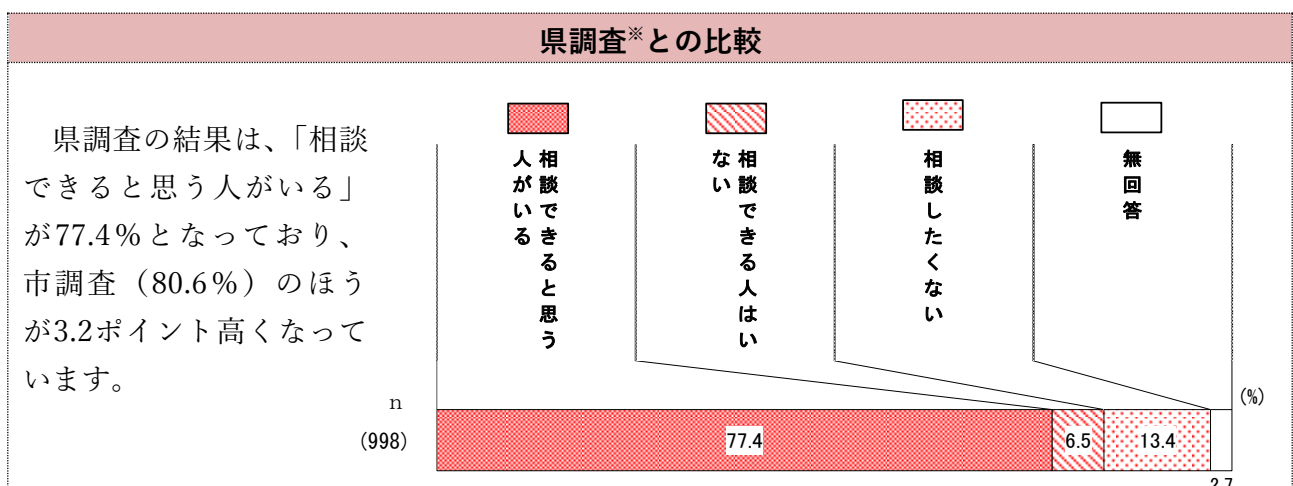
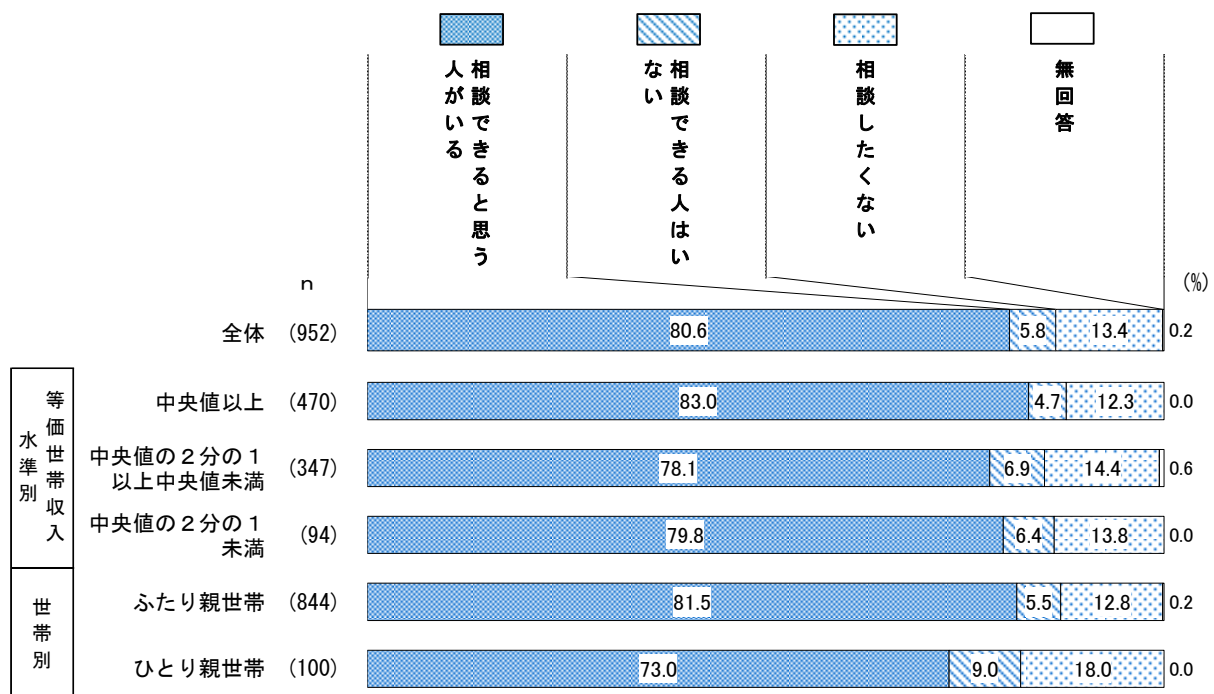
（3）相談相手の有無【中学2年生調査】

Q：あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はいますか。
（○は1つ）

困っていることや悩みごとがあるときの相談相手の有無については、「相談できると思う人がいる」が80.6%、「相談できる人はいない」が5.8%、「相談したくない」が13.4%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「相談できると思う人がいる」の割合は、中央値以上の世帯では83.0%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では78.1%、中央値の2分の1未満の世帯では79.8%となっています。

世帯の状況別にみると、「相談できると思う人がいる」の割合は、ふたり親世帯では81.5%、ひとり親世帯では73.0%となっています。ひとり親世帯では、「相談したくない」の割合が18.0%とふたり親世帯と比べて高くなっています。



※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

（4）相談相手【中学2年生調査】

Q：あなたが相談できると思う人はだれですか。（○はいくつでも）

相談できると思う人については、「学校の友達」が82.7%、次いで「親」が81.4%、「学校の先生」が35.5%、「兄弟姉妹」が29.2%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「学校の先生」が41.3%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「祖父母など」が23.3%、「ネットで知り合った人」が8.2%と、ふたり親世帯と比べて高くなっています。

		調査数（n）	学校の友達	親	学校の先生	兄弟姉妹	学校外の友達	祖父母など	その他の大人（塾・習い事の先生、地域の人など）	スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなど	ネットで知り合った人	市や県の相談窓口	無回答
単位：％													
全体		767	82.7	81.4	35.5	29.2	22.6	17.3	7.3	5.3	4.6	2.1	0.3
等価世帯収入水準別	中央値以上	390	81.3	81.5	35.1	28.7	22.1	15.9	8.2	5.4	3.8	2.3	0.3
	中央値の2分の1以上中央値未満	271	86.3	80.8	35.1	29.9	22.5	19.9	7.4	4.8	4.8	1.8	0.0
	中央値の2分の1未満	75	80.0	86.7	41.3	32.0	21.3	17.3	4.0	4.0	5.3	1.3	1.3
世帯別	ふたり親世帯	688	83.1	81.4	35.8	29.4	22.8	16.7	7.3	5.2	4.1	2.3	0.1
	ひとり親世帯	73	78.1	79.5	31.5	24.7	20.5	23.3	8.2	4.1	8.2	0.0	1.4

県調査※との比較

県調査の結果は、「学校の友達」が最も多く79.1%となっており、市調査（82.7%）のほうが3.6ポイント高くなっています。次いで「親」は73.3%となっており、市調査（81.4%）のほうが8.1ポイント高くなっています。

		調査数（n）	学校の友達	親	学校の先生	兄弟姉妹	学校外の友達	祖父母など	その他の大人（塾・習い事の先生、地域の人など）	ネットで知り合った人	スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなど	市や県の相談窓口	無回答
単位：％													
全体		772	79.1	73.3	31.7	28.4	20.9	15.4	6.2	4.4	4.1	0.9	0.3

※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

（5）頼れる人の有無・頼れる相手【中学2年生保護者調査】

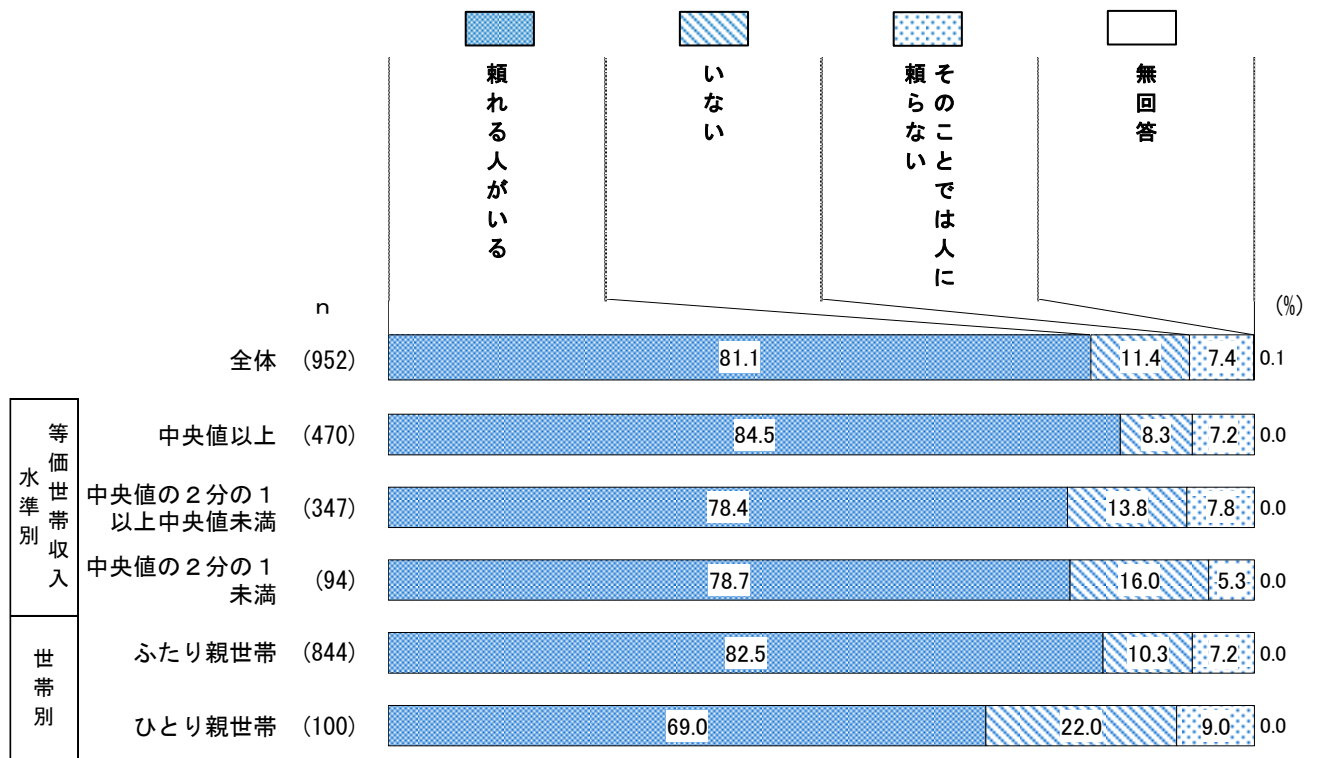
Q：あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。（○は1つ）

■子育てに関する相談

子育てに関する相談については、「頼れる人がいる」が81.1%、「いない」が11.4%、「そのことでは人に頼らない」が7.4%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、中央値以上の世帯では8.3%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では13.8%、中央値の2分の1未満の世帯では16.0%となっています。

世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、ふたり親世帯では10.3%、ひとり親世帯では22.0%となっています。



※周囲に頼れる人がいるかで「1.頼れる人がいる」※を選んだ方のみ回答

Q：それはだれですか。（○はいくつでも）

■子育てに関する相談をしたい時に頼れる相手

子育てに関する相談相手は、「家族・親族」が90.3%、次いで「友人・知人」が66.1%、「職場の人」が31.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では「家族・親族」が86.5%、「友人・知人」が60.8%、「職場の人」が20.3%で他の世帯と比べて割合が低くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では「家族・親族」、「友人・知人」、「職場の人」の割合がふたり親世帯と比べて低くなっています。

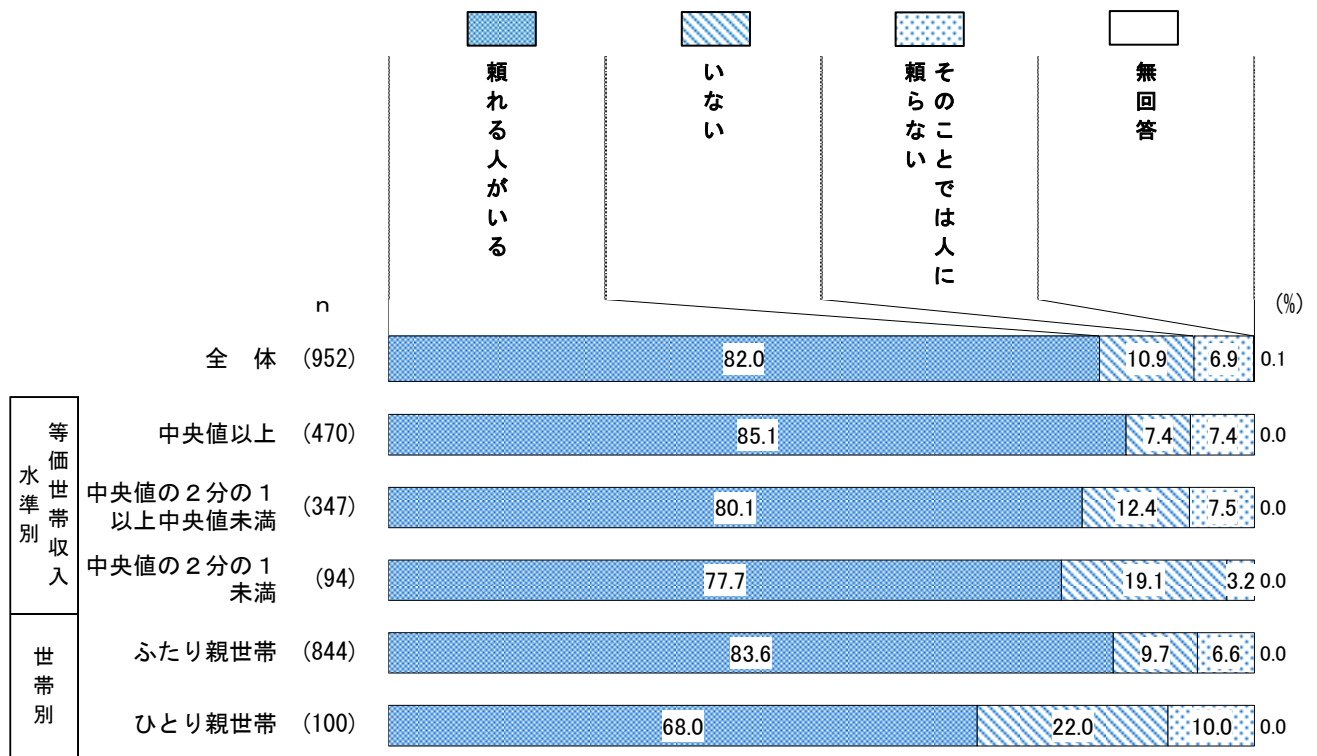
		調査数（n）	家族・親族	友人・知人	職場の人	近所の人	相談・支援機関や福祉の人	民生委員・児童委員	その他	無回答
単位：%										
全体		772	90.3	66.1	31.9	8.2	4.0	0.3	3.2	0.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	397	92.7	67.3	34.3	9.1	4.5	0.0	2.8	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	272	88.6	65.8	32.4	7.0	3.7	0.4	2.2	0.0
	中央値の2分の1未満	74	86.5	60.8	20.3	6.8	4.1	1.4	6.8	0.0
世帯別	ふたり親世帯	696	91.4	66.8	32.3	8.6	3.7	0.3	2.4	0.0
	ひとり親世帯	69	82.6	62.3	29.0	4.3	5.8	0.0	8.7	0.0

■重要な事柄の相談

重要な事柄の相談については、「頼れる人がいる」が82.0%、「いない」が10.9%、「そのことでは人に頼らない」が6.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、中央値以上の世帯では7.4%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では12.4%、中央値の2分の1未満の世帯では19.1%となっています。

世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、ふたり親世帯では9.7%、ひとり親世帯では22.0%となっています。



■重要な事柄の相談をしたい時に頼れる相手

重要な事柄の相談相手は、「家族・親族」が95.4%、次いで「友人・知人」が45.8%、「職場の人」が11.3%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では「職場の人」の割合が13.7%で他の世帯と比べてやや高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では「家族・親族」の割合がふたり親世帯と比べて低くなっています。

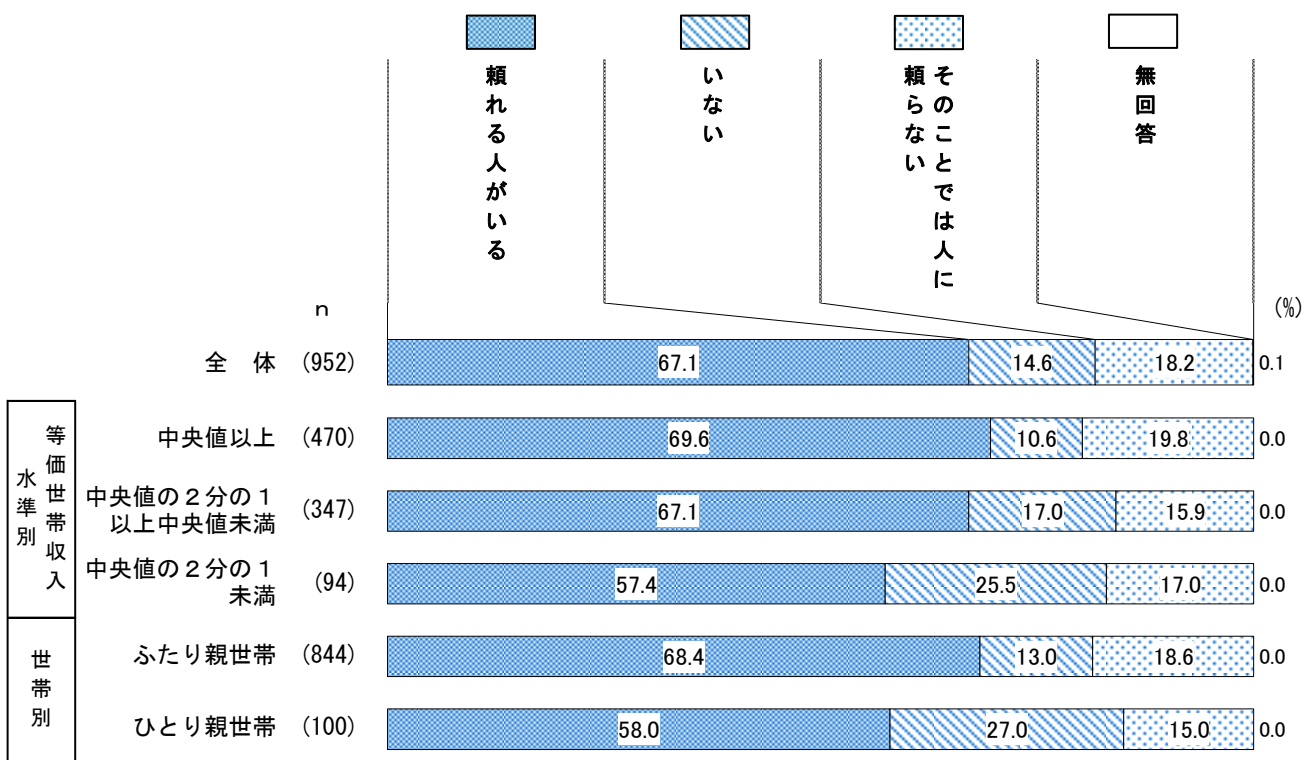
		調査数 (n)	家族・ 親族	友人・ 知人	職場の 人	相談・支 援機関 や福祉 の人	近所 の人	民生 委員・ 児童 委員	その他	無 回 答
単位：%										
全体		781	95.4	45.8	11.3	2.6	2.4	0.0	1.7	0.0
等 価 世 帯 収 入 水 準 別	中央値以上	400	96.3	47.5	11.3	2.8	3.0	0.0	0.8	0.0
	中央値の2分の1 以上中央値未満	278	94.6	41.7	10.8	2.5	1.4	0.0	2.5	0.0
	中央値の2分の1 未満	73	97.3	47.9	13.7	2.7	4.1	0.0	0.0	0.0
世 帯 別	ふたり親世帯	706	96.5	45.0	10.9	2.3	2.4	0.0	1.1	0.0
	ひとり親世帯	68	88.2	57.4	16.2	4.4	2.9	0.0	4.4	0.0

■いざという時のお金の相談

いざという時のお金の相談については、「頼れる人がある」が67.1%、「いない」が14.6%、「そのことでは人に頼らない」が18.2%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、中央値以上の世帯では10.6%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では17.0%、中央値の2分の1未満の世帯では25.5%となっています。

世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、ふたり親世帯では13.0%、ひとり親世帯では27.0%となっています。



■いざという時のお金の相談をしたい時に頼れる相手

いざという時のお金の相談相手は、「家族・親族」が98.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、どの世帯でも「家族・親族」の割合が高く、中央値の2分の1未満の世帯では「友人・知人」の割合が13.0%で他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯、ふたり親世帯ともに「家族・親族」の割合が高く、ひとり親世帯では「友人・知人」の割合が15.5%でふたり親世帯と比べて高くなっています。

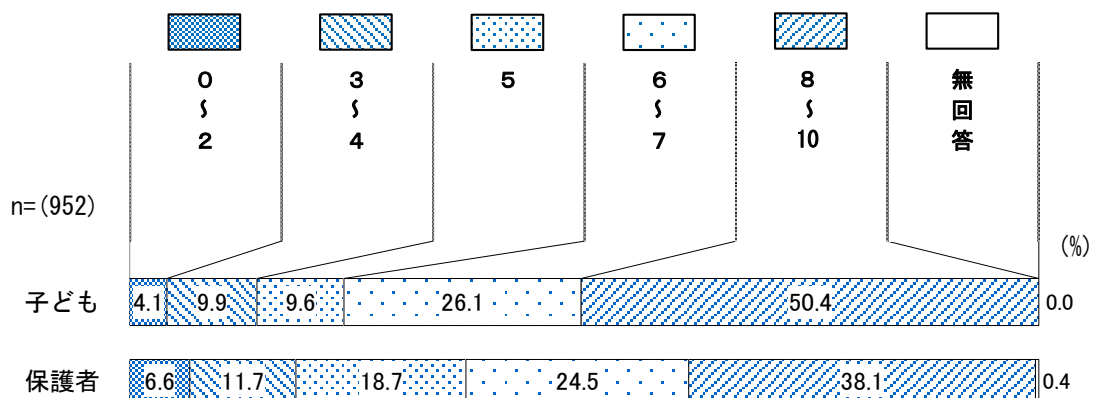
		調査数 (n)	家族・親族	友人・知人	職場の人	相談・支援機関や福祉の人	近所の人	民生委員・児童委員	その他	無回答
単位：%										
全体		639	98.9	5.5	1.3	0.9	0.2	0.0	1.4	0.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	327	99.4	4.0	0.9	0.6	0.3	0.0	0.9	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	233	99.1	6.0	1.3	1.3	0.0	0.0	1.7	0.0
	中央値の2分の1未満	54	96.3	13.0	3.7	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0
世帯別	ふたり親世帯	577	99.8	4.5	1.0	0.3	0.2	0.0	0.7	0.0
	ひとり親世帯	58	93.1	15.5	3.4	3.4	0.0	0.0	6.9	0.0

（6）生活満足度

Q：全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。（○は1つ）

子どもの生活満足度は、「0～2」が4.1%、「3～4」が9.9%、「5」が9.6%、「6～7」が26.1%、「8～10」が50.4%となっており、満足度が高い方（6～10）の割合は76.5%となっています。

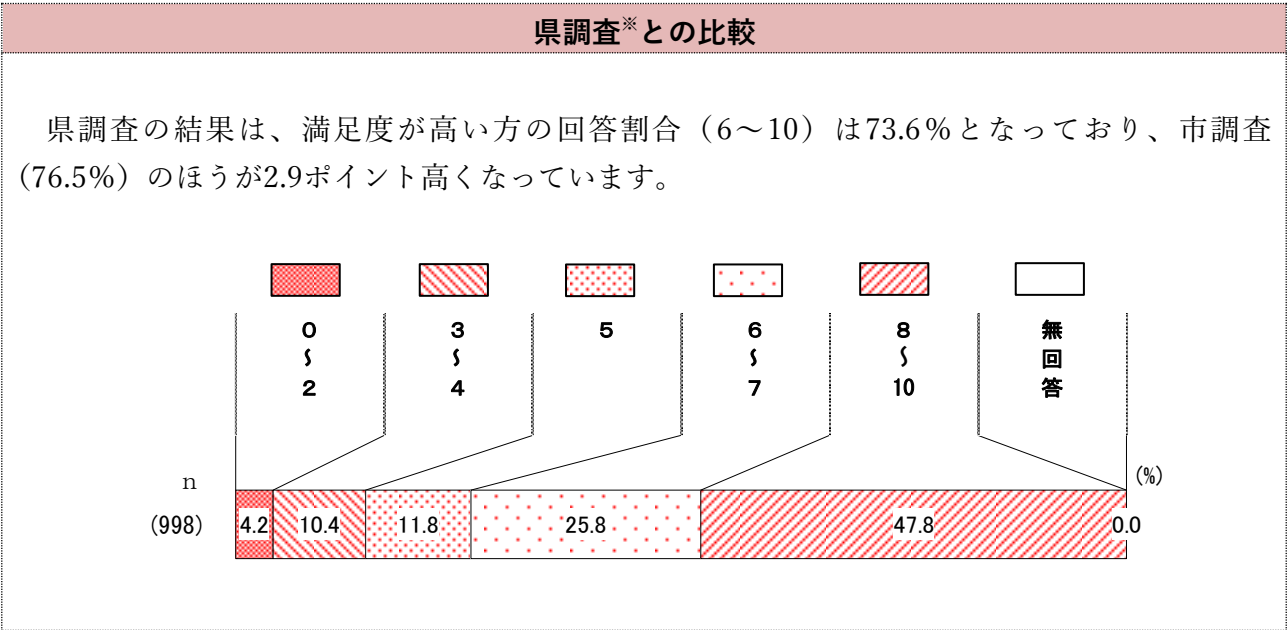
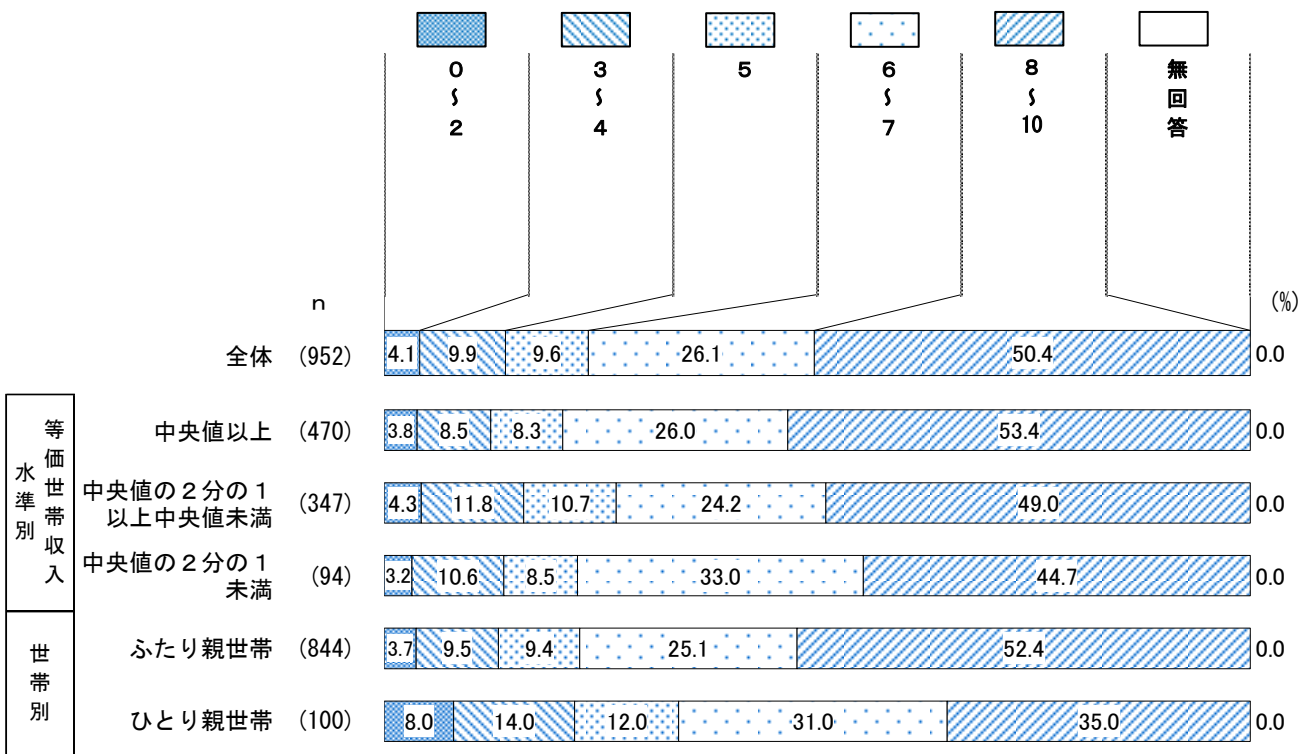
保護者の生活満足度は、「0～2」が6.6%、「3～4」が11.7%、「5」が18.7%、「6～7」が24.5%、「8～10」が38.1%となっており、満足度が高い方（6～10）の割合は全体では62.6%となっています。



【中学2年生調査】

中学2年生の生活満足度を等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では「8～10」の割合は44.7%と他の世帯と比べて低くなっています。

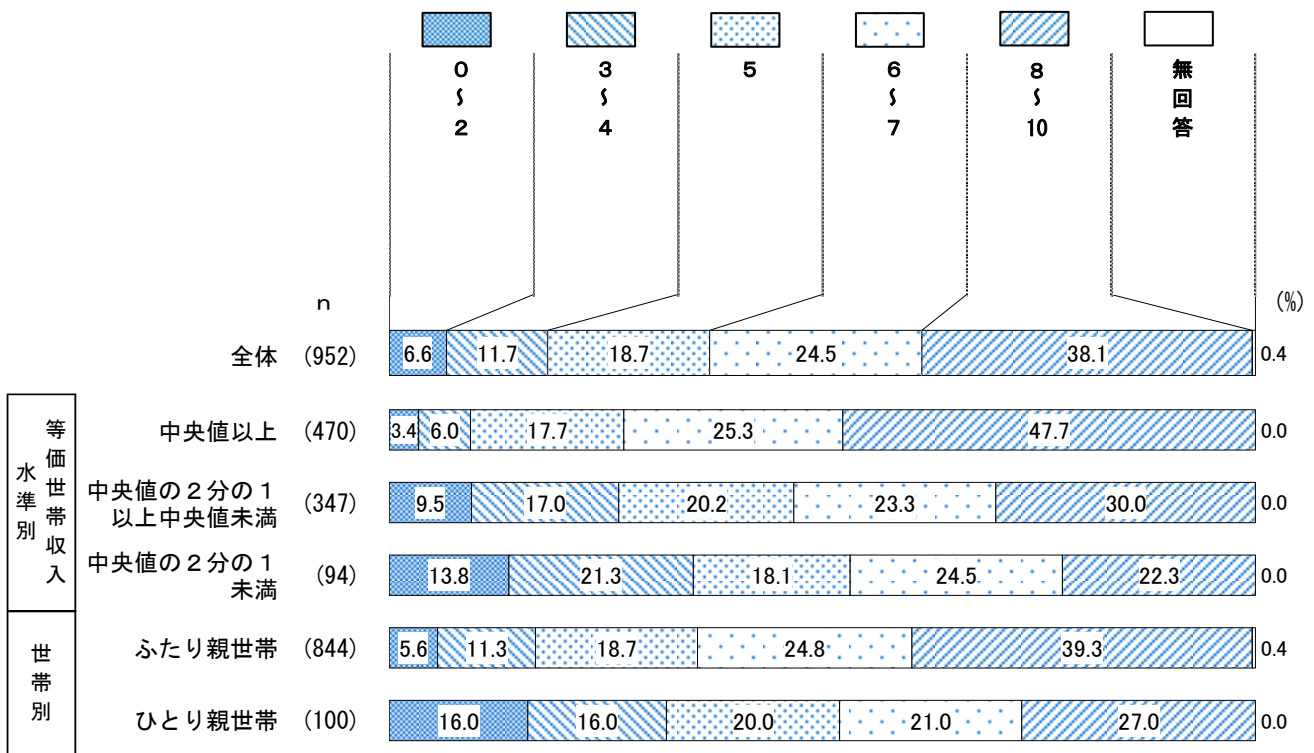
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「6～10」に該当する割合は66.0%で、ふたり親世帯の77.5%に比べて生活満足度が低くなっています。



※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

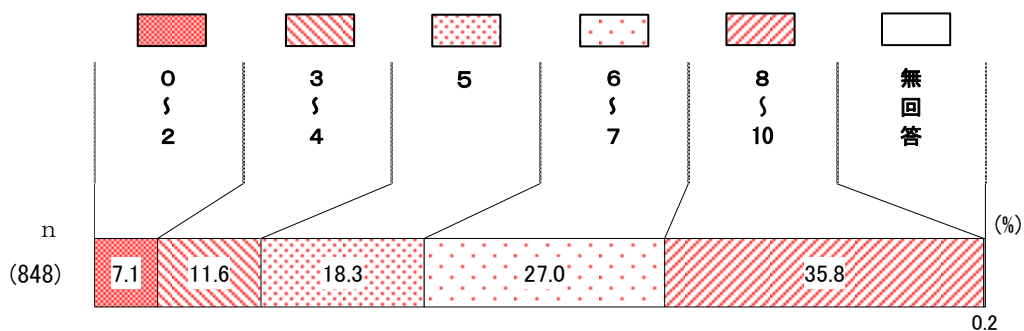
【中学2年生保護者】

中学2年生保護者の生活満足度について、満足度が高い方の回答割合（6～10）は全体では62.6%であったのに対し、等価世帯収入水準が中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で53.3%、中央値の2分の1未満の世帯で46.8%、世帯別ではひとり親世帯で48.0%となっており、収入の水準が低い世帯や、ひとり親世帯の生活満足度が低くなっています。



県調査※との比較

県調査の結果は、満足度が高い方の回答割合（6～10）は62.8%となっており、市調査（62.6%）とほぼ同率となっています。



※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

（7）子どもの心理的な状態【中学2年生調査】

Q：以下のそれぞれの質問について、「あてはまる」「まあ、あてはまる」「あてはまらない」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。（1～15それぞれについて、○は1つ）

「子どもの心理的な状態」に関して、調査では「強さと困難さアンケート（SDQ：Strengths and Difficulties Questionnaire）」の調査項目のうち、「情緒（不安や抑うつなど）」の問題、「仲間関係」の問題、「向社会性」を得点として把握するための質問項目を設定しました。

採点方法は、ひとつの質問項目ごとに、2点（あてはまる）、1点（まあ、あてはまる）、0点（あてはまらない）と点数化しています。

< 質問項目 >

- 1 私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。
- 2 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。
- 3 私は、他の子供たちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）。
- 4 私は、たいてい一人である。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。
- 5 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
- 6 私は、誰かが心を痛めていたり落ち込んでいたり嫌な思いをしているときなどすすんで助ける。
- 7 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。
- 8 私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。
- 9 私は、同じくらいの年齢の子供からは、だいたいは好かれている。
- 10 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
- 11 私は、年下の子供たちに対してやさしくしている。
- 12 私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする。
- 13 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・他の子供たちなど）。
- 14 私は、他の子供たちより、大人という方がうまくいく。
- 15 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

■情緒の問題

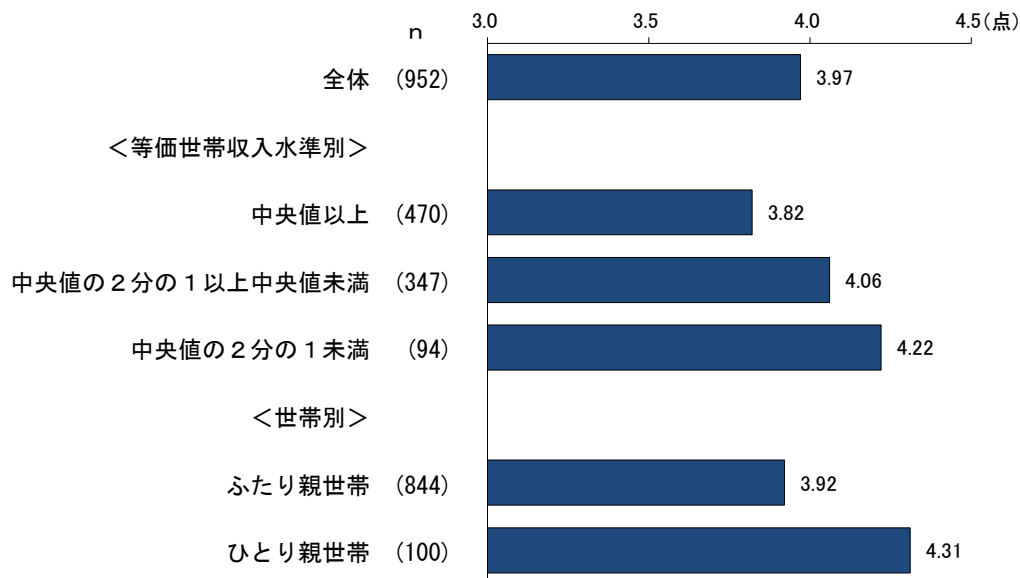
質問項目	2	私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。
	5	私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
	8	私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。
	10	私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
	15	私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

「情緒の問題」に関して、5つの質問項目（上記2、5、8、10、15）の点数を合計して、得点を算出しました（0～10点：得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。

全体の「情緒の問題」の平均値は3.97となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯では3.82、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では4.06、中央値の2分の1未満の世帯では4.22となっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では3.92、ひとり親世帯では4.31となっています。



全国調査※・県調査※との比較

全国調査、県調査の結果をみると、全国調査の平均点は3.40、県調査の平均点は4.10となっており、市調査（3.97）は全国調査よりも高く、県調査よりは低くなっています。



※内閣府「令和3年 子供の生活状況調査」

※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

■仲間関係の問題

質問項目	4	私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。
	7	私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。
	9	私は、同じくらいの年齢の子供からは、だいたい好かれている。
	12	私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする。
	14	私は、他の子供たちより、大人といる方がうまくいく。

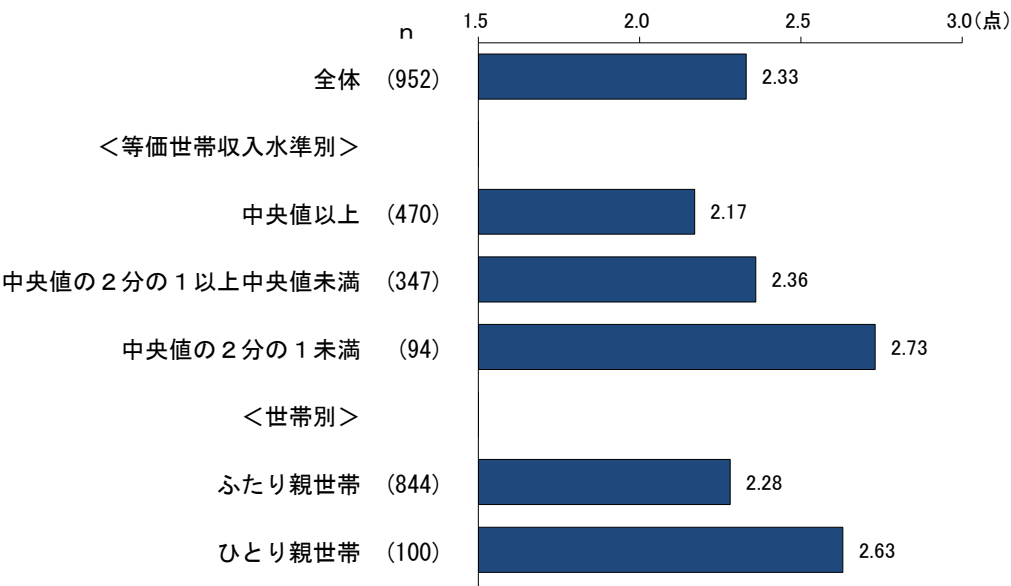
「仲間関係の問題」に関して、5つの質問項目（上記4、7、9、12、14）の点数を合計して、得点を算出しました（0～10点：得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。

※7、9の項目は逆転項目としてスコアを算出

全体の「仲間関係の問題」の平均値は2.33となっています。

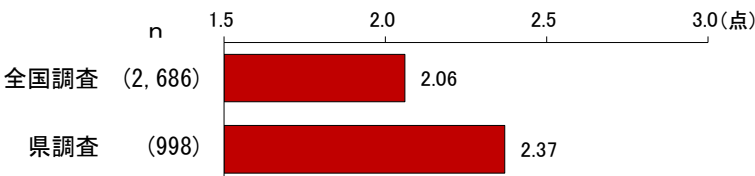
等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯では2.17、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では2.36、中央値の2分の1未満の世帯では2.73となっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では2.28、ひとり親世帯では2.63となっています。



全国調査※・県調査※との比較

全国調査、県調査の結果をみると、全国調査の平均点は2.06、県調査の平均点は2.37となっており、市調査（2.33）は県調査とほぼ同率です。



※内閣府「令和3年 子供の生活状況調査」

※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

■向社会性

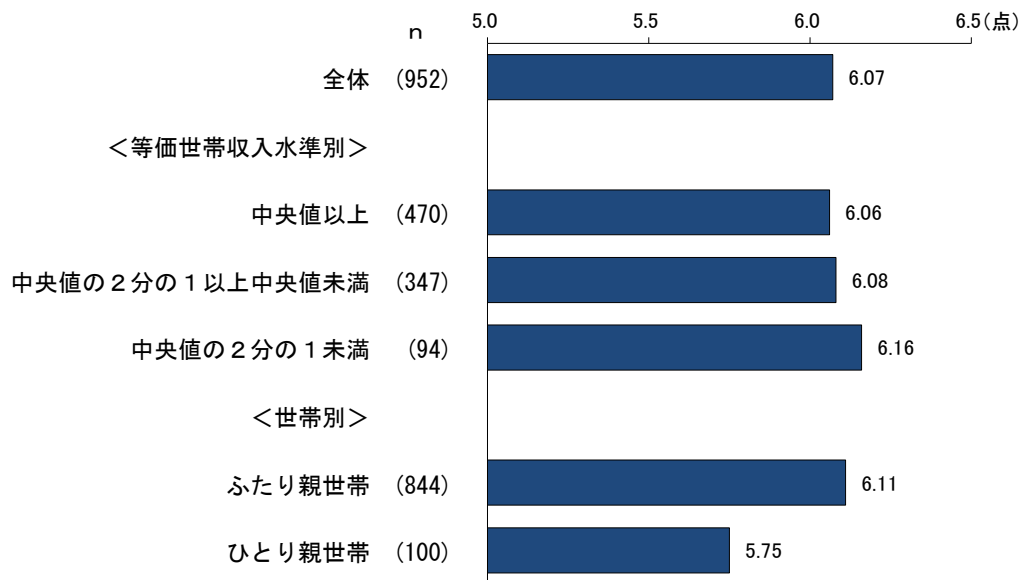
質問項目	1	私は、他人に対して親切にしている。私は、他人の気持ちをよく考える。
	3	私は、他の子供たちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）。
	6	私は、誰かが心を痛めていたり落ち込んでいたり嫌な思いをしているときなどすすんで助ける。
	11	私は、年下の子供たちに対してやさしくしている。
	13	私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・他の子供たちなど）。

「向社会性」に関して、5つの質問項目（上記1、3、6、11、13）の点数を合計して、得点を算出しました（0～10点：得点が高いほど、社会性が高いと考えられる）。

全体の「向社会性」の平均値は6.07となっています。

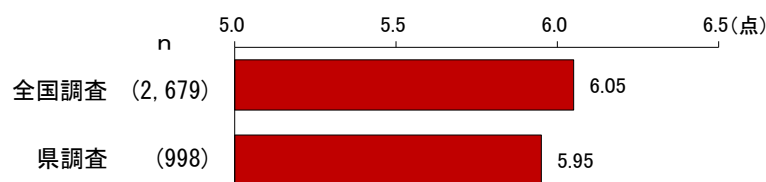
等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯では6.06、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では6.08、中央値の2分の1未満の世帯では6.16となっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では6.11、ひとり親世帯では5.75となっています。



全国調査※・県調査※との比較

全国調査、県調査の結果をみると、全国調査の平均点は6.05、県調査の平均点は5.95となっており、市調査（6.07）は全国調査、県調査よりも高くなっています。



※内閣府「令和3年 子供の生活状況調査」

※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

（8）保護者の心理的な状態（K 6）【中学2年生保護者調査】

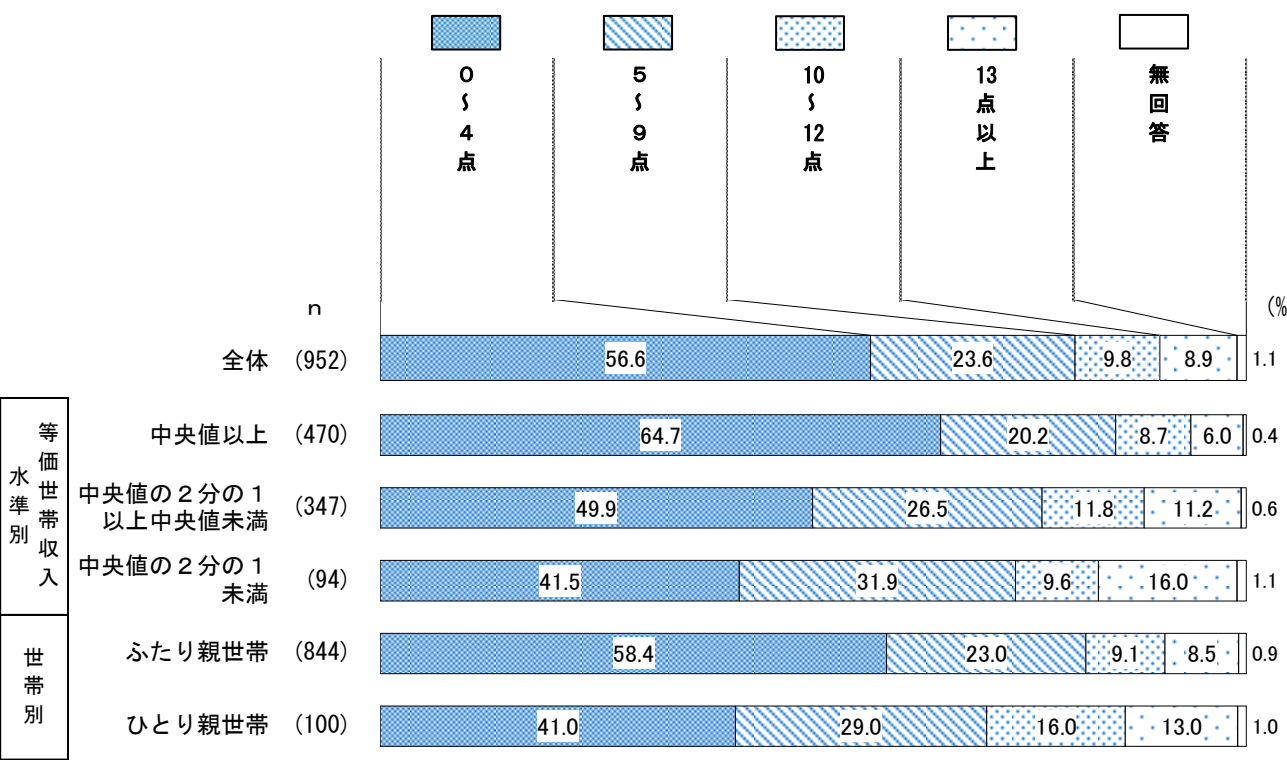
Q：この1か月間のあなたの気持ちはどのようなでしたか。（1～6それぞれについて、○は1つ）

質問項目	1	神経過敏に感じた
	2	絶望的だと感じた
	3	そわそわ、落ち着かなく感じた
	4	気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた
	5	何をするのも面倒だと感じた
	6	自分は価値のない人間だと感じた

「保護者の心理的な状態」に関して、調査では「K 6」と呼ばれる指標を把握するための6つの質問項目を設定し、この6つの項目の結果を合計して、K 6の得点を算出しました。

※K 6はうつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されています。採点方法は、ひとつの質問項目ごとに0点（まったくない）、1点（少しだけ）、2点（ときどき）、3点（たいてい）、4点（いつも）と点数化し、合計を0点から24点で算出しました。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示しています。

保護者の心理的な状態について、「うつ・不安障害相当」にあると考えられる割合（13点以上）は、全体では8.9%であったのに対し、等価世帯収入水準が中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で11.2%、中央値の2分の1未満の世帯で16.0%、世帯別ではひとり親世帯で13.0%となっており、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯は、うつ・不安障害が疑われる状態にある者の割合が高くなっています。



（9）逆境体験【中学2年生調査】

Q：あなたは今までに、以下のa～hのようなことがありましたか。あてはまる個数を教えてください。（○は1つ）

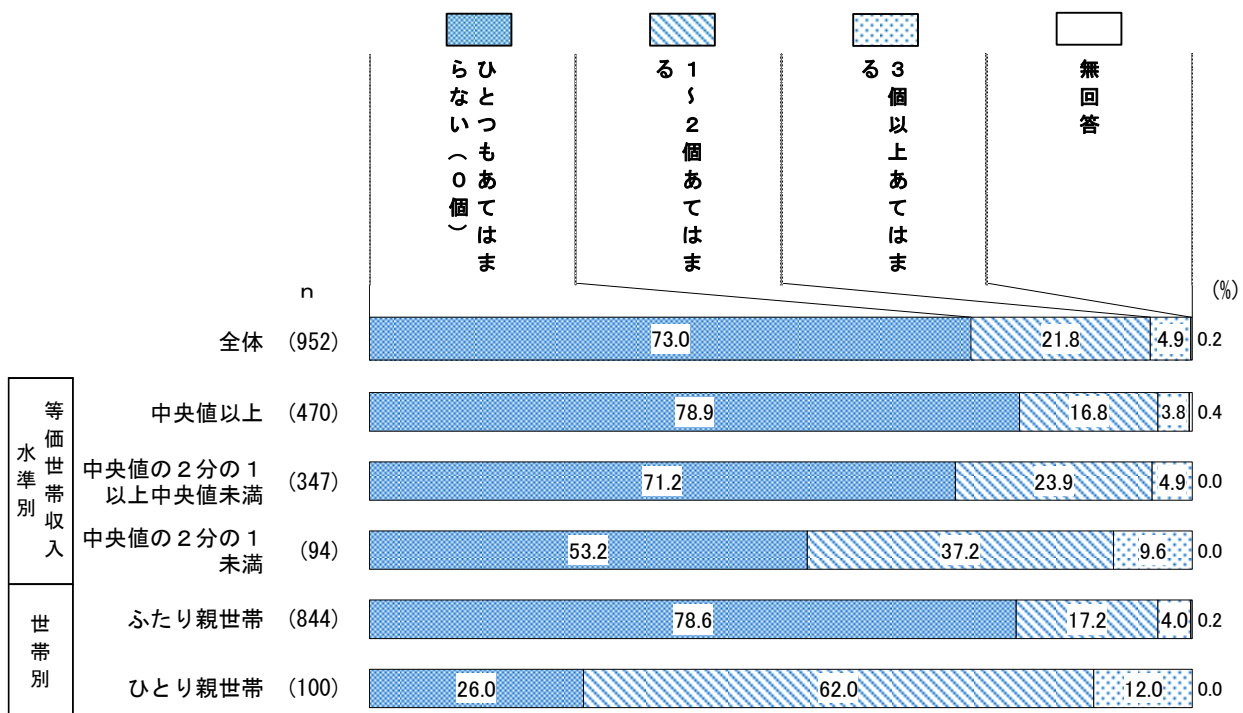
※選択肢	a	一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
	b	一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
	c	家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
	d	必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
	e	両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
	f	一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
	g	一緒に住んでいる人にお酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
	h	一緒に住んでいる人にお酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる

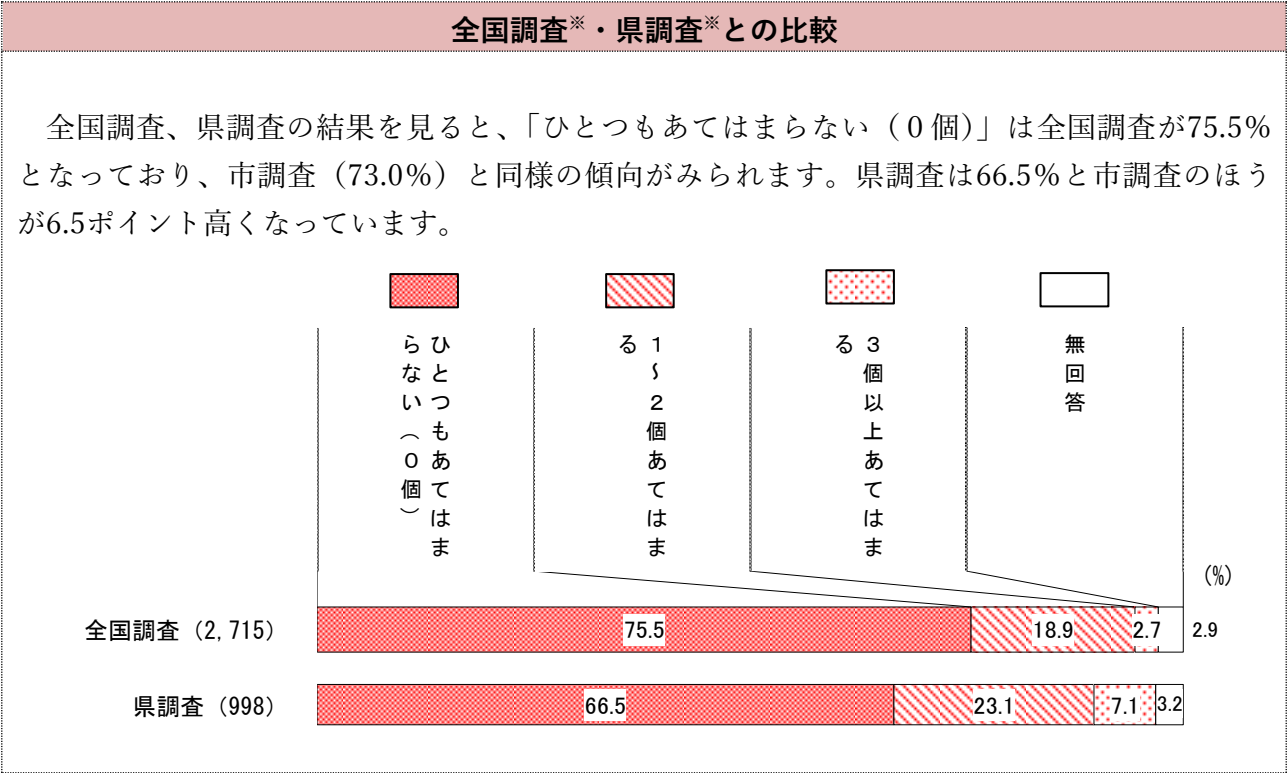
■項目該当数

「逆境体験」について、8つの項目を基に状況把握を行いました。8つの項目のうち、「ひとつもあてはまらない（0個）」は73.0%、「1～2個あてはまる」は21.8%、「3個以上あてはまる」は4.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「ひとつもあてはまらない（0個）」が53.2%で他の世帯と比べて低く、1個以上あてはまる割合が高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「ひとつもあてはまらない（0個）」が26.0%でふたり親世帯と比べて低く、1個以上あてはまる割合が高くなっています。





※内閣府「令和3年 子供の生活状況調査」

※令和5年度群馬県子どもの生活実態調査

9 支援などについて

（1）支援等の利用状況【中学2年生調査】

Q：あなたは、次の場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。（○は1つ）

「3 今後も利用したいと思わない」又は「4 今後利用したいかどうか分からない」場合、その理由は何ですか。（○はいくつでも）

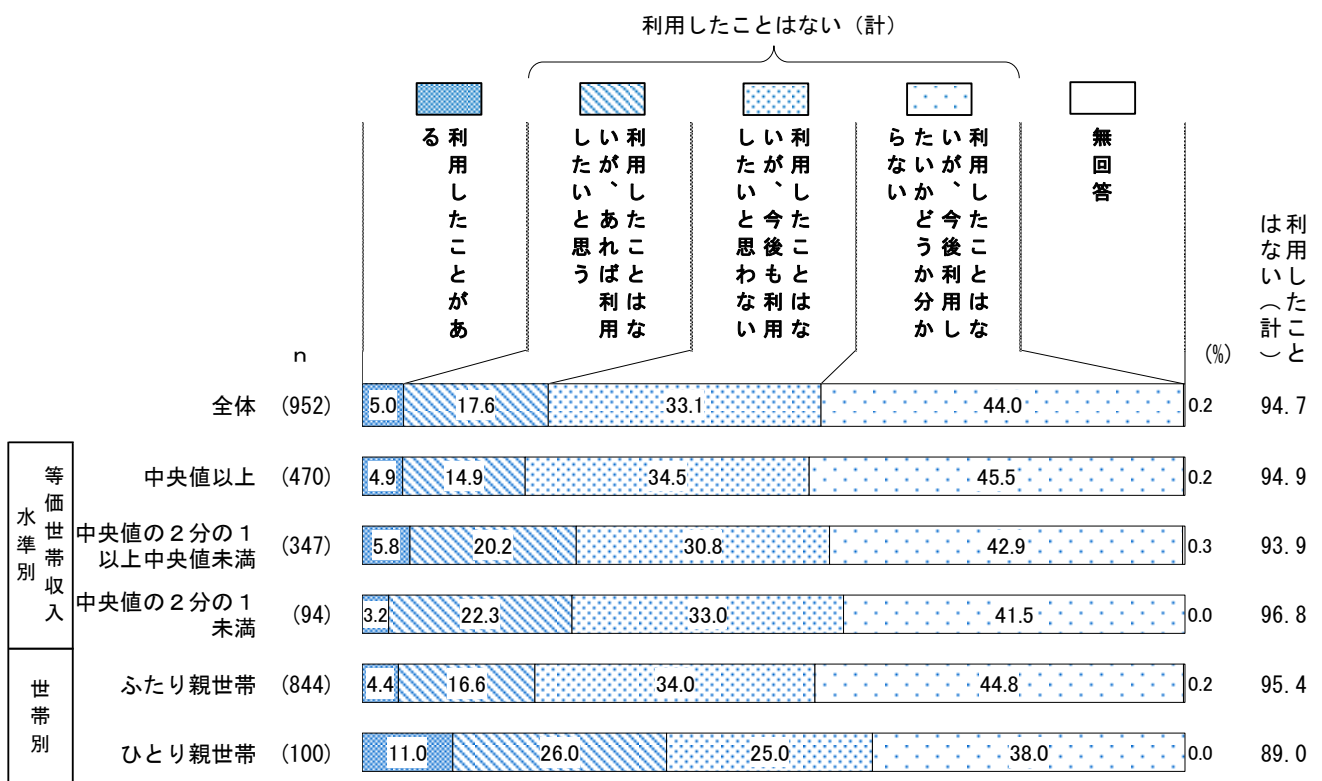
ア）（自分や友人の家以外で）夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（こども食堂など）

■利用状況

「利用したことがある」が5.0%、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」が17.6%、「利用したことはないが、今後も利用したいと思わない」が33.1%、「利用したことはないが、今後利用したいかどうか分からない」が44.0%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」と回答した割合は、中央値以上の世帯では14.9%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では20.2%、中央値の2分の1未満の世帯では22.3%となっています。

世帯の状況別にみると、「利用したことがある」はひとり親世帯では11.0%、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」と回答した割合は、ふたり親世帯では16.6%、ひとり親世帯では26.0%となっています。



■こども食堂などを利用したいと思わない理由

「利用する必要がないから」が79.2%、次いで「やっている場所を知らない、わからないから」が44.3%、「知らない人と関わりたくないから」が11.4%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「知らない人と関わりたくないから」が17.1%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が14.3%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「やっている場所を知らない、わからないから」が52.4%、「知らない人と関わりたくないから」が17.5%とふたり親世帯と比べて高くなっています。

単位：%		調査数（n）	利用する必要がないから	やっている場所を知らない、わからないから	知らない人と関わりたくないから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	生活に困っていると思われるから	親の許可が得られないから	それ以外の理由	無回答
全体		734	79.2	44.3	11.4	9.7	8.2	2.2	2.3	0.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	376	80.9	43.6	10.9	8.8	7.7	2.4	1.6	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	256	76.6	46.5	10.2	9.4	9.0	1.6	3.1	0.0
	中央値の2分の1未満	70	78.6	47.1	17.1	14.3	10.0	4.3	1.4	0.0
世帯別	ふたり親世帯	665	80.5	43.5	10.7	9.5	8.0	2.3	2.0	0.0
	ひとり親世帯	63	65.1	52.4	17.5	11.1	9.5	1.6	6.3	0.0

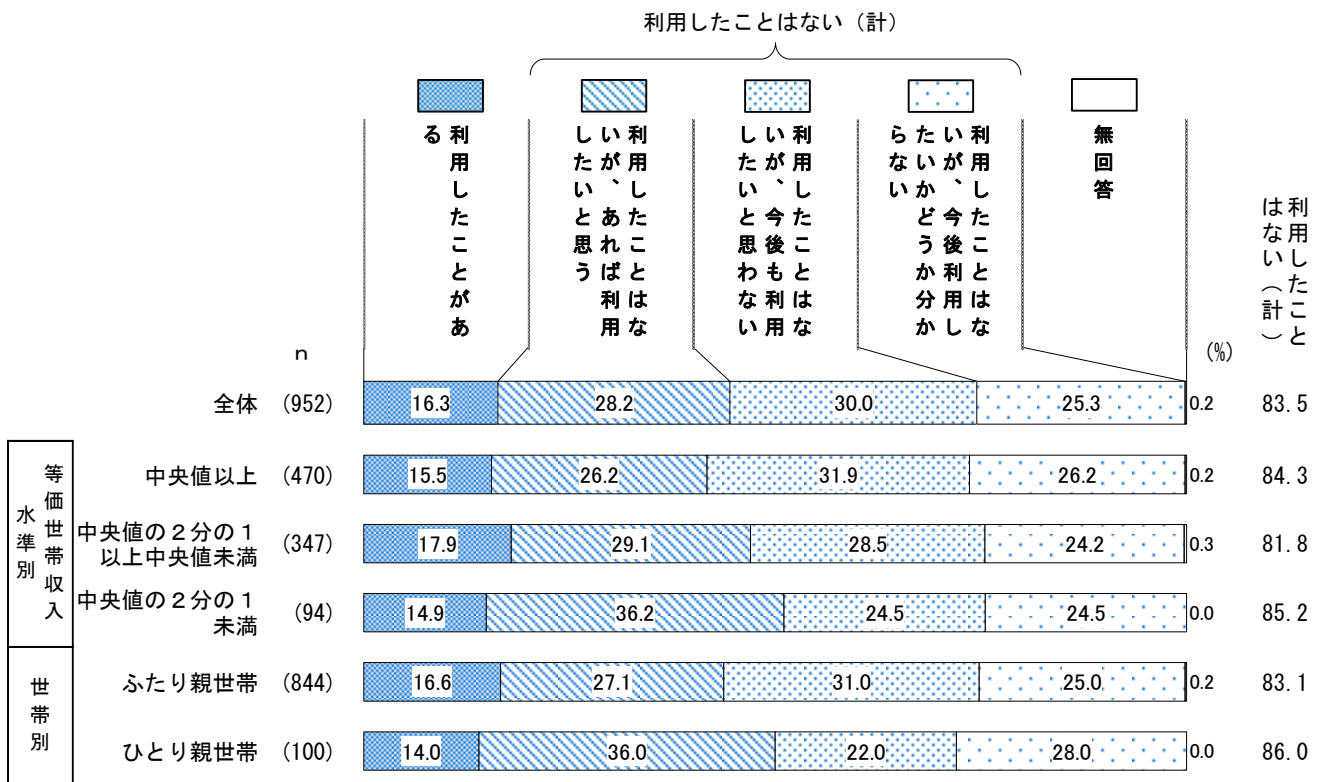
イ）勉強を無料でみてる場所

■利用状況

「利用したことがある」が16.3%、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」が28.2%、「利用したことはないが、今後も利用したいと思わない」が30.0%、「利用したことはないが、今後利用したいかどうか分からない」が25.3%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」と回答した割合は、中央値以上の世帯では26.2%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では29.1%、中央値の2分の1未満の世帯では36.2%となっています。

世帯の状況別にみると、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」と回答した割合は、ふたり親世帯では27.1%、ひとり親世帯では36.0%となっています。



■勉強を無料で見てくれる場所を利用したいと思わない理由

「利用する必要がないから」が62.8%、次いで「やっている場所を知らない、わからないから」が36.1%、「知らない人と関わりたくないから」が19.7%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯では、「利用する必要がないから」が65.2%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「知らない人と関わりたくないから」が30.0%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が16.0%と、ふたり親世帯と比べて高くなっています。

		調査数（n）	利用する必要がないから	やっている場所を知らない、わからないから	知らない人と関わりたくないから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	生活に困っていると思われるから	親の許可が得られないから	それ以外の理由	無回答
単位：%										
全体		527	62.8	36.1	19.7	10.2	2.1	1.9	6.3	0.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	273	65.2	38.5	16.5	11.0	2.2	0.4	4.4	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	183	59.6	33.9	25.7	10.4	2.2	4.4	7.7	0.0
	中央値の2分の1未満	46	63.0	34.8	17.4	4.3	2.2	2.2	8.7	0.0
世帯別	ふたり親世帯	473	65.1	36.6	18.6	9.7	2.1	1.5	5.3	0.0
	ひとり親世帯	50	40.0	34.0	30.0	16.0	2.0	6.0	16.0	0.0

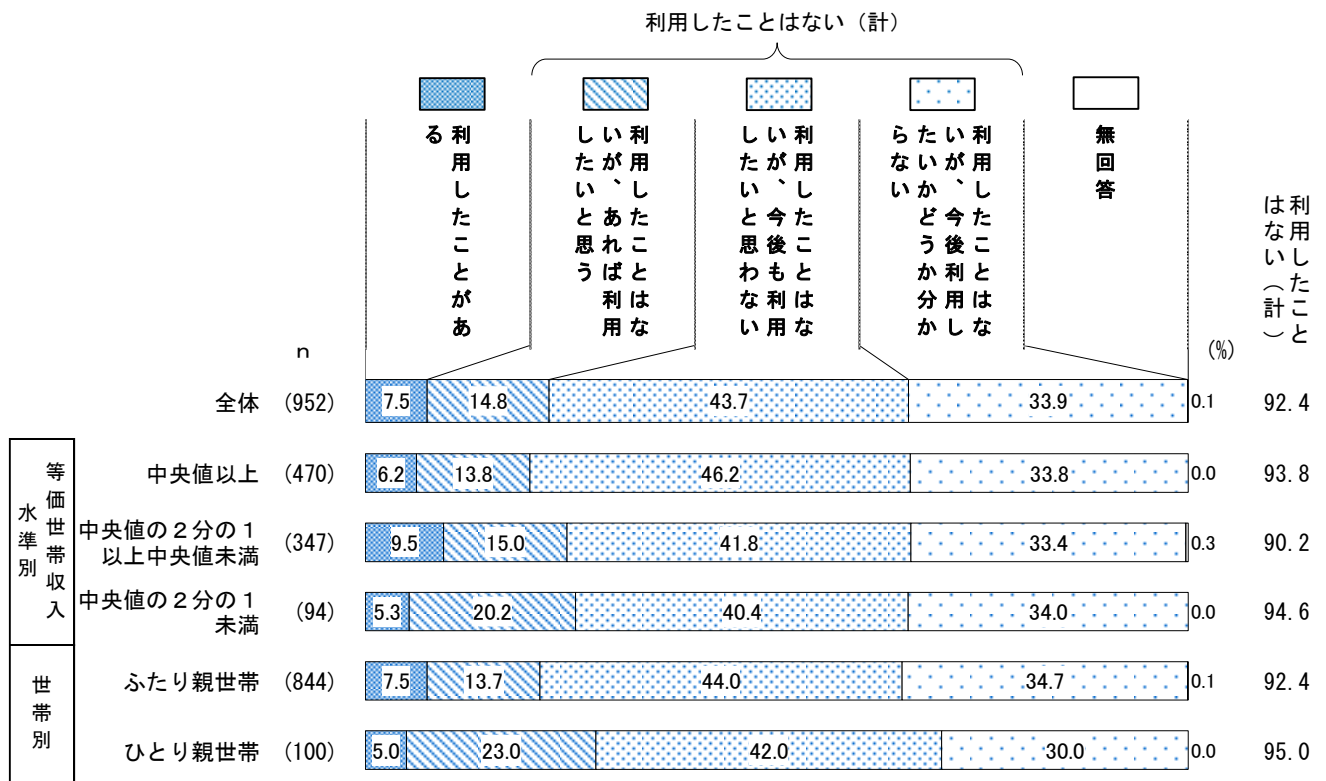
ウ）（家や学校以外で）何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む。）

■利用状況

「利用したことがある」が7.5%、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」が14.8%、「利用したことはないが、今後も利用したいと思わない」が43.7%、「利用したことはないが、今後利用したいかどうか分からない」が33.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」と回答した割合は、中央値以上の世帯では13.8%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では15.0%、中央値の2分の1未満の世帯では20.2%となっています。

世帯の状況別にみると、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」と回答した割合は、ふたり親世帯では13.7%、ひとり親世帯では23.0%となっています。



■何でも相談できる場所を利用したいと思わない理由

「利用する必要がないから」が71.9%、次いで「知らない人と関わりたくないから」が23.8%、「やっている場所を知らない、わからないから」が21.5%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「知らない人と関わりたくないから」が28.6%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「知らない人と関わりたくないから」が29.2%とふたり親世帯と比べて高くなっています。

単位：%		調査数（n）	利用する必要がないから	知らない人と関わりたくないから	やっている場所を知らない、わからないから	利用したいが、手続きがわからないから	生活に困っていると思われるから	親の許可が得られないから	それ以外の理由	無回答
全体		739	71.9	23.8	21.5	10.8	5.1	1.4	6.0	0.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	376	73.7	23.7	25.0	10.4	3.7	0.8	5.1	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	261	69.7	22.6	17.6	11.9	7.3	2.3	7.3	0.0
	中央値の2分の1未満	70	74.3	28.6	21.4	10.0	2.9	1.4	4.3	0.0
世帯別	ふたり親世帯	664	73.2	23.0	21.5	10.7	5.3	1.4	5.3	0.0
	ひとり親世帯	72	59.7	29.2	22.2	12.5	4.2	1.4	12.5	0.0

（2）支援等の利用による変化【中学2年生調査】

※支援等の利用状況で1つでも「1.利用したことがある」※を選んだ方のみ回答

Q：そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。（○はいくつでも）

支援等を利用したことがある場合の利用による変化について、「特に変化はない」以外の回答では、「勉強する時間が増えた」が18.8%、「友だちが増えた」が13.5%、「勉強がわかるようになった」が11.4%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「勉強する時間が増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」などの割合が他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では、「気軽に話せる大人が増えた」、「ほっとできる時間が増えた」、「勉強がわかるようになった」などの割合が、ひとり親世帯と比べて高くなっています。

		調査数（n）	勉強する時間が増えた	友だちが増えた	勉強がわかるようになった	気軽に話せる大人が増えた	ほっとできる時間が増えた	生活の中で楽しみなことが増えた	栄養のある食事をとれることが増えた	その他	特に変化はない	無回答
単位：%												
全体		229	18.8	13.5	11.4	8.7	8.7	7.0	0.0	7.0	34.9	26.6
等価世帯収入水準別	中央値以上	103	16.5	11.7	7.8	8.7	9.7	6.8	0.0	4.9	36.9	27.2
	中央値の2分の1以上中央値未満	98	19.4	16.3	15.3	9.2	9.2	7.1	0.0	9.2	32.7	27.6
	中央値の2分の1未満	18	27.8	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	5.6	33.3	22.2
世帯別	ふたり親世帯	199	19.1	14.1	12.1	9.5	9.5	7.0	0.0	7.0	35.7	25.6
	ひとり親世帯	26	19.2	11.5	7.7	3.8	3.8	7.7	0.0	7.7	19.2	38.5

※母数が30未満の項目は参考値とする。

（3）支援等の利用状況【中学2年生保護者調査】

Q：あなたのご家族は以下の支援を利用したことがありますか。（○は1つ）
また、利用したことはない場合、その理由は何ですか。（○はいくつでも）

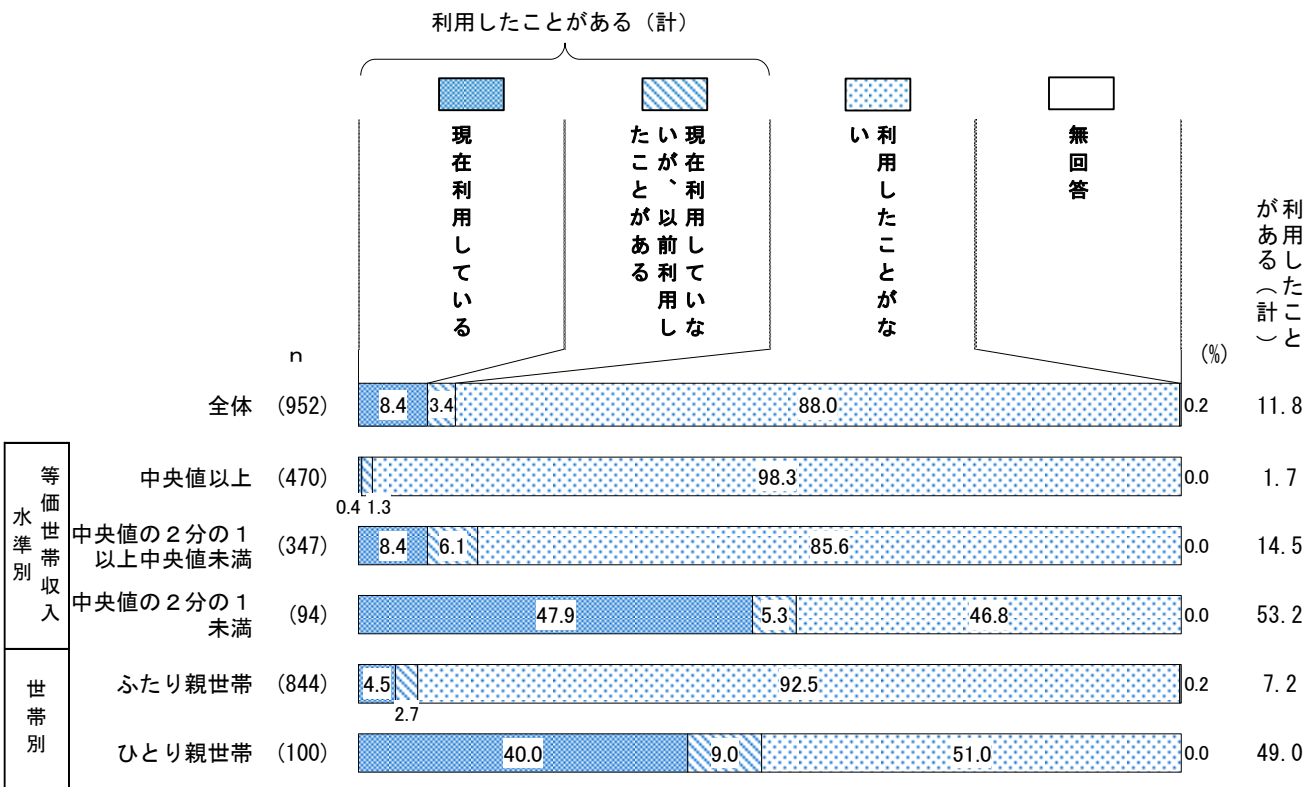
ア）就学援助制度

■利用状況

「現在利用している」が8.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.4%、「利用したことがない」が88.0%となっています。「現在利用している」と「現在利用していないが、以前利用したことがある」を合わせた《利用したことがある 計》は11.8%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《利用したことがある 計》は、中央値以上の世帯では1.7%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では14.5%、中央値の2分の1未満の世帯では53.2%となっています。

世帯の状況別にみると、《利用したことがある 計》は、ふたり親世帯では7.2%、ひとり親世帯では49.0%となっています。



■就学援助制度を利用したことがない理由

「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）」が87.5%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が9.1%、「知らない人と関わりたくないから」が6.8%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」が7.8%と、ふたり親世帯と比べて高くなっています。

単位：%		調査数（n）	制度の対象外（収入等の条件を満たさない） （だと思うから）	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	利用したいが、 今までこの支援制度を知らなかったから	生活に困っていると思われるから	知らない人と関わりたくないから	利用したいが、場所が遠く利用できないから	それ以外の理由	無回答
全体		838	87.5	3.1	2.1	1.6	1.4	0.6	0.1	4.3	3.5
等価世帯収入水準別	中央値以上	462	92.0	1.9	0.4	0.9	0.2	0.2	0.0	3.0	3.2
	中央値の2分の1以上中央値未満	297	86.9	3.7	4.0	2.4	2.7	0.3	0.0	4.0	3.0
	中央値の2分の1未満	44	61.4	9.1	6.8	4.5	4.5	6.8	2.3	13.6	0.0
世帯別	ふたり親世帯	781	88.0	2.8	1.8	1.4	1.5	0.5	0.1	4.1	3.5
	ひとり親世帯	51	78.4	7.8	7.8	3.9	0.0	2.0	0.0	7.8	3.9

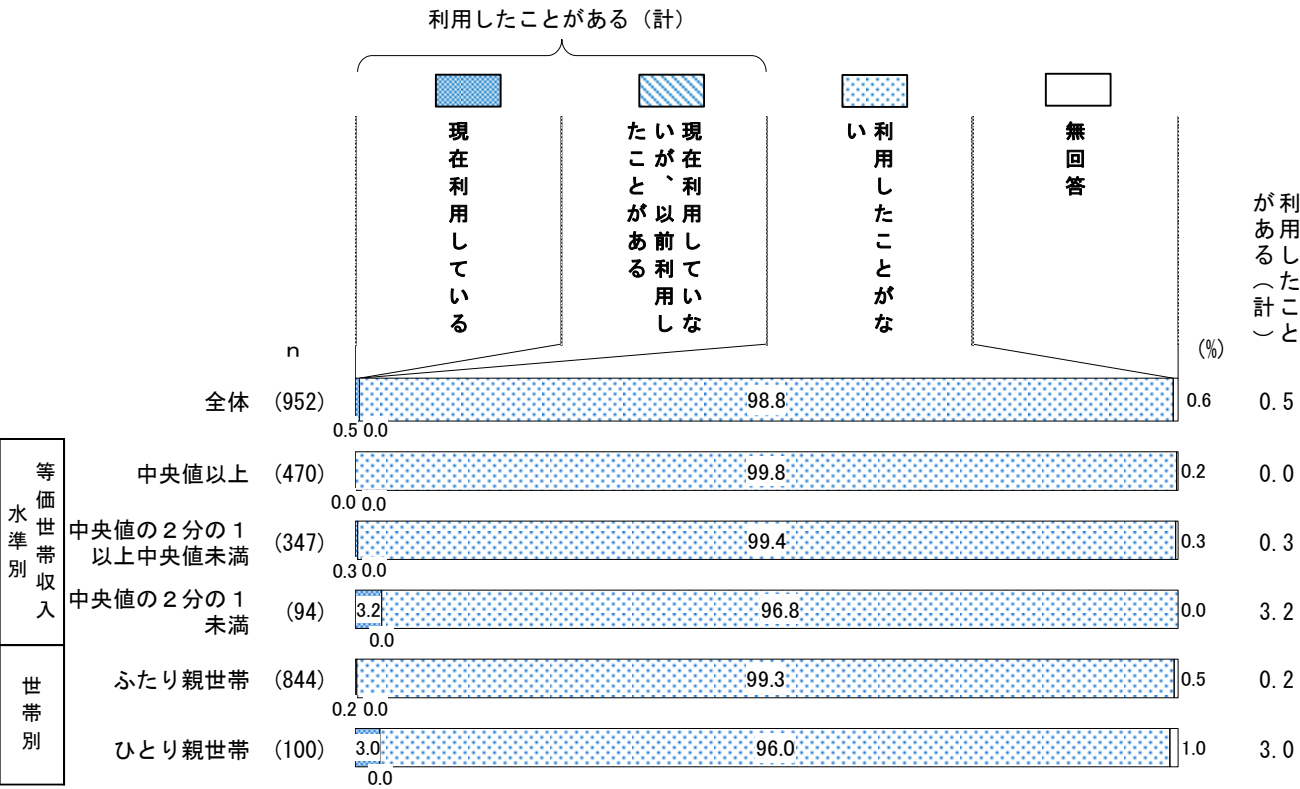
イ）生活保護制度

■利用状況

「利用したことがない」が98.8%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《利用したことがある 計》は、中央値の2分の1未満の世帯で3.2%と他の世帯と比べて割合が高くなっています。

世帯の状況別にみると、《利用したことがある 計》は、ひとり親世帯では3.0%とふたり親世帯と比べて割合が高くなっています。



生活保護制度を利用したことがない理由

「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）」が89.6%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「生活に困っていると思われたくないから」が8.8%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「生活に困っていると思われたくないから」が6.3%とふたり親世帯と比べて高くなっています。

単位：%		調査数（n）	制度の対象外（収入等の条件を満たさない） （だと思うから）	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	生活に困っていると思われたくないから	利用したいが、手続がわからなかったり、利用しにくいから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	知らない人と関わりたくないから	利用したいが、場所が遠く利用できないから	それ以外の理由	無回答
全体		941	89.6	1.9	1.7	1.1	0.6	0.5	0.0	3.9	3.3
等価世帯収入水準別	中央値以上	469	94.5	0.9	0.4	0.0	0.2	0.0	0.0	1.7	3.2
	中央値の2分の1以上中央値未満	345	88.4	2.9	1.4	1.7	0.9	0.3	0.0	4.9	2.3
	中央値の2分の1未満	91	78.0	2.2	8.8	4.4	2.2	4.4	0.0	7.7	4.4
世帯別	ふたり親世帯	838	90.2	2.0	1.2	0.8	0.7	0.5	0.0	3.6	3.2
	ひとり親世帯	96	83.3	1.0	6.3	3.1	0.0	1.0	0.0	7.3	4.2

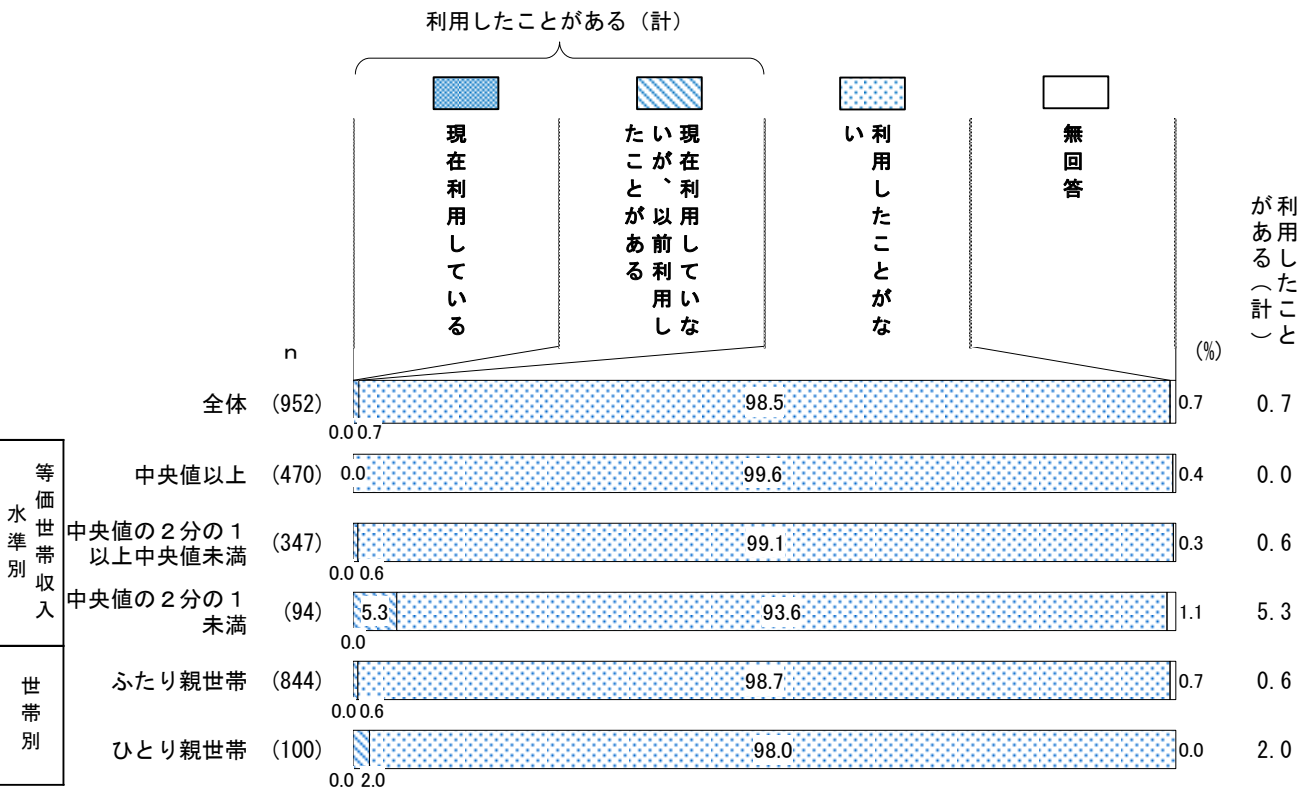
ウ）生活困窮者の自立支援相談窓口制度

■利用状況

「利用したことがない」が98.5%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《利用したことがある 計》は、中央値の2分の1未満の世帯で5.3%と他の世帯と比べて割合が高くなっています。

世帯の状況別にみると、《利用したことがある 計》は、ひとり親世帯では2.0%とふたり親世帯と比べて割合が高くなっています。



生活困窮者の自立支援相談窓口制度を利用したことがない理由

「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）」が85.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「それ以外の理由」が17.0%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「それ以外の理由」が11.2%とふたり親世帯と比べて高くなっています。

単位：%		調査数（n）	制度の対象外（収入等の条件を満たさない） （だと思うから）	利用はできるが、特に利用したいと思わ なかつたから	利用はできないが、 利用したいが、 今までの支援制度を 知らなかつたから	生活に困っていると思われ たくないから	利用したいが、 手続きがわからなかつた り、利用しにくいから	知らない人と関わりたくないから	利用したいが、場所が遠く 利用できない	それ以外の理由	無回答
全体		938	85.9	2.8	1.9	1.1	1.0	0.7	0.1	5.9	3.5
等価世帯収入水準別	中央値以上	468	93.2	1.9	0.9	0.2	0.4	0.0	0.0	2.1	3.4
	中央値の2分の1以上中央値未満	344	84.9	2.3	2.0	0.6	1.5	0.3	0.0	6.7	3.2
	中央値の2分の1未満	88	60.2	6.8	8.0	8.0	2.3	6.8	1.1	17.0	3.4
世帯別	ふたり親世帯	833	87.4	2.5	1.8	0.7	1.0	0.5	0.1	5.3	3.4
	ひとり親世帯	98	72.4	5.1	3.1	4.1	1.0	3.1	0.0	11.2	5.1

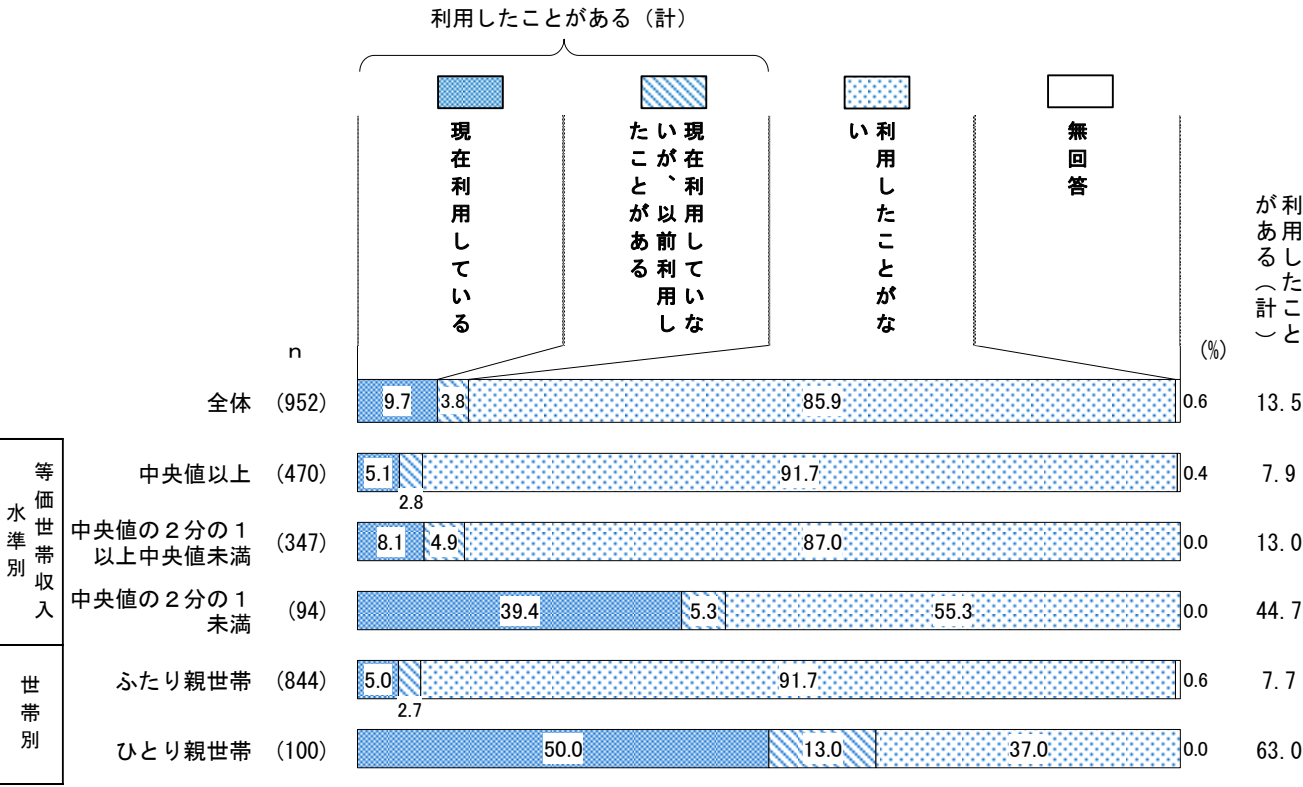
エ）児童扶養手当制度

■利用状況

「現在利用している」が9.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.8%、「利用したことがない」が85.9%となっています。《利用したことがある 計》は13.5%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《利用したことがある 計》は、中央値以上の世帯では7.9%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では13.0%、中央値の2分の1未満の世帯では44.7%となっています。

世帯の状況別にみると、《利用したことがある 計》は、ふたり親世帯では7.7%、ひとり親世帯では63.0%となっています。



■児童扶養手当制度を利用したことがない理由

「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）」が91.3%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「それ以外の理由」が13.5%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「それ以外の理由」が5.4%とふたり親世帯と比べてやや高くなっています。

単位：%		調査数（n）	制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	生活に困っていると思われるから	利用したいが、手続きがわからなかった	知らない人と関わりたくないから	利用したいが、場所が遠く利用できないから	それ以外の理由	無回答
全体		818	91.3	0.9	0.6	0.4	0.2	0.2	0.0	3.5	3.4
等価世帯収入水準別	中央値以上	431	95.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	3.2
	中央値の2分の1以上中央値未満	302	90.1	1.3	1.0	0.7	0.7	0.0	0.0	3.6	3.3
	中央値の2分の1未満	52	78.8	1.9	1.9	1.9	0.0	3.8	0.0	13.5	1.9
世帯別	ふたり親世帯	774	91.2	0.9	0.6	0.4	0.3	0.3	0.0	3.5	3.5
	ひとり親世帯	37	91.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	2.7

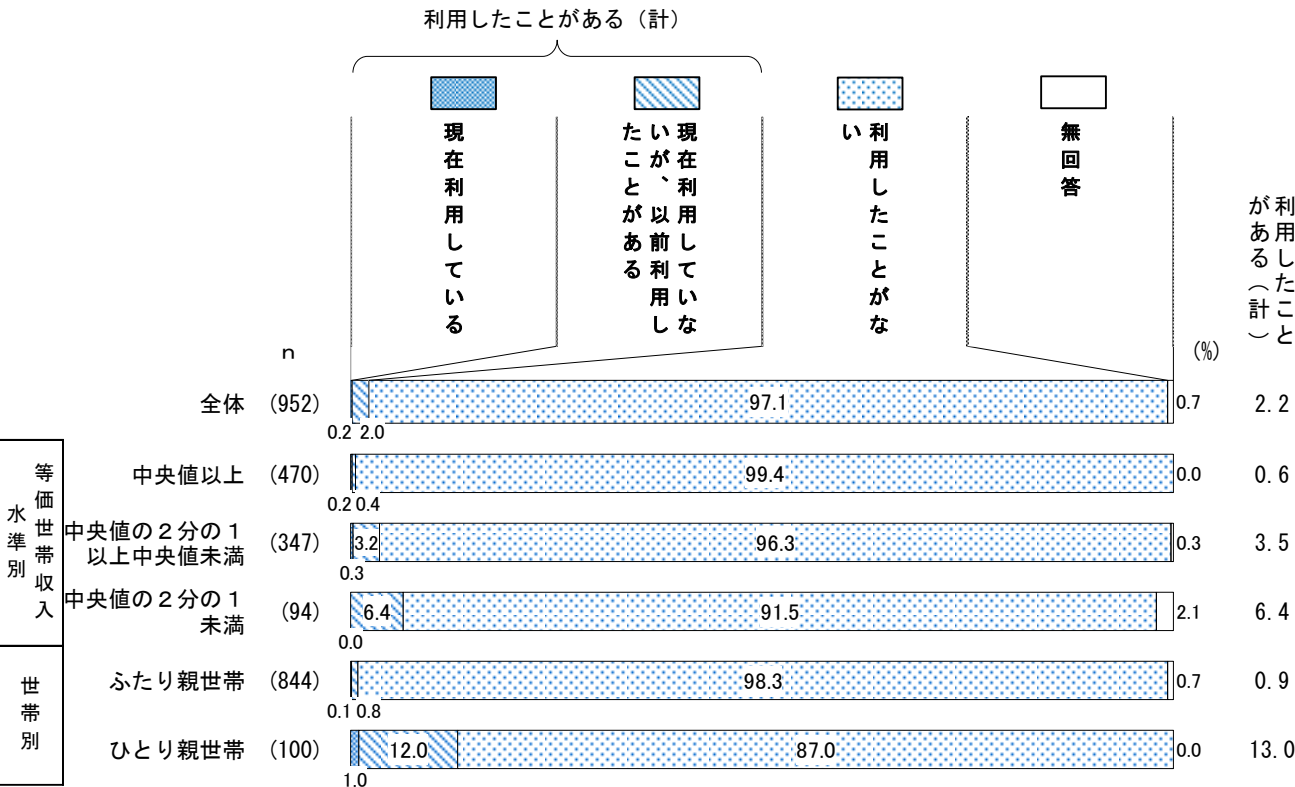
オ）母子家庭等就業・自立支援センター制度

■利用状況

「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.0%、「利用したことがない」が97.1%となっています。「現在利用している」と「現在利用していないが、以前利用したことがある」を合わせた《利用したことがある 計》は2.2%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《利用したことがある 計》は、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で3.5%、中央値の2分の1未満の世帯で6.4%と中央値以上の世帯と比べて割合が高くなっています。

世帯の状況別にみると、《利用したことがある 計》は、ひとり親世帯では13.0%とふたり親世帯と比べて割合が高くなっています。



■母子家庭等就業・自立支援センター制度を利用したことがない理由

「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）」が87.6%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が11.6%、「それ以外の理由」が14.0%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が14.9%、「それ以外の理由」が16.1%とふたり親世帯と比べてやや高くなっています。

			調査数（n）	制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかった	知らない人と関わりたくないから	生活に困っていると思われたくないから	利用したいが、場所が遠く利用できないから	それ以外の理由	無回答
単位：％												
全体		924	87.6	2.7	0.9	0.6	0.4	0.2	0.1	5.5	3.1	
等価世帯収入水準別	中央値以上	467	92.7	1.7	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	2.6	3.0	
	中央値の2分の1以上中央値未満	334	87.7	1.5	1.5	1.2	0.0	0.0	0.3	6.3	3.0	
	中央値の2分の1未満	86	66.3	11.6	1.2	0.0	4.7	2.3	0.0	14.0	2.3	
世帯別	ふたり親世帯	830	90.4	1.4	0.6	0.2	0.0	0.0	0.1	4.5	3.1	
	ひとり親世帯	87	59.8	14.9	3.4	4.6	4.6	2.3	0.0	16.1	3.4	

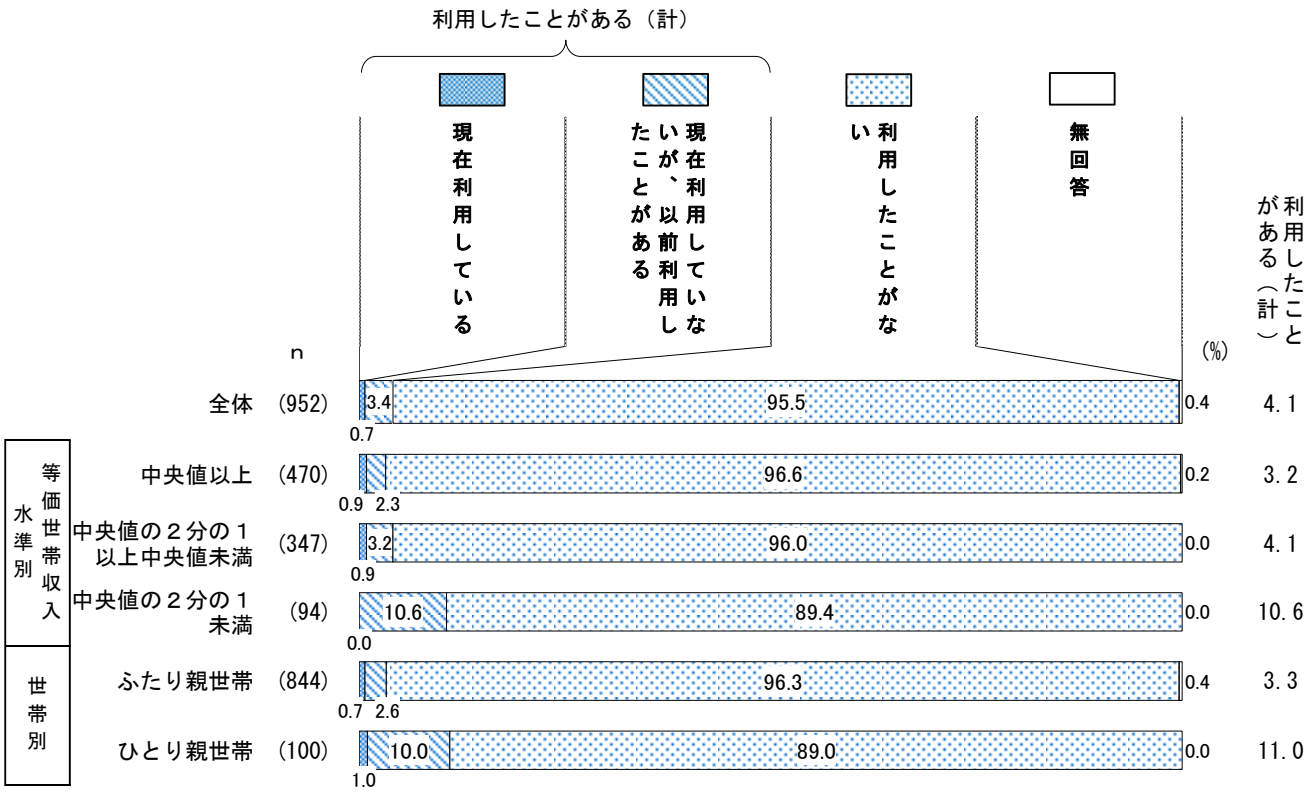
カ) 子ども食堂制度

■利用状況

「現在利用している」が0.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.4%、「利用したことがない」が95.5%となっています。《利用したことがある 計》は4.1%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《利用したことがある 計》は、中央値以上の世帯では3.2%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では4.1%、中央値の2分の1未満の世帯では10.6%となっています。

世帯の状況別にみると、《利用したことがある 計》は、ふたり親世帯では3.3%、ひとり親世帯では11.0%となっています。



■子ども食堂制度を利用したことがない理由

「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）」が60.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が17.2%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が10.7%、「それ以外の理由」が20.2%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が11.2%、「それ以外の理由」が16.9%とふたり親世帯と比べてやや高くなっています。

単位：%		調査数（n）	制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、場所が遠く利用できないから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	生活に困っていると思われたくないから	知らない人と関わりたくないから	それ以外の理由	無回答
全体		909	60.2	17.2	4.5	4.2	2.3	1.7	1.3	12.2	3.3
等価世帯収入水準別	中央値以上	454	66.7	17.8	2.6	2.4	0.7	0.7	1.1	9.3	3.5
	中央値の2分の1以上中央値未満	333	59.8	16.5	5.7	6.3	2.7	1.8	0.9	12.9	2.7
	中央値の2分の1未満	84	36.9	15.5	8.3	7.1	10.7	7.1	3.6	20.2	1.2
世帯別	ふたり親世帯	813	62.4	17.5	3.9	3.4	1.6	1.5	1.0	11.6	3.3
	ひとり親世帯	89	40.4	15.7	9.0	11.2	9.0	3.4	4.5	16.9	3.4

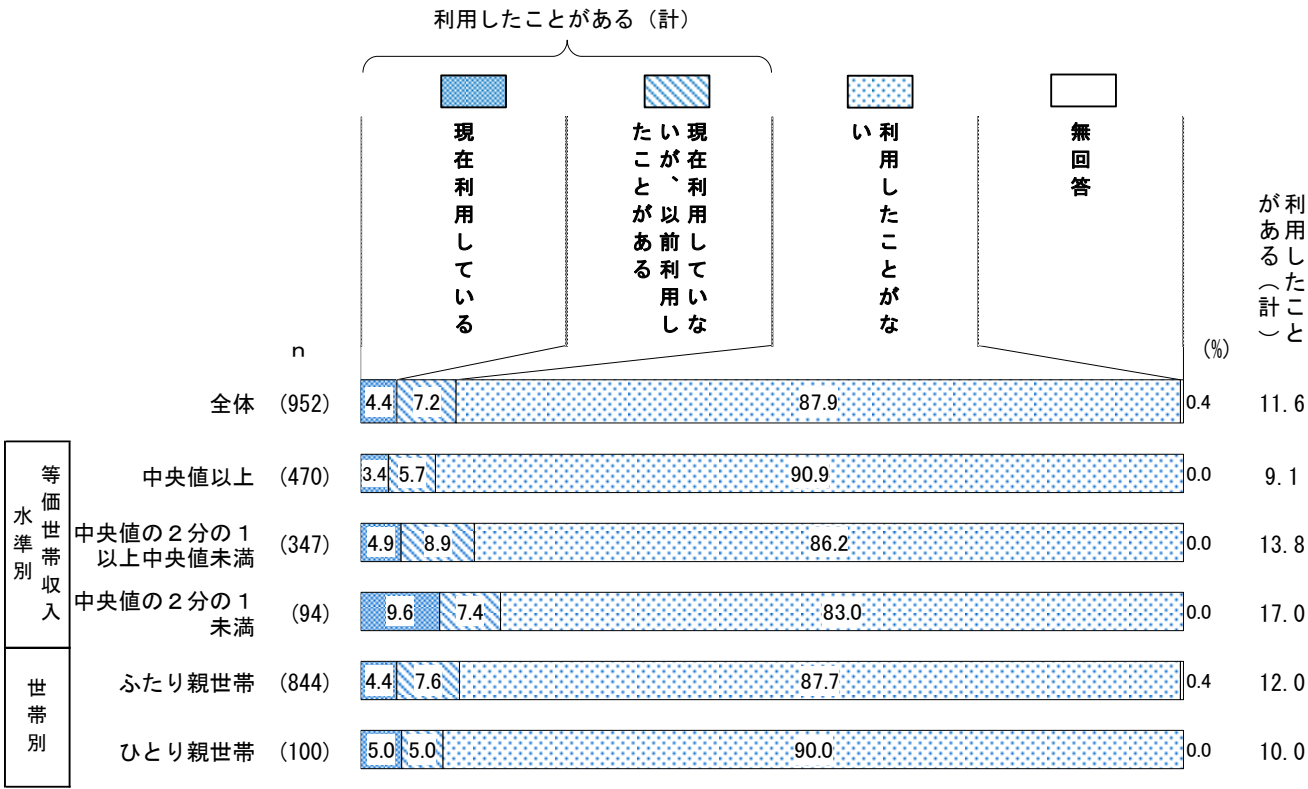
キ）子どもに勉強を無料で教えてくれる場所制度

■利用状況

「現在利用している」が4.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が7.2%、「利用したことがない」が87.9%となっています。《利用したことがある 計》は11.6%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《利用したことがある 計》は、中央値以上の世帯では9.1%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では13.8%、中央値の2分の1未満の世帯では17.0%となっています。

世帯の状況別にみると、《利用したことがある 計》は、ふたり親世帯では12.0%、ひとり親世帯では10.0%となっています。



■子どもに勉強を無料で教えてくれる場所制度を利用したことがない理由

「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）」が41.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が19.5%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が26.9%、「それ以外の理由」が21.8%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が20.0%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が16.7%とふたり親世帯と比べてやや高くなっています。

単位：%		調査数（n）	制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	利用したいが、場所が遠く利用できないから	知らない人と関わりたくないから	生活に困っていると思われるくないから	それ以外の理由	無回答
全体		837	41.0	19.5	13.4	7.8	4.5	1.2	0.2	16.8	2.7
等価世帯収入水準別	中央値以上	427	48.0	20.6	9.4	6.3	3.0	0.2	0.0	15.2	2.8
	中央値の2分の1以上中央値未満	299	36.5	20.1	15.4	9.0	6.7	1.3	0.0	16.7	2.7
	中央値の2分の1未満	78	25.6	12.8	26.9	11.5	2.6	6.4	2.6	21.8	0.0
世帯別	ふたり親世帯	740	42.8	20.4	12.4	6.8	4.5	0.9	0.1	16.2	3.0
	ひとり親世帯	90	25.6	13.3	20.0	16.7	5.6	3.3	1.1	21.1	1.1

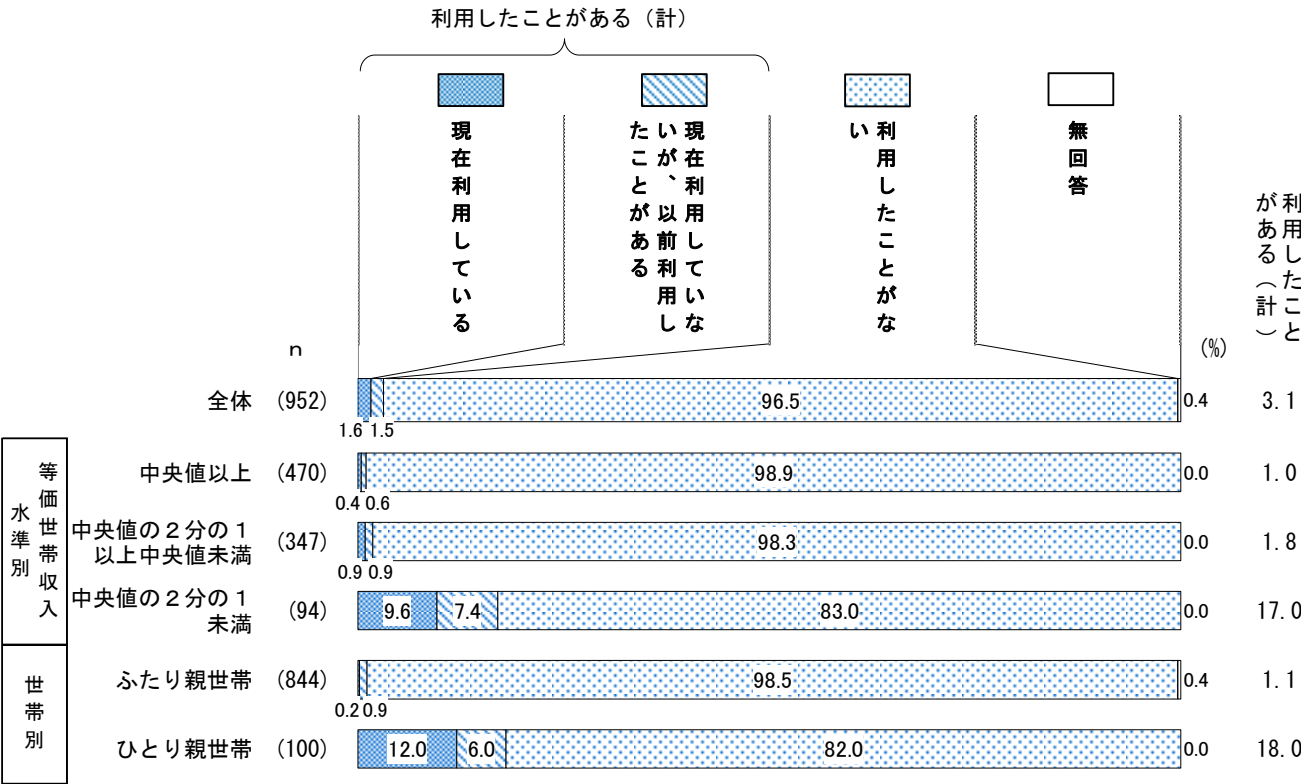
ク) フードバンク、フードパントリー制度

■利用状況

「現在利用している」が1.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.5%、「利用したことがない」が96.5%となっています。《利用したことがある 計》は3.1%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、《利用したことがある 計》は、中央値以上の世帯では1.0%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では1.8%、中央値の2分の1未満の世帯では17.0%となっています。

世帯の状況別にみると、《利用したことがある 計》は、ふたり親世帯では1.1%、ひとり親世帯では18.0%となっています。



■フードバンク、フードパントリー制度を利用したことがない理由

「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）」が61.6%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が10.8%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯では、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が11.5%、「それ以外の理由」が21.8%と他の世帯と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が8.5%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が11.0%とふたり親世帯と比べてやや高くなっています。

		調査数（n）	制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だから（だと思うから）	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	生活に困っていると思われるから	利用したいが、場所が遠く利用できないから	知らない人と関わりたくないから	それ以外の理由	無回答
単位：%											
全体		919	61.6	10.8	5.3	4.5	1.5	1.0	0.7	16.0	3.4
等価世帯収入水準別	中央値以上	465	67.1	11.4	3.9	2.4	0.9	0.6	0.2	13.3	3.4
	中央値の2分の1以上中央値未満	341	60.7	9.1	5.9	6.7	0.9	1.2	0.3	17.3	2.6
	中央値の2分の1未満	78	41.0	12.8	11.5	6.4	9.0	1.3	5.1	21.8	2.6
世帯別	ふたり親世帯	831	63.5	10.6	4.9	3.9	1.6	1.0	0.6	15.6	3.2
	ひとり親世帯	82	43.9	13.4	8.5	11.0	1.2	1.2	1.2	18.3	3.7

（4）聞いてほしいこと、助けてほしいこと（自由記載）

【中学2年生調査】

Q：あなたは、誰かに話を聞いてほしいことや助けてほしいことはありますか。（自由記載）

聞いてほしいこと、助けてほしいことについて、自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

▼人間関係について

- ・人間関係のアドバイスや解決方法が知りたい。
- ・友達と学校で楽しく話してる時たまに前振れもなくイライラしたり友達に当たってしまうことがあるので困ってる。
- ・少し友達とうまくいっていないきがするとき、どうしたらいいかわからない。
- ・友達やクラスメイトから嫌われている気がして怖い。
- ・スマホを持っておらず、話の輪に入れないことがたくさんある。最近流行っているものや人について、自分は疎いと思う。親からは高校受験が終わるまでは要らない、と言われていて、同感する部分もあるが、やっぱり話についていけないのは辛い。またスマホが無いせいで、遊びに誘われず、中々仲を深めづらい。

▼将来について

- ・将来の正解がわからない。勉強以外も頑張りたい。芸能の世界に興味があるけど親に言えない。
- ・今の勉強で高校に入れるかが不安。
- ・生きている目標が見つからず、人と関わるのを恐れてしまいます。好きな事も見つからずストレスの発散方法も未だ見つかりません。将来の事を考えなければと思っていますが、生きているか確証のない未来について考えるのが億劫で、恐怖が拭いきれません。性別や人種に寛容な世の中になってきていますがそれでも生まれながらの自分の性別、人種を変える事が出来ない為周りが自分を受け入れてくれていても、自分自身が自分を受け入れる事が出来ず、常に自分を恨んでしまいます。
- ・今バスケットボールをやっているけど最後までやれるか不安。高校行けるか不安。
- ・高校受験が心配です。プレッシャーがきつい。

▼学校・学業について

- ・好きなものとかやりたいと思っていることはたくさんあるのに、何もかも中途半端で自分が見つからない。
- ・最近部活で差別がひどく部活をやりたいなくなるし帰りたくなる。授業でわからない時がある。
- ・期末テストがあったりするのに自分に合った勉強法が未だに見つけられていない。自信を無くしやすい上に解決策などが見つけられていない。
- ・部活動の大会で良い記録を出すための方法を先生以外で聞いてみたい。
- ・クラスが地獄。早くクラス替えをしてほしい。

▼相談について

- ・部活や人間関係の話を聞いてほしい。助けてほしいとは思わないが、相談をしたいとはほんの少し思う時がある。
- ・情緒がたまに不安定になることがある。悩みがあっても相談したくない、相手に知られたくないと思って言えない。数日経つと元気になるから、相談する程の事じゃないと思って相談できない。
- ・自分の考えが理解されない時がある。相談しようとしても嫌われそうで怖い。
- ・他人を頼ることが苦手なので悩み事はあまり人に相談したくない。
- ・親や先生に相談したいことがあってもウザがられたり、バカにされたり、ちゃんと話を聞いてもらえない気がして、相談出来ない。

▼家庭について

- ・お父さんが不機嫌になると怖い。
- ・私立高校も入学前から無償化や補助金や給付金が出たら、親に迷惑をかけることはないから、前橋市がサポートしてくれたら、高校選びの幅が広がって自分も親も安心して高校受験を前向きにがんばれる。
- ・父と離婚してから母に疲れが溜まっていて、いつからだを壊してしまうかがとても心配。
- ・親に行きたい高校を否定され勉強を強要される。

▼その他

- ・好きなことをする時間がまとまって取れず、趣味が減っていつている。そのため、話についていけないこともしばしばあり、もう少し時間が欲しい。
- ・体型のことで陰口を少し言われたりするのが少し嫌。
- ・体と心の性別が合わなくて、相談しても否定されそうで誰にも相談できていない。
- ・自分の不器用さに困っている。周りの大人からは「気にするな」と言われてきた。しかし、大きなミスをしてしまった時や、そのことで周りの人から怒られることに嫌気が差し、自分を卑下したりするときもある。私はどうしたらいいのでしょうか？

【中学2年生保護者調査】

Q：あなたは、以下の制度※以外に、どのような支援があるとよいと思いますか。（自由記載）

※制度

- ・就学援助制度
- ・生活保護制度
- ・生活困窮者の自立支援相談窓口制度
- ・児童扶養手当制度
- ・母子家庭等就業・自立支援センター制度
- ・子ども食堂（自分や友人の家以外で夕ごはんを無料か安く食べることができる場所）制度
- ・子どもに勉強を無料で教えてくれる場所制度
- ・フードバンク、フードパントリー制度

求める支援を自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

▼経済支援

- ・私立高校を完全に無償化して欲しい。単身赴任で生活費がかかるのに明細上の収入が多いように見られて、所得制限に当てはまってしまうから。
- ・中高生の制服・体操着のリユースがあるように自転車のリユースもあるといいなと思う。中学生の重いシルバーの自転車は高校生になると乗らなくなり、高額の軽い自転車を買うようになるので3年間しか乗らない綺麗な中学生自転車をリユースできればお互い助かる。
- ・実際に困っていたとしても、所得によったり、色々な理由でなかなか制度を受けられる人が少ないと感じていた頃もあった。色々な面で臨機応変に利用出来る制度があればいいと思う。総所得を知らない家庭があったり、決まった額しか配偶者からももらえなくても、児童手当は所得額が多い方に入ったり、理由を伝えても、生活しやすい環境にはなかなかならない。
- ・特定の人だけでなく、同じように全ての人が使えるようにしてほしい。特によく言われる中間層の世帯は特に困っている。
- ・ひとり親家庭にて貯蓄が難しい世帯における子供が成人したあとの老後の生活を支えてくれる制度。

▼子育て支援

- ・子供をたくさん育てている人（3人以上）に向けた支援がもっと有っても良いと思う。あとは、フードだけでなく衣服や一時期しか使わない物品をやりとりできる制度があっても良いと思う。（例えば、着れなくなった入学式や卒業式の洋服や靴をいらなくなったら提供し、そういった物を用意するのが大変な方に提供する。）
- ・自分の経験ですが、子供が生後3ヶ月～5歳の時に、夫が茨城県に転勤になり、単身赴任になりました。頼れる親や兄弟も居なかった為、子育てを1人でやっていたことが、非常に苦痛でした。その間、子供が肺炎にかかり、入院した時も、頼れる人が全く居なかった為、大変でした。単身赴任で配偶者がいない人のために、助けてもらえる制度が有るとよいと思う。
- ・子供がひとりぼっちで孤独を感じない様にする制度。
- ・「こども相談窓口」タブレットのアプリに。「朝ごはん食べた？」など質問に答える形式で、家のこと・学校のことなど気軽に相談できるように。
- ・子供の塾などに送り迎えしてくれる、キッズタクシーの補助など。

▼教育支援

- ・IT 専門の教育の支援。
- ・習い事支援。例えばタブレットの動画配信でも良いと思う。
- ・様々な理由で学校に行くのが難しい子が、出席扱いになるような、学校以外の居場所。
- ・プチホームステイ制度。
- ・子供に無料でスポーツを教えてくれる制度。習いごとではなくみんなで楽しくできるようなスポーツ。

▼相談支援

- ・子供の将来について相談できる窓口みたいなどころ。どういう職業があるか、それを目指すにはお金がどのくらいかかるか、そこに就いたら今後どのように生活できるかなど現実的にアドバイスをくれるところ。学校の先生だと時間がなくて相談できなかったり、あまり現実的な話しができないため。そこから、奨学金や色々な相談にも繋げて欲しい。
- ・中学生、高校生の為の就職支援窓口。就職支援や、なりたい職業になる為にどの学校にいったらいいか、方法など。
- ・悩みや困り事の話聴いてほしいのですが、いざ聴いてほしい時に相談窓口が時間外だったり、電話もメールも折り返し申請も何ひとつつながらなかったのも、そういった相談支援がほしいと思う。
- ・法律相談など、無料で弁護士さんに相談出来るところ。離婚相談など。

▼医療支援

- ・保護者が病気や怪我などで入院する際に子どもを預かってもらえるような場所があると良いと思う。
- ・自身が就労しているが、病気がみつき通院が必要である。働いてお金がないと、治療もできないし、休みたくても、休めない。入院でもない、特定疾患でもない。でも体調が悪い。通院して薬も必要。具合が悪くても働かないと病院に行けない。休みたくても休めない。悪循環。せめて医療費を減額してほしい。医療費減額制度に多種類の病名を設定してほしい。
- ・子供の歯の矯正費用の補助。学校の歯科健診で要受診になって、矯正しない選択は親心としてできない。歯科医からデメリットまで説明されるし。でも補助が出ないのは家計が厳しい。
- ・子供の医療費は無料なので気兼ねなく行けるが、生活費がカツカツの時は母親の体の不調に緊急性がない場合は我慢したり先延ばしにしたりして歯医者など高額になってしまうのではと不安でなかなか行けなかった。

▼情報提供

- ・どのような支援があるのかを普及させる制度。
- ・自分がどんな支援を受けることができるのか、チェックできるアプリが欲しい。知らない制度があった。

▼その他

- ・発達障害児、グレーゾーン児童へ特化した支援、特に学習支援さらには就労支援。
- ・学校の役員や、旗振りや下校の見守りを代わってくれたり、町内会の班長などの役員を代わってくれる制度。
- ・ヤングケアラーを援助する制度。
- ・デジタルデバイド支援。
- ・地域で、大人や子供達が集まり交流できるイベントを沢山増やして欲しい。

第 6 章 事業者実態・意識調査結果詳細

事業者実態・意識調査結果詳細

1 事業所について

(1) 業種

Q：貴社の業種についてお答えください。(○は1つ)

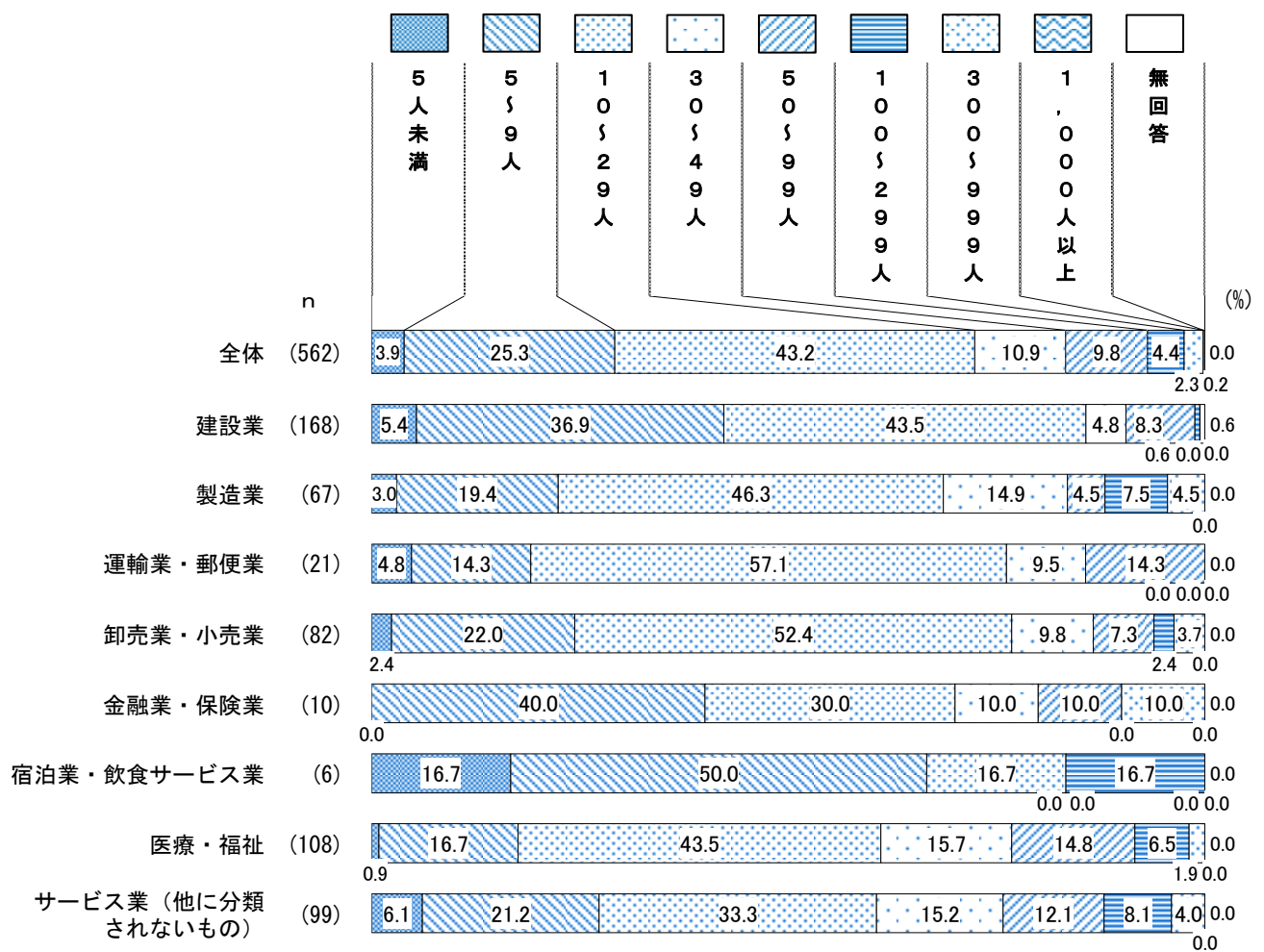
		調査数（n）	建設業	製造業	運輸業	郵便業	卸売業	小売業	金融業	保険業	宿泊業	飲食サービス業	医療	福祉	サービス業（他に分類されないもの）	無回答
単位：％																
全体		562	29.9	11.9	3.7	0.0	7.7	6.9	0.7	1.1	0.0	1.1	7.7	11.6	17.6	0.2
常用従業員数別	5人未満	22	40.9	9.1	4.5	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	27.3	0.0
	5～9人	142	43.7	9.2	2.1	0.0	6.3	6.3	0.0	2.8	0.0	2.1	10.6	2.1	14.8	0.0
	10～29人	243	30.0	12.8	4.9	0.0	10.7	7.0	1.2	0.0	0.0	0.4	7.8	11.5	13.6	0.0
	30～49人	61	13.1	16.4	3.3	0.0	6.6	6.6	0.0	1.6	0.0	0.0	4.9	23.0	24.6	0.0
	50～99人	55	25.5	5.5	5.5	0.0	5.5	5.5	0.0	1.8	0.0	0.0	3.6	25.5	21.8	0.0
	100～299人	25	4.0	20.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	4.0	12.0	16.0	32.0	4.0
	300～999人	13	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	30.8	0.0
	1,000人以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 常用従業員数

Q：貴事業所の常用従業員数についてお答えください。(○は1つ)

※企業全体ではなく、お送りした住所の事業所についてお答えください。(以降の質問も同様)

※「常用従業員」とは、正社員、パート・アルバイト。契約社員等の呼称にかかわらず、期間を定めずに、または1カ月以上の期間を定めて雇用している者をいいます。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

(3) 従業員数

Q：貴事業所の役職別の従業員数と、そのうちの子育て中の従業員数についてお答えください。

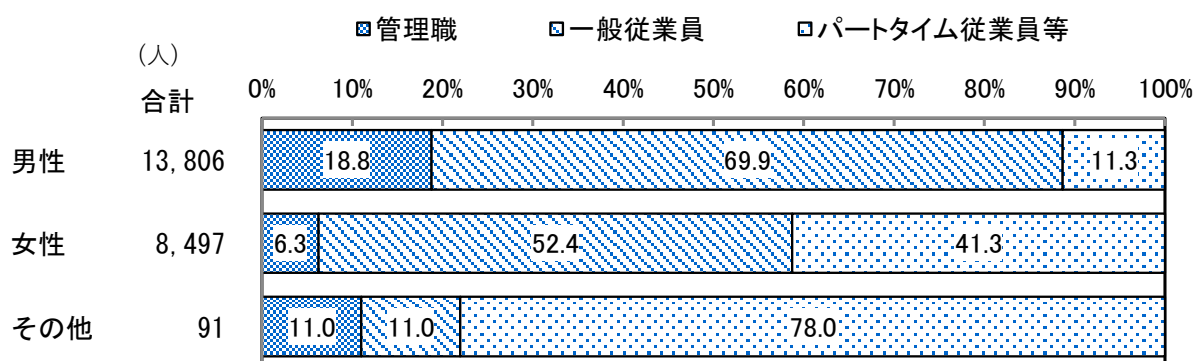
職種別の従業員割合について、男性は「一般従業員」が69.9%で最も高く、「管理職」が18.8%、「パートタイム従業員等」が11.3%となっています。

女性は「一般従業員」が52.4%で最も高く、「パートタイム従業員等」が41.3%、「管理職」が6.3%となっています。

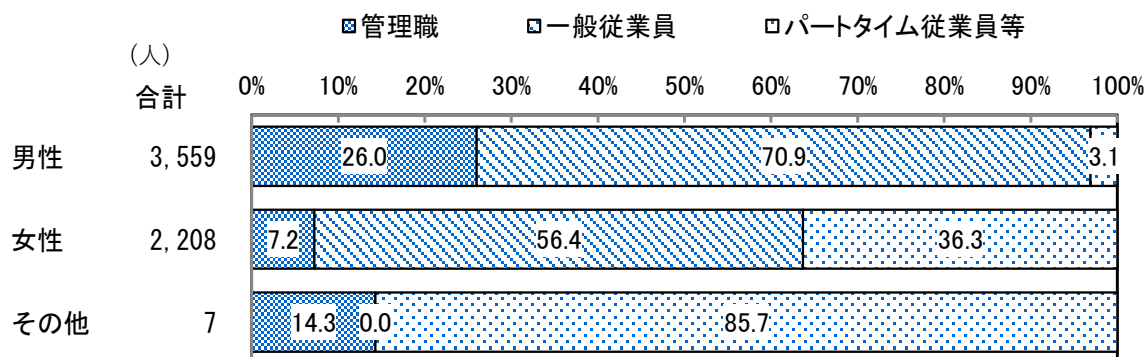
また、うち子育て中の従業員割合について、男性は「一般従業員」が70.9%と最も高く、「管理職」が26.0%、「パートタイム従業員等」が3.1%となっています。

女性は「一般従業員」が56.4%で最も高く、「パートタイム従業員等」が36.3%、「管理職」が7.2%となっています。

■従業員数



■うち子育て中の従業員数



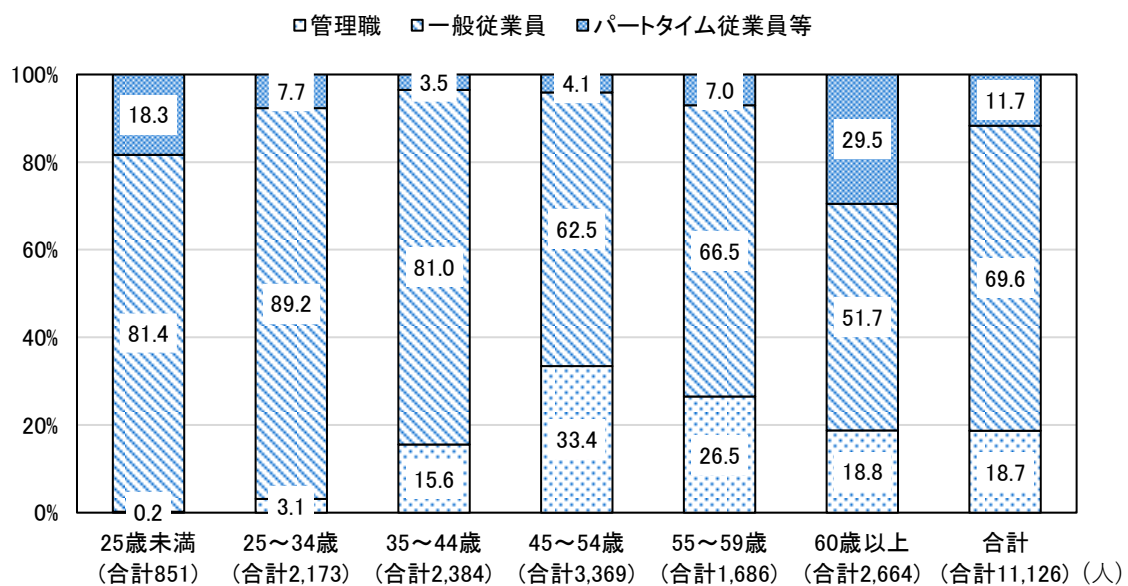
(4) 年齢別従業員数

Q：貴事業所の年齢別従業員数についてお答えください。

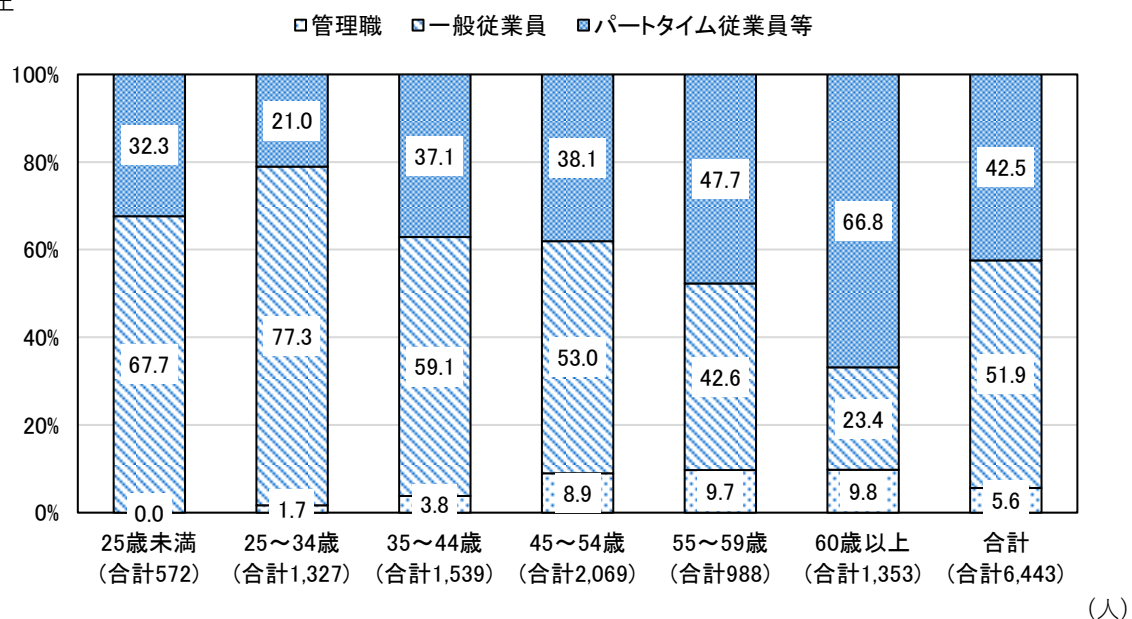
職種別の従業員割合を年齢階級別に見ると、男性は35～44歳から「管理職」の割合が高まり、45～54歳における「管理職」の割合が高くなっています。

女性は、25～34歳では「パートタイム従業員等」の割合が21.0%と最も低くなっていますが、35歳以上の年齢階級ではその割合が高まっています。

■男性



■女性



2 両立支援制度の認知度について

(1) 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定状況

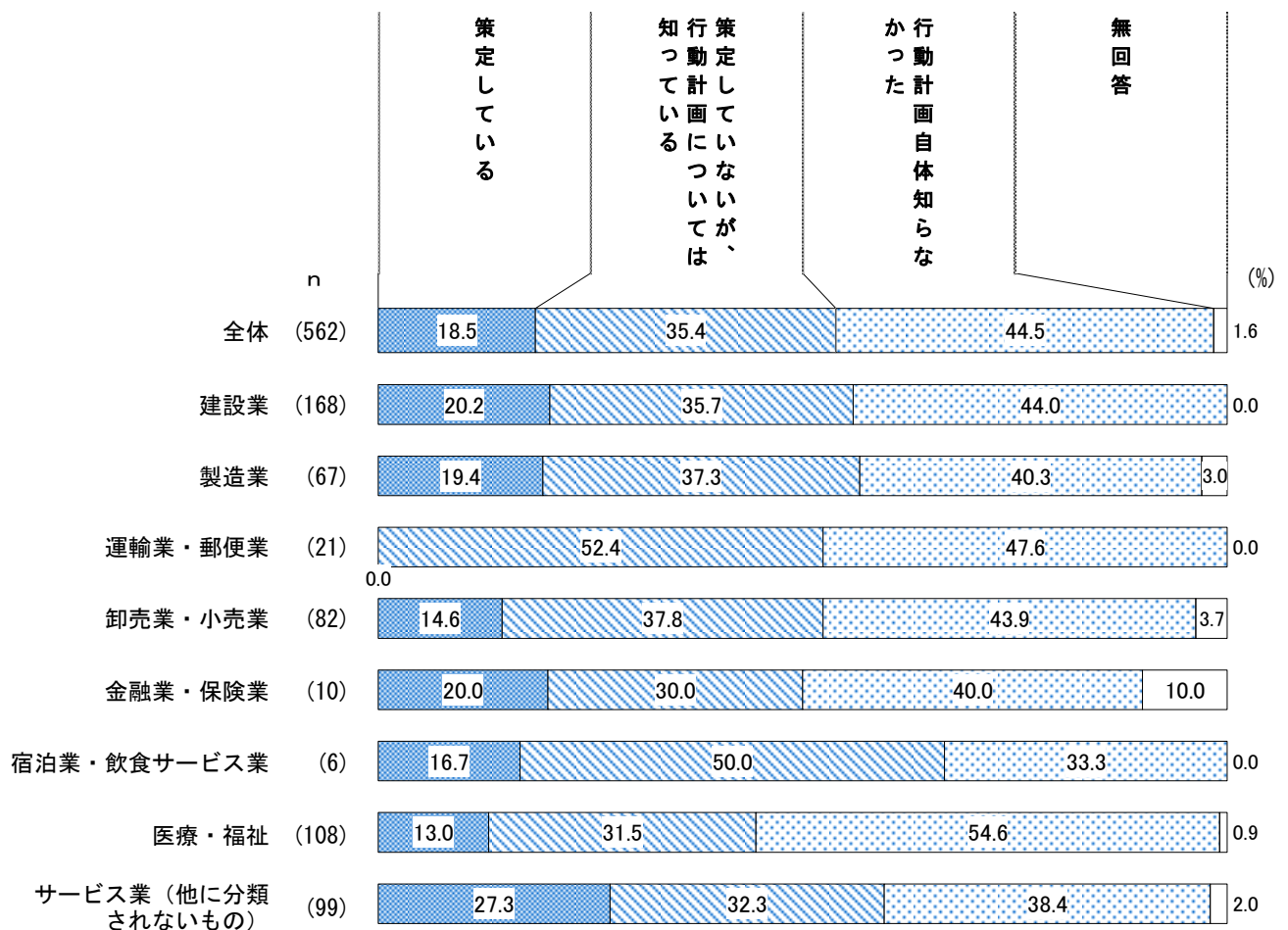
Q：仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境の整備等を進めるための行動計画（次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画※）を策定していますか。（○は1つ）

※…企業が従業員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備や、子育てをしていない従業員も含めた多様な労働条件の整備などに取り組むに当たって、(1) 計画期間、(2) 目標、(3) 目標達成のための対策及びその実施時期を定めるものです。

従業員 101 人以上の企業には、行動計画の策定・届出、公表・周知が義務付けられています。

仕事と子育ての両立を図るために必要な行動計画の策定状況は、全体では「策定している」が18.5%、「策定していないが、行動計画については知っている」が35.4%、「行動計画自体知らなかった」が44.5%となっています。

業種別でみると、「策定している」はサービス業（他に分類されないもの）で27.3%と高くなっています。一方、「行動計画自体知らなかった」は医療・福祉で54.6%と高くなっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

(2)「くるみんマーク」の認知度

Q:「くるみんマーク」※¹、「プラチナくるみんマーク」※²及び「トライくるみんマーク」※³をご存知ですか。(〇は1つ)

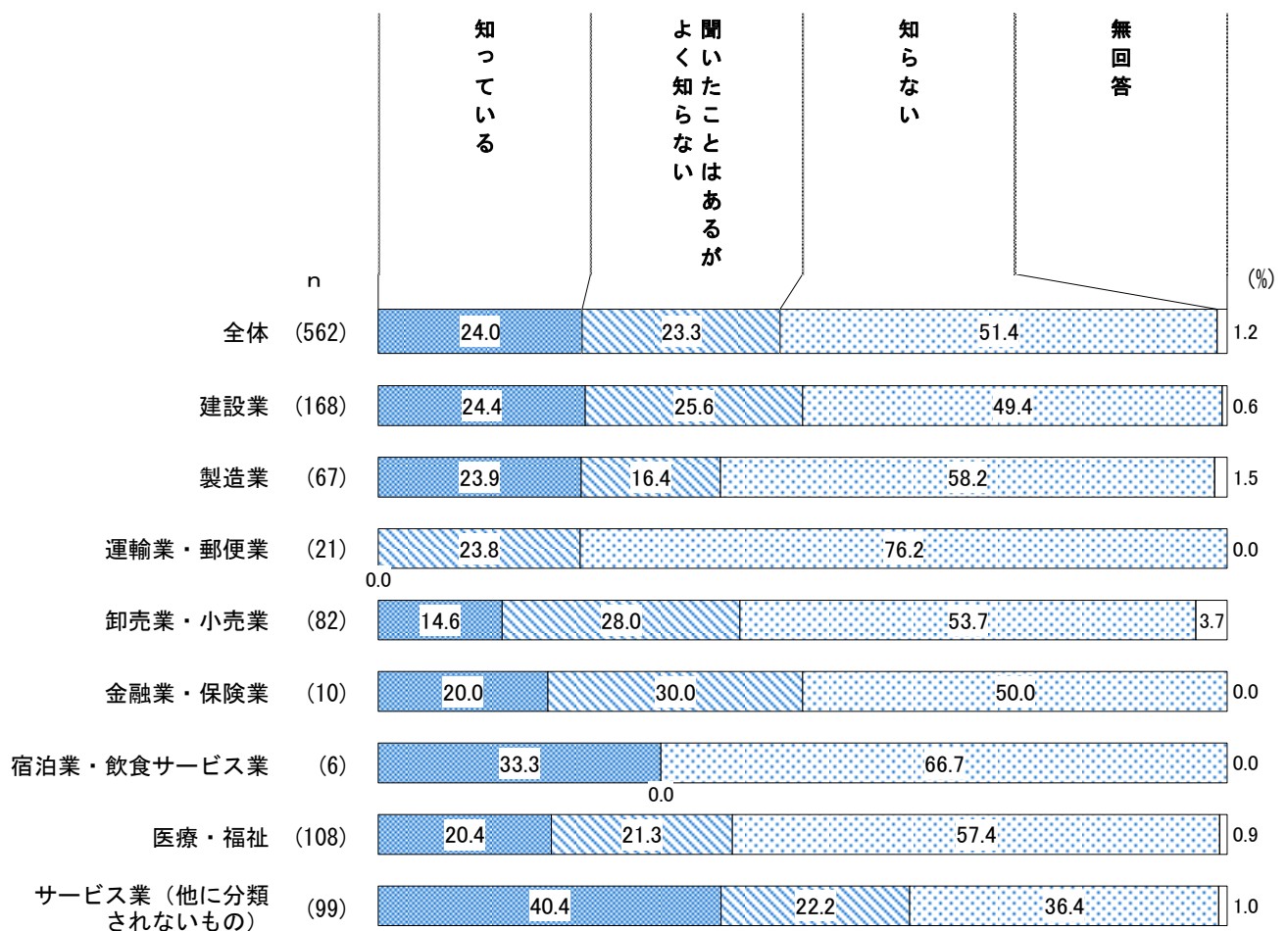
※1…次世代育成支援対策推進法に基づき、仕事と子育ての両立を応援している企業として厚生労働省が認証

※2…※1より高い水準の取組を行っている企業への認証

※3…令和4年4月から※1,2の認定基準引上げに伴い創設された認証

「くるみんマーク」の認知度は、全体では「知っている」が24.0%、「聞いたことはあるがよく知らない」が23.3%、「知らない」が51.4%となっています。

業種別でみると、「知っている」はサービス業（他に分類されないもの）で40.4%と高くなっています。一方、「知らない」は製造業で58.2%、医療・福祉で57.4%と高くなっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

3 育児休業制度について

(1) 法改正に対応した就業規則等規定整備状況

Q：育児・介護休業法が令和3年6月9日に改正[※]され、令和4年4月1日から段階的に施行されていますが、法改正に対応し、就業規則等規定整備を行いましたか。(○は1つ)

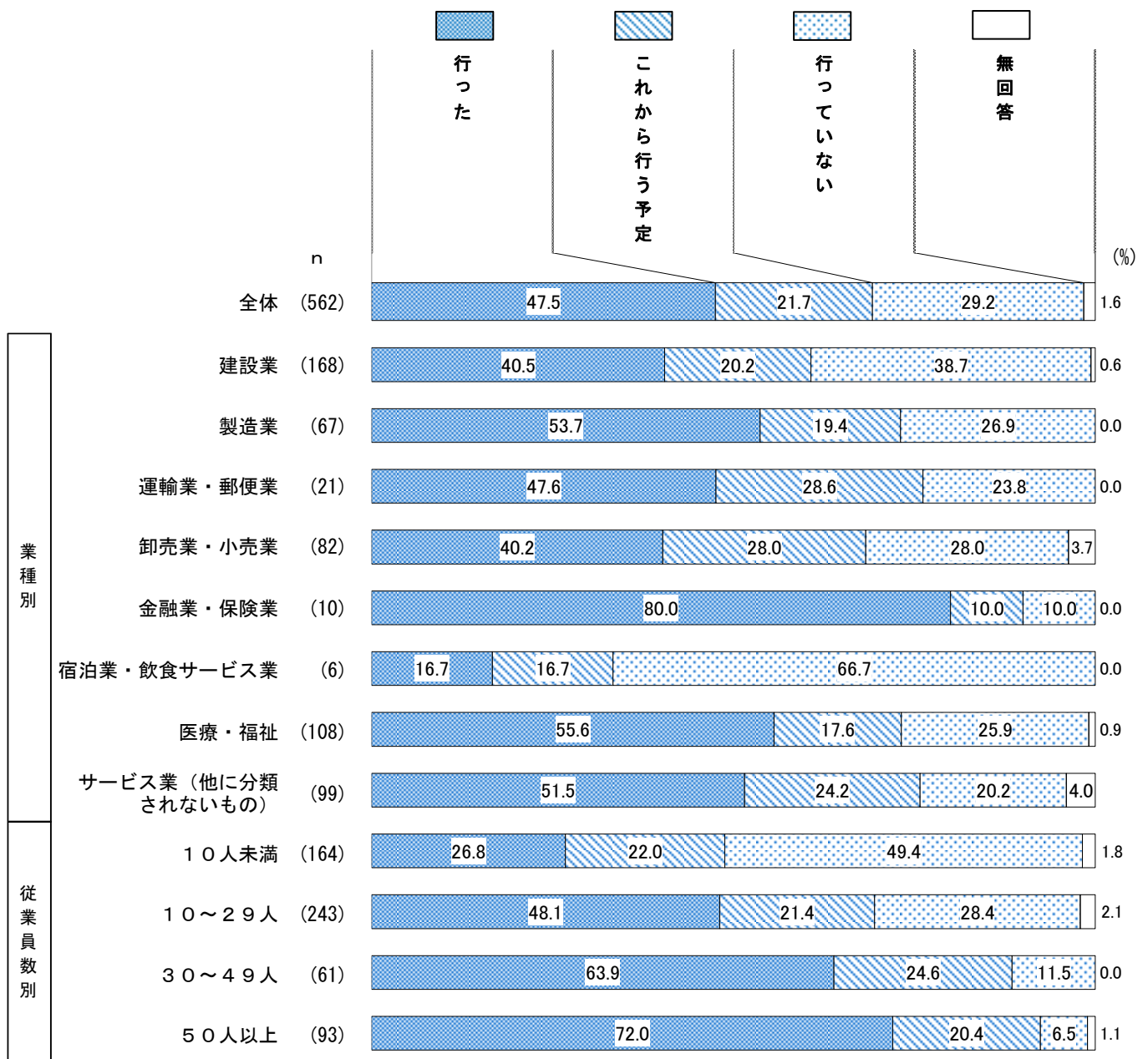
※改正内容

- ①育児休業を取得しやすい雇用環境整備及び妊娠・出産の申出をした労働者に対する個別の周知・意向確認の措置の義務付け【令和4年4月1日施行】
- ②有期雇用労働者の育児・介護休業取得要件の緩和【令和4年4月1日施行】
- ③男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設【令和4年10月1日施行】
- ④育児休業の分割取得【令和4年10月1日施行】
- ⑤育児休業の取得の状況の公表の義務付け【令和5年4月1日施行】

法改正に対応した就業規則等規定整備状況は、全体では「行った」が47.5%、「これから行う予定」が21.7%、「行っていない」が29.2%となっています。

業種別でみると、「行った」は医療・福祉で55.6%、製造業で53.7%とやや高くなっています。一方、「行っていない」は建設業で38.7%と高くなっています。

従業員数別でみると、「行った」は50人以上で72.0%と高くなっています。一方、「行っていない」は10人未満で49.4%と高くなっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

(2) 令和5年度における育児休業等の取得状況

Q：貴事業所における、令和5年度中の出産や、令和5年度以降の育児休業等の取得状況についてお答えください。

※該当者がいない場合は、「0」としてください

■令和5年度の出産・育児休業等取得者の状況

令和5年度の出産・育児休業等取得者の状況は、育児休業を取得した従業員数は、男性が108人、女性が172人となっており、育児休業取得率は、男性が47.0%、女性が96.7%となっています。また、育児休業を取得した男性従業員のうち「産後パパ育休」を取得した従業員数は73人で、育休取得者に対する割合は67.6%となっています。

	男性	女性	その他
令和5年度に本人もしくはパートナー（配偶者）が出産した従業員数	230人	178人	12人
上記のうち、育児休業を取得した（取得中を含む）従業員数	108人	172人	7人
育児休業取得率	47.0%	96.7%	58.3%
上記で「取得した」者のうち、「産後パパ育休」（出生時育児休業）を利用した従業員数	73人	-	4人
「産後パパ育休」取得率	67.6%	-	57.1%

県調査※との比較

県調査の結果をみると、育児休業を取得した従業員は、男性が94人、女性が203人、となっており、育児休業取得率は、男性が36.9%、女性が91.9%となっています。また、「産後パパ育休」を取得した従業員は58人で、育休取得者に対する割合は61.7%となっています。市調査の育児休業取得率は、男女ともに県調査を上回っています。

	男性	女性	その他
令和4年度に本人もしくはパートナー（配偶者）が出産した従業員数	255人	221人	0人
上記のうち、育児休業を取得した従業員数	94人	203人	0人
育児休業取得率	36.9%	91.9%	0.0%
上記で「取得した」者のうち、「産後パパ育休」（出生時育児休業）を利用した従業員数	58人	-	0人
「産後パパ育休」取得率	61.7%	-	0.0%

※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査 / 仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

■令和5年度の復職者の状況

令和5年度の出産・育児休業等からの復職者の状況として、復職者数と取得後退職者数の計に対するそれぞれの構成比をみると、男性は復職者が99.1%、取得後退職者が0.9%となっています。女性は復職者が93.0%、取得後退職者が7.0%となっています。

	男性	女性	その他
復職者数と取得後退職者数の計 (令和5年度に出産・育児休業等が終了した従業員数)	115人	128人	6人
上記のうち、復職者数	114人	119人	6人
構成比	99.1%	93.0%	100.0%
上記のうち、取得後退職者数	1人	9人	0人
構成比	0.9%	7.0%	0.0%

県調査※との比較

県調査の結果をみると、男性は復職者が86.7%、取得後退職者が13.3%となっています。女性は復職者が76.4%、取得後退職者が23.6%となっています。市調査の復職者は、男女ともに県調査を上回っています。

	男性	女性	その他
復職者数と取得後退職者数の計 (令和4年度に出産・育児休業等が終了した従業員数)	98人	191人	0人
復職者数	85人	146人	0人
構成比	86.7%	76.4%	0.0%
取得後退職者数	13人	45人	0人
構成比	13.3%	23.6%	0.0%

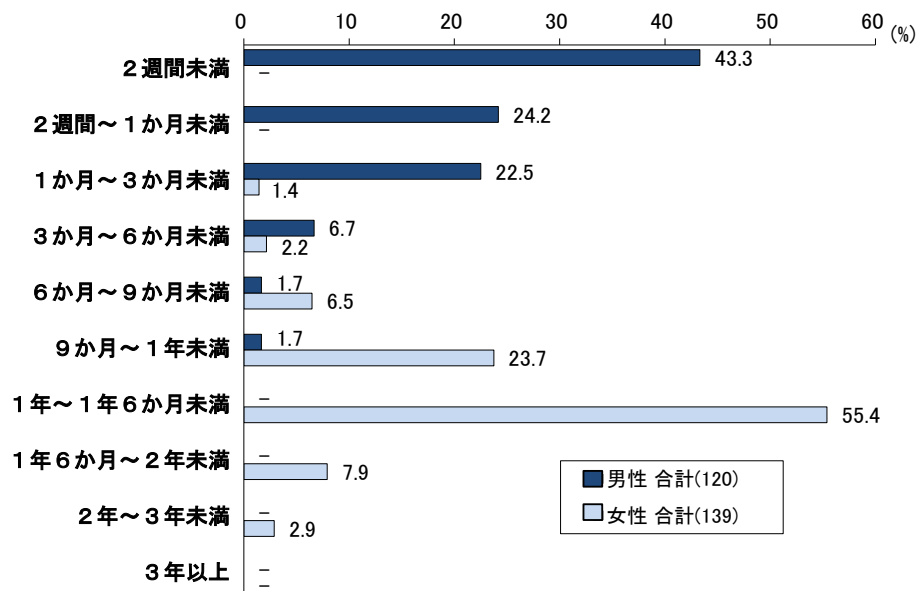
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査 / 仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

■復職者の育児休業取得期間

※無回答があるため、合計人数は「■令和5年度の復職者の状況」と一致しない。

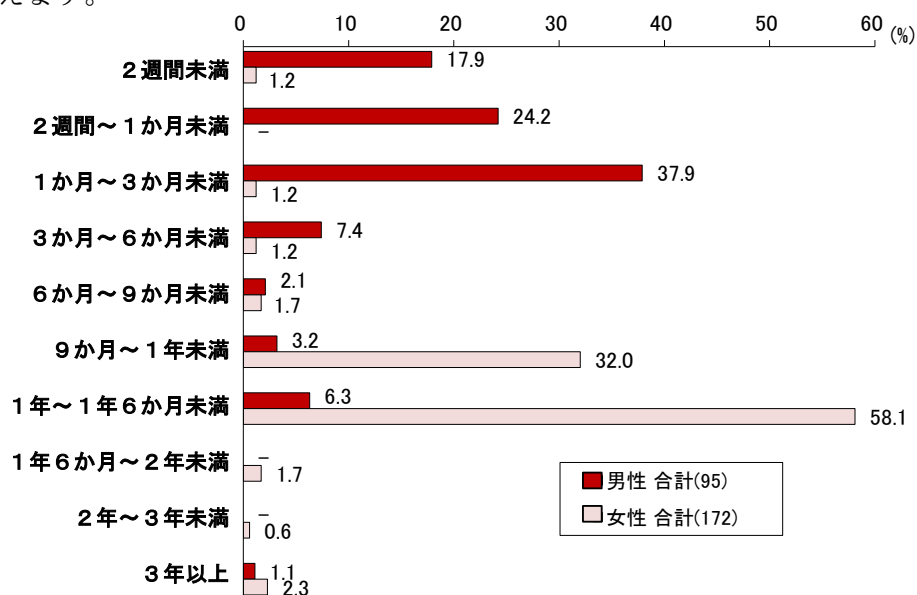
復職者の育児休業取得期間は、男性は「2週間未満」が43.3%で最も高く、次いで「2週間～1か月未満」が24.2%、「1か月～3か月未満」が22.5%となっています。

女性は「1年～1年6か月未満」が55.4%で最も高く、次いで「9か月～1年未満」が23.7%となっています。



県調査※との比較

県調査の結果をみると、女性では「1年～1年6か月未満」が58.1%、男性では「1か月～3か月未満」が37.9%で最も高く、女性の回答は市調査と同様の傾向がみられます。対して、市調査の男性は「2週間未満」が43.3%と最も高くなっており、県調査に比べて取得期間が短いことがうかがえます。



※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査 / 仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

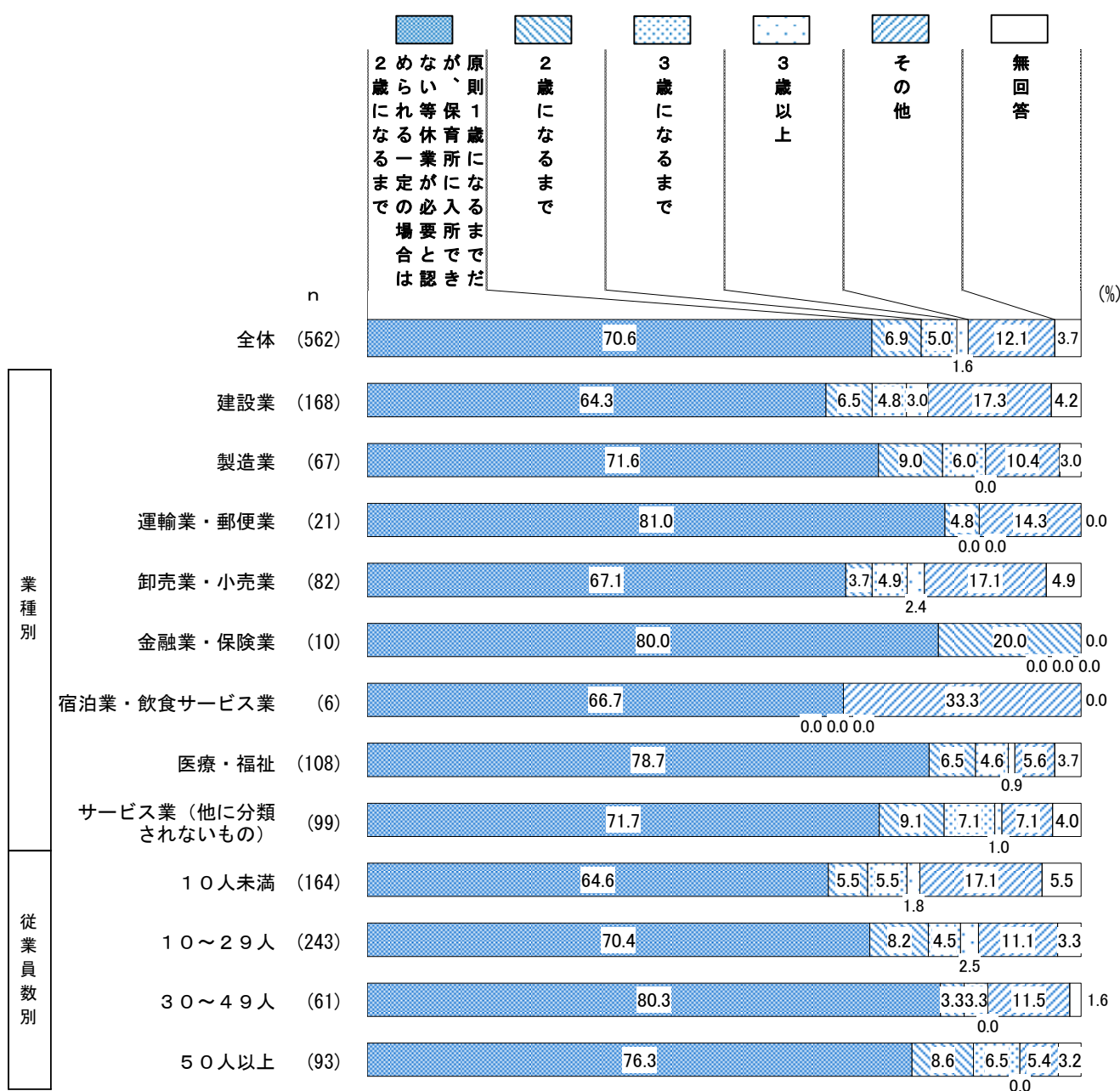
(3) 育児休業の取得期間

Q：貴社では、子が何歳になるまで育児休業を取得できますか。(○は1つ)

育児休業の取得期間は、全体では「原則1歳になるまでだが、保育所に入所できない等休業が必要と認められる一定の場合は2歳になるまで」が70.6%で最も高く、次いで「2歳になるまで」が6.9%、「3歳になるまで」が5.0%となっています。「その他」の主な内容は、「1歳半になるまで」、「状況に応じて相談」、「特に決めていない」などが挙げられています。

業種別でみると、「原則1歳になるまでだが、保育所に入所できない等休業が必要と認められる一定の場合は2歳になるまで」は医療・福祉で78.7%とやや高くなっています。

従業員数別でみると、「原則1歳になるまでだが、保育所に入所できない等休業が必要と認められる一定の場合は2歳になるまで」は30～49人で80.3%と高くなっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

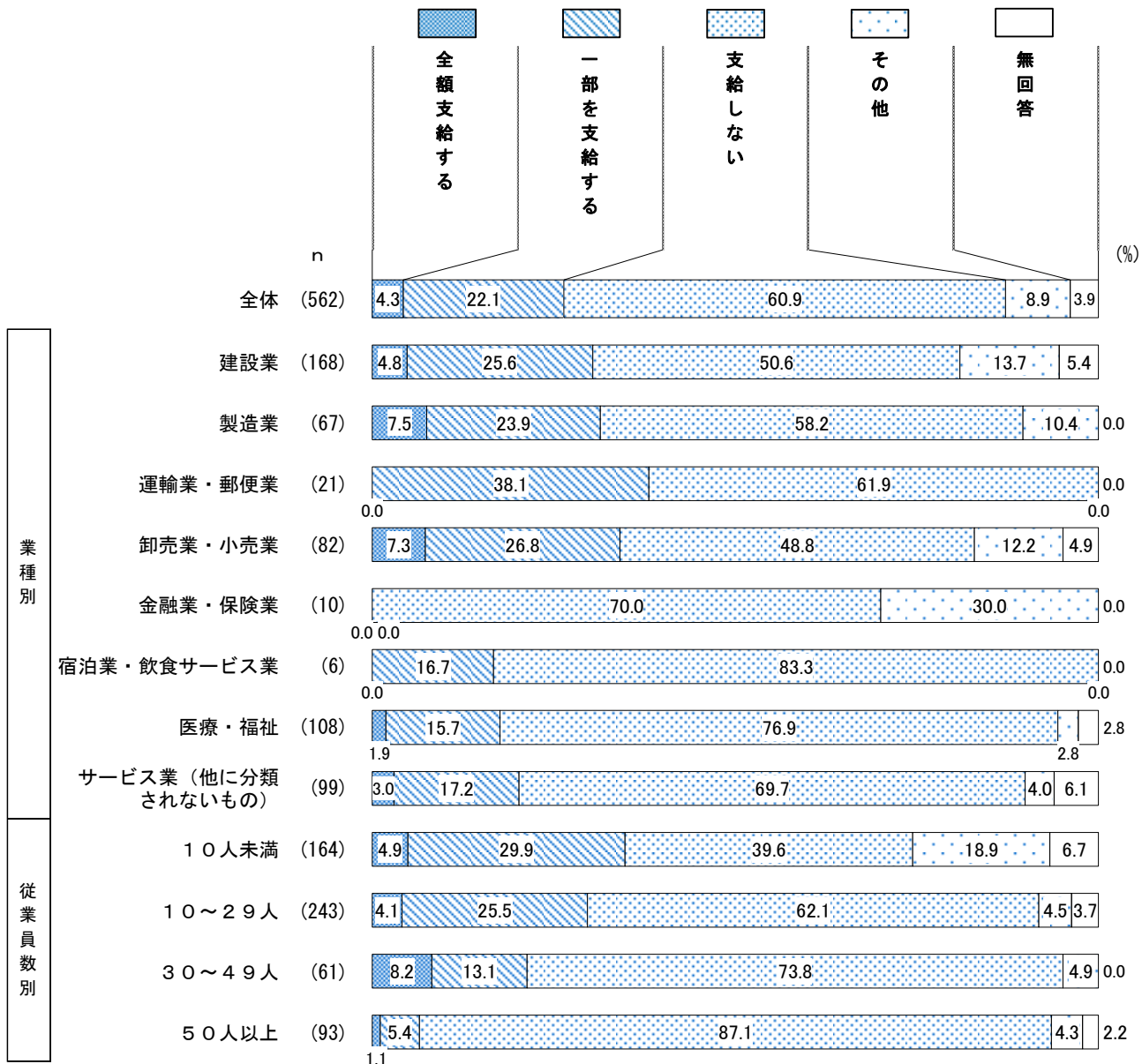
(4) 育児休業中の賃金支給状況

Q：育児休業中の賃金の支給はどのようになっていますか。（雇用保険による育児休業給付金の支給を除く）（○は1つ）

育児休業中の賃金支給状況は、全体では「支給しない」が60.9%で最も高く、次いで「一部を支給する」が22.1%となっています。「その他」の主な内容は、「決まっていない」、「対象者がいない」、「検討中」などが挙げられています。

業種別でみると、「支給しない」は医療・福祉で76.9%、サービス業（他に分類されないもの）で69.7%と高くなっています。一方、「一部を支給する」は卸売業・小売業で26.8%、建設業で25.6%とやや高くなっています。

従業員数別でみると、「支給しない」は50人以上で87.1%と高くなっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

(5) 育児休業取得後の円滑な復帰措置

Q：育児休業取得後の円滑な復帰を図るためにどのような措置をとっていますか。(〇はいくつでも)

育児休業取得後の円滑な復帰措置は、全体では「特に措置は取っていない」が52.3%で最も高く、次いで「休業中の情報提供（社内報やメール等による職場・仕事に関する情報）」が29.4%、「相談窓口の設置」が18.5%となっています。「その他」の主な内容は、「産休・育休復帰支援面談シート」の活用、面談の実施、「社会保険労務士による相談」などが挙げられています。

業種別でみると、「休業中の情報提供（社内報やメール等による職場・仕事に関する情報）」はサービス業（他に分類されないもの）で33.3%、医療・福祉で32.4%とやや高く、「相談窓口の設置」はサービス業（他に分類されないもの）、医療・福祉、製造業でいずれも2割台半ばとなっています。一方、「特に措置は取っていない」は卸売業・小売業で58.5%、建設業で57.1%とやや高くなっています。

		調査数 (n)	休業中の 情報提供	相談窓口の 設置	職場復帰の ための講習	その他	特に措置は 取っていない	無回答
単位：%								
全体		562	29.4	18.5	4.4	4.8	52.3	3.6
業種別	建設業	168	29.2	12.5	4.2	3.0	57.1	4.2
	製造業	67	23.9	23.9	7.5	3.0	55.2	0.0
	運輸業・郵便業	21	19.0	14.3	0.0	0.0	71.4	0.0
	卸売業・小売業	82	25.6	11.0	1.2	4.9	58.5	6.1
	金融業・保険業	10	40.0	30.0	20.0	0.0	30.0	0.0
	宿泊業・飲食サービス業	6	50.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	医療・福祉	108	32.4	24.1	4.6	6.5	42.6	3.7
	サービス業（他に分類されないもの）	99	33.3	24.2	5.1	9.1	46.5	4.0

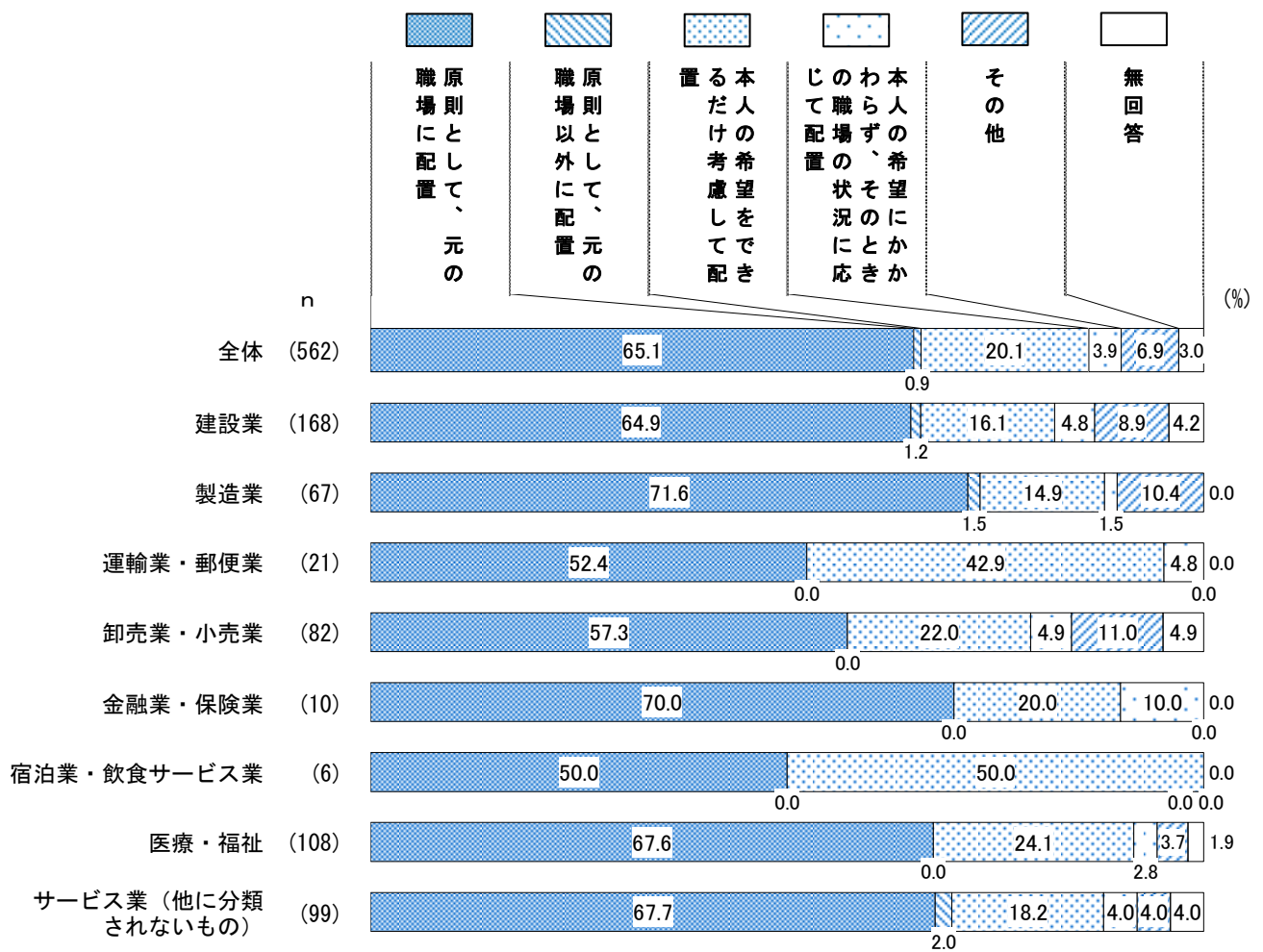
※母数が30未満の項目は参考値とする。

(6) 育児休業から復職する際の配置

Q：育児休業を取得した従業員が復職する際に、どのように配置していますか。(○は1つ)

育児休業から復職する際の配置は、全体では「原則として、元の職場に配置」が65.1%で最も高く、次いで「本人の希望をできるだけ考慮して配置」が20.1%となっています。「その他」の主な内容は、「事例・該当者なし」、「規定なし・わからない」、「検討中」などが挙げられています。

業種別でみると、「原則として、元の職場に配置」は製造業で71.6%と高くなっています。「本人の希望をできるだけ考慮して配置」は医療・福祉で24.1%とやや高くなっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

(7) 子育て中の従業員への制度の有無

Q：子育て中の従業員に対する次のような制度がありますか。（ある場合は、子が何歳になるまで利用できますか）（○は1つ）

子育て中の従業員に対する制度は、《制度あり 計》は“短時間勤務制度”が51.5%で最も高く、次いで“所定外労働の免除”が35.3%、“始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ”が33.0%、“子ども看護休暇制度”が32.7%となっています。一方、「制度なし」は“事業所内託児施設”が64.4%、“育児休業中の経済的支援（雇用保険による育児休業給付金を除く）”が62.5%、“育児サービス利用等に関する援助”が62.1%と高くなっています。

	調査数 (n)	1歳未満	1～3歳未満	3歳～小学校入学前	小学校低学年まで	小学校卒業まで	小学校卒業後も利用可	制度なし	無回答	制度あり (計)
単位：％										
短時間勤務制度	562	6.6	21.7	8.9	2.1	2.8	9.4	28.5	19.9	51.5
所定外労働の免除	562	3.4	13.0	10.0	0.5	2.0	6.4	35.4	29.4	35.3
始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ	562	4.4	8.7	5.2	1.4	2.1	11.2	40.7	26.2	33.0
子ども看護休暇制度	562	1.6	2.7	18.5	0.9	3.0	6.0	38.4	28.8	32.7
配偶者出産時特別休暇	562	18.5	1.8	0.9	0.4	0.2	5.7	43.2	29.4	27.5
男性の育児休業制度や「共育て」のための特別休暇	562	14.4	6.2	1.8	0.5	0.2	3.7	42.5	30.6	26.8
フレックスタイム制度	562	1.4	2.5	1.8	0.4	0.7	7.3	55.3	30.6	14.1
在宅勤務制度	562	1.2	0.9	0.4	0.7	0.2	6.6	58.2	31.9	10.0
育児サービス利用等に関する援助	562	1.2	0.5	0.5	0.4	0.9	1.6	62.1	32.7	5.1
育児休業中の経済的支援 (雇用保険による育児休業給付金を除く)	562	2.3	0.7	0.0	0.0	0.5	1.1	62.5	32.9	4.6
事業所内託児施設	562	0.2	1.2	0.4	0.0	0.4	0.0	64.4	33.5	2.2
その他	562	0.2	0.4	0.2	0.4	0.2	0.4	37.7	60.7	1.8

■無回答を除いた集計結果

無回答を除いた割合をみると、《制度あり 計》は“短時間勤務制度”が64.5%で最も高く、次いで“所定外労働の免除”が50.0%、“子ども看護休暇制度”が46.2%、“始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ”が44.8%となっています。一方、「制度なし」は“事業所内託児施設”が96.8%、“育児休業中の経済的支援（雇用保険による育児休業給付金を除く）”が93.1%、“育児サービス利用等に関する援助”が92.3%と高くなっています。

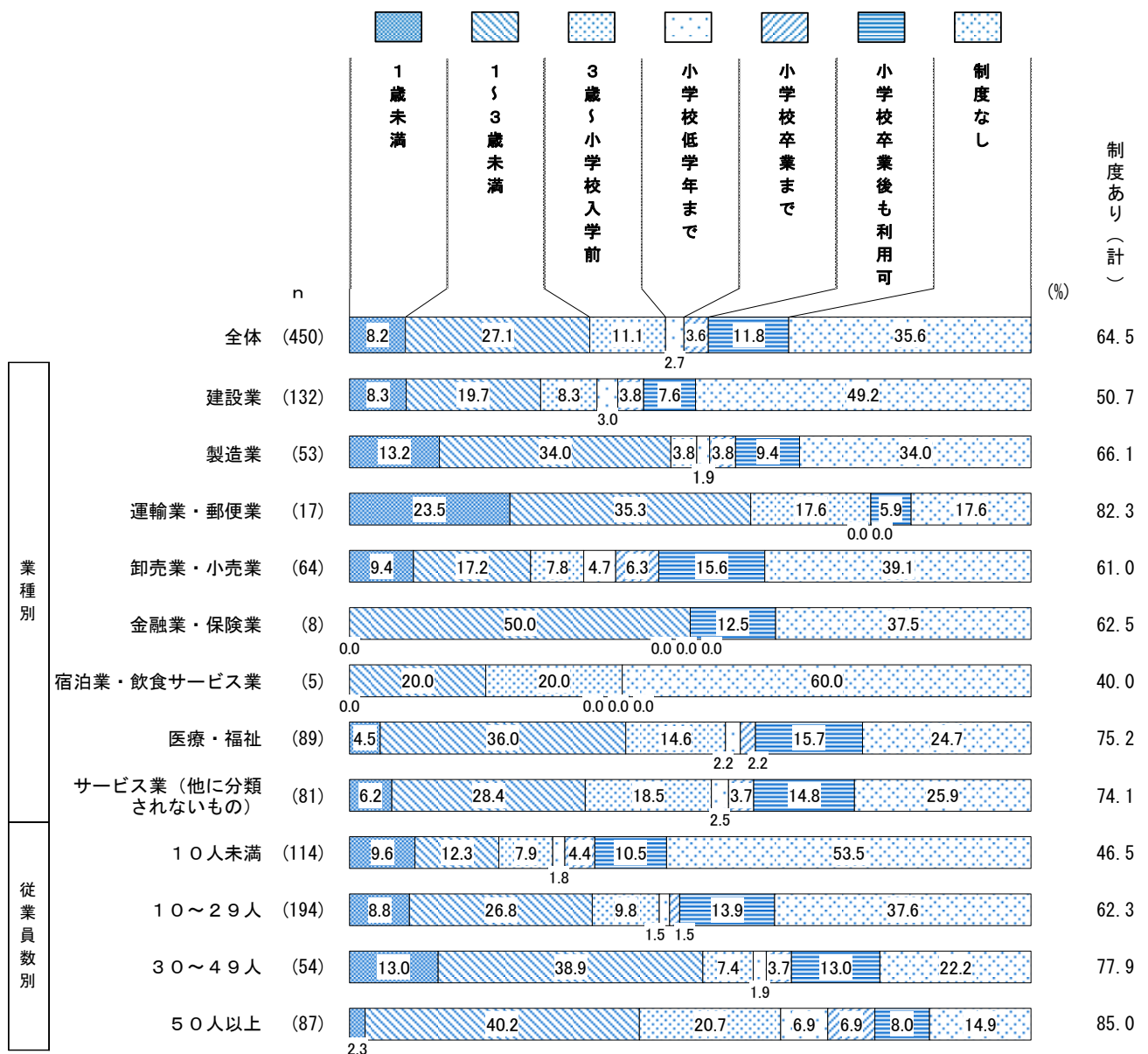
また、“その他”のうち、《制度あり 計》としているものの主な内容は、「子育て部分休暇」、「深夜作業の免除」などが挙げられています。

	調査数 (n)	1歳未満	1～3歳未満	3歳～小学校入学前	小学校低学年まで	小学校卒業まで	小学校卒業後も利用可	制度なし	制度あり (計)
単位：％									
短時間勤務制度	450	8.2	27.1	11.1	2.7	3.6	11.8	35.6	64.5
所定外労働の免除	397	4.8	18.4	14.1	0.8	2.8	9.1	50.1	50.0
子ども看護休暇制度	400	2.3	3.8	26.0	1.3	4.3	8.5	54.0	46.2
始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ	415	6.0	11.8	7.0	1.9	2.9	15.2	55.2	44.8
配偶者出産時特別休暇	397	26.2	2.5	1.3	0.5	0.3	8.1	61.2	38.9
男性の育児休業制度や「共育て」のための特別休暇	390	20.8	9.0	2.6	0.8	0.3	5.4	61.3	38.9
フレックスタイム制度	390	2.1	3.6	2.6	0.5	1.0	10.5	79.7	20.3
在宅勤務制度	383	1.8	1.3	0.5	1.0	0.3	9.7	85.4	14.6
育児サービス利用等に関する援助	378	1.9	0.8	0.8	0.5	1.3	2.4	92.3	7.7
育児休業中の経済的支援 (雇用保険による育児休業給付金を除く)	377	3.4	1.1	0.0	0.0	0.8	1.6	93.1	6.9
事業所内託児施設	374	0.3	1.9	0.5	0.0	0.5	0.0	96.8	3.2
その他	221	0.5	0.9	0.5	0.9	0.5	0.9	95.9	4.2

■短時間勤務制度（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》は医療、福祉で75.2%、サービス業（他に分類されないもの）で74.1%と高くなっています。一方、建設業では50.7%と低くなっています。

従業員数別でみると、《制度あり 計》は従業員数が多いほど高くなる傾向があり、50人以上で85.0%となっています。一方、10人未満では46.5%と低くなっています。

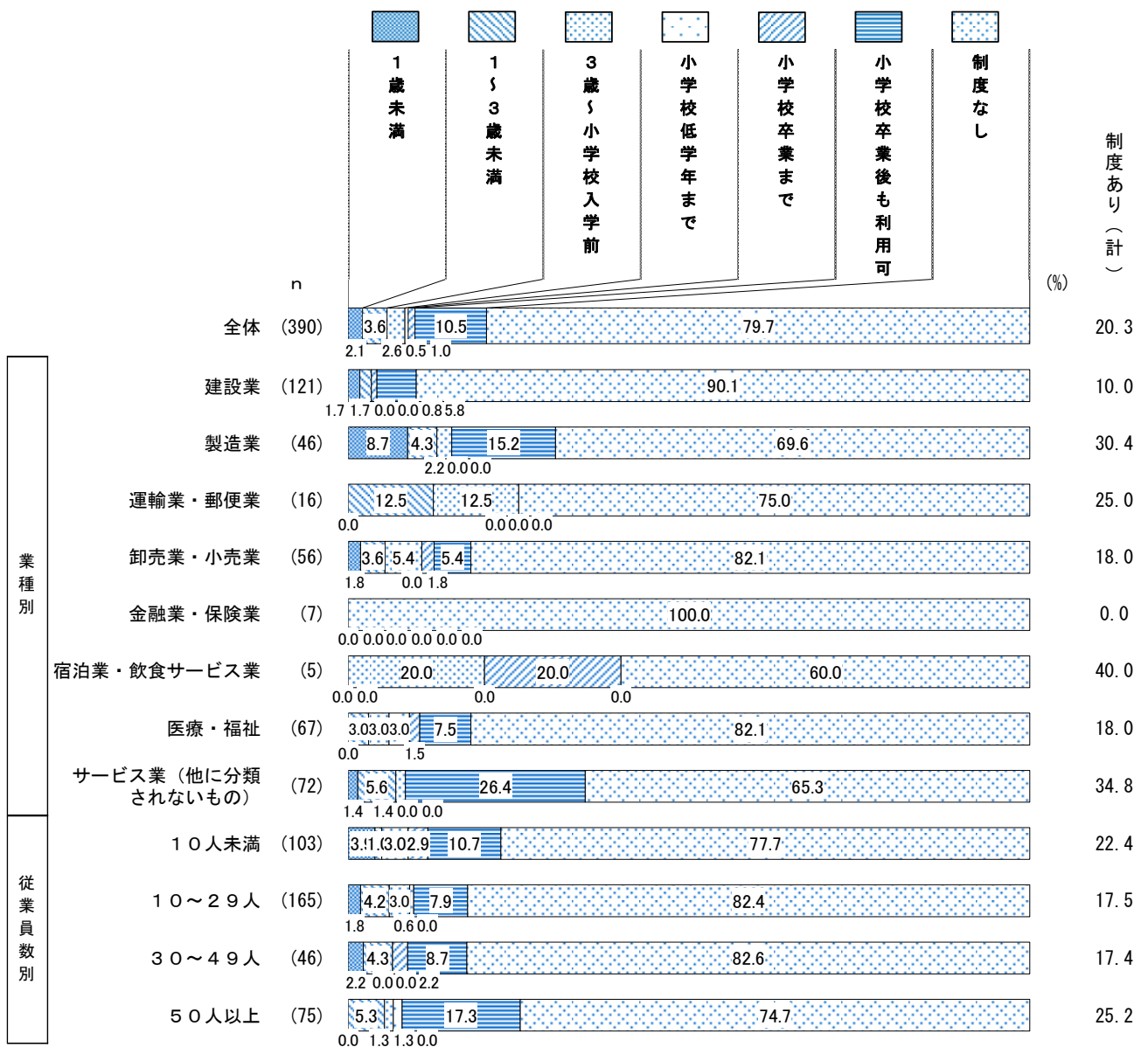


※母数が30未満の項目は参考値とする。

■フレックスタイム制度（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》はサービス業（他に分類されないもの）で34.8%と高くなっています。一方、建設業では10.0%と低くなっています。

従業員数別でみると、《制度あり 計》は50人以上、10人未満で2割台となっています。

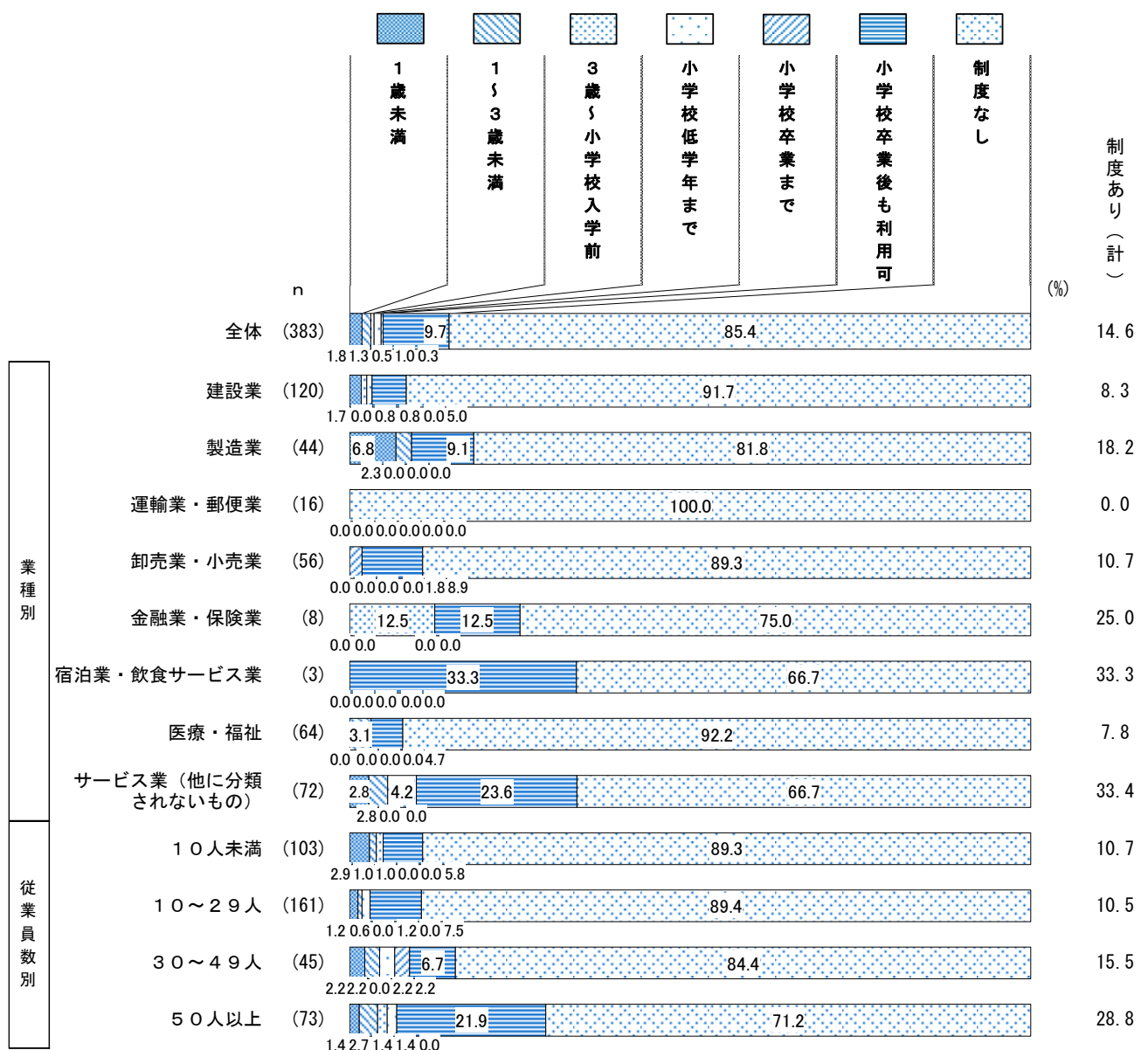


※母数が30未満の項目は参考値とする。

■在宅勤務制度（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》はサービス業（他に分類されないもの）で33.4%と高くなっています。一方、医療・福祉では7.8%、建設業では8.3%と低くなっています。

従業員数別でみると、《制度あり 計》は50人以上で28.8%と高くなっています。一方、10～29人では10.5%、10人未満では10.7%と低くなっています。

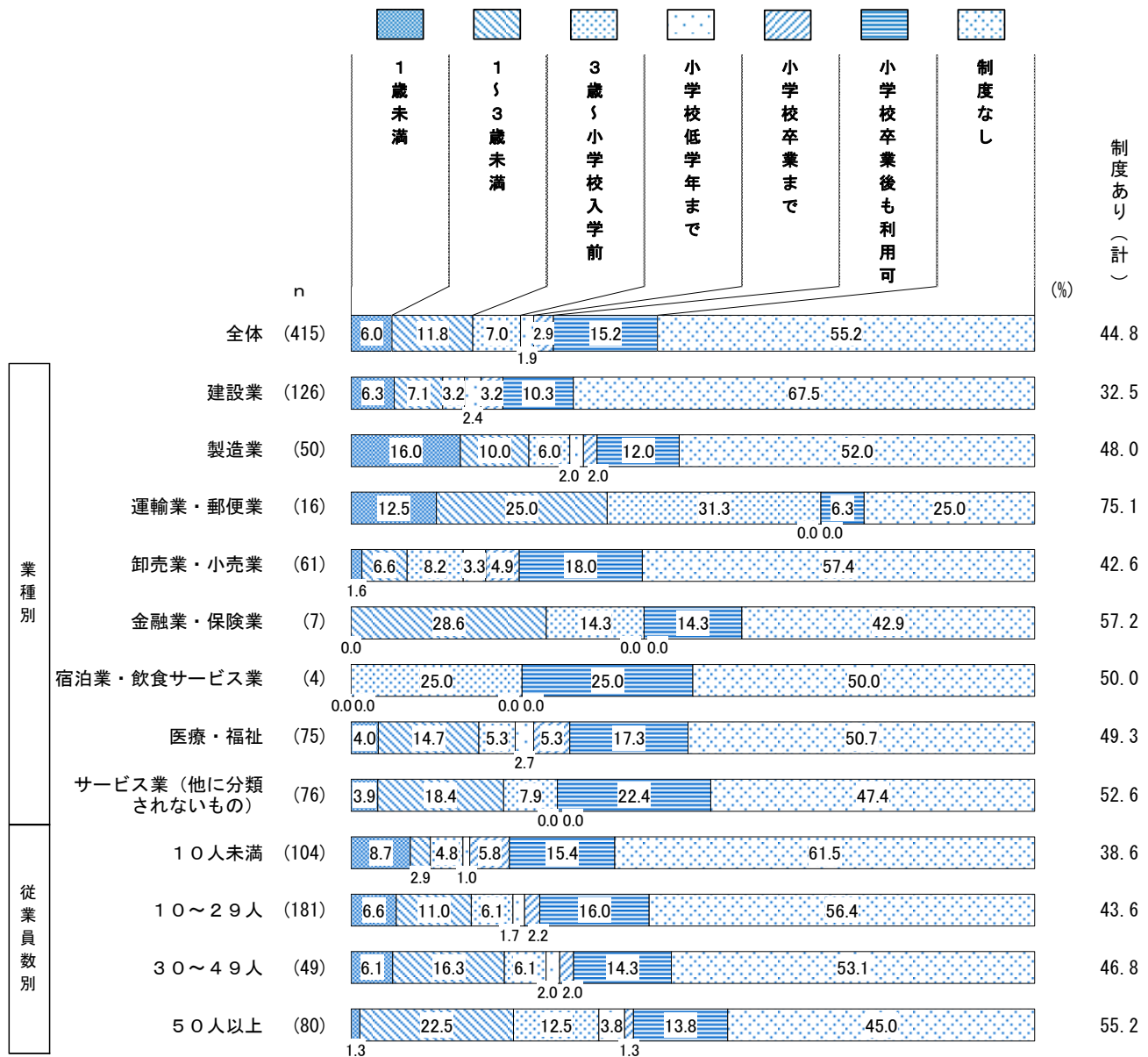


※母数が30未満の項目は参考値とする。

■始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》はサービス業（他に分類されないもの）で52.6%、医療・福祉で49.3%と高くなっています。一方、建設業では32.5%と低くなっています。

従業員数別でみると、《制度あり 計》は従業員数が多いほど高くなる傾向があり、50人以上で55.2%となっています。一方、10人未満では38.6%と低くなっています。

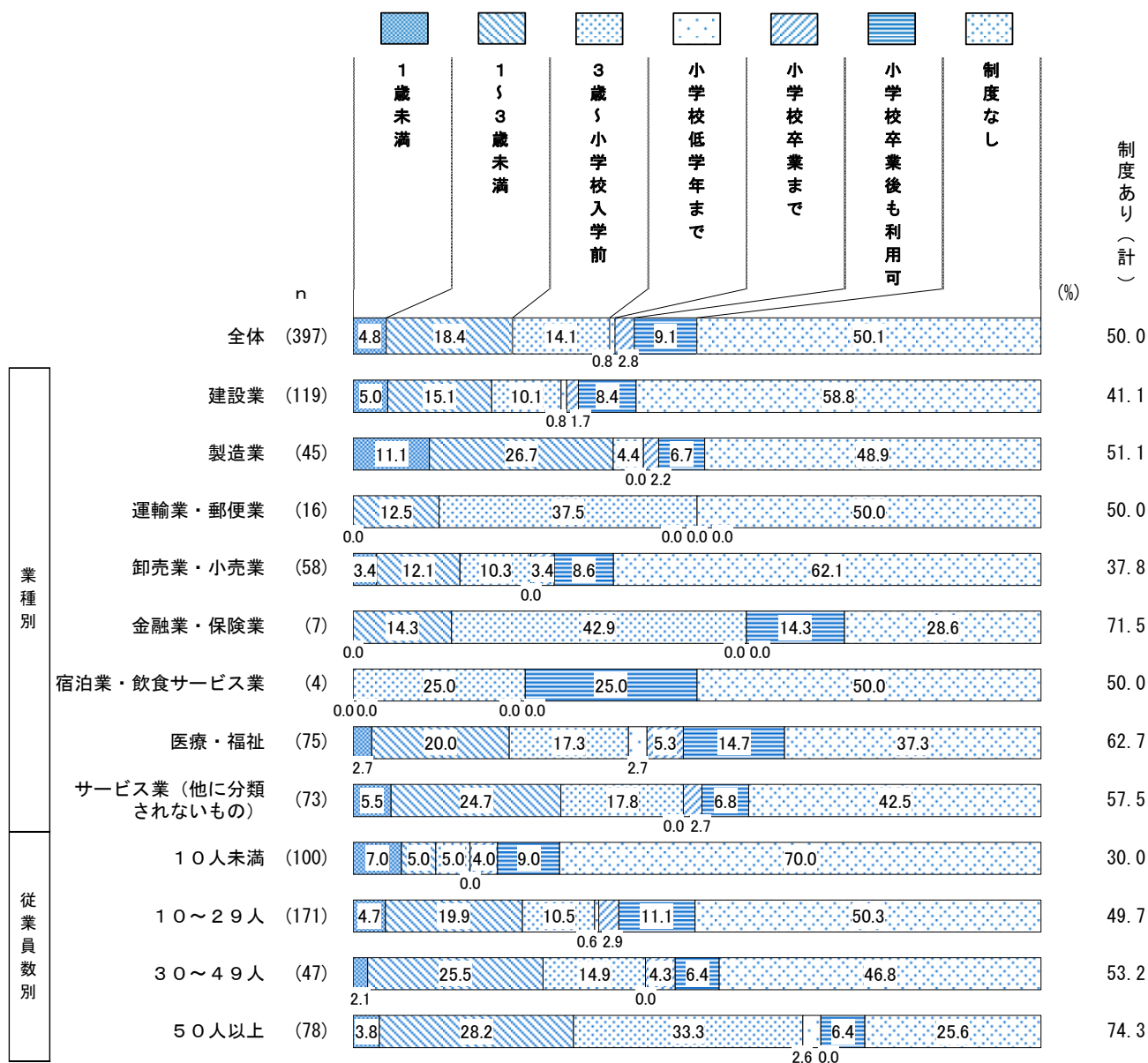


※母数が30未満の項目は参考値とする。

■所定外労働の免除（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》は医療・福祉で62.7%、サービス業（他に分類されないもの）で57.5%と高くなっています。一方、卸売業・小売業では37.8%と低くなっています。

従業員数別でみると、《制度あり 計》は従業員数が多いほど高くなる傾向があり、50人以上で74.3%となっています。一方、10人未満では30.0%と低くなっています。

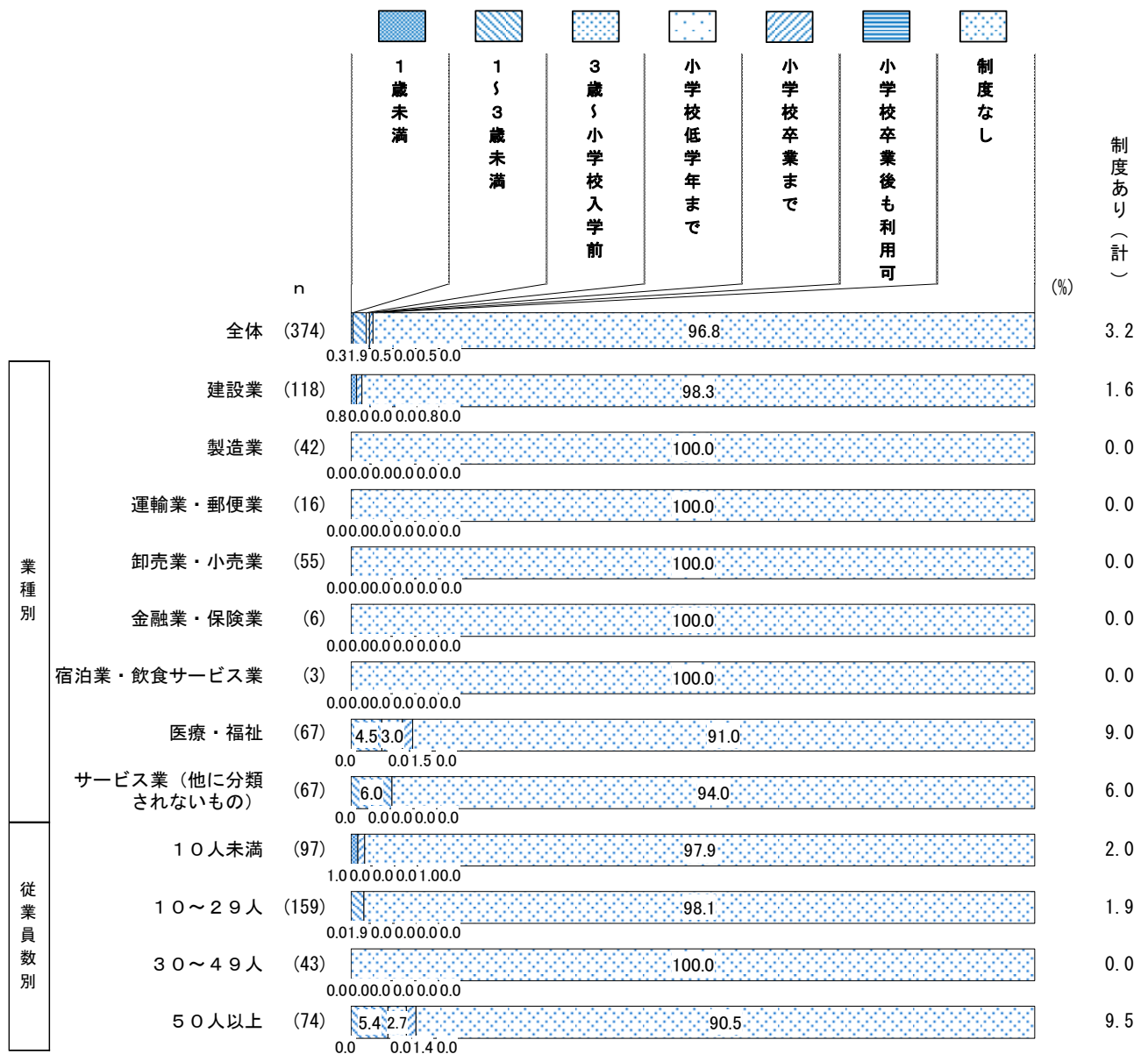


※母数が30未満の項目は参考値とする。

事業所内託児施設（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》は医療・福祉で9.0%と高くなっています。一方、「制度なし」はすべての業種で9割以上となっています。

従業員数別でみると、いずれの従業員数でも「制度なし」が9割以上となっています。

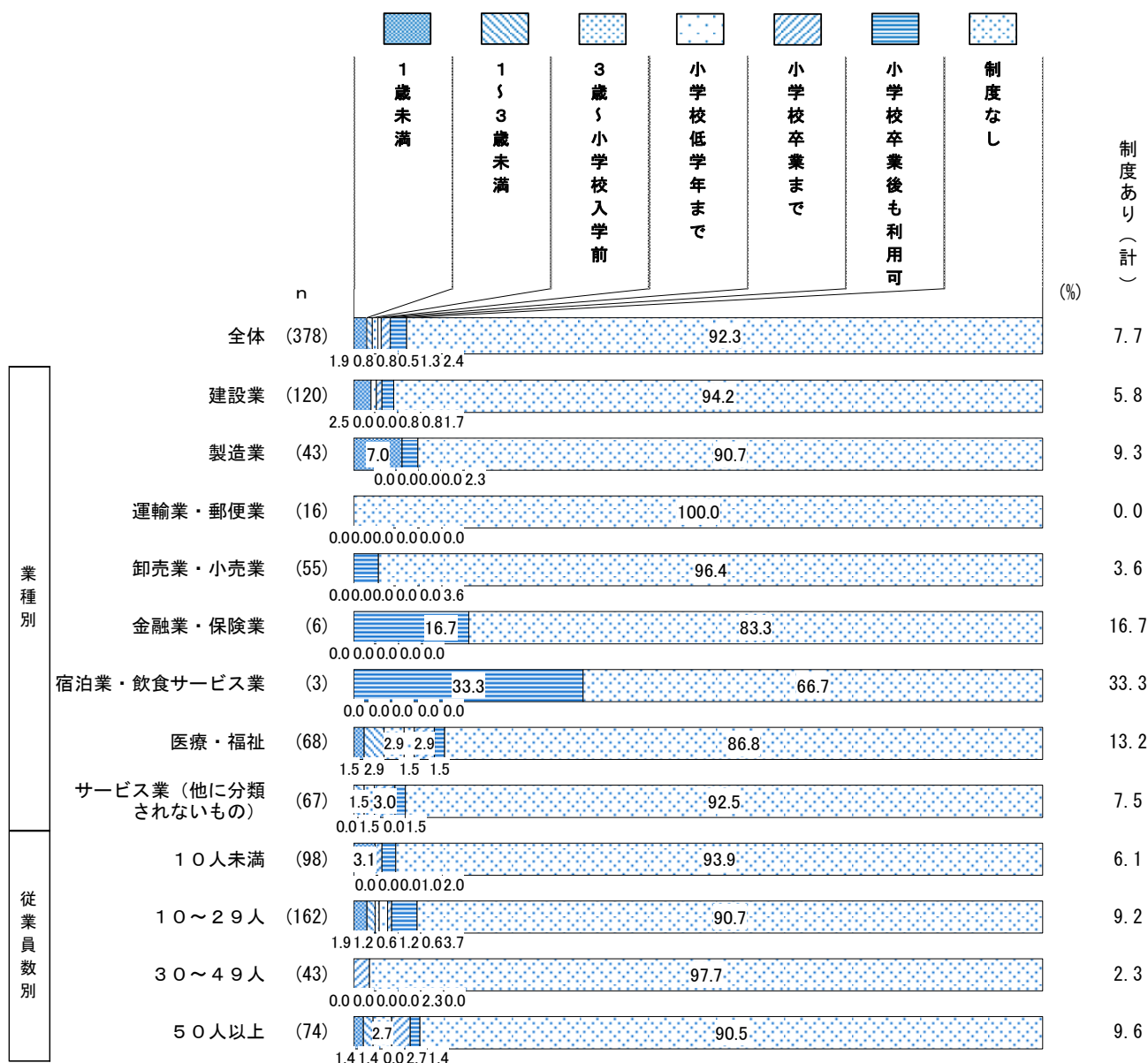


※母数が30未満の項目は参考値とする。

■育児サービス利用等に関する援助（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》は医療・福祉で13.2%と高くなっています。一方、「制度なし」はほとんどの業種で9割以上となっています。

従業員数別でみると、いずれの従業員数でも「制度なし」が9割以上となっています。

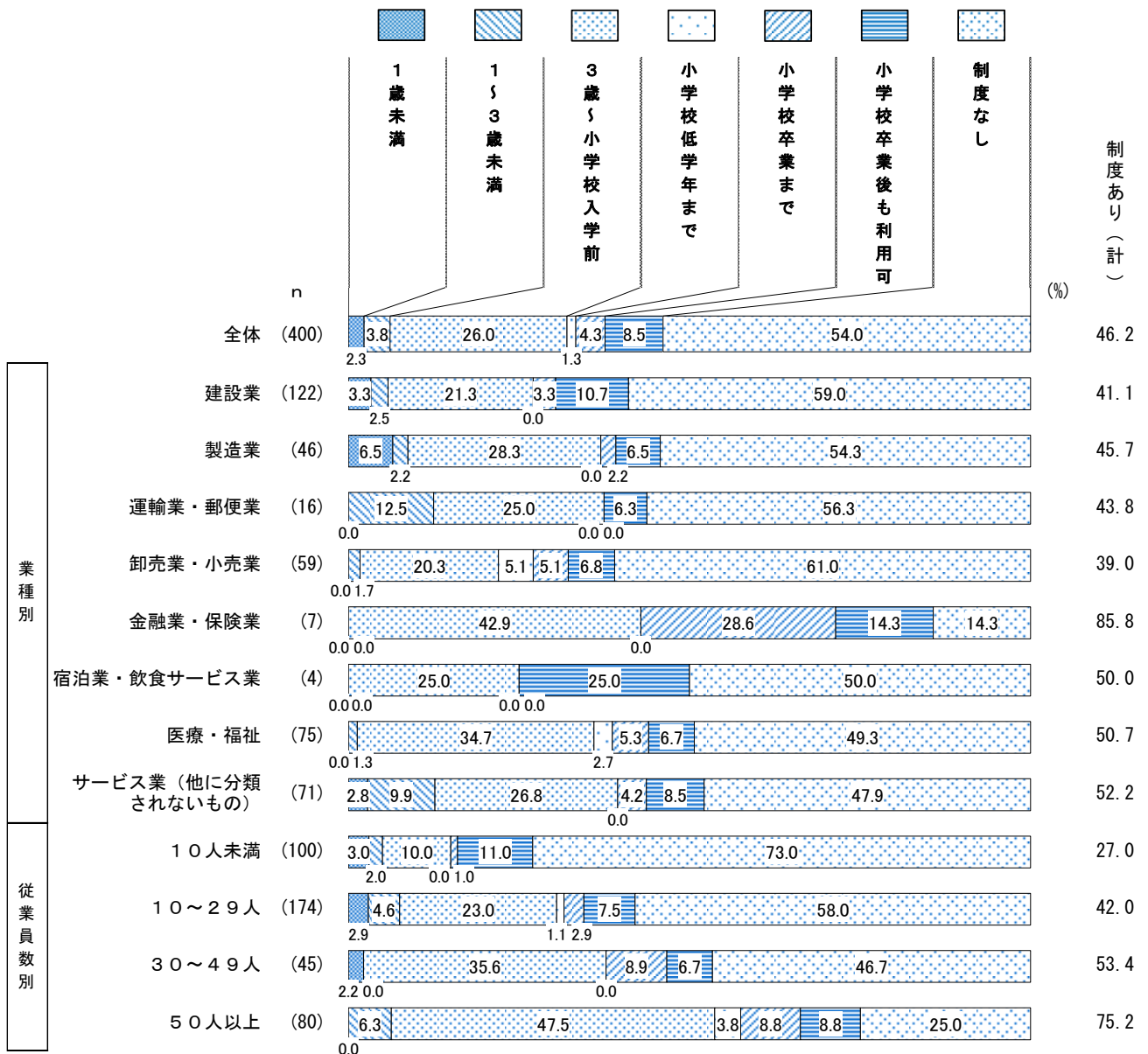


※母数が30未満の項目は参考値とする。

■子ども看護休暇制度（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》はサービス業（他に分類されないもの）で52.2%、医療・福祉で50.7%と高くなっています。一方、卸売業・小売業では39.0%と低くなっています。

従業員数別でみると、《制度あり 計》は従業員数が多いほど高くなる傾向があり、50人以上で75.2%となっています。一方、10人未満では27.0%と低くなっています。

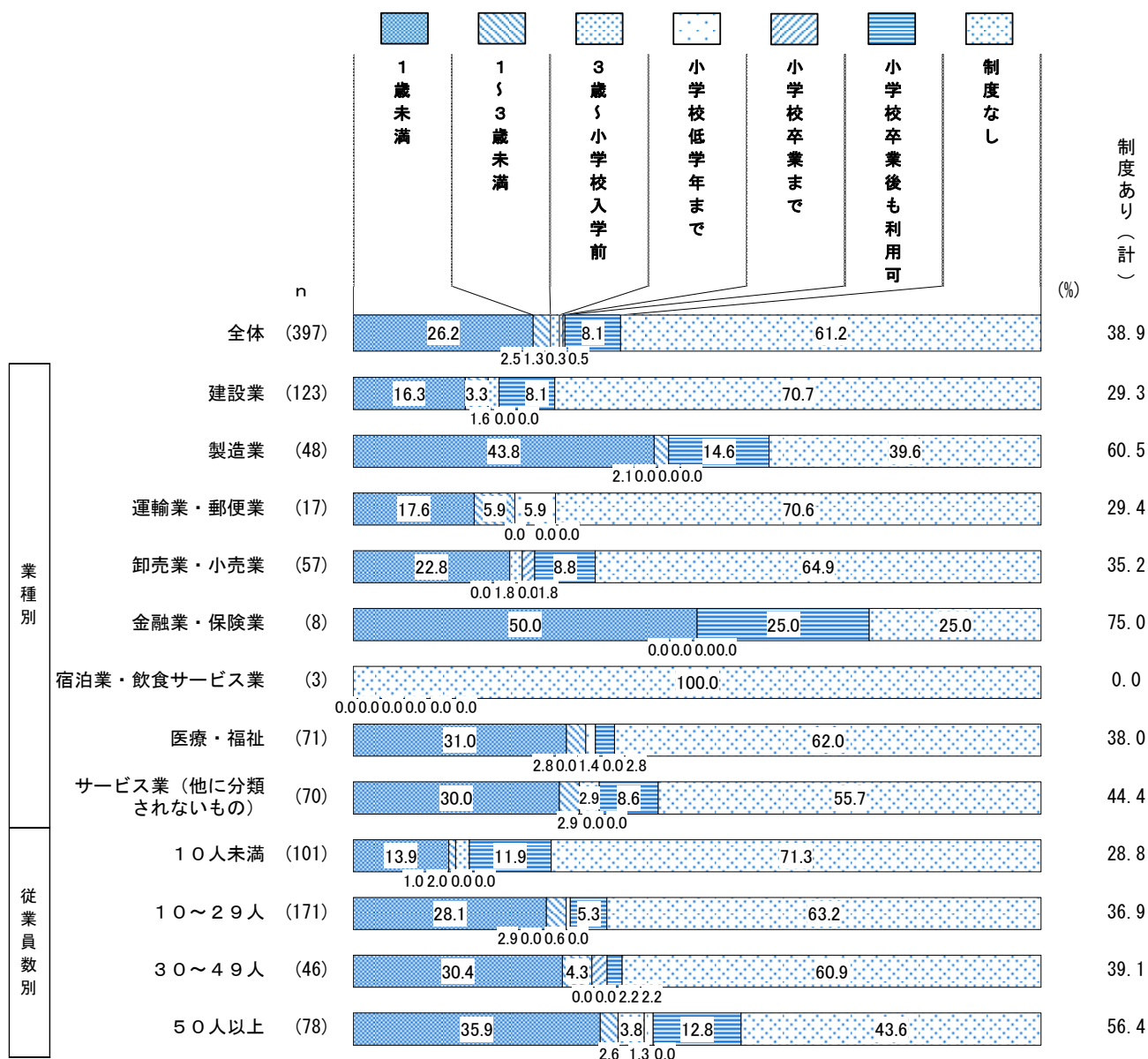


※母数が30未満の項目は参考値とする。

配偶者出産時特別休暇（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》は製造業で60.5%と高くなっています。一方、建設業では29.3%と低くなっています。

従業員数別でみると、《制度あり 計》は従業員数が多いほど高くなる傾向があり、50人以上で56.4%となっています。一方、10人未満では28.8%と低くなっています。

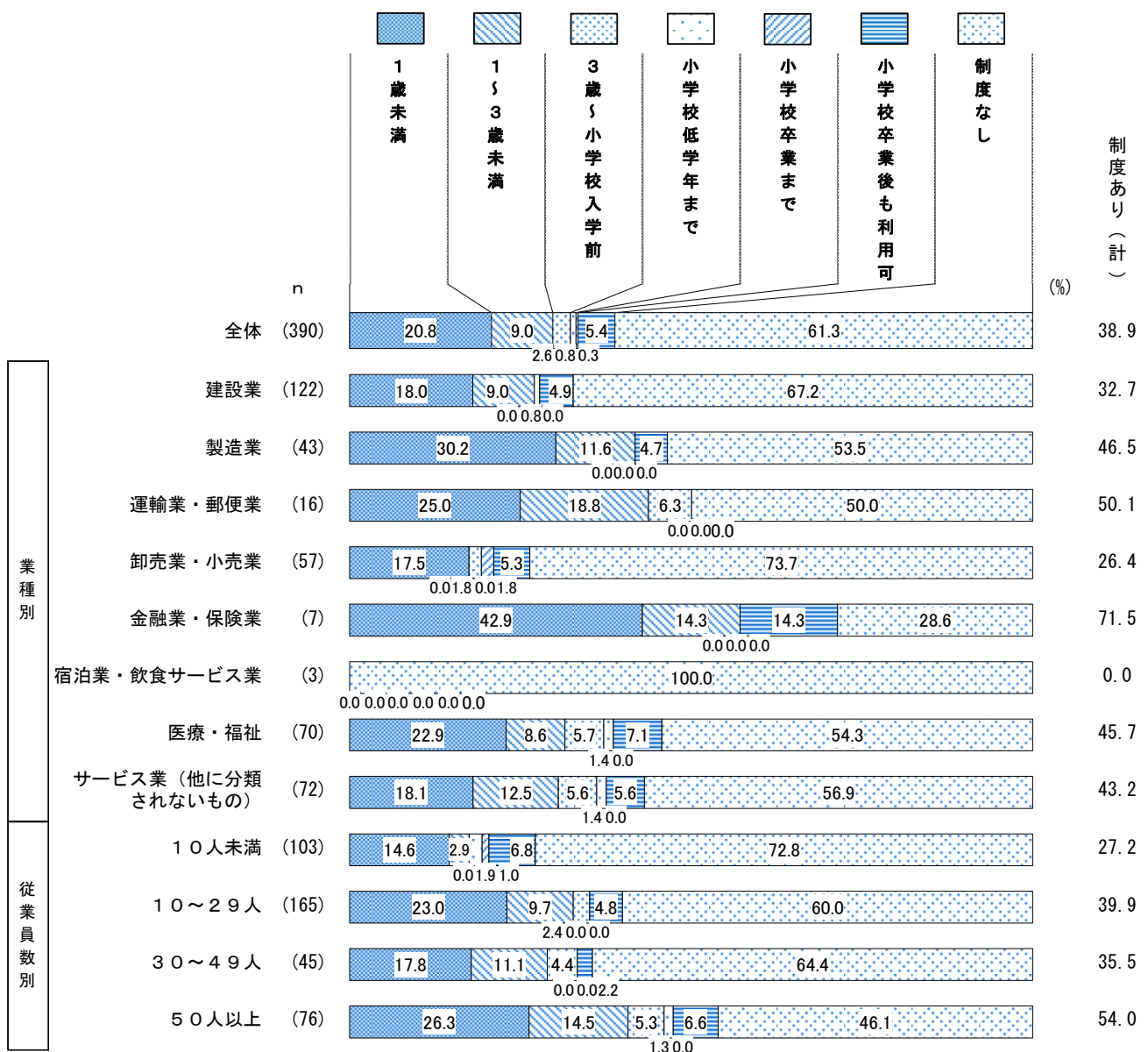


※母数が30未満の項目は参考値とする。

■男性の育児休業制度や「共育て」のための特別休暇（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》は製造業で46.5%、医療・福祉で45.7%と高くなっています。一方、卸売業・小売業では26.4%と低くなっています。

従業員数別でみると、《制度あり 計》は50人以上で54.0%と高くなっています。一方、10人未満では27.2%と低くなっています。

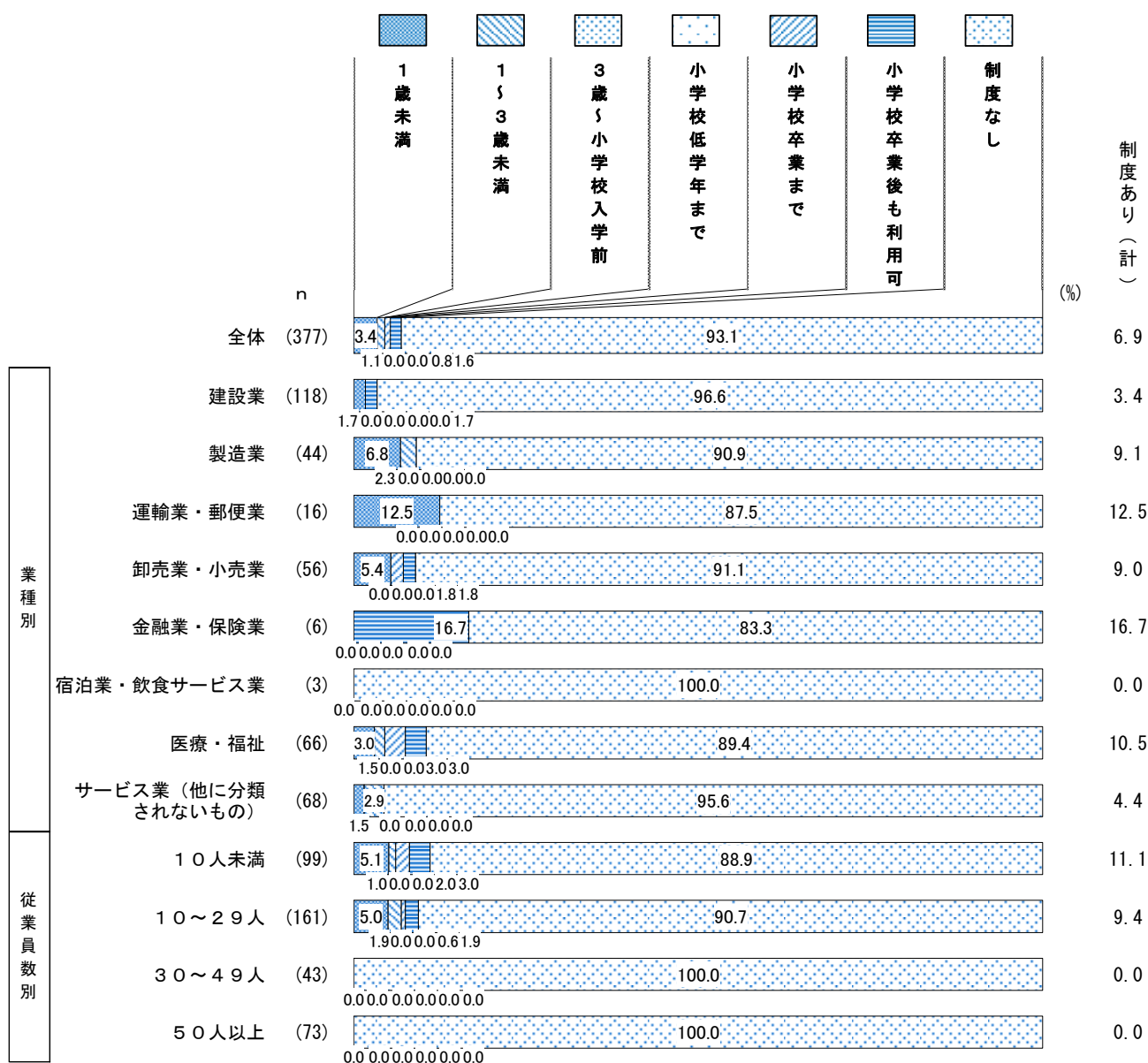


※母数が30未満の項目は参考値とする。

■育児休業中の経済的支援（雇用保険による育児休業給付金を除く）
（「無回答」を除いた集計結果）

業種別でみると、《制度あり 計》は医療・福祉で10.5%と高くなっています。一方、「制度なし」はほとんどの業種で9割以上となっています。

従業員数別でみると、《制度あり 計》は10人未満で11.1%、10～29人で9.4%とやや高くなっています。一方、30人以上では0.0%となっています。

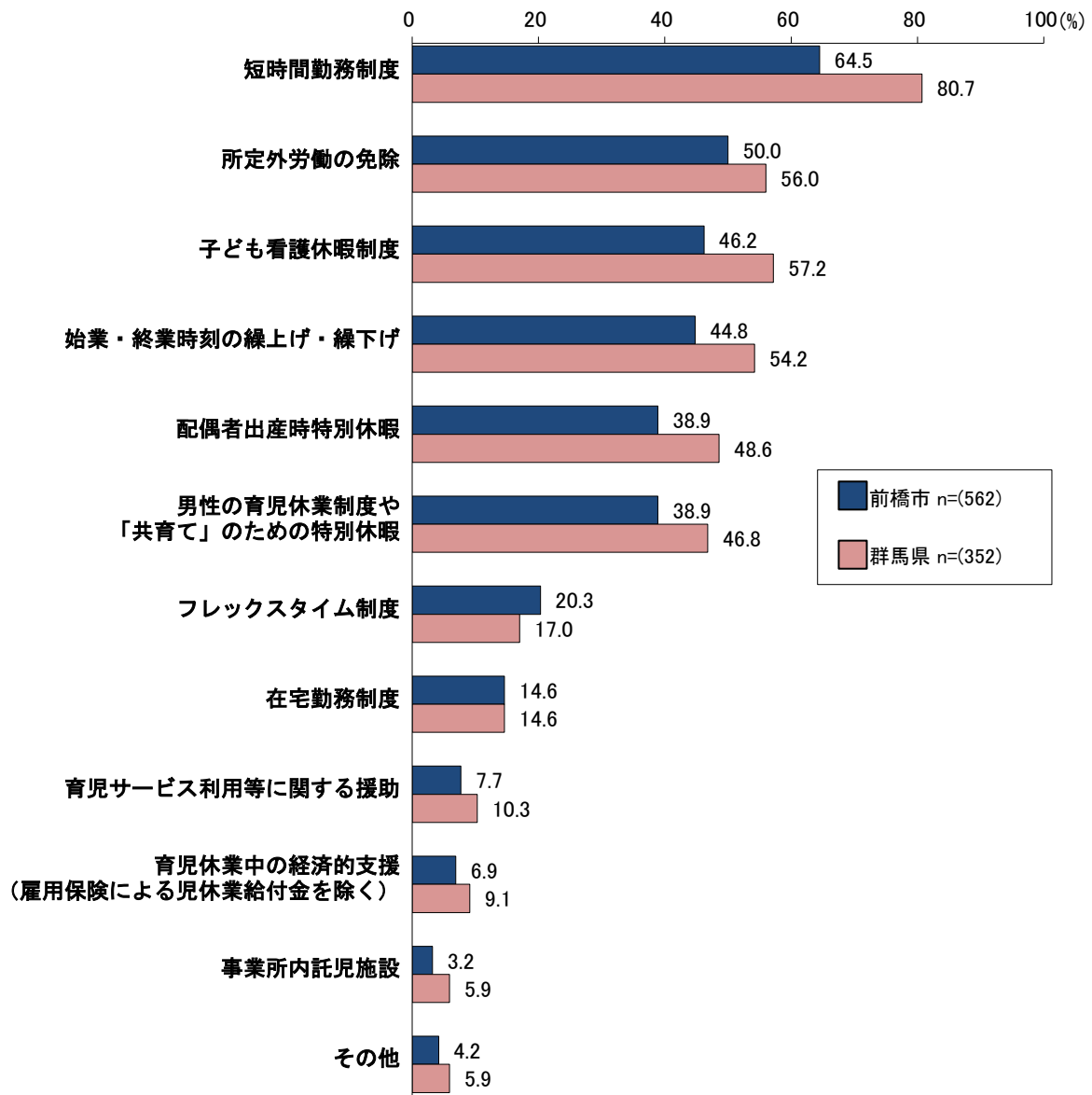


※母数が30未満の項目は参考値とする。

県調査※との比較

子育て中の従業員への制度の有無について県調査の結果と比較すると、県、市調査ともに「短時間勤務制度」が最も高く、次いで市では「所定外労働の免除」、県では「子ども看護休暇制度」となっています。

また、ほとんどの制度で県調査が市調査を上回っていますが、「フレックスタイム制度」では20.3%と、県調査（17.0%）より3.3ポイント高くなっています。



（《制度あり 計》の割合、「無回答」を除いた集計結果）

※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査 / 仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

4 働きやすい環境整備について

(1) 仕事と家庭の両立支援制度

Q：貴社には、仕事と家庭の両立を支援するため、次のような制度がありますか。

(○はいくつでも)

仕事と家庭の両立支援制度は、全体では「保育所等の行事に参加するなど短時間の所用のための半日または時間単位の休暇制度」が47.2%で最も高く、次いで「パートから正社員へ、正社員からパートへの身分の切り替え制度」が36.7%、「結婚・出産、育児、介護等を理由に退職した従業員の再雇用制度」が23.7%となっています。「その他」の主な内容は、「パタニティ休暇」、「キャリア継続支援休職制度」、「相談窓口の設置」などが挙げられています。

業種別でみると、「保育所等の行事に参加するなど短時間の所用のための半日または時間単位の休暇制度」は医療・福祉で53.7%、サービス業（他に分類されないもの）で52.5%と高くなっています。「パートから正社員へ、正社員からパートへの身分の切り替え制度」は医療・福祉で60.2%と高くなっています。

従業員数別でみると、「保育所等の行事に参加するなど短時間の所用のための半日または時間単位の休暇制度」は30～49人で54.1%、50人以上で53.8%とやや高くなっています。「パートから正社員へ、正社員からパートへの身分の切り替え制度」は50人以上で46.2%と高くなっています。「結婚・出産、育児、介護等を理由に退職した従業員の再雇用制度」は10～29人で28.4%とやや高くなっています。

		調査数 (n)	短時間 の休暇 制度	パート、 正社員 間の身 分の切 り替え 制度	結婚・ 出産、 育児、 介護等 の理由 で退職 した従 業員 の再雇 用制度	在宅 勤務制 度	復職後 の情報 提供制 度	育児・ 介護の 休業法 制を度 上回る 制度	生活・ 介護の 休業期 間中の 制度	その他	特に 制度は 設けて いない	無回 答
単位：％												
全体		562	47.2	36.7	23.7	12.5	11.4	6.0	2.7	2.3	29.7	3.9
業 種 別	建設業	168	41.1	24.4	17.3	8.9	14.3	6.5	5.4	1.8	39.3	1.8
	製造業	67	41.8	26.9	25.4	10.4	7.5	1.5	1.5	0.0	40.3	3.0
	運輸業・郵便業	21	57.1	33.3	38.1	4.8	9.5	4.8	4.8	0.0	28.6	4.8
	卸売業・小売業	82	42.7	34.1	20.7	7.3	3.7	7.3	1.2	1.2	32.9	6.1
	金融業・保険業	10	90.0	30.0	20.0	30.0	20.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0
	宿泊業・飲食サービス業	6	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	医療・福祉	108	53.7	60.2	32.4	5.6	16.7	6.5	1.9	2.8	16.7	3.7
	サービス業（他に分類されないもの）	99	52.5	39.4	23.2	31.3	10.1	7.1	1.0	5.1	20.2	7.1
従 業 員 数 別	10人未満	164	34.8	25.6	17.7	9.8	4.9	3.7	3.7	1.8	42.1	4.9
	10～29人	243	51.4	39.1	28.4	11.1	12.8	6.2	2.9	2.1	25.1	3.7
	30～49人	61	54.1	42.6	21.3	11.5	14.8	4.9	0.0	1.6	23.0	3.3
	50人以上	93	53.8	46.2	23.7	21.5	17.2	10.8	2.2	4.3	23.7	3.2

※母数が30未満の項目は参考値とする。

(2)「共育て」を促進するために有効な取組

Q：男性の育児休業制度の利用を含めた「共育て」を促進するためには、どのような取組が有効と考えますか。(〇は3つまで)

「共育て」を促進するために有効と考える取組は、全体では「年次有給休暇の取得を促進する」が46.3%で最も高く、次いで「職場の人員体制を整える」が42.3%、「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」が29.9%となっています。「その他」の主な内容は、「育休に関する社員の意識を統一すること」、「個々の家庭の問題に過度の介入を行わず、従業員の希望に対しては汲み取れるよう面談の機会を設ける」などが挙げられています。

業種別でみると、「年次有給休暇の取得を促進する」は製造業で58.2%と高くなっています。「職場の人員体制を整える」は医療・福祉で48.1%と高く、「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」はサービス業（他に分類されないもの）で38.4%と高くなっています。

従業員数別でみると、「年次有給休暇の取得を促進する」は30～49人で59.0%と高くなっています。「職場の人員体制を整える」は50人以上で54.8%と高くなっています。

			調査数 (n)	年次有給休暇の取得を促進する	職場の人員体制を整える	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	長時間勤務を是正する	必要性について、管理職の理解を深める	必要性について、本人の理解を深める	育児休業中の経済的支援を行う	育児休業について複数回の取得を認める	研修や情報提供を行う	その他	わからない	無回答
単位：%															
全体		562	46.3	42.3	29.9	27.4	18.1	13.5	12.3	8.5	3.4	2.0	13.0	2.3	
業種別	建設業	168	46.4	39.3	29.8	26.8	16.1	12.5	14.3	8.3	3.0	2.4	14.9	1.2	
	製造業	67	58.2	46.3	26.9	19.4	17.9	16.4	17.9	4.5	0.0	1.5	11.9	0.0	
	運輸業・郵便業	21	42.9	28.6	19.0	38.1	4.8	23.8	9.5	23.8	4.8	0.0	19.0	4.8	
	卸売業・小売業	82	36.6	42.7	28.0	28.0	18.3	17.1	12.2	11.0	1.2	2.4	14.6	2.4	
	金融業・保険業	10	80.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	宿泊業・飲食サービス業	6	83.3	50.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	医療・福祉	108	44.4	48.1	26.9	25.9	19.4	11.1	10.2	7.4	4.6	1.9	11.1	2.8	
	サービス業（他に分類されないもの）	99	43.4	39.4	38.4	31.3	24.2	13.1	7.1	8.1	7.1	2.0	12.1	5.1	
従業員数別	10人未満	164	43.3	31.7	24.4	23.2	11.6	9.8	11.6	7.3	1.8	3.7	23.2	2.4	
	10～29人	243	48.6	45.3	30.9	27.2	17.3	11.9	10.3	8.2	2.9	1.6	10.7	2.9	
	30～49人	61	59.0	41.0	34.4	29.5	23.0	26.2	13.1	11.5	4.9	0.0	3.3	0.0	
	50人以上	93	37.6	54.8	34.4	33.3	29.0	16.1	18.3	9.7	6.5	1.1	7.5	2.2	

※母数が30未満の項目は参考値とする。

県調査※との比較

県調査の結果をみると、「職場の人員体制を整える」が58.0%と最も高く、次いで「年次有給休暇の取得を促進する」が47.2%、「長時間勤務の是正する」が31.5%となっています。第1位から第4位までの項目に変わりはないものの、県調査と市調査で順位は入れ替わります。

	調査数 (n)	職場の人員体制を整える	年次有給休暇の取得を促進する	長時間勤務を是正する	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	必要性について、管理職の理解を深める	育児休業中の経済的支援を行う	必要性について、当人の理解を深める	育児休業について複数回の取得を認める	研修や情報提供を行う	その他	わからない	無回答
単位：%													
全体	352	58.0	47.2	31.5	27.8	22.2	18.2	11.6	10.5	8.5	2.3	6.5	0.0

※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査 / 仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

(3) 仕事と家庭が両立しやすい労働環境の整備のために行政に期待する支援

Q：今後、企業が仕事と家庭が両立しやすい労働環境を整備するために、行政に対してどのような支援を期待しますか。(〇は3つまで)

企業が仕事と家庭が両立しやすい労働環境の整備のために行政に期待する支援は、全体では「一定水準以上の両立支援制度を導入する企業に対する助成金制度」が71.5%で最も高く、次いで「両立支援に取り組む企業に対する資金の優遇貸付（金利優遇等）」が26.9%となっています。「その他」の主な内容は、「人材確保に関する施策、育休代替職員の人件費支援」、「保育所、学童などのインフラの整備（そこで働くスタッフの処遇含む）」などが挙げられています。

業種別でみると、「一定水準以上の両立支援制度を導入する企業に対する助成金制度」は医療・福祉で79.6%と高くなっています。「両立支援に取り組む企業に対する資金の優遇貸付（金利優遇等）」は製造業で35.8%と高くなっています。

従業員数別でみると、「一定水準以上の両立支援制度を導入する企業に対する助成金制度」は10～29人で73.7%、50人以上で72.0%とやや高くなっています。「両立支援に取り組む企業に対する資金の優遇貸付（金利優遇等）」は10人未満で31.1%、10～29人で28.0%とやや高くなっています。

単位：%		調査数（n）	一定水準以上の両立支援制度を導入する企業に対する助成金制度	金の優遇貸付（金利優遇等）	多様な働き方導入のためのアドバイザー制度	入札制度の格付けにおける加点	子育てしながら働く人のネットワークづくり	企業の管理者向けの両立支援に関する研修会	事業所内保育施設への支援	両立支援に関する情報を提供するホームページの充実	企業の人事・福利厚生担当者のネットワークづくり	企業の両立支援の取組が一定水準以上で認定する制度	両立支援に積極的な企業の表彰制度	ホームページ等で企業の取り組み内容をPRする	その他	無回答
全体		562	71.5	26.9	10.9	10.7	10.7	9.3	9.1	6.6	4.8	4.4	3.2	2.5	6.2	6.9
業種別	建設業	168	67.9	29.2	11.3	22.0	8.9	7.1	8.3	9.5	2.4	5.4	3.0	1.8	6.5	6.0
	製造業	67	71.6	35.8	14.9	1.5	14.9	10.4	7.5	1.5	4.5	1.5	1.5	3.0	7.5	4.5
	運輸業・郵便業	21	85.7	19.0	9.5	0.0	14.3	4.8	4.8	4.8	4.8	0.0	0.0	4.8	4.8	4.8
	卸売業・小売業	82	70.7	29.3	4.9	6.1	13.4	8.5	4.9	4.9	1.2	4.9	6.1	1.2	6.1	7.3
	金融業・保険業	10	50.0	10.0	40.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	宿泊業・飲食サービス業	6	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	医療・福祉	108	79.6	23.1	10.2	0.9	9.3	13.9	13.0	3.7	9.3	2.8	2.8	0.9	4.6	10.2
	サービス業（他に分類されないもの）	99	68.7	22.2	11.1	16.2	9.1	7.1	11.1	10.1	6.1	7.1	3.0	6.1	8.1	8.1
従業員数別	10人未満	164	69.5	31.1	9.8	6.1	8.5	5.5	8.5	4.9	0.0	1.8	0.6	3.0	7.3	9.1
	10～29人	243	73.7	28.0	10.7	13.6	8.2	9.9	6.2	5.8	4.9	6.2	4.1	1.6	5.8	6.6
	30～49人	61	67.2	23.0	13.1	4.9	14.8	8.2	9.8	13.1	6.6	6.6	1.6	1.6	6.6	6.6
	50人以上	93	72.0	18.3	10.8	15.1	18.3	15.1	17.2	7.5	11.8	3.2	6.5	4.3	5.4	4.3

※母数が30未満の項目は参考値とする。

5 女性活躍推進について

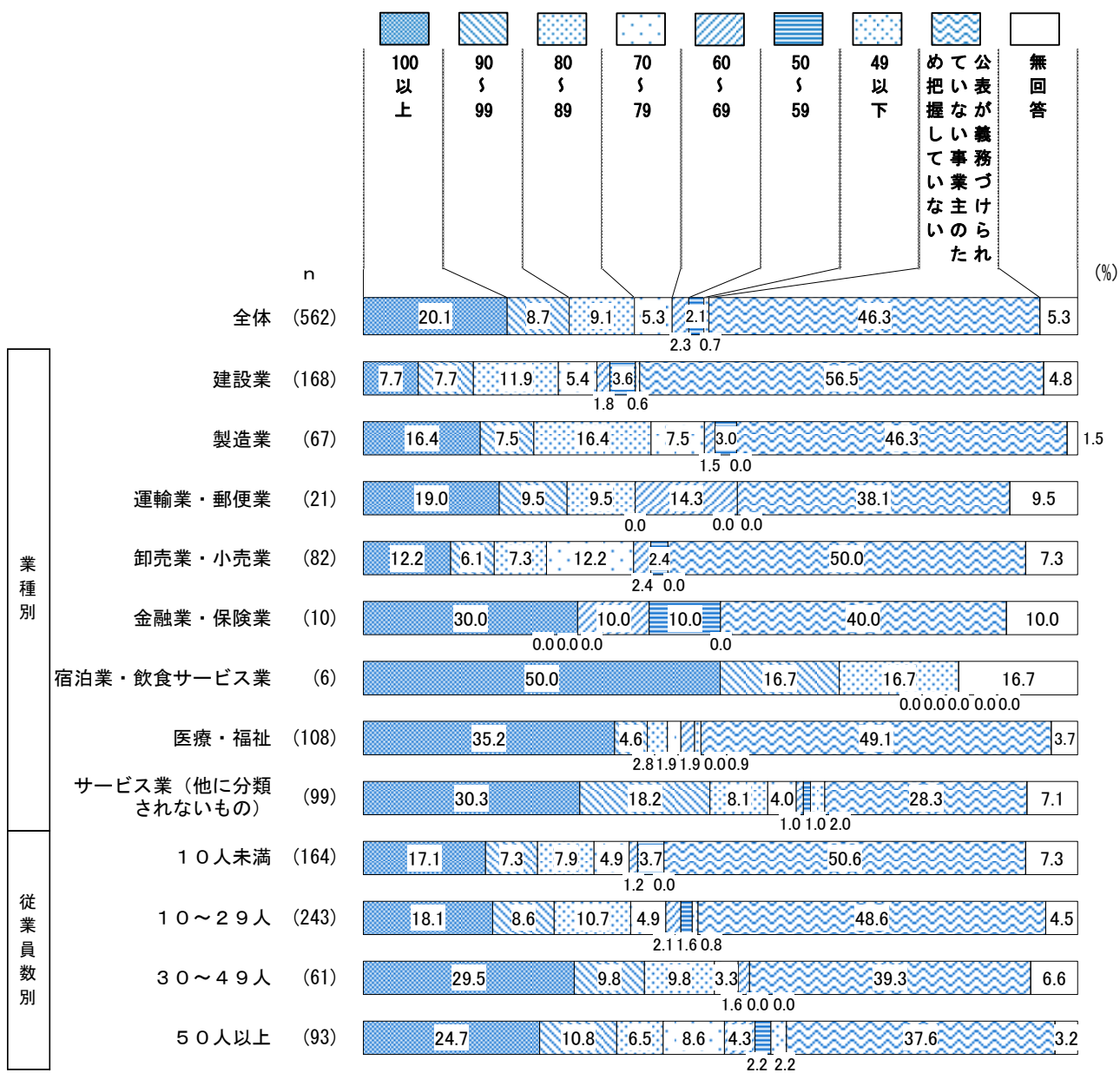
(1) 男性の賃金を100とした場合の女性の賃金

Q：省令が改正され、常時雇用する労働者が301人以上の一般事業主は「男女の賃金の差異」の公表が義務づけられました。男性の賃金を100とした場合、女性の賃金はどのくらいですか。(〇は1つ)

■男性の賃金を100とした場合の女性の賃金の割合

(公表が義務付けられていない事業主のため把握していない事業所も含む全体)

今回の調査では、全体としては「公表が義務づけられていない事業主のため把握していない」が46.3%を占めていました。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

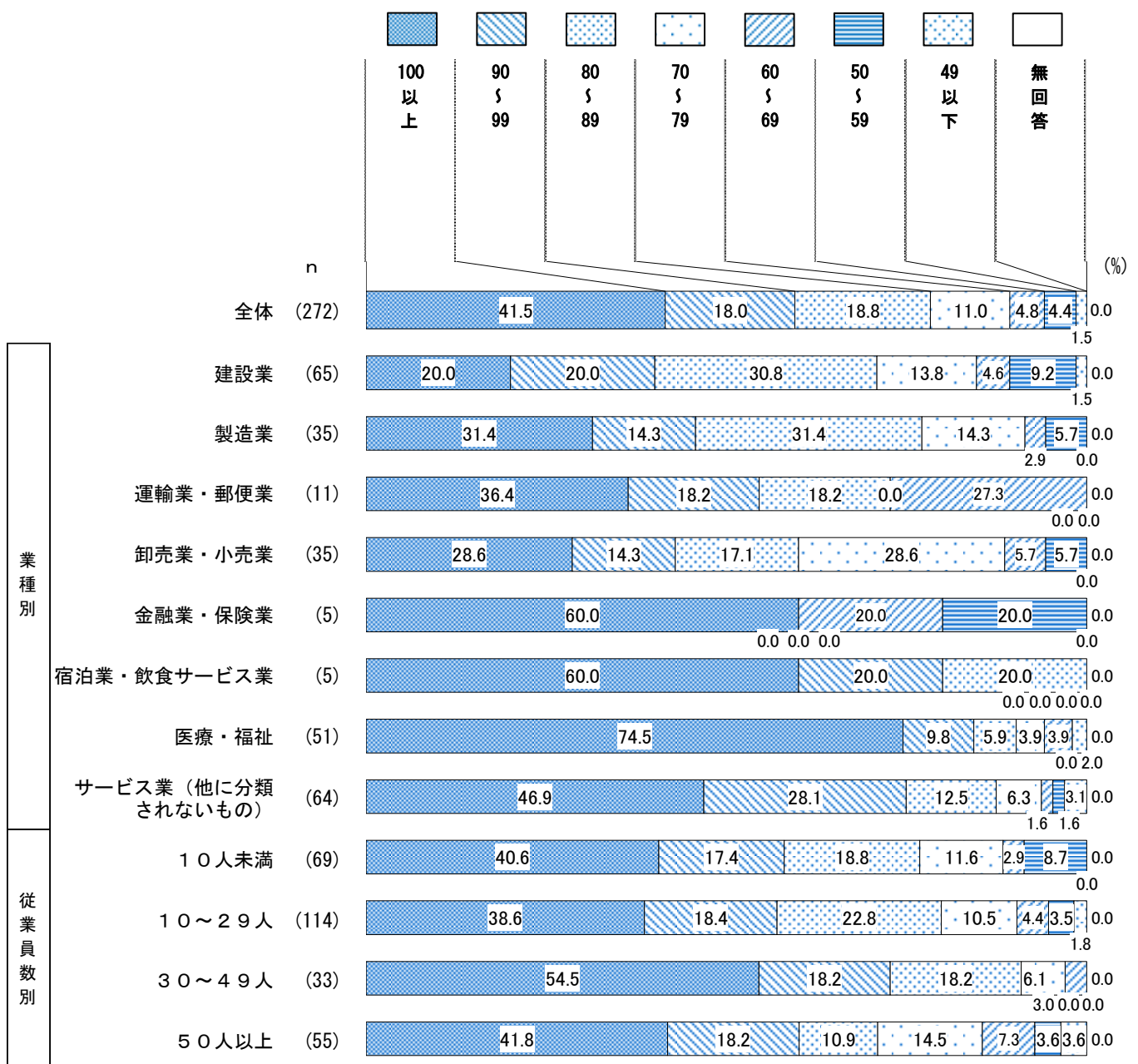
■男性の賃金を100とした場合の女性の賃金の割合

（「公表が義務づけられていない事業主のため把握していない」と回答した事業主を除く）

男性の賃金を100とした場合の女性の賃金を把握している事業所のみでみると、「100以上」が41.5%、「80～89」が18.8%、「90～99」が18.0%となっています。

業種別でみると、「100以上」は医療・福祉で74.5%と高くなっています。一方、89以下の割合は建設業で59.9%と高くなっています。

従業員数別でみると、「100以上」は30～49人で54.5%と高くなっています。一方、89以下の割合は10～29人で43.0%、10人未満で42.0%と高くなっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

(2) 女性活躍推進についての今後の取組（自由記載）

Q：男女の従業員数や雇用形態別の割合、賃金の差異などについて、貴社で今後、取り組んでいきたいことはありますか。（自由記載）

事業所において取り組んでいきたいこと等、自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

▼女性の管理職登用の推進。

- ・まだ女性の管理職が少ない、育休後退職の流れが多いため勤続年数が男性よりも少ないことも原因と考えられる。なので、育休後も働きやすい環境作りに努めたい。また、女性＝事務職の形が多いためどうしても大きな差はないにしろ資格保有者との差はどうしてもでてしまう。専門職に関しても、積極的に女性の雇用も考えていきたい。
- ・女性の正社員や管理職を増やすため、女性も長く働きやすい環境づくりに努めたい。
- ・女性の割合、管理職を増やしていきたい。
- ・基本給において男女の差異は全く無いが、現状では役職手当（管理職・準管理職）に該当する女性職員が居ないため、将来的には役職の均等化を図りたい。
- ・女性従業員の管理職登用研修。

▼働きやすい職場環境の整備

- ・ワークシェアにより、女性が活躍できる職務を作る。
- ・子育て中に関わらず、すべての社員がお互い様で快く柔軟な勤務ができる風土や体制づくり。
- ・勤務時間の対応。外部企業からの採用。
- ・労働時間の短縮。
- ・医療サービス提供者は看護師など女性従業員が多く、学校行事や育児などの家庭の相談を差し支えない範囲で相談してもらえるような、組織づくりをこころがけていきたい。

▼賃金制度や人事評価の見直し

- ・最低賃金改定による賃金の見直しをする中で、基本給をアップし残業を減らす取り組みをしている。
- ・物価に見合うよう毎年のベースアップを検討していきたい。
- ・人事評価制度改定、賃金制度改定。
- ・就業規則の見直しと人事評価制度の設定をし、不利益な給与体制を見直す。
- ・人事制度の見直し。

▼現状維持・男女の差異はない

- ・男女関係なく採用している。また賃金の差異もなし。
- ・男女では無く、個人の能力で賃金を決めている。
- ・現状維持で充分である。
- ・男女の区切りよりも仕事内容での区切りで賃金差があるため、今後も特に変更予定はない。
- ・現段階でも男性女性の差はなく、個人の能力により賃金の差や役職等が決められている。

6 ワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進・少子化対策について

(1) 日頃の考えや行政に対する要望等（自由記載）

Q：ワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進、少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたら自由にお書きください。（自由記載）

市への意見・要望など、自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

▼行政による事業所への支援・情報提供

- ・働ける方の人数が増えないのが現実。 弊社は、女性が多い職場であることから、子育て中の女性が、退職しないで安定して働けるような環境が今は求められているように思う。課題は沢山あると思うが、前橋市+企業などがタッグを組んで、労働力を前橋市内から出さないようなまた安定して働けるような環境がつくれたらと思うが、なかなか中小企業には難問であり、1つの企業でなく沢山の企業でそのような取り組みができたならと漠然とであるが感じている。私も30年以上前橋市内で働いているので、愛着もあり、ぜひこのような前橋市といったら働ける＝子育てになることを願っている。
- ・企業に求めるだけでなく支援対策をしたくてもそこまで経営の基準が達してない中小企業は沢山あるので法律をかざされても対処できない。行政も企業に補助金等対策をして欲しい。
- ・育児休業に入る女性のお話を伺うと、復帰後に自身の居場所がないのではないかと等、不安に思うことが多くある。キャリアアップか、結婚して育児かという選択だけではなく仕事と家庭の両立という選択肢が増えるためには会社としてどのように努力していくべきか、他の企業の取り組みや、アドバイスなどいただける機会があれば良いと思っている。
- ・人材不足が当たり前の中、賃金・休みの見直しや取組を始めている。しかし大手企業との差異は埋まらない。若手の転職やダブルワークなど、働き方が多様になっている。中小企業への手厚い支援(補助金・助成金など)が必要だと考える。
- ・職員の育休を含む子供のための休暇取得の際に、代わりの業務を行う職員に対しての手当支給に対して助成金を出してほしい。
- ・育児休暇制度を導入した企業に対して補助金を出して欲しい。
- ・減税。育児にかかる費用の、所得等に関わらずすべての子どもに対しての助成や優遇。

▼保育環境の充実

- ・子育て中の地域密着での支援が必要。学童保育を充実し安全確保が必要。
- ・少子化対策は安心して預けられる保育所がないと難しいと思う。お願いしたいことは、仕事に子どもが発熱等で迎えに来てくださいという連絡が多分にあり、これでは安心して仕事ができない。そのため、子どもの突発的な発熱等の時、すぐに帰れないときに対応してくれる人、制度を考えてほしい。
- ・市をまたいだ保育園入所をもっと容易にしていってほしい。入所の手続きを簡略化(オンライン化)すると助かる。
- ・同県の周辺他市と比較しても大型公園などの整備状態が著しく悪く子供の遊び場が減っていて恥ずかしい。親水公園や敷島公園などは水場が腐っているかのようでとても遊べない。何年も多額の費用をかけても良くならない中心商店街等に見切りをつけて、子育て世代が住みたい街になるように税を有効に使うことを望む。
- ・核家族が増えている中で、仕事と育児の両立は想像以上に問題が多いと思う。保育園だけでなく、病児保育の充実や、ヘルパー制度についても目を向けて頂きたい。

▼男女平等や相互理解の啓発

- ・特に子育て中は労働時間を抑制しても生活が保障されるのならと思うが、社会全体の理解も進む必要があると思う。
- ・制度が整っても、社会全体の理解が進まないと、これらの政策は進まない。女性にばかり家事や育児が偏っている状況が変わらなければ進まない。男性の長時間勤務は育児や家事をしない理由にはならない。女性も働きながら育児、家事をしている。配偶者控除や年金の負担も専業主婦が得をしているのはおかしい。すべての人が税金、健康保険料を納めるべき。
- ・くるみんが男性従業員の育休のみを助成対象としていることに男女平等を謳う現代社会とのギャップを感じている。
- ・女性が気負うことなく働きながら子供を持つ事を望める環境、また子育てしやすく働きやすい環境を会社全体で作っていききたい。

▼家庭への経済的支援

- ・経済が良くなることで、かなり解決できると考えている。
- ・多子世帯への経済的支援（出産祝金や児童手当の更なる増額）を増やすことが少子化対策となると思う。子供は産めるが、教育資金の確保ができないため、出産をあきらめる世帯が多いと思う。
- ・夫婦共に会社の責任ある仕事をし、労働時間も他の従業員以上に働いているので、給与はそれなりだとは思いますが、所得税、住民税は高いし、子育て支援金はもらえないし、高校の学費支援は受けられない。扶養内で働き、自由な時間もあり、色々支援を受けられる方と比べると不公平さに考えるものがある。
- ・子育て家庭への金銭的援助や教育費の給食費無償化、医療無償化を推進して欲しい。

▼その他

- ・社員のワーク・ライフ・バランスを考えてできるだけ働きやすい環境を整えていききたいと考えているが、零細企業では、人手不足や資金繰りが大変。仕事があっても人手不足なので管理職・役員は休みもとれず、毎日遅くまで仕事である。助成金などがあっても申請や報告が大変で結局小さい会社には使いにくく諦めたり、情報をとりにいけず使えないということもある。社会保険などの税負担が大変。資金繰りが大変な際に、税金を分割して払うことができる措置などがあると助かる。
- ・どこの会社も人手不足は深刻なのだから、わずかな補助金をもらったところで意味がない。いくらお金をかけたとして人が集まらないのだから。そんな中で子育て休暇を主張したところで会社がなくなってしまえば元も子もない。余裕のある大手企業や国の機関だけが、呑気にやっていられることだろう。少子化対策は消費税を無くし、シングルの家庭でも十分な生活ができる社会保障を国が打ち出さないとこんな、貧富の差が大きな国では恐ろしくて子供を産んで育てるなんて出来ないと思う。自分は子供3人作りすでに大人になっているが、正直、あまり豊かではなかった。二度とその大変さを経験したくないし、子供たちも慎重に子供をつくり、子育てをしている。
- ・群馬は車社会なので、渋滞が緩和されれば、子育ての為に短時間で通勤しなくても済むようになると思う。公共交通が不便なので、結局はどうにもならないのだが。
- ・1番は入札の際は大きい仕事ほど市内業者を優遇することが、結果として少子化対策に直結すると考えている。やはり、企業レベルでは対策と言っても売り上げがなくなれば何もできないし、会社がブラック化してしまうところも出てきてしまうので、そこをしっかりと行政の効率抜きで考えてもらいたい。市内の企業がなくなれば補助金をいくら出しても対応出来ないし、そもそも雇用がなくなれば市の魅力もなくなる。それは避けないとならない事なので、お願いしたい。
- ・少子化対策について、地元に着目した形で行政の機能として出会いの場を設けるとともに、子育ての将来性のあり方や地元で子育てをすることのメリット・魅力づくりを期待したい。

第 7 章 資料編（調査票）

資料編（調査票）

1 使用した調査票

本調査で使用した調査票は、市のホームページ上に公表しています。

なお、調査項目は、本報告書の第1章「4 調査方法」（13～16ページ）に掲載しています。

▼市ホームページURL

https://www.city.maebashi.gunma.jp/kosodate_kyoiku/2/1/43964.html

▼市ホームページ二次元コード



前橋市少子化対策等に関する市民アンケート調査
－ 報告書 －

令和 7 年 3 月

発行：前橋市 こども未来部 こども支援課
群馬県前橋市朝日町三丁目36番17号
電話 027-212-0883

調査：株式会社サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里二丁目40番10号
電話 03-3802-6711
